

**2018年度
国際文化学部 講義概要
(シラバス)**

法政大学

2018 年度

国際文化学部講義概要

目次

ナンバリングについて	2
授業科目一覧表（2015 年度以降入学者）	8
授業科目一覧表（2014 年度以前入学者）	13
専門教育科目講義概要	29
ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目講義概要	295

授業時間（市ヶ谷キャンパス）	
1 時限	9 : 0 0 ～ 1 0 : 4 0
2 時限	1 0 : 5 0 ～ 1 2 : 3 0
昼休み	1 2 : 3 0 ～ 1 3 : 1 0 （4 0 分）
3 時限	1 3 : 1 0 ～ 1 4 : 5 0
4 時限	1 5 : 0 0 ～ 1 6 : 4 0
5 時限	1 6 : 5 0 ～ 1 8 : 3 0
6 時限	1 8 : 3 5 ～ 2 0 : 1 5
7 時限	2 0 : 2 0 ～ 2 2 : 0 0

ナンバリングについて

1. ナンバリングとは

「ナンバリング」は、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するための仕組みです。

本学では、本学で開講するすべての科目に、共通フォーマットを用いた8（または9）ケタのナンバーを付しています。

各科目のナンバーは、冊子シラバス・Webシラバスともに各科目欄上部（科目名の上）に記載しています。

2. 「共通フォーマット」ナンバリング付番ルールについて

本学のナンバリング（共通フォーマット部分）は以下のルールにより行われています。

（1）ナンバリング（共通フォーマット部分）の構造（9ケタ 小分類がない場合は8ケタ）

A B C a	1	0 0	D E
↓	↓	↓	↓
①	②	③	④
分野	レベル		科目
なお、4桁目（小文字）	なお、2・3桁目③は		主催
は、小分類がある場合に使用	科目識別のための連番として使用		

①分野

分野略号(大)	分野略号(小)	分野	
BSP		初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育	基礎ゼミ、入門ゼミ、〇〇学入門など
IDN		アイデンティティー教育	法政学など
CAR		キャリア教育	キャリアデザイン入門、インターンシップなど
PRI		情報学基礎	情報学
COT		計算基盤	
HUI		人間情報学	
FRI		情報学フロンティア	
INF		その他の情報学	
EAE		環境解析学	環境学
ENV		環境保全学	
SES		環境創成学	
EVN		その他の環境学	
DES		デザイン学	複合領域
HLS		生活科学	
SEE		科学教育・(教育工学)	
SHS		科学社会学・科学技術史	
CUM		文化財科学・博物館学	
GEO		地理学	
SSS		社会・安全システム科学	
BME		人間医工学	
HSS		健康・スポーツ科学	
CHS		子ども学	
BMS		生体分子化学・ケミカルバイオロジー	
BRS		脳科学	
CMF		その他の複合領域	
ARS	a	地域研究(ヨーロッパ)	総合人文社会
	b	地域研究(ロシア・スラブ地域)	
	c	地域研究(北アメリカ)	
	d	地域研究(中・南アメリカ)	
	e	地域研究(東アジア)	
	f	地域研究(東南アジア)	
	g	地域研究(南アジア)	
	h	地域研究(西・中央アジア)	
	i	地域研究(アフリカ)	
	j	地域研究(オセアニア)	
	k	地域研究(地域間比較)	
	l	地域研究(援助・地域協力)	
	x	地域研究(その他)	
GDR		ジェンダー	
TRS		観光学	

分野略号(大)	分野略号(小)	分野	
PHL		哲学	人文学
ART		芸術学	
LIT		文学	
LNG		言語学	
HIS		史学	
HUG		人文地理学	
CUA		文化人類学・民俗学	
HUM		その他の人文学	
LAN	e	英語	語学教育
	d	ドイツ語	
	f	フランス語	
	r	ロシア語	
	c	中国語	
	s	スペイン語	
	k	朝鮮語	
	i	イタリア語	
	j	日本語	
	x	その他の言語	
LAW		法学	社会科学
POL		政治学	
ECN		経済学	
MAN		経営学	
SOC		社会学	
SOW		社会福祉学	
PSY		心理学	
EDU		教育学	
SOS		その他の社会科学	
NAS		自然科学全般	自然科学
NAN		ナノ・マイクロ科学	総合理工・数物系科学
APH		応用物理学	
QBS		量子ビーム科学	
COS		計算科学	
MAT		数学	
ASR		天文学	
PHY		物理学	
PLN		地球惑星科学	
PLM		プラズマ科学	
ISE		その他の総合理工・数物系科学	
BSC		基礎化学	化学
APC		複合化学	
MAC		材料化学	
CHM		その他の化学	
MEC		機械工学	工学
ELC		電気電子工学	
CST		土木工学	
ADE		建築学	
MTL		材料工学	
PCE		プロセス・化学工学	
INE		総合工学	
ENG		その他の工学	

分野略号(大)	分野略号(小)	分野	
NRS		神経科学	総合生物・生物学
LAS		実験動物学	
ONC		腫瘍学	
GNM		ゲノム科学	
CBR		生物資源保全学	
BLS		生物科学	
BAB		基礎生物学	
ANT		人類学	
BIO		その他の総合生物・生物学	
PPE		生産環境農学	農学
AGC		農芸化学	
FFP		森林園科学	
AAS		水圏応用科学	
ASS		社会経済農学	
AGE		農業工学	
ANL		動物生命科学	
BOA		境界農学	
OAG		その他の農学	
PHA		薬学	医歯薬学
BAM		基礎医学	
BOM		境界医学	
SOM		社会医学	
CIM		内科系臨床医学	
CLS		外科系臨床医学	
DET		歯学	
NUR		看護学	
MED		その他の医歯薬学	
OTR		その他	

②レベル設定

学部	100 番台	●原則として、1 年次に開講される科目 ●主として、基礎的な内容の科目
	200 番台	●原則として、2 年次に開講される科目 ●主として、応用的な内容の科目
	300 番台	●原則として、3 年次に開講される科目 ●主として、発展的な内容の科目
	400 番台	●卒業論文、卒業研究、卒業制作関連の科目 ●より専門性に特化した、300 番台より発展的な内容の科目
大学院	500 番台	大学院（修士・博士後期・専門職）の授業科目
	600 番台	大学院（修士・専門職）における研究指導科目
	700 番台	大学院（博士後期）における研究指導科目
その他	900 番台	その他（海外留学を内容とする科目、レベル分けできない科目等）

③科目主催コード

【学 部】

授業の主催学部・学科名	コード	授業の主催学部・学科名	コード
法・学部共通	AA	キャリアデザイン・キャリアデザイン学科	MA
法・法律学科	AB	デザイン工・共通	NA
法・政治学科	AC	デザイン工・建築学科	NB
法・国際政治学科	AD	デザイン工・都市環境デザイン工学科	NC
文・学部共通	BA	デザイン工・システムデザイン学科	ND
文・哲学科	BB	理工・共通	XA
文・日本文学科	BC	理工・機械工学科（機械工学専修）	XB
文・英文学科	BD	理工・機械工学科（航空操縦学専修）	XC
文・史学科	BE	理工・電気電子工学科	XD
文・地理学科	BF	理工・応用情報工学科	XE
文・心理学科	BG	理工・経営システム工学科	XF
経済・学部共通	CA	理工・創生科学科	XG
経済・経済学科	CB	生命科学・学部共通	YA
経済・国際経済学科	CC	生命科学・生命機能学科	YB
経済・現代ビジネス学科	CD	生命科学・環境応用化学科	YC
社会・学部共通	EA	生命科学・応用植物科学科	YD
社会・社会政策科学科	EB	グローバル教養・グローバル教養学科	ZA
社会・社会学科	EC	スポーツ健康・スポーツ健康学科	IA
社会・メディア社会学科	ED	市ヶ谷リハ・ラルアートセンター	LA
経営・学部共通	FA	SSI	LB
経営・経営学科	FB	小金井リハ・ラルアートセンター	LC
経営・経営戦略学科	FC	ERP	LD
経営・市場経営学科	FD	ESOP	LE
国際文化・国際文化学科	GA	（通教）教養教育	TA
人間環境・人間環境学科	HA	（通教）法・法律学科	TB
現代福祉・学部共通	JA	（通教）文・日本文学科	TC
現代福祉・福祉コミュニティ学科	JB	（通教）文・史学科	TD
現代福祉・臨床心理学科	JC	（通教）文・地理学科	TE
情報科学・学部共通	KA	（通教）経済・経済学科	TF
情報科学・コンピュータ科学科	KB	（通教）経済・商業学科	TG
情報科学・デジタルメディア学科	KC		

【大学院】

授業の主催する研究科・専攻名	コード	授業の主催する研究科・専攻名	コード
*法学・法律学専攻	A1	*情報科学・情報科学専攻	K1
*法務・法務専攻	A2	*キャリアデザイン学・キャリアデザイン学専攻	M1
*政治学・政治学専攻	A3	*デザイン工学・研究科共通	N1
*政治学・国際政治学専攻	A4	*デザイン工学・建築学専攻	N2
*人文科学・哲学専攻	B1	*デザイン工学・都市環境デザイン工学専攻	N3
*人文科学・日本文学専攻	B2	*デザイン工学・システムデザイン専攻	N4
*人文科学・英文学専攻	B3	*理工学・機械工学専攻	X1
*人文科学・史学専攻	B4	*理工学・電気電子工学専攻	X2
*人文科学・地理学専攻	B5	*理工学・応用情報工学専攻	X3
*人文科学・心理学専攻	B6	*理工学・システム理工学専攻	X4
*人文科学・国際日本学インスティテュート	B7	*理工学・応用化学専攻	Y1
*経済学・経済学専攻	C1	*理工学・生命機能学専攻 (生命機能学領域)	Y2
*社会学・社会学専攻	E1	*理工学・生命機能学専攻 (植物医科学領域)	Y3
*経営学・経営学専攻	F1	*政策創造・政策創造専攻	R1
*IM・IM 専攻	F2	*公共政策・公共政策学専攻	P1
*IM・AC 専攻	F3	*公共政策・サステイナビリティ学専攻	P2
*国際文化・国際文化専攻	G1	*連帯社会インスティテュート	Q1
*人間社会・福祉社会専攻	J1	*スポーツ健康学・スポーツ健康学	I1
*人間社会・臨床心理学専攻	J2	*IIST	D1
*人間社会・人間福祉専攻	J3		

(2) 枝番について

学部によっては、上記以外の属性を持つ記号や番号を独自に付番しています（枝番）。

枝番は共通フォーマット 8（または 9）ケタの後に“－”をつけて示します。

枝番の付番ルールについては各学部の履修要綱等を確認してください。

※国際文化学部主催科目では、枝番を使用していません。

以上

法政大学学務部

2018.1

（国際文化学部担当一部加筆・修正）

【2015年度以降入学生】国際文化学部専門科目一覧「履修の手引き」記載の注意事項も確認してください。										
分類	科目群	小分類	授業科目名	担当教員名	配当年次	開講期	シラバスページ	単位数	隔年開講科目	受講上の注意 旧科目名に付記されている○×は、 重複履修の可否を示します。
入門科目			国際文化情報学入門	大嶋 良明、林 志津江、 江村 裕文、大中 一彌	1	春	31	4		2グループに分かれて受講する必修科目です。 週2回受講しなければなりません。 グループ、教室等は授業開始時に時間割および掲示で確認してください。
			チュートリアル	各担当教員	1	春	33	1		登録必修科目です。 ※1年次に修得できなかった学生は、再履修する必要があります。
基幹科目	共通幹		国際文化情報学の展開	岡村 民夫	2～4	春	34	2		重複履修可
			ディジタル情報学概論	重定 如彦	1～4	秋	35	2		
	情報文化系		統計処理法	竹内 広宣	1～4	春	36	2		
			システム論	甲 洋介	2～4	春	37	2		
			情報倫理学 ー技術・プライバシー・著作権ー	森村 修	1～4	春	39	2		
			情報産業論	鏡 明彦	1～4	春	40	2		
			ネット文化論	神戸 雅一	1～4	秋	41	2		
			表象文化概論	深谷 公宣、岩川 ありさ、 島田 雅彦、大嶋 良明	1～4	春	42	2		
	表象文化系		メディアと情報	君塚 洋一	1～4	春	43	2		
			社会と美術	中川 三千代	1～4	春	44	2		
			メディアと社会	中基 久和巨	1～4	秋	45	2		
			身体表象論	深谷 公宣	1～4	秋	46	2		
	言語文化系		言語文化概論	衣笠 正晃	1～4	秋	47	2		
			比較文化	前川 裕	1～4	春	48	2		
			現代思想 ーなぜ若者は、銃乱射や 自爆テロに走るのか？ー	森村修	1～4	秋	49	2		
			ジェンダー論	佐々木 一恵	1～4	春	50	2		
			異文化間コミュニケーション	江村 裕文	1～4	秋	51	2		
			Philosophy of the Public Sphere	石田 安美	1～4	秋	52	2		
			国際関係学概論Ⅰ	今泉 裕美子	1～4	春	53	2		旧:国際関係学概論(×)
	国際社会系		国際関係学概論Ⅱ	今泉 裕美子	1～4	秋	55	2		旧:比較民衆社会論(×)
			国家と民族	中島 成久	1～4	春	57	2		
			平和学	華井 和代	1～4	秋	58	2		
			宗教と社会	佐々木 一恵	1～4	春	59	2		
			Religion and Society	丹羽 充	1～4	春	60	2		
			国際文化協力	田島 樹里奈	1～4	春	62	2		
			異文化適応論	浅川 希洋志	1～4	秋	63	2		
情報科目			情報システム概論	大嶋 良明、櫻井 茂明、 中村 文隆	1～4	秋	64	2		
			メディア情報基礎	大嶋 良明、甲 洋介、 米倉 明男	1～4	秋	65	2		
			ネットワーク基礎	大嶋 良明、和泉 順子、 松田 裕幸	2～4	春	66	2		
			情報システム応用	和泉 順子	2～4	春	68	2		
			ネットワーク応用	休講	2～4	春	2	★		
			メディア表現法	大嶋 良明	2～4	秋	69	2		
			プログラミング言語基礎	和泉 順子	2～4	春	71	2		
			仮想世界研究	甲 洋介	2～4	春	72	2		
			メディア情報応用	大嶋 良明	2～4	春	73	2	★	
			データベース基礎	若林 啓	3～4	秋	74	2		
			社会とデータサイエンス	和泉 順子	2～4	春	75	2		
			道具による感覚・体験のデザイン ー『体験』から空間をデザインするー	甲 洋介	2～4	春	76	2		
言語科目			世界の言語Ⅰ	休講	2～4	春	2	★		
			世界の言語Ⅱ	休講	2～4	春	2	★		
			世界の英語	小中原 麻友	2～4	春	77	2		
			言語の理論Ⅰ (文学部科目名:言語学概論A)	石井 創	1～4	春	79	2		文学部との同一開講授業です。 休講・教室変更等の授業連絡は文学部掲示板で確認してください。 「社会言語学」および「応用言語学」は、文学部でも同一の科目名で開講しています。
			言語の理論Ⅱ (文学部科目名:言語学概論B)	川崎 貴子	1～4	秋	80	2		
			社会言語学	塩田 雄大	3～4	春	81	2		
			応用言語学	川崎 貴子	3～4	春	82	2		

分類	科目群	小分類	授業科目名	担当教員名	配当 年次	開講期	シラバス ページ	単 位 数	隔年 開講 科目	受講上の注意 旧科目名に付記されている○×は、 重複履修の可否を示します。
メディアコミュニケーション科目	言語コミュニケーション	英語	コミュニケーションⅠ	マーク フィールド、 アンドリュー ジョーンズ、 ジョナサン エーブル、 ラスカイル ハウザー	1	秋	83	2		履修対象者:SA英語圏選択者 SA諸語圏学生で英語の教職 免許取得希望の方 SA英語圏選択者は7月もしくは8月に行われるTOE ICの結果により、クラス指定を行います。
			コミュニケーションⅡ	マーク フィールド、 アンドリュー ジョーンズ、 ジョナサン エーブル、 ラスカイル ハウザー	2	春	90	2		コミュニケーションIと同じクラス
			コミュニケーションⅢ	マーク フィールド、 アンドリュー ジョーンズ、 ジョナサン エーブル、 ラスカイル ハウザー	2	春	97	2		コミュニケーションIIと同じクラス
			コミュニケーションⅠ	アネット グルーバー	1	秋	104	2		履修対象者:SAドイツ語圏選択者
			コミュニケーションⅡ	ウテ シュミット	2	春	105	2		コミュニケーションIと同じクラス
			コミュニケーションⅢ	アネット グルーバー	2	春	106	2		コミュニケーションIIと同じクラス
			コミュニケーションⅠ	カレンス フィリップ	1	秋	107	2		履修対象者:SAフランス選択者
			コミュニケーションⅡ	近江屋 志徳	2	春	108	2		コミュニケーションIと同じクラス
			コミュニケーションⅢ	カレンス フィリップ	2	春	109	2		コミュニケーションIIと同じクラス
			コミュニケーションⅠ	コペルニック ナディヤ	1	秋	110	2		履修対象者:SAロシア選択者
			コミュニケーションⅡ	コペルニック ナディヤ	2	春	111	2		コミュニケーションIと同じクラス
			コミュニケーションⅢ	コペルニック ナディヤ	2	春	112	2		コミュニケーションIIと同じクラス
			コミュニケーションⅠ	蔣 彥婷	1	秋	113	2		履修対象者:SA中国選択者
			コミュニケーションⅡ	葉 会	2	春	114	2		コミュニケーションIと同じクラス
			コミュニケーションⅢ	蔣 彥婷	2	春	115	2		コミュニケーションIIと同じクラス
			コミュニケーションⅠ	ガルシア ルイス	1	秋	116	2		履修対象者:SAスペイン選択者
			コミュニケーションⅡ	ガルシア ルイス	2	春	117	2		コミュニケーションIと同じクラス
			コミュニケーションⅢ	ガルシア ルイス	2	春	118	2		コミュニケーションIIと同じクラス
			コミュニケーションⅠ	富所 明秀	1	秋	119	2		履修対象者:SA韓国選択者
			コミュニケーションⅡ	ヤン イエソン	2	春	120	2		コミュニケーションIと同じクラス
			コミュニケーションⅢ	富所 明秀	2	春	121	2		コミュニケーションIIと同じクラス
		英語	アプリケーション	クレグ ジョンストン	3～4	春	122	2		1クラス24名程度。 希望によりクラスを選択します。 クラスによりレベルチェックを行う場合があります。
				ウォルター カズマー			123			
				ウォルター カズマー			124			
				マーティン ブラッドショー			125			
				マーティン ブラッドショー	3～4	秋	126	2		1セメスター内に複数の「英語アプリケーション」を履修することはできません。 同セメスターでなければ、何度でも履修できます。
				アンドリュー ジョーンズ			128			
				マーク フィールド			129			
				マーティン ブラッドショー			130			
				リービ 英雄			131			
				ラスカイル ハウザー			132			
				林 志津江	3～4	春	133	2		【諸外国語アプリケーション共通】 1クラス24名程度。 希望によりクラスを選択します。 クラスによりレベルチェックを行う場合があります。 同じ言語のアプリケーションを何度でも履修できま す。同セメスターに同言語アプリケーションを複数履 修登録することも可能です。
				辻 朋季	3～4	春	134	2		
				ウテ シュミット	3～4	秋	135	2		
				休講	3～4	秋		2		
				ジョルディ フィリップ	3～4	春	136	2		
				ジョルディ フィリップ	3～4	秋	137	2		
				コンルーレ ジョルジュ	3～4	春	138	2		
				ヴァリエンス コリンヌ	3～4	秋	139	2		
				佐藤 千登勢	3～4	春	140	2		
				上野 理恵	3～4	秋	141	2		
				曾 士才	3～4	秋	142	2		
				渡辺 昭太	3～4	秋	143	2		
				周 重雷	3～4	春	144	2		
				休講	3～4	秋		2		
				ガルシア ルイス	3～4	春	145	2		
				ガルシア ルイス	3～4	春	146	2		
				ガルシア ルイス	3～4	秋	147	2		
				ガルシア ルイス	3～4	秋	148	2		
				ヤン イエソン	3～4	春	149	2		
				ヤン イエソン	3～4	秋	150	2		
				神谷 丹路	3～4	秋	151	2	★	
	情報コミュニケーション	情報	コミュニケーションⅠ	甲 洋介	1～4	春	152	2		
			コミュニケーションⅡ	和泉 順子・島野 智之	2～4	春	153	2		
			コミュニケーションⅢ	中沢 しのぶ	2～4	春	155	2		
			アプリケーションⅠ	重定 如彦	3～4	秋	156	2		
			アプリケーションⅡ	大嶋 良明	3～4	秋	157	2		

分類	科目群	小分類	授業科目名	担当教員名	配当 年次	開講期	シラバス ページ	単 位 数	隔年 開講 科目	受講上の注意 旧科目名に付記されている○×は、 重複履修の可否を示します。
専攻科目	情報文化コース科目群	方法論	こころの科学	甲 洋介・森村 修	3～4	秋	158	2		
			ゲーム構築論	重定 如彦	3～4	春	160	2		旧:モデリング・シミュレーション(×)
		システムと人間	ヒューマンインターフェイス論	甲 洋介	2～4	春	161	2		
			情報セキュリティとプライバシー	佐藤 雅明	2～4	秋	162	2		旧:ネットワークセキュリティ(×)
			バイオインフォマティクスー生物情報ーヒトといきものを理解するー	島野 智之、川上 裕司、黒沼 真由美、宮沢 佳恵	2～4	秋	163	2		
			ネットワーク環境構築論	松浦 知史	3～4	秋	164	2		「ネットワーク・プログラミング」(×)、「ネットワークサーバ構築論」(×):を統合
		メディア	文化情報空間論	甲 洋介	2～4	秋	165	2	★	
			コンピュータ音楽と音声情報処理	大嶋 良明	3～4	春	166	2		「メディア処理」(×)、「メディアシステム構築論」(×)、「コンピュータ音楽と音声情報処理」(×)を統合
		デザイン	ハイパーテキスト論	川村 たつる	3～4	秋	168	2	★	
			情報編集論	川村 たつる	3～4	春	169	2		
			文化情報の哲学ー神経犯罪学と倫理ー	森村 修	2～4	春	170	2		
			情報デザイン	中沢 しのぶ	3～4	秋	171	2		
	表象文化コース科目群	表象の理論	サブカルチャー論	島田 雅彦	2～4	春	172	2		
		メディア表現	マルチメディア表現法	大嶋 良明	2～4	春	173	2		
			メディア表現ワークショップ1	休講	2～4	春		2	★	
			メディア表現ワークショップ2	島田 雅彦	3～4	秋	175	2		
			メディア表現ワークショップ3	佐藤 好彦	2～4	秋	176	2	★	
			五感共生論	休講	2～4	秋		2	★	
		映像表現	映像文化論	岡村 民夫	1～4	秋	177	2		
			写真論	休講	1～4	秋		2	★	
			映像と文学	林 志津江	3～4	秋	178	2		
		表象芸術	演劇論	休講	3～4	秋		2	★	
			ポピュラー音楽論	大嶋 徹	1～4	春	180	2	★	
			コミックス論	野田 謙介	3～4	秋	181	2	★	
			空間デザイン論	休講	2～4	秋		2	★	
			比較表象文化論	竹内 晶子	1～4	秋	182	2		旧:比較思想(×)
			異文化と身体表現	深谷 公宣	1～4	春	183	2		
			パフォーマンス・スタディーズー鈴木清順の映像美学ー	森村 修	2～4	秋	184	2		旧:アートアクティヴィズム(○)
			現代美術論	小澤 慶介	2～4	秋	186	2		
	言語文化コース科目群	世界の中の日本文化	世界の中の日本文学	岩川 ありさ	2～4	春	187	2		
			世界の中の日本語	リービ 英雄	2～4	秋	188	2		
			世界とつながる地域の歴史と文化	高柳 俊男	2～4	春	189	2		
			日英翻訳論	リービ 英雄	2～4	春	191	2		
			実践翻訳技法	リービ 英雄	3～4	秋	192	2	★	
		アジアの文化	中国の文化Ⅰ(現代中国社会)	曾 士才	1～4	春	193	2		
			中国の文化Ⅱ(多民族社会中国)	曾 士才	1～4	秋	194	2	★	
			中国の文化Ⅲ(日中文化交流史)	休講	1～4	秋		2	★	
			中国の文化Ⅳ(中国語の構造)	渡辺 昭太	2～4	春	195	2		
			中国の文化Ⅴ(中国語と日本語)	渡辺 昭太	2～4	秋	196	2	★	
			中国の文化Ⅵ(古典思想・文学)	野村 英登	2～4	春	197	2		
			中国の文化Ⅶ(近代文学)	張 文菁	2～4	春	198	2		
			中国の文化Ⅷ(現代文学)	張 文菁	2～4	秋	199	2		
			中国の文化Ⅸ(中国俗文学)	岩田 和子	2～4	春	200	2		
			中国の文化Ⅹ(歴史)	休講	2～4	秋		2	★	
			朝鮮語圏の文化Ⅰ(朝鮮半島の文化史)	神谷 丹路	2～4	春	201	2		
			朝鮮語圏の文化Ⅱ(朝鮮語の構造)	休講	2～4	秋		2	★	
			アジアの伝統芸能	岩田 和子	2～4	秋	202	2	★	
			東南アジアの文化	休講	2～4	秋		2	★	
		ユーラシアの文化	アフロ・アジアの文化	休講	2～4	春		2	★	
			ロシア・中央アジアの文化	アンドレイ クラフツェビチ	2～4	春	203	2	★	
			ロシア・東欧の文化	佐藤 千登勢	2～4	春	204	2		

分類	科目群	小分類	授業科目名	担当教員名	配当年次	開講期	シラバスページ	単位数	隔年開講科目	受講上の注意 旧科目名に付記されている○×は、 重複履修の可否を示します。
専攻科目	言語文化コース科目群	ヨーロッパの文化	ドイツ語圏の文化Ⅰ	辻 朋季	2～4	春	206	2	★	
			ドイツ語圏の文化Ⅱ	休講	2～4	春		2	★	
			フランス語圏の文化Ⅰ(思想)	休講	1～4	秋		2	★	
			フランス語圏の文化Ⅱ(芸術)	休講	1～4	春		2	★	
			フランス語圏の文化Ⅲ(文学)	ジョルディ フィリップ	1～4	秋	207	2	★	
			フランス語圏の文化Ⅳ(複言語・複文化社会)	廣松 勲	1～4	春	208	2	★	
			北米文化論(ケベック講座)	廣松 勲	1～4	秋	210	2		新規開講
			スペイン語圏の文化Ⅰ(多言語国家スペイン)	佐々木 直美	2～4	春	211	2		
			スペイン語圏の文化Ⅱ(ラテンアメリカの社会と文化)	佐々木 直美	3～4	秋	212	2		
			カタルーニャの文化Ⅰ(言語A)	ヴィラ・ラケル	3～4	春	213	2		
			カタルーニャの文化Ⅱ(言語B)	ヴィラ・ラケル	3～4	秋	214	2		
			カタルーニャの文化Ⅲ(歴史・社会A)	ヴィラ・ラケル	3～4	春	215	2		
			カタルーニャの文化Ⅳ(歴史・社会B)	ヴィラ・ラケル	3～4	秋	216	2		
		英語圏の文化	英語圏の文化Ⅰ(文化史)	宇治谷 義英	2～4	春	217	2	★	
			英語圏の文化Ⅱ(思想史)	マーク フィールド	2～4	秋	218	2		
			英語圏の文化Ⅲ(現代事情)	栗飯原 文子	2～4	春	219	2		
			英語圏の文化Ⅳ(文学と社会A)	須藤 祐二	2～4	秋	220	2		
			英語圏の文化Ⅴ(文学と社会B)	宇治谷 義英	2～4	秋	222	2		
			英語圏の文化Ⅵ(文学と社会C)	中和 彩子	2～4	春	223	2		
			英語圏の文化Ⅶ(英語の構造)	齊藤 雄介	3～4	春	224	2		「Structure of English」との重複履修不可
			英語圏の文化Ⅷ(英語の歴史)	齊藤 雄介	3～4	秋	225	2		「History of English」との重複履修不可
			Structure of English	休講	3～4	春		2		「英語圏の文化Ⅶ(英語の構造)」との重複履修不可
			History of English	休講	3～4	秋		2		「英語圏の文化Ⅷ(英語の歴史)」との重複履修不可
	国際社会コース科目群	国際社会研究の方法	実践社会調査法	休講	2～4	春		2		
			実践国際協力	休講	1～4	秋		2		
		国際協力	国際関係研究1	東 智美	1～4	春	226	2		
			途上国経済論 (人間環境学部科目名:途上国経済論Ⅰ)	休講	1～4	春		2		人間環境学部との同一開講授業です。
		多文化社会	他者イメージ論	中島 成久	1～4	秋	227	2	★	
			宗教社会論Ⅰ(仏教思想) (人間環境学部科目名:仏教思想)	高堂 晃壽	1～4	秋	228	2		旧:仏教思想(×) 人間環境学部との同一開講授業です。 休講・教室変更等の授業連絡は人間環境学部掲 示板で確認してください。
			宗教社会論Ⅱ(キリスト教と社会運動)	佐々木 一恵	3～4	秋	229	2		旧:キリスト教思想(×)
			宗教社会論Ⅲ(イスラーム思想)	江村 裕文	2～4	春	230	2	★	旧:イスラーム思想(×)
			間文化性研究翻訳論	休講	2～4	春		2		旧:翻訳と情報(×)
			多文化社会と人間 (キャリアデザイン学部科目名: 多文化社会論Ⅲ)	加藤 丈太郎	2～4	春	231	2		キャリアデザイン学部との同一開講授業です。休 講・教室変更等の授業連絡はキャリアデザイン学部 掲示板上で確認してください。
		国際関係と地域	国際関係研究2	東 智美	1～4	秋	232	2		
			移民研究Ⅰ(華僑・華人社会)	休講	1～4	秋		2	★	
			移民研究Ⅱ(朝鮮民族のディアスポラ)	高柳 俊男	2～4	秋	233	2	★	
			移民研究Ⅲ(アジア・太平洋)	休講	2～4	秋		2	★	
			地域紛争とエスニシティ	中島 成久	1～4	秋	234	2		
			持続可能な社会	休講	1～4	春		2	★	
			地域協力・統合	大中 一彌	2～4	秋	235	2		
			Approaches to Transnational History	佐々木 一恵	1～4	秋	236	2		新規開講
			Cultural Dimension of American Foreign Relations	佐原 彩子	1～4	春	237	2		新規開講

分類	科目群	小分類	授業科目名		担当教員名	配当年次	開講期	シラバスページ	単位数	隔年開講科目	受講上の注意 旧科目名に付記されている○×は、 重複履修の可否を示します。
専攻科目	演習	情報文化演習	PureDataで音楽、CG、デジタル・アートを創ろう	大嶋 良明	3～4	春・秋	238	各2			
			情報科学技術の問題の発見と考察	和泉 順子、佐藤 雅明	3～4	春・秋	241	各2			
			コミュニケーション[つながり]と異文化の、デザイン学	甲 洋介	3～4	春・秋	243	各2			
			コンピュータエンターテインメント	重定 如彦	3～4	春・秋	245	各2			
			生物と持続可能な社会	島野 智之	3～4	春・秋	247	各2			
			「性倒錯とアートの精神分析」研究	森村 修	3～4	春・秋	248	各2			
		表象文化演習	コミュニケーションとアート	佐藤 好彦	3～4	春・秋	250	各2			
			場所論	岡村 民夫	3～4	春・秋	251	各2			
			現代文化創造論	岩川 ありさ	3～4	春・秋	252	各2		新規開講	
			ジャンル横断的プロジェクト・チームの結成とコンテンツ制作の実習	島田 雅彦	3～4	春・秋	254	各2			
			視覚芸術研究へのアプローチ	深谷 公宣	3～4	春・秋	256	各2		新規開講	
			比較文化・比較演劇	川澄 亜岐子、竹内 晶子	3～4	春・秋	257	各2			
		ポップ・カルチャー／ポピュラー音楽の系譜	林 志津江	3～4	春・秋	258	各2				
		言語文化演習	対人配慮の語用論	江村 裕文	3～4	春・秋	260	各2			
			アフリカの文化を学ぶ	栗飯原 文子	3～4	春・秋	261	各2			
			身近な文化を読みほく	衣笠 正晃	3～4	春・秋	263	各2			
			英語、英語圏文化研究	奥石 哲哉(2018年度は休講)	3～4	春・秋		各2			
			世界遺産に学ぶ	佐々木 直美	3～4	春・秋	265	各2			
			映画で学ぶ国際情勢と人間の内的世界	佐藤 千登勢、八木 君人	3～4	春・秋	266	各2			
			アジアから見た日本	鈴木 靖	3～4	春・秋	268	各2			
			スペイン語圏の文化を探索する	大西 亮	3～4	春・秋	270	各2			
			知ってるアメリカ・知らないアメリカ	棚木 玲子	3～4	春・秋	272	各2			
			フランコフォニーの言語文化	廣松 勲	3～4	春・秋	274	各2			
			比較文化研究(小説と映像)	前川 裕	3～4	春・秋	276	各2			
			国際文学論	リービ 英雄	3～4	春・秋	278	各2			
		国際社会演習	「国際関係」を問い直す	今泉 裕美子	3～4	春・秋	279	各2			
			グローバル化と政治理論	大中 一彌	3～4	春・秋	281	各2			
			アートは国境を越える?！- 間文化性研究	桐谷 多恵子、熊田 泰章	3～4	春・秋	283	各2			
			トランスナショナル・ヒストリー研究	佐々木 一恵	3～4	春・秋	285	各2			
			ヒトの移動で読み解く世界	曾 士才	3～4	春・秋	286	各2			
			朝鮮半島と日本	高柳 俊男	3～4	春・秋	288	各2			
			人種・民族・宗教紛争研究	中島 成久	3～4	春・秋	290	各2			
			国際協力を捉える視点	華井 和代	3～4	春・秋	291	各2			
	インターンシップ		インターンシップ事前学習	中島 成久・廣松 勲	2～4	春	293	2			
			福祉工学・IT講義	休講	3～4	秋		2			
			社会貢献・課題解決教育	休講	2～4	通年		4			
	卒業研究			卒業研究	演習担当教員	4	-		2		

【2014年度以前入学生】国際文化学部専門科目一覧 「履修の手引き」記載の注意事項も確認してください。

分類	科目群	小分類	授業科目名	担当教員名	配当年次	開講期	シラバスページ	単位数	隔年開講科目	受講上の注意 旧科目名に付記されている○×は、重複履修の可否を示します。
入門科目			国際文化情報学入門	大嶋 良明、林 志津江、江村 裕文、大中 一彌	1	春	31	4		2グループに分かれて受講する必修科目です。週2回受講しなければなりません。グループ、教室等は授業開始時に時間割および掲示で確認してください。
			チュートリアル	各担当教員	1	春	33	1		登録必修科目です。※1年次に修得できなかった学生は、再履修する必要があります。
基幹科目	共通教養		国際文化情報学の展開	岡村 民夫	2～4	春	34	2		重複履修可
			デジタル情報学概論	重定 如彦	1～4	秋	35	2		
			統計処理法	竹内 広宣	1～4	春	36	2		
			システム論	甲 洋介	2～4	春	37	2		
			情報倫理学 ー技術・プライバシー・著作権ー	森村 修	1～4	春	39	2		
			情報産業論	鏡 明彦	1～4	春	40	2		
			ネット文化論	神戸 雅一	1～4	秋	41	2		
		表象文化系	表象文化概論	深谷 公宣、岩川 ありさ、島田 雅彦、大嶋 良明	1～4	春	42	2		
			メディアと情報	君塚 洋一	1～4	春	43	2		
			社会と美術	中川 三千代	1～4	春	44	2		
			メディアと社会	中基 久和巨	1～4	秋	45	2		
			身体表象論	深谷 公宣	1～4	秋	46	2		
		言語文化系	言語文化概論	衣笠 正晃	1～4	秋	47	2		
			比較文化	前川 裕	1～4	春	48	2		
			現代思想 ーなぜ若者は、銃乱射や 自爆テロに走るのか？ー	森村 修	1～4	秋	49	2		
			ジェンダー論	佐々木 一恵	1～4	春	50	2		
			異文化間コミュニケーション	江村 裕文	1～4	秋	51	2		
			Philosophy of the Public Sphere	石田 安実	1～4	秋	52	2		
			国際関係学概論Ⅰ	今泉 裕美子	1～4	春	53	2		旧：国際関係学概論(×)
		国際社会系	国際関係学概論Ⅱ	今泉 裕美子	1～4	秋	55	2		旧：比較民衆社会論(×)
			国家と民族	中島 成久	1～4	春	57	2		
			平和学	華井 和代	1～4	秋	58	2		
			宗教と社会	佐々木 一恵	1～4	春	59	2		
			Religion and Society	丹羽 充	1～4	春	60	2		
			国際文化協力	田島 樹里奈	1～4	春	62	2		
情報科目			情報システム概論	大嶋 良明、櫻井 茂明、中村 文隆	1～4	秋	64	2		
			メディア情報基礎	大嶋 良明、甲 洋介、米倉 明男	1～4	秋	65	2		
			ネットワーク基礎	大嶋 良明、和泉 順子、松田 裕幸	2～4	春	66	2		
			情報システム応用	和泉 順子	2～4	春	68	2		
			ネットワーク応用	休講	2～4	春		2	★	
			メディア表現法	大嶋 良明	2～4	秋	69	2		
			プログラミング言語基礎	和泉 順子	2～4	春	71	2		
			仮想世界研究	甲 洋介	2～4	春	72	2		
			メディア情報応用	大嶋 良明	2～4	春	73	2	★	
			データベース基礎	若林 啓	3～4	秋	74	2		
			社会とデータサイエンス	和泉 順子	2～4	春	75	2		
			道具による感覚・体験のデザイン ー『体験』から空間をデザインするー	甲 洋介	2～4	春	76	2		
言語科目			世界の言語Ⅰ	休講	2～4	春		2	★	
			世界の言語Ⅱ	休講	2～4	春		2	★	
			世界の英語	小中原 麻友	2～4	春	77	2		
			言語の理論Ⅰ (文学部科目名：言語学概論A)	石井 創	1～4	春	79	2		
			言語の理論Ⅱ (文学部科目名：言語学概論B)	川崎 貴子	1～4	秋	80	2		文学部との同一開講授業です。休講・教室変更等の授業連絡は文学部掲示板で確認してください。「社会言語学」および「応用言語学」は、文学部でも同一の科目名で開講しています。
			社会言語学	塩田 雄大	3～4	春	81	2		
			応用言語学	川崎 貴子	3～4	春	82	2		

分類	科目群	小分類	授業科目名	担当教員名	配当 年次	開講期	シラバス ページ	単位 数	隔年 開講 科目	受講上の注意 旧科目名に付記されている○×は、 重複履修の可否を示します。
メディア コミュニケーション 科目	言語 コミュニケーション		英語	コミュニケーションⅠ	1	秋	83	2		履修対象者:SA英語圏選択者 SA諸語圏学生で英語の教職 免許取得希望の方 SA英語圏選択者は7月もしくは8月に行われるTO EICの結果により、クラス指定を行います。
				コミュニケーションⅡ	2	春	90	2		コミュニケーションⅠと同じクラス
				コミュニケーションⅢ	2	春	97	2		コミュニケーションⅡと同じクラス
			ドイツ語	コミュニケーションⅠ	1	秋	104	2		履修対象者:SAドイツ語圏選択者
				コミュニケーションⅡ	2	春	105	2		コミュニケーションⅠと同じクラス
				コミュニケーションⅢ	2	春	106	2		コミュニケーションⅡと同じクラス
			フランス語	コミュニケーションⅠ	1	秋	107	2		履修対象者:SAフランス選択者
				コミュニケーションⅡ	2	春	108	2		コミュニケーションⅠと同じクラス
				コミュニケーションⅢ	2	春	109	2		コミュニケーションⅡと同じクラス
			ロシア語	コミュニケーションⅠ	1	秋	110	2		履修対象者:SAロシア選択者
				コミュニケーションⅡ	2	春	111	2		コミュニケーションⅠと同じクラス
				コミュニケーションⅢ	2	春	112	2		コミュニケーションⅡと同じクラス
			中国語	コミュニケーションⅠ	1	秋	113	2		履修対象者:SA中国選択者
				コミュニケーションⅡ	2	春	114	2		コミュニケーションⅠと同じクラス
				コミュニケーションⅢ	2	春	115	2		コミュニケーションⅡと同じクラス
			スペイン語	コミュニケーションⅠ	1	秋	116	2		履修対象者:SAスペイン選択者
				コミュニケーションⅡ	2	春	117	2		コミュニケーションⅠと同じクラス
				コミュニケーションⅢ	2	春	118	2		コミュニケーションⅡと同じクラス
			朝鮮語	コミュニケーションⅠ	1	秋	119	2		履修対象者:SA韓国選択者
				コミュニケーションⅡ	2	春	120	2		コミュニケーションⅠと同じクラス
				コミュニケーションⅢ	2	春	121	2		コミュニケーションⅡと同じクラス
			英語	アプリケーション	3～4	春	122	2		1クラス24名程度。 希望によりクラスを選択します。 クラスによりレベルチェックを行う場合があります。
							123			
							124			
							125			
							126			
							128			
					3～4	秋	129	2		1セメスター内に複数の「英語アプリケーション」 を履修することはできません。 同セメスターでなければ、何度でも履修できま す。
							130			
							131			
							132			
							133			
							134			
	情報コ ミュニケーション		ドイツ語	アプリケーション	3～4	春	135	2		【諸外国語アプリケーション共通】 1クラス24名程度。 希望によりクラスを選択します。 クラスによりレベルチェックを行う場合があります。 同じ言語のアプリケーションを何度でも履修で きます。同セメスターに同言語アプリケーション を複数履修登録することも可能です。
					3～4	秋	136	2		
					3～4	秋	137	2		
			フランス語	アプリケーション	3～4	春	138	2		
					3～4	秋	139	2		
					3～4	春	140	2		
			ロシア語	アプリケーション	3～4	秋	141	2		
					3～4	秋	142	2		
					3～4	秋	143	2		
			中国語	アプリケーション	3～4	春	144	2		
					3～4	秋	145	2		
					3～4	春	146	2		
			スペイン語	アプリケーション	3～4	秋	147	2		
					3～4	秋	148	2		
					3～4	春	149	2		
			朝鮮語	アプリケーション	3～4	秋	150	2		
					3～4	秋	151	2	★	
					3～4	春	152	2		
			情報	コミュニケーションⅠ	1～4	春	153	2		
				コミュニケーションⅡ	2～4	春	154	2		
				コミュニケーションⅢ	2～4	春	155	2		
				アプリケーションⅠ	3～4	秋	156	2		
				アプリケーションⅡ	3～4	秋	157	2		

分類	科目群	小分類	授業科目名	担当教員名	配当 年次	開講期	シラバス ページ	単 位 数	隔年 開講 科目	受講上の注意 旧科目名に付記されている○×は、 重複履修の可否を示します。
専攻科目	情報文化コース科目群	方法論	こころの科学	甲 洋介・森村 修	3～4	秋	158	2		
			ゲーム構築論	重定 如彦	3～4	春	160	2		旧:モデリング・シミュレーション(×)
		システムと人間	ヒューマンインターフェイス論	甲 洋介	2～4	春	161	2		
			情報セキュリティとプライバシー	佐藤 雅明	2～4	秋	162	2		旧:ネットワークセキュリティ(×)
			バイオインフォマティクスー生物情報ーヒトといきものを理解するー	島野 智之、川上 裕司、黒沼 真由美、宮沢 佳恵	2～4	秋	163	2		
			ネットワーク環境構築論	松浦 知史	3～4	秋	164	2		「ネットワーク・プログラミング」(×)、「ネットワークサーバ構築論」(×)を統合
		メディア	文化情報空間論	甲 洋介	2～4	秋	165	2	★	
			コンピュータ音楽と音声情報処理	大嶋 良明	3～4	春	166	2		「メディア処理」(×)、「メディアシステム構築論」(×)、「コンピュータ音楽と音声情報処理」(×)を統合
		デザイン	ハイパーテキスト論	川村 たつる	3～4	秋	168	2	★	
			情報編集論	川村 たつる	3～4	春	169	2		
			文化情報の哲学ー神経犯罪学と倫理ー	森村 修	2～4	春	170	2		
			情報デザイン	中沢 しのぶ	3～4	秋	171	2		
	表象文化コース科目群	表象の理論	文化インフォマティクス	魔講	2～4	春		2		
			サブカルチャー論	島田 雅彦	2～4	春	172	2		
			マルチメディア表現法	大嶋 良明	2～4	春	173	2		
		メディア表現	メディア表現ワークショップ1	休講	2～4	春		2	★	
			メディア表現ワークショップ2	島田 雅彦	3～4	秋	175	2		
			メディア表現ワークショップ3	佐藤 好彦	2～4	秋	176	2	★	旧:メディアアート
			五感共生論	休講	2～4	秋		2	★	
		映像表現	映像文化論	岡村 民夫	1～4	秋	177	2		
			写真論	休講	1～4	秋		2	★	
			映像と文学	林 志津江	3～4	秋	178	2		
		表象芸術	演劇論	休講	3～4	秋		2	★	
			ポピュラー音楽論	大嶋 徹	1～4	春	180	2	★	
			コミックス論	野田 謙介	3～4	秋	181	2	★	
		表象芸術	空間デザイン論	休講	2～4	秋		2	★	
			庭園文化	魔講	2～4	春		2	★	
			パフォーマンス・スタディーズー鈴木清順の映像美学ー	森村 修	2～4	秋	184	2		旧:アートアクティヴィズム(○)
			現代美術論	小澤 慶介	2～4	秋	186	2		
	言語文化コース科目群	世界の中の日本文化	世界の中の日本文学	岩川 ありさ	2～4	春	187	2		
			世界の中の日本語	リービ 英雄	2～4	秋	188	2		
			世界とつながる地域の歴史と文化	高柳 俊男	2～4	春	189	2		
		アジアの文化	中国の文化Ⅰ(現代中国社会)	曾 士才	1～4	春	193	2		
			中国の文化Ⅱ(多民族社会中国)	曾 士才	1～4	秋	194	2	★	
			中国の文化Ⅲ(日中文化交流史)	休講	1～4	秋		2	★	
			中国の文化Ⅳ(中国語の構造)	渡辺 昭太	2～4	春	195	2		
			中国の文化Ⅴ(中国語と日本語)	渡辺 昭太	2～4	秋	196	2	★	
			中国の文化Ⅵ(古典思想・文学)	野村 英登	2～4	春	197	2		
			中国の文化Ⅶ(近代文学)	張 文菁	2～4	春	198	2		
			中国の文化Ⅷ(現代文学)	張 文菁	2～4	秋	199	2		
			中国の文化Ⅸ(中国俗文学)	岩田 和子	2～4	春	200	2		
			中国の文化Ⅹ(歴史)	休講	2～4	秋		2	★	
			朝鮮語圏の文化Ⅰ(朝鮮半島の文化史)	神谷 丹路	2～4	春	201	2		
			朝鮮語圏の文化Ⅱ(朝鮮語の構造)	休講	2～4	秋		2	★	
			アジアの伝統芸能	岩田 和子	2～4	秋	202	2	★	
			東南アジアの文化	休講	2～4	秋		2	★	
		ユーラシアの文化	アフロ・アジアの文化	休講	2～4	春		2	★	
			ロシア・中央アジアの文化	アンドレイ クラフツェビチ	2～4	春	203	2	★	
			ロシア・東欧の文化	佐藤 千登勢	2～4	春	204	2		
		ヨーロッパの文化	ドイツ語圏の文化Ⅰ	辻 朋季	2～4	春	206	2	★	
			ドイツ語圏の文化Ⅱ	休講	2～4	春		2	★	
			フランス語圏の文化Ⅰ(思想)	休講	1～4	秋		2	★	
			フランス語圏の文化Ⅱ(芸術)	休講	1～4	春		2	★	
			フランス語圏の文化Ⅲ(文学)	ジョルディ フィリップ	1～4	秋	207	2	★	
			フランス語圏の文化Ⅳ(複言語・複文化社会)	廣松 勲	1～4	春	208	2	★	
			北米文化論(ケベック講座)	廣松 勲	1～4	秋	210	2		新規開講
			スペイン語圏の文化Ⅰ(多言語国家スペイン)	佐々木 直美	2～4	春	211	2		
			スペイン語圏の文化Ⅱ(ラテンアメリカの社会と文化)	佐々木 直美	3～4	秋	212	2		
	ヨーロッパの文化	カタルーニャの文化	カタルーニャの文化Ⅰ(言語A)	ヴィラ・ラケル	3～4	春	213	2		
			カタルーニャの文化Ⅱ(言語B)	ヴィラ・ラケル	3～4	秋	214	2		
			カタルーニャの文化Ⅲ(歴史・社会A)	ヴィラ・ラケル	3～4	春	215	2		
			カタルーニャの文化Ⅳ(歴史・社会B)	ヴィラ・ラケル	3～4	秋	216	2		

分類	科目群	小分類	授業科目名	担当教員名	配当年次	開講期	シラバスページ	単位数	隔年開講科目	受講上の注意 旧科目名に付記されている○×は、重複履修の可否を示します。
専攻科目	言語文化コース科目群	英語圏の文化	英語圏の文化Ⅰ(文化史)	宇治谷 義英	2～4	春	217	2	★	
			英語圏の文化Ⅱ(思想史)	マーク フィールド	2～4	秋	218	2		
			英語圏の文化Ⅲ(現代事情)	栗飯原 文子	2～4	春	219	2		
			英語圏の文化Ⅳ(文学と社会A)	須藤 祐二	2～4	秋	220	2		
			英語圏の文化Ⅴ(文学と社会B)	宇治谷 義英	2～4	秋	222	2		
			英語圏の文化Ⅵ(文学と社会C)	中和 彩子	2～4	春	223	2		
			英語圏の文化Ⅶ(英語の構造)	齊藤 雄介	3～4	春	224	2		「Structure of English」との重複履修不可
			英語圏の文化Ⅷ(英語の歴史)	齊藤 雄介	3～4	秋	225	2		「History of English」との重複履修不可
			Structure of English	休講	3～4	春		2		「英語圏の文化Ⅶ(英語の構造)」との重複履修不可
			History of English	休講	3～4	秋		2		「英語圏の文化Ⅷ(英語の歴史)」との重複履修不可
	国際社会コース科目群	異文化理解の方法	比較表象文化論	竹内 晶子	1～4	秋	182	2		旧:比較思想(×)
			異文化適応論	浅川 希洋志	1～4	秋	183	2		
		文化と他者	他者イメージ論	中島 成久	1～4	秋	227	2	★	
			異文化と身体表現	深谷 公宣	1～4	春	183	2		
			間文化性研究翻訳論	休講	2～4	春		2		旧:翻訳と情報(×)
			日英翻訳論	リービ 英雄	2～4	春	191	2		
			実践翻訳技法	リービ 英雄	3～4	秋	192	2	★	
		宗教思想と社会	宗教社会論Ⅰ(仏教思想) (人間環境学部科目名:仏教思想)	高堂 晃壽	1～4	秋	228	2		旧:仏教思想(×) 人間環境学部との同一開講授業です。 休講・教室変更等の授業連絡は人間環境学部掲示板で確認してください。
			宗教社会論Ⅱ(キリスト教と社会運動)	佐々木 一恵	3～4	秋	229	2		旧:キリスト教思想(×)
			宗教社会論Ⅲ(イスラーム思想)	江村 裕文	2～4	春	230	2	★	旧:イスラーム思想(×)
		国際関係	国際関係研究1	東 智美	1～4	春	226	2		
			国際関係研究2	東 智美	1～4	秋	232	2		
			移民研究Ⅰ(華僑・華人社会)	休講	1～4	秋		2	★	
			移民研究Ⅱ(朝鮮民族のディアスポラ)	高柳 俊男	2～4	秋	233	2	★	
			移民研究Ⅲ(アジア・太平洋)	休講	2～4	秋		2	★	
			地域協力・統合	大中 一彌	2～4	秋	235	2		
			地域紛争とエスニシティ	中島 成久	1～4	秋	234	2		
			実践国際協力	休講	1～4	秋		2		
			途上国経済論 (人間環境学部科目名:途上国経済論Ⅰ)	休講	1～4	春		2		人間環境学部との同一開講授業です。
			多文化社会と人間 (キャリアデザイン学部科目名: 多文化社会論Ⅲ)	加藤 丈太郎	2～4	春	231	2		キャリアデザイン学部との同一開講授業です。休講・教室変更等の授業連絡はキャリアデザイン学部掲示板で確認してください。
			持続可能な社会	休講	1～4	春		2	★	
			実践社会調査法	休講	2～4	春		2		
			Approaches to Transnational History	佐々木 一恵	1～4	秋	236	2		新規開講
			Cultural Dimension of American Foreign Relations	佐原 彩子	1～4	春	237	2		新規開講

分類	科目群	小分類	授業科目名		担当教員名	配当年次	開講期	シラバスページ	単位数	隔年開講科目	受講上の注意 旧科目名に付記されている○×は、 重複履修の可否を示します。
専攻科目	演習	情報文化演習	PureDataで音楽、CG、デジタル・アートを創ろう	大嶋 良明	3～4	春・秋	238	各2			
			情報科学技術の問題の発見と考察	和泉 順子、佐藤 雅明	3～4	春・秋	241	各2			
			コミュニケーション[つながり]と異文化の、デザイン学	甲 洋介	3～4	春・秋	243	各2			
			コンピュータエンターテインメント	重定 如彦	3～4	春・秋	245	各2			
			生物と持続可能な社会	島野 智之	3～4	春・秋	247	各2			
			「性倒錯とアートの精神分析」研究	森村 修	3～4	春・秋	248	各2			
			表象文化演習	コミュニケーションとアート	佐藤 好彦	3～4	春・秋	250	各2		
				場所論	岡村 民夫	3～4	春・秋	251	各2		
				現代文化創造論	岩川 ありさ	3～4	春・秋	252	各2		新規開講
				ジャンル横断的プロジェクト・チームの結成とコンテンツ制作の実習	島田 雅彦	3～4	春・秋	254	各2		
				視覚芸術研究へのアプローチ	深谷 公宣	3～4	春・秋	256	各2		新規開講
				比較文化・比較演劇	川澄 亜岐子、竹内 晶子	3～4	春・秋	257	各2		
		ポップ・カルチャー／ポピュラー音楽の系譜	林 志津江	3～4	春・秋	258	各2				
		言語文化演習	対人配慮の語用論	江村 裕文	3～4	春・秋	260	各2			
			アフリカの文化を学ぶ	栗飯原 文子	3～4	春・秋	261	各2			
			身近な文化を読みほく	衣笠 正晃	3～4	春・秋	263	各2			
			英語、英語圏文化研究	奥石 哲哉(2018年度は休講)	3～4	春・秋		各2			
			世界遺産に学ぶ	佐々木 直美	3～4	春・秋	265	各2			
			映画で学ぶ国際情勢と人間の内的世界	佐藤 千登勢、八木 君人	3～4	春・秋	266	各2			
			アジアから見た日本	鈴木 靖	3～4	春・秋	268	各2			
			スペイン語圏の文化を探索する	大西 亮	3～4	春・秋	270	各2			
			知ってるアメリカ・知らないアメリカ	棚木 玲子	3～4	春・秋	272	各2			
			フランコフォニーの言語文化	廣松 勲	3～4	春・秋	274	各2			
		比較文化研究(小説と映像)	前川 裕	3～4	春・秋	276	各2				
		国際文学論	リービ 英雄	3～4	春・秋	278	各2				
		国際社会演習	「国際関係」を問い直す	今泉 裕美子	3～4	春・秋	279	各2			
			グローバル化と政治理論	大中 一彌	3～4	春・秋	281	各2			
			アートは国境を越える?! - 間文化性研究	桐谷 多恵子、熊田 泰章	3～4	春・秋	283	各2			
			トランスナショナル・ヒストリー研究	佐々木 一恵	3～4	春・秋	285	各2			
			ヒトの移動で読み解く世界	曾 士才	3～4	春・秋	286	各2			
			朝鮮半島と日本	高柳 俊男	3～4	春・秋	288	各2			
			人種・民族・宗教紛争研究	中島 成久	3～4	春・秋	290	各2			
			国際協力を捉える視点	華井 和代	3～4	春・秋	291	各2			
	インターンシップ		インターンシップ事前学習	中島 成久・廣松 勲	2～4	春	293	2			
			福祉工学・IT講義	休講	3～4	秋		2			
			社会貢献・課題解決教育	休講	2～4	通年		4			
	卒業研究		卒業研究	演習担当教員	4	-		2			

卒業研究の詳細

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
大嶋 良明	12月25日 17:00	ePortfolioへのアップロード	日本語もしくは英語の単著論文 日本語論文： 本文16,000字以上、文字サイズは11ポイント。 1 ページあたり41文字×37行もしくは38行を目安とする。 できれば英語による表題およびアブストラクトを付けること。 英語： 6000ワード以上。11ポイント、ダブルスペース。 アブストラクトを付けること。 ブルーフリーディング済みであること。	成績評価の基準 A+：外部学会に発表可能な水準の論文 A：「異文化」に投稿した研究をまとめた論文 B：ゼミとして国際文化情報学会に発表した研究をまとめた論文 C：上記には達しないが卒業研究と認めるに足る水準の論文 D：卒業論文として及第基準に満たないもの E：未提出	その他 成果物は研究室WebおよびePortfolioより公開する。
春学期： 和泉 順子 秋学期： 佐藤 雅明	「演習」 最終日	授業支援システムから卒業論文のファイルアップロード原則として、メール等による提出は認めない	字数： 論文としての体裁が整っており、かつ必要十分な記述があれば分量は特に指定しない 使用言語：日本語または英語	以下の評価項目および面接審査の内容を総合的に勘案し、A+、A、B、C、D、Eの判定を行う。 ①提出期限までに指定の方法で提出され、論文としての体裁を備えているか。 ②関連する先行研究を十分に調査し、参考文献を適切に参照・引用しているか。 ③研究目的と取り組みが明確で、対応する論理的な提案ができているか。 ④提案に対する評価や考察、分析は妥当であるか。 ⑤論理展開に飛躍や矛盾がなく、全体として論旨明快な構成か。 ⑥日本語表現・表記が的確で、誤字脱字や文意不明な箇所などが無い。 ⑦指導教員の指導を受け、まじめに取り組んだか	
甲 洋介	1月9日 午後2時	・1つの文書ファイルにまとめ、授業支援システムを用いて提出。 ・文書に収められない制作物、ソフトウェア等の提出については別途指示する。	・2万字（制作の場合は8千字）以上。但し表紙・目次・要旨・注釈・参考文献・付録を除く。 ・日本語、横書き。ただし英語での執筆可。	a) 課題設定の妥当性とオリジナリティ、b) 内容の妥当性（論文構成・論旨の展開・適切な表現）、c) 先行研究および引用の適切さ、d) 達成水準、の観点から評価する。なお、A+評定には学外での発表可能性を判断に加える。	・制作物を含む場合の評価は、研究論文の基準に準ずる。

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
重定 如彦	1月10日 (水)	論文及び、卒業研究のテーマの作品を提出する。論文はWordで作成し、授業支援システムに添付ファイルで提出すること。作品は、作品に関連するファイルをすべてzipに圧縮し、授業支援システムに添付ファイルで提出すること。	論文は日本語で2万文字以上（プログラムのコードの文字数は含まない）。卒業研究の目的を達成するものであれば、作品のプログラムのコード量または使用言語は特に指定しない。	提出された卒業論文及び作品の内容で評価する。卒業論文は先行研究を踏まえオリエジナリティーがあるか、論文にふさわしい形式で、客観的、論理的に自分の言葉で論述しているか。作品は卒業論文の目的を達成しているか、作品自体の完成度などで評価する。	論文や作品の詳細な形式などについては授業内で個別に指導する。
島野 智之	秋学期最後の演習日	プリントアウト1部 ワード文書電子データをメール添付	使用言語は日本語。字数制限なし。英語による執筆も可。	以下の基準に照らして、A+～Eまでの評価を総合的に行う。 1. 論文の目的に応じた適切な構成をもっているか （要旨、出典を明記するとともに、引用文献の書式が整っているかなど）。 2. 先行研究を調査し、綿密に分析した上で、論理的に結論を導きだしているか。 3. 論文にふさわしく、客観的・論理的に自分の言葉で論述しているか。 4. 学術的研究と言えるか。 5. 剽窃がないか。	年度を通じての教員の面談と添削、草稿の提出や書き直しなどを適宜行うこと。

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
森村 修	1月の授業最終日	担当教員 (morimura@hosei.ac.jp)まで、メールに添付すること	論文 (本文) 横書き40字×35行で、20000字以上 (日本語) ・ PDF形式 論文 (要旨) 横書き40字×35行で、1800字～2000字以内・PDF形式 表紙 (タイトル/サブタイトル、学籍番号、氏名など) を必ずつけること。 表紙の字数は、論文本文の字数に数えない。 論文末に、字数を明記すること。 参考文献一覧も必ずつけること。	「卒業研究」 学術論文は、学術論文である以上、「学会誌」ならびにそれと同様の基準で評価する。評価は以下のような項目に留意して、総合的に決められる。 ① 研究課題設定の妥当性 ② 研究対象の妥当性、先行研究との関係 ③ 分析手順の妥当性 ④ 適切な分量 ⑤ 論文構成の妥当性 ⑥ 論旨の展開 ⑦ 適切な文章表現 ⑧ 文献等の適切な引用 ⑨ 仮説と結果導出の論理的一貫性 ⑩ 論文全体の独創性 ・ 卒業論文の内容と面接審査の内容を総合的に勘案してA+・A・B・C・D・Eの判定を行なう。 A+ : 評価項目の要件を十分に満たし、学会誌に掲載可能な段階 A : 評価項目の要件を満たし、修正の上、学会誌に掲載可能な段階 B : Aの評価に準ずる段階 C : 卒業論文作成の努力が認められ、卒業に適用と評価される段階 D : 多くの点で評価項目の要件を満たさず、卒業に適用と評価されない段階 E : 未提出	- 卒業制作を提出する場合は、卒業制作要旨を提出すること。 - 卒業制作要旨の概要については下記の通り - A4版 12000字以上 (日本語)。 - PDF形式 - 表紙を必ずつけること。 - 表紙の字数は、論文の字数に数えない。 - 文末に字数を明記。 - 作品については、CDあるいはDVDで提出すること (それ以外の形式で作品を提出希望の場合は、事前に教員と相談すること) - 評価基準については、左記の「卒業論文の成績評価の基準」に準ずる。
稲垣 立男	秋学期の最終講義日までに提出する。	作品については秋学期に開催される研究会発表会 (展覧会) 会場に展示した状態で制作報告書を添えて提出すること。論文の場合、研究会発表会ではポスター形式で発表し、論文も添えること。なお、論文、制作報告書についてはPDF形式の電子データでも提出すること。	作品+制作報告書の場合 1 作品 サイズ・材料などについては指導教員に相談すること 2 制作報告書 ポートフォリオ形式、日本語 論文+ポスターの場合 1 論文 12000字程度以上 日本語 2 ポスター A1サイズ程度の用紙に論文の要旨を解りやすくまとめる。	研究発表会の会期中に作品審査・面接審査を実施する。下記の基準で審査する。 作品 1 アイディアの先駆性、実験性 2 作品制作の創意工夫と完成度 3 先行研究の適切な調査 論文 1 テーマの独創性・妥当性 2 分析・論述・文章の適切さと完成度 3 先行研究の適切な調査	論文、制作報告書は日本語 ファイルなどにマウントして提出すること。

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
岩川 ありさ	2019年1月9日 (水) 23:59 まで	メールにてwordファイル を添付して提出	文字数は註や参考文献リストなども含めて20,000 字程度。 使用言語は原則として日本語とする。	成績評価の基準 ・学術論文は以下の基準に沿って評価を行う。 (1) 適切なテーマや問いが設定されており、自分の課題を明確にしている。 (2) 先行研究や参考文献を十分に調べている。 (3) 論理的な記述が行われている。 (4) 論文の書き方を踏まえ、文章表現を的確に行っている。 (5) オリジナリティや学術におけるインパクトを持っている。 ・作品は広義の言語芸術について提出可能。評価基準は以下の通り。 (1) 言語への理解に基づき、探索している。 (2) 文法、表現、構成の細部について考え抜いている。 (3) これまでの先行する作品との差異を明確にしている。 (4) 制作レポートを5,000字以上書き、提出している。	11月頃に草稿を提出し、その後、ブラッシュアップします。また適宜面談を行い、段階的に論文や作品の完成を目指す。
岡村 民夫	演習最終日	プリントアウトして ホチキスで閉じたもの を教室で提出する。	12,000字以上。日本語。作品に付随するレポート の場合は、6,000字以上。要相談のうえ、論文では なく、映像作品（5000字程度の制作レポート付 き）や紀行文を卒業研究とすることもできる。	内容と文章力を重視する。作品の場合は、制作コンセプトや制 作過程を述べたレポートを添えること。論文や作品にいたるま でのプロセスも考慮する。	論集として印刷し、執筆者に一部配布 するほか、本演習内で公開する。
島田 雅彦	演習の 年度最終日	プリントアウトした ものを直接、手渡す か、メールで送付。	研究論文、卒業制作 本文115,000字から2 0,000字程度 引用、参照、注は別 映像作品 上映時間は問わないが、5000字程 度の企画書、シナリオなどを添付すること。	先行研究、先行作品の踏まえ方、テーマや構成、批評性、表現 の工夫、個性、完成度を総合的に見て、判断する。クオリティ の高い論文、作品にはメディア等での公表を薦める。	
竹内 晶子	演習最終日	ワード文書の添付 ファイルとしてメー ルで教員あてに送 付。	字数制限なし。使用言語は日本語あるいは英語。	以下の基準に照らして、A+～Eまでの評価を行います。 1. 論文の目的に応じた適切な構成をもっているか。 2. 先行研究を調査し、作品・資料を綿密に分析した上で、論理的に結論を導きだしているか。 3. 論文にふさわしい形式で、客観的・論理的に自分の言葉で論述しているか。	卒論テーマは、「比較文化」の枠内で 学術的に調査する限りにおいて基本的 に自由ですが、かならず年度を通じて の教員の指導（面談と添削）に応じ、 草稿の提出や書き直しなどを適宜行な うこと。

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
林 志津江	当該年度、秋学期の演習最終日	ワード文書データを用いたメール添付にて教員宛に提出 （両方がそろって提出完了とみなす）	原則として日本語、16,000字以上（執筆要領は別途通知する）	以下の評価項目を考慮し、A+, A, B, C, D, Eの評価判定を行う。 (1) テーマ設定の妥当性・独創性 (2) 先行研究・資料の読解やその活用方法 (3) 適切な論述がなされているか、論理的で明解なテーマ・結論が提示されているか (4) 概念の使用や言語表現、文章表記が的確か (5) 指定された執筆要領（書式）が守れているか (6) 参考文献や図版、グラフ等の出典記載、引用の注釈の方法など、学術論文のルールを守れているか	手書きの論文は受理できません。
深谷 公宣	「演習」最終日	プリントアウトしたものの一部、教場で教員に直接提出する。併せて授業支援システムから、文書データ・ファイルアップロードする。	日本語論文の場合、20000字程度。英語論文の場合、8000字程度。（いずれも注と参考文献を含まない。） 表紙の後に、A4サイズ用紙1頁程度の「要旨」をつける。イラスト形式はPDF, MS Word, Pagesのいずれかとする。	提出された論文については、以下の点を評価軸とし、A+, A, B, C, D, Eの判定を行う。 1. 研究主題の妥当性 2. 先行研究や関連資料の検討範囲及び深度 3. 主張の独自性 4. 引用の適切性 5. 論述の明晰性 6. 書式の統一性 （文章構成、論理・修辭の工夫）	
栗飯原 文子	秋学期の演習最終日	プリントアウトしたものを教員に直接提出する。原則としてメールでの送付は受け付けない。	日本語で20000字程度。英語での執筆を希望する場合は要相談。	以下の評価基準にもとづき、A+, A, B, C, D, Eの判定をおこなう。 1. 研究テーマの妥当性。 2. 論文として体裁が整っていること （表題、章立て、注、参考文献など）。 3. 一次資料の読解が正確、緻密であること。 4. 先行研究や参考文献の調査が行き届いていること。 5. 論文の構成および論旨が明快であること。 6. 分析や論の展開に独創性があること。	
江村 裕文	秋学期の演習最後の授業日	紙ベースで教員に提出	日本語で12,000字以上	1. 形式 2. 調査の程度 3. オリジナリティ	

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
衣笠 正晃	秋学期授業最終回	担当教員に直接提出する	16,000字以上、日本語	以下の評価項目について総合的に勘案し、担当教員がA+、A、B、C、D、Eの判定をおこないます。 1) 研究テーマの選択・設定が妥当かつオリジナリティのあるものか。 2) 先行研究の探索・選択・引用が適切におこなわれているか。 3) アンケートなどの調査が適切に実施され、結果が適切に整理・利用されているか。 4) 根拠を明示したうえで自らの議論が論理的かつ明確に展開されているか。 5) 文章表現・表記が適切であり、論文としての形式が守られているか。	
佐々木 直美	秋学期最後の演習日。	教員に直接提出	使用言語：日本語 文字数：本文のみで20,000字程度	以下の項目を総合的に勘案し、A+、A、B、C、D、Eの判定を行う。 ①論文の体裁を整えているか。 ②テーマの選択は妥当か。 ③先行研究を適切に調査し、整理しているか。 ④論理の展開に飛躍や矛盾がなく、明快か。 ⑤論述や文章は適切か。 ⑥独創性を含むか。	
春学期：佐藤 千登勢 秋学期：八木 君人	ゼミの最終日（2018年度）に教場にて提出	教員に直接提出（教場にて）	字数：20,000字以上（参考文献表、画像を除く） 使用言語：日本語	以下の評価項目の観点から、A+・A・B・C・D・Eの判定を行う。 1) 先行研究・参考文献の内容を正確に理解しているか。 2) 先行研究をきちんとおさえ、適切に引用・援用をおこなっているか。 3) 論旨が明快で、見解や結論に独創性が示されているか。 4) 見解や結論に説得力があるか。 5) 論文の構成は、論旨の展開を明快に導くべく整然としているか。	
鈴木 靖	二段階に分けて提出する。 初稿を12月授業期間中に提出した後、推敲を行い、完成稿を1月の演習最終日までに提出	Microsoft Wordで作成したものを下記メールアドレスに送付。 yasuzuki@hosei.ac.jp	①卒業論文の場合20,000字程度（注釈、文献リスト等を含む） ②卒業制作（ドキュメンタリー・ビデオ作品など）の場合8,000字程度（注釈、文献リスト等を含む）	成績評価は完成稿を対象に、下記の8つを基準として、総合的に評価する。 【内容】 ①問題設定は適切かつ意義あるものか ②先行研究を網羅的かつ批判的に継承しているか ③独自の調査を踏まえてオリジナリティのある研究をおこなっているか ④結論は明確な論拠と論理性を持っているか 【形式】 ⑤章立ては適切に行っているか ⑥引用は適切に行っているか（「剽窃」(plagiarism) に注意） ⑦出典や注釈の記載は適切におこなっているか ⑧参考文献は適切な書式で整理されているか	

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
大西 亮	1月最初の演習の日	直接教員に提出	日本語で12,000字以上（注や参考文献を除く）	①テーマと着目点の獨創性 ②論理的な構成力 ③資料処理の適切性 ④分析、論述の適切さ 評価はA+～E	詳細は個別指導の際に指導
棚木 玲子	当該年度最後の演習。	当該年度最後の演習にて提出。	日本語または英語。日本語の場合は20,000字相当、英語の場合は8,000から10,000語相当。（いずれの場合も注や引用文献を含む。）	提出された論文については以下の点を考慮してA+, A, B, C, D, Eの評価判定を行います。 ①研究課題の具体性と妥当性 ②先行研究や諸資料の検討・整理・活用 ③全体の論理展開ならびに表現的的確さ ④論文としての体裁（とくに注、出典明記、参考文献の書式など） ⑤獨創性	より詳細な指導は個別に行います。
廣松 勲	冬季休業が終了した次の日（授業再開日）とします。	当該年度最後の演習にて提出。	字数は20,000文字以上（つまり400字詰め原稿用紙で50枚以上）とします。 使用言語は日本語とします。	卒業研究の評価に関しては、提出された論文および面接審査を総合的に考慮して、以下の評価基準に照らして、A+ABCDEの判定を行います。 1. 研究テーマの選択の妥当性・獨創性 2. 作品・資料の読解の精確さ 3. 先行研究の調査・整理の妥当性 4. 引用方法の適切さ 5. 分析・論旨・論文構成（章立て）の適切さ・明快さ 6. 誤字脱字が無いこと 7. 形式（フォント、大きさ、色、余白）の統一性	必ずワープロ・ソフト（できるだけWord）で作成してください。手書きのものは受け取りません。
前川 裕	当該年度の最後の授業日	当該年度の最後の授業日に直接提出	日本語で8000字以上	①テーマ設定の妥当性と創造性 ②先行研究に対する適切な調査と言及 ③形式（注や参考文献）の整合性 ④結論の妥当性と創造性 主として、以上の4つの評価項目を踏まえた上で、次の基準で評価する。 A+：評価項目を十分に満たし、学会誌に掲載可能な水準 A：評価項目の要件を十分に満たしている水準 B：評価項目を概ね満たしているが、十分とは言いがたい水準 C：評価項目を一部満たしていないが、努力のあとは認められる水準 D：評価項目のほとんどを満たしておらず、卒業に合わない水準	

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
リービ 英雄	当該年度の最後の授業日	最後の演習の時間に渡す。	10,000字以上、日本語	A+ABCDE 内容の充実および表現力	
今泉 裕美子	冬休み明け最初のゼミ	プリントアウト(書式や表紙などの体裁は別途指示する)したもの、を、今泉に提出する。	日本語で25000字程度(参考文献、図表を除く)。	①テーマ設定の妥当性。先行研究を十分に収集、整理・分析し、先行研究のなかに自分のテーマを位置づけていること。 ②資料収集はネット検索だけでなく、史料館、図書館、博物館など関係機関を訪れたり、フィールドワーク、インタビューなど必要かつ十分な調査を行い、それらを適切に選択、活用していること。 ③実証や分析、論の展開が適切であること。用いた資料の出典、自分の考えの根拠を明示していること。 ④結論では追究出来たこと、出来なかったこと、今後の課題が明示されていること。 ⑤学術論文としての体裁が整っており、誤字・脱字がないこと。	・指導スケジュール(別途提示)に従い、自ら研究計画をたてて主体的に指導を受けること。 ・「卒業研究」を履修する段階でテーマ設定、先行研究の分析、章立て、研究計画が出来ていること。
大中 一彌	秋学期演習の最終授業	授業支援システムからアップロードする。学部への郵送や事務窓口への直接提出、教員へのメール添付による提出は不可。	日本語の場合2万字程度。その他、英語、フランス語を使用言語とし、単語数は8000語程度とする。	A+ 研究論文(Aで求めるサーヴェイ論文に当たる内容を踏まえた上で、学問的に興味深い論点を加えたもの) A サーヴェイ論文(研究する主題について、日本国内および海外の基本的な文献を読み、現在までの研究状況をまとめたもの) B 研究論文(Cで求めるサーヴェイ論文にあたる内容を踏まえたうえで、学問的に興味深い論点を加えたもの) C サーヴェイ論文(研究する主題について、日本国内の基本的な文献を読み、現在までの研究状況をまとめたもの)	執筆者の書いた内容のうち、どういったところが先行研究に学んだもので、どういったところが独自の貢献なのかをはっきりさせるためにも、学術論文としての形式(引用元を明示する、文献情報にかなする注を付ける、文献リストを論文末尾に付ける、など)をきちんと踏まえた書き方をすること。

担当教員名	教員への 提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
春学期： 桐谷 多恵子 秋学期： 熊田 泰章	ゼミ授業12月の最終回の最終回	プリントアウト1部 ワード文書電子データ をメールアドレスに添付	日本語を基本とする。字数は20,000字程度（本文、注、参考文献、英文要旨）。 創作の場合は、担当教員との事前相談によって決定する。	以下の評価項目を総合的に勘案し、A+、A、B、C、D、Eの判定を行う： ①研究テーマと研究対象が学術的に設定されている。 ②先行研究を十分に収集し、批判的に読み込んでいる。 ③先行研究の引用・要約に終始するのではなく、自分自身の解釈、分析、考察を記している。 ④自分自身の解釈、分析、考察の根拠・論拠を明示している。 ⑤一次資料、二次資料を適切に取り扱い、出典を明記している。 ⑥論述が学術的になされ、論旨が明快である。 ⑦表現・表記が的確で、誤字脱字がない。 ⑧表や図像が適切に使用されている。 ⑨論文としての体裁を整えている（表題、目次、章／節／項、注、参考文献、英文要旨など）。	
佐々木 一恵	当該年度の演習授業最終日	演習教室に17時まで に持参し、提出すること。	字数：20000程度 使用言語：日本語または英語	提出された論文については、以下の評価項目および面接審査（卒論発表会）での質疑応答の内容を勘案し、A+、A、B、C、D、Eの判定を行います。 (1) 先行研究の十分な検討の上に明確な研究テーマを設定し、必要かつ十分な資料・史料・データの精緻な分析に基づく独創性のある研究成果を導き出しているか。 (2) 論文としての体裁を備え、論旨が明確で一貫性があるか。 (3) 文章表現が明快かつ的確であるか。	
曾 士才	1月最初の演習授業日	紙媒体とデータで教員に提出する。	ワープロ原稿（横書きが原則）で字数は2万字程度、使用言語は日本語。ただし、制作レポートの場合の字数は1万字程度とする。	①論文としての体裁を備えているか（論題設定、目次、章「節・項」立て、註、参考文献一覧など）。 ②論題に関わる先行研究について批判的に読み込んでいるか。 ③先行研究を参照した部分について、その典拠を明示しているか。 ④先行研究の引用・要約に終始するのではなく、自分自身の判断や解釈、考えを記しているか。 ⑤自分自身の判断や解釈、考えの根拠・論拠を明示しているか。 ⑥論理の展開に飛躍や矛盾がなく、全体として論旨明快な構成になっているか。 ⑦誤字脱字や文意不明な箇所などが無いか。 ※作品制作を「卒業研究」とする場合は、作品の内容、創意工夫に照らして判定し、制作レポートと合わせて総合的に評価する。	作品制作を「卒業研究」とする場合は、制作レポートだけでなく、作品（複製可）も提出してください。

担当教員名	教員への提出期限	提出方法	字数および使用言語	成績評価の基準	その他
高柳 俊男	1月17日(木)	直接教員への提出もしくはメール添付	原則として日本語で、20,000字前後、あるいはそれ以上	以下を基準に判定します。 ① 適切なテーマが選ばれているか？ ② 先行研究や文献の調査が十分なされているか？ ③ 客観性、論理性、合理性のある論旨になっているか？ ④ 自らのオリジナリティーが発揮されているか？ ⑤ 推敲を十分施し、適切な日本語表現になっているか？	
中島 成久	卒業年度の1月末	メール可	A4版（40字×40行設定）20枚以上	以下の項目を満たしているかどうかで判断します。 1 テーマは具体的で十分に論証可能なものかどうか 2 参考文献は適切でかつ十分に読みこなせているかどうか 3 論証は論理的でかつ自説を十分に展開できているかどうか 4 コピペ、剽窃はないかどうか	指導は適宜行う。
華井 和代（日常的には松本悟がメール等で指導）	基本的に秋学期最後の演習（2019年1月9日）を初稿提出期限とし、教員からのコメントをふまえた最終提出期限を同年1月末とする。詳細は別途指示する。	初稿は当該演習の場で紙媒体で教員に提出すること。同日中にデータを授業支援システムにアップすること。詳細は演習の中で指示する。	日本語の場合は要旨1,200字程度で本文は2万字以上、英語の場合はAbstractが400 words程度で本文は6,000 words以上。いずれも脚注および参考文献を含む。	以下の評価項目の内容を総合的に勘案し、A+、A、B、C、D、Eで判定する。 (1) テーマに関する先行研究（少なくとも日本語文献）を十分レビューし批判的に考察していること (2) 論文の体裁を整えていること (3) 研究目的（問いを含む）が明確であること (4) 研究方法が適切であること (5) 検証可能な調査結果に基づいていること (6) 論理的に書かれていること (7) 学術的・社会的価値があること (8) 文章が明晰で誤字脱字がなく指定された書式で書くこと。	ドキュメンタリー映像作品を卒業研究とする場合は、作品のDVDおよび日本語で4,000字程度（英語で1,200words程度）の作品紹介レポートを指定した期限内までに提出すること。成績判定には成績評価基準を準用するので論文と同様のルールで執筆すること。

MEMO

国際文化学部 専門教育科目

入門科目

基幹科目

情報科目

言語科目

メディアコミュニケーション科目

専攻科目

国際文化情報学入門

大嶋 良明、林 志津江、大中 一彌、江村 裕文

配当年次／単位：1 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：1 年生全体を 2 クラスに分割する

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際文化情報学入門」は各コースの担当教員によるオムニバス講義です。今年度の担当は下記の 4 名です。

情報文化コース：大嶋良明

表象文化コース：林志津江

言語文化コース：江村裕文

国際社会コース：大中一彌

国際文化学部の学生として身につけてもらいたい基本的な知識を捉え、学生各自が在学中に共通に必要な「文化を学ぶ考え方」を理解するための講義です。私たちの学部では文化を「情報文化」「表象文化」「言語文化」「国際社会」の 4 つの面から捉えようとしており、それぞれの分野を専門とする 4 人の教員が担当します。

【到達目標】

「情報文化」は、現代の都市型社会において「情報」こそが我々の思考や生活の基盤であるとの立場から、情報の生成、編集、再構成と文化の伝達や人間と情報のかかわりについて今日的な話題から学ぶ。「表象文化」は、主に人間の知覚と創造行為の関連、創造行為のプロセスとメディアの関連を学びながら、幅広い知の視点の獲得を目指すとともに、研究対象とその方法を選ぶための初歩的な議論を導入します。「表象文化＝芸術に関する知識のインプットではない」こと、創造行為と日常の間にあるもの、表象文化と言語の結びつきについて、思考できるようになるのが目標です。

「言語文化」は、主に言語に関するトピックと言語と文化との関係について講義します。国際文化学部の思想的柱である「構造主義」と「文化相対論」というものの見方への導入を目指します。「言語」と「文化」について主要なトピックを分かりやすく扱いますから、「言語学」的な視点を身に付けてほしいと思います。まず「言語」や「文化」を考える際の背景的な知見について紹介し、「文化」とは何か、さらに「日本語」を例にして具体的に「言語」の問題を扱い、「言語」の問題のまとめとして「宗教」を扱います。

「国際社会」では、現代の世界における国家間・集団間の諸問題を文化的な視野のなかで考える態度と方法を学びます。簡単な単語を使い、外国語が下手でも話そうとする姿勢は大事ですが、皆さんの将来にとっては、話をする時の中身が大切です。この「入門」授業では、高校までの知識を確認しながら、国際問題について考え、語るための糸口を見つけることが目標となります。

【授業の進め方と方法】

- ・1 年生全員が履修します。
- ・週 2 回講義があります。
- ・130 名程度の中教室講義 ×2 クラスでの講義です。
- ・出席、課題、レポート、試験等は分野ごとに課します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業全体のガイダンスを合同授業で実施する。
2 回目	【A グループ】 第 1 講 (表象・国際) 【B グループ】 第 1 講 (情報・言語)	分野別授業（前半第 1 回） 情報：国際文化学部と情報 表象：ヨーロッパ・ルネサンスと遠近法の確立 言語：言語・文化を考える際の背景 国際：文化とは何か

3 回目	【A グループ】 第 2 講 (表象・国際) 【B グループ】 第 2 講 (情報・言語)	分野別授業（前半第 2 回） 情報：社会における情報 表象：印象派と産業革命の関わり 言語：言語の機能（分節） 国際：教養としての文化（西洋Ⅰ）
4 回目	【A グループ】 第 3 講 (表象・国際) 【B グループ】 第 3 講 (情報・言語)	分野別授業（前半第 3 回） 情報：文化としての情報 表象：造形／図像から応用化学／写真へ 言語：文化とは 国際：文明と文化（西洋Ⅱ）
5 回目	【A グループ】 第 4 講 (表象・国際) 【B グループ】 第 4 講 (情報・言語)	分野別授業（前半第 4 回） 情報：メディアと情報 表象：モーツァルトと淡いナショナリズム 言語：文法カテゴリー 国際：幕末維新と文化（日本Ⅰ）
6 回目	【A グループ】 第 5 講 (表象・国際) 【B グループ】 第 5 講 (情報・言語)	分野別授業（前半第 5 回） 情報：情報とセキュリティ 表象：交響曲と「私」を語るための音楽 言語：日本語の諸問題 国際：明治 20 年代から大正デモクラシーへ（日本Ⅱ）
7 回目	【A グループ】 第 6 講 (表象・国際) 【B グループ】 第 6 講 (情報・言語)	分野別授業（前半第 6 回） 情報：情報リテラシー、メディアリテラシー 表象：グラモフォン・フィルム・マイクロフォン 言語：宗教について 国際：国際関係論への基本的な構え
8 回目	【A グループ】 第 1 講 (情報・言語) 【B グループ】 第 1 講 (表象・国際)	分野別授業（後半第 1 回） 情報：国際文化学部と情報 表象：ヨーロッパ・ルネサンスと遠近法の確立 言語：言語・文化を考える際の背景 国際：文化とは何か
9 回目	【A グループ】 第 2 講 (情報・言語) 【B グループ】 第 2 講 (表象・国際)	分野別授業（後半第 2 回） 情報：社会における情報 表象：印象派と産業革命の関わり 言語：言語の機能（分節） 国際：教養としての文化（西洋Ⅰ）
10 回目	【A グループ】 第 3 講 (情報・言語) 【B グループ】 第 3 講 (表象・国際)	分野別授業（後半第 3 回） 情報：文化としての情報 表象：造形／図像から応用化学／写真へ 言語：文化とは 国際：文明と文化（西洋Ⅱ）
11 回目	【A グループ】 第 4 講 (情報・言語) 【B グループ】 第 4 講 (表象・国際)	分野別授業（後半第 4 回） 情報：メディアと情報 表象：モーツァルトと淡いナショナリズム 言語：文法カテゴリー 国際：幕末維新と文化（日本Ⅰ）
12 回目	【A グループ】 第 5 講 (情報・言語) 【B グループ】 第 5 講 (表象・国際)	分野別授業（後半第 5 回） 情報：情報とセキュリティ 表象：交響曲と「私」を語るための音楽 言語：日本語の諸問題 国際：明治 20 年代から大正デモクラシーへ（日本Ⅱ）

1 3 回	【A グループ】第 6 講	分野別授業（後半第 6 回）
目	（情報・言語）	情報：情報リテラシー、メディア
	【B グループ】第 6 講	リテラシー
	（表象・国際）	表象：グラモフォン・フィルム・ マイクロフォン 言語：宗教について 国際：国際関係論への基本的な構 え
1 4 回	まとめ	合同授業による総まとめ
目		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各コースの授業において予習復習、課題、文献講読などが課されるので毎回の授業の後にならずこれらの学習活動を行ってください。また大学での最初の科目授業であり、担当ごとの授業スタイルの違いもあるので、学習方法そのものに早い時期に慣れる必要があります。学習支援ハンドブックをはじめ、各教員の指示によくしたがって学習を進めてください。

（表象）授業内で触れた作品に触れるとともに、「国立美術館キャンパスメンバーズ」制度を活用し、首都圏各地の美術館・展覧会を訪問してください。

（言語）文献購読の課題を出す予定です。文献リストは授業支援システム等で紹介します。

また、支援システムにクイズを出しますから、回答してください。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書は用いませんが、必要な文献等に関しては、それぞれの分野ごとに必要に応じて指示します。

【参考書】

担当教員それぞれが開講時ないし授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

各分野の点数配分をそれぞれ 25%とし、それを合計する。内訳は（ ）のとおり。

情報文化＝ 25%（平常点 10%、試験 15%）

表象文化＝ 25%（原則として毎授業提出のレビュー課題で 100 %、その他任意提出のレポートを 25%までの範囲で加算）

言語文化＝ 25%（試験）

国際社会＝ 25%（レポート成績（任意）、小テスト、授業への貢献、その他の 4 項目で、各 25 %）

【学生の意見等からの気づき】

大人数の必修の授業となるので、円滑な運営が行えるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する

【その他の重要事項】

学年全体を 2 クラスにわけて授業を行ないます。

どちらのクラスも週 2 回授業があります。

自分がどちらのクラスに該当するか必ず確認してください

チュートリアル

担当教員はガイダンス時に指示

配当年次／単位：1 年／1 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは、大学における勉強とは何か、です。

【到達目標】

チュートリアルは、高校から大学に移行するための初年次教育として位置づけられます。教育目標には、精神面と技術面、二つの側面があります。精神面については、大学生としての心構えを身につけます。つまり、問題点を自分で見つけ、その解決策を考える姿勢を身につけます。技術面については、ごく基礎的なアカデミックスキルズを身につけます。資料の検索方法・レポートの書き方・プレゼンテーションの仕方などを学びます。最終的な目標は、みなさんがまとまったレポートを作成する、あるいはプレゼンテーションをおこなう力を身につけることです。

【授業の進め方と方法】

『法政大学 学習支援ハンドブック』をテキストとし、他のテキストや課題図書も併用しながら、大学で学ぶにあたっての心構えや、アカデミックスキルズを身につけていきます。授業での教員による講義や解説に基づき、実習や課題に取り組み、習ったことを定着させていくようにします。

授業の構成は、目安として次のようになりますが、詳細は担当教員が説明します。

○前回の復習や添削結果の講評

○その回の授業テーマに沿った講義、説明

○習ったことに関する実習

○宿題や課題の説明

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の進め方の説明、大学での学びについての説明
第2回	講義の聴き方・ノートの取り方	なぜ講義を聴くのか、なぜ専門用語が使われるのか、なぜノートを取るのか、なぜ私語がいけないのか
第3回	本や論文の読み方	どこの本・論文から読み始めるのか、批判的・論理的思考とは何か、要約の仕方、キーセンテンスの見つけ方
第4回	要約の仕方	内容本位でまとめる、レポートや論文執筆における要約の重要性
第5回	資料の集め方と整理の仕方	図書館の活用の仕方、インターネットの活用の仕方、新聞・専門雑誌の活用の仕方、さまざまな資料整理の仕方、コピー＆ペーストの弊害
第6回	レポート・論文の書き方	レポート・論文の構成とは、引用の重要性、なぜ剽窃・盗用してはいけないのか、推敲の重要性
第7回	プレゼンテーションやディスカッションの仕方	プレゼンテーションの準備の仕方、ハンドアウト（レジュメやスライド）の作り方、事前の練習の重要性、質疑応答の重要性
第8回	まとめ	授業のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学で学ぶにあたっての心構えや基礎的なアカデミックスキルズについて、頭で認識、理解するだけでなく、実践を通して身につけられるように、原則として、毎回、課題・宿題に取り組む必要があります。

【テキスト（教科書）】

『法政大学 学習支援ハンドブック 2018』（法政大学教育支援開発機構 FD 推進センター）がテキストないしはサブテキストです。担当教員により他のテキストを併用することがあります。以下は他のテキスト例です。

藤田哲也編著『大学基礎講座：充実した大学生活をおくるために』（改増版：北大路書房、2006 年）

小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2009 年）

佐藤望、湯川武、横山千晶、近藤明彦著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』（慶応義塾大学出版会、2006 年）

【参考書】

学びの過程で、多くの教員がテキストの他に参考書や課題図書を受講生の提示します。以下はそのような例です。

阿部紘久著『簡単だけど、誰も教えてくれない 77 のテクニック：文章の基本』（日本実業出版社、2009 年）

小笠原喜康『インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2003 年）

世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック 3 訂版』（世界思想社、2017 年）

など。

【成績評価の方法と基準】

発言など毎回の授業への積極的参加：30%

授業内における発表：30%

課題、レポートなどの提出物：40%

【学生の意見等からの気づき】

2017 年度の受講生が回答したチュートリアル自己評価シート集計結果を見ると、「講義の聴き方・ノートの取り方」、「本や論文の読み方」については 70 % 以上、「プレゼンテーションやディスカッションの仕方」については 60 % 以上、「資料の収集と整理の仕方」、「レポートや論文の書き方」については 80% 以上の人が「十分に」・「ある程度習得・認識することができた」と回答しています。さらに多くの人が学習の成果を実感して身につけることが出来るように努めていきます。

国際文化情報学の展開

岡村 民夫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次の「国際文化情報学入門」に続く位置づけの科目であるが、必修ではない。コース横断的にオムニバス形式で講義する。「国際社会人」について学ぶ。国際文化学部は、創設以来「国際社会人」の人材育成を理念として掲げている。今年度は、主として「国際文化学部叢書」2 冊に沿って、指針となりえる約 12 人の歴史的人物の人生や思想について、12 人の講師が講義する。

【到達目標】

国際文化人の事例を通し、異文化間に横たわる問題群と、それらを乗り越える相互的で創造的なコミュニケーションについて具体的理解を深めること。またそうしたコミュニケーションをはかるうえで有効な基礎概念を習得する。

【授業の進め方と方法】

岡村民夫がコーディネーターを務め、毎回異なった講師が、異なった「国際社会人」を具体的に紹介する。主に前半は、社会的実践者や理論家を扱い、後半は芸術的な表現者を扱う。

各講義ごとにリアクションペーパーを回収する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当：岡村民夫 講義の趣旨の説明 成績評価基準の説明
第 2 回	中西伊之助	担当：高柳俊男 朝鮮人と交流し、植民地主義を批判した日本人作家・評論家について
第 3 回	杉原千畝	担当：吉川太恵子 リトアニアでユダヤ系避難民に「命のビザ」を発行した日本人外交官について
第 4 回	寺山修司	担当：守屋貴嗣 フィクションとしての「私」を創り越境しつづけた青森出身の詩人について
第 5 回	ハリエット・タブマン	担当：榎木玲子 アメリカ合衆国で黒人差別撤廃のために闘った黒人女性について
第 6 回	ハンナ・アーレント	担当：田島樹里奈 ドイツからアメリカ合衆国へ亡命し、20 世紀の暴力を分析した政治哲学者について
第 7 回	アマルティア・セン	担当：森村 修 貧困と差別を見つめ「よい生」を提唱するインド出身の経済学者について
第 8 回	オクタビオ・パス	担当：大西 亮 欧米や日本体験を通して「メキシコ人とは何か」を考えた詩人について
第 9 回	ジャン・ルーシュ	担当：岡村民夫 西アフリカをフィールドとしたフランスの映像人類学者について
第 10 回	エドゥアール・グリッサン	担当：廣松 勲 カリブ海のフランス海外県マルティニク島出身の作家・思想家について

第 11 回 山口昌男

担当：川村 湊

国境と学問の境界を越境した北海道生まれの文化人類学者について

第 12 回 ラフカディオ・ハーン

担当：宇野邦一

欧米をへて日本に至り、小泉八雲と名乗ったギリシャ出身の作家について

第 13 回 ヴァーツラフ・ニジンスキー

担当：鈴木 晶

欧米各地を旅しながらバレエの革命児となったポーランド系ロシア人ダンサーについて

第 14 回 成績評価

授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『国際社会人叢書 1 国境を越えるヒューマニズム』（法政大学出版局 2013）や『国際社会人叢書 2 〈境界〉を生きる思想家たち』（法政大学出版局 2016）を参照に予習ないし復習することが望ましい。なお国際文化学部資料室には叢書関連本コーナーが設けられており、利用できる。

【テキスト（教科書）】

(1)『国際社会人叢書 2 〈境界〉を生きる思想家たち』（法政大学出版局 2016）

(2) 各講師が講義時に配布する資料プリント

【参考書】

『国際社会人叢書 1 国境を越えるヒューマニズム』（法政大学出版局 2013）：国際文化学部資料室や法政大学市ヶ谷図書館に蔵書がある。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %：出席、受講態度、リアクションペーパー）＋期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

多人数授業であり、ゲスト講師をお招きして構成する授業でもある。遅刻・早退・私語・居眠りを厳に慎むこと。

デジタル情報学概論

重定 如彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明かな理解と広い視野形成を得ることをめざす。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明かな理解と広い視野形成を得る。

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。

授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに授業支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でてくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化
2 回	情報の伝達	デジタルの利点と欠点 インターネットにおける情報の伝達
3 回	情報通信	データの圧縮。誤りの検出と訂正 有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号

5 回	安全な通信と暗号その2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局
6 回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ
11 回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子出版 電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12 回	3 次元 CG、デジタルマップと GIS	3 次元 GC デジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス	電子商取引 電子マネー電子商取引のセキュリティ
14 回	ユビキタスコンピューティング、人工知能	ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID 人工知能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する Power Point の資料（授業支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。

レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

統計処理法

竹内 広宣

配当年度／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることは決して容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。具体的には、データを数値化する方法、数値を可視化する方法、数値を最終的に評価・解釈する方法等を習得していきます。

【到達目標】

- ・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
- ・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
- ・確率の計算方法を理解する
- ・データを解釈する方法を身につける

【授業の進め方と方法】

授業ではまず、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。観測したい現象を数値データとして表現し、統計的な道具立てを使って分析するための基礎となるものです。

講義期間の後半には、実際にごく簡単な分析も実施し、例題となるデータを題材にして統計的な観点から分析を試みます。「データから読みとる」といった感覚を、楽しみながら体験してもらいます。

数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	統計の基礎1	平均と分散
第2回	統計の基礎2	統計データの取り扱い
第3回	統計の基礎	相関と回帰
第4回	確率分布1	確率の定義
第5回	確率分布2	ベイズの定理
第6回	確率分布3	二項分布とポアソン分布
第7回	確率分布4	正規分布
第8回	標本分布1	母集団と標本
第9回	標本分布2	大数の法則
第10回	標本分布3	中心極限定理
第11回	検定と推定	仮説検定
第12回	検定と推定2	点推定と区間推定
第13回	実分析	実データを使った分析の演習
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的に、新聞・テレビ・インターネットなどを通してデータを含んだニュースや記事にふれておくこと。

【テキスト（教科書）】

作成した資料を使って行います。

【参考書】

講義中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポート点と中間テストを総合的に評価します。目安としては、平常点 40%、レポート点 30%、中間テスト 30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

理解が進むよう、実例をできるだけ多く紹介するようにします。また、毎回開始時に前回の授業で理解が難しかった箇所を簡単に振り返ります。

【学生が準備すべき機器他】

講義実施期間中、数回演習を行います。演習ではエクセルなどの表計算ソフトが必要になります。事前に指定した日時の会には貸与パソコンまたは個人パソコンを持参してください。

システム論

甲 洋介

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、たくさんの「システム」に囲まれながら 24 時間生活しています。「SNS」「コンビニエンスストア」「公共交通や道路網」「お金」「学校や大学の教育カリキュラム」、これらはすべて、広い意味で何らかの目的のために体系的に組み立てられたもの、つまり「システム」です。

システムの成り立ち、システム改良のプロセスには、よりよい社会を実現するための人間の創意工夫と試行錯誤が詰まっています。

そして、人間が作ったシステムだけでなく、それらを作り出す人間社会そのものも、一種のシステムなのです。

本講義では、身近な題材を取り上げながら、世の中の複雑な現象や複雑に見える人工物を、より単純化された様々な観点から捉え直す作業を通して、「システムの考え方」ができるようになります。

【到達目標】

あなたが、または社会が直面する一見複雑な問題に対して、

- ・問題の本質は何であるか、どのような要素からなっているか、
- ・複数の要素が絡む場合は要素間の関係はどうか、
- ・「多くの視点」を組み合わせながら問題を分析・検討し、
- ・どのようにすれば解決に近づくことができるか、

自分なりの答えを、システムの考え方をを用いて「系統立てて」導く道筋を、理解できるようになります。

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、概ね以下の流れに沿って展開されます。

- ・前回小レポートの解説、質問への応答、ディスカッション（約 20 分）
- ・講義形式での話題提供、いくつかの視点・考え方の提示（50 分）
- ・小レポート（30 分）

授業中に実施される小レポートを繰り返すことで、到達目標に向けた練習を積むことができます。授業中の討議を通じて、他者の多様な意見を認めつつ自らのオリジナルな考えを導けるようになり、それを他者が理解できる論理立った説明ができるように練習します。最後に、期末レポート等でその成果を確認します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の進め方を説明します
第 2 回	「システム」の捉え方	システムとはどのようなものだろうか、基本的な考え方を身近な例で説明します
第 3 回	暮らしの中のシステム	人の暮らしには、実に様々なシステムがあふれています。それは人間が暮らし方を工夫してきた足跡ともいえます
第 4 回	複雑に見えることを、単純化してみる	何人もの人間が集まって生じる社会現象は複雑に見えます。より簡単な問題に置き換えられないでしょうか？ 社会現象はどのぐらい予測（不）可能なのでしょうか？ 例として、「鉄道を新設したら、何人乗ってくれるだろうか」という予測を考えましょう
第 5 回	人間の行動を理解する、表現する	人間の行動は「選択」の連続です。一見気まぐれのように見える人間の選択には、規則性があるのでしょうか。考え方を説明します人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみましょうーベンから宇宙船まで
第 6 回	人と道具のシステム論	

第 7 回	社会のシステム論 (1) ールーマンの理論	複雑な社会を理解しようとする「社会理論」に触れます。社会システム論で有名なルーマンの考え方について概略を説明します。
第 8 回	社会のシステム論 (2) ーコミュニケーションの連鎖	ルーマンは、社会の複雑さや『分化』がどのように生じてくると考えたのでしょうか。コミュニケーションの連鎖、というキーワードから迫ります。
第 9 回	社会と個人	社会基盤整備における市民参加を身近な題材として取り上げます。社会と個人の関わりをどのように捉えたらよいか考えます。
第 10 回	社会を支える交通システム ー ITS の挑戦	「賢い交通システム」ITS (Intelligent Transport Systems) を紹介します。交通問題を解決するためにどのような工夫を凝らすべきか議論します。
第 11 回	交通と文化	各国の交通システムは驚くほど異なっているように見えます。交通システムが、その国の文化を反映している可能性があります。交通システムの違いを考察することで、文化の国際比較を試みます。
第 12 回	都市計画、コミュニティ・地域計画	人の住まう処としての都市にはどのような社会基盤が必要でしょうか。また国土を見渡して、どのような国土づくりをすべきか、都市計画・地域計画の考え方とその変遷を説明します。
第 13 回	システムダイナミクス	複雑な社会システムを理解する道具として、システムダイナミクスがあります。各要素と要素間の相互作用の表わし方を知ること、社会現象に対する多様な見方が存在することを説明します。
第 14 回	グループディスカッションと発表 ー社会の具体的な課題を例に取って	これまでの授業内容を踏まえ、グループに分かれ、ある社会基盤整備計画に対して賛成か反対かいずれかの立場に立ってディスカッションを行います。意見の調整、建設的な議論を体験します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：社会システムを理解するために、新聞を読むなどして身近な社会問題の背景について自分なりに考察する習慣は予・復習に十分なります。

復習：前回の小レポートに対するコメントや解説を聴き、改めて自分の考えを整理します。この際授業支援システムにアップされた資料を参照することができます。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提示、またはプリントを配布。テキストは使用しません。

【参考書】

・知恵の樹 ― 生きている世界はどのようにして生まれるのか（ちくま学芸文庫）

【成績評価の方法と基準】

・小レポートと、授業・討議における積極的な貢献度合い（60 %）、
・期末レポートまたは期末試験（40 %）で評価します。
小レポート、期末レポートのいずれも、「課題と基本事項の理解」「自分なりの答えを導くまでの論理性」「多角的な検討を行っているか」を評価の基準とします。各レポートにおいて、最低限の論理性を満たしている答案には、合格最低点に相当する 6 割の評価点が与えられます。基本事項を用いた的確な記述、高い論理性、多角的な視点からの検討を示す答案ほど、高評価となります。

注意事項：

・知識の寡少は評価対象ではありませんが、期末レポートにおいて、自分なりの答えを導くために、関係書籍やインターネット、講義資料を様々に調べた知識を用いて述べることは「多角的な検討」に該当し、評価の対象となります。ただし引用元を明記してください。

【学生の意見等からの気づき】

「込み入った話になると理解できなかった」と意見がありました。話題を分かりやすく例示する部分と、考察を深めてほしい部分のメリハリをつけようと思います。なお、授業内で提示される内容は、物事を考えるための素材であり、折に触れて、講義内容をどのように捉えてほしいかを説明するようにします。

情報倫理学—技術・プライバシー・著作権—

森村 修

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本授業の概要としては、高校学習指導要領にあるように、「情報化が社会に及ぼす影響と課題、情報セキュリティの確保、情報社会における法と個人の責任などに関する基礎的な知識」を習得してもらう。特に、「情報化がもたらす利便性とそれが悪用されたときの危険性や、危険を防止するための法律による規制や保護及び情報技術によるセキュリティ対策」を理解するとともに、「望ましい情報社会のために必要なこと」を検討し、「様々な対策をバランスよく実施することの重要性について」考えて貰う。

・さらに、「情報セキュリティを確保する方法を習得」し、「情報モラルに配慮して、責任ある行動をとることができる態度を養う」ことを学ぶ。

【到達目標】

・本授業の到達目標は、高校学習指導要領にあるように「情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解」し、「情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度」を身につけてもらうことである。

・また、本科目のテーマは、到達目標を生かして「情報社会に積極的に参画する態度」を養うことである。「その際、情報を適切に活用し表現する視点から情報の特徴や情報社会の課題について、情報モラルや望ましい情報社会の構築の視点から情報化が社会に及ぼす影響について理解」し、「情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うために必要な基礎的な知識と技能を習得」してもらう。

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行なう。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたい。また、リアクションペーパーを用いることで、各自の倫理観を聞くこともある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと授業概要説明
第2回	なぜ情報倫理が必要なのか？	彼女や彼氏のメールを勝手に見てもよい？
第3回	倫理とは何だろうか？	倫理についての基本的な考え方
第4回	コンピューターとインターネットの歴史	ネットは社会そのもの
第5回	インターネットの情報	「信頼」とは何か？
第6回	インターネットコミュニティとオフラインコミュニティ	コミュニティのルール
第7回	ユビキタス社会のプライバシー	プライバシーはなぜ必要か？
第8回	監視社会における自由	監視と排除社会の問題
第9回	動画共有サイトにMA D動画を投稿してもよい？	著作権と創造性
第10回	情報公開と機密情報	ウィキリークスとハッカー倫理
第11回	不正アクセス禁止法は情報セキュリティを高めるか？	セキュリティの問題
第12回	ネットワーク管理者の倫理	ネットワークと負担の公平

第13 情報技術者の責任 情報技術者の社会的責任

第14 グローバル化とインターネット インターネットは世界を変えるか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、事前にテキストを読む等の準備をしておいてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

土屋俊監修・大谷卓史編著『改訂新版 情報倫理入門』、アイ・ケイコーポレーション、2014 年

【参考書】

大谷卓史『情報倫理——技術・プライバシー・著作権』、みすず書房、2017 年

【成績評価の方法と基準】

試験に加え、小テストなどを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

期末試験（80 %）・小テスト（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

情報産業論

鏡 明彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報産業の現状と展望

～国内外の放送サービスを通して情報産業の今を見つめ、将来を展望する～

「情報産業」とは、収集、蓄積された情報をもとに、整理、加工、そして思考し、その結果を伝達、流通させる産業である。インターネットや関連機器の進展により、情報の伝達、流通を技術的に支える IT 産業は飛躍的に発展し、情報産業が担う領域は益々広がっている。今や技術の進展なしに情報産業の発展はないと言える。しかし、情報を伝える手段が変わっても情報の本質は不変である。メディアの仕掛けに惑わされることなく、本物の情報を見分ける能力の獲得＝デジタルリテラシーの醸成が重要である。本授業では、国内外の放送コンテンツの提供サービスを題材にしながら、伝送路（放送、通信）をキーワードに、情報産業を俯瞰し、各種メディアサービスの現状を把握し、その将来を展望する。インターネット環境を基盤にした、スマート端末に代表される、よりパーソナルな AI 的通信メディアの進展と物との繋がりが広がる IoT、IoE とともに、従来型のマスメディアである放送、新聞、雑誌の「ありよう」がどうなるのか？ 様々なメディアとの関係も含め、本授業で展望する。

【到達目標】

- ・グローバル視点でのメディア動向把握とその中の個の重要性理解
- ・アナログからデジタルに移行した TV メディアの変遷の理解
- ・インターネットの進展に伴う IT 産業の理解
- ・放送と通信が連携してきているメディアサービスの理解
- ・放送メディアが目指しているサービスの理解
- ・AI や IoT、IoE をはじめとする様々な新情報サービスの理解
- ・今の時代に求められるメディアリテラシーについての理解
- ・各種マスメディアの今後の展望についての理解
- ・国内外のメディア動向の理解
- ・国が進める施策の理解

【授業の進め方と方法】

基本的に、プロジェクターを使用して PC でのスライドや動画を活用しながら授業を進める。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介する。現在、自身の仕事でデジタル TV 事業のサービス開発を行っている観点から、出来るだけ現実的な題材を取り上げ、皆さんの意見を聞きながら授業を進める。毎回、授業後に感想や質問をメモで提出してもらい、それについて次回の授業冒頭で答えていく形を基本とする。また、毎年 5 月末頃に開催される NHK 放送技術研究所（世田谷区砧）の一般公開を利用して、持ち出し授業として見学会を催し、スーパーハイビジョン（8K）やハイブリッドキャスト、AI や CG の放送利用等の最新放送技術やサービスに触れる機会を設ける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	メディアの変遷	自己紹介及び今後の授業内容の説明と放送の歴史を通してメディアの変遷やトレンドについて触れる
第 2 回	放送と通信のサービスについて	放送、通信のサービスや連携について、その考え方や現代に至る変化の説明を行う。その中で、放送法についても触れる
第 3 回	放送局が進めるコンテンツビジネス	NHK オンデマンドや Web サービス、データ放送、ハイブリッドキャストを通して、放送局の考えるコンテンツビジネスを俯瞰する

第 4 回	海外のコンシューマ向けサービスのトレンド	CES2018（家電の国際見本市）の展示内容からピックアップして、海外のコンシューマ向けサービスのトレンドを紹介
第 5 回	海外の放送業界のトレンド	NAB2018（全米放送機器展）の展示内容からピックアップして、放送業界に関する最新情報を紹介
第 6 回	NHK 放送技術研究所の一般公開内容の紹介（事前予習）	NHK 放送技術研究所の一般公開の見学会（土曜日）に向け、事前に展示内容について説明し、当日の理解の参考とする
第 7 回	NHK 放送技術研究所の一般公開見学（この週は土曜日に持ち出し授業を行う為、翌週の火曜日は休講）	5 月末に開催される一般公開を見学し、最新放送技術とサービスを体感。見学した結果をレポートにまとめて翌々週の授業までに提出、成績に反映
第 8 回	放送サービスの今後	欧米の国際見本市や技研公開を通して感じた潮流について、メディアサービスの状況を分析し、放送メディアの今後を考える
第 9 回	多様なネットサービスについて	欧米の国際見本市や技研公開を通して感じた潮流について、ネットサービスやビッグデータなどの情報活用や、ドローン、Uber など個人に直接繋がるサービスの可能性について考える
第 10 回	ソーシャルメディアについて	Youtube、Twitter、facebook などに代表される SNS による放送メディアへのインパクトを検証
第 11 回	IoT や AI など多様化する端末やユーザーインターフェースについて	スマート化する端末や搭載される UI（ユーザーインターフェース）や AI、さらに物等への搭載が進む IoT や IoE を考える
第 12 回	情報化における光と影	一方的に送られてくる情報と検索して得られる情報、ユーザとして、その選択をどうするのか？
第 13 回	国の動き	総務省、経済産業省、文科省等の国の取り組み状況を紹介します
第 14 回	前期授業のまとめとレポートの課題説明	半期を通して行った講義のまとめ、レポート用課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、直接触れることと合わせ、現状メディアのサービス展開について、日常的に理解を深めておく事。

【テキスト（教科書）】

特になし（講義単位で資料を準備し、それを活用する）

【参考書】

テレビ番組、新聞、雑誌、インターネット上の情報。授業の中で適宜、アクセス先を紹介。書籍は以下の 4 冊。情報の文明学（梅棹忠夫）、iCon Steve Jobs（井口耕二訳）、INA（エマニュエル・オーグ著）、＜インターネット＞の次に来るもの（服部桂記）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 6 割、レポート 4 割で評価します。レポート提出は必須です。レポート提出は 2 回で、NHK 放送技術研究所の一般公開見学の感想レポートと 7 月最後の授業で出題するテーマに関するレポート。レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報の理解と自分の考えでまとめているか、なぜ、そのような結果になったかが分かり易く整理され記載されているかを見て評価します。また、授業の感想や質問内容から理解度を測ります。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、講義終了後、メモで授業の感想と質問を提出。感想や質問については、次の授業冒頭に取り上げ、理解の促進を図る。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

プロジェクターとインターネットを利用しながら、出来るだけ分かり易くビジュアル化した授業を行う予定。

ネット文化論

神戸 雅一

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットがスマートフォン等のデバイスとともに発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。このような社会を「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。

本講義では通信ネットワークやコンピュータ、スマートフォンを基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容を理解し、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めていきたいと思います。

本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常活動に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】

日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事象に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや、課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【授業の進め方と方法】

本講義では、ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介します。プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持って主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。講義ではその内容に関連した直近のニュースや学術論文なども紹介します。講義の内容が社会事象とどのように関係するかや、学術的にどのような意義を持つのかを理解することも心掛けてください。また各回の講義の最後にも時間を設けますので疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。

毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。期末に、ネット文化に関し、自らの意見を論じる試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを課します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化の概要	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。
2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用事例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワーク拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。

5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、ネットを利用した商取引を中心に講義します。
6	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化するサービスの概念とその効果や課題について多面的に講義します。
7	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化の一形態について、「フラット化」の概念を中心に講義します。
8	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会およびグローバル化後の社会における人工知能等の技術の進展の影響について講義します。
9	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とイノベーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
10	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
11	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
12	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
13	ネットワーク社会を支える新技術	ネットワーク社会を支える新技術について、先進事例や企業、大学等で研究されている技術について講義します。
14	ネット文化論のまとめ	ネット社会についてこれまでの講義で紹介した内容について整理し講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義の際に本講義が対象とする領域および各回の講義テーマを紹介し、各回の講義テーマに関連する事象に日常的に関心を持つことを期待します。ネット文化に係るニュースや Web サイト等を日頃から関心を持って読み、聞き、そして考え、各回の講義終了時に提出するミニレポート、期末の課題に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】

講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために各回の講義ごとに参考図書を紹介し、また、各回の講義に関連したニュースや学術論文を紹介し、講義の内容と社会事象の関連や、その学術的な位置づけの理解の一助としてください。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。

1. 期末試験または期末レポート：70%

講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。試験、レポートのどちらの方法にするかは、講義中にお知らせします。

2. 平常点：15%

講義への関心、参加度を評価し平常点とします。

3. ミニレポート 15%

毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義終了時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。積極的に声をかけてください。

表象文化概論

岩川 ありさ、大嶋 良明、島田 雅彦、深谷 公宣

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：表象文化論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「表象文化」とは芸術諸ジャンルを指す総称である。文学、美術、演劇、音楽、映像芸術、漫画などの作品群を研究の対象とし、その表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、それらが内包している意味、欲望、人々に与える影響などを解き明かしてゆくことを目指すのが、「表象文化論」である。ここでは、4 つの分野を扱いつつ、表象文化論の基礎教養を履修者に身につけてもらうことになる。

【到達目標】

この講義は、「国際文化情報学入門」の「表象文化コース」の次段階となる。この講義を聴いたうえで、または聴きつつ、表象文化コースの各専門科目でさらに踏み込んだ研究をすることが望ましい。表象文化に関する全般的な知識を身につけた上で、各自の関心のある領域で専門研究が進められるようにする。

【授業の進め方と方法】

初回は担当教員 4 名全員が、それぞれの講義について解説する。

その後、4 人が 3 回ずつ講義をおこなう。

学期末の試験では 4 分野からそれぞれ出題される。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「表象文化概論」の 4 名の担当者全員がそれぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について語る。
第 2 回	演劇論	古代演劇とオペラの発祥
第 3 回	オペラ論	楽器、西洋音楽の発展プロセス、西洋オペラの通史
第 4 回	黄金期のオペラ鑑賞	オペラの傑作のダイジェストの鑑賞と解説
第 5 回	現代社会と表象文化 (1)	「知識」は誰のためにあるのか？：「オネエ」をめぐるメディアの表象
第 6 回	現代社会と表象文化 (2)	好きなことから始める文化研究：マンガ、アニメーション、2.5 次元
第 7 回	現代社会と表象文化 (3)	声を伝えるための表現:セーラー服の歌人・鳥居と日本語ラップ
第 8 回	映画とスタイル (1)	古典的ハリウッド映画における映画表現技法、ジャンル映画の特徴
第 9 回	映画とスタイル (2)	ネオレアリズモ、ヌーヴェル・ヴァーグ、アートシネマの映画表現技法
第 10 回	映画とスタイル (3)	映画における主題の多様性：宗教と移民
第 11 回	ジェネラティブ・アート (1)：計算機が表象するビジュアル	Processing による視覚的なジェネラティブ・アートについて学ぶ。
第 12 回	ジェネラティブ・アート (2)：計算機が表象する音響世界	Pure Data や Super Collider による音響的なジェネラティブ・アートについて学ぶ。
第 13 回	ジェネラティブ・アート (3)：計算機とのインタラクション、パフォーマンス	インタラクティブなメディア表現とそのインターフェース、コンピュータの役割について学ぶ。
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各担当教員が指示する。

【テキスト（教科書）】

学期を通して用いるテキストはとくになし。各担当教員が講義時に指示する。

【参考書】

各担当教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み、レスポンス・シートの記述）と、期末試験の合計。評価基準は平常点 30 %、期末試験 70 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

担当者交代のため、該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、静止画像および動画を用いる。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスにかならず出席すること。

特別な事情がないかぎり、初回に出席しなかった者は登録できない。登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもありうる。

メディアと情報

君塚 洋一

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】

以下 3 点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性和問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【授業の進め方と方法】

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、音楽などの具体的な素材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT 化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第 2 回	メディアの特性とコミュニケーション	メディアとは何か？ さまざまなメディアのかたちを見る
第 3 回	コミュニケーションをとらえるさまざまなモデル	伝達モデルと共有モデル、関係モデル、交話モデル、M. マクルーハン等
第 4 回	何がメディアの情報となるのか？	情報の特性：最近の「ニュース」を事例に
第 5 回	参加型課題（予定）	これまでの授業の理解、および関連文献の要約とコメント等
第 6 回	メディアが現実・経験をつくる-1	言語・メディアが世界を「構成」する：ピクチャレスク・ツーリズムなどを事例に
第 7 回	メディアが現実・経験をつくる-2	メディア・リテラシーによる批評と分析：メディア表現の内容分析などを事例に
第 8 回	メディアが現実・経験をつくる-3	メディア文化とノスタルジー
第 9 回	参加型課題（予定）	これまでの授業の理解、およびメディア表現の鑑賞と評価等
第 10 回	市場情報システムとメディア表現-1	マーケティング戦略と広告表現：シャンプー CM などを事例に
第 11 回	市場情報システムとメディア表現-2	商品開発と宣伝の仕事
第 12 回	市場情報システムとメディア表現-3	メディア・クリエイターの仕事
第 13 回	ポストモダン社会とメディア、情報	ポストモダンとは、記号の引用と操作、情報倫理

第 14 回 まとめ・筆記試験 前期のふりかえり・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) テレビやインターネット、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につけてみる。
- 2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手（媒体社、広告会社等）の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
- 3) 前半の回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースを書き出し、持ち寄って授業の題材とする。

【テキスト（教科書）】

原則として使用しない。

【参考書】

有馬哲夫『世界のしくみが見える「メディア論」』宝島社（宝島新書）、2007 年
 ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義——メディアロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010 年
 鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー 入門編』リベラ出版、2000 年
 竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論 1・2』北樹出版、2005 年
 若林直樹・白尾隆太郎編著『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年
 山田奨治編著『文化としてのテレビ・コマーシャル』世界思想社、2007 年

【成績評価の方法と基準】

授業内小レポート（3 回程度：約 30 %）および筆記試験（約 70 %）

【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。
 毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。
 また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

メディアやさまざまな作品表現に興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】

本科目は、講義、授業内課題、筆記試験の 3 つで成り立つ。授業の理解や発展学習のため、授業内課題を 3 ～ 4 回課し、受講者による発表の機会を設ける。テーマについて高い関心をもち、積極的な発言と活動を行う意欲のある受講者を求める。

社会と美術

中川 三千代

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：戦争と美術

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会と美術の関わり」を大きなテーマとし、歴史的に社会と美術がどう関わってきたか、現在どう関わっているかについて考える授業です。授業の内容は大きく以下の3つです。

1) 西洋美術の歴史

現在、日本の多くの美術館で紹介される西洋美術について、特に社会とのつながりに重きを置いて作品を鑑賞し、歴史を学びます。主として印象派前後の西洋絵画、ロダンに始まるフランスの近代彫刻、アール・デコ、アール・ヌーボーといった装飾美術を題材とします。

2) 美術館の成立と現在

社会と美術の関わりを考える上で重要な役割を果たす「美術館」について、その成立と現在の活動について学びます。まず、欧州美術館の成立に関して、コレクション形成から一般公開されるまでの歴史と現在、欧米の主要な美術館の設立過程や現状を概観します。続いて、日本における美術館の成立過程について、欧米の例と比較しつつ学んでいきます。

3) 美術館の機能と社会との関わり

美術館の機能として一般に挙げられる、美術品の調査・研究、収集・保存、展示・教育普及活動についてそのあらましを学び、美術館の社会的役割について考えます。また、美術館以外での美術活動として、アートプロジェクト、アーティスト・イン・レジデンス、ホスピタルアートなどの事例を参照し、社会と美術の関わりを考えます。

【到達目標】

1) 近代フランス美術を中心とした作品の知識を深め、美術の見方を養います。また、これ等の作品の社会との関わりについて知見を得ます。

2) 美術館の成立過程について欧米、日本の例をそれぞれ学び、社会の中で美術館が果たしてきた役割、求められてきた役割について学びます。

3) 美術館の機能や美術館の内外での美術活動について把握し、社会と美術の関わりについて多角的に考察する力を得ます。

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心とします。

リアクションペーパーや授業内レポートを通して、それぞれのテーマについての理解を深めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と評価基準について。 授業の概要。
2	フランス近代美術 — 印象派まで —	新古典主義・ロマン主義の絵画から印象派が生まれるまで。
3	フランス近代美術 — 印象派から —	印象派以後から第二次大戦前までの様々な主義・傾向の絵画の主なもの。
4	近代彫刻と装飾美術	ロダンに始まるフランスの近代彫刻。当時の万博の隆盛と装飾美術。
5	フランスの美術館 — 起源と現在 —	コレクション形成から一般公開されるまでの歴史と現在。
6	欧米の美術館	欧米の主要な美術館の成立から現在。
7	日本における西洋美術の受容	日本への西洋画技法の導入と西洋画の流入。
8	日本における美術館の成立	大正末期から昭和初期の美術館の成立過程。
9	日本の美術館	主に首都圏の西洋美術を扱った美術館を中心に紹介。

10	美術館の社会的役割 (I)	美術館の機能のうち、美術品の調査・研究、収集・保存について概観。
11	美術館の社会的役割 (II)	美術館の展示・教育普及活動について。
12	美術館の外の美術 (I)	アートプロジェクトやアーティスト・イン・レジデンスなどの事例から社会との関わりを考察。
13	美術館の外の美術 (II)	ホスピタルアートの事例などからその意味の考察。
14	まとめ	これまでの授業の総括と社会と美術の関わりについての今後の展望。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、美術館やギャラリーなどに積極的に訪れ、多くの美術作品に接することが望ましいです。また、公共空間にあるアートに気を配っておいってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回リアクションペーパーか授業内レポートの提出を求めます。また授業内レポート以外に、美術館に関するレポート課題を一つ、課す予定です。

平常点（40%）、授業内レポート（40%）、レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出のために、授業支援システムを利用する可能性があります。

【その他の重要事項】

履修希望者は、初回のガイダンスに必ず出席してください。

メディアと社会

中 藁 久和巨

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：現代社会とマスメディア

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、私たちの身の回りには、様々なかたちのメディアが存在しています。私たちはそれらを“媒体”にして、社会と多様なつながりを持つことが出来ます。情報技術の発展により、誰もが表現者にも発信者にもなりえるこれからの時代では、メディアを正しく受け取り、読み解く必要があります。

授業では、映画やメディアアート、最新の研究などに触れ、様々な側面から社会とメディアの関係性を考え、読み解いていきます。

【到達目標】

授業では、映画やアニメなど、学生の身近なところから最新研究まで、様々な事例に触れていき、それらが持つ社会との関係性や影響を読み解き、視野を広げることで、メディアを社会的な面から批判的に見るメディアリテラシーを身に付けていきます。

【授業の進め方と方法】

基本的には、スライドでの講義と映像資料の鑑賞が中心になります。授業では毎回、講義内容に関連した授業内レポートを書いてもらい、取り上げる題材に対して深く考察することを目指します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要と取り上げる参考書・参考資料、評価基準について説明します。
2	メディアアートの歴史と社会との関り	メディアアートの歴史と最新技術を使ったアート作品事例。
3	映画の歴史	映画の歴史から、映像技術の進歩による映像表現の変化。
4	情報技術と社会との関り	情報技術が社会に及ぼす影響。インターネット、AI 技術、VR、AR、ロボット技術。
5	ファッションと社会	ファッション歴史と社会との関り。テクノロジーで更新するファッション。
6	特別講義 1	アニメーション制作会社の方をお招きし、これまでの作品の紹介や実際の制作現場についてお話を聞きます。
7	“顔”というメディア	誰もが持つ、“顔”というメディアの意味と役割。
8	漫画と社会	漫画文化の歴史から社会との関りを読み解く。
9	デザインと社会	社会におけるデザインの持つ役割。
10	映像作品の中の“食”	様々な映像作品に登場する“食”のシーンを読み解く。
11	特別講義 2	実際にメディアアーティストとして活躍されている方をお招きし、作品の紹介とメディアアートの社会的役割についてお話を聞きます。
12	映像を読み解く	映画を鑑賞し、制作者の意図を読み取る。
13	彫刻表現	魅力的なキャラクター表現を、粘土造形によるデモを交えて解説。
14	まとめ	これまでの授業の総括と、これからのメディアと社会の関りについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、積極的に様々なメディアに触れ、そこから得られた情報を咀嚼するようにしましょう。日常で目にする様々な情報に気を配ることが大切です。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は使いません。毎回、授業内容についてのプリントを配布します。

【参考書】

授業中に随時指示をします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で、授業内レポートを提出してもらいます。

また、授業内レポートの他に、メディアに関連したレポート課題を課す予定です。

平常点（40%）、授業内レポート（40%）、レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用して、課題を提出してもらう可能性があります。

【その他の重要事項】

履修希望者は、必ず初回のガイダンスに出席するようにして下さい。

身体表象論

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：国際文化情報学方法論 I

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：定員 60 名。それを超えたら選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

絵画、写真、演劇、映画などの視覚芸術に表現された身体を手がかりに、身体を見る／見せるとはどういうことか、について学ぶ。身体と社会の境界が歴史的・文化的に規定されていることを確認し、人間の身体を社会的にどのように位置付ければよいのかについて受講生が自分なりの考えを構築できるようにする。

【到達目標】

- ・身体運動の表象を、記号として解釈することができる。
- ・人間の情動と身体運動の関係性を、歴史的、社会的に位置付け、解釈することができる。
- ・芸術作品に表現された身体に関する自分なりの見方を構築し、作品を批評・分析・記述することができる。

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業で考察する問題点の紹介。基本となる概念や用語の説明。参考文献の紹介。
2	絵画における身体（1）	ヨーロッパ中世・ルネサンス期における絵画の身体表現について考える。
3	絵画における身体（2）	ヨーロッパ近代・現代における絵画の身体表現について考える。
4	彫刻における身体	ルネサンス期から近代までの彫刻の身体表現について考える：ミケランジェロ、ベルニーニなど。
5	演劇における身体（1）	俳優という存在のあり方について考える：スタニスラフスキー・システム、鈴木メソッドなど。
6	演劇における身体（2）	パフォーマンスにおける身体と性のあり方について考える：宝塚、ダムタイプなど。
7	写真における身体（1）	肖像写真における顔、表情の意義について考える：アウグスト・ザンダーなど。
8	写真における身体（2）	写真における身体の位置と構図との関係について考える：アンリ＝カルティエ・ブレッソンなど。
9	映像における身体（1）	映像における身体運動のあり方について理論的に考える。
10	映像における身体（2）	日本人の身体を映像に写すということについて具体例を用いながら考える：小津安二郎、溝口健二など。
11	服飾と身体（1）	服飾の機能と美の歴史的変遷を振り返る。
12	服飾と身体（2）	服飾をまといながら身体を見せることの意義について考える。
13	身体表象再考	これまでの講義を振り返り、改めて身体表象とは何かを考える。
14	試験	記述式の期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中、作品分析のレポートを課す。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

小林康夫『表象文化論講義 絵画の冒険』（東京大学出版会）
 諸川春樹他『彫刻の解剖学ドナテッロからカノーヴァへ』（ありな書房）
 森村泰昌『美術の解剖学講義』（ちくま学芸文庫）
 蓮實重彦『監督 小津安二郎 〔増補決定版〕』（ちくま学芸文庫）
 ダムタイプ『メモランダム 古橋悌二』（リトルモア）
 ルドフスキー（加藤秀俊・多田道太郎訳）『みっともない人体』（鹿島出版会）
 バルト（佐藤信夫訳）『モードの体系』（みすず書房）

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 30%：講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
 レポート 20%：鑑賞作品をきちんと批評することができているかを評価。
 期末試験 50%：身体表象に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

言語文化概論

衣笠 正晃

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：言語と社会

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20 世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】

- 1) テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
- 2) 言語（ことば）と文化・社会との密接なかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
- 3) 学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【授業の進め方と方法】

各回とも、出席者がテキストおよび事前配布資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。

授業形式は講義が中心となりますが、皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、毎回予習の確認をおこなうとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。また復習を兼ねたミニレポートを課することがあります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説と履修意図の確認＋ことばから文化・社会を捉える視点（テキスト第 1 章）
2	19 世紀から 20 世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
3	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第 2 章）
4	言語記号と自然記号	パースの記号論（テキスト第 3 章）
5	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第 4 章）
6	ことばとしての文化 (1)	ヤコブソン、レヴィ＝ストロースと構造主義革命（テキスト第 5 章）
7	ことばとしての文化 (2)	バルトと一般記号学（テキスト第 5 章）
8	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第 7 章）
9	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第 8 章）
10	メディア・テクノロジーと文化産業	マクラーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第 9 章）
11	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第 13 章）
12	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第 14 章）
13	まとめ	学期授業内容の確認・総括（テキスト第 15 章）
14	学期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも教員の指示に従ってテキストおよび事前配布資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までにまとめ、授業内に提出すること。

【テキスト（教科書）】

・石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平 15 章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010 年）

※上記テキスト以外にも随時プリントを配布・使用します。

【参考書】

・岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015 年）

・小林康夫・大澤真幸『「知の技法」入門』（河出書房新社、2014 年）

※その他、授業のなかで随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末試験（50 %）をあわせて評価します。

評価にあたっては以下の 4 点の達成度にもとづいて判断します。

- 1) テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
- 2) 思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
- 3) 授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもてているか。
- 4) 授業をつうじての学びを主体的・説得的に表現できているか。

【学生の意見等からの気づき】

・テキストや資料についてさらに具体的にわかりやすい解説をおこない、履修者による主体的な問題発見・取り組みにつながるよう心がけたい。

・リアクションペーパーにあらわれた質問や意見、感想をクラスに還元することに加えて、クラス規模に応じて、出席者による議論や意見交換を導入してゆきたい。

【その他の重要事項】

・クラス規模などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。

・配布資料として英語資料を用いることがあります。

・授業妨害行為（私語、携帯電話の使用、歩き回りなど）にはきわめて厳しく対処します。この点が理解できない人はこの授業を履修しないでください。

比較文化

前川 裕

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は日本の近代文学作品の英訳あるいは、日本人および欧米人による日本文化論などをテキストとして読みながら、日本人の発想と欧米人の発想の相違を比較文化論的に考察する。文学作品をテキストとして用いることも多いが、文学研究そのものの授業ではないから、学生はもっと大きな比較文化的考察と発見を目指し、最終的には文化とは何かについて考える。

【到達目標】

学生が「文化とは何か？」という問に対する、歴史的な議論の流れを理解し、先行研究を踏まえた上で、文化を比較することの意味を理解できるようになること。フランス学派やアメリカ学派などの具体的な比較文化的方法論を身につけ、漠然とした日本と西欧の比較ではなく、アカデミックな意味での文化比較とは何かを認識できるようになることを目指す。

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には講義形式で進められる。ただ、学生諸君にあらかじめ資料を読んできてもらいたいときは、前週にプリントを配布する。また、学生の学習に役立つように講義メモを配布したり、必要に応じて、講義内容に関連する映画などを見てもらうこともある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	比較文化論の方法	比較・対比などの用語を用いながら、伝統的な比較文化研究の方法論を概説する。また、文化の静態性・動態性などの概念を説明しながら、近年の方法論の展開も紹介する。
2	伊藤整『近代日本人の発想の諸形式』	島崎藤村の「新生事件」に関連する伊藤整の分析を紹介し、日本社会の構造に存在する＜曖昧さ＞について論じる。
3	ルース・ベネディクト『菊と刀』	日本文化研究の古典と見なされる『菊と刀』の内容を紹介し、その功罪について論ずる。
4	義理と忠・孝	ベネディクトが特に注目した「義理」という概念が、日本社会のなかでどのように機能してきたかについて論ずる。具体的な裁判事件が取り上げられ、「義理」という言葉の意味を考える。
5	小説および映画における「終わり」の問題を考える。	アリストテレスの peripeteia の理論を考えながら、東西における「終わり」の問題を考える。ルネ・クレマンの『太陽がいっぱい』あるいは大島渚の『少年』などのラストシーンを鑑賞し、西洋映画の ending を日本映画の「終わり」と比較して、考察する。
6	ベネディクトの再評価	ダグラス・ラミスやクリフォード・ギアーツなどの諸説を紹介しながら、『菊と刀』の現代的意味を考える。
7	翻訳論	表示義および共示義などの翻訳に関連する基本的用語を紹介しながら、翻訳とは何かを考える。

8	日本近代文学の英訳研究（1）樋口一葉『たけくらべ』	『たけくらべ』の英訳を用いながら、表示義的翻訳と共示義的翻訳を具体的に検証し、その功罪について論ずる。
9	日本近代文学の英訳研究（2）芥川龍之介『地獄変』	表示義と共示義の問題は、言葉の問題に留まらず、空間的な動きにも現われることを、英訳と原文の差異から考察する。
10	日本近代文学の英訳研究（3）川端康成『雪国』	川端康成の曖昧な文体が翻訳者エドワード・サイデンステッカーによってどう翻訳されたかを紹介し、翻訳の本質について論じる。また、文学作品が映像化されるとき、原文がいかに変容するかを考え、それを翻訳の場合と比較考察する。
11	文化と犯罪	昭和40年代の犯罪事件を具体的にに取り上げ、それが当時の文化的社会的背景といかなる関係があったかについて論ずる。
12	文化の均質化（1）	トルーマン・カポーティの『冷血』を取り上げ、事実と虚構の問題について、文化論的に論ずる。
13	文化の均質化（2）	佐木隆三の『復讐するは我にあり』と『冷血』を比較し、事実を描くということの意味を文化論的に考察する。
14	文化を比較することの意味	もう一度翻訳論に立ち返り、言語的差違が文化表現にどのように反映されるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書をあらかじめ読んできてもらう。

【テキスト（教科書）】

あらかじめ指定するテキストはない。テーマに応じて、読むべき参考書を指定する。

【参考書】

ルース・ベネディクト『菊と刀』（光文社新訳古典文庫、2008）
エドワード・サイード『オリエンタリズム』（平凡社ライブラリー、1993）

【成績評価の方法と基準】

講義ノートのみ持ち込み可の授業内試験。出席は取らない。評価基準は、授業内試験100%。

【学生の意見等からの気づき】

大人数授業のため、板書が見にくくなりがちであるので、講義を整理したプリントの配布回数を増やしたい。学生アシスタントを有効に活用し、配布時間の改善を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

学生が用意すべき情報機器は特になし。

【その他の重要事項】

配布プリントはあくまでも、講義の補助的な役割をするものですから、プリントだけ取りに来て意味がないことを、学生諸君は自覚してください。

現代思想—なぜ若者は、銃乱射や自爆テロに走るのか？—

森村 修

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際文化情報学方法論Ⅱ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。

2018年度は、イタリア人思想家・アクティヴィストのフランコ・ベラルディ（ビフォ）の『大量殺人の“ダークヒーロー”——なぜ若者は、銃乱射や自爆テロに走るのか？』（作品社、2017）（Franco 'Bifo' Berardi, *Heroes: Mass Murder and Suicide*, 2015）を取り上げる。同書は、「大量殺人と自殺」というテーマで、「なぜ若者は、銃乱射や自爆テロに走るのか？」という問いについて、心理・社会・経済・政治的背景を踏まえて、哲学的に考察している。

そこで本授業では、自分たちがどのような危機的環境に置かれているかを客観的に考察し、現代社会の〈病理〉を思想的に分析することを目的とする。

本科目は、前期科目「文化情報の哲学」と密接に関連している。履修する学年に制約があるが、積極的に「文化情報の哲学」を受講することが望ましい。

【到達目標】

- (1) フランコ・ベラルディのテキストを検討すること、私たちが国家や資本主義によって収奪され、暴力的に自己破壊に向かわざるを得ない現実を把握し直すことができる。と同時に、国家権力や資本主義から自らの生を取り戻すための抵抗の戦略を「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができる。
- (2) 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的には講義形式で授業を行う。必要に応じて、学生との議論を行う。また、リアクションペーパーを用いる等して、受講生の考えを聞くことも考えている。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要説明
2	なぜ若者は、銃乱射や自爆テロに走るのか？	・フランコ・ベラルディとは誰か？
3	人間を死に追いやる現代資本主義社会	・現代資本主義分析
4	オーロラ銃乱射事件	・資本主義における「動員」
5	ヨケラ高校銃乱射事件	・新自由主義と社会ダーウィニズム
6	ヴァージニア工科大学銃乱射事件	・弱さと暴力
7	現代資本主義社会における“犯罪”	・絶対資本主義と犯罪
8	ノルウェー連続テロ事件	・アイデンティティの確認という脅迫観念
9	マクベラの洞窟虐殺事件	・殉教と自殺
10	アメリカ同時多発テロ、ロンドン英兵惨殺事件など	・心理的・精神的搾取と精神病理 ・戦争 PTSD

- 11 横浜浮浪者襲撃事件、引きこもりなど
 - 12 最も自殺の多い国の希 望——ソウルへの旅
 - 13 何もなせることがない ときに、何をなすべきか？
 - 14 まとめ
- ・メディア・アクティヴィスト的パラダイム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業前に、基本的なテキストを読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

フランコ・ベラルディ『大量殺人の“ダークヒーロー”——なぜ若者は、銃乱射や自爆テロに走るのか？』（作品社、2017）

Franco 'Bifo' Berardi, *Heroes: Mass Murder and Suicide*, Verso, 2015.

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート（80％）

②平常点（20％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

1. 本科目は、「基幹科目」として、言語文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず、政治哲学や政治思想などに興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
2. 前期科目「文化情報の哲学」と密接に関わっているため、履修可能な学年に制約があるが、積極的に、両科目を受講することが望ましい。哲学・思想の修得は、半期では短すぎることを肝に命ずるべきである。
3. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
4. 万が一、受講生数が多い場合は、選抜も考えている。そのため、第1回目の授業には必ず参加すること。初回に参加しない場合は、登録できない可能性もある。

ジェンダー論

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：フェミニズム論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されたか変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【授業の進め方と方法】

- ・ジェンダー研究において重要な諸概念（母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリティなど）を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。
- ・一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。
- ・毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、A4 一枚のリアクションペーパーの形で提出してもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダーと社会構築主義について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル (role model)」として考察する。 ② 1980 年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①<男らしさ>を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトウルギーならびにイブ・セジュウィックのホモソーシャルリティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャルリティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。
4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。

7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ボルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係性について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティ	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった3つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	試験（1）	第一回試験
14	試験（2）	第二回試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996 年）
伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006 年）
千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013 年）
江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006 年）
木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 20%

試験（二回あるうち、必ず一回は受験すること） 80%

【学生の意見等からの気づき】

授業でいちいち学生の意見を聞くなどのコメントを頂きましたが、大教室の授業においても、学生間の意見交換は授業において重要な要素と考えております。そのため、本年度も授業の中で受講生の皆さんに意見を述べてもらったり、また小さなディスカッションを行って頂く予定です。

【その他の重要事項】

- ・受講希望者が 200 名を越える場合は、選抜を行う可能性があります。
- ・授業の中で、受講者の皆さんに意見を述べてもらったり、小さなディスカッションを行ってもらえることがあります。

異文化間コミュニケーション

江村 裕文

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：外国人とのコミュニケーション

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なった文化を背景にひきずった個人同士が出会い、互いに理解しあえる関係を築く、というのが、外国人との交流なり異文化間コミュニケーションに対してみなさんが抱くイメージなのではないかと思う。

異文化を理解するのは、口で言うほど容易ではない。異文化問題にかかわるというのは、場合によっては命がけの営為である。

異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどうということが起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには、どうしたらいいのか。自らの体験に基づきながら事例を紹介している直塚玲子の著作をテキストにして、異文化（間）が抱える諸問題に触れていきたい。

【到達目標】

異文化間の具体的な問題としてどうということが起こるかを事例を通じて知ったうえで、自分がそういう場に遭遇した場合に、適切に対処し、問題を最小限に食い止め、可能であれば「相手」との interaction 相互作用を通じて関係を改善できるという能力を養う。

【授業の進め方と方法】

本講では、まず鈴木氏の著書にある、「文化」とは何か、についての考察をすすめ「文化」に関する共通理解を得る。ついで、日本人と（特に欧米の）外国人がコミュニケーションをする上での諸問題について、直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』にあげられている事例や、さらに、可能であれば、上級生のSA体験者からの体験談やさまざまな具体的な問題点を持ち寄りながら、討論や考察をすすめていきたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・テキスト紹介・報告箇所割り当て	授業の進め方およびテキストについて解説し、テキストの報告箇所について割り当てる
2	「文化」について	「文化」をどうとらえるかについて講義する
3	「欧米人が沈黙するとき」①	「私と異文化との出会い」講読と解説
4	「欧米人が沈黙するとき」②	「この間はどうも」－感謝の気持ちのあらわし方
5	「欧米人が沈黙するとき」③	「すみません」－人間関係の潤滑油
6	「欧米人が沈黙するとき」④	「何もしませんが…」－謙遜表現をめぐる「どうぞよろしく」－不当な義務
7	「欧米人が沈黙するとき」⑤	「プライベートな質問」－プライバシーとは「一杯飲みにいきませんか」－誘い方・断り方
8	「日本人が沈黙するとき」①	「夜遅くまで、ご熱心な練習ですこと」－苦情の述べ方「イエスですか、ノーですか」－婉曲表現
9	「日本人が沈黙するとき」②	「ご意見をどうぞ」－タテマエ「窓を開けてもいいですか」－責任回避

10	「日本人が沈黙するとき」③	「根回し」－時間の浪費？「酒とコミュニケーション」－日本的契約
11	討論「異文化間コミュニケーション」のために	SAを経験した上級生の経験を踏まえて、異文化コミュニケーションにおける問題点を共有する
12	討論「異文化間の諸問題をどう解決するか」	授業の内容を踏まえて、「異文化」をどう乗り越えていったらいいか考える
13	討論「日本文化と異文化」	自分が日本文化の体現者であるということ、異文化を理解することにおける問題点を考える
14	まとめ・レポート提出	これまでの学びを踏まえ、希望されたテーマについて共に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「テキスト」を読む時間においては、割り当てられた個所について報告準備を行い、その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容、コメント等を用意すること。

「討論」に関しては、設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披露できるように情報収集等を行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは以下の二点

鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書

直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』大修館書店

【参考書】

授業中に適宜紹介の予定である。

【成績評価の方法と基準】

原則、「平常点」40点、レポート60点の合計100点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

SA体験者の上級生の体験談が聞きたいという、特に一年生からの要望が多いので、その機会を多くしたい。

「今回の課題図書を読んで国際文化学部において学ぶべきことの概観が漸く見えたように思える。これから自分の専門分野を見つける上で基礎的な視野を得ることができた。」（1年生）

「私がSAプログラムで直面した問題には日本人の特有さがあったということに授業・レポート作成を通して気づかされた。」（3年生）

以上は最終レポートに書かれた一部である。この授業には、学ぶ側の姿勢次第で、より豊かな学びの可能性があるかと確信している。

【その他の重要事項】

この授業は「コミュニケーション」の授業である。コミュニケーションが苦手な学生の積極的参加は評価するが、コミュニケーションを最初から拒否する姿勢で授業に臨む、たとえばずっと寝ているとか、は教室内に存在していないと判断する。コミュニケーションは知識よりも実践である。このことを実感してほしい。

Philosophy of the Public Sphere

石田 安実

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

People often think that “philosophy” is quite an old topic or issue and – very difficult, unfortunately. It is true that philosophical questions have been discussed in rather complicated and often confusing ways by philosophers since many years ago, for example, by Aristotle in the ancient Greek period. But these questions are relevant to our everyday life. We are surrounded by a number of philosophical issues, though we may not always look into their philosophical significances; philosophical issues are basically our everyday issues. But what relevance? How are they related to our life?

In this course, you will discuss various philosophical topics, their in-depth meanings, and their philosophical significance, attempting to find their very relevance to your life. That may help you see your environment, your society and the world in quite an exciting and interesting way. During the course, you will discuss about 13 philosophically important topics in class.

【到達目標】

This course provides a broad introduction to philosophical ways of thinking. The course is open to students from any disciplines, who hope to:

- (1) understand some of the most fundamental philosophical topics (which include freedom, truth, and moral rightness /wrongness),
- (2) be able to explain these issues in very simple everyday terms, and
- (3) apply philosophical ways of thinking (reasoning) on every-day issues.

【授業の進め方と方法】

- ・ No previous philosophy courses required.
- ・ Basic course requirements:
 - *Intellectual curiosity; Keen eyes on everyday-life facts and happenings;
 - *Respectful attitude of others' opinions (including those which you will find in readings and in the class).
- ・ Each class will consist of 100-minutes of lecture and discussion. The class will be conducted in English.
- ・ I appreciate interaction and exchange with you in class.
- ・ As a final project, you are expected to submit a short paper of 700 to 1000 words, at the end of the semester.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	Explaining the course
2	Lying	Is lying always wrong?
3	Morality	What does it mean to be "morally right"?
4	Relativism	Is everything relative?
5	Freedom	Are we completely free?
6	Culture vs. Nature (1)	How different are they?
7	Culture vs. Nature (2)	The idea of enhancement
8	Love	What is it?: Just a perception?
9	Perception	What do we perceive?: Is it so accurate?

10	Knowledge vs. Beliefs	What do we know?: How do we know it is true?
11	Truth, Reality	What is really true?: Truth, Reality, Dream
12	Robots and Humans	Is the Mind just the Brain?
13	Language	What does it do?: What's its role?
14	Wrap-up	Concluding remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ I recommend that you review what you have learned after the class.
- ・ You will have to choose your "paper topic" by the end of the semester.

【テキスト（教科書）】

- ・ There will be no specific textbooks assigned.
- ・ Occasionally, reading materials may be assigned and handouts will be given in class.

【参考書】

No specific books assigned. But looking into any (large size) philosophy dictionaries will be of great help.

【成績評価の方法と基準】

Basically I will assess your grade based on the way you participate in the class and your final project.

Attitude/ Participation: 40% of course grade

Final Project (a paper): 60% of course grade

* Attitude/ Participation:

I appreciate your participation in class, and would like to know your ideas and opinions. I will consider your participation as part of your grade.

You are not allowed to use cell-phones and notebook computers in class. If you get a warning twice, that will affect your grade.

*Final Project:

At the end of the semester, you will write a paper (of 700 to 1000 words) on the topic that you choose, explaining your ideas or insights. Your topic should be related to the issues studied or discussed in class.

Near the end of the semester, you will have to submit your “essay plan” that should include the title (topic) of your paper and your (tentative) conclusion described in a short paragraph (see the schedule). You will receive my comments, and then your paper plan should be reorganized or revised accordingly.

In writing your paper, you can expand your ideas by citing or referring to books and other readings, including materials from websites. In that case, you must explicitly show the sources or reference either in the footnotes or endnotes. If you copy sentences from any existing documents (again, including any writings from websites) without doing so, you will receive a “D” grade. It is important that you basically present your own view or insights, not the same ideas as described or explained in documents or on websites.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback obtained yet.

【その他の重要事項】

・ *Philosophy* is different from *a philosophy*. “Philosophy” is the discipline that comprises logic, metaphysics, ethics, epistemology, etc.; on the other hand, “*a philosophy*” is a system of beliefs, concepts, or attitude of an individual or a group. Everyone has *a philosophy* of some sort, even if he/she has never read a philosophy book. **An individual's philosophy can be a subject for examination and discussion in philosophy class.**

・ As I appreciate interaction and exchange with you in class, I would like to know what you think and have your feedback. So, I strongly advise that you attend all of the classes and participate in the discussions.

- ・ No cell-phones are allowed to use in class.

国際関係学概論Ⅰ

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：国際関係学概論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜目的＞「国際関係」というと海外のこと、政治、経済に関すること、手が届かない世界、といったイメージがいまだに強い。「国際関係」は国内のことや私たちの日々の生活は含まれない？ 文化は関係ない？ 過去とは関係ない？ のか。こうした問いを念頭におきながら、本講義では、国際関係学の視点と方法を、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた／いるか、その国際関係がどう認識、分析されてきた／いるか、から学び、現代国際関係への理解と取り組みにつなげる。

＜概要＞国際関係の研究は、第一次世界大戦を経験したがゆえに誕生した学問分野であり、英米を中心に始まった「国際関係論」(International Relations :IR) が、特にアメリカで国際政治学との一体的性格を強めながら発展し、主流をなしてきた。日本でも同時期に IR を導入しつつ、独自の研究も展開したが、高等教育機関で本格的な取り組みが始まったのは第二次世界大戦後である。すなわち、英米から IR あるいはその発想を導入して出発した国際関係を対象とする研究は、IR 研究として進展する一方で、社会科学から人文科学まで領域を拡大させ（本学部が掲げる国際文化情報学もその一つ）、さらに地域研究を組み合わせた広領域学としての「国際関係学」(International Studies) を成立させた。そこで本講義では、国際関係学が対象とする「国際関係」の構造と動態を、行為体 (actor) の多様化、諸行為体同士の関係の変化から理解し、また各時代の国際関係認識や分析を知ることを通じて、国際関係学の視点と方法を学ぶ。対象時期は、近代国際関係の成立から第二次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容である。

【到達目標】

- ①「国際関係」の構造、動態、「国際関係」をめぐる概念、理論の特徴と変化を、「国際関係」の成立から現代までのプロセスのなかで学ぶ。
- ②複雑に絡み合った現代国際関係の事象、問題を、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から分析、理解する。
- ③①、②を通じて広領域学としての国際関係学の方法論を学び、国際文化情報学に向かう基礎的な視座と方法の習得につなげる。

【授業の進め方と方法】

配布したレジュメにそくして講義する。必要に応じて映像資料の利用、課題を出し各自に情報収集しコメントしてもらうこともある。受講者の関心、理解度、紹介すべき国内外情勢に応じて授業内容を一部変更する場合もある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	受講するうえでの関心を定める。講義の目的と進め方を説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、Western State System の特徴、現代国際関係との異同から学ぶ。
3	国際関係研究の始まりと展開①（英米における「国際関係論」）	国際関係研究の始まり以後、主流をなし、特に国際政治学と一体的性格を強めた「国際関係論」を概説する。
4	国際関係研究の始まりと展開②（日本における「国際関係学」）	英米の「国際関係論」を導入しつつ、独自の発展を遂げて成立した国際関係学を中心に、日本の国際研究を概説する。
5	市民革命、国民国家の登場と国際関係	国民国家 (nation state) 及び nation という actor の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。

6	帝国主義と国際関係① 「つながり」ゆえの「へだたり」	ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学び、現代世界のグローバル化との関係性を理解する。
7	帝国主義と国際関係② ナショナリズムとの関係	非ヨーロッパ世界のナショナリズムを中心に、「民族」、「帝国主義」の概念、実態を当時の国際関係の特徴から学ぶ。
8	国際関係のなかで考える「民族」- 実態と概念①	帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。
9	国際関係のなかで考える「民族」- 実態と概念②	現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、概念を整理する。
10	第一次世界大戦と国際関係①	近代国際関係の再編を、人類初の総力戦から導かれた特徴とくに民族運動、社会主義運動、社会の変化を中心に学ぶ。
11	第一次世界大戦と国際関係②	国際連盟の成立、戦争の違法化、安全保障及び植民地支配体制の変容から国際関係の特徴を学ぶ。
12	第二次世界大戦と国際関係①	ヴェルサイユ・ワシントン体制が崩壊する戦間期を踏まえ、第二次世界大戦期の国際関係の特徴を学ぶ。
13	第二次世界大戦と国際関係②	ヨーロッパとアジア・太平洋島嶼を舞台とする世界大戦について外交、戦場、市民生活から国際関係の特徴、戦後国際秩序との関係性を学ぶ。
14	総括	春学期の授業を総括し国際関係学概論Ⅱにつなげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業内容はテキストで予習・復習し、参考文献を読む。わからないことは自主的に調べる。
- ②関心があることを1つ持って授業に臨む (SA 先や卒業研究などに関連させる)。
- ③新聞は毎日読む（まとめサイトは厳禁）。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003 年。
 梅村忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002 年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍(株)、2003 年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートと課題への提出物の内容 (40%)。セメスター末に行う筆記試験もしくはレポート（何れにするかは後日通知する）(60%)。指示した提出期限、提出先を守らない場合はやむを得ない事情（定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。期末試験が授業内試験となる場合、追試となる条件は定期試験のルールに則る。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のコメントシートへの応答が好評であるため継続する。

【その他の重要事項】

- ①第二回目で受講人数を決定するので必ず出席すること。
- ②現代国際関係は世界の一体化の歴史、つまり世界史、日本史を知らずして理解できない。歴史に苦手意識を持っている学生、大学受験に歴史を選択しなかった学生は、本授業で暗記モノでない歴史を積極的に学んでほしい。
- ③本講義は「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容であるため、Ⅱを受講する場合は本講義を受講することを強く推奨する。
- ④レジュメは配布した回の次の回にのみ、受け取れなかった学生に配布する。レジュメは各自で管理する。
- ⑤やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由（証明書など）を提出すれば成績評価に考慮する。

⑥私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。

国際関係学概論Ⅱ

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：比較民衆社会学

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜目的＞「国際関係」というと海外のこと、政治、経済に関すること、手が届かない世界、といったイメージがいまだに強い。「国際関係」は国内のことや私たちの日々の生活は含まれない？ 文化は関係ない？ 過去とは関係ない？ のか。本稿義では、こうした問いを念頭におきながら、国際関係学の視点と方法を、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた／いるか、その国際関係がどう認識、分析されてきた／いるか、から学び、現代国際関係への理解と取り組みにつなげる。

＜概要＞国際関係の研究は、第一次世界大戦を経験したがゆえに誕生した学問分野であり、英米を中心に始まった「国際関係論」(International Relations :IR) が、特にアメリカで国際政治学との一体的性格を強めながら発展し、主流をなしてきた。日本でも同時期に IR を導入しつつ、独自の研究も展開したが、高等教育機関で本格的な取り組みが始まったのは第二次世界大戦後である。すなわち、英米から IR あるいはその発想を導入して出発した国際関係を対象とする研究は、IR 研究として進展する一方で、社会科学から人文科学まで領域を拡大させ（本学部が掲げる国際文化情報学もその一つ）、さらに地域研究を組み合わせた広領域学としての「国際関係学」(International Studies) を成立させた。そこで本講義では、国際関係学が対象とする「国際関係」の構造と動態を、行為体 (actor) の多様化、諸行為体同士の関係の変化から理解し、また各時代の国際関係認識や分析を知ることを通じて、国際関係学の視点と方法を学ぶ。対象時期は第二次世界大戦後から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」に続く内容となる。

【到達目標】

- ①「国際関係」の構造、動態、「国際関係」をめぐる概念、理論の特徴と変化を、「国際関係」の成立から現代までのプロセスのなかで学ぶ。
- ②複雑に絡み合った現代国際関係の事象、問題を、それが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から分析、理解する。
- ③①、②を通じて広領域学としての国際関係学の方法論を学び、国際文化情報学に向かう基礎的な視座と方法への理解につなげる。

【授業の進め方と方法】

配布したレジュメにそくして講義する。授業の最初に、前回のコメントシートの質問や意見に回答し、当該回の授業との関連づけも行う。必要に応じて映像資料の利用、課題を出し各自に情報収集しコメントしてもらうこともある。受講者の関心、理解度、国内外情勢に応じて授業内容を一部変更する場合もある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と進め方、「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦の終結と国際関係①	第二次世界大戦の特徴を踏まえ、ヤルタ・ポツダム体制から国際関係の特徴を学ぶ。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係②	国際連合の設立、人権の重視、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に平和実現のために模索された国際関係の特徴を学ぶ。
4	冷戦と国際関係①—冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT 体制、冷戦的思考から冷戦体制の特徴を学ぶ。戦後国際関係研究の特徴を概観する。
5	冷戦と国際関係②—核開発競争	東西両陣営の核開発競争から冷戦体制の特徴を学ぶ。

- | | | |
|----|------------------------------|--|
| 6 | 冷戦と国際関係③—植民地独立への介入と「熱戦」 | 中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した事例を中心に冷戦体制の特徴を学ぶ。 |
| 7 | 冷戦体制の浸蝕と国際関係①—第三世界の台頭と南北問題 | A・A 会議、非同盟運動、新国際経済秩序など南北問題をめぐる第三世界の動きから国際関係の特徴を学ぶ。 |
| 8 | 冷戦体制の浸蝕と国際関係②—南北問題”解決”をめぐる | 南北問題”解決”をめぐる近代化論、従属論、「開発」「発展」概念の問い直しを中心に国際関係認識と分析の特徴を学ぶ。 |
| 9 | 冷戦体制の浸蝕と国際関係③—核軍縮、東西両陣営内の変動 | キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。 |
| 10 | 冷戦終結と国際関係 | 1980 年代の新冷戦から冷戦終結に至る過程を学ぶ。 |
| 11 | ポスト冷戦体制とグローバリゼーション | ポスト冷戦体制の特徴を、グローバリゼーションの諸問題（新自由主義、エスノナショナリズム、環境問題など）から学ぶ。 |
| 12 | グローバリゼーション下で「国際関係」を問う①—戦争と平和 | 戦争と平和の概念を理解し、平和の実現を人権、安全保障をテーマに、IGO、NGO の活動などとともに学ぶ。 |
| 13 | グローバリゼーション下で国際関係を問う②—「地域」の役割 | 国際関係の actor として「地域」をとりあげ、地域の統合、地域協力を中心に国際関係に果たす役割を学ぶ。 |
| 14 | グローバリゼーション下で「国際関係」を問う③—移民と難民 | グローバリゼーション下の人の移動に伴う国際関係の特徴を、移民と難民を中心に学ぶ。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業内容はテキストで予習・復習し、参考文献を読む。わからないことは自主的に調べる。
- ②関心があることを 1 つ持って授業に臨む（SA 先や卒業研究などに関連させる）。
- ③新聞は毎日読む（まとめサイトは厳禁）。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003 年。
 梅村忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002 年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍㈱、2003 年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートと課題への提出物の内容（40%）。セメスター末に行う筆記試験もしくはレポート（何れにするかは後日通知する）（60%）。指示した提出期限、提出先を守らない場合はやむを得ない事情（定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。期末試験が授業内試験となる場合、追試となる条件は定期試験のルールに則る。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容は「国際関係学概論Ⅰ」を未履修の学生にもわかりやすくするため、I で扱った内容を必要に応じて紹介する。

【その他の重要事項】

- ①現代国際関係は世界の一体化の歴史、つまり世界史、日本史を知らずして理解できない。歴史に苦手意識を持っている学生、大学受験に歴史を選択しなかった学生は、この授業で暗記モノでない歴史を積極的に学んでほしい。
- ②「国際関係学概論Ⅱ」は「国際関係学概論Ⅰ」を前提とする内容なので、I の受講を強く推奨する。
- ③レジュメは配布した回の次の回にのみ、受け取れなかった学生に配布する。レジュメは各自で管理する。
- ④やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由（証明書など）を提出すれば成績評価に考慮する。
- ⑤コメントシートの書き方は第 1 回の授業で指示する。

⑥私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。

国家と民族

中島 成久

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：国民国家と民族Ⅰ，国民国家と民族Ⅱ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【学生の意見等からの気づき】

- 1 板書をもっときれいに書くこと。
- 2 滑舌をよくすること。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教と国民統合／非統合」というテーマで講義を行う。アメリカ（キリスト教）、インドネシア（イスラーム）、日本（国家神道）における「宗教と国民統合／非統合」の問題を検討する。そして「無宗教」が当たり前とされる日本の宗教意識を再検討する。

【到達目標】

戦後日本人は「無宗教」を当然のことと見做すようになった。その大きな原因は、戦前国家神道を「宗教ではない」と強弁してきたことと無関係ではない。日本人の宗教意識を、アメリカ、インドネシアの事例と比較検討することにより、国際的な立場に立った理解に到達することを目指す。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。視聴覚教材（DVD、Youtube）などを多用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の趣旨・成績評価説明、NHK スペシャル遷宮シリーズ第 1 回「伊勢神宮 ～アマテラスの謎～」視聴
第 2 回	アメリカ①	大統領就任式と「聖書」的世界観 進化論とキリスト教ファンダメンタリズム
第 3 回	アメリカ②	進化論裁判映画「風の遺産」前半
第 4 回	アメリカ③	進化論裁判映画「風の遺産」後半
第 5 回	アメリカ④	妊娠中絶をめぐる文化戦争
第 6 回	インドネシア①	「パンチャシラ」（建国五原則）をめぐる対立
第 7 回	インドネシア②	2002 年バリ島爆弾事件
第 8 回	インドネシア③	イスラームファッションの流行と イスラーム規範の強化
第 9 回	インドネシア④	イスラーム金融
第 10 回	日本①	NHK スペシャル「靖国——知られざる占領下の攻防」
第 11 回	日本②	国家神道の成立
第 12 回	日本③	国家神道からの逸脱——内村鑑三と大本教
第 13 回	日本④	天皇儀礼と戦後民主主義、改元問題
第 14 回	成績評価	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 課題のテキスト・参考文献を熟読すること
- 2 図書館などでさらなる参考文献を調べ、読み込むこと
- 3 改元問題へ関心を持ち、「天皇制」の意味を常に考えること

【テキスト（教科書）】

森孝一 『宗教から読む「アメリカ」』講談社選書メチエ、2006 年
見市建 『インドネシア イスラーム主義のゆくえ』平凡社、2004 年
島蘭進 『国家神道と日本人』岩波新書、2010 年
阿満利磨 『日本人はなぜ無宗教なのか』ちくま新書、1996 年

【参考書】

随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み・態度（30%）と授業内試験の成績（70%）を合わせて評価する。

平和学

華井 和代

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度などを通して平和や暴力について考えたうえで、平和構築への取り組み事例を学び、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- （１）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- （２）自らの研究テーマや関心のある専門領域を平和学の視点から捉えることができる。
- （３）平和学で取り上げられる方法を理解し事例に適用できる。

【授業の進め方と方法】

講義のほか、関連した問いを毎回提示し近くの学生と討議する時間を設ける。提示する問いには正解がないので、論理的に物事を考えると同時に、他者の考え方に触れる機会とする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える
第 2 回	平和と暴力の歴史	17 世紀以降の平和思想を踏まえ、「力」による平和の賛否について考える
第 3 回	国際平和維持機構の成立と課題	国際連盟および国際連合の成立過程を踏まえて、戦争を違法化する国家間の合意によって平和は維持できるのかを考える
第 4 回	国際連合による平和構築の課題	冷戦後の国連平和維持活動が直面した課題を踏まえて、国際機構の介入によって平和はつくり出せるのかを考える
第 5 回	紛争解決への取り組み事例：リビア紛争	リビア紛争を事例とする模擬国連安保理を体験し、武力による人道的介入の是非について考える
第 6 回	紛争解決への取り組み事例：コンゴ紛争	コンゴ紛争を事例とする模擬国連安保理を体験し、経済的手段によって紛争を解決に導く可能性と限界を考える
第 7 回	紛争解決への取り組み事例：紛争鉱物取引規制	紛争鉱物取引規制を事例として、グローバル経済のしくみが引き起こす問題と解決策を考える
第 8 回	グローバル正義論への導入：救命艇の倫理	グローバル経済の構造の中で発生する紛争、貧困、差別にどう向き合うかを考える
第 9 回	積極的平和としての開発	開発途上国が誕生した歴史的な経緯を振り返り、開発援助が必要とされた背景を考える
第 10 回	構造的暴力としての開発	人々の生活を改善するための開発が被害を及ぼす場合があるのはなぜかを考える
第 11 回	構造的暴力としてのお金	直接的暴力や構造的暴力と「お金」のつながりについて考える
第 12 回	国際援助機関の役割と課題	構造的暴力の解決に取り組む国際援助機関の役割と課題を考える
第 13 回	平和をつくり出す教育	平和の文化を形成する方法としての平和教育の可能性と課題を考える

第 14 回 平和の主体としての市民 授業全体を振り返ったうえで、自分自身が世界の平和と暴力にどのように関わっているかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む習慣をつけ、平和に関わる記事を読んでおくこと。なお、新聞は紙媒体で読むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の授業で配布するフィードバックシート）20%、中間レポート 40%、期末レポート 40%。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が多くても受講生の議論の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

受講生の関心や反応を見ながら、内容を多少変更することがある。

宗教と社会

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：150 名（超えた場合は、選抜の可能性あり）

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【授業の進め方と方法】

・歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。
・毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、A4 一枚のリアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS 細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。
4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連しているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。

7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼（供儀）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	試験（1）	第一回試験
14	試験（2）	第二回試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009 年）
棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005 年）
島菌進、葛西賢太、福岡信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006 年）
田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007 年）
タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006 年）
ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007 年）
ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009 年）
中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002 年）
磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代のカテゴリの再考』（みすず書房、2006 年）
『岩波講座 宗教（全 10 巻）』（岩波書店、2004 年）
『諸宗教の倫理学（全 5 巻）』（九州大学出版会、1992～2006 年）

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメに記載した内容が、授業の進行と前後したことがあったご指摘を受け、レジュメと授業内容が前後しないようにします。

【その他の重要事項】

・150 名を越える場合は、選抜を行う可能性があります。
・大教室の授業ですが、授業中に受講者の皆さんの意見を聞いたり、小規模なディスカッションを行ってもらうことがあります。

Religion and Society

丹羽 充

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：25 人程度。希望者多数の場合には、入学時以降の TOEFL や TOEIC など標準的なテストの結果と初回授業へのコメントを総合的に評価して選考します。

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn anthropological approaches to interpreting issues regarding religions and societies, and the relationship between them. This course focuses, not so much on theological discussions, details of religious teachings, or categories of religions, rather on how people practice, and relate themselves to, religions, and how religions are related to societies mainly through ethnographic works. Then, the course proceeds to reflexively scrutinize the concept of 'religion' itself and the religious situation in Japan.

【到達目標】

Students will:

- Understand basic anthropological approaches to religion, and how people practice, and relate themselves to, religions, and how religions are related to societies.
- Improve the interest and skill to understand 'others' as familiar existences through comparative perspectives.
- Acquire the ability to reflect on themselves with the help of 'others', and unfamiliarize the familiarized.

【授業の進め方と方法】

The course consists of short lectures, student presentations, and class discussion. Readings are assigned for each class. The lecturer first introduces the context of the literature, and then students present their assignments. Pre-assigned discussants prepare questions and comments and facilitate class discussion. Students write exit-papers at the end of each class. Video resources are also used in a few classes. The course design will be adjusted based on the number of participants and their interests.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course
2	What is Anthropology of Religion?	Introduction to basic approaches to "religions" in different cultures and societies "Studying Religion Anthropologically: Definitions and Theories" (Eller Ch. 1)
3	Religious Worlds	Religions and cosmologies "The Problem of Symbols" (E.E. Evans Prichard in Lambek Ch. 11) "Closure and Multiplication : An Essay on Polynesian Cosmology and Ritual" (Alfred Gell in Lambek Ch. 22)

4	Religious Actions	Religions in practice "The Control of Experience: Symbolic Action" (Godfrey Lienhardt in Lambek Ch. 24) "Spirit and Selves in Northern Sudan: The Cultural Therapeutics of Possession and Trance" (Janice Boddy in Lambek Ch. 30)
5	Secularization	The religious and irreligious in the secular age "Secularism and Irreligious" (Eller Ch. 10)
6	Religious Fundamentalism 1	Introduction to religious fundamentalism Film: Jesus Camp
7	Religious Fundamentalism 2	Scrutinizing religious fundamentalism "Religious Fundamentalism" (Eller Ch.11)
8	Religion and the Nation State	How nation states are related with religions "Religion and the State" (Phillip E. Hammond and David W. Machacek in Clarke Ch. 21) "Religion and Nationalism" (Christophe Jaffrelot in Clarke Ch. 22)
9	Religion and Modernity	Religious practices in capitalism "The Genesis of Capitalism amongst a South American Peasantry: Devil's Labor and the Baptism of Money" (Michael Taussig in Lambek Ch. 35)
10	Religion and Colonialism	Colonialization through religions "The Colonization of Consciousness" (John and Jean Comaroff in Lambek Ch. 36)
11	Reflexive Scrutiny	Reflexively scrutinizing the concept of "religion" "Religion as an Anthropological Category" (Talal Asad in Lambek Ch. 9)
12	Religion in Japan 1	Religious situation in Japan "Introduction" (Tamaru & Reid Ch. 1) "Shinto" (Tamaru & Reid Ch. 2)
13	Religion in Japan 2	Religious situation in Japan "Buddhism" (Tamaru & Reid Ch. 3) "New Religions" (Tamaru & Reid Ch. 6)
14	Religion in Japan 3	Religious situation in Japan "Religion and State" (Tamaru & Reid Ch. 7) "Aspect of the Rebirth of Religion" (Tamaru & Reid Ch. 10)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read the assigned texts and prepare questions or comments for 'exist papers' before class.

【テキスト（教科書）】

No textbook required. The assigned essays in this syllabus will be shared or provided somehow.

【参考書】

Eller, Jack Davis. 2007. *Introducing Anthropology of Religion: Culture to the Ultimate*. New York: Routledge.
Lambek, Michael (ed.). 2008. *A Reader in the Anthropology of Religion*, 2nd Edition. Malden, MA: Blackwell Publishing.
Clarke, Peter B. 2009. *The Oxford Handbook of the Sociology of Religion*. Oxford: Oxford University Press.
Tamaru, Noriyoshi & David Reid (eds.). 1996. *Religion in Japanese Culture: Where Living Traditions Meet a Changing World*. Tokyo: Kodansha.

【成績評価の方法と基準】

Participation in class (30%)

Presentation (30%)

Exit papers in every class (40%)

【学生の意見等からの気づき】

No feedback available because of the lecturer replacement.

【その他の重要事項】

Students who are interested in this course must attend the first and second sessions in which we will consider course outline and presentation schedule. All participants are expected to read the reading material for every class and join the class discussions.

国際文化協力

田島 樹里奈

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：100 名前後が望ましい

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、国際文化の観点から、国際協力が私たちの社会の中でどのような役割を果たし、どのような影響を及ぼしてきたのか、またどのような問題を抱えているのかを学ぶことを目的とする。そのために本授業では、国際協力の基本的な概念や仕組みを学びながら、貧困、平和、協力、開発、人権など、さまざまな観点から人々の生活や社会を見直し、人間の生き方や他国に対する協力の在り方を考察する。また、そもそも国際文化とは何かという問題を捉え直すことにより、「文化」の背後に広がる人々の思想、「協力」や「開発」という行為に含まれるさまざまな問題点についても考察する。具体的な諸事例を検討することで、同じ地球に暮らす開発途上国の人々とどのように関わることがより良い国際協力に繋がるのかを検討する。なお本授業では、国際文化協力について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることも視野に入れている。

【到達目標】

① 文化・協力・平和・人権・開発などの言葉を、単なるイメージで捉えるのではなく、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。② 世界の多様な文化や価値観を学ぶことで、異なる文化や現実が抱える様々な問題を把握する力を身につける。③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたりしながら、皆さんが主体的に考えられるような授業を目指す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	(国際)文化とは、(国際)協力とは
第2回	国際協力とは①	国際協力学とは？
第3回	国際協力とは②	豊かであることと幸せであること 国際問題と国際機関 ユニセフ、ユネスコ、WHO 等の必要性
第4回	国際協力とは③	国際ボランティアとは、フェアトレード NGO / JICA / 青年・シニア海外協力隊
第5回	途上国におけるジェンダーと人権	人間とはどのような存在か。 性差別、人身取引問題等から考える
第6回	開発と文化①	開発とは何か 開発は平和に貢献するのか？
第7回	開発と文化②	貧困を取り巻く歴史的背景と社会構造 子供と教育
第8回	開発と文化③	欧米的民主主義体制と「非民主的抑圧体制」 人道支援と政治
第9回	途上国における障害者支援	障害者のエンパワメント、障害者支援と開発
第10回	安全保障とリスクマネジメント①	感染症問題と国際連合の取り組み
第11回	安全保障とリスクマネジメント②	紛争予防とメディア支援

第12回 安全保障とリスクマネジメント③ 集団安全保障と軍事攻撃

第13回 難民問題と国際協力 なぜ難民問題が生じるのか
民族、宗教、イデオロギーから考える

第14回 まとめ 全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみることに。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

最初の授業で提示した上で、毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験またはレポート（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

初回のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに必ず事前登録して下さい。

【その他の重要事項】

本年度は担当教員が変更になっています。先輩からアドバイスをもらう際などは、注意して下さい。この授業は、国際社会コースの基幹科目です。

異文化適応論

浅川 希洋志

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生きる時、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えてとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考えようとする傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかにか特殊な文化に根ざしたものであるかを解説していく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】

しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【授業の進め方と方法】

講義を中心に授業を行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD があれば適宜紹介したい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第2回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第3回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第4回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第5回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第6回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第7回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像がそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第8回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知らう、読もうとする傾向が強いのか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。

第9回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。
第10回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係的、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。
第11回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第12回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第13回	生態環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。

【参考書】

東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994 年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998 年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992 年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990 年）、リチャード・E・ニスバット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004 年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。

情報システム概論

大嶋 良明、櫻井 茂明、中村 文隆

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：抽選

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理システムを構成しているコンピュータのハードウェア及びソフトウェアの基本的な役割や動作を学習する。アセンブラやデータベース機能などの実習も行い、知識の習得だけでなく、自らが設定した条件でコンピュータが実際に動く部分を自ら確認し、学ぶ。

【到達目標】

コンピュータの構成、ハードウェア及びソフトウェアの動作やアセンブラなどを理解し、IT パスポートなどの試験の一部に対応可能な知識や技能の修得を目指す。

【授業の進め方と方法】

授業は 6 つのテーマ、すなわち、1. コンピュータのハードウェアの構成及び役割、2. アセンブラの機能の学習・作成、3. ソフトウェアの構成及び役割、4. データベース ACCESS の機能の修得及び使用、5. 情報処理システムの種類と機能、6. 情報システムのセキュリティ、開発・保守の 6 項目である。

アセンブラおよびデータベース ACCESS の学習では、情報室のコンピュータを使用した実習を行う。その他のテーマについては、講義が中心になるが、コンピュータの具体的な事例・事柄を示しながら、理解が容易になるような講義を進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの開発経緯	計算具、計算器、計算機と順に開発され、現在の各種のコンピュータの開発を知る
第 2 回	データの基礎的表現	数値データの 2 進数、8 進数、16 進数および 10 進数について、その関係を含めて、理解する
第 3 回	各種データの表現	数値データ、論理データ、文字データ、音声データ及び画像データについて構造を理解する
第 4 回	中央処理装置	中央処理装置を構成する演算装置、制御装置、主記憶装置の構造を学ぶ
第 5 回	記憶装置、入出力装置、通信制御装置	磁気記憶装置、入力装置、出力装置、通信制御装置の構造と役割について学習する
第 6 回	アセンブラ言語の基礎	仮想的計算機 COMET の構成及びアセンブラ言語 CASL の基礎を学ぶ
第 7 回	アセンブラ言語の応用、実習	計算問題を CASL で作成する実習を行い、実行して結果を確認し、計算機の構造を理解する
第 8 回	ソフトウェアの基本構成	ソフトウェアを構成する基本ソフトウェア、ミドルウェア及び応用ソフトウェアについて学習する
第 9 回	オペレーティングシステム	OS を構成する各種のプログラムおよびその役割、OS の種類と構成について理解する
第 10 回	言語処理ソフトウェア	機械語、アセンブラ言語および高水準言語の種類及びその処理方式について学ぶ
第 11 回	ファイルシステム	ファイル構成、論理レコードの形式、ファイルの編成及びファイル処理方式について学習する

第 12 回	データベースシステムの基礎	データベース ACCESS の構造、それを使用してレコードの検索およびレコードの並べ替えを実習する
第 13 回	データベースシステムの利活用	ACCESS を用いて、レコードの編集、データベースの作成、データ入力などを実習する。さらにクエリを作成し、応用する
第 14 回	ソフトウェアの開発と保守	ソフトウェアの開発と保守の考え方と重要性を理解し、その方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業内容をテキストに従って復習する。
2. 課題を提出し、授業内容を復習する。
3. 授業で使ったソフトウェアについて、テーマを考えて独自で使し、その機能を体験する。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業で配布

【参考書】

河村 一樹ほか、「標準 コンピュータ教科書」，（オーム社，1997），ISBN-13: 978-4274130908

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題・小テスト等（40%）、期末テスト（50%）および平常点（10%）で行う。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業であり、授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや PowerPoint 資料を使用して進める。授業支援システムを利用して課題を提出してもらう可能性があるため、課題作成時および提出時には貸与パソコンまたは個人パソコンが必要になる。

【その他の重要事項】

- 初回の授業に必ず出席すること。
- 情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。
- 受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

メディア情報基礎

大嶋 良明、甲 洋介、米倉 明男

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：抽選

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルチメディア作品を **Photoshop** と **Premiere** で作ろう。

本講義は、メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置く。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PC を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTML とスタイルシートによる Web コンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを取り上げ、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを育成する。

【到達目標】

PC マルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）

・Photoshop や Premiere などのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Web サイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。

・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。

・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：静止画像	ディジタル画像（静止画像）基本的なしくみ
4	メディア情報の基礎：静止画像	ディジタル画像（静止画像）その特性の詳細
5	制作実習 A：実習の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法（ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなど）
6	制作実習 A：静止画像による作品制作	Photoshop を用いたディジタル画像の制作
7	制作実習 A：静止画像による作品制作	PC を用いたマルチメディア・コンテンツ制作（Windows Media, QuickTime, FlashVideo）
8	メディア情報の基礎：動画画像	ディジタル画像（動画画像）のしくみとその特性、画像の情報圧縮の方式。その応用例。
9	制作実習 B：実習の手引き	静止画像・動画画像・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識。
10	制作実習 B：映像作品の制作	MovieMaker（または Premiere）を用いたムービー制作の基本
11	制作実習 B：映像作品の制作	MovieMaker（または Premiere）を用いたムービー制作の実践

12	Web ページの構成と表現手法	HTML5 による Web ページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順。
13	制作実習 C：スタイルシート	HTML とスタイルシートを用いた Web コンテンツの構造化、CSS による Web コンテンツの制作実習
14	まとめ	学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。

【テキスト（教科書）】

講義初回に提示する。

【参考書】

講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（40%）、平常点（授業の参画度を含む、30%）、授業内の課題や小テスト（実技を含む、30%）を総合的に評価する。
欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。
期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

【学生が準備すべき機器他】

画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内 Web 環境ならびに ePortfolio を活用する。

【その他の重要事項】

学生へのメッセージ： マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなってくる。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。

本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

ネットワーク基礎

和泉 順子、大嶋 良明、松田 裕幸

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：抽選

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中どこでも **Internet** で安全確実にコミュニケーションできるようになろう

ネットワークは絶えず変化しており、世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできることは、実は思うほど簡単ではない。コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端のコミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。

【到達目標】

インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身に着ける。海外でのインターネットの利用と ePortfolio 活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、IT パスポート等にむけての知識習得を目指し、さらに関連の上位科目に結びつける。

【授業の進め方と方法】

●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）

インターネットをいつでもどこでも（学外や SA など）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャル Web など最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。

● ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御と DNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IP アドレス、ルーティングを理解する。通信データのパケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNS による名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線 LAN	ネットワークコマンド (ping, ipconfig, traceroute, nslookup など) を活用する。無線 LAN でのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解し TCP/IP および UDP/IP の概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSI の参照モデルと TCP/IP の各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。

7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアドレスとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール（2）：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータの MIME 符号化を学ぶ。
9	Web サービス（1）：HTML 文書の交換と Web サーバ	HTML 文書の設計とその構成法を理解する。Web サーバの基本動作を理解する。HTTP プロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Web サービス（2）：ハイパーテキストデータ	ハイパーテキストについてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。マルチメディアデータの MIME 符号化を学ぶ。
11	ファイル転送・共有（FTP、SCP）	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしての FTP と SCP を理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCP と UDP の違いを理解する。RTSP について学ぶ。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。Skype や WindowsMedia 配信などリアルタイムマルチメディアの応用を実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL 暗号化の概念を学ぶ。HTTPS や WinSCP などセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネチケット、パスワード管理、ウィルス対策を理解しセキュリティ意識を身に着ける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM, ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SA など在外環境でもネットワークが適切に活用できるよう十分に課外実習することにより学習効果が上がる。

【テキスト（教科書）】

有賀妙子、大谷俊郎、吉田智子（著）『改訂新版 インターネット講座：ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房（2014）、ISBN: 978-4762828300

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（40%）、平常点（授業の参画度を含む、30%）、授業内の課題や小テスト（実技を含む、30%）を総合的に評価する。欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。特に SA などキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置した PC のみならず、学生個人が利用するノート PC や携帯端末、情報センターの貸出ノート PC などさまざまな ICT 機器を活用する。課題提出等には学内 Web 環境ならびに授業支援システム、ePortfolio を活用するため、個人 PC または貸与 PC が必要になる。

【その他の重要事項】

本科目では、Web を基盤とする ICT の実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する**。

【資格を目指す人のために】 本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問う IT パスポート試験（スキルレベル 1）のテクノロジー系に密接に関連する。

【前提科目】

前提科目： 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」

関連科目： 基幹科目「システム論」、「デジタル情報学概論」

情報システム応用

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：情報リテラシーⅠ、Ⅱを受講していること。初回の授業に必ず出席すること。

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムは個人や家庭のシステムから、企業や役所などの組織におけるシステムまで広範囲に及んでおり、社会ではなくてはならない存在になっている。本講義では、情報システムの構成および処理形態について学び、情報システムの開発および運用・保守に必要な基本的知識・技能を学習する。

【到達目標】

社会的にも情報通信基盤として必要不可欠になりつつある情報システムの構成やそれぞれの役割を理解できることを目指す。IT パスポートや情報処理技術者試験などの試験内容の理解の深化を目指す。また、情報システムが安全に正しく使われるための工夫や応用を、技術的・社会的側面から学習する。

【授業の進め方と方法】

授業は 4 つのテーマに大別される。すなわち、(1) 情報システムの構成、利用形態の変遷、(2) 情報システムの開発・運用、(3) ネットワークおよびデータベース技術、(4) 情報セキュリティと技術の標準化、のそれぞれのテーマを学習する。これらの授業は、講義形式で行う。

なお、受講者の理解度に応じて授業進度や内容は適宜変更する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報システムの特色	情報処理システムが、コンピュータシステムおよび応用ソフトウェアで構成されることを学ぶ
2	情報処理システムの変遷	コンピュータシステムの構成や利用形態、システム自体の変遷を学ぶ
3	コンピュータ科学基礎	基数と基数変換、歩数、論理シフト、演算などについて学ぶ
4	コンピュータシステム (1)	情報処理システムのうち、ハードウェアに関する知識を学ぶ
5	コンピュータシステム (2)	情報処理システムのうち、ソフトウェアに関する知識としてオペレーティングシステムやファイルシステムについてを学ぶ
6	システム開発と運用 (1)	情報処理システムの開発の流れを学ぶ
7	システム開発と運用 (2)	システム開発における外部設計、内部設計を理解し、手法を学ぶ
8	ネットワーク (1)	コンピュータネットワーク、インターネットの歴史、構成、利用形態の変遷について学ぶ
9	ネットワーク (2)	ネットワークの接続形態とアクセス制御方式、アーキテクチャについて学ぶ
10	データベース (1)	リレーショナルデータベース管理システムの概念を学ぶ
11	データベース (2)	リレーショナルデータベースの操作として、簡単な SQL 言語を学ぶ
12	情報セキュリティの基礎	情報セキュリティの基礎技術としての暗号・認証技術、ウイルス対策などを学ぶ
13	情報セキュリティと標準化	情報システムが社会的にも正しく活用されるための標準規格について学ぶ

- 14 期末テストと授業のまとめ 授業で学習した内容について、理解度、知識をテストする。また、解説および授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を復習し、課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する参考書を、講義内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 20%、課題提出および小テスト 30%、期末テスト 50%で行う。

【学生の意見等からの気づき】

やや難しいと思われる内容については、例題を多く挟んでイメージしやすくする工夫をする予定である。

【学生が準備すべき機器他】

授業は、パソコン画面上のテキストや PowerPoint 資料を使用して進める。

授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。

情報リテラシーⅠ、Ⅱを受講していること。

メディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう

PC を使ったマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつもの課題制作に取り組む。見やすい作品づくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】

Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、デジタルマルチメディアの特性を活かした中級以上の作品制作ができるようになる。

【授業の進め方と方法】

●作品制作の理論と技法（講義と実習）

- ・デザインの基礎と Photoshop の応用技法
- ・画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用
- ・レイヤー、マスク、フィルタの技法
- ・コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な作品作りに必要な写真理論
- ・DTP に向けてのスキャナ、プリンタの利用法

●クリティーク（合評）と制作メモの提出

各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

- ・デジタル写真のリタッチ
- ・ポスター作り（Photoshop + 大判プリンタ・Web）
- ・写真表現の作品化（アルバム・Web）
- ・自由なテーマによる最終課題（Photoshop + 大判プリンタ・Web）

●大事にしたいこと

- ・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。
- ・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。
- ・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。
- ・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ
2	デザインの基本原則	CRAP の原理（近接、反復、整列、コントラスト）を学ぶ
3	デザインの基本原則の応用	前2回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。

5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop Elements）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのデジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	第9回に引き続き、制作実習の後半
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質を比較する
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC や貸出 PC 等を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。

自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでデジタルカメラを常に携帯し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。

【テキスト（教科書）】

制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）：Adobe Photoshop5.5 and Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X

制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）：Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499

デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、ISBN 4895630072

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キット タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル写真の学校」、雷鳥社（2005）、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業参加の積極性,30%)、クリティーク (課題作品の相互批評,15%)、課題ならびにマルチメディア作品制作 (35%)、ePortfolio(個人の作品集づくり, 20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。

【学生の意見等からの気づき】

実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

素材撮影のためにデジタルカメラが必要。(学部資料室、情報カフェテリアにて貸出可能)

制作のためのフォトプリント用紙、CD-R など、課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。

提出作品は ePortfolio にて保存公開する。

【その他の重要事項】

情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】 本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目 (「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」)。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshop の応用技法については本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」など。

プログラミング言語基礎

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムを構築する上で必要なプログラミングには様々な言語が用いられている。本講義では基本的なプログラミング言語とも云える C 言語の言語仕様と文法習得を中心に、データ型の概念、配列、関数、構造体、ポインタ、ファイル操作などのプログラミングに関する基本事項を学び、基本的なプログラムを作成する能力を修得する。

【到達目標】

C 言語の基本構成として記述/実行方法や基本的な文法を理解し、C 言語を用いた簡単なプログラムを作成する能力を修得する。具体的には、C 言語で使用する変数やデータ型を学び、演算子、関数、配列、ポインタ、構造体などの構文を理解した上で簡単なアルゴリズムを実装し、中等程度のプログラムを作成する。

【授業の進め方と方法】

授業では、(1)C 言語の言語仕様や構造の理解、(2) 具体的な文法の学習と実行、(3) プログラムの実装とデバッグ、というプログラミングの段階的な学習を行う。すべて計算機を使用した実習形式で行い、課題作成をととして学習結果を確認する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	C 言語の基本構成	簡単な文を例に、C 言語の書き方、実行の仕方を学習する
2	変数、型、宣言	C 言語で使える変数の使い方、使用できるデータの型、宣言の仕方について学習する
3	演算子と式	代入式、算術演算子、インクリメント/デクリメント演算子、代入演算子、関係演算子の用法を学ぶ
4	制御構造、文とブロック	文とブロック、局所変数と大域変数の用法を理解して、使用する
5	if 文および switch 文	If 文、Switch 文の用法を学習して、具体的問題を作成してみる
6	繰り返し文	For 文、While 文および Do While 文の構造を学習し、問題に適用する
7	関数とモジュール	関数の形式、モジュール化の方策を学習し、具体的な例題を作成してみる
8	プリプロセッサ	ヘッダーファイル#include 文、マクロ定義#define 文の用法を理解し、例題を作成する
9	配列	配列の宣言および参照法を学習する
10	多次元配列	多次元配列および文字列表現、文字列関数について学習し、具体的な例題を作成してみる
11	ポインタ	ポインタの用法を学習し、応用してみる
12	標準入出力	標準入出力関数 scanf、printf、gets、puts の文法、用法を学習し、応用してみる
13	外部ファイル	外部ファイル入出力関数 fgetc、fputs の文法、用法を学習し、例題に応用してみる
14	テストと授業のまとめ	授業での学習内容について、理解度を確認するためのテストを行う。また、テストの解説を行うことで授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で行う例題や問題を実習する。

授業内容を復習し、課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

C 言語によるプログラミング [基礎編] (オーム社, ISBN-13: 978-4274064401)

【参考書】

必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点（授業に対する貢献など）20%、課題 30%、期末テスト 50%、で行う。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。

情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

仮想世界研究

甲 洋介

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

手ごたえのない現実 v.s. リアリティを増す仮想世界

現代社会の重要主題として「仮想世界」の問題を取り上げる。

メディアテクノロジーの進展によって、現実と仮想との境界は曖昧なものとなった。その一方で私たちの生活は、「手ごたえ」＝リアリティ（現実感）を喪失しつつある、と指摘される。いったい仮想世界が浸透することによって、私たちの日常生活がどのように「変化」し、何が「拡張」した、と言うのだろうか。

つながっているフリは寂しい？ でも親密なのはもっと怖いから
「情報」を軸とする変革の波は、私たちの考え方や生活に対して、静かに、深く影響を与え続けている。しかし、私たちはこの変化の意味を十分に把握しているとは言えない。仮想世界がもたらす新たな意味を問い直し、受講生と協同作業しながら具体的に検討を加えていく。

【到達目標】

そもそも「仮想世界」は、なぜ生み出され、人間にとってどのような意味を持つのだろうか？

仮想世界の問題は、机上の SF 物語ではない。わたしたちの日常生活で現実には起きている現象である。本科目の履修を終えるころには、次の側面について基本用語を用いて言及できるようになる。

- 仮想世界を受入れる、ネットでは不思議と生き易いのはなぜか？
- 仮想世界における「わたし」、つながっているのになぜか寂しいという現象

c. 「仮想現実」(VR) の基本的な考え方と理論

d. 「仮想現実」の要素技術と、社会のさまざまな側面への浸透

e. 変容する社会 ～拡張する仮想世界とともに生きる

それぞれのトピックに具体的な検討を加えながら、この問題に切り込むための基本的な考え方と洞察力を身につけることができる。受講者はこれらの作業を通じて、現在起きている現象に対する問題意識を育てていくことになる。そして、ヒトは原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、それを駆使してつぎつぎに自分の限界を超えてきた動物であることに気づくだろう。

【授業の進め方と方法】

授業の各回では、具体的なトピックが取り上げられ、自分たちの身の回りに起きている具体的な現象を例に取りながら、仮想世界の問題を考える手掛かりが提供される。授業は講義と受講生による討議を組み合わせながら展開する。

現実世界における生きにくさの実感が増していく中、なぜか仮想世界は“生きやすい”。現実世界のリアリティの希薄化が指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増していくように感じられる。仮想世界はけて技術者が勝手気ままに作り出している世界ではない。仮想世界の構築には、あなた自身の欲望が関与している。私であるならば、いったい私たちは、仮想世界に何を期待し、私たちの何を変化させ、何を失い、仮想世界と共にどう生きようとしているのか。講義の各回を通じて受講生一人ひとりが考え、問題意識を育て、その成果を最終レポートまたは期末試験において、総合的に問う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ネットでは不思議と生きやすい ーそれはなぜ？
2	仮想世界への誘い	ネットでつながり、戸惑うーなぜか寂しい
3	仮想世界における「私」	仮想世界の私、それは仮面の私。 それともホントの私？
4	仮想世界における「ここ」	戸惑いから受容へーネットで恋した相手、それは〇〇だった

5	仮想世界における「ここ」②	仮想が現実、現実が仮想に
6	現実を、仮想空間に取り込む方法	コンピュータグラフィックスの基礎
7	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ（VR）の概念と理論
8	仮想現実とは何か	仮想現実（VR）の構成要素
9	仮想現実とは何か	仮想現実（VR）の実装技術
10	仮想現実の応用	仮想現実（VR）の様々な分野への応用
11	仮想現実の応用②	手ごたえのない経済、手ごたえのない戦争
12	【グループ討議】欲望と仮想世界	ヒトの欲望を吸収し、膨張しつづける仮想世界
13	【グループ討議】仮想化する現実	仮想化する現実、手ごたえのない世界の台頭
14	まとめ	現実と仮想世界の関係性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義後に、講義を通じて考えた事例を、各自が授業支援システムに蓄積する。受講生のコメントは講義に活かされる。

【テキスト（教科書）】

- ・「接続された心」"Life on the Screen" (S. タークル、早川書房)
- ・国際会議 ACM SIGGRAPH DVD (Association for Computing Machinery)
- ・「2001 年宇宙の旅」(A.C. クラーク, S. キューブリック脚本, ワーナー社配給)
- 他、M・ミンスキーのインタビュー記録など、講義で適宜指示をする。

【参考書】

- ・アニメ：「攻殻機動隊～GHOST IN THE SHELL」
- ・映画：「惑星ソラリス」(アンドレイ・タルコフスキー)
- ・"Alone Together" (S.Turkle, Basic Books 出版)
- 担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

試験・レポート (60 %)

授業・討議における積極的な貢献度合い（出席、発表、レスポンスシートを含む）(40 %)

レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心が高い、『仮想世界』における“こころの問題”を取り上げる。受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

本講義では、討議に積極的に参画し、協同作業を通じて自らの問題意識を育てることが重要になる。

【履修条件】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

「ヒューマンインタフェース論」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「こころの科学」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましい。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

講義とデモンストレーションを組み合わせる。PC、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

メディア情報応用

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：特に制限はしませんが、希望者多数の場合のみ選抜します。初回に出席すること。

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、Flash によるアニメやゲーム、スマホで動くコンテンツ制作を実習を通して学ぶ。

最近注目されている動画制作を例として取り上げ、ダイナミックな Web コンテンツのオーサリング技法、画像・音声などマルチメディアを活用した応用レベルの情報処理とマルチメディア表現、さまざまな対話性実現のための手法を学ぶ。

【到達目標】

Web グラフィックスをコンピュータとメディアによる自己表現のツールに高める知識を習得することを目指す。Flash アニメーションなど Motion Graphics 作成の基礎技術を身につけ、簡単な Web アプリを作成できるようになる。

【授業の進め方と方法】

Flash によるアニメ作品制作（講義と実習）

Web グラフィックスの動向とデザイン論（講義）

課題作品のクリティーク（合評）

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Web グラフィックスの概要： 動画の設計と表現、Web コンテンツの表現技術	Web グラフィックスの特性と Flash メディアの基礎を理解する
2	ツールボックス、パレット、Flash 形式	Flash 制作の基本ツールを習得する
3	基本図形の描画	各種描画ツールを使用して、線、塗り、基本図形、重なり、変形などの技法を学ぶ。
4	テキストの扱い、ペンツールによる描画	文字データの作成、ペンツールによる自由曲線の作画について学ぶ。
5	簡単なアニメーション課題（1）	フレームアニメーション、トゥイーンアニメーションを作成する。【課題】 フレームアニメーションを使って文字が躍る簡単な作品を作る。
6	キーフレームの編集、動きの演出と時間構造	キーフレームから発展させるシェイプやモーショントゥイーンアニメーションを作成する。イーズイン・イーズアウトによる動きの演出技法を学ぶ。
7	ムービークリップ、ガイドレイヤー 課題（2）	ムービークリップによる動きの部品化を理解し、作品作りに応用する。【課題】 トゥイーン、ムービークリップ、ガイドレイヤーを使って作品を作る。
8	ロールオーバー、サウンドの追加	マウスのイベントを画面の状態遷移に関係づける Flash によるユーザーインターフェースの手法を学ぶ。各種の音素材を作品に利用する。
9	スクリプトによる制御 課題（3）	簡単な Action Script により作品の時間構造、状態遷移などを制御する。【課題】 動きのあるユーザーインターフェースを作る。
10	マスクアニメーション	マスクの動作を理解し、マスクアニメーションを作品に応用する。

11	携帯電話への応用	携帯向け Flash 作品のパブリッシュを学び、携帯電話の画面で自作の Flash アニメを動かす。
12	ダイナミックなデータ 最終課題	変化するデータを作品に取り入れる手法を学ぶ。 【課題】 自由な題材で総合的な作品制作にチャレンジする。
13	作品発表とクリティーク	学期末の総合制作課題の合評を行う。相互批評の中から作品性の言語化を学ぶ。
14	まとめ	学習内容の総まとめと総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Flash による作品制作にはさまざまな可能性の分かれ道があるので授業時間内にすべての技法や応用を網羅することはできません。また授業内で習得した制作技法は繰り返し練習することで作品制作のテクニックとして自分のものになります。受講者はかならず次の週までに復習と制作練習を励行してください。また Flash は最終的には Web コンテンツとしてオンライン公開されます。Web や HTML との関係をきちんと理解する必要がありますので、「メディア情報基礎」や「ネットワーク基礎」等の既習単元をよく復習してください。

【テキスト（教科書）】

佐藤 好彦、「Flash レッスンブック」ソシム (2010)、ISBN:978-4-88337-718-3

他に必要に応じて文献を紹介し、資料プリントなどを配布する。

【参考書】

マット・ウールマン、「ムービングタイポグラフィー」、グラフィック社 (2001)、ISBN:4766111907

注： Web グラフィックス制作には Adobe Flash を使用する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、中間課題 (30%)、最終課題 (20%) ならびに ePortfolio(作品集づくり,20%) をすべて総合的に評価する。セメスタのまとめとして最終課題に評価の重点をおく。授業参加の指標としては、表現意欲をコンピュータ上で形にする努力、モノ作りの背後にある仕組みへの技術的興味、作品に添付する制作メモ、お互いの作品から学び向上する態度などをポジティブに評価するので十分に心がけてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

Flash のよる制作にはさまざまな可能性があり、作品性への志向も受講者によってさまざまであるため、限られた授業時間内であるべく多くの受講者に関心を持って取り組んでもらえるよう、単元と課題内容にはきめ細かく対応したい。作品集は ePortfolio において個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【その他の重要事項】

学生へのメッセージ： Web という入れ物を得たことによって、コンピュータによる動画やアニメ作品作りが誰にでも可能となりました。この楽しさと感動をぜひ実感して欲しい。授業時間外にカフェテリアで課題や自作をこつこつ仕上げるための作業時間を見込んでください。作品作りはきっと楽しくなります。情報系教員によるクラス授業であり、Web を基盤とする ICT の活用実習、ならびに発見型学習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）を前提とする。

また、プログラミングの概念を理解していると、さらに高度な作品作りにチャレンジできる。

データベース基礎

若林 啓

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり・実習を伴う

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報化社会においてデータベースは欠くことのできない技術です。本授業では、世の中で広く利用されている関係データベースの概念および理論について学び、演習を通してデータの検索やデータベースの設計を行う技能を身につけます。

【到達目標】

関係データベースの基本概念を理解する。データベース管理システムを利用できる技能、およびデータベースを設計できる技能を身につける。

【授業の進め方と方法】

講義と演習による。前半は演習を主として行い、アプリケーションとして関係データベースについて理解を深める。後半には関係データベースの背後にある理論について講義し、データベースの設計を行うための体系的な知識を学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概要	関係データベースとは何か
2	SQL 演習（1）	テーブルと SQL の基本概念
3	SQL 演習（2）	データの検索
4	SQL 演習（3）	テーブルの結合
5	数学的基礎（1）	集合論とデータベース
6	数学的基礎（2）	述語論理による条件の記述
7	数学的基礎（3）	SQL の数学的表現
8	テーブルの設計（1）	テーブルの作成とデータの挿入
9	テーブルの設計（2）	関係の多重度と唯一識別子
10	テーブルの設計（3）	実体-関連モデル
11	データベースの活用（1）	トランザクション
12	データベースの活用（2）	インデックス
13	データベースの活用（3）	集約関数とデータ分析
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に公開する演習資料を用いて、データベース管理システムの操作について復習する。

データベース管理システムを利用した課題レポートに取り組む。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を授業にて配布。

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門 [第 3 版], サイエンス社, 2017.

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う確認テスト課題（50 %）およびデータベース管理システムを利用した課題レポート（50 %）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習では、プログラミングの知識がなくても理解しやすいように、適宜解説を補うなど内容を工夫します。

社会とデータサイエンス

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業では IoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】

ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なるや内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく心理学や社会学など社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【授業の進め方と方法】

講義は計算機を使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoT とビッグデータ	IoT（Internet of Things）とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	4つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（1）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（2）	仮説検定の種類と考え方を学ぶ
10	統計の基本と実践（3）	回帰分析の意味と使い方を学ぶ
11	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ
12	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する

- | | | |
|----|--------------|--|
| 13 | プレゼンテーション | 自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する |
| 14 | 議論と考察、授業のまとめ | 授業内で発表されたデータについて質問を通して改善の余地を議論・考察する。
また授業のまとめを行い、授業内に簡単なレポートを作成、提出する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指定する。

【参考書】

授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 20%、小テスト 20%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%で総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。授業支援システムを利用して課題を提出してもらうため、課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になる。

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。

道具による感覚・体験のデザインー『体験』から空間をデザインするー

甲 洋介

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アタマとカラダを使って、「体験」という現象を「体験し直す」ことを目指す科目である。

● 体験 *experience* とは何なのか。

今日ほど「経験」「体験」(*experience*) が注目される時代はない。その一方で、「経験の危機」(E. リード) も指摘される。

仮想世界の浸透も手伝って、私たちの「体験」の様式はかつてない速度で変化し続け、どこまでが体験なのか、その境界はますます曖昧になりつつある。例えば、自分の身体と感覚を使って**実際に体験**していない出来事まで、“あたかも体験したかのように”受け入れられ始めている。

● 【日常の体験こそ面白い、しかしデザインするのは難しい】

驚いたこと、可笑しい体験、つらかったこと、忘れられない体験。言及されるのはほとんどが非日常の体験である。しかし、体験の本質に迫りたいなら、豊かなごく日常の体験にこそ目を向けるべきだろう。本講義は日常の体験に着目する。

● 【空間のデザインを体験の観点から捉え直す】

今年度は、「空間の体験」を取り上げる。たとえばキャンパス、カフェ、エレベーターなどの人が行き交う空間の中で、不愉快な体験を生じないように、他人との距離を実に巧みにコントロールしていることに気づく。こうした空間をデザインし直すと、そこでの体験はどのようにに変化するのか。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然に集中できるように。ここでの空間は、幾何学的空間でも装飾的空間でもない。「生きられる空間」である。

【到達目標】

目標はシンプルであり、つぎの3つに要約される。

- 1) 体験する（特に空間を体験する）、とはどのようなことか、
 - 2) 道具としての空間が変わると、そこに生まれる体験はどのようにに変化するのか、
 - 3) 体験の装置としての空間をいかにデザインするか、
- について、基本的な考え方を理解し、具体的な対象に対して実践し、考察を深めることである。

【授業の進め方と方法】

講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせで展開させる。講義で取り上げる3つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。

● 【講義の3つのテーマ】

- (a) 身体と感覚、体験するということ
- (b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
- (c) 身体の観点から、感覚・体験装置を再考する

● 【デザインワークショップ】

さらに上記テーマのうち (b) 空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、店、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方のガイダンス
第2回	[A] 身体、感覚、体験	体験と身体。自然との境界としての身体・感覚。

第3回	感覚と体験	感覚を体験する。直接体験と間接体験。
第4回	感情の科学：感情をと もなう体験	感情を体験する。感情を伴う体験のメカニズム。
第5回	[B] 空間の体験 ～道具によって空間の体験を作る	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）。
第6回	人間の空間行動	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動。
第7回	人間の空間行動～パーソナルスペース	体験 <i>experience</i> から、空間をデザインする
第8回	デザインワークショップ1	学校とは何だろう？ 空間デザインから考え直す
第9回	デザインワークショップ2	カフェ、ラーメン店、オフィスのデザイン。
第10回	グループ発表	発表と討議
第11回	[C] 身体から、感覚・体験装置を問い直す ～体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。仮想現実 VR、拡張現実 AR、ミックスリアリティ MR、代替現実 SR。
第12回	身体からみた『日本庭園』～日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園。時間的な連続性
第13回	メディア情報空間	スヌーズレン。大切な人とつながる情報空間の試み。
第14回	身体、感覚、体験 -revisit-	生きられた空間。経験としての芸術。経験の危機

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・デザイン課題のグループワーク
- ・グループ発表のための準備、資料づくり

【テキスト（教科書）】

初回時に指示をする。

【参考書】

- ・「経験としての芸術」(J. デュユー) 講談社学術文庫, 2004
- ・「かくれた次元」(E.T. ホール) みすず書房, 1970
- ・「場所の運命」(E. ケーシー) 新曜社, 2008
- ・「空間の経験—身体から都市へ」(Y.F. トゥアン) ちくま学芸文庫, 1993
- ・「無心ということ」(鈴木大拙) 角川ソフィア文庫, 2007

【成績評価の方法と基準】

試験・レポート (60 %)

平常点 (40 %、レスポンスシート、討議への積極的な参画を含む) 課題の未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

履修者からの要望が多い、建築空間での事例研究を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

講義を言葉で理解するだけではなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、街の人々の空間行動を新しい視点からウォッチングしたり、日本庭園に仕掛けられた身体体験を批評的に味わったり、闇の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。

教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【関連科目】

「仮想世界研究」「ヒューマンインタフェース論」「こころの科学」「情報コミュニケーション」と組み合わせで受講することが望ましい。多角的に洞察できるようになり、面白くなる仕組みになっている。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PCおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

世界の英語

小中原 麻友

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル社会の現在、「英語」ほど広範に使用されている言語はありません。しかし、その「英語」とは一体どのようなものなのでしょう。World Englishes や English as a lingua franca という言葉を聞いたことがありますか。英語の国際的普及は、地域の社会的要因に関連して多様化した様々な英語変種を生み出しました。英・米・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの各英語だけでなく、インド、シンガポール、タイ、マレーシア等のアジア諸国でも多様な「英語変種」が存在し、これらは World Englishes（世界の英語たち）と複数形で呼ばれています。また、グローバル化の進展はビジネスや教育上の国際交流・協力の急速な拡大をもたらし、そのような現場で英語は言語文化の異なる者同士のコミュニケーションにおいて「共通語（a lingua franca）」として幅広く使用されています。本講義では、これら World Englishes と English as a lingua franca という2つの視点から、一見自明とも思われる世界における「英語」の実態について迫っていきます。

学期前半では、社会及び言語使用へのグローバル化の影響と英語の国際的普及の過程を概観した後、特に英米などの英語を母語とする国々とアジア諸国において多様化した英語変種の言語的特徴について、その歴史及び文化的背景にも触れながら学んでいきます。その後、学期後半では、植民地化の遺産や標準語イデオロギー、英語母語話者信仰等の概念や現象についての学習を通して、英語を取り巻く問題について理解を深め、更にはヨーロッパやアジア諸国での実際の事例研究を取り入れながら、ビジネスや高等教育等の国際的な場において言語文化を異にする者同士が、英語を共通語として使用してどのようにコミュニケーションを図っているのかについて、特にコミュニケーション・ストラテジーの使用を中心にその特徴を学んでいきます。最終的には、学習内容に基づき、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察できるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 国際的普及によって多様化した英語変種の地域的特徴（音声の仕組み、および文法等）とその歴史的要因の背景について理解し、まとめることができる。
2. 国際共通語としての英語でのコミュニケーションの実態や特徴についてまとめることができる。
3. 標準語イデオロギーや英語母語話者信仰などの「英語」を取り巻く問題とその重要性について説明することができる。
4. 上記 1-3 を踏まえた上で、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察することができる。

【授業の進め方と方法】

授業は、PPT とハンドアウトを使用した講義の他、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション、リスニング等の活動も取り入れて進めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介・履修条件、導入（選抜）アンケート
第2回	講義・ディスカッション（1）	The influence of globalization: Linguistic diversity and English users (グローバル化の影響：言語的多様性と英語使用者)
第3回	講義・ディスカッション（2）	The global spread of English (英語の地球規模の普及)

第4回	講義・ディスカッション（3）	Diversification of English and preparation for group presentations (英語の多様化、グループプレゼン準備)
第5回	グループ・プレゼンテーション（1）	Varieties of English (1): Englishes in the UK, the US, and Canada (英語変種（1）：イギリス、アメリカ、カナダの英語)
第6回	グループ・プレゼンテーション（2）	Varieties of English (2): Englishes in Australia, New Zealand, India, and Thailand (英語変種（2）：オーストラリア、ニュージーランド、インド、タイの英語)
第7回	グループ・プレゼンテーション（3）	Varieties of English (3): Englishes in Vietnam, Malaysia, Singapore, and Indonesia (英語変種（3）：ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシアの英語)
第8回	グループ・プレゼンテーション（4）	Varieties of English (4): Englishes in the Philippines, China, Hong Kong, and Korea (英語変種（4）：フィリピン、中国、香港、韓国の英語)
第9回	講義・ディスカッション（4）	The legacy of colonialism, native speakerism and standard language ideology (植民地化の遺産、英語母語話者、標準語イデオロギー)
第10回	講義・ディスカッション（5）	English as a lingua franca (ELF) communication (1): Introduction (共通語としての英語（ELF）でのコミュニケーション（1）：導入)
第11回	講義・ディスカッション（6）	ELF communication (2): Communication strategies (CS) for supporting meaning-making (ELF でのコミュニケーション（2）：話し手の発話を支援するコミュニケーション方略)
第12回	講義・ディスカッション（7）	ELF communication (3): CS for coping with communication problems (ELF でのコミュニケーション（3）：コミュニケーション上の問題に対処する方略)
第13回	講義・ディスカッション（8）	ELF communication (3): CS for facilitating communication (ELF でのコミュニケーション（3）：コミュニケーション上を促進する方略)
第14回	期末試験、まとめ	(人数によっては期末レポート)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

<準備学習>

- ・リーディング課題（第3回、10回、11回授業開始時まで：全3回予定）：指定の資料を読み内容を把握し、まとめる。
- ・フィールドワーク（第2回、10回、13回授業開始時まで：全3回予定）：授業前までに配布プリントに沿って簡単なデータ収集を行い、それに基づき考察を書く。
- ・グループ・プレゼンテーション準備（第5～8回授業開始時まで）：グループごとのプレゼンテーションの準備を行う。プレゼンの準備には、原則、学術的な図書や論文、あるいはウェブサイトを使用し、学術的根拠に基づいていない個人の作成したウェブサイトやブログ等は使用しないこと。

<復習>

- ・リアクション・ペーパー（第5回、第9回；全2回予定）：それまでの学習内容のまとめと考察を書き、該当の授業開始前までに授業支援システム上で提出する。
- ・その他、期末試験（あるいはレポート）に向け、適宜、復習する。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書指定なし。
- ・その他、テーマごとに参考文献を紹介し、適宜、コピーを配布します。配布資料やスライドは、原則英語です。
- ・授業のPPTは、授業終了後に、授業支援システムで配布します。

【参考書】

< World Englishes と English as a lingua franca についての背景知識 >

1. Crystal, D. (2003). English as a global language (2nd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.
2. Galloway, N., & Rose, H. (2015). Introducing global Englishes. London; New York, NY: Routledge.
3. Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students (3rd ed.). London; New York: Routledge. (Companion website: <http://www.routledge textbooks.com/textbooks/9780415638449/default.php>)
4. Jenkins, J., Cogo, A., & Dewey, M. (2011). Review of developments in research into English as a lingua franca. Language Teaching, 44(03), 281-315.
5. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes paperback with audio CD: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge, UK; New York: Cambridge University Press.
6. Murata, K. (2015). Exploring ELF in Japanese academic and business contexts: Conceptualisation, research and pedagogic implications: Routledge.
7. Murata, K., & Jenkins, J. (2009). Global Englishes in Asian contexts: Current and future debates. Houndmills ; New York: Palgrave Macmillan.
8. Seidlhofer, B. (2011). Understanding English as a lingua franca. Oxford: Oxford University Press.
9. Trudgill, P. & Hannah, J. (2002). International English: A Guide to the Varieties of Standard English (4th ed.). London: Arnold.
10. 唐澤一友. (2016). 『世界の英語ができるまで』. 東京: 亜紀書房.
11. 末延岑生. (2010). 『ニホン英語は世界で通じる』. 東京: 平凡社.
12. 田中春美, 田中幸子 (2012). 『World Englishes - 世界の英語への招待』. 京都: 昭和堂.
13. 鳥飼玖美子 (2011). 『国際共通語としての英語』. 東京: 講談社.
14. 本名信行 (2002). 『事典アジアの最新英語事情』. 東京: 大修館.
15. 本名信行 (2003). 『世界の英語を歩く』. 東京: 集英社新書.

<リスニング教材>

1. 榎木園鉄也 (2012). 『インド英語のリスニング』. 東京: 研究社.
2. 榎木園鉄也. (2016). 『インド英語のツボ: 必ず聞き取れる5つのコツ』. 東京: アルク.
3. 柴田真一. (2016). 『アジアの英語』. 東京: コスモビア.
4. ジョセフ・コールマン著、渡辺順子訳 (2008). 『いろんな英語をリスニング』 東京: 研究社.
5. 鶴田知佳子、柴田真一 (2008). 『ダボス会議で聞く世界の英語』. 東京: コスモビア.
6. 平本照磨 (2010). 『究極の英語リスニング Worldwide』. 東京: アルク.

<参考ウェブサイト>

1. ACE. (2013). The Asian Corpus of English. Retrieved 23rd September 2014 <http://corpus.ied.edu.hk/ace/index.html>
2. IDEA (2017). International Dialects of English Archive. Accessed 20th September 2017 from <http://www.dialectsarchive.com/dialects-accent>
3. Sekiya, Yasushi, Kawaguchi, Yuji, Saito, Hiroko, Yoshitomi, Asako, Yazu, Norie, & Marphey, Phillip. (2006). World Englishes: English modules dialog based on research into sociolinguistic variation [Shakai gengogakuteki heni kenkyuu ni motoduita eigo mojuru] Retrieved 16th August 2016, from <http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html>

4. VOICE. (2013). The Vienna-Oxford International Corpus of English (version 2.0 Online). Retrieved 23rd January 2013 from <https://www.univie.ac.at/voice/>

【成績評価の方法と基準】

<平常点: 5%>

・「平常点」とは、出席率でなく、授業内活動や質疑応答などへの積極的な貢献度を意味します。ただ教室に「いる」だけでは参加したことになりませんので、ディスカッションに積極的に貢献して下さい。

<授業内外課題: 45%>

・リーディング課題やフィールドワーク、リアクション・ペーパー、グループ・プレゼンテーションでの学習内容の理解度と考察内容を総合的に評価します。

<試験: 50%>

学期末（第14週）に試験（あるいはレポート提出）を行い、学習内容の理解度や考察・意見内容を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

音声データ、録画データ等を使用して、実際に多様な英語、そのような英語での実際のコミュニケーションを聞く機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

グループ・プレゼンテーションの際は、こちらでPCを用意しますが、自分のPCを使用したい場合は、持参すること。

【その他の重要事項】

授業中は、適宜ノートを取って下さい。ただし、ノートをとることよりも講義の内容に集中して、そのテーマについて自ら考えるようにしてください。「覚える」のではなく、「考える」ことが重要です。皆さんの意見を聞いて回りたいと思います。答えに正解・不正解はありませんので、積極的に意見交換することを期待します。

言語の理論 I

石井 創

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：言語学概論 A

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」の誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論や意味論、音声学・音韻論といった、言語学の諸分野でどのような言語の謎が扱われているのかを紹介していきます。その紹介を通じて、言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れることが目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 言語的な事実の気づきに敏感になる、また気付いた事実に対し初步的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対し、正しい認識をもつ

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本として進めます。具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。よって、受講者は答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑い直す姿勢を大切にしてください。質疑応答やリアクションペーパーを書く時間も設ける予定ですので、その姿勢によって得られた疑問点や不明点は積極的に発信してください。また、リアクションペーパーで得られた面白い質問・コメントについては、時間の許す限り次の授業内で紹介していくつもりです。

なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかかる授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学ってどんな学問？
第 2 回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第 3 回	形態論 1	形態素と語の内部
第 4 回	形態論 2	語の作られ方
第 5 回	形態論 3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第 6 回	統語論 1	語よりも大きなまとまり
第 7 回	統語論 2	X-bar Theory
第 8 回	統語論 3	句構造から文構造へ
第 9 回	統語論 4	生成文法における「移動」と「痕跡」
第 10 回	音声学・音韻論 1	音声の産出、子音と母音
第 11 回	音声学・音韻論 2	音節とモーラ
第 12 回	意味論 1	動詞のあらわす事象
第 13 回	意味論 2	テンス・アスペクト
第 14 回	心理言語学	文理解で生じるあいまいさの解消

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容を理解していることを前提に、その日の授業を進めていきます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業をしてください。

また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、同じく授業で学んだ方法でその現象について考える習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜ハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 100%
2. 授業外で学内教員の実施する実験に参加した場合、プラスアルファで加点をいたします（不参加の人が減点されるわけではありません）

【学生の意見等からの気づき】

1. 用語説明について、「くどい」あるいは「不足」という逆の感想を得た。新年度は説明を聞いている受講生の反応を前年度以上に細かく観察することで、適切な分量の説明を目指す。
2. リアクションペーパーで得られた質問・コメントの授業内紹介はおおむね好評であったが、紹介に時間を割きすぎ、結果その日の授業での説明目標が達成できないことがあった。新年度は紹介の時間をきちんと制限することで、そのような事態にならないよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

ハンドアウトは基本的には授業支援システムで配布します。よって、普段使用するメールアドレスを授業支援システムに登録しておいてください。

言語の理論Ⅱ

川崎 貴子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：言語学概論 B

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語学の様々な分野を紹介します。言語データを様々な角度から分析する楽しさに触れていただければと思います。言語学の基礎知識を応用し、身の回りの言語現象について深く考えることが目的です。

【到達目標】

この授業では理論言語学の諸分野を紹介します。各分野の基礎的な知識を身につけることを目標とします。また、言語学の複数分野の知識を応用し、実際の言語現象を分析できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

自然言語の現象、様々な「不思議」を講義形式で紹介しつつ、皆様にも問題を解きながら一緒に考えていただくことによって、言語学の理論を学び親しんでいただきます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学とは？
第 2 回	言語知識	言語知識の中身
第 3 回	意味・語用論 1	曖昧さ、丁寧表現 1
第 4 回	意味・語用論 2	曖昧さ、丁寧表現 2
第 5 回	形態論 1	語のなりたち・形態素
第 6 回	形態論 2	複合語
第 7 回	統語論 1	語のカテゴリ
第 8 回	統語論 2	句のなりたち
第 9 回	統語論 3	文の構造
第 10 回	音声学・音韻論 1	英語・日本語の子音
第 11 回	音声学・音韻論 2	英語・日本語の母音/モーラ・音節
第 12 回	言語と文化	言語相対性理論
第 13 回	言語心理学	言語と知覚/マルチモダリティ
第 14 回	応用言語学	言語理解・獲得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 指示される映像課題をノートを取りながらみること、宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく書いてまとめることが求められます。
- 言語学は積み重ねの学問ですので、授業の復習を各自行うことがとても重要です。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布致します。また、授業支援システムにも、配布プリントをアップロードいたします。

【参考書】

教科書はありませんが、参考文献を授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

様々な内容を広く扱うことで、新たな気づきを得てくれる学生も多いようです。より授業外での学習にも自主的に取り組んでもらえるよう、課題を提案していこうと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを通じて、課題のお知らせや読むべき文献の紹介を行います。

【その他の重要事項】

特になし

社会言語学

塩田 雄大

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：言語の理論Ⅲ（社会言語学）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。

社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（言語の変化／ことばの乱れ／地域方言／外来語／コミュニケーション／アイデンティティ／男女のことば／言語どうしの接触／言語政策／…）、講義では日本語社会を対象にこれらを全般的に扱いつつ、「若者語・流行語」については多少重点的に取り上げる。毎回の課題準備とグループワークを通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

社会言語学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【授業の進め方と方法】

講師による一方向的な講義形式ではなく、毎回、グループワークおよび簡単な口頭報告を中心に進行することを想定している。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全般の説明
第 2 回	言語変化の原動力・音素と異音	言語が変化する背景について考える。また、「ガ行子音（鼻濁音）」をめぐる問題を取り上げる。
第 3 回	漢字のゆくえ	漢字をめぐる諸問題について考える。
第 4 回	正しい日本語・乱れた日本語	「言葉の正しさ」をめぐる問題を取り上げる。
第 5 回	地域方言	方言をめぐる問題について考える。
第 6 回	若者ことば	若者語・流行語について考察する。
第 7 回	敬語	現代の敬語について考える。
第 8 回	ことばの接触・変化・外来語	言語接触・言語変化について取り上げる。特に、外来語に着目する。
第 9 回	言語計画・公用語・多言語社会	言語政策のトピックを紹介する。
第 10 回	男ことば・女ことばとジェンダー	ことばづかいの性差や「役割語」について考える。
第 11 回	配慮表現	さまざまな「配慮表現」に対する受け止め方の違いについて紹介する。
第 12 回	ら抜きことば	「ら抜きことば」の実態と規範意識について考察する。
第 13 回	レポート検討	各自のレポートについて検討する。
第 14 回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備には 1 回あたり 1 時間～2 時間程度はかかるはずなので、その旨承知されたい。また、場合によっては授業時間外での学生どうしによる事前準備等も必要になる。

【テキスト（教科書）】

『新世代の言語学 ―社会・文化・言語をつなぐもの』（飯野公一ほか編著、くろしお出版、2003 年、1,800 円＋税）

http://www.9640.jp/book_view/?274

内容に比して安価であり、履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。

- （1）『応用社会言語学を学ぶ人のために』（ダニエル・ロングほか編、世界思想社、2001 年、1,600 円＋税）
- （2）『社会言語学入門―生きた言葉のおもしろさにせまる（改訂版）』（東照二著、研究社、2009 年、2,300 円＋税）
- （3）『その一言が余計です。』（山田敏弘、ちくま新書、840 円＋税）
- （4）『辞書を編む』（飯間浩明、光文社、800 円＋税）
- （5）『日本語の配慮表現の多様性』（野田尚史ほか、くろしお出版、3700 円＋税）

【成績評価の方法と基準】

毎回の事前準備課題 20 %

グループワークでの議論活性化への寄与度 20 %

最終レポート 60 %

全出席を求めるものではないが、毎回の講義に出席して自分なりに考える習慣をつけていかなければ、最終レポートが及第点に至ることはおそろくないと思われる。課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したもの、不可となる。また、学ぼうとする他の学生の意欲をそぐような行為（講義中の無用なスマホ操作や、講義に無関係な私語）があった場合、レポートを提出する権利を認めないので注意されたい。

【学生の意見等からの気づき】

（本年度授業担当者変更によりフィードバックできません）

【学生が準備すべき機器他】

「ふだんよく見るメールアドレス」「word が使える環境」「配布資料を綴じるための A 4 縦型二穴ファイル（紙ファイルでよい）」を準備しておくこと。

連絡事項をメールで伝える場合があり、またレポート提出もメールを用いるため、（SNS アカウントではなく）添付ファイル送受信可能なメールアドレスを各自確定させ、講義期間中は受信メールを定期的に確認すること（「メールを見ていませんでした」ということのないように）。

また、レポートの執筆は word を用いることを原則とする（添削を加えるため）。word 以外のワープロソフトを使用している学生は、事前に相談されたい。

【その他の重要事項】

質問・相談は、講義終了後、あるいはメールにて随時受け付ける。講師アドレスは初回講義時に周知する。

本講義は、英語の知識を前提としない。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。きちんと努力する者、なにかを真剣に知ろうとするものが集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

応用言語学

川崎 貴子

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：言語の理論Ⅳ（応用言語学）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 理論 3	SLA 理論の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。また宿題も課されます。指示された映像課題をノートを取りながらみること、宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく書いてまとめることが求められます。これらの宿題も試験の範囲に含まれます。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

参考文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

言語習得研究の幅広さを知っていただき、分野に興味を持っていただけたようでよかったと思います。

英語コミュニケーション I

マーク・フィールド

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【授業の進め方と方法】

Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Requirements of the all-English Classroom
2 回	Introductory	When in Doubt
	Learning Strategies:	Ask a Question
3 回	Introductory	Breaking
	Learning Strategies:	Old Bad Habits
4 回	Introductory	Knowing
	Learning Strategies:	What You Don't Know, Can Make Learning Easy and Fun
5 回	Identity:	Life Experiences
6 回	Identity:	Nature Verses Nurture
7 回	Identity:	Your Family History
8 回	World Destinations:	Describing Places
9 回	World Destinations:	Getting Around
10 回	World Destinations:	Where to Visit in Japan
11 回	Energy Challenges:	Sources and Sustainability
12 回	Energy Challenges:	Organizations and Community Action
13 回	Energy Challenges:	Persuading Others to Act
14 回	Examination/Review	Recapping what was covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】

Nancy Douglas & James R. Morgan, World Class 1, Cengage Learning,

ISBN-13:978-1-133-31081-5

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination/Term Project

**Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

英語コミュニケーション I

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

40% Final Examination/Term Project

【学生の意見等からの気づき】

Questions in the end-of-semester test have been updated.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【授業の進め方と方法】

Various oral discourse themes will be introduced and practised. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	Introductions, explanations of the course and course requirements.
2	Introductory Learning Strategies	When in doubt, ask a question.
3	Learning Strategies	Breaking old bad habits.
4	More Learning Strategies	Knowing what you don't know.
5	Identity	Personal and cultural identity.
6	Values	Deciding right and wrong.
7	Values	Discussing future goals.
8	Culture Shock	Advice for dealing with culture shock.
9	Culture in Language	Proverbs and idioms.
10	Body Language and Customs	Signs and gestures.
11	Body Language and Customs	Non-verbal communication norms.
12	Individualism	Individualism and collectivism.
13	Individualism	The challenges of different working styles.
14	Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given homework in most lessons.

【テキスト（教科書）】

Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

英語コミュニケーション I

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

40% Final Examination/Term Project

【学生の意見等からの気づき】

Questions in the end-of-semester test have been updated.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【授業の進め方と方法】

Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	Introductions, explanations of the course and course requirements.
2	Introductory Learning Strategies	When in doubt, ask a question.
3	Learning Strategies	Breaking old bad habits.
4	More Learning Strategies	Knowing what you don't know.
5	Identity	Personal and cultural identity.
6	Values	Deciding right and wrong.
7	Values	Discussing future goals.
8	Culture Shock	Advice for dealing with culture shock.
9	Culture in Language	Proverbs and idioms.
10	Body Language and Customs	Signs and gestures.
11	Body Language and Customs	Non-verbal communication norms.
12	Individualism	Individualism and collectivism.
13	Individualism	The challenges of different working styles.
14	Examination	Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given homework in most lessons.

【テキスト（教科書）】

Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

英語コミュニケーション I

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【成績評価の方法と基準】

40% In class evaluation.

20% Homework.

40% Final Exam/Term Project.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【授業の進め方と方法】

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation.	Requirements of the All-English Classroom.
2	Introductory Learning Strategies.	When in Doubt, Ask a Question.
3	More Learning Strategies.	Breaking Old Bad Habits.
4	Learning Strategies.	Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun.
5	Appearance.	Reflecting the Self and Revealing Others.
6	Meeting People.	Domestic Environments.
7	Meeting People.	Other Students, Other Countries.
8	Meeting People.	Expressing Ourselves: Etiquette and Feelings.
9	Culture.	Explaining Japan.
10	Culture.	Exploring Tradition.
11	Culture.	Changing as We Speak.
12	Where We Live.	Town and Country.
13	Where We Live.	Directions and Dimensions.
14	Examination/Review.	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Textual preparation and work for Presentations will be necessary.

【テキスト（教科書）】

People Like Us Too. Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

英語コミュニケーション I

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【成績評価の方法と基準】

40% In class evaluation.

20% Homework.

40% Final Exam/Term Project.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【授業の進め方と方法】

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation.	Requirements of the All-English Classroom.
2	Introductory Learning Strategies.	When in Doubt, Ask a Question.
3	More Learning Strategies.	Breaking Old Bad Habits.
4	Learning Strategies.	Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun.
5	Appearance.	Reflecting the Self and Revealing Others.
6	Meeting People.	Domestic Environments.
7	Meeting People.	Other Students, Other Countries.
8	Meeting People.	Expressing Ourselves: Etiquette and Feelings.
9	Culture.	Explaining Japan.
10	Culture.	Exploring Tradition.
11	Culture.	Changing as We Speak.
12	Where We Live.	Town and Country.
13	Where We Live.	Directions and Dimensions.
14	Examination/Review.	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Textual preparation and work for Presentations will be necessary.

【テキスト（教科書）】

People Like Us Too. Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

英語コミュニケーション I

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【到達目標】

The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【授業の進め方と方法】

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	Requirements of the all-English Classroom
2	Introductory Learning Strategies	When in Doubt, Ask a Question.
3	More Learning Strategies	Breaking Old Bad Habits
4	Learning Strategies	Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun
5	Giving your experiences	Finding your stories and setting the scene
6	Giving your experiences	Description and compression
7	Mid-term presentation test	Students will work in pairs to present a natural English conversation with a stranger
8	Discussing your opinions	Discussion and argument
9	Discussing your opinions	The triangle of persuasion
10	Telling how you feel	Physical feelings, likes, wants and emotions
11	Starting conversations	Friends and acquaintances
12	Starting conversations	Strangers
13	Putting it all together	The flow of conversation
14	Final Presentation	Students will work in pairs to present a natural English conversation with a stranger

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for pair presentations

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

英語コミュニケーション I

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【到達目標】

The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【授業の進め方と方法】

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	Requirements of the all-English Classroom
2	Introductory Learning Strategies	When in Doubt, Ask a Question
3	More Learning Strategies	Breaking Old Bad Habits
4	Learning Strategies	Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun
5	Giving your experiences	Finding your stories and setting the scene
6	Giving your experiences	Description and compression
7	Mid-term presentation test	Students will present in pairs a natural conversation with a stranger
8	Discussing your opinions	Discussion and argument
9	Discussing your opinions	The triangle of persuasion
10	Telling how you feel	Physical feelings, likes, wants and emotions
11	Starting conversations	Friends and acquaintances
12	Starting conversations	Strangers
13	Putting it all together	The flow of conversation
14	Final Presentation	Students will present in pairs a natural conversation with a stranger

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

英語コミュニケーションⅡ

マーク・フィールド

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【授業の進め方と方法】

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	Class Reorientation:	How to Prepare for Overseas Study
2回	Express Yourself:	Letter of Introduction to a Host Family
3回	Understanding Messages:	Rules in the Home and School
4回	Express Yourself:	Explaining Steps in a Process
5回	On the Move:	Types of Transportation
6回	On the Move:	Sharing Economy
7回	On the Move:	An Opinion Paper
8回	Rain or Shine:	Climate Extremes
9回	Rain or Shine:	Weather and Erosion
10回	Rain or Shine:	Vivid Description
11回	What's Your Game?	Reported Speech
12回	What's Your Game?	Explaining Important Qualities
13回	What's Your Game?	Timed Essay
14回	Examination/Comments	Recapping what was covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons to enhance their participation in classroom activities and discussions. Students are also expected to find and analyze information from various forms of English media independently as a means of increasing their vocabulary and general knowledge.

【テキスト（教科書）】

Nancy Douglas & James R. Morgan, World Class 1, Cengage Learning,
ISBN-13:978-1-133-31081-5

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination/Term Project

**Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

英語コミュニケーションⅡ

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【授業の進め方と方法】

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Reorientation	How to prepare for overseas study.
2	Express Yourself	Letter of introduction to a host family.
3	Understanding Messages	Rules in the home and school.
4	Analysing Learning Goals	Silent interview.
5	Discussing culture	Writing about an aspect of traditional Japanese culture.
6	Different Perspectives	Analysing pros and cons.
7	Editing	Common errors, writing conventions.
8	Using Creative Writing Prompts	Collaborative writing.
9	Stretching the Imagination	Character writing.
10	Utopia	Describing a perfect society.
11	Ambitions, hopes for the future	Class project.
12	Email writing, requesting information	Class project.
13	Practical Tips	Preparing for travel.
14	Self-analysis	Review and reflect.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to keep an English journal which will require weekly updates.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide course material.

【参考書】

An English to English dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination

【学生の意見等からの気づき】

Some lesson content has been altered.

英語コミュニケーションⅡ

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【授業の進め方と方法】

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Reorientation	How to prepare for overseas study.
2	Express Yourself	Letter of introduction to a host family.
3	Understanding Messages	Rules in the home and school.
4	Analysing Learning Goals	Silent interview.
5	Discussing Culture	Writing about an aspect of traditional Japanese culture.
6	Different Perspectives	Analysing pros and cons.
7	Editing	Common errors, writing conventions.
8	Using Creative Writing Prompts	Collaborative writing.
9	Stretching the Imagination	Character writing.
10	Utopia	Describing a perfect society.
11	Ambitions, Hopes for the Future	Class project.
12	Email Writing, Requesting Information	Class project.
13	Practical Tips	Preparing for travel.
14	Self-analysis	Review and reflect.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to keep an English journal which will require weekly updates.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide course material.

【参考書】

An English to English dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination/Term Project

【学生の意見等からの気づき】

Some lesson content has been altered.

英語コミュニケーションⅡ

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

40% Final Examination/Term Project.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【授業の進め方と方法】

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Reorientation.	How to Prepare for Overseas Study.
2	Express Yourself.	Letter of Introduction to Host Family.
3	Understanding Messages.	Rules in the Home and School.
4	Classroom Techniques and Behaviour.	Japan and Beyond.
5	Eating Out.	The Culture of Food.
6	Etiquette.	Redundant in a Global Society?
7	Politics.	Having a Vote.
8	Health.	How to Stay Well.
9	Shopping.	Spending Wisely.
10	Travel.	Where Will You Stray?
11	Transport.	How to Get from A to B via X.
12	Superstitions.	The Same Everywhere?
13	Re-entry.	A Safe Landing.
14	Examination/Comments.	Examination/Comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text preparation and presentation planning will be required.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided as required.

【参考書】

And English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some Online News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In class evaluation

20% Homework.

英語コミュニケーションⅡ

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

40% Final Examination/Term Project.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【授業の進め方と方法】

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Reorientation.	How to Prepare for Overseas Study.
2	Express Yourself.	Letter of Introduction to Host Family.
3	Understanding Messages.	Rules in the Home and School.
4	Classroom Techniques and Behaviour.	Japan and Beyond.
5	Eating Out.	The Culture of Food.
6	Etiquette.	Redundant in a Global Society?
7	Politics.	Having a Vote.
8	Health.	How to Stay Well.
9	Shopping.	Spending Wisely.
10	Travel.	Where Will You Stray?
11	Transport.	How to Get from A to B via X.
12	Superstitions.	The Same Everywhere?
13	Re-entry.	A Safe Landing.
14	Examination/Comments.	Examination/Comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text preparation and presentation planning will be required.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided as required.

【参考書】

And English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some Online News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In class evaluation

20% Homework.

英語コミュニケーションⅡ

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【到達目標】

This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【授業の進め方と方法】

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Reorientation	How to Prepare for Overseas Study
2	Express Yourself	Letter of Introduction to a Host Family
3	Understanding Messages	Rules in the Home and School
4	Study skills and time management	Using your study time effectively
5	Sharing your own culture	Explaining Japanese arts and culture
6	Universal and local cultural rules	What is the same and what is different
7	Midterm Presentation	Students will present an aspect of Japanese culture
8	Social Rules	Making friends and building relationships
9	Ethics and honesty	Dealing with difficult situations
10	Diversity and Difference	Understanding people with different attitudes, beliefs and preferences
11	Individuality and Conformity	Learning to express who you are
12	Discussing controversial issues	Exploring difficult issues politely and respectfully
13	Presentation Preparation and Practice	Students will prepare for their final presentation
14	Final Presentation	Students will present a conversation about a difficult subject in pairs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students.

英語コミュニケーションⅡ

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【到達目標】

This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current skills and future needs.

【授業の進め方と方法】

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Reorientation	How to Prepare for Overseas Study
2	Express Yourself	Letter of Introduction to a Host Family
3	Understanding Messages	Rules in the Home and School
4	Study skills and time management	Using your study time effectively
5	Sharing your own culture	Explaining Japanese arts and culture
6	Universal and local cultural rules	What is the same and what is different
7	Midterm Presentation	Students will present an aspect of Japanese culture
8	Social Rules	Making friends and building relationships
9	Ethics and honesty	Dealing with difficult situations
10	Diversity and Difference	Understanding people with different attitudes, beliefs and preferences
11	Individuality and Conformity	Learning to express who you are
12	Discussing Controversial issues	Exploring difficult issues politely and respectfully
13	Presentation Preparation and Practice	Students will prepare for their final presentation
14	Final Presentation	Students will present a conversation about a difficult subject in pairs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students.

英語コミュニケーションⅢ

マーク・フィールド

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【授業の進め方と方法】

Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	How is Overseas Study Different?
2 回	The World is Your Classroom!	What Kind of Student Are You?
3 回	The World is Your Classroom!	What Kind of Student Do You Want to Be?
4 回	The World is Your Classroom!	What Kind of Student Should You Become?
5 回	The World's a Stage:	From Shakespeare to Internet Stars
6 回	The World's a Stage:	Hip-Hop Goes Home
7 回	The World's a Stage:	Role-play a Famous Person
8 回	In Style:	More than Shopping
9 回	In Style:	Real or Fake?
10 回	In Style:	Presenting and Defending an Argument
11 回	Decisions, Decisions:	Rational Decisions
12 回	Decisions, Decisions:	Peer Pressure
13 回	Decisions, Decisions:	The Teenage Brain
14 回	Examination/Review	Recapping what was covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】

Nancy Douglas & James R. Morgan, World Class 1, Cengage Learning,
ISBN-13:978-1-133-31081-5

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination/Term Project

**Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

英語コミュニケーションⅢ

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【授業の進め方と方法】

Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	How is overseas study different?
2	The World is Your Classroom	What kind of student are you?
3	The World is Your Classroom	What kind of student do you want to be?
4	The World is Your Classroom	What kind of student should you become?
5	Politeness	Ways of showing courtesy and respect.
6	Communication Styles	Verbal communication norms.
7	Communication Styles	Common differences in spoken behaviour.
8	Gender and Culture	Examining gender issues in Japan and abroad.
9	Gender and Culture	Cultural expectations and gender roles.
10	Diversity	Multiculturalism and stereotypes.
11	Diversity	Learning from our differences.
12	Social Change	Confronting social problems and discrimination.
13	Global Community	What kind of global citizen are you?
14	Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given homework in most lessons.

【テキスト（教科書）】

Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination/Term Project

【学生の意見等からの気づき】

Questions on the end-of-semester test have been updated.

英語コミュニケーションⅢ

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【授業の進め方と方法】

Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	How is overseas study different?
2	The World is Your Classroom	What kind of student are you?
3	The World is Your Classroom	What kind of student do you want to be?
4	The World is Your Classroom	What kind of student should you become?
5	Politeness	Ways of showing courtesy and respect.
6	Communication Styles	Verbal communication norms.
7	Communication Styles	Common differences in spoken behaviour.
8	Gender and Culture	Examining gender issues in Japan and abroad.
9	Gender and Culture	Cultural expectations and gender roles.
10	Diversity	Multiculturalism and stereotypes.
11	Diversity	Learning from our differences.
12	Social Change	Confronting social problems and discrimination.
13	Global Community	What kind of global citizen are you?
14	Examination	Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given homework in most lessons.

【テキスト（教科書）】

Identity, by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida (Oxford)

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination

【学生の意見等からの気づき】

Questions in the end-of-semester test have been updated.

英語コミュニケーションⅢ

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【成績評価の方法と基準】

40% In class evaluation.

20% Homework.

40% Final Examination/term project.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【授業の進め方と方法】

Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation.	How is Overseas Study Different?
2	The World Is Your Classroom.	What Kind of Student Are You?
3	The World Is Your Classroom.	What Kind of Student Would You Like to Be?
4	The World Is Your Classroom.	What Kind of Student Should You Become?
5	Food.	A Reflection of Culture.
6	Food.	A Social Tool.
7	Health.	Yours and Healthcare Around the World.
8	Politics.	Explain Your System and Understand Others.
9	Money.	Value and Price in Different Cultures.
10	Travel.	A Practical Issue.
11	Transport.	Reflecting The Needs of Users.
12	Belief.	Religion and Faith in Japan and Elsewhere.
13	Saying Goodbye.	How We Take our Leave.
14	Examination/Review	Examination/Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text preparation and Presentation planning will be required.

【テキスト（教科書）】

People Like Us Too. Simon Greenall. MacMillan Pub.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

英語コミュニケーションⅢ

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【成績評価の方法と基準】

40% In class evaluation.

20% Homework.

40% Final Examination/term project.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【授業の進め方と方法】

Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation.	How is Overseas Study Different?
2	The World Is Your Classroom.	What Kind of Student Are You?
3	The World Is Your Classroom.	What Kind of Student Would You Like to Be?
4	The World Is Your Classroom.	What Kind of Student Should You Become?
5	Food.	A Reflection of Culture.
6	Food.	A Social Tool.
7	Health.	Yours and Healthcare Around the World.
8	Politics.	Explain Your System and Understand Others.
9	Money.	Value and Price in Different Cultures.
10	Travel.	A Practical Issue.
11	Transport.	Reflecting The Needs of Users.
12	Belief.	Religion and Faith in Japan and Elsewhere.
13	Saying Goodbye.	How We Take our Leave.
14	Examination/Review	Examination/Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text preparation and Presentation planning will be required.

【テキスト（教科書）】

People Like Us Too. Simon Greenall. MacMillan Pub.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

英語コミュニケーションⅢ

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

20% In-class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Students in the course will provide feedback on other subjects that may be of interest and can be incorporated into future class plans.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【到達目標】

The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【授業の進め方と方法】

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	How is Overseas Study Different?
2	The World is Your Classroom!	What Kind of Student are You?
3	The World is Your Classroom!	What Kind of Student Do You Want to Be?
4	The World is Your Classroom!	What Kind of Student Should You Become?
5	Presentation	Presenting yourself with confidence and power
6	Presentation	Organizing, presenting and arguing your case
7	Group presentation	Preparation and practice
8	Mid-term Presentation	Students will present in groups
9	Informative discussion	Learning and teaching
10	Persuasive discussion	Presenting one on one
11	Persuasive discussion	Being politely powerful
12	Presenting yourself socially	The elements of business and personal networking
13	Final Presentation	Preparation and practice
14	Final Presentation	Students will present in groups

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

英語コミュニケーションⅢ

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Students in the course will provide feedback on other subjects that may be of interest and can be incorporated into future class plans.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【到達目標】

The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【授業の進め方と方法】

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	How is Overseas Study Different?
2	The World is Your Classroom!	What Kind of Student are You?
3	The World is Your Classroom!	What Kind of Student Do You Want to Be?
4	The World is Your Classroom!	What Kind of Student Should You Become?
5	Presentation	Presenting yourself with confidence and power
6	Presentation	Organizing, presenting and arguing your case
7	Group presentation	Preparation and practice
8	Mid-term Presentation	Students will present in groups
9	Informative discussion	Learning and teaching
10	Persuasive discussion	Presenting one on one
11	Persuasive discussion	Being politely powerful
12	Presenting yourself socially	Managing your image
13	Final Presentation	Preparation and practice
14	Final Presentation	Students will present in pairs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

ドイツ語コミュニケーション I

アネッテ・グルーバー

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Arbeit und Freizeit	Beschreibung verschiedener Berufsbilder
3	Ueber Vor- und Nachteile sprechen	Vergleich unterschiedlicher Aspekte dieser Berufe
4	Termine vorbereiten	Uhrzeit und Datum
5	Sich verabreden	Treffen vereinbaren oder ablehnen
6	Familie	Benennen von Verwandtschaftsverhaeltnissen
7	Haushalt	Aktivitaeten im Haushalt
8	Tagesablauf	Alltag einer Hausfrau
9	Berlin	Sehenswuerdigkeiten und Geschichte
10	Wegbeschreibung	Stadtplaene lesen und Wege erklaren
11	Ueber Vergangenes sprechen	Ueber das vergangene Wochenende berichten
12	Lieblingsorte	Die eigene Stadt beschreiben
13	Alltagssituationen 1	Idiomatik in typischen Situationen
14	Alltagssituationen 2	Idiomatik in typischen Situationen

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を必ず行う。宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】

Tangram aktuell 1, Lektion 5-8

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%

この講座は演習の要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40%

遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度のはやさ、説明の適切さなど、要望があれば応える。

ドイツ語コミュニケーションⅡ

ウテ・シュミット

配当年次／単位：2 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Im deutschsprachigen Raum leben und studieren

ドイツ語圏で生活するードイツ語圏で勉強する

【到達目標】

受講者は困難なくドイツ語圏で学生生活を送ることと、少しでも多く話せるようになることがこの授業の目標です。聴解力・読解力・表現力における弱点を補強し、基礎を確実なもの、使えるものとすることを目標にしています。

【授業の進め方と方法】

この授業では基礎文法を含むテキストを用い、ドイツ語圏の日常生活や文化のさまざまな場面に題材を求めた、会話練習、聴きとり練習等に取り組む。口語表現力を重視しますので、必要な分野の語彙を習得、実践的にパートナー練習を通じて、コミュニケーション能力をアップすることをめざしています。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einführung オリエンテーション	Sich vorstellen Ich und meine Familie
2	日常生活と大学 Mein Alltag	Zeiten und Termine im Alltag und an der Uni
3	余暇 Freizeit	Hobby und Vereinsleben プレゼンテーション
4	食生活 Ernährung	Lebensmittel einkaufen und Essen im Restaurant
5	買い物 Kaufen, Kaufen	Im Geschäft: Preise und Konsum
6	住居 Wohnen	Wohnungen und Möbel
7	An der Uni	Die Uni vorstellen プレゼンテーション
8	健康 Gesundheit	Beim Arzt
9	街の中 Orientierung	In der Stadt
10	場所と方向 Wege	Wegbeschreibungen verstehen
11	天気 Klima und Wetter	Wetterbericht verstehen
12	休暇 Urlaub	Eine Reise planen プレゼンテーション
13	祝日とお祭り Feiertage und Feste	Feste kennenlernen, Japanische Feste erklären
14	Wiederholung und mündliche Prüfung	復習 面接

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

使える語彙を増やすために毎回単語を覚えることです。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布します

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加（発言）（20 %）

提出した宿題（30 %）

プレゼンテーション（30%）

面接試験（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

文章を書く練習は役に立ったようで、引き続き授業で取り上げたいと思っています。

ドイツ語コミュニケーションⅢ

アネッテ・グルーバー

配当年次／単位：2 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語のコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、学生一人ひとりが実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語のコミュニケーション能力の習得を目指す。

【授業の進め方と方法】

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Wuensche	Ueber Wuensche, Traeume und Fantasien sprechen
3	Wuensche	Wuensche ausdruecken
4	Wohnungen	Eine Wohnung suchen, Wohnungsanzeigen lesen
5	Wohnungen	Ueber Wohnstile sprechen
6	Erinnerungen	Ueber Stationen des Lebens sprechen
7	Lebenslaeufe	Ueber beruehmte Personenlichkeiten sprechen
8	Erinnerungen	Sich an Vergangenes erinnern
9	Reisen	Ueber Reisen sprechen
10	Reisen	Einen Tagesablauf in einer anderen Stadt planen
11	Hotels	Hotels vergleichen
12	Reisen und Hotels	Ein Zimmer buchen
13	Im Hotel	Gespraechе im Hotel
14	Aus dem Leben gegriffen	Wiederholung

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を必ず行う。宿題を忘れないで行うこと

【テキスト（教科書）】

Tangram aktuell 2, Lektion 1-4

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%

この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40%

遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望あれあれば応える。

フランス語コミュニケーション I

カレンス・フィリップ

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語コミュニケーションの力を発展させるクラス。フランス語会話を日常生活の中で使えるように土台をつくる。

【到達目標】

フランスの中で旅行および生活するために不可欠な基礎の知識を習得する。

【授業の進め方と方法】

担当する講師は日本人、ネイティブともに同じテキストを使う。日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を養う。発音の聴き取り、繰り返し、質疑応答などのさまざまな練習を通じてフランス語コミュニケーションの力を発展させる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Présentations Unité 4 Leçon13 p47 Les nombres L'heure, les jours	自己紹介 数字 時間、曜日
2	Unité 4 Leçon14 p49 Parler de professions Lieux de travail	職業に関して話す 職場
3	Unité 4 Leçon15 p51 Actions dans le temps	時間と行為
4	Unité 4 Leçon15 p51 Actions habituelles Le sport	毎日の行為 スポーツ
5	Unité 5 Leçon17 p57 Habitudes alimentaires Quantités	飲食の習慣 量
6	Unité 5 Leçon18 p59 Actions passées	過去の行為
7	Unité 5 Leçon18 p59 Exprimer une opinion Test de mi-trimestre	意見を述べる 中間テスト
8	Unité 5 Leçon19 p61 Déplacements (passé)	移動 (過去)
9	Unité 5 Leçon19 p61 Interroger sur le temps Activités de fêtes	時間についての質問 祭日のイベント
10	Unité 6 Leçon21 p67 Permission Interdiction	許可 禁止
11	Unité 6 Leçon22 p69 Possibilités Savoir-faire Volonté, obligation	可能性 能力 意土, 義務
12	Unité 6 Leçon23 p71 Faire des propositions	提案する
13	Test de fin de trimestre	期末テスト

14	Correction du test Culture française	テストの返却 フランスの文化
----	---	-------------------

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習問題、復習問題、宿題

【テキスト（教科書）】

Nouveau Taxi 1 . Guy Capelle / Robert Menand
Hachette

【参考書】

Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】

1：平常点 (5 %)	3：宿題 (30 %)
2：積極性 (5 %)	4：定期試験 (60 %)

【学生の意見等からの気づき】

冠詞や前置詞などをよりわかりやすく説明し、初歩の段階から苦手意識を持たず、楽しんで学習できるよう工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレーヤー

フランス語コミュニケーションⅡ

近江屋 志穂

配当年次／単位：2 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スタディ・アブロード・プログラムで予定されているアンジェ滞在にむけて、必要な会話表現と基礎文法を学びます。

【到達目標】

教科書 *Le Nouveau taxi!* 1 を終え、学んだ表現を使いこなせるようになること。

【授業の進め方と方法】

他の授業と協力し、教科書 *Le Nouveau taxi!* 1 を中心に進めます。

この授業では

- －文法事項の理解・文法練習問題
 - －重要表現の理解
 - －教科書のダイアローグの発音練習と暗記
- を行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	24 課までの復習／授業の進め方説明
2	Leçon 25	好きなことについて語る。
3	Leçon 26	意見を言う。異議を唱える。
4	Leçon 27	好みについて述べる。助言する。
5	Leçon 29	過去の習慣について話す。
6	Leçon 30	過去の出来事、過去の状況について話す。
7	Leçon 31	時間の表現、目的の表現を学ぶ。
8	中間試験	筆記試験
9	Leçon 33	未来のことについて話す。
10	Leçon 34	未来の計画について話す。
11	Leçon 35	条件・仮定の表現を学ぶ。
12	Évaluation	練習問題を解く
13	期末試験	筆記試験
14	DELF 試験問題	テスト返却／練習問題を解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として最低限、ダイアローグの発音練習を行ってください。教科書の CD は暗記するほど聴いてください。

【テキスト（教科書）】

Guy Capelle & Robert Menand, *Le Nouveau taxi! 1 Méthode de français*, Hachette, 2009.

【参考書】

中井珠子、南玲子、飯田良子『フランス人が日本人によく聞く 100 の質問』全面改訂版、三修社、2013 年

* SA 先で日本の文化について聞かれたときのために。時間の許す限り授業内でも取り上げます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 %、中間試験 40 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞典（電子辞書可）

フランス語コミュニケーションⅢ

カレンス・フィリップ

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス・アンジェへ行く前の直前準備講座。基礎文法、必須な語彙を復習する。

【到達目標】

前年度よりさらに会話のテーマを広げながら、フランスで暮らせるために色々な角度からコミュニケーションの力を強化させる。

【授業の進め方と方法】

前年度と同じテキストを使い、基本的に同様の教え方を行う。フランスで暮らせる目的を固めながら、フランス語でネイティブとコミュニケーションを取るように会話の能力を強める。それぞれの日常生活の状況に関係がある様々な会話パターンを覚え、反応及び会話のスピードを高める練習も行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unité 7 Leçon25 p78 Révisions Activités de loisirs (sport, musique, jeux)	復習 休暇の行為 (スポーツ、音楽、ゲーム)
2	Unité 7 Leçon25 p79 Exprimer ses goûts et ses préférences	趣味、好み
3	Unité 7 Leçon25 p79 Fréquence, degrés	頻度、程度
4	Unité 7 Leçon26 p81 Exprimer une opinion Contester	意見 異議
5	Unité 7 Leçon27 p83 Donner une appréciation sur ses goûts	好みについて評価
6	Unité 7 Leçon27 p83 Donner des conseils	助言、アドバイス
7	Unité 8 Leçon29 p89 Evènement récents Etats et habitudes passés Test de mi-trimestre	近未来の出来事 過去の習慣（半過去） 中間テスト
8	Unité 8 Leçon30 p91 Evènements passés、 Circonstances et états passés	過去の出来事、 過去の状況・状態
9	Unité 8 Leçon31 p93 Situer dans le temps Le but	時間の表現 目的
10	Unité 9 Leçon33 p99 Prévisions (météo) Probabilité Certitude	天気予報 可能性
11	Unité 9 Leçon34p101 Expression du futur Projets	未来 計画

12	Unité 9 Leçon35p103 Hypothèse Condition	仮定 条件
13	Test de fin de trimestre	期末試験
14	Correction du test Symboles de la France	テスト返却 フランスのシンボル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、宿題

【テキスト（教科書）】

Le Nouveau Taxi 1. Guy Capelle / Robert Menand
Hachette

【参考書】

Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】

1：平常点（5%） 3：宿題（30%）
2：積極性（5%） 4：定期試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

具体的なシチュエーションのなかで、より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

ロシア語コミュニケーション I

コベルニック ナディア

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる会話表現の習得を目標とする授業です。ロシア語の発音とイントネーションに慣れることから始め、挨拶、受け答えの基礎から徐々に語彙を増やしていき、最小限の日常行動が可能となるような会話の基礎を作ります。また、講師との対話（会話）を通して、現地事情を感じてもらえるような授業を目指します。

【到達目標】

簡単なロシア語の質問を正しく理解し、答えることができる。簡単な言葉で自分のことを表現できる。文章を正確に読むことができる。

【授業の進め方と方法】

会話の基礎は、定型的なフレーズの音読練習、暗記、場面での応用で築かれていきます。授業では発音・イントネーションの練習、場面設定でのロール・プレイなどを行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前期の復習	前期に既習した事項を復習する。
2	食材	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
3	料理、飲み物	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
4	料理の味・調理法	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
5	レストラン	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
6	地図、世界の言語	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
7	職業、施設・機関	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
8	移動、交通機関	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
9	町、建物	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
10	形容詞	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
11	動物、鳥、昆虫	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
12	クリスマス、お正月 年賀状の書き方	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
13	「私の一日」（日常生活）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習（新出単語の意味調べ、文章の音読練習）と復習（授業で学んだことの復習）をすること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

匹田剛 (2016)『これならわかる ロシア語文法：入門から上級まで』NHK 出版。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、期末試験 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】

個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

ロシア語コミュニケーションⅡ

コベルニック ナディア

配当年次／単位：2 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

9 月からの現地学習に備え、必要な会話力習得を目的とする授業です。1 年次に学習したことを基に、また、会話表現に必要な事項を補いつつコミュニケーション力をつける練習を繰り返し行います。

【到達目標】

ロシアで学習、生活する上で必要な語彙を習得すること。ロシア語での質問を正確に理解し、それに適切に答えられること。自分の考えをロシア語で表現できること。

【授業の進め方と方法】

授業ではテーマごとに文章を音読し（発音・イントネーションを確認するため）、そこで使われている表現をロール・プレーなどを通して練習します。その後、覚えてきた表現を使い短いロシア語の文章を作成する練習も行います。更に、ロシア語での質疑応答に答えられる訓練を行います。

会話を中心とした授業なので、積極的に授業に参加していただきたい。誤りを恐れずに発言することが語学上達につながります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと既習の会話表現の復習	既習の会話表現の復習を行う。
2	自己紹介	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
3	家族	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
4	私が住んでいる家（建物、庭）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
5	私が住んでいる家（部屋、家具、設備）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
6	私が住んでいる家（まとめ）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
7	自然、ハイキング	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
8	教育、学生生活	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
9	教育、学生生活（まとめ）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
10	人間の身体部位	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
11	人間の身体部位（まとめ）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
12	人の外見	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
13	人の外見（まとめ）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各テーマで読んでいく文章の中でわからない単語があったら調べておくこと。また、授業で学んだ表現をよく復習すること。文章は音読すること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

匹田剛 (2016)『これならわかる ロシア語文法：入門から上級まで』NHK 出版。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)、宿題 (30%)、期末試験 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】

個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

ロシア語コミュニケーションⅢ

コベルニック ナディア

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現地での学習に備えるため、会話でよく使われる語彙や表現を身につけ、それをもとに相手に自分の考えを伝える訓練を行います。また、短いロシア語の文章を作成する練習も行います。さらに、テーマに沿ってロシアでの生活に関することを紹介していきます。

【到達目標】

自分のことをロシア語で表現できる（話す、書く）、他のテーマについても簡単なロシア語を使って表現（話す、書く）ができる。

【授業の進め方と方法】

授業では文章を音読し、そこで使われている表現の練習をします。そして、授業中に覚えてきた表現を使い短いロシア語の文章を作成する練習も行います。

会話を中心とした授業なので、積極的に授業に参加していただきたい。誤りを恐れずに発言することが語学上達につながります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと既習の会話表現の復習	既習の会話表現の復習を行う。
2	日常生活、趣味	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
3	カレンダー、時間の表現	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
4	カレンダー、時間の表現（まとめ）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
5	交通機関、切符売り場	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
6	交通機関、切符売り場（まとめ）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
7	道の案内	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
8	旅行、ホテル	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
9	買い物	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
10	電話（友達と話す）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
11	電話（お問い合わせ、お祝いなど）	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
12	病気と健康	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
13	診療所・病院にて	発音とイントネーションの練習。 授業のテーマに関する表現を学ぶ。会話練習を行う。
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各テーマで読んでいく文章の中でわからない単語があったら調べておくこと。また、授業で学んだ表現をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

匹田剛 (2016)『これならわかる ロシア語文法：入門から上級まで』NHK 出版。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)、宿題 (30%)、期末試験 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】

個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

中国語コミュニケーションⅠ

蒋 彥婷

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を習得する。

【到達目標】

中国語コミュニケーションに必要な不可欠な発音と基礎的な文法に関する知識と技能を身に付ける。

【授業の進め方と方法】

発音及び読解の練習を中心としつつ、徐々に習熟度を高めるよう授業を進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	会話と授業に関する説明	中国語会話の練習と授業に関する注意事項の説明
②	第1課	新出単語とポイント 動詞の後ろの「給」 「跟～一樣」 「从来+不/没有～」 「～什么的」
③	第1課	本文とトレーニング
④	第2課	新出単語とポイント 「即使～也…」 「越来越～」 疑問詞「也/都…」 「不僅～, 而且…」
⑤	第2課	本文とトレーニング
⑥	第3課	新出単語とポイント 「因為～, 所以…」 否定の語気を強める「又」、反駁、詰問の語気を表す「什么」
⑦	第3課	本文とトレーニング
⑧	第4課	新出単語とポイント 「又～又…」 「虽然～但是…」 「只要～, 就…」 「像～似的」
⑨	第4課	本文とトレーニング
⑩	第5課	新出単語とポイント 「有的～, 有的…」 形容詞の重ね型 「～得了/不了」 「不管～, 也/都…」
⑪	第5課	本文とトレーニング
⑫	第6課	新出単語とポイント 「不是～, 而是…」 「对～来说…」 動態助詞「着」 「非～不可」
⑬	第6課	本文とトレーニング
⑭	復習、試験、解説	ここまで習った内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業に出るまでに必ず復習と予習をしてくること。各課の新出単語とポイントをしっかり記憶し、理解したかどうかチェックすること。
・毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

『チャレンジ！ 二年生の中国語』－簡明会話版－

著者：南 勇 朝日出版社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、小テスト（20 %）、平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を行うために、前年度の授業アンケートの学生の意見や要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

中国語コミュニケーションⅡ

薬 会

配当年次／単位：2 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語による作文の能力を向上させます。

【到達目標】

初級後段階中級前段階の作文能力を身につけることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

毎回、こちらが提示した作文の練習問題を、既習の語彙・文法知識に基づき完成し、提出する。また、提出し添削されたプリントを理解し、その後の作文に生かすために復習する。最終的にS A開始時の「宿題」に対応できるための基礎作りとする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数字・量詞の文	時間 お金 「二」と「両」量詞
2	断定の文 否定	「是」構文 動詞・形容詞構文 「不」「没有」
3	疑問文	「吗」「呢」 反復疑問文 疑問詞 疑問文
4	連体・連用修飾を含む文	「的」「地」 副詞と形容詞
5	「把」を使用した文	「把」構文
6	受け身文	「被」「叫」「让」など
7	使役文・兼語文・連動文	「叫」「让」「去」など
8	存現文	「在」「有」「動詞＋着」
9	比較の文	「比」「一样」など
10	介詞を使用した文	「从」「离」「在」「跟」「为了」など
11	助動詞の文	「会」「能」「可以」など
12	テンス・アスペクト	「了」「着」「过」
13	補語の文	程度・方向・結果・数量・可能補語
14	試験・まとめ	口頭試験と筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

① この授業が始まるまでに『ポイント学習初級中国語』（大石智良他著 東方書店）の内容を復習し、また毎回必ず教室に持参してください。

② 教室へ来る前に、必ず前週までに習った内容や授業中に使用したプリントを確認し、事前に目を通しておいください。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

『ポイント学習初級中国語』（大石智良他著 東方書店）。また、出版社は指定しませんが、各自自分の使い慣れた日中、中日辞典を持参してください。

【成績評価の方法と基準】

小テストや提出物の完成度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは「唐诗の暗記が楽しかった」「教え方が良く確実に頭に残る授業でした」「きつかったけど力になりました」との意見がありました。引き続き、色々と進め方を工夫して授業を進めて行きたいと思います。また、アンケートでは授業外学習に時間をあまり使わない学生の割合が高いことが分かりました。予習復習や課題の面では改善する必要があります。

中国語コミュニケーションⅢ

蒋 彧婷

配当年次／単位：2 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年次の既習内容に引き続き、更に基礎を固め、読解力や表現力などのスキルアップにつないでいくことを目的とする。

【到達目標】

一年次に習った内容を軸に、留学に必要な音読・訳読がこなせる。

コミュニケーションを取れるスキルがアップできる。

表現力を身に付ける。

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、履修者のレベルを確認の上、内容への理解をチェックしながら、効果的に授業を進めていく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	復習	発音のブラッシュアップと授業を受ける際の注意事項の説明など
②	第7課	难道～吗，会，连～也/都，为了
③	第7課	本文とトレーニング
④	第8課	形容词的动词用法，越～越～，住，趁
⑤	第8課	本文とトレーニング
⑥	第9課	以为，要不然，敢，别看
⑦	第9課	本文とトレーニング
⑧	第10課	该，等，没想到，并+不/没有
⑨	第10課	本文とトレーニング
⑩	第11課	看来，既～也～，只有～才～，地
⑪	第11課	本文とトレーニング
⑫	第12課	既然～就～，关于，是不是，不知道～（才）好
⑬	第12課	本文とトレーニング
⑭	復習、試験、解説	ここまで習った内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出るまでに必ず復習と予習をしてくること。各課の新出単語と文法をしっかりと記憶し、理解したかどうかチェックすること。

毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

『チャレンジ！ 二年生の中国語』一簡明会話版—

著者：南勇 朝日出版社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50%）、学習態度や学習意欲（20%）、小テスト（20%）、平常点なども（10%）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すために、前年度の授業アンケートの学生の意見や要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

スペイン語コミュニケーション I

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Prácticas comunicativas.

【到達目標】

El objetivo de este curso es que los alumnos se familiaricen con el español hablado. Llevaremos a la práctica, mediante conversaciones sencillas, los conocimientos gramaticales que ya hayan adquirido y los que vayan adquiriendo. Cuidaremos la correcta pronunciación y entonación.

Que al final de este curso los alumnos sean capaces de entender y desarrollar en español conversaciones sencillas de la vida cotidiana, ese es nuestro objetivo principal.

【授業の進め方と方法】

Para conseguir el objetivo arriba mencionado, además de usar el libro de texto fijado para esta clase, yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Alfabeto. Ortografía y pronunciación.
2	Comunicación	Expresiones útiles en clase. Comunicación : Saludos y presentaciones.
3	Comunicación	Nombres propios. Números (I). Cultura : Nombres y apellidos.
4	Comunicación	Género y número de los sustantivos. Práctica. Expresiones con el artículo determinado. Práctica de los pronombres personales de sujeto.
5	Comunicación	Verbo SER, presente de indicativo. Usos y práctica. Oraciones interrogativas y negativas.
6	Comunicación	Números (II). Profesiones. Nacionalidades. Práctica. Cultura : Personajes históricos.
7	Comunicación	Expresiones con el artículo indeterminado. Práctica de los adjetivos posesivos y calificativos.
8	Comunicación	Verbo TENER, presente de indicativo. Usos y práctica. Interrogativos (I). Números (III).
9	Comunicación	Miembros de la familia. Comunicación : descripción de personas. Cultura: Gestos. Repaso.
10	Comunicación	Verbo ESTAR, presente de indicativo. Usos y práctica. Usos de HAY. Práctica de los adjetivos y pronombres demostrativos.

11	Comunicación	Comunicación :localización de personas y objetos. Adverbios de lugar. Números (IV)
12	Comunicación	Números ordinales. Cultura : Ciudades patrimonio de la Humanidad.
13	Comunicación	Presente de indicativo, verbos regulares e irregulares. Usos y práctica. Interrogativos (II). Comunicación : actividades cotidianas. Días de la semana
14	Comunicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】

j NOS GUSTA! 1 ~GRAMÁTICA PARA HABLAR~

発見！大好き!! スペイン語!!! 1 ~文法からコミュニケーションへ~

朝日出版社

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (70%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

スペイン語コミュニケーションⅡ

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Prácticas comunicativas.

【到達目標】

Nuestro objetivo es elevar la capacidad de comprensión y expresión, fundamentalmente oral, de los alumnos.

La ampliación y enriquecimiento de su vocabulario será uno de nuestros principales objetivos.

Nos proponemos que, semana tras semana de clase, los alumnos vayan adquiriendo una mayor destreza en comprender y expresarse oralmente en muy diversas situaciones.

【授業の進め方と方法】

Para conseguir el objetivo arriba mencionado, además de usar el libro de texto fijado para esta clase, yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Repaso. Comunicación : las vacaciones de primavera.
2	Comunicación	Expresiones con IR A + infinitivo. Hablar de planes e intenciones.
3	Comunicación	Práctica de los verbos con cambio vocálico y las preposiciones. Expresión de la hora.
4	Comunicación	Meses y estaciones del año. Medios de transporte Hablar de acciones futuras. Cultura : Museos.
5	Comunicación	Práctica de los verbos reflexivos. La casa. Partes de ella.
6	Comunicación	Expresiones del clima. Cultura : Hábitos y costumbres.
7	Comunicación	Práctica de los pronombres de objeto directo. Expresiones con SABER, CONOCER y PODER.
8	Comunicación	Práctica de QUERER + infinitivo y PODER + infinitivo. Comidas y bebidas. Recetas de cocina.
9	Comunicación	Comunicación: pedir en un restaurante. Repaso. Cultura : Las comidas.
10	Comunicación	Práctica de las preposiciones y los pronombres de objeto indirecto. Expresiones del comparativo y superlativo.

11	Comunicación	Ropa, accesorios, etc. Práctica de los colores. Comunicación: de compras en una tienda. Cultura: La Navidad.
12	Comunicación	Práctica del verbo GUSTAR y otros que se usan de la misma manera. Expresión de la comparación del adverbio.
13	Comunicación	Actividades del tiempo libre. Deportes. Comunicación: hablar de gustos y aficiones. Cultura: Fiestas populares. Repaso general.
14	Comunicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】

Panorámica del español
スペイン語のある風景
(出版社) 同学社

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (70%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

スペイン語コミュニケーションⅢ

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：2年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Prácticas comunicativas.

【到達目標】

Nuestro objetivo es, como en los cursos anteriores, elevar la capacidad de comprensión oral de los alumnos y su destreza en expresarse oralmente.

Tienen que conseguir aumentar considerablemente su vocabulario, de cara, sobre todo, a su próxima ida a España.

Antes de ese momento, nos proponemos que lleguen a un nivel que les permita aprovechar al máximo su estancia y sus clases en España.

【授業の進め方と方法】

Para lograr el objetivo arriba mencionado, además de usar el libro de texto indicado para esta clase, yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Repaso. Expresiones con el verbo DOLER.
2	Comunicación	Expresiones con SER, ESTAR + adjetivo. Oraciones exclamativas. Expresiones con TENER QUE y HAY QUE + infinitivo. Práctica de los pronombres y adjetivos indefinidos.
3	Comunicación	Partes del cuerpo. Comunicación : estado físico y sentimientos. Cultura : Hábitos Deportivos.
4	Comunicación	Práctica del pretérito indefinido de indicativo. Verbos regulares e irregulares. Uso de los marcadores de tiempo.
5	Comunicación	Actividades del tiempo libre. Comunicación : hablar de acciones pasadas.
6	Comunicación	Repaso. Cultura : Lenguas.
7	Comunicación	Práctica del pretérito imperfecto de indicativo. Verbos regulares e irregulares. Práctica del pronombre relativo QUE.
8	Comunicación	Diferencias entre el indefinido y el imperfecto. Práctica. Repaso general.
9	Comunicación	Usos del infinitivo, gerundio y participio. Práctica.
10	Comunicación	Uso del presente continuo. Práctica.
11	Comunicación	Pretérito perfecto de indicativo. Usos y práctica.

12	Comunicación	Pretérito pluscuamperfecto de indicativo. Usos y práctica.
13	Comunicación	Práctica del imperativo.
14	Comunicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】

Panorámica del español

スペイン語のある風景

(出版社) 同学社

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (70%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Reforzar el uso de material complementario elaborado por mí.

朝鮮語コミュニケーション I

富所 明秀

配当年次／単位：1 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3」「朝鮮語 6」「朝鮮語コミュニケーション I」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習, 「やりもらい」
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形, 禁止形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
5	第 3 課	文中の疑問形, 方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオッ不規則用言, 動詞のこそあどことば
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
8	第 5 課	用言の名詞形, いくつかの助詞
9	第 6 課	推量表現, 大過去
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
11	第 7 課	「～しながら」, 指定詞の第Ⅲ語基
12	第 8 課	用言の「である」形, 間接話法 1
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめてから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

朝鮮語コミュニケーションⅡ

梁 禮先

配当年次／単位：2 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

内容は少々変わることもあります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「話す」「聞く」力の一層のレベルアップを計り、重なる「話す」「聞く」訓練を通して、自信を持って自然な朝鮮語の会話を身に付けていくことを目指します。今まで習った朝鮮語の力を、会話で様々な応用できるように、そのスキルを一層磨いていきます。

【到達目標】

SA に行った時のために、ある程度の生活会話が可能になることがこの授業の到達目標です。自分で考えてあらゆる場面で自然な表現ができるように、会話の力を磨いていきます。

【授業の進め方と方法】

会話中心に授業を進めていきます。会話体の言葉に慣れていくように、話す訓練などを通して身に付けていけるようにします。また、一年間習った朝鮮語の語彙・文法などを使って、自分で文章を考えて言葉にする訓練も繰り返していく予定です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と簡単に復習	授業の進め方についての説明をします。
第2回	お久しぶりです	課題と会話とあいさつ文についての説明。
第3回	病気のとき	課題と会話と病気に関する単語などの説明。
第4回	私の家族	課題と会話とその説明について。
第5回	歌で習う朝鮮語	課題と韓国の歌から朝鮮語を習う。
第6回	天気について	課題と会話と四季などについての説明。
第7回	今日は何をしますか？	課題と会話と会話の言い回しの説明。
第8回	今日は何をするの？	課題と会話とバンマルについて。
第9回	遊園地にいきましょう	課題と会話とその説明について。
第10回	学校で	課題と会話とその説明について。
第11回	郵便局で	課題と会話とその説明について。
第12回	ホテルで	課題と会話とその説明について。
第13回	美容院で	課題と会話の練習とその説明について。
第14回	期末評価	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題について準備すること。また、事前に出すレポートもやってくる。

【テキスト（教科書）】

梁 禮先「朝鮮語コミュニケーションⅡ」とプリント（テキスト・プリントともに自家製教室用教材）

【参考書】

朝鮮語辞書、韓国に関連のある歴史・文化などの書籍。

【成績評価の方法と基準】

朝鮮語で積極的に発言をすること。

発表・課題・小テスト・平常点の総合点 (30%)、期末テスト (70%)

【学生の意見等からの気づき】

もっと会話に力を入れること。

発音をもっと練習したいなど。

朝鮮語コミュニケーションⅢ

富所 明秀

配当年次／単位：2 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：グループ指定

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

SA に通用する語学力の習得、具体的には韓国外国語大「韓国語文化教育センター」の「3 級」に編入できることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 7」「朝鮮語 8」「朝鮮語コミュニケーションⅢ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	前学期の復習と今学期の方針の説明をします。
2	第 9 課	ハンダ体、間接話法 2
3	第 10 課	間接話法と第Ⅲ語基
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
5	第 11 課	理由をあらわす表現、各種の濃音化
6	第 12 課	「やりもらい」の間接話法、助詞の尊敬形
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
8	第 13 課	使役形、2 ケタの固有数字
9	第 14 課	「～して」のさまざまな用法
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
11	第 15 課	漢字の読み方、南北のことばの違い
12	第 16 課	話者の体験をあらわす語尾、年月日と週の言い方
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年次の授業で配布した単語集を中心に、語彙力を高めるよう自主的に努力してください。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

語学の勉強は授業時間内だけで完結するものではありません。日常生活のなかで「朝鮮語ではどう表現するのか？」ということを考える習慣をつけましょう。

英語アプリケーション（月曜・2限）Art, Rebellion and Advertising

マーティン・ブラッドショー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course is designed to improve students' critical thinking ability by challenging their belief systems while examining three cultural phenomena – art, rebellion and advertising.

【到達目標】

English Application is an integrated communication skills course with a focus on English for Academic/Specific Purposes. This course will examine certain cultural phenomena that impact our lives.

【授業の進め方と方法】

Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere surface appearance. We will use this notion of 'possibility' to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation	Student Selection & Class Overview
Week 2	Theme: Art	Topic: Symbols and Logos.
Week 3	Theme: Art	Topic: Symbols and meanings – Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'.
Week 4	Theme: Art	Topic: Analysis of Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows.'
Week 5	Theme: Art	Topic: A Comparison of Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife' (1943).
Week 6	Theme: Art	Topic: Art and Function: Can functional objects be works of art?
Week 7	Theme: Rebellion	Topic: Music as means to change – Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s.
Week 8	Theme: Rebellion	Topic: Music as means to change – Bob Dylan and Neil Young.
Week 9	Theme: Rebellion	Topic: Martin Luther King: 'I have a dream' speech.
Week 10	Theme: Advertising	Topic: Advertising techniques.
Week 11	Theme: Advertising	Topic: Advertising techniques continued.
Week 12	Theme: Advertising	Topic: Advertising and branding.
Week 13	Theme: Beliefs	Topic: Is the unexamined life worth living?

Week 14	Theme: Final remarks and discussion	Topic: Final comments.
---------	-------------------------------------	------------------------

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Student presentations are to be researched outside class. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】

No required textbook.

【参考書】

References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Students are required to give presentations based on topics discussed in class. The purpose of the presentations is to further class discussion. Students are required to complete all assigned presentations to receive a passing grade. Class grade is based on presentations and participation in class discussions.

Presentations – 70%

Class participation – 30%

Passing grade for the class is 60%.

【学生の意見等からの気づき】

No changes from 2017.

英語アプリケーション（月曜・3限）The Basics of Supply and Demand in Market Economics

Kregg Johnston

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること
他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Deepen overall knowledge of economic vocabulary and theories in English and be able to understand and state opinions on a variety of themes in microeconomics.

【到達目標】

This course aims to accomplish the following: 1. develop the student's knowledge of key vocabulary and concepts of economic theory with particular emphasis on microeconomics 2. understand and be able to explain microeconomic models both verbally and graphically 3. analyze how changes in economic factors can affect individuals and entities within the economy 4. improve student communicative competence through the study of microeconomics.

【授業の進め方と方法】

1. Students read chapter in book
2. A teacher-led discussion on the material from each chapter
3. Student-led discussions in small groups of self-Check questions, review questions, critical thinking questions
4. End of chapter quizzes
5. Short writing assignments on topics covered in class (though not for every chapter).
6. Student presentations on topics covered in chapters (schedule and class size permitting).

【授業計画】

回	テーマ	内容
Intro	Introduction to course & level check	• Course overview • Intro to chapter 1 Welcome to Economics • Level Check • Presentation of Chapter 1 concepts
Chapter 1	Welcome to economics: introduction	
Chapter 1	Welcome to economics: questions & problems	• Go over self-check & Review questions • Discuss critical thinking questions
Chapter 2	Choice in a world of scarcity: introduction	• Chapter 1 quiz • Presentation chapter 2 Choice in a world of scarcity
Chapter 2	Choice in a world of scarcity: study questions & problems	• Go over self-check & review questions • Discuss critical thinking questions
Chapter 3	Demand & supply: introduction	• Chapter 2 quiz • Presentation chapter 3 Demand & supply
Chapter 3	Demand & supply: study questions & problems	• Go over self-check & review questions • Discuss critical thinking questions
Chapter 5	Elasticity: introduction	• Chapter 3 quiz • Presentation chapter 5 Elasticity

Chapter 5	Elasticity: study questions & problems	• Go over self-check & review questions • Discuss critical thinking questions
Chapter 6	Consumer choices: introduction	• Chapter 5 quiz • Presentation chapter 6 Consumer choices
Chapter 6	Consumer choices: study questions & problems	• Go over self-check & review questions • Discuss critical thinking questions
Chapter 7	Cost & industry structure: introduction	• Chapter 6 quiz • Presentation chapter 7 Cost & industry structure
Chapter 7	Cost & industry structure: study questions & problems	• Go over self-check & Review questions • Discuss critical thinking questions
Final quiz	Final quiz: Short presentations on assigned economic topics	• Quiz on units 1-7 • Short presentations on economic topics from previous chapters

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Read the assigned chapters in the book.
2. Complete the assigned self-check & review questions at the end of each chapter.
3. Prepare for regular quizzes after finishing each chapter.
4. Come to class ready to participate actively in each class by using English during class.

【テキスト（教科書）】

Principles of Microeconomics by Openstax.org (an online textbook)

【参考書】

Vocabulary development sites:

<https://quizlet.com/>

<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

- Quizzes 50%
- Attendance, Participation, & homework 20%
- Presentations 15%
- Written assignments 15%

Registered students who miss more than 3 classes will fail the course.

【学生の意見等からの気づき】

More instruction on managing specialized vocabulary found in economics.

More practice in presenting economic models graphs to an audience.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 24 students. If the number of students exceeds the number of seats available, students will be screened based on the level check given in the first class. Students hoping to take the class must attend the first class in order to ensure that they can get a seat. Students who don't attend the 2nd class after attending the 1st will be assumed to have dropped the course. Regular attendance is required to pass the class!

英語アプリケーション (火曜・4限) Culture, why are there differences?

ウォルター カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This class offers English to talk about experience abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【到達目標】

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	overview of class requirements
Week 2	Youth culture	Examining aspects of youth trends such as tatoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.
Week 3	Youth employment: where does the money go?	Youth shopping trends for services and products
Week 4	Elderly trends	Shopping for health, plastic surgery and Internet dating
Week 5	Careers and employment Research habits	Working life: what is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Conducting group research-different sharing tips
Week 6	Alternative career tracks Outlining of presentations	Unusual fields for employment Cluster and formal outlining
Week 7	Medical advances Presentation tip - explanation of structure	How medical technology is shaping our world of diseases and viruses Introduction/Body/Conclusion
Week 8	Medical research Presentation tip- use of voice and posture	Big pharma: how medicine changes our reality voice and body language dos and don't s for English public speaking
Week 9	Health issues Presentation tip- use of slides	Diet considerations for life stages slide making dos and don'ts
Week 10	Mental Health considerations Presentation tip- Group work	Overworking, group and relationship stresses Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together
Week 11	Technology in our blood Presentation tip- Final slide editing	Technology changes: Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up, Run through checklist of questions to ask on final edit
Week 12	Youth trend Presentations	Presentations and discussions of youth trend themes

Week 13	Elderly Presentations	Presentations and discussions of elderly trend themes
Week 14	Health/medical advances Presentations	Presentations and discussions of health and medical advances

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework, blog work, some presentation preparation.

【テキスト (教科書)】

No textbook.

【参考書】

Handouts, websites, class blog.

【成績評価の方法と基準】

Class participation - 50%

Project and presentation - 25%

Other assignments - 25%

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work would be useful.

【学生が準備すべき機器他】

PC/AV

英語アプリケーション（火曜・5限）Why culture matters?- truths and fallacies

ウォルター カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class offers English to talk about experience abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【到達目標】

Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan.

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	overview of class requirements
Week 2	Describing your life	Language activities centering around student life
Week 3	Describing other lives	Language activities centering around family and acquaintance routines
Week 4	Explaining customs in your country	holidays, national/regional habits
Week 5	Explaining customs in selected Asian countries	holidays, national/regional habits
	Research habits	Conducting group research-different sharing tips
Week 6	Explaining customs in selected Western European countries	holidays, national/regional habits
	Outlining of presentations	Cluster and formal outlining
Week 7	Discussion of Asian and Western national differences	national holidays, customs versus habits
	Presentation tip - explanation of structure	Introduction/Body/Conclusion
Week 8	Discussion of South American customs in selected countries	national holidays, national/regional habits
	Discussing cultural differences	Examining cultural differences; dos and don'ts
	Presentation tip-use of voice and posture	voice and body language dos and don'ts for English public speaking
Week 9	Discussing food habits	Diet and how it affects customs
	Presentation tip-use of slides	slide making dos and don'ts
Week 10	Habits of selected parts of Africa	national holidays, national/regional habits
	Presentation tip-Group work	Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together

Week 11	Examination of sports by continent-selected countries Presentation tip-Final slide editing	sports comparison by types, number of players variations in styles of play, equipment Run through checklist of questions to ask on final edit
Week 12	Asian presentations with discussion of main themes What would you do?	discuss themes of presentations based on music, art, and traditional public customs Culture clash examples
Week 13	Western European Presentations with discussion of main themes	discuss themes of presentations based on music, art, and traditional public customs Look at unusual food
Week 14	South American Presentations with discussion of main themes What are the rules?	discuss themes of presentations based on music, art, and traditional public customs Relook at sports, but ones with unusual rules

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation.

【テキスト（教科書）】

No textbook.

【参考書】

Handouts, websites, class blog.

【成績評価の方法と基準】

Class participation - 50%

Project and presentation - 25%

Other assignments - 25%

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work.

【学生が準備すべき機器他】

PC/AV

英語アプリケーション (金曜・2限) Instant Fluency

マーティン・ブラッドショー

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The aim of this application course is to acquaint students with certain social/global topics and for the students to communicate their thoughts on the topics with their peers.

【到達目標】

English Application is an integrated communication skills course with a focus on English for Academic/Specific Purposes. Through pairwork and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control. Each class period will be divided into four parts: (a) pairwork practice of a preassigned conversation (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a weekly topic and (d) a task-based pairwork activity. Students' progress in pairwork activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory and will be monitored. 20% of the course grade is based on active class participation. All classes are student-centered to maximize speaking opportunities.

【授業の進め方と方法】

All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pairwork and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pairwork practice of a preassigned conversation (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic (d) a news item pairwork reading and listening and (e) a task-based pairwork activity. Students' progress in pairwork activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation	Part 1: Conversation: 'What personality type are you?' Part 2: Fact Sheet: Week #1 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #1
Week 2	Topic: 'Single Life'	Part 1: Conversation: 'Some artists are misunderstood!' Part 2: Fact Sheet: Week #2 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #2

Week 3	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Conversation: 'History is my best subject!' Part 2: Fact Sheet: Week #3 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #3
Week 4	Topic: 'What if ...?'	Part 1: Conversation: 'I'm against animal testing!' Part 2: Fact Sheet: Week #4 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #4
Week 5	Topic: 'Children'	Part 1: Conversation: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Fact Sheet: Week #5 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #5
Week 6	Topic: 'Cities'	Part 1: Conversation: 'The 60s counterculture!' Part 2: Fact Sheet: Week #6 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #6
Week 7	Topic: 'University Life'	Part 1: Conversation: 'After all, it's only a game!' Part 2: Fact Sheet: Week #7 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #7
Week 8	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Conversation: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Fact Sheet: Week #8 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #8
Week 9	Topic: 'Travel'	Part 1: Conversation: 'Does capital punishment work?' Part 2: Fact Sheet: Week #9 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #9
Week 10	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Conversation: 'My Cat is Cool!' Part 2: Fact Sheet: Week #10 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #10
Week 11	Topic: 'Home'	Part 1: Conversation: 'Staying Fit' Part 2: Fact Sheet: Week #11 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #11
Week 12	Topic: 'Time'	Part 1: Conversation: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Fact Sheet: Week #12 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #12
Week 13	Topic: 'Annoying Things'	Part 1: Conversation: 'New York! New York!' Part 2: Fact Sheet: Week #13 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #12

Week 14	Topic: 'Personality'	Part 1: Conversation: 'I need some information.' Part 2: Fact Sheet: Week #14 Part 3: Question & Answer Session – Part 4: Word-up Level 3: Set #14
---------	----------------------	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly.

【テキスト（教科書）】

No required textbook.

【参考書】

Students are expected to consult grammar books and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session.

【成績評価の方法と基準】

Vocabulary Test - 10%

Final Exam – 30%

Weekly conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests – 30%

Class Participation/Speaking English in class – 20%

Word-up Tests – 10%

【学生の意見等からの気づき】

Addition of vocabulary test.

英語アプリケーション（月曜・2限）Canadian Life

マーティン・ブラッドショー

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Canadian Life course explores Canadian culture and lifestyle and Canada's development as a nation. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic (b) Canadian fact sheet questions and answers (c) a guided topical conversation and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【到達目標】

The aim of this course is to explore Canadian culture and lifestyle and Canada's development as a nation.

【授業の進め方と方法】

Though Canada is the second largest country in the world geographically, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. During the course of the semester, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic (b) Canadian fact sheet questions and answers (c) a guided topical conversation and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements.
Week 2	Canadian geography	Conversation: 'I'm good at Canadian facts!' Canada Fact Sheet: Week #1 Discussion Topic and Presentation
Week 3	Regions of Canada - The Maritimes Slideshow	Conversation: 'I'm a new immigrant to Canada!' Canada Fact Sheet: Week #2 Discussion Topic and Presentation
Week 4	Regions of Canada - Quebec/Ontario Slideshow	Conversation: 'The Polar Bear Dip' Canada Fact Sheet: Week #3 Discussion Topic and Presentation
Week 5	Regions of Canada - The Prairies Slideshow	Conversation: 'Canoeing the Nahanni!' Canada Fact Sheet: Week #4 Discussion Topic and Presentation
Week 6	Regions of Canada - Western Canada Slideshow	Conversation: 'This weather is amazing!' Canada Fact Sheet: Week #5 Discussion Topic and Presentation

Week 7	Canadian Art – The Group of Seven	Conversation: 'Canada's National Sport?' Canada Fact Sheet: Week #6 Discussion Topic and Presentation
Week 8	Canadian Art – Norval Morrisseau	Conversation: 'What's your favourite Canadian city?' Canada Fact Sheet: Week #7 Discussion Topic and Presentation
Week 9	Canadian Music – Celtic Music	Conversation: 'Nova Scotia Bound!' Canada Fact Sheet: Week #8 Discussion Topic and Presentation
Week 10	Canadian Music – Leonard Cohen, Buffy Saint-Marie	Conversation: 'Trudeaumania!' Canada Fact Sheet: Week #9 Discussion Topic and Presentation
Week 11	First Nations People	Conversation: 'Canadian exports: I need some help!' Canada Fact Sheet: Week #10 Discussion Topic and Presentation
Week 12	First Nations People	Conversation: 'Skiing Mt. Whistler' Canada Fact Sheet: Week #11 Discussion Topic and Presentation
Week 13	Multiculturalism	Conversation: 'Quebec City Winter Carnival!' Canada Fact Sheet: Week #12 Discussion Topic and Presentation
Week 14	Quebec	Conversation: 'Toronto has really changed!' Canada Fact Sheet: Week #13 Discussion Topic and Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation topics are to be researched outside class. A visual component is required for all presentations. Weekly conversations and Fact Sheet questions and answers are to be studied and practiced before class for fluency.

【テキスト（教科書）】

No required textbook.

【参考書】

References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor prior to research.

【成績評価の方法と基準】

Students will be graded on their:
1. Bi-weekly presentations – 70%
2. Weekly quizzes – 30%
Passing grade for the class is 60%.

【学生の意見等からの気づき】

This course has no changes from 2017.

英語アプリケーション(水曜・3限) The Renaissance: Culture and Art

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s, continuing into the 1500s, and finally moving to the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【到達目標】

The aim of this course is to examine how the great changes occurring at the time (from around 1400 to 1600) affected Renaissance art, and see how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【授業の進め方と方法】

Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Introductions, explanations of the course and course requirements.
2	The Early Renaissance	Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio.
3	Presentation style	Learning presentation structure, effective posture, eye contact, body language, gestures.
4	The Early Renaissance	Research, draft and edit presentation scripts.
5	The Early Renaissance	Give presentations.
6	The Early Renaissance	Give presentations.
7	The High Renaissance	High Italian Renaissance: Leonardo, Michelangelo.
8	Presentation style	Learning to create effective visuals and present them effectively.
9	The High Renaissance	Research, draft and edit presentation scripts.
10	The High Renaissance	Give presentations.
11	The High Renaissance	Give presentations.
12	The Netherlandish Renaissance	Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch.
13	The Netherlandish Renaissance	Research, draft and edit presentation scripts.
14	The Netherlandish Renaissance	Give presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital.

【テキスト（教科書）】

No textbook required.

【参考書】

To be discussed during lectures.

【成績評価の方法と基準】

Presentations – students will make three presentations during the course (3 x 25%)

Class participation – enthusiasm and willingness to speak English in class and helpfulness to others (25%)

【学生の意見等からの気づき】

After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

英語アプリケーション (水曜・4限) Japanese Culture, World Culture

リービ 英雄

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること
他学部への公開：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

English Application is an integrated communication skills course with a focus on English for Academic/Specific Purposes. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is the mastery of the English necessary to adequately present and discuss cultural topics of interest to the students.

【授業の進め方と方法】

During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse.

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation	Student Selection & Class Overview
第2回	Introduction to How to Make Presentations on Culture in English	Introduction to Specialized Vocabulary, Presentation Methods
第3回	Traditional Culture: Everyday Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第4回	Traditional Culture: Pre-modern cityscapes	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第5回	Traditional Culture: Festivals	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第6回	Traditional Culture: Performing Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第7回	Contemporary Culture: Student Life in Present-day Society	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第8回	Contemporary Culture: Sports as a Cultural Activity	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第9回	Contemporary Culture: The Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第10回	Contemporary Culture: Language and Present-day Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions

第11回	Comparison of Cultures: Japan and Asia	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第12回	Comparison of Cultures: Japan and America	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第13回	Comparison of Cultures: Japan and the World	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第14回	Comments/Conclusion	Conclusion

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Read about Japanese culture.

【テキスト (教科書)】

The instructor will provide some reference materials.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended (for example, "The Longman Dictionary of Contemporary English" or "The Oxford Dictionary of English").

【成績評価の方法と基準】

50% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Presentations, etc.)

50% Term Project.

【学生の意見等からの気づき】

日本だけでなく外国文化を課題にしてもいい、と分った。

英語アプリケーション（木曜・3限）The History of Tourism

マーク・フィールド

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The theme of this English Application course is to explore how the world continues to become increasingly interconnected due to better communication systems and increasing opportunities for international travel. It will also examine how more people around the world are experiencing interactions with people from different countries and cultures, i.e., directly experiencing Intercultural Communication through tourism.

【授業の進め方と方法】

In this course we will first look at the historical development of tourism and its expanding cultural significance. Later participating students will be asked to investigate potential areas and/or sites where tourism is developing or may be developed in the future.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	Class Orientation	Student Selection & Class Overview
2回	History of Tourism	World Tourism Day
3回	History of Tourism	Global Code of Ethics for Tourism
4回	History of Tourism	The Development of Mass Tourism
5回	Expanding Roles of Tourism	Student Presentations
6回	Tourist Markets	Transportation & Infrastructure
7回	Tourist Markets	Accommodations
8回	Tourist Markets	Attractions & Activities
9回	Expanding Roles of Tourism	Student Presentations
10回	New Modes of Tourism:	Cruises
11回	New Modes of Tourism:	Thematic Tourism
12回	Business Constraints:	The Economics of Tourism
13回	Social Considerations:	The Economics of Tourism
14回	Examination/Comments	Recapping what was covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material early in the semester, and participating students will generate more course material as the semester progresses.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)

20% Short Presentations

40% Final Examination/Term Project

**Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes.

Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】

OHC and PC presentations.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

英語アプリケーション(金曜・3限) Effective Business Presentation in a Multi-Cultural World

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this particular course is to: 1) teach students the difference between domestic Japanese business presentation practices, and international business presentation style, and 2) prepare students to function effectively in an international business environment.

【到達目標】

English Application is an integrated communication skills course with a focus on English for Academic/Specific Purposes. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

【授業の進め方と方法】

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class Orientation: The Principals of International Presentation	The differences between Japanese and international business presentation style
2	Presenting with Yourself Confidence	The keys to presenting yourself as a confident professional
3	The Three Critical Questions	The three questions you have to answer BEFORE you do anything else.
4	Creating a Powerful and Persuasive Message	Developing the one point you want your audience to hear and remember
5	The Structure of a Presentation	How to build an effective presentation
6	Mid-term Presentation Preparation	Students will work on their mid-term presentations
7	Individual Student Presentations	Students will present a short presentation
8	The Principles of Effective Visual Presentation	How to present visually
9	Designing PowerPoint 1	Working with the Software
10	Designing PowerPoint 2	Text, Color and Composition
11	Using Logic and Emotion to Persuade	The elements of persuading others
12	Group presentation	The strengths and weaknesses of group presentation
13	Developing Your Group Presentation	Students will prepare in small groups for their final presentation

14 Final Group Evaluation and Feedback Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】

No Textbook – Materials will be provided by the instructor

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials that will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In-class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Based on feedback from past students, we will be studying more real-world examples of business presentations.

ドイツ語アプリケーション（火曜・2限）

林 志津江

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA ドイツ語圏の留学で伸ばしたドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の生活、文化、社会など多様なテーマに関する理解を深め、それらを簡単なドイツ語で表現・説明することができる。抽象的なテーマについて、ドイツ語で自分の意見を述べ、議論ができる。まとまった分量のドイツ語作文（レポート）を書くことができる。

【授業の進め方と方法】

各回決められたテーマに沿って自由に議論する形式です。グループワークも取り入れながら、できる限りドイツ語で表現します。繰り返しドイツ語でアプトブット（作文）しながら、少しずつ表現が自然に出てくるようになるまで練習するとともに、自分の意見をドイツ語にまとめる練習を行います。それと同時に、スイス以外のドイツ語圏など地域に関する話題も用意し、自分自身の体験と比べつ、さまざまに思考をめぐらせる訓練もしていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について、ドイツ語レベルの調整、ドイツ語で SA 滞在時の思い出を語ってみよう！
2	自宅と家族、住まいについて	家族、家庭内での光景、一日の営みについてドイツ語で説明する練習
3	学校・大学生生活	学校・大学制度、学校生活のさまざまな光景を説明する、日本とスイス（ドイツ語圏）では何が違った？
4	食生活と食文化	朝食、昼食、夕食の光景、食文化について語る、レストランで食べたいものを食べる、ウエイター・ウェイトレスさんとして働くには？
5	街中で	乗り物に乗ってどこかへ行くためには？ 街中で見かけるさまざまな光景を説明する
6	仕事と余暇	仕事と余暇の過ごし方について、ドイツ語圏と日本とではどう違うと思う？ 簡単なドイツ語を使って議論する練習
7	社会問題（1）ー 環境政策について	ドイツ語圏の脱原発政策について知識を確認する、自分の意見をドイツ語で言ってみよう。
8	社会問題（2）ー 移民政策、難民の流入	ドイツ語圏の移民政策について、急増する難民に向けた対策、メディアが発することと自分が思ったこと、自分の意見をドイツ語で言ってみよう
9	社会問題（3）ー 教育と大学制度	ドイツ語圏の教育、大学制度について、日本の大学生とスイス（ドイツ語圏）の大学生は何か違うと思う？ ドイツ語で議論してみよう

10	社会問題（4）ー 日本の社会と教育制度	ドイツ語圏と比べて日本はどうだろう？ 主に教育制度に的をしぼって、周囲とドイツ語で議論してみよう
11	ドイツ語圏の歴史と政治（1）	ドイツ語圏の歴史について何を知っていますか？ 自分の知識と意見を確認し、それをドイツ語で言ってみよう
12	ドイツ語圏歴史と政治（2）	自分の意見をドイツ語で確認して、ドイツ語で議論をしてみよう
13	日本の政治・歴史政策をドイツ語圏と比べると…？！	SA 先のフラットメイトと自分とで、違うと思ったことはある？ ドイツのメディアが報道する日本について、あなたは思う？
14	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・所定の予習・復習課題を出します。
- ・新聞（日刊紙）を読むといいです。国際政治を自分の身近な問題として引き受けるために何が必要か、それを常日頃から考えられるといいと思います。
- ・ドイツ語圏のメディアにはインターネット等で簡単にアクセスできます。SNS 等も効果的に利用して、日頃からそうしたメディアに接するクセをつけると良いでしょう。

【テキスト（教科書）】

"Themen aktuell 1" (Hueber, 2003) (すでに購入済みのものを毎回持参)
 その他は適宜コピーで配布します。

【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
 その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と提出物（課題への取り組み）50 %、定期試験 50 % を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典は必携です（ただし議論の時は使ってはいけません）。

【その他の重要事項】

扱うテーマ、順序は変更されることがあります。

ドイツ語アプリケーション（金曜・2限）

辻 朋季

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

留学を通して身に付けたドイツ語運用能力を維持し、さらに高めるためのトレーニングを行います。ドイツ語検定試験の2級相当のレベルに到達することを一つの目標に、ドイツ語のテキストの読解に取り組みます。辞書なしで文意を捉えられるよう、速読の力を養うとともに、ドイツ語の構文に即して精緻な読解をする訓練もしていきます。また必要に応じて会話や聞き取りの練習も行います。

【到達目標】

ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。抽象的なテーマを扱ったドイツ語の文章を正確に読み解く（著者が何を言いたいのか、メッセージを読み解く）。辞書なしで文章の大意を把握できるようになる。ドイツ語のしくみや、ドイツ語圏の人々の考え方を学ぶ。独検2級に合格する。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では、初見のテキストを辞書なしで読み、テキストの大きな方向性を把握する練習をします。後半では、事前に配布した教材（ドイツ語圏の文化や歴史に関するテキストやニュース記事）などを精読します。文章の和訳をしながら、内容を正確に読み解くとともに、テキストが扱っているテーマについての議論も行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての解説、受講者の自己紹介とドイツ語レベルの確認。
2	スイス留学をふり返る	2017年にスイスで起きたことについて、テキストを読む。自身の留学体験とも重ね合わせて、どんな年だったのかをふり返る。
3	ドイツ語圏を知る (1) ドイツについて	スイスの隣国ドイツのいまを知る。ドイツとスイスの社会や政治の制度の違いを知る。
4	ドイツ語圏を知る (2) オーストリアについて	史上最年少の首相が誕生したオーストリアの政局や移民政策、難民受け入れなどについて概観する。
5	スイスの国民投票	移民規制やベーシックインカム導入の可否など、スイスでたびたびおこなわれている国民投票の制度や意義について知る。
6	ゴットハルト・ベーストンネルの完成	2016年6月に開通したヨーロッパの新しい大動脈、ゴットハルト・ベーストンネルと欧州の経済統合について学ぶ。
7	スイスと多言語主義	4つの公用語を持つスイスの現状や、英語の普及がもたらす影響などについて学ぶ。
8	日本とスイスの交流史	1864年に修好条約が締結されて154年を迎える日本とスイスの両国の関係を学ぶ。
9	日本とドイツの交流史	1862年にプロイセンと日本の間で修好条約が結ばれて156年になる日独間の交流の歴史を知る。
10	独検に挑戦（1）	ドイツ語検定2級で出題された文章を正確に読み解いていく。
11	独検に挑戦（2）	ドイツ語検定2級で出題された文法問題を解いて、初級・中級文法の定着を図る。

12	独検に挑戦（3）	ドイツ語検定の聞き取り試験を解きながら、リスニングの力を養っていく。
13	スイス、ドイツのいま (1)	ドイツ語圏のニュース記事をピックアップし、ドイツの最新の情勢を知る。
14	スイス、ドイツのいま (2)	ドイツ語圏のニュース記事をピックアップし、スイスの最新の情勢を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の後半で読むテキストは事前に配布しますので、辞書を用いて予習して授業に臨んで下さい。予習に際しては、ただ単語の意味を調べるだけでなく、著者がどのようなスタンスで何を述べてようとしているのかを読み解く努力をしていきましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを毎回配布します。

【参考書】

中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三著：『ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）。ドイツ語の文法がコンパクトながら網羅的に解説されていて、ドイツ語学習者の「必携の書」と言えます。まだ持っていない学生は用意してください。また中級文法のトレーニングには、以下の参考書もおすすめします。辻朋季：『もやもやを解消！ ドイツ語文法ドリル』（三修社、2015年）

【成績評価の方法と基準】

授業での発言と参加40%。課題への取り組み40%。小テスト20%。

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語で話す機会を増やしてほしいという意見があったので、授業で扱うテーマに関して、ドイツ語で議論する場を設けていく。

ドイツ語アプリケーション（火曜・3限）

ウテ・シュミット

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Alltagskultur im deutschen Sprachraum

ドイツ語圏の日常文化:日本と比較してみましょう

【到達目標】

この授業では受講者がドイツ語による口頭および書面の表現力をつけることを目標としています。題材として、身近な事柄から時事問題までドイツ語圏の日常文化を扱います。学生はその実情を調べ、日本と比較しつつ、各テーマについて発表や意見交換をします。簡単なディスカッションも試みたいと思います。受講者は日本の文化や日本が抱える問題をドイツ語で発信するための能力を磨きます。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。

【授業の進め方と方法】

新聞や雑誌の記事、音楽、オーディオやビデオポッドキャストを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	Einstufung
	自己紹介	Selbstvorstellung
第2回	大学生活	Studium und Studentenleben
第3回	国際文化とは	Interkulturelle Kommunikation: Zwischen den Kulturen
第4回	国と国民:典型的とは何か?	Was ist typisch?
第5回	日曜日の過ごし方	Der Sonntag heute und in der Vergangenheit
第6回	歴史と政治 1	Geschichte und Politik 1 Wie lernen wir Geschichte in der Schule?
第7回	歴史と政治 2	Geschichte und Politik 2 Interessieren Sie sich für Politik?
第8回	ドイツ映画 1	Deutschsprachige Filme
第9回	ドイツ映画 2	Einen Film sehen und eine Filmkritik schreiben
第10回	ドイツのニュースを読む	Nachrichten verstehen
第11回	ドイツのニュースを見る	Nachrichten im Fernsehen
第12回	健康と環境	Gesundheit und Umwelt
第13回	お祭り	Traditionelle Feste
第14回	クリスマスを知るクイズ	Weihnachtenquiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます。単語の復習は必須。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布します。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業での発言と参加50%、宿題50%

フランス語アプリケーション（金曜・2限）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé. Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1) comme des "kentei-shiken".

【授業の進め方と方法】

LE NOUVEL ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

Le cours commence à partir de l'unité 4 pour être tout de suite "dans le vif du sujet" !

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel - Organisation de la classe. Calendrier des leçons et des devoirs ou tests.
2	Unité 4 dossier 1	C'est de famille
3	Unité 4 dossier 1	Fêtes et traditions familiales
4	Unité 4 dossier 2	Affaires de coeur
5	Unité 4 dossier 2	Destins de reines Test intermédiaire
6	Unité 5 dossier 1	Bon voyage !
7	Unité 5 dossier 1	Les trains de légendes
8	Unité 5 dossier 2	Bonne route !
9	Unité 5 dossier 2	Les transports Test intermédiaire
10	Unité 6 dossier 1	Consommer et jeter
11	Unité 6 dossier 1	l'écologie
12	Unité 6 dossier 2	À loisirs
13	Unité 6 dossier 2	Festival interculturel
14	Récapitulatif	Corrections des derniers devoirs et exposé - Test final - Suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

La présence et la participation en classe sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, structurer un devoir, préparer un exposé).

(出席・予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】

LE NOUVEL ÉDITO, Niveau B1, E. Heu & M. Abou-Samra, Didier.

ISBN : 978-2-278-07269-9

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

【学生の意見等からの気づき】

Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés.

【学生が準備すべき機器他】

Salle LL

Internet, CD, DVD, VHS, OHC...

フランス語アプリケーション（金曜・2限）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours, suite du premier semestre, s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé. Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】

Ce cours, suite du premier semestre, continue de s'adresser à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) et motivés pour la poursuite de leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1) comme des "kentei-shiken".

【授業の進め方と方法】

LE NOUVEL ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	(re-)faire connaissance !	Présentation du manuel - Organisation de la classe. Calendrier des leçons et des devoirs ou tests.
2	Unité 7 dossier 1	Engageons-nous !
3	Unité 7 dossier 1	Engageons-nous ! (fin)
4	Unité 7 dossier 2	Rendre justice
5	Unité 7 dossier 2	Rendre justice (fin) Test intermédiaire
6	Unité 8 dossier 1	L'amour de l'art
7	Unité 8 dossier 1	L'amour de l'art (fin)
8	Unité 8 dossier 2	La belle Histoire
9	Unité 8 dossier 2	La belle Histoire (fin) Test intermédiaire
10	Unité 9 dossier 1	Vivre l'Europe
11	Unité 9 dossier 1	Vivre l'Europe (fin)
12	Unité 9 dossier 2	Si loin, si proches
13	Unité 9 dossier 2	Si loin, si proches (fin)
14	Simulation de l'examen DELF-B1	Corrections des derniers devoirs et exposé - Test final - Présentation de l'épreuve du DELF aux niveaux B1 et B2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

La présence et la participation en classe sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. apprendre le vocabulaire, structurer un devoir, préparer un exposé).

(出席・予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】

LE NOUVEL ÉDITO, Niveau B1, E. Heu & M. Abou-Samra, Didier.

ISBN : 978-2-278-07269-9

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

Participation active en classe : 40%

Tests, textes et exposés : 60%

【学生の意見等からの気づき】

Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours se passe en salle LL ; s'ils le souhaitent, les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

フランス語アプリケーション（木曜・4限）

コンルール ジョルジュ

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】

Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau intermédiaire, motivés pour la poursuite de leur apprentissage : augmentation du vocabulaire, meilleure capacité d'expression orale (et même écrite), mise en place d'un véritable savoir-faire communicatif. Il peut préparer aux examens du DELF "B1" comme des "kentei-shiken".

【授業の進め方と方法】

LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante.

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
①	- Prise de contact (questions et révisions générales). - Explications sur le programme du cours	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières. Le programme du cours pourra s'en trouver modifié.
②	Demander des articles, des produits	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	Parler des quantités	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	Passer une commande	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	Réserver	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	Réserver (suite et fin)	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑦	Révision générale	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire
⑧	Parler d'argent	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	Échanger, se faire rembourser	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	Comparer	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	Localiser	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	Parler des lieux	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	Expliquer un vol ou un accident	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)

- ⑭ - révisions
- test final

Le test final pourra être constitué d'une partie écrite mais aussi orale

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

La participation en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (apprendre le vocabulaire et les expressions, préparer la liste d'exercices, être prêt à jouer un rôle à l'oral, etc.)

【テキスト（教科書）】

Communication Progressive Du Francais - 2eme Edition: Livre De Leleve + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-2090381634)

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】

Préparation: 25%

Participation en classe: 25%

Tests et devoirs: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

CD

【その他の重要事項】

On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

フランス語アプリケーション（水曜5限）

ヴァリエヌ コリンヌ

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。
Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

【到達目標】

目標は、語彙や新しい表現を習得し、聞き取りの力を向上させ、また文化的な話題について議論できるようになることです。
L'objectif est d'acquérir du lexique et des expressions nouvelles, d'améliorer sa compréhension orale, ainsi que de pouvoir discuter de sujets culturels.

【授業の進め方と方法】

ビデオを見て、書き起こしたフランス語を読み、授業で学んだ表現や語彙を見つけます。

Une vidéo est présentée et nous travaillerons sur la transcription afin de découvrir les expressions et le vocabulaire du thème présenté en classe.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ビデオ 1a 講読/発音。 Vidéo 1a Lecture/ prononciation.	博物館 Un Musée
2 回目	ビデオ 1b 語彙と文法 Vidéo 1b Lexique et Grammaire	理解の問題の答え合わせ Correction des questions de compréhension
3 回目	ビデオ 1c 学生の発表 Video 1c Présentation des étudiants	博物館の会話する Discussion sur le musée
4 回目	ビデオ 2 a 講読/発音。 Video 2a Lecture/ prononciation.	仕事 Un métier
5 回目	Video 2b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の答え合わせ Correction des questions de compréhension
6 回目	Video 2c 学生の発表 Présentation des étudiants	仕事の会話する Discussion sur le métier
7 回目	Video 3a 講読/発音。 Lecture/ prononciation.	レストラン Un restaurant
8 回目	Video 3b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の答え合わせ Correction des questions de compréhension

9 回目	Video 3c 学生の発表 Présentation des étudiants	レストランの会話する Discussion sur le restaurant
10 回目	Video 4a 講読/発音 Lecture/ prononciation.	モニュメント Un monument
11 回目	Video 4b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の答え合わせ Correction des questions de compréhension
12 回目	Video 4c 学生の発表 Présentation des étudiants	モニュメントの会話する discussion sur le monument
13 回目	Video 5a 講読/発音 Lecture/ prononciation.	店 Un magasin
14 回目	Video 5b 語彙と文法 Lexique et Grammaire 学生の発表 Présentation des étudiants	理解の問題の答え合わせと会話する Correction des questions de compréhension et discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙や表現を学ぶ

Apprendre le vocabulaire et les expressions

【テキスト（教科書）】

なし Pas de manuel

【参考書】

辞書
dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

授業への参加の度合い

La présence et la participation en classe : 60%.

最終試験 L'examen final : 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA ロシアで培ったロシア語の文法と読解力を維持・向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めることが目的となります。ロシア語テキストの読解を通して、ロシアの文化や慣習をさらに深く知る楽しみも分かち合いたいと思います。

【到達目標】

ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（T P K II）、あるいはロシア語能力検定試験の各自が目標とするレベルの合格を目指します。

【授業の進め方と方法】

読解に重点をおきます。教材には、T P K II やロシア語能力検定試験の練習問題、あるいはロシアの文化や習慣をテーマとしたテキストを教材として、限られた時間に情報を的確に把握し、設問に答える練習を積み重ねていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。
第 2 回	T P K II の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第 3 回	T P K II の読解問題と文法解説	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第 4 回	T P K II のリスニングと解説	T P K II のテキストに関するリスニングとテキスト内容の簡単な解説。
第 5 回	T P K II のリスニングと解説。	T P K II のテキストに関するリスニングとテキスト内容の簡単な解説。
第 6 回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア語能力検定試験のテキストに関するリスニングとテキスト内容の簡単な解説。
第 7 回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア語能力検定試験のテキストに関するリスニングとテキスト内容の簡単な解説。
第 8 回	ロシア語能力検定試験のリスニングと解説。	ロシア語能力検定試験のテキストに関するリスニングとテキスト内容の簡単な解説。
第 9 回	ロシア語能力検定試験のリスニングと解説。	ロシア語能力検定試験のテキストに関するリスニングとテキスト内容の簡単な解説。
第 10 回	ロシア語能力検定試験のリスニングと解説。	ロシア語能力検定試験のテキストに関するリスニングとテキスト内容の簡単な解説。
第 11 回	ロシア映画鑑賞（1）	映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。
第 12 回	ロシア映画鑑賞（2）	映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。
第 13 回	ロシア映画鑑賞（3）	映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。
第 14 回	ロシア映画鑑賞（4）	映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

T P K II の練習問題やロシア語能力検定試験の過去問題を通して、本番に臨む準備を整える。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場でコピーを配付します。

【参考書】

教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

予習を含む授業への取り組み（50 %）、そして課題提出（50 %）によって判断します。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語検定試験対策とロシア映画鑑賞への希望があったので、両者に応じるような授業を組みたいと考えました。

ロシア語アプリケーション

上野 理恵

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

語学力の維持には継続するしか方法はありません。春学期と同様に、引き続き、ロシア語の読解力を維持・向上させると同時に、リスニングに力を入れます。ロシア語を通して情報を迅速に的確に読み取り、記憶に刻むこと、またロシア語の音声聴いて情報を正しく受け止める力を維持させていきましょう。次年度のロシア語検定試験（ＴＰＫИ）、およびロシア語能力検定試験の希望する級の合格を目標に掲げます。

【到達目標】

読解力と文章力、リスニングを向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めること、ロシアの文化をロシア語の文献から読みとる力をつけることが全体的な目標となります。ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ＴＰＫИ）、およびロシア語能力検定試験の各自が目標とするレベルの合格を目指します。

【授業の進め方と方法】

ロシア語検定試験（ＴＰＫИ）、およびロシア語能力検定試験の読解問題やロシア語雑誌のコラム、ロシア文化に関する文献を教材としてリーディングの力を養います。また、ＴＰＫИのリスニング問題を利用して聴解力を高めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	みなさんの要望を訊くアンケートを実施。
第 2 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ＴＰＫИのリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第 3 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ＴＰＫИのリスニング解説。「ロシア社会での常識」について読む。
第 4 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第 5 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。「ロシア社会での常識」について読む。
第 6 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第 7 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 8 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 9 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 10 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 11 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ＴＰＫИリスニング解説。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第 12 回	ＴＰＫИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ＴＰＫИリスニング。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。

第 13 回 Т П К И のリスニング Т П К И リスニング解説。「ロシア文化を知るテキスト読解。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。

第 14 回 予備日 やりおせなかった部分を補足する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア文化を知るために読むテキストの予習。

【テキスト（教科書）】

教場でコピーを配付します。

【参考書】

教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（75 %）、小テスト（25 %）の基準に基づき判断します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの要望に基づき、これまでどおり、ＴＰＫИおよびロシア語能力検定試験に向けた対策、およびロシア語のコラムの読解を続けていきます。

中国語アプリケーション（水曜・2限）

曾 士才

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。本授業では特に「読む」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は、これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。具体的には、中国の報道記事や評論文を辞書を使いながら十分に読めるレベルを目標としている。

【授業の進め方と方法】

たとえば、『人民日報』『新民晩報』『南方周末』などの報道記事や『新華文摘』『新華月報』などの評論文を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、教材配布
第 2 回	プリント 1 ①	政治関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 3 回	プリント 1 ②	翻訳と講読を続ける。
第 4 回	プリント 1 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 5 回	プリント 2 ①	経済関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 6 回	プリント 2 ②	翻訳と講読を続ける。
第 7 回	プリント 2 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 8 回	プリント 3 ①	社会関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 9 回	プリント 3 ②	翻訳と講読を続ける。
第 10 回	プリント 3 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 11 回	プリント 4 ①	文化関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 12 回	プリント 4 ②	翻訳と講読を続ける。
第 13 回	プリント 4 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 14 回	読解力テストと講評	テスト後の講評と関連語彙の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業はプリント教材を読み、翻訳することになる。受講者は事前に分担部分を読み込み、訳文を用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での分担翻訳（15 %）と学期末に実施する読解力テスト（85 %）で達成度を判定する。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

中国語そのものではなく、記事内容の背景が分りにくい場合もあったので、従来以上に十分な背景説明をするよう心がけたい。

中国語アプリケーション（金曜・2限）

渡辺 昭太

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。具体的には、作文や翻訳を行う際に注意すべきことをルール化して編纂されたテキストを用い、そこに提示されたルールを講師が解説し（場合によってはテキストの説明に対する論評を交え）、そのルールを応用した各種の練習問題に取り組むことで作文力の育成を図る。テキストは、毎回2課ずつ進める。また、学習者の習熟度を確認しつつ、必要に応じて適宜補足資料を配布し、理解の助けとする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
- (2) 日文中訳や並べ替え問題、自由作文等を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができる。
- (3) 中国語と日本語の表現方法の違いを把握し、適切な翻訳ができるようになる。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバス及び授業概要の確認（本授業の意義と目的、授業概要、授業計画、成績評価方法など）
2	第1課、第2課	中国語作文をする際に必要となる基本的文法事項の確認
3	第3課、第4課	所在・存在の表現、程度副詞“很”の機能、“吗”の使用条件、日中両言語の勧誘表現、「何か／どこか／だれか」の訳し方
4	第5課、第6課	疑問詞＋名詞の用法、疑問詞呼応構文、動詞の省略可能性、適切な動詞を補う必要性
5	第7課、第8課	多用される“来”と“去”、「動目」構造の語の特徴、「思う」を表す語の種類、動詞の重ね型
6	第9課、第10課	文脈に隠れた代名詞、“这么／那么”が必要な場合、副詞“就”の用法、副詞“才”の用法
7	第11課、第12課	副詞“都”の用法、副詞“只”の用法、副詞“也”の用法、副詞“再／又／还”の用法、副詞“再”の用法
8	第13課、第14課	「…から」と“从…”の対応関係、「…まで」と“…到”の対応関係、動詞後の“…到”、日中両言語のコピュラ文、“是…的”構文

9	第15課、第16課	「で／に／から／と／まで」を表す中国語の介詞、介詞句を含む文の否定、「…について」の表し方、「ちょっと・少し」の表し方、形容詞の動詞化および命令化
10	第17課、第18課	量詞の出現状況、数量の位置、形容詞を用いた過去事態の表現法、結果状態を表す“了”、過去の習慣的動作と“了”
11	第19課、第20課	補語の使用における動詞の重要性、日本語の観点からは訳出しにくい補語、“要”の使用条件、可能性を表す“会”、可能を表す“能”“会”“可以”
12	第21課、第22課	“被”構文の諸特徴、日本語の受身表現と“被”構文の対応関係、日本語の自動詞受身文の中国語での表現法、“把”構文の使用条件、“把”構文の使用制限
13	第23課、第24課	授受表現の特徴、目的表現の後置、将然表現、主体表現としての“人”、道具・手段や原因を表す「で」、否定と肯定の入れ替え、逆転の発想
14	全体のまとめ	試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業開始後は、テキストの予習／復習を十分にを行い、学習内容の定着を図ること。

【テキスト（教科書）】

相原茂（著）2006『作文ルール 66 日中翻訳技法』朝日出版社（2,300円＋税）

【参考書】

- ・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級〔改訂版〕』東京：東方書店
- ・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
- ・木村英樹 2017『中国語はじめての一步〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
- ・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
- ・守屋宏則 1995『やさしく ぐわしい 中国語文法の基礎』東京：東方書店
- ・劉月華 他 2001『実用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館

【成績評価の方法と基準】

期末試験を70%、平常点（問題演習への取り組み状況、発表・質疑応答の内容など）を30%として合計100点満点とし、60点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

中国語アプリケーション（火曜・4限）

周 重雷

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語コミュニケーション能力の維持、向上のために「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。具体的には、発音と語調の訓練、日常会話力の養成、実用的会話力の育成という三段階で強化していく。SAによる留学を終えて、中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とする。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである：

- 1、正確な発音で中国語を話す。
- 2、日常会話を流暢に話す。
- 3、留学や就職などのためにより高度な会話力を身に付ける。

【授業の進め方と方法】

- 1、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
- 2、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
- 3、それぞれのパターンを使って授業内発表をする。
- 4、総括する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布、 中国語による自己紹介。
第2回	ピンイン・日常あいさつ（1）	ピンインを復習する、 簡単な日常会話を練習する。
第3回	文章の朗読・日常あいさつ（2）	短い文章を朗読し、発音をチェックする。言い回しを用いて日常会話の練習をする。
第4回	会話パターン（1）	買い物する時に使う会話のチェック。
第5回	授業内発表（1）	教師と一対一、もしくはグループで買い物のシミュレーションをする。
第6回	会話パターン（2）	レストランでの会話のチェック。
第7回	授業内発表（2）	教師と一対一、もしくはグループでレストランでのシミュレーションをする。
第8回	会話パターン（3）	ものを尋ねる仕方を練習する。
第9回	授業内発表（3）	教師と一対一、もしくはグループで問答する。
第10回	会話パターン（4）	留学や就職する時の面接試験を想定して練習する。
第11回	授業内発表（4）	教師と一対一で面接のシミュレーションをする。
第12回	スピーチ	スピーチやものを語る練習をする。
第13回	授業内発表（5）	スピーチや物語を発表する。
第14回	まとめ・口頭試験と解説	テーマを指定して口頭試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各会話パターンをよく確認し、流暢に発表できるように練習する。

【テキスト（教科書）】

教員によってプリントを配布する。

【参考書】

劉月華 他『実用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館

【成績評価の方法と基準】

期末試験の点数（50点）と平常点（50点）の合計点で評価する。平常点の場合は、最初から会話力の個人差があるため、どれほどの進歩が見られるかがポイントになる。また発表など学習の積極性も参考となる。

【学生の意見等からの気づき】

要望に応じて会話のテーマを追加することもある。
会話以外の質問も受け付ける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

H S Kや中国語検定の受検を推奨する。

スペイン語アプリケーション（金曜・2限）

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Prácticas aplicativas.

【到達目標】

Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.

Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse al examen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible : comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Su estancia en Barcelona. Planteamiento del curso. Información sobre el examen DELE.
2	Aplicación	La primavera. Inicio del curso académico y del año laboral. "Ohanami".
3	Aplicación	Situaciones en las que puede encontrarse una persona en un país extranjero, por ejemplo, ser víctima de un robo e ir a denunciarlo. Debate.
4	Aplicación	En la consulta del médico. Síntomas, dolencias, etc.
5	Aplicación	Reservar una habitación de hotel por teléfono. Trámites, ya en el hotel, a la hora de entrar y a la hora de dejar la habitación. Consultas, reclamaciones, quejas, etc.
6	Aplicación	Cocina. Recetas. Platos diversos.
7	Aplicación	De compras. Precios, colores, tallas, etc.
8	Aplicación	Días de muy buena suerte y de muy mala suerte. Debate.
9	Aplicación	Temas de actualidad y de interés para los alumnos.
10	Aplicación	Tópicos sobre los países, sobre las regiones, etc.
11	Aplicación	Cómo sería nuestro país ideal y otro en el que no querríamos vivir.
12	Aplicación	Cómo cambia la vida de las personas. O no cambia. La lotería.

13	Aplicación	Distintos trabajos realizados por una persona. El mundo del trabajo. Debate.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (70%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

スペイン語アプリケーション（水曜・4限）

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Prácticas aplicativas.

【到達目標】

Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.

Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse alexamen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Su estancia en Barcelona. Planteamiento del curso. Información sobre el examen DELE.
2	Aplicación	En un restaurante. Pidiendo la comida y preguntando muchas cosas.
3	Aplicación	Distintas personas hablan de sus experiencias vividas. Debate.
4	Aplicación	El tiempo. Diversidad. Relación con el carácter y la forma de vida de las personas.
5	Aplicación	Cartas,solicitudes, mensajes, correos, etc.
6	Aplicación	Situaciones de la vida cotidiana,por ejemplo,en una peluquería.
7	Aplicación	Entrevista de trabajo. El mundo laboral.
8	Aplicación	La televisión, el cine,los medios de comunicación...
9	Aplicación	Temas de actualidad y de interés para los alumnos.
10	Aplicación	Costumbres. Creencias religiosas. Debate.
11	Aplicación	Reservar hora por teléfono en el dentista, por ejemplo. Tratamientos médicos. El sistema sanitario.
12	Aplicación	Aficiones, diversiones. El ocio. Alcohol, tabaco...
13	Aplicación	Malentendidos graciosos, chistes, bromas...
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (70%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

スペイン語アプリケーション（金曜・2限）

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：×

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (70%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Prácticas aplicativas.

【到達目標】

Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.

Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse al examen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Las vacaciones de verano. Planteamiento del curso. Sobre el examen DELE.
2	Aplicación	Biografía de personajes famosos (escritores).
3	Aplicación	Biografía de personajes famosos (pintores).
4	Aplicación	El campo y la ciudad. Cambio de vida de un medio a otro. Debate.
5	Aplicación	Discriminación racial y otros problemas sociales.
6	Aplicación	Vidas de personas anónimas, por ejemplo, un taxista, un hombre de campo, etc.
7	Aplicación	Días festivos de Japón.
8	Aplicación	Días festivos de España.
9	Aplicación	Temas de actualidad e interés para los alumnos.
10	Aplicación	La emigración. La vida en el nuevo país. La vuelta a las raíces. Debate.
11	Aplicación	Vidas de genios.
12	Aplicación	Deportes. Campeonatos. Explicar las reglas de algunos juegos y deportes.
13	Aplicación	El mundo de los sueños. La interpretación y el significado de algunos sueños.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

Concretamente, ninguno.

スペイン語アプリケーション（火曜・4限）

ピエダッド・ガルシア・ルイス

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Prácticas aplicativas.

【到達目標】

Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.

Otro objetivo que nos proponemos es preparar a los alumnos para que aquellos que deseen presentarse al examen DELE, puedan pasarlo y obtener el correspondiente diploma.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible : comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Las vacaciones de verano. Planteamiento del curso. Sobre el examen DELE.
2	Aplicación	Voluntarios. JICA y otras organizaciones. Su labor.
3	Aplicación	Países muy diferentes. Vida, costumbres, cultura... Debate.
4	Aplicación	Libros, películas, etc.
5	Aplicación	Bromas y equivocaciones graciosas.
6	Aplicación	Genios de la pintura, el arte...
7	Aplicación	El sistema educativo. Debate.
8	Aplicación	Fiestas populares muy conocidas.
9	Aplicación	Temas de actualidad e interés para los alumnos.
10	Aplicación	Canciones. Letra de algunas.
11	Aplicación	Temas de la historia reciente de España. Debate.
12	Aplicación	La Navidad. Forma de celebrarla en España y en Japón. El fin de año.
13	Aplicación	El Año Nuevo y sus celebraciones. Tradiciones y costumbres.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar.

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (70%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

朝鮮語アプリケーション（木曜・4限）

梁 禮先

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に持っている朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できることを目標にします。韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、テキストには出ない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現と新造語を学んで自ら表現できることを目指します。授業はできるだけ朝鮮語で進めていきます。

【到達目標】

朝鮮語のニュースや韓国の番組を字幕なしで理解できることを到達目標とします。

【授業の進め方と方法】

韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通じた話す力を定着していきます。

授業は、ほとんど朝鮮語で進めていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明と復習	春学期の授業の進め方について説明します。
第2回	韓国語の随筆を読む	内容を読んで意見を話し合います。
第3回	韓国の新聞を読む	韓国の最新記事を読んで新しい単語を勉強します。
第4回	韓国のビデオを見る	韓国のビデオを見て、内容を把握します。
第5回	韓国語の随筆を読む	韓国の随筆を読みます。
第6回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話します
第7回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第8回	韓国の映像を見る	韓国の話題のテレビを見て内容を把握します。
第9回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます
第10回	韓国の映像を見る	韓国のテレビを見ます。
第11回	韓国語で発表する	発表内容を聞く。
第12回	韓国語で発表する	発表内容を話し合う。
第13回	韓国語で発表する	討論をする。
第14回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国のテレビ、新聞、小説などを読むこと。

【テキスト（教科書）】

プリント、インターネット、ビデオなど。

【参考書】

韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を話したり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して (50%) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

DVD などの映像をもっと活用すべきことなど。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業の内容は少々変わることもあります。

朝鮮語アプリケーション（木曜・4限）

梁 禮先

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一定のテーマを決めてディスカッションをやったり、韓国の文学作品を読んで、韓国の伝統・習慣・文学表現を習い、朝鮮語のレベルアップをはかります。朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。

【到達目標】

積極的に韓国語によるディスカッションに参加したり、韓国の文学作品も読めることを到達目標にします。

【授業の進め方と方法】

色々なテーマに沿ったディスカッションをやったり、韓国の近代小説にもチャレンジして、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えたり学ぶことができます。映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と復習	授業の進め方についての説明をします。
第2回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第3回	話題のテーマについて	意見交換する
第4回	韓国の文学を読む	問題点や意見交換をする
第5回	韓国の伝統や日本の伝統の比較	日韓伝統の意見交換をする
第6回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第7回	韓国の文学を読む	問題点や感想などを述べる
第8回	日韓伝統・習慣について	意見交換をする
第9回	韓国の映像を見る	映像を見て、自由討論
第10回	話題のテーマについて	ディスカッションをする
第11回	日韓伝統について	意見交換をする
第12回	韓国の文学を読む	感想と問題点
第13回	話題のテーマについて	討論をする
第14回	総合ディスカッション	授業の問題点や感想などの意見交換をしたり、討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテーマの内容やそれぞれの文学作品を調べてくること。

【テキスト（教科書）】

授業内で説明します。

【参考書】

韓国の近代文学作品

湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して (50%)、期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

文学作品だけではなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業内容は少々変わることがあります。

朝鮮語アプリケーション（火曜・5限）

神谷 丹路

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「S A 韓国」から帰国した学生をはじめ、朝鮮語中上級向けのクラスである。朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」のさらなる伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、日常会話がスムーズにできるように練習をする。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。

【授業の進め方と方法】

簡単な会話でウォーミングアップをしたのち、テキストに沿って、リスニング、リーディング、文形練習などを行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	第 1 課	自分の大事なものを紹介する
3	第 2 課	地図を見ながら道を案内する
4	第 3 課	紀行文を書く
5	第 4 課	市場でのショッピング
6	第 5 課	自分の趣味について紹介する
7	第 6 課	友人同士のくだけた会話
8	第 7 課	伝言：間接話法の学習
9	第 8 課	流行についての意見
10	第 9 課	韓国旅行の土産品について
11	第 10 課	ニュースの記事を読んでまとめる
12	第 11 課	擬態語、擬声語
13	第 12 課	料理について
14	まとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、読み物や文法課題の予習をする必要があります。

【テキスト（教科書）】

『改訂版できる韓国語中級 I』発行：DEKIRU 出版、発売：株式会社アスク出版（税別 2500 円）

【参考書】

日韓・韓日辞書。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更につきフィードバックありません。

情報コミュニケーションⅠ

甲 洋介

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：受講状況により選抜することがあります
他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

モノづくりの『面白さ』と『難しさ』の両面を実践的に学ぶ科目

わたしたちの日常生活はたくさんの道具であふれている。それらの道具が使いやすく魅力的だと日常生活も楽しくなる。

この講義では、「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という2つのテーマに取り組む。具体的な手法の習得と実践の両方をバランスよく講義に配置してある。

道具をデザインするという一見難しく思える課題を、具体的な課題に即して、実践的に学べる科目である。

● ユーザーを調べ、道具をもっと使いやすくデザインする

講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。

日常に溢れている道具を、人間にとって使いやすいものにするにはどのようにすればよいのか？ その手掛かりは、ユーザに起こっている出来事にある。使いやすさの観点から道具を改良する具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

● 新しい、近未来の道具をデザインする

講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいのか？ その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの理解にある。利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」、この2つのテーマについて実践的に学ぶ。

● 各テーマごとに、背景と基本的な理論、調査計画の立て方、データ収集の手法、分析手法、グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果の発表の仕方を習得する。

【授業の進め方と方法】

「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この2つのテーマについて実験実習を通じて実践的に学ぶ。

● 前半では、身近で気になる道具を1つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的な方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。

● 後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を1つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。

● それぞれのテーマごとに成果発表の機会を設け、グループによる独自の改良案・コンセプト案の提言を行う。

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン技法
2	道具の使いやすさ（理論編）	ユーザの認知過程の理論と、道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ
3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する

6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすくする改良事例を互いに学ぶ
9	デモンストレーション	ヒューマンインタフェースの新しい潮流
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイデア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習科目」の効果的な履修のために、教室外での一定の課題活動を含む。具体的には、教材の予習／復習、グループワークによる実習の準備、データ収集と、各自によるレポート作成である。

【テキスト（教科書）】

・「人間計測ハンドブック」第3章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.

・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）

【参考書】

・International Encyclopedia of Human Factors and Ergonomics. W. Karwowski (Ed.) 2nd Edition, (Taylor & Francis) 2006.

・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」(JIDA 編、ワークスコーポレーション) 2014.

他については講義開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・授業・発表・討議における積極的な貢献度合い 40%

・課題レポート、プロトタイプ制作 60%

課題の未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義とグループ実習を効果的に組み合わせ、実践的な方法をより深く学べるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【情報コミュニケーション共通のテーマ】

本学部には、情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ、SAにおけるプロジェクト等、文化情報学を実践するさまざまな機会が用意されている。

情報コミュニケーション科目では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告など方法論的訓練を行う。

【前提科目と関連科目】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を履修済みであること。

「ヒューマンインターフェイス論」「道具による感覚・体験のデザイン」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。「情報コミュニケーションⅡ・Ⅲ」と合わせて履修する事でさらに学習効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PCおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

情報コミュニケーションⅡ

和泉 順子、島野 智之

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：実習設備の許容人数を超えた場合に行う

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化研究と成果発表の方法を身に付けよう

【情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ共通テーマ】

文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法論的訓練を行う。

【情報コミュニケーションⅡの学習の目的】

本講義の前半において、Study Abroad 環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと問題解決の方法を学ぶ。

本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。Weblog や小冊子の編集を例に、SA 等の在外環境も含めた総合的な情報流通の有効性を学び、Web 環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】

SA や卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に付ける。インターネット環境を十分に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムできちんと共有することでネット社会にフィードバックできる。

【授業の進め方と方法】

●講義と実習（情報実習室を使用する）

学習内容を授業計画に沿ってゆるやかに仕分けしてみると前半：

●在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学ぶ

後半：

●文化研究としての SA: 情報機器を用いた研究成果の発信と共有となります。セメスタ全体を通して SA で自分（たち）は何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させて行くことを目指します。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (全体) インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体） インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IP アドレス枯渇とその対応技術、無線 LAN の利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IP アドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題を考える。
4	情報活用のための実践知識（2）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題と対処法を学ぶ。
5	ネットワークスキルのまとめ	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、外国での快適な情報活用のポイントと問題点を理解する。
6	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。

7	文化研究にむけての準備	各受講者による文化研究の個人テーマを持ち寄りクラス討議によりアイデア出しを行う。以後の授業では調査テーマや方法論についてのブラッシュアップを継続する。
8	学習成果の蓄積・共有方法の検討	在外環境での Web ベースの情報活用の有用性を認識する。SA での研究活動の検討着手。
9	学習成果の公開方法の検討	研究テーマに沿った調査計画とその中間報告を行う。SA 個人研究テーマのクラス討議。
10	学習成果の公開とその対応	調査研究の結果は、誰を対象にどのように公開するのかを検討し、準備する。
11	情報共有の手法	調査研究途中での各研究テーマのデータ蓄積やコメントの共有手法を確認する。SA 個人研究の問題点把握とグループワークの検討。事前調査事項の洗い出し。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。SA 研究計画の事前検討結果と問題点の報告。
13	研究計画の確認と成果の公開	事前に立てていた研究計画の確認と同時に調査研究成果を公開し、互いに議論する準備を行う。SA 研究計画の詳細化と最終的な検討。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前学習成果と SA 研究計画との接続。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には：

1. (SA 準備として) 個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
4. (必要に応じて) Web 外部公開申請書提出、個人研究テーマの検討
5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
6. 授業内の未了実習項目の完了、個人研究の計画書、携行 AV 機器の準備着手
7. 個人研究、グループワークの実施計画の検討ミーティングと報告書作成
8. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

佐藤郁哉、「フィールドワーカー書を持って街へ出よう」、新曜社; 増訂版 (2006/12/20) ISBN 978-4788510302
 水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版 (1996)、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】

授業参加 (30%)、ブログなどのコンテンツ作成 (40%)、実習課題 (20%)、発表 (10%) を目安とする。

【学生の意見等からの気づき】

携行予定の情報機器や SA 先での WiFi 接続など、実際の学習環境は年々変化する。これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室において授業を行います。受講者は学外（とくに SA 先）でのインターネット接続を励行しますのでスマホ、ノート PC もしくはタブレット端末など実際に現場で使用する機器類を授業内実習でも持って来てください。不明な点は担当教員にご相談ください。

【その他の重要事項】

SAをはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。

Webを基盤とする高度なICTの活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、**本科目では学生の就業力育成を支援します。**

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。

SA環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を並行履修すること。

情報コミュニケーションⅢ

中沢 しのぶ

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを使ってデザインやアートの作品制作をするための、入門的かつ実験的な実習授業です。

多くのアーティストやデザイナーに使用されているクリエイティブ系ソフト、**Adobe Illustrator**、**Photoshop** のベーシックな使い方を学び、イラストやデザイン制作を体験します。

【到達目標】

1. 作品制作を通じて、コミュニケーションに必要な視覚表現の基礎的な事柄を学びます。加えて創作全般に通じるクリエイティブな造形表現に必要な感覚や技術を養います。
2. 絵を描くことに苦手意識のある人や、PC での写真加工やデザイン制作が初めての人も、あまり難しく考えずに、頭よりも手を動かすことを優先して、造形の楽しさを体験します。

【授業の進め方と方法】

1. イラストレーション (**illustrator** / ドローイング)
 2. ロゴマーク (**illustrator** / フォントと図形)
 3. フォトコラージュ (**photoshop** / 写真加工と画像構成)
- の 3 つのテーマで、課題制作を進めます。

課題に取り組む際には課題の意義及び各ソフトの使い方について講義をします。各課題の最後にはお互いの作品を鑑賞し（プレゼンテーション）、講評会を行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
2	イラストレーション 1/4	課題の説明（絵画、デッサン、マンガなどの線による表現について） Adobe Illustrator の使い方（ドローイング表現）
3	イラストレーション 2/4	課題制作 （ドローイング。制作中は個別の指導となる。）
4	イラストレーション 3/4	課題制作 （ドローイング。制作中は個別の指導となる。）
5	イラストレーション 4/4	作品のプレゼンテーション 講評
6	ロゴマーク 1/4	課題の説明、講義（ロゴマークの意味合いについて） Adobe Illustrator の使い方（文字と図形について）
7	ロゴマーク 2/4	課題制作 （制作中は個別の指導となる。）
8	ロゴマーク 3/4	課題制作 （制作中は個別の指導となる。）
9	ロゴマーク 4/4	作品のプレゼンテーション 講評
10	フォトコラージュ 1/5	課題説明 Adobe Photoshop の使い方（コラージュ・写真の加工など）
11	フォトコラージュ 2/5	課題制作 （制作中は個別の指導となる。）
12	フォトレタッチ・コラージュ 3/5	課題制作 （制作中は個別の指導となる。）

- | | | |
|----|---------------------|------------------------------|
| 13 | フォトコラージュ 4/5 | 課題制作
（制作中は個別の指導となる。） |
| 14 | フォトコラージュ 5/5
まとめ | 作品のプレゼンテーション
講評
授業のまとめ |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

街の中のサインやポスター、本や雑誌、様々なプロダクツなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫などを意識して読み解いてください。大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのも良いと思います。

また、人工物だけでなく自然物にも目を向け、美しいと思う物をスマホ等で撮影しストックしておいて下さい。制作の材料として使用します。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

参考書、参考作品については授業の中でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）

課題提出（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

使用するソフトは以下の通りです。

Adobe Illustrator（イラストレーションを描くためのソフト）

Adobe Photoshop（写真を加工するためのソフト）

課題提出に授業支援システムを使いますので登録しておいてください。

また、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】

初心者の方には、各ソフトを使つての作品制作のコツをまず掴んで、さらに完成度を高めていく方法をお伝えします。技術的な経験は問いませんので、アートやデザインの作品制作に自信のない人も是非チャレンジしてみてください。

※課題制作については各受講者の能力やそれぞれがやりやすい進め方などを考慮して、毎回の内容や目標を掲げていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。初回のガイダンスに必ず出席してください。

登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

情報アプリケーション I

重定 如彦

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウェブページを記述する HTML は近年新しいバージョンが作られ、その表現力が増している。本授業では最新の HTML5 をベースに、CSS や Javascript などを用いて表現力の高いウェブページを作るための技法について学ぶ。

最終的には HTML5 を使って簡単な 3D グラフィックスを表現する方法を学び、迷路のウェブページを構築できることをめざす（完成例としては <http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/software/maze/maze.html> を参照のこと。3D の迷路を見るにはページの「webgl を使って描画する」をチェックする。ブラウザは Firefox、Chrome、IE11 以上を推奨）。

【到達目標】

ウェブページを記述する言語である HTML について理解し、自分でウェブページを作成できるようになる。

CSS を使って表現力の高いウェブページを作成できるようになる。Javascript を使って動きのあるウェブページを作成できるようになる。

Three.js を使って 3D グラフィックスを使ったウェブページを作成できるようになる。

インターネット環境で応用力のある豊かな情報発信能力を身に着ける。

【授業の進め方と方法】

授業の前半で HTML などに関する説明の講義を行い、授業の後半でテキストエディタとウェブブラウザを用いて実際にウェブページを作成する実習を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	HTML5	HTML5 とはどのようなものかについて学ぶ
2	タグその 1	HTML の基礎知識について学ぶ 見出し、段落、箇条書きなどの HTML の基本的なタグについて学ぶ
3	タグその 2	その他の HTML の代表的なタグについて学ぶ
4	CSS	スタイルシートについて学ぶ
5	Javascript	Javascript の基礎について学ぶ
6	Javascript を使ったグラフィックス	HTML の Canvas タグと Javascript を使ったグラフィックスについて学ぶ
7	Three.js	Javascript の 3D グラフィックスのライブラリである Three.js について学ぶ
8	3D グラフィックスの基礎	3D グラフィックスの基礎について学ぶ
9	3D グラフィックスアニメーション	3D グラフィックスのアニメーションについて学ぶ
10	迷路の表現方法	コンピュータで迷路をどのように表現するかについて学ぶ
11	迷路の 2D グラフィックス	コンピュータで表現した迷路を 2D グラフィックスで表現する方法について学ぶ
12	迷路の 3D グラフィックス	コンピュータで表現した迷路を 3D グラフィックスで表現する方法について学ぶ

13	迷路の自動生成	ランダムな迷路をコンピュータに自動生成させる方法について学ぶ
14	迷路の中を動き回る	コンピュータが作成した迷路内を動き回る方法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業が終わった後に復習を行うこと。

また、最終課題として自分のオリジナルの迷路のページを作成する課題を課すので、各自締切（最後の授業の 1 週間後）までに制作を行うこと。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10% 課題 40% 最終課題（迷路の課題） 50%

課題は授業内で適宜指示する。

最終課題をもって定期試験の代わりとするので、試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを使って授業を行う。

【その他の重要事項】

プログラミングやウェブページ関連の授業を受講していることが望ましいが、やる気があればプログラミングの経験が無くても歓迎する。

情報アプリケーションⅡ

大嶋 良明

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰でも参加できる自由なモノづくりの世界的潮流、**Maker** ムーブメントについて親しむ。実習形式でオリジナル電子楽器の製作を学ぶ。光、温度、圧力などの変化を検知してスピーカー、ディスプレイ、モーターなどの反応を制御する方法（意外と簡単！）を学び、自分のアイデアを作品として実現させる。

【到達目標】

Maker ムーブメントの背景と現状について理解する。楽器音の基本的理解にもとづく電子楽器の構成法を知る。**Arduino** マイコンによるセンサー入力処理方法が理解できる。オーディオ信号を中心とした出力の制御方法が理解できる。課題実習と作品制作を通じて、アイデアを成果物に実現する方法を構想できる。作りながら考える、考えながら作る自由闊達なモノづくりの精神を身に着ける。

【授業の進め方と方法】

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した講義および実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法で進めます。実習の内容は **PBL** の考え方にともづき、ワークショップ形式でのモノづくりを体験します。**作りながら考える、考えながら作る** をモットーにワークショップを運営します。マイコン、配線材など必要な実習機材は用意します。ほかに各自の作品構想に必要な部品は、既製品を分解する、100 均で手に入れる、自作する…などの方法でクリエイティブな試行錯誤を楽しみながら調達しましょう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明と導入、 Maker ムーブメントとは何か、モノづくりの実例に学ぶ。
2	Arduino 入門	Arduinno とは何か、 Maker ムーブメントにおける Arduino の役割を学ぶ。開発環境 Arduino IDE の使い方を学ぶ。音楽に特化した Arduino 互換機や周辺機器について学ぶ。
3	Arduino ライブラリから音を出す: Mozzi	電子楽器製作の準備として Arduino から音を出力する方法を学ぶ。音を扱うためのライブラリ Mozzi とその機能を学ぶ。
4	各種センサーの使用法を学ぶ	音の強弱、高低を変化させる方法を学ぶ。センサーの使い方を学ぶ。これらを組み合わせでセンサーからの信号に反応して音が変わる仕組みを学び、実装する。
5	打楽器の製作 (1) : 音を生成する仕組み	ドラムスなど打楽器音の性質を学び、 Arduino で打楽器音を鳴らす。
6	打楽器の製作 (2) : 楽器としての特色作り	サンプル音を再生する方法を学び、圧電センサーに反応してドラム音のサンプルを再生する電子ドラムを作成する。
7	日用品を打楽器に	さまざまな日用品にセンサーを装着して演奏可能な電子打楽器を自作する。

8	シークエンサーの製作 (1)	自動演奏の仕組みを理解する。インターフェースを追加し演奏機能を拡張する。
9	シークエンサーの製作 (2)	自動演奏の実行を視覚化する方法を学ぶ。楽器として完成させる。
10	電子楽器の相互接続: MIDI	MIDI による電子楽器の相互接続と制御の仕組みを理解する。 【課題製作】課題作品の構想発表
11	表示の高機能化 (1)	LCD ディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化
12	表示の高機能化 (2)	LED ディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の進捗状況と問題解決の共有、記録化
13	多様な出力: さらに多彩なモノづくりにむけて	フィジカル・コンピューティングの概念を理解し、 Arduino によるモーターやサーボなどの制御を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化
14	まとめ	学習成果のまとめとして制作物の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【手を動かすことを大事にしよう】

Arduino マイコンの開発環境はフリーソフトで **Windows**、**Mac**、**Linux** いずれの環境でも利用可能です。また実習で使う **Arduino** は互換機であれば安価に入手できます。興味のある人はどんどん使って応用力を身につけてください。

【感性を磨こう】

Make 関連の書籍は図書館にも整備されつつあります。また作品発表の多くはオンラインでも閲覧可能なので、授業内でも折に触れてご紹介します。ぜひそれらの作品にふれることでアタマを柔らかくしてモノづくりの豊かな楽しさを感じ取ってください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。**Maker** ムーブメント（モノづくりの世界）を楽しく学べる 2 冊と電子楽器の自作についての参考書を以下に紹介します。ぜひチェックしてください。

【何か作りたい！でも何を作ろう…？】

Karen Wilkinson(著), Mike Petrich(著), 金井哲夫(訳), 「ティンカリングをはじめようーアート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ」、オライリージャパン (2015)、ISBN:978-4873117263

【**Arduino** + 音楽】

中西宜人, 「**Arduino** ではじめる手作り電子楽器」、工学社 (2015)、ISBN: ISBN978-4-7775-1916-3

【モノづくり + デバイスアート】

小林茂(著), 「**Prototyping Lab** 第 2 版ー「作りながら考える」ための **Arduino** 実践レシピ」、オライリージャパン (2017)、ISBN:978-4873117898

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)、課題 (30%)、学期末に提出する作品発表 (30%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生に興味を持ってもらえるよう、単元や実習内容にいろいろ工夫を盛り込みました。初年度の授業を通して、受講者のスキルやモノづくりへの好みの違いをお互いの刺激として各自が成長できるよう、課題演習や理解度チェックのバリエーションを用意しました。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用し、実習に必要な **PC**、**Arduino** など共通の電子部品と配線材は用意します。課題作成時および提出時には貸与 **PC** または個人 **PC** が必要になります。

こころの科学

甲 洋介、森村 修

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：認知科学

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「こころ」とはいったい何だろうか。私たちは、日常生活では特に「こころ」とは何かと問うことはほとんどない。というのも、私たちは「こころ」があること、あるいは「こころ」をもっていることをあらためて問う必要もないと考えているからだ。しかし、私たちは、「こころ」について何を知っているのだろうか。しかも、「こころ」があるとされている「からだ」のことも、私たちはどの程度知っているのだろうか。

「こころ」への探求、さらには「こころと身体」との関係についての哲学的議論は、哲学が始まった当初から長い歴史を持っている。ある面では宗教もこの問題にかかわってきたとみてよい。その一方で、「こころ」の働きを「科学的に」解明しようとして、哲学から心理学が分かれてきたのは、ここ 100 年ほどの歴史しかない。また「こころと身体」との関係の理解については、相変わらず「心身二元論」の枠を出ていない。しかし今では「こころ」の探求については心理学だけでなく、言語学や情報学、脳科学など様々な角度からアプローチが試みられている。人工知能やロボットの分野では「こころを作ってみる」試みさえ出てきている。そこでは「こころ」の探求に関して、「身体」や身体を取り巻く「環境」との関係を視野に入れた研究が進められている。しかしそれでも、単一の領域からアプローチする方法では、「こころ」の本質に迫ることは難しい。近年では、「こころの科学」として、「こころ」を巡る様々な学問領域との連携を必要とする新しい学問が起って来た。

「学際的科学」としての「こころの科学」では、専門分野の異なる二人の研究者が、情報学、哲学、認知心理学を機軸として、私たちの「こころ」を明らかにしようと試みる。特に、「こころ」の「働き」の中で、「認知」という「謎」に取り組み、「人間が認識する働き」、もしくは「知るという働き」を解明することが目指されている。また、「認知」については「身体」への眼差しが重視されていることも忘れてはならない。

そこで本授業のテーマは、「こころ」のみならず、「こころと身体」との関係、「こころと環境との関係」についても視野に入れて、「こころ」の謎に迫ることにある。

【到達目標】

・「こころ」の働きを情報の観点から捉えることによって何を明らかにすることができ、何をまだ説明できないのか、記憶、学習、問題解決、情動等を取り上げ、その働きの要点を説明できる。
・「こころ」の働きを哲学の観点から考察することで、「こころとは何か」「こころとからだとの関係」はどのようにになっているのかということについて説明できる。

【授業の進め方と方法】

本年度は、甲（情報学）・森村（哲学）の両名が各自の専門分野から「こころ」という難問にアプローチする。

近年の「こころ」の探求は、科学的な観点からの解明が進んできた。コンピュータの発展に伴い、「こころ」の働きを「情報」の観点から捉えようとする考え方が活発になって来た。例えば、記憶や学習という現象を、「情報」が獲得・消失・加工・編集されているのだ、と説明したり、情報学をベースとした人工知能を用いて、人間の知のはたらきを実現したり拡張しようとする試みはその例である。さらに近年、「こころと脳」の関係を視野に入れた「脳科学」からのアプローチが活発になり、脳を含む「身体」や、「身体（脳）と環境」との関わりについての研究も盛んに行われている。

その一方で、「こころとは何か」「こころは存在するのか」という根本的な哲学的な問いが明らかにされてきたとは言いがたい。そもそも、「こころとは何か」ということが分からないのに、その「働き」を解明できるはずがないからである。こころの「働き」に着目する科学にとっても、「こころの存在」やその「本質」を問う「こころの哲学」が重要になることは言うまでもない。それゆえ、「こころ」の探求は、諸科学のみならず哲学などを含む学際的な研究を無視することができない。

しかも、20 世紀までは「こころの哲学」はおもに英語圏の哲学を中心に展開されてきたが、21 世紀に入ると、現象学的哲学による「こころの哲学」研究が台頭してきた。なかでも、生物学者ヴァレラによる「神経現象学」に端を発した現象学的な「こころの哲学」が大きな成果を上げつつある。

そこで本科目でも、認知科学と哲学という二つの専門分野から、「こころ」という問題を考えていく。その際に、それぞれの分野をオーバーラップさせる学際的な講義形式をとることが試みられている。

【重要】

本科目は複数教員担当による「オムニバス講義」である。本年度は、前半を甲洋介が担当し、情報学からのアプローチに焦点をあてる。後半を森村修が担当し、哲学からのアプローチに焦点をあてる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	こころの科学とは何を指す学なのか、講義と議論の進め方
2	こころの情報学	こころに対する、情報学からのアプローチ
3	記憶のしくみと学習	記憶の種類、記憶のしくみ、忘却と記憶の誤り
4	学習と行動の変容	学習による行動の変化、知識表現、環境との相互作用
5	問題解決の科学	『問題』とは何か、問題解決の枠組み、人工知能によるアプローチ
6	生態学的視覚論の基礎	生態学的視覚論（ギブソン）の基本概念と考え方
7	生態学的視覚論からの検討	アフォーダンスの概念、生態学的視覚論からの問題提起
8	「感情／情動の哲学」へのイントロダクション	「感情／情動の哲学」へのイントロダクション
9	「感情／情動の哲学」とは何か	「感情／情動」という問題にいたる「こころの哲学」の歴史
10	感情／情動とは何か？（1）	感情／情動の哲学史（1）
11	感情／情動とは何か？（2）	情動／情動の哲学史（2）——生理学的反応説 vs 認知説
12	情動の身体知覚説（1）	アントニオ・ダマシオのソマティック・マーカー仮説
13	情動の身体感じ説（2）	ジェシー・プリンツ説の検討（1）——"Gut Reaction"(2004)（邦訳『はらわたが煮えくりかえる』）（1）
14	情動の身体感じ説（3）	感情／情動の哲学のゆくえ——身体性評価説（Embodied Appraisal Theory）から情動の倫理へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

小レポートを数回提出を求める。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

講義中に適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】

【前半（甲）】 平常点（30%：討議への参画、小レポートを含む）と、試験あるいは課題レポート（70%、開講時に指示する）。

【後半（森村）】 平常点（30%：討議への参画など）と、期末試験あるいは課題レポートによって評価する（70%）。場合によっては、期末試験に代えて最終レポートに切り替えることもありうる（開講時に指示をする）。

以上を総合的に評価し、評定を決める。

【学生の意見等からの気づき】

実際の現象を理解しやすいように、説明の中にできる限り実験や具体例等を取り入れる。

【その他の重要事項】

本科目では、「こころとは何か」と「知とはどのように働くか」という問いに興味のある学生の参加を期待する。

ゲーム構築論

重定 如彦

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：モデリング・シミュレーション

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさをコンピュータゲームのモノづくりを通して学ぶ。コンピュータにはワープロ、メールソフト、ウェブブラウザ、ゲームなどありとあらゆるソフトウェアがあり、我々は日々それらの他人が作成したソフトウェアを利用しているが、これらのソフトウェアが実際にどのようにして作られているかについて知っている人はあまりいないのが現状である。そのためコンピュータで何かを行う場合、他人の作成したソフトウェアを探して利用する必要があるが、そのようなソフトウェアが見つからなければあきらめるしかない。

実際にはプログラミングを学ぶことで、簡単なソフトウェアであれば必要に応じて自分で作ることができるようになる。つまり、コンピュータのソフトウェアの消費者から、コンピュータのソフトウェアの生産者になることができるようになるのである。

日常にあふれるコンピュータのソフトウェアはどのようにして作られているのか？ 本授業ではソフトウェアの中でも親しみやすいコンピュータゲームのプログラミングの観点から具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

コンピュータゲームの題材としては主に、占いや数当てゲームなどの初歩的なものからはじめ、最終的にはマインスイーパーやテトリスなどの知名度の高いゲームを扱う予定である。

【到達目標】

コンピュータゲームのモノづくりを通じてコンピュータのソフトウェアがどのようにして動いているかを理解し、自分の力で簡単なソフトウェアを作り出すことができるような実践的な能力を身に着けることを目指す。

2015 年度の本授業の学生の作品を e ポートフォリオにまとめておいたので、以下のアドレスから参考にしてほしい（TABS→ ページの順でクリックすると一覧を見ることができる）。<http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=188>

【授業の進め方と方法】

授業ではコンピュータプログラミングの入門用言語として Visual Basic を用いたソフトウェア制作の実習を行う。様々なソフトウェアの制作を通じてプログラミングの基本となる考え方、課題、解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。

前半では、「占い」、「数当てゲーム」といった簡単なゲームを扱うことによってプログラミングの基礎を学ぶ。

後半では「マインスイーパー」や誰もが知っている「テトリス」などといった複雑なゲームを扱うことでコンピュータのソフトがどのような考え方によって作られているかについて学ぶ。

実際に取り上げるゲームの題材は学生の興味と理解に合わせて臨機応変に取り上げる予定であり、学生の要望によっては他の題材を取り上げる可能性もある。下記の授業計画は上記の題材を取り上げた場合の計画である。

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	プログラミングとはどういうものかについて学ぶ。Visual Basic の基礎について学ぶ
2	占い	変数、乱数、条件分岐について学び、占いのゲームを作成する
3	数当てゲームその 1	変数を使って回数を数える方法について学び、数当てゲームを作成する

4	数当てゲームその 2	数当てゲームを完成させる
5	マインスイーパーその 1	配列変数について学び、マインスイーパーの盤面をどのように表現するかについて学ぶ
6	マインスイーパーその 2	グラフィックスについて学び、マインスイーパーの画面の表示方法について学ぶ
7	マインスイーパーその 3	マウスイベントについて学び、画面上をクリックすることによってマインスイーパーのマスを開く方法について学ぶ
8	マインスイーパーその 4	マスを開いた際の処理、旗の処理、ゲームのクリアの判定方法について学ぶ
9	マインスイーパーその 5	マインスイーパーを完成させる
10	テトリスその 1	テトリスの盤面を表現する方法、様々な種類のブロックをどのように表現するかについて学ぶ
11	テトリスその 2	ブロックの移動、回転の方法について学ぶ
12	テトリスその 3	ブロックがくっついた時の処理、ブロックを消す方法について学ぶ
13	テトリスその 4	ブロックを時間経過によって移動させるというアニメーションの手法を学ぶ
14	テトリスその 5	その他、点数、ゲームオーバーなどテトリスに必要な機能を実現する方法について学び、ゲームを完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する教科書の内容を予習復習し、各自制作の実習を行う。

【テキスト（教科書）】

「学生のための詳解 Visual Basic」 東京電機大学出版局（2009）

【参考書】

必要に応じて授業内で説明する

【成績評価の方法と基準】

平常点 10%、ソフトウェア制作 90%

ソフトウェア制作は授業で取り上げたソフトウェアを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

進め方が早すぎてわからなくなることがあったという意見があったので、早くなりすぎないように注意したい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストを使用し、各種ソフトウェア等を用いて進める。

【その他の重要事項】

熱意があればプログラミングの未経験者でもテトリスを完成させることが可能です。プログラミングやコンピューターゲームに興味がある方はぜひ受講してみてください。

ヒューマンインターフェイス論

甲 洋介

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、道具がなければ、自然界においてとても非力な存在である。

人間は道具を巧みに操ることによって、自分の身体的・感覚的・知的な限界を超えることを可能にしてきたと言える。

日常生活をよく観察すると、人間はさまざまな種類の道具に囲まれて生活している。その一方で、例えば、買ったばかりの新機種のスマートフォンに慣れるまでの苦労を思い出そう。私たちは道具を使いこなすのに思った以上に苦労している。日常の道具をもっと使いやすい道具にできれば、日常生活は快適でより豊かなものとなる。その決め手が「ヒューマンインターフェイス」のデザインである。

利用者が自分の意図通りに道具を使いこなせるようになって、初めて道具としての価値が生まれる。本講義は、道具を使いやすく、魅力的なものにするための設計方法論について、基本的な考え方から具体的な設計手順までを、体系的に、具体的かつ実践的に学ぶ。

【人間と人工物のよりよい共生に向けて】

文化や特性が異なるために摩擦を生じるのは人間どうしだけでは無い。人間が作り出した人工物と人間も、表面的なカタチや素材だけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな能力と特性において異なっている。そのため、人工物（道具）と人間との間でも様々な形で摩擦が生じてくる。

ロボットと人間の共生問題もこのような観点から議論され始めている。これら異質な存在どうしが接する境界面が、「ヒューマンインターフェイス」なのである。こういった発展的課題について考える基盤も身につけられる。

【到達目標】

基礎知識を身につけて、魅力ある企画書を作ってみよう！

・使いやすい道具をデザインするためのユーザーセンタードデザインの設計手法について、基本的な考え方、設計の基本原則から、ユーザー特性の分析方法、具体的にデザインする手順まで、実践的に手法を習得できる。

・最終課題では、新しい道具・商品・サービスのデザイン案を、ユーザーセンタードデザインの設計手法を使って、ユーザーエクスペリエンス（UX と呼ばれる）の観点から履修者ひとりひとりがデザインし、企画書を提案できるようになる。

【授業の進め方と方法】

まず人間と道具との関係性を学び、そのデザイン手法として「ユーザーセンタードデザイン」*User-Centered Design* を実践的に学ぶ。

● 前半は、人間の意外な特性、考え方など基礎知識を学ぶ

使いやすい道具をデザインするには、人間の諸特性を知ることが大切になる。たとえば、人間は覚えたことを忘れやすいし、正しいと思い込んでさまざまな誤りを起こすこともある。道具を設計する時に、そういった人間の諸特性を学び、それらを考慮してデザインすると、道具は利用者にとってもっと気軽に使えるものになる。

● 後半は、デザインの具体的な手順を学び、企画書として仕上げる

後半ではワークショップ方式を取り入れ、履修者それぞれが日常生活を豊かに暮らしやすくする道具・商品・サービスのデザイン実習に取り組む。履修者どうしがアイデアを提案し合い、改良点をディスカッションする機会が提供される。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	『暮らしのシナリオ』	日常生活で出会う道具に着目して書いてみよう 「暮らしのシナリオ」を描く
2	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒューマンインターフェイスのデザインだ
3	ヒューマンインターフェイスとは	人間と道具のコミュニケーション

4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する方法
5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、新しい事柄をなかなか覚えられない動物である
6	道具の使いやすさ	ユーザビリティの定義と国際規格
7	「人間中心の設計法」 <i>User-Centered Design (UCD)</i> ①	ユーザの体験 (<i>experience</i>) をデザインする、という考え方
8	「人間中心の設計法」②	<i>UCD</i> の基本原則を理解しよう
9	「人間中心の設計法」③	デザインに必要なさまざまなコンピテンス（専門性）
10	道具のデザイン実習①	魅力をもつ商品の企画書を作る手順
11	道具のデザイン実習②	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③	ユーザの快適な体験 (<i>experience</i>) をデザインする
13	道具のデザイン実習④	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で学習した方法論に沿って、デザイン実習を行う。その成果を、方法論に沿って、企画提案レポートとして仕上げ、発表し、提出する。

【テキスト（教科書）】

・「誰のためのデザイン」(D.A. ノーマン、新曜社) 2015

・「人間計測ハンドブック」(甲ほか、朝川書店) 2013

他については適宜指示する。

【参考書】

・「ヒューマンインタフェースの発想と展開」(B. ローレル、ピアソン・エデュケーション) 2002

・「コンピュータは難しくして使えない」(A. ケーパー、翔泳社) 2000

・「情報デザイン—分かりやすさの設計」(情報デザインアソシエーツ、グラフィック社) 2002

・NPO 人間中心設計推進機構：<http://www.hcdnet.org/>

・「新世紀エヴァンゲリオン」一連の作品 (GAINAX、監督：庵野秀明)

【成績評価の方法と基準】

発表とレポート (60 %)、授業・討議における積極的な貢献度合い (レスポンスシートを含む) (40 %)。

課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

最終日の、受講生によるデザイン案のプレゼンテーションとグループ討議が、互いに大いに刺激になったとの感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインにこだわりのある皆さんの参画を期待する。

【履修条件】

・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

・「仮想世界研究」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」「文化情報空間論」と組み合わせ受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。

【関連科目】

・「情報コミュニケーションⅠ」のグループワーク実習を並行して履修することを勧める。基礎知識の習得と重要ポイントの実習の相乗効果で、理解がさらに深まる。

・「システム論」を並行して履修するのが望ましい。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PC および、DVD デッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

情報セキュリティとプライバシー

佐藤 雅明

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：ネットワークセキュリティ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ同士を繋ぐテクノロジーであったインターネットは、Web、スマートフォン、そして IoT などの登場によってすべての分野の社会インフラとなった。本授業では、こうしたコンピュータネットワークが前提となった社会のリテラシーとして、コンピュータの仕組みとプログラムの基本的な仕組みを学び、これからの情報セキュリティとプライバシーを考える上で必要な知識と技術の習得を行う。

【到達目標】

- コンピュータを構成する要素と基本的な仕組みを理解できる。
- コンソールとエディタを使って、JavaScript を使った基本的なプログラミングの構造を学ぶ。
- プログラミングをする上で必要な論理的思考を身につける。
- 情報セキュリティとプライバシーに関する基本的な知識を習得する。
- 情報セキュリティとプライバシーに配慮した情報取得・情報発信力を身につける。

【授業の進め方と方法】

授業は原則的に、講義と演習（プログラミング演習・課題演習）によって進める。また、授業中に知識試験と課題発表をおこなう予定である。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の構成と進め方、および学習環境について述べると共に、現在のインターネットを取り巻く状況と課題について学ぶ。
2	コンピュータの仕組み	現在のコンピュータの構成要素やオペレーティングシステム、階層モデルなどについて学ぶ。
3	Web の仕組み	現在のインターネットのサービスプラットフォームである Web と、そこでの情報交換の仕方について学ぶ。
4	HTML	Web における情報記述言語である HTML の仕組みについて学び、実際の記述法を学ぶ。
5	スクリプト	JavaScript を通したプログラミングの記述の仕方と基本的な知識を学ぶ。
6	関数と変数	JavaScript における関数と変数の概念と使い方を学ぶ。
7	場合分け	JavaScript における条件分岐の概念と使い方を学ぶ。
8	繰り返し	JavaScript における繰り返しの概念と使い方を学ぶ。
9	知識試験	ここまでの知識の習得度を確認するための試験をおこなう。
10	情報セキュリティ	コンピュータネットワークを扱うにあたって知っておくべきセキュリティの基礎について学ぶ。
11	プライバシー	Web などを通した情報発信、あるいはプログラムを作成する上で知っておくべきプライバシーの基礎について学ぶ。

12	課題演習 (1)	ここまでの授業を踏まえ、情報セキュリティとプライバシーに配慮した Web ページの構築、主に設計をおこなう。
13	課題演習 (2)	ここまでの授業を踏まえ、情報セキュリティとプライバシーに配慮した Web ページの構築、主に実装をおこなう。
14	最終発表	構築した Web ページの発表を通して、この授業で学んだ知識と技術について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備などは特段必要としないが、必要に応じて授業内で課題などを出すこともあるため、授業中のアナウンスを確認して欲しい。

【テキスト（教科書）】

特に必要としない。

【参考書】

特に必要としない。

【成績評価の方法と基準】

成績については、平常点 30%、知識試験 30%、最終発表 40%を目安として評価を行う予定である。

【学生の意見等からの気づき】

学生の習熟度に応じて、授業の進度や課題の難易度は適宜調整しながら進める予定である。

バイオインフォマティクスー生物情報ーヒトといきものを理解するー

島野 智之、川上 裕司、宮沢 佳恵、黒沼 真由美

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報という視点からみた生命の実像を講義と実習を通じて学ぶ。内容は大きく 2 つに分けて、(I-II)「ヒトを取り巻く環境と生物」と、(III-IV)「生物それ自体とその進化」について講義を行う。分野は衛生動物学、農学、美術、生物学にわたり、生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ。

【到達目標】

ヒトの生活と生物・農業にまつわる歴史、文化そして、現代的な問題を解決する方法について、考え理解する。生物の多様性や進化について、考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について、現代生物学の手法を体験し、現状を理解する。

【授業の進め方と方法】

講義はやわらかく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます。11 回までは、講義が中心ですが、特に、5-8 回は、討議なども入れたアクティブラーニングの手法ももちます。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。最後の実習（12 回以降）は、実際にパソコンのソフトを用いて、外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）、②食中毒とは何か、③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物	①プロバイオティクスとは何か、②医食同源は健康的な食生活の基本、③人類の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態、②ダニ・昆虫アレルギーについて、③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物	①主な細菌・真菌（カビ）・ウイルスと疾病、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤と IPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(II) ヒトと食物 (1) 人は肉食主義になるべきか？	①なぜ肉食が環境に負荷をかけるのか、②草食動物と肉食動物の根本的な違い、③生態系の中の人類の食物連鎖における位置、④新たなタンパク質確保の研究
6	(II) ヒトと食物 (2) 遺伝子組み換え食品は何か問題なのか？	①遺伝子組み換え作物とは、②他の育種法との違い、③遺伝子組み換え作物の研究と報道、④潜在的な問題について
7	(II) ヒトと食物 (3) 有機農業は支援した方がよいのか？	①有機農業のイメージ、②有機農業の実態、③農薬を使わないということ、④どんな栽培方法が持続的なのか

8	(II) ヒトと食物 (4) 生態系と調和して持続的に生きていくためには昔の生活に戻らなければいけないのか？	①パーマカルチャーとは、②トランジションタウンとは、③持続的で豊かな社会を作っていくために
9	(III) 無脊椎動物解剖学 (1) エビの体のしくみ（外骨格、筋肉）	私達に馴染みの深い甲殻類であるエビ。主に体幹の仕組を通して、節足動物に特有の、硬い外骨格と 2 つの付属肢がつき、前後につらなる「体節」という構造について
10	(III) 無脊椎動物解剖学 (2)	甲殻類であるカニの、主に歩脚や鋏脚、腹脚、顎、触覚等の付属肢に注目し、その動く仕組みと外側から見た形態の変化について
11	(III) 無脊椎動物解剖学 (3)	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし、様々な形態や筋肉のつき方、動きを比較する
12	(IV) 生物の進化を推定する (1) DNA 配列と分子進化	DNA は AGTC の配列（塩基配列情報）によって構成されていることについて復習と発展。塩基配列情報が違うことから生物の進化を推定する
13	(IV) 生物の進化を推定する (2) 塩基配列・バイオインフォマティクス	塩基配列解析の様々な手法および大量ゲノム解析が社会に与える影響。DNA 情報をテキスト配列として、操作して、様々な生物の塩基配列情報を扱う
14	(IV) 生物の進化を推定する (3) 系統樹作成	生物の塩基配列情報から、実際に系統樹を作成する（生物進化の推定を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。個人的に作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げられている。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート (60%) だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書 (ビデオ等の感想、小テストなど) (40%) も加え、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度、カリキュラムを大幅に改訂し、国際文化学部のある学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。

受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

12 回から 15 回までは情報機器を使用します。パソコンにインストールされているソフトを元に、実習します。遺伝子データベース <http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html> を使います。

【その他の重要事項】

情報実習室で行うことに注意してください。

ネットワーク環境構築論

松浦 知史

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：ネットワーク・プログラミング、ネットワークサーバ構築論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンやスマートフォン等を用いて、WEB サイトの閲覧やメールの送受信を始め様々なアプリケーションを利用する事がごく一般的になった。本講義ではこのようなサービスを成り立たせているネットワーク技術、サーバ技術について演習を通して学習する。

【到達目標】

Linux の基礎的な操作方法やプログラミング言語 (Perl もしくは Python) の文法の基礎を習得し、プログラミング言語 (Perl もしくは Python)、サーバ (Linux) を用いながら WEB サーバ等の構築方法やネットワークを通じた情報収集/解析の手法を習得する事を目標とする。

【授業の進め方と方法】

Linux 環境を利用して、その上で基本操作やプログラミング言語、ネットワーク技術およびサーバ技術の学習を行う。演習形式の講義であり、全ての講義で演習室の計算機を利用して講義を進める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Linux 基礎 (コマンド操作)	ls, cd といった代表的なコマンド等を紹介しながら、Linux の基本操作を学ぶ
2	Linux 基礎 (ソフトウェア)	代表的なソフトウェアを紹介しながら、Linux の基本操作を学ぶ
3	プログラミング基礎 (基礎文法)	Perl もしくは Python を利用してプログラミングの基礎文法を学ぶ
4	プログラミング基礎 (制御構造)	Perl もしくは Python を利用して条件分岐や繰り返しといった制御構造を学ぶ
5	プログラミング基礎 (文字列操作)	Perl もしくは Python を利用して正規表を用いた文字列操作を学ぶ
6	ネットワーク基礎 (通信プロトコル)	インターネットを支える TCP/IP といった通信プロトコルについて学ぶ
7	ネットワーク基礎 (ネットワークサーバ技術)	メールや WEB サーバ等々の仕組みについて学ぶ
8	ネットワークプログラミング (WEB コンテンツの取得)	WEB サーバから情報を取得するプログラミング手法を学ぶ
9	ネットワークプログラミング (WEB コンテンツの解析)	WEB サーバから情報を取得し HTML の内容を解析するプログラミング手法を学ぶ
10	ネットワークプログラミング (データの整形と保存)	WEB サーバから情報を取得し HTML の内容を解析したデータをユーザにとって閲覧しやすいように整形し、またデータを保存する方法を学ぶ
11	WEB サーバ構築 (構築手順)	Linux 上に WEB サーバを構築する手順を学ぶ
12	WEB サーバ構築 (コンテンツのアップロード)	Linux 上に WEB サーバを構築し、コンテンツの掲載方法を学ぶ

- | | | |
|----|-------------------------------|---|
| 13 | WEB サーバ構築 (サーバサイドのプログラミング) | サーバ側のプログラミングを行い動的なコンテンツ生成を可能とする WEB サイトの構築方法等を学ぶ |
| 14 | WEB サーバ構築 (クライアントサイドのプログラミング) | JavaScript を利用し、サーバ/クライアント両方を含めた WEB プログラミング手法を学ぶ |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でプログラミング、サーバ構築に関する課題を適宜出す。課題をこなすだけでなく、課題をこなした成果物を各自で拡張することを強く勧める。

【テキスト（教科書）】

講義開始時に配布する。

【参考書】

「初めての Perl」 第 7 版

出版社: オライリージャパン; 第 7 版 (2018/1/20)

Randal L. Schwartz (著), brian d foy (著), Tom Phoenix (著), 近藤 嘉雪 (翻訳), 嶋田 健志 (翻訳)

「入門 Python 3」

出版社: オライリージャパン (2015/12/1)

Bill Lubanovic (著), 斎藤 康毅 (監修), 長尾 高弘 (翻訳)

「はじめて UNIX で仕事をする人が読む本」

出版社: KADOKAWA/アスキー・メディアワークス (2014/3/21)

木本雅彦 (著), 松山直道 (著), 稲島大輔 (著), 株式会社創夢 (監修)

【成績評価の方法と基準】

課題 (サーバ構築やプログラミング) の達成度で 100%評価するが、サーバ環境の構築スキルやプログラミングのスキルが講師側で判断できれば試験/課題を省略し、その場合は平常点で 100%評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗を考慮しながら、講義ペースや課題の難易度を設定していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

演習室の計算機を利用して、Linux 環境で講義を進める。

【その他の重要事項】

「ネットワーク基礎」、「プログラミング言語基礎」といったネットワークやプログラミングに関する講義を修了している事を前提に講義を行う。

文化情報空間論

甲 洋介

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生きているこの世界は、けして自然的な世界ではない。むしろヒトが作り出した人工的世界の中に生きていると考えるほうが自然である。

自分の身の回りにある人工物（artificial creature）に着目してみよう。人工物は実にさまざまな存在形態を有していることに気づくだろう。人工物は暮らしのあらゆる場面に埋め込まれている。極端に言えば、すでに人間と人工物の境界は曖昧なのである。

本講義では、まず基礎として「人工物の科学」（H.A. サイモン）について概要を紹介し、それに基づく「知的人工物との暮らしのデザイン」について学ぶ。

人工物は、玩具や文具のように人間から独立して存在するモノだけではない。人間の身体に装着する義足や高機能な衣服、脳波によって作動する器具のように、人間の身体や能力と一体化して機能する人工物もある。住宅建築や空間のように人間を包み環境として存在する人工物もある。このように捉えなおすと、現在の「都市」はある意味で空間化した知的人工物として捉えることができるようになる。

【到達目標】

・人工物とは何か、それはどのように登場し、人間にとってどのような意味があるのか、「人工物の科学」の基礎を理解する。
・知的人工物が変化を感じ取り環境に適応するための技法として、知識表現、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズムの基礎を学び、人間と人工物の共生社会を捉えるための分析観点について学ぶ。
・さらに、「ヒューマンインターフェイス論」を履修した者にとっては、User-Centered Design 設計手法の上に立って、私たちの暮らしを支える知的生活空間デザインの基本的枠組みを理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】

本講義は、まず「現在」を人間と人工物との共生社会として捉えることから始まる。そして、私たちの生活空間のさまざまな局面に人工物が浸透する様態に着目し、

- ①人間の身体や能力と一体化して作動する人工物、
 - ②人間と独立したモノとして存在する人工物、
 - ③空間化し人間を包み込む環境として存在する人工物、
- の3つの存在形態について検討を加える。

これらの人工物が日常生活に入り込むことによって、私たちの生活習慣や文化はどのように変容し、生活空間はいかに拡張されるのか、具体的に切り出された生活場面を詳細に検討し、新たな設計を試みる講義とする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～サイバーパンクSFを超えて	知的人工物との暮らし
2	人工物のサイエンス	人工物を科学するとはどういうことか
3	人工物のサイエンス②	日常生活を構成する人工物の諸相
4	人工物との暮らしをデザインする	人間の身体・感覚・認知の諸特性を拡張する人工物
5	適応する人工物	環境を感じとり、身体を持つ知能としてのロボット
6	環境を感じ取り適応する知的な人工物	ニューラルネットワーク（神経回路網）モデル
7	環境を感じ取り適応する知的な人工物②	自然淘汰と遺伝的アルゴリズム
8	人間と一体化する人工物	身体と人工物の境界はすでにあいまいである

9	人間と一体化する人工物②	人間の知覚、感覚的諸能力との一体化
10	人間と協調する知的人工物	人間の認知的諸能力と一体化する人工物
11	人間と協調する知的人工物②	人工物に感情は必要か
12	空間化する知的人工物	情報化する空間と、空間化する情報
13	空間化する知的人工物②	知的人工物としての都市
14	まとめ	人間拡張学に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に、講義を通じて各自で考えた事柄をまとめ、授業支援システムに蓄積する。受講生からのコメントは講義で活かされる。

【テキスト（教科書）】

・「システムの科学」第3版（H. サイモン、パーソナルメディア）1999.
他については、講義の進行に応じて指示する。

【参考書】

・「深層学習：ディープラーニング」（麻生英樹他、近代科学社）2015.
・「複雑さと共に暮らす」（D.A. ノーマン、新曜社）2011.
・「攻殻機動隊」（監督：押井守、ワーナー）他一連の作品群
他については、講義の進行に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（60 %）

授業・討議における積極的な貢献度合い（発表、レスポンスシートを含む）（40 %）

レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

人工物によって人間のどのような側面が、どのように拡張されてきたのか、具体例を増やし、分かりやすい説明を試みる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

人間の心の特性や、「ロボット」「知能」「モノづくり」に興味のある皆さんに参画を期待する。

【履修条件】

・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

・「ヒューマンインターフェイス論」「仮想世界研究」「こころの科学」と組み合わせて受講することにより、履修効果が高まるようにデザインされている。

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋 良明

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：コンピュータ音楽と音声情報処理，メディアシステム構築論，メディア処理

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC でシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語である Pure Data(Pd) を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時に MIDI や OSC による他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoT など現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】

コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd) に習熟しビジュアルプログラミングの考え方とコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしての Pd の利点を認識し、Windows、Mac など OS や機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】

ビジュアルプログラミング言語 Pd を使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスタ内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pd による音響モデリングの先端的な実現例を Andy Farnell のサンプルプログラムから学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび PureData(Pd) の概要	【講義と実習】 PureData(Pd) とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】DTMF トーン（ブッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pd の基礎	【講義と実習】 パッチ（Pd のプログラム）を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】 ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】 音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】 雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】 音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】 時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。

5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音を Pd で使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】 サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】 ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。
7	リズムマシン (2)	【講義と実習】 リズムマシン基本形を発展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】 足音のモデル化を学ぶ。
8	シンセサイザーと MIDI(1)	【講義と実習】 波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDI による電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】 ロボット（スターウォーズ R2D2）の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーと MIDI(2)	【講義と実習】 シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。MIDI 信号による制御を付加する。
10	インタラクティブ・アート：音と時間構造	【講義と実習】 ルーパー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】 課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。Web カメラから信号を Pd で加工する方法や Pd で映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
12	ネットワーク環境への拡張	【講義と実習】 OSC プロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数の Pd パッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピュータとの連携	【講義と実習】 Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motion などフィジカル・コンピュータと関連デバイスを学ぶ。Pduino による Pd と Arduino の連携方法を学ぶ。
14	まとめ	学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

情報リテラシー、メディア情報、デジタル情報学等の関連科目を前提知識として挙げておく。Pd はオープンソースのソフトウェアであり Windows でも Mac でもフリーで配布されており、情報カフェテリアの PC にもインストールされている。スマホ用にも Pd の実行環境は提供されている。授業時間外での Pd の実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。

【テキスト（教科書）】

実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】

参考書・参考資料等

【Pure Data】

美山千香士、『Pure Data チュートリアル&リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424

松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Data ではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エヌ・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804

中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821

【音響モデリング】

Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、課題 (30 %)、最終課題の評点 (40 %) で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人の PC を利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。また Web 公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のデスクトップ PC を使用する。Pd はフリーにダウンロードできるので個人 PC (Mac 版、Linux 版もある) にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。Raspberry Pi、Arduino、Kinect、Leap Motion などの実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

ハイパーテキスト論

川村 たつる

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハイパーテキスト（複数の文章を相互に関連付けて 結び付ける仕組み）という概念を広義の意味で捉え、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）やシェアリング・エコノミー、新しい形態の組織等の事例を考察していきながら、人・物・事のネットワーク（繋がること・繋がり方）を考えながら学んでいきます。

【到達目標】

現代社会におけるネットワーク（繋がること・繋がり方）を、受講者それぞれが自身の考え方で再考察していけるようになることを目指します。

【授業の進め方と方法】

普段利用している SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）における人と人の繋がり方や、Airbnb や Uber 等に代表されるシェアリング・エコノミーの在り方、ネットワークを利用した新しい事業、新しいコミュニティに関わる事例を考察していきながら、グループワークを通して、これからの人・物・事の新しい繋がり方の可能性を受講者と再考察していきます。

※グループワークの発表に関しては、それぞれの技術的な出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。また、ワークショップ、発表を通して他者の考え方や表現方法を自身のものと比較検証を行いながら考察することも重要な目的としています。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「ハイパーテキスト」とは
第 2 回	考察 1	人と人との繋がり方を考える
第 3 回	考察 2	ソーシャルネットワークを考える
第 4 回	考察 3	シェアリングエコノミーを考える
第 5 回	グループワーク 1	テーマに沿ったグループワーク
第 6 回	グループワーク 1	テーマに沿ったグループワーク
第 7 回	講評会 1	グループワーク 1 の発表
第 8 回	考察 4	「場」が介在する人と人の繋がり方を考える
第 9 回	考察 5	サードプレイスを考える
第 10 回	考察 6	コミュニティモデルを考える
第 11 回	グループワーク 2	テーマに沿ったグループワーク
第 12 回	グループワーク 2	テーマに沿ったグループワーク
第 13 回	講評会 2	グループワーク 2 の発表
第 14 回	まとめ	本授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

ワークショップは授業内に時間を設定して行うが、発表の準備等は 1 グループ毎に授業外で行うこととします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

「新ネットワーク思考」アルバート＝ラズロ・バラバシ著（NHK 出版/2002 年）、「複雑な世界、単純な法則」マーク・ブキャナン著（草思社/2005 年）、「接続された心」シェリー・ターク著（早川書房/1998 年）、「サードプレイスーコミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」レイ・オルデンバーグ著（みすず書房/2013 年）等。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、グループワーク活動・発表内容（30%）で成績評価を行います。

また、グループワークへの参加が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を考えたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業内では情報機器は使用しない。課題制作に関しても特定の情報機器の使用は指示しない。

【その他の重要事項】

参加人数により授業計画は若干変更する場合があります。

情報編集論

川村 たつる

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：50 人前後 あまりにも人数が多い場合は選抜も検討

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段何気なく見ている広告や使用している製品等を再考察していきながら、受講者それぞれが「情報を編集する」ということを通して「情報の編集」を学んでいきます。

【到達目標】

受講者それぞれが、自身の考えを表現する際に、「情報の編集」を実践できるようになることを目指します。

【授業の進め方と方法】

広告制作、商品開発等の事例を制作者の立場から考察し、「情報を編集する」ということを学んでいきます。

受講者それぞれが課題制作を通して「情報を編集する」ということを体験してもらい、講評会における他者からのフィードバックを通して「情報の編集」を再考していくようにします。

※課題制作に関しては、表現技術の出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。

また、自身が表現方法を試行錯誤することだけでなく、他者の考え方や表現方法を自身のものと比較検証を行いながら考察することも重要な目的としています。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「情報の編集」とは
第2回	情報を編集する 1	「情報を編集する」ということ考える
第3回	情報を編集する 2	「情報を編集する」を試してみる
第4回	広告と情報編集 1	「自分が最近気になる広告」を持ち寄る
第5回	広告と情報編集 2	広告制作における情報編集を考える
第6回	広告と情報編集 3	「自分が最近気になるコマーシャル映像」を持ち寄る
第7回	広告と情報編集 4	コマーシャル映像制作における情報編集を考える
第8回	広告と情報編集：講評会	講評会形式の課題作品発表
第9回	商品と情報編集 1	「自分が最近気になる商品」を持ち寄る
第10回	商品と情報編集 2	商品開発における情報編集を考える
第11回	商品と情報編集 3	「自分が最近気になる商品パッケージ」を持ち寄る
第12回	商品と情報編集 4	商品パッケージ制作における情報編集を考える
第13回	商品と情報編集：講評会	講評会形式の課題作品発表
第14回	まとめ	本授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

課題の制作は、各自授業外で行うこととします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

「デザイン思考が世界を変える」ティム・ブラウン著（早川書房/2010 年）、「知の編集工学」松岡正剛著（朝日文庫/2001 年）、「情報の歴史」松岡正剛監修（NTT 出版/1990 年）、「Design Rule Index — デザイン、新・100 の法則」ウィリアム・リドウエル/クリスティーナ・ホールデン/ジル・バトラー共著（BNN/2004 年）等。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、課題発表（30%）で成績評価を行います。

また、すべての課題提出が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を考えたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業内では情報機器は使用しません。課題制作に関しても特定の情報機器の使用は指示しません。

【その他の重要事項】

各自の課題作品の発表を講評会形式で行う関係上、参加人数により授業計画は若干変更する場合があります。

文化情報の哲学—神経犯罪学と倫理—

森村 修

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：デザインの思想

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、さまざまな文化の諸相を、「文化情報」という観点で捉え直しながら、哲学的な問題として検討することを目的とする。

特に、2018 年度は、エイドリアン・レインの『暴力の解剖学』（Adrian Raine, The Anatomy of Violence, 2013）を取り上げ、レインの提唱する「神経犯罪学（neurocriminology）」の立場から、脳や自律神経系などの生物学的構造や機能の欠陥がいかに反社会的性格を生み、結果的に犯罪に至らしめるかという問いについて考察する。

また本科目は、秋学期科目「現代思想」と深い関係がある。「現代思想」でも、犯罪や暴力、さらにはテロリズムなどについて、問題意識に基づいて、別の角度から検討していく。それゆえ本科目と「現代思想」とを履修することで、現実を生きるための哲学の面白さを体験してもらうことも、大きなテーマになっている。

【到達目標】

- (1) レインの『暴力の解剖学』に即して、暴力や犯罪などの反社会的行動を「神経犯罪学」の立場から理解することで、暴力における生物学的基盤と社会的要因との相互作用について考えることができる。
- (2) 21 世紀を生きる私たちにとって、「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
- (3) 哲学的思考を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

本授業では、レインの『暴力の解剖学』を取り上げ、犯罪における生物学的要因と社会的要因との相互作用について分析する。

【授業の方法】

テキストを中心に、教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など
2	第1章 本能	・いかに暴力は進化したか
3	第2章 悪の種子	・犯罪の遺伝的基盤
4	第3章 殺人にはやる心	・暴力犯罪者の脳はいかに機能不全を起こすか
5	第4章 冷血	・自律神経系と犯罪
6	第5章 壊れた脳	・暴力の神経解剖学
7	第6章 ナチュラル・ボーン・キラーズ	・胎児期、周産期の影響
8	第7章 暴力のレシピ	・栄養不良、金属、メンタルヘルス
9	第8章 バイオソー	・生物学的基盤と社会構造との相互作用的なジグソーパズル
10	第9章 犯罪を治療する	・犯罪への生物学的介入
11	第10章 裁かれる脳	・自由意志はどの程度自由なのか
12	第11章 未来の犯罪対策	・神経犯罪学は私たちをどこへ導くのか
13	まとめ 犯罪と神経犯罪学	・脳科学と犯罪学
14	まとめ2 犯罪と倫理	・神経倫理学からみた神経犯罪学のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前にテキストを読んでおくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

- ・エイドリアン・レイン『暴力の解剖学——神経犯罪学への招待』（高橋洋訳）紀伊国屋書店、2015 年
- ・Adrian Raine, The Anatomy of Violence: The Biological Roots of Crime, Pantheon, 2013.

【参考書】

- 原田隆之『入門 犯罪心理学』、ちくま新書、2015 年
- D.C. ロウ『犯罪の生物学——遺伝・進化・環境・倫理』、北大路書房、2009 年

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート（80 %）
- ・平常点（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。

情報デザイン

中沢 しのぶ

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報デザインでは、視覚的に情報を伝えるためのアプローチを理論的かつ実践的に学びます。

デザインワークにおいては、伝えるべき内容について、作り手がコンテキストを十分に理解することが大切です。そのための見方や考え方について学んでいきます。

【到達目標】

講義では、情報を伝えるということについて、送り手と受け手の両方の立場を踏まえて多角的に検討します。

制作では、コンセプトualなこと（考えること）とブラクティカルなこと（手を動かすこと）の両方をバランス良く進めます。

Adobe Illustrator、Photoshop の基本的な使い方を学び、簡単なデザイン制作を行います。

【授業の進め方と方法】

講義では各課題の意義やポイントを説明します。

課題制作では実際に様々な分野のデザインにチャレンジし、お互いの作品についてディスカッションをします。下記の3つの課題に取り組みます。

1 情報を伝える

「学部パンフレットのデザイン」

キーワード：レイアウト・タイポグラフィ・カラー・バランス

2 情報が機能する

「サイン、ロゴ、キャラクターなどのデザイン」

キーワード：ユーザビリティ・シンボル

3 情報を織り込む

「コミュニティのデザイン」

キーワード：フィールドワーク・ユニバーサルデザイン・アフォーダンス

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと選抜試験	授業内容の説明 教科書・参考書 評価基準など
2	課題 1 情報を伝える 「学部パンフレットのデザイン」 1/5	課題説明と導入 講義（情報デザインについて）、 ワークショップ（リサーチとエスキース） 1. デザインを進めるにあたって 2. 国際文化学部について調べてみよう
3	課題 1 情報を伝える 「学部パンフレットのデザイン」 2/5	デザイン実習 ソフトの操作方法など
4	課題 1 情報を伝える 「学部パンフレットのデザイン」 3/5	デザイン実習
5	課題 1 情報を伝える 「学部パンフレットのデザイン」 4/5	デザイン実習
6	課題 1 情報を伝える 「学部パンフレットのデザイン」 5/5	プレゼンテーション 講評・ディスカッション

7	課題 2 情報が機能する 「サイン、ロゴ、キャラクターのデザイン」 1/4	課題説明と導入 講義とワークショップ 1. 視覚言語/色彩と形体 2. サイン、ロゴ、キャラクターのデザインについて
8	課題 2 情報が機能する 「サイン、ロゴ、キャラクターのデザイン」 2/4	デザイン実習
9	課題 2 情報が機能する 「サイン、ロゴ、キャラクターのデザイン」 3/4	デザイン実習
10	課題 2 情報が機能する 「サイン、ロゴ、キャラクターのデザイン」 4/4	プレゼンテーション 講評・ディスカッション
11	課題 3 情報を織り込む 「コミュニティのデザイン」 1/4	課題説明と導入 講義、ワークショップ 1. コミュニティのデザイン事例について
12	課題 3 情報を織り込む 「コミュニティのデザイン」 2/4	デザイン実習
13	課題 3 情報を織り込む 「コミュニティのデザイン」 3/4	デザイン実習
14	課題 3 情報を織り込む 「コミュニティのデザイン」 4/4	プレゼンテーション 講評・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次のような方を希望します。

1. イラストレーターやフォトショップなどでの作品制作に興味のある方。
2. 美術やデザインに興味のある方。
3. 意欲的に課題に取り組める方。

【テキスト（教科書）】

適時プリントを配布します。

【参考書】

参考書や参考作品は授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）

課題作品（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

使用する主なソフトは以下の通りです。

Adobe Illustrator

Adobe Photoshop

課題提出に授業支援システムを使いますので登録をお願いします。
また、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】

※課題制作については各受講者の能力やそれぞれがやりやすい進め方などを考慮して、毎回の内容や目標を掲げていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。
初回のガイダンスに必ず出席してください。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

サブカルチャー論

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：サブカルチャー批評

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超過した場合は選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般を対象に、時代別の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。

【到達目標】

イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピーがものいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表をも取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論
2	モダニズムの敗北	20世紀の芸術運動としてのモダニズムの検証。ダダ、シュールレアリスム、未来派など。
3	映画の台頭	黎明期の映画と産業としての発展の歴史。エンターテインメントとしての洗練の軌跡。
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱。
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	カウンターカルチャー	1960年代のアメリカのカウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
8	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
9	徘徊・巡礼・観光、接待	遊歩の思想。物見遊山の哲学。もてなしの文化。接待の流儀。
10	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
11	錬金術とオカルト	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。
12	メディアとサブカル	テレビ、新聞VSウェブ紙と電子。音楽、出版文化の変遷。
13	サブカル化した政治	サブカル化した政治としてのポピュリズム 政党政治、代表制のゆくえ。
14	まとめと授業内試験	まとめとテーマに基づく自由記述試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教室で指示する。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価されよう。評価基準は平常点 20 %、授業内試験 80 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答、議論への積極的参加を促す。

マルチメディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり (15 名)。希望者多数の場合は選抜します。初回授業に出席すること。

他学部への公開：×

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習です。

わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Web マルチメディア、DTP などの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品や DTP 作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】

写真表現、ポスター作り、DTP、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【授業の進め方と方法】

●作品制作の理論と技法 (講義と実習)

- ・デザインの基礎
- ・ポスター作り (Photoshop + 大判プリンタ・Web)
- ・写真技法：ライティング、構図、光の読み方、モデル (銀塩 + デジカメ、レフ、ストロボ)
- ・写真表現の作品化 (アルバム・Web)
- ・映像制作技法：Jingle、絵コンテ、ショートフィルム (ハンディカム)

●クリティーク

各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

- ・ポスター作り (Photoshop + 大判プリンタ・Web)
- ・写真表現の作品化 (アルバム・Web)
- ・Jingle (短い 15 秒程度の CM 的映像)
- ・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。

●大事にしたいこと

- ・コンピュータ上でのメディアデータの特性と tangible なモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
- ・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
- ・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAP の原則を学ぶ。 【自由課題による写真課題】

2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク：各自の写真作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。【写真課題：line、pattern、texture】
3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド 実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク：line、pattern、texture 【写真課題：光と影、色】
4	コミュニケーションデザインの手法－Web	Web の特性とデザインについて理解する。 クリティーク：光と影、色 【写真課題：人物ポートレート、ライティング (2 週間)】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア (CD, DVD など) の構成法を理解する。 実習：Premiere による短いビデオ 【課題：写真ポートフォリオ (2 週間)】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース 制作	情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 【課題：Web 写真アルバム (2 週間)】
7	タイポグラフィの基礎 中間のまとめ：課題のクリティーク	タイポグラフィの基礎を学ぶ。各自のポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 学期末課題のガイダンス、絵コンテについて学ぶ。
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク：Web アルバム 【課題：ポスターのデザイン】
9	ヒューマンファクタと認知モデル	ヒューマンファクタと認知モデルについて理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	情報デザインとマルチモーダルインターフェース 実習：期末課題の絵コンテあるいは企画書提出	情報デザインとマルチモーダルインターフェースを学ぶ。 クリティーク：広告
11	知的所有権とメディア表現	知的所有権とメディア表現について学ぶ。
12	コンテンツの流通、管理と電子透かし	コンテンツの流通、管理の仕組みと電子透かしの技法を理解する。
13	インターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力や Web 上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するには DTP や Web 制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

マルチメディア全般について以下の 2 冊を参考書として挙げる。

参考書 (1) CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 参考書 (2) CG-ARTS 協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1 以上の 2 冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

撮影技法については、キット タケナガ (著) 東京写真学園 (監修)、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

ショートムービーの制作については、ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社 (2006)、ISBN:978-4845906956 が参考になる。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点 (20%)、中間課題 (30%) ならびに最終課題 (20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。

【学生の意見等からの気づき】

2011 年度までは 3～4 年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、2012 年度より 2 年次より履修可能とした。2017 年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけでなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

本科目は国際文化学部・情報セミナー室 (BT#0704) にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PC を必要とする。

長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびに ePortfolio に提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】

学生へのメッセージ：Premiere、Photoshop などを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PC やソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため 20 名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。

情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、高度な ICT の活用実習、ならびに作品制作を通じて本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目 (「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」)

Photoshop の応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

メディア表現ワークショップ2

島田 雅彦

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。実例を挙げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方 ABC を伝授する。メールから企画書、報告書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力や感動を与える手法に触れ、眠っている才能を引き出す。

【到達目標】

半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方も自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式を取るが、出席者からの質問、意見を交えた対話形式も面白かろう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かずにはいられないのか？
2	日常の研究	日記の書き方
3	小説の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性 奇怪な普通人、気弱な英雄。
5	メメント・モリ	死のデザイン 人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか？
6	旅と文学	ロード・ノベル、放蕩息子の帰還。
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について。
8	語り手は誰か？ 人称の問題	私、吾輩、彼、伯爵夫人？
9	おカネの話	貧乏と散財 賭博と文学。
10	労働というテーマ	専門家、フリーター、探偵。
11	小説のトポロジー	現代小説の8割は東京が舞台。
12	恋する者の普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩。
13	まとめ 討議	文学は終わらない。
14	まとめと授業内試験	まとめと自由記述式授業内試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、指示通りに参考書を読むこと。そして、よく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』島田雅彦著 新潮選書 2009

【参考書】

『深読み日本文学』島田雅彦著 集英社インターナショナル新書 2017

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。授業への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は平常点 50 %、授業内試験 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

議論への参加を促す。

メディア表現ワークショップ3

佐藤 好彦

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：メディアアート

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先端的芸術表現の一つとして、テクノロジーと共に発展・進化し続けるメディアアート。学生はその概念や思考をアナログな手法で考察し、その気づきをもとに知覚表現の可能性を学びます。

【到達目標】

- ・対象をあらゆる角度から考察する観察眼を養う。
- ・既成概念にとらわれない表現の可能性を発見する。
- ・各自の専門分野に於いて、コミュニケーションの向上に役立てる。

【授業の進め方と方法】

はじめに表現に必要なリサーチを行います。次にそのデータを基にメディアアートとして作品化させる演習を行い、それらを通じて未知な表現の可能性を探り、後半のグループワークへと導きます。グループワークでは作品のプロポーザルを作成し、プレゼンテーションを行います。プレゼンの形式は問いませんが、どう伝えるかを熟考します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について説明、選抜
2	リサーチ演習 1-形態	形態観察としてのデッサン
3	リサーチ演習 2-言葉	言葉による考察としてキーワード出し
4	リサーチ演習 3-数値	あらゆる測定を試みる
5	リサーチ演習 4-まとめ	リサーチで得られたデータを分析
6	変換演習 1-ストーリーへの変換	リサーチを元に物語を考える
7	変換演習 2-視覚的変換	リサーチ以外の視覚的変換作業
8	変換演習 3-音への変換	リサーチを元にイメージを音にする
9	変換演習 4-インタラクティブ性への変換	リサーチのデータを元に相互作用する仕組みを考える
10	作品プロポーザル制作-1	グループに分かれてブレインストーミング
11	作品プロポーザル制作-2	作品のテーマ・コンセプトを洗い出す
12	作品プロポーザル制作-3	プロポーザルのまとめ
13	作品プロポーザル制作-4	プレゼンに必要な素材の作成
14	プレゼンテーション	プレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に変換演習では解説とディスカッションを中心に行う為、制作は宿題とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

授業ごとに参考書や作品について紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習に対する積極性と課題の評価（50 %）。グループワークでの協調性を含む提出作品の評価（50 %）により成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

豊かで自由な発想を重視しますが、表現に責任を持ってもらえるような指導を心がけたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

演習ではスマートフォン・携帯といった身近なデバイスを活用し、facebook などの SNS を役立てます。演習ごとに必要なものは事前に伝えます。グループワークではグループごと作業の準備を行い、制作物などは各自で責任をもって管理して下さい。

【その他の重要事項】

協同作業も多いので、休まず出席することを基本とします。

映像文化論

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：映像文化論・映像表現法

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：定員 60 名。それを超えたら選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ここでいう映像とは「映画」のことである。内容は 2017 年度前期・表象文化概論（岡村）の発展形。1930~1950 年代のハリウッド、フランス、日本の巨匠の映画作品を映画史と映画表現技法の観点から学ぶ。

【到達目標】

古典的映画の基礎知識や繊細な表現技法を、実際に映像を見て学び、ストーリーづくりだけでなく、ストーリーをどのように表現するのが大事であるということを理解すること。映画を深く味わったり、映像作品を制作したりできる力を体得すること。

【授業の進め方と方法】

毎週、古典的映画の制作体制、表現技術、著名監督などについての講義と、実作の抜粋の鑑賞を行う。そして鑑賞した映画について気づいたことを出席カードに書いてもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションおよび映画史概観	授業の内容、進め方について説明すると同時に、映画の歴史を概観する。
第 2 回	ジョン・フォード	風景の構図、アクションの描き方を学ぶ。
第 3 回	ハワード・ホークス	スタジオ・システムと古典的な編集について学ぶ。
第 4 回	フレッド・アステア	30 年代のミュージカルから 50 年代のミュージカルへの変化を学ぶ。
第 5 回	ジーン・ケリー	50 年代のミュージカルを学ぶ。
第 6 回	エルンスト・ルビッチ	室内劇の演出を学ぶ。
第 7 回	フリッツ・ラング	メディアと群衆の描き方を学ぶ。
第 8 回	アルフレッド・ヒッチコック	サスペンスと音声や空間の関係を学ぶ。
第 9 回	ジャン・ルノワール	長まわしとロケ撮影の魅力について学ぶ。
第 10 回	オーソン・ウェルズ	空間の奥行きを学ぶ。
第 11 回	小津安二郎	固定ショットの表現力を学ぶ。
第 12 回	ニコラス・レイとサミュエル・フラー	50 年代のスタジオ・システムの衰退について学ぶ。
第 13 回	補足	十分講義できなかったことを補足する。
第 14 回	まとめ	学んできたことを振り返り、レポートに備える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、出席カードの鑑賞した映画についてコメントを書く。

【テキスト（教科書）】

随時、プリントを配布する。

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）とレポート（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

映画鑑賞体験をできるだけレポートしてもらうつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

授業中には見られなかった映像を後で各自見ってもらうことが多いので、YouTube が見られる環境、つまりパソコンとインターネットが必要です。スマホでは小さ過ぎます。

【その他の重要事項】

遅刻・早退厳禁。就活による欠席も原則として認めない。初回に出席しないと、受講できません。

【旧科目との重複履修】

なし。

映像と文学

林 志津江

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！私の知ってるアレとは全然違うんですけど！」と感じてしまった経験はありますか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テキスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しうるものについて、考えを深めていきます。あなたのガッカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上だった」という気持ちの正体に、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。

【到達目標】

- 1) さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。
- 2) 「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学の基本を学ぶこと。この点は読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。
- 3) 美的な形式（表象文化）の分析を通じ、古典的なメディア論（マクルーハンやキットラーなど）のテーゼの真意を理解すること。
- 4) 「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。
- 5) この授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しいです。

【授業の進め方と方法】

文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返し行いながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれの形式や読み取れるものについて考察します。毎授業ごと、自分の考えをまとめ小レポート（リアクションペーパー）として記述し提出します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたもの、文学（物語テキスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入
2	J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説 1995 年、映画 2001 年）	ファンタジー小説 V.S. 映像テクノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写
3	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年、2006 年）その 1	モティーフとしてのタイムトラベル、時間芸術としての映画、商業映画のニーズ
4	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年、2006 年）その 2	身体感覚の記憶を表現する、恋愛あるいは学校という大切なもの、科学と私たちの未来

5	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説 2006 年、映画 2009 年）	青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）のリアル、ゲームが映画に与えた影響
6	S. フィッツジェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説 1925 年、映画 1974 年）その 1	悩める若者とその風俗を描く、小説の受容・解釈がその映画化に与える影響
7	S. フィッツジェラルド／B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説 1925 年、映画 2013 年）その 2	「時代を超えた真実」を受け止める方法、「時代の空気」を再現する方法とタイムラグの有効な置き換え（1）
8	E. ケストナー／T. ヴィガンツ『飛ぶ教室』（小説 1933 年、映画 2003 年）	「政治に抵抗する文学」、「大人も子どもも楽しめる」の真意、タイムラグの有効な置き換え（2）
9	W. ヘルンドルフ『14 歳、僕らの疾走（Tschick）』（2007 年）/F. アキン『50 年後のボクたちは（Tschick）』（2016 年）	生き急ぐ気持ちと僕らの「今」、誰かを大切に思う気持ちと移民のリアル
10	R. ブラッドベリ『華氏 451 度』／F. トリュフォー『華氏 451』（小説 1953 年、映画 1966 年）	書物の神話、映像の氾濫と古典的なメディア批判の真意、インターネットの時代に焚書の危機を考える
11	堀辰雄『風立ちぬ』（1937 年）『菜穂子』（1941 年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013 年）その 1	戦争の記憶の表象（1）：大胆な翻案と同名タイトルが連想させるもの、映画の着想源となったものの
12	堀辰雄『風立ちぬ』（1937 年）『菜穂子』（1941 年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013 年）その 2	戦争の記憶の表象（1）：人間の自己実現と社会、個人の運命と戦争に翻弄される人間
13	L.v.d. ポスト／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968 年、映画 1983 年）その 1	戦争の記憶の表象（2）：戦争と人間性の限界、戦争で私が戦う相手の正体
14	L.v.d. ポスト／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968 年、映画 1983 年）その 2	戦争の記憶の表象（2）：敵と味方・西洋と東洋の対立、敵/他者を理解したいと思う気持ちの真実

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文学作品については該当箇所をあらかじめ読んでおきます。
- ・毎授業ごと、自分の考えをまとめた小レポート（リアクションペーパー）を提出します。（提出方法は履修人数が確定した後に決定通知します。）

【テキスト（教科書）】

- ・授業で扱う作品について、文学作品についてはプリントで配布します。
- ・授業中に扱う映画の DVD 等はこちらで用意します（ただし最終レポート執筆時には自分でも用意してもらいます）。

【参考書】

- ・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
- ・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987 年
- ・F・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999 年

・J・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史 ― ビッグバンからインターネットまで』（法政大学出版社）
2017 年
・A・バザン（野崎敏ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）
2015 年
・R・バルト（蓮實重彦ほか訳）『映像の修辞学』（ちくま学芸文庫）
2005 年
・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990 年
・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 映画のなかの社会／社会のなかの映画』（ミネルヴァ書房）2011 年
・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 交錯する映画 ― アニメ・映画・文学』（ミネルヴァ書房）2013 年

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と毎授業ごとの課題（小レポート）70 %、最終レポート課題 30 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

・ペンや鉛筆等の筆記用具を準備してください。授業内でのスマホやPC等の電子デバイスの使用は一切認めません（自宅での小レポート・学期末レポートの執筆には使用可）。日本語運用能力（日本語が母語ではないなど）の理由による電子辞書の使用については、事前に申し出てください。

・なんらかの事情（身体機能など）により授業中に電子デバイスの使用が不可欠だと言う場合は、あらかじめ申し出てください。

【その他の重要事項】

・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。

・授業に参加し考えたことを書くのが「小レポート」です。「出席していない授業内容についてレポートを提出する」ということは認められません。

・教室内でのスマホ（携帯電話）やPC等の電子デバイスの使用、イヤホン類の着用は禁止です。「映画を観て、文学作品を読み、授業担当者の話を聞く」という100分間の授業に集中できない履修者は評価の対象外です。

ポピュラー音楽論

大 島 徹

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポピュラー音楽史に関する基本的な事項を学ぶ。主に、20 世紀英米圏を中心とした商業流通を前提とする音楽実践の爆発的拡張と、その影響下にある日本の音楽文化に触れ、「ポピュラー音楽」がいかなる音・観念・社会の相互関係から展開してきたかを理解する。

【到達目標】

ポピュラー音楽史のおおまかな流れを理解する。

ポピュラー音楽諸ジャンルの特徴と来歴を知る。

「音楽そのもの」だけでなく、社会的条件をふまえて音楽を考察する能力を身につける。

【授業の進め方と方法】

講義形式。映像、音源を用いて多くの音楽に接してもらう。

毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	ポピュラー音楽とは何か、その歴史はいかに語りうるのか説明する。
2	娯楽的音楽空間の台頭：ミュージックホール、 minstrel ショー	19 世紀欧米都市文化における娯楽的音楽空間の台頭、および「芸術」と「娯楽」の分断について説明する。
3	音楽出版ビジネスの成立：ティンパナレイ、ポップソング	音楽出版業の成立と、その内部で活動する職業音楽家の制作手法を説明する。
4	レコードのメディア史	様々な利用可能性を持つ音響記録の技術が、音(楽)を楽しむためのメディアとして定位していく過程を説明する。
5	人種にもとづく音楽区分：ブルース、ヒルビリー	アメリカのレコード産業が設定した人種にもとづく音楽区分と、それを条件として形成された音楽ジャンルについて説明する。
6	「黒人の魂」神話：ブルース	戦前におけるブルースと、1950 年代以降に普及するブルース観の相違について考察する。
7	ダンス音楽としてのジャズ	「ジャズ」がいかなる文化を示す言葉として用いられてきたかを概観する。ジャズ・エイジからスイング・ブームまでを扱う。
8	鑑賞音楽としてのジャズ	ビバップ運動後のジャズの変容と、その社会性について説明する。
9	若者文化と音楽の人種混交：R&B、ロックンロール	人種混交的スタイルを特徴とするロックンロールが、若者の支持を受けて、音楽産業の構造転換を迫るムーヴメントへと発展した過程を説明する。
10	フォークとロックの対抗精神	1960 年代対抗文化とフォーク、ロックの関係について説明する。
11	無色中性化されたダンス音楽：ディスコ	性的マイノリティから発信されたディスコ文化が、世界的な流行現象へと変転していく諸相を検討する。

- | | | |
|----|-------------------------------|---|
| 12 | アンダーグラウンド文化の拡散：ハウス、レイヴ、ヒップホップ | 各「シーン」同士の点と点のつながりと、多国籍的な産業組織による取り込みが交差するダンス文化の複層性を検討する。 |
| 13 | ラップが反映／創造する「リアリティ」 | 反復する重厚なビートにのせて物語られるラップの「リアリティ」について考察する。 |
| 14 | まとめ | 授業内容を振り返り、こんにち生じている音楽文化の変容について考える。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

紹介する文献や音源に積極的に触れてほしい。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 70 %：講義内容をふまえ、筋道を立てて自身の論を展開しているか否かで判断する。テーマは授業内に指示する。
授業への取り組み 30 %：リアクションペーパーで判断する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに返答する時間を設けるなどして、学生からの要望や質問に応じられるよう工夫する。

コミックス論

野田 謙介

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で日本の漫画が人気だという話をしばしば耳にします。実際、日本語を学ぼうとする若者たちのなかで、日本のアニメ・漫画を原語で味わうことを学習の目的にあげる人は、おどろくほど多いです。しかしながら、はたしてその実態はどうなっているのでしょうか。

あるいは、そもそも日本の「漫画」とは何をさすのでしょうか。なぜこの言葉はカタカナで「マンガ」と表記されることが多いのでしょうか。本授業は、漫画を理論的、歴史的、社会的な側面から概観することで、漫画についてあらためて自覚的・客観的に考える手がかりを得ようとするものです。

【到達目標】

- ◆具体的な数字をあげて（数字による類推の限界を指摘しつつ）市場の規模を比較することができるようになる。
- ◆漫画の歴史について基礎的な知識を身につける。
- ◆漫画がそれほど自明な概念でないことを理解し、説明できるようになる。
- ◆普段なにげなく読んでいる漫画について、その表現の仕組みを指摘することができるようになる。

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式です。毎回アクションペーパーの提出をお願いします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：まんが、マンガ、漫画？	漫画の呼称と現状について
2	漫画の読み方Ⅰ	漫画の三要素について
3	漫画の読み方Ⅱ	時間・運動・音について
4	漫画の読み方Ⅲ	感情の表現について
5	漫画の歴史	起源について
6	漫画の歴史：日本編Ⅰ	戦前
7	漫画の歴史：日本編Ⅱ	戦前から 80 年代まで
8	漫画の歴史：日本編Ⅲ	80 年代以降
9	漫画とアニメーション	同一作品のマンガ版とアニメ版の比較
10	漫画の歴史：海外編Ⅰ	米・仏における日本マンガの受容史
11	漫画の歴史：海外編Ⅱ	米のマンガ史
12	漫画の歴史：海外編Ⅲ	仏のマンガ史
13	漫画ファンダム史：日本編	コミケの誕生
14	まとめ	授業の総括と授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定作品を読んで/見てきてもらい、設定した質問に口頭で答えてもらうことがあります。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要なテキストについては適宜配布します。

【参考書】

各回のテーマにそって、授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）と期末試験（80%）。

文化を相対化する視点と自覚的に漫画を読む方法を身につけたかどうかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者人数がそれほど多くなければ、出席者の発言をより促す工夫をします。

比較表象文化論

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：比較思想

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに、普段チェックするメールアドレスを登録すること。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】

- ・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身に着ける。
- ・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【授業の進め方と方法】

この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。従って、単に講義を聞くだけの授業ではありえません。課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ（Study Questions）への答えを提出してから授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズム I	オペラ『蝶々夫人』鑑賞
3	オリエンタリズム II	オペラ『蝶々夫人』台本分析
4	オリエンタリズム III	映画『サヨナラ』鑑賞
5	オリエンタリズム IV	映画『サヨナラ』分析
6	オリエンタリズム V	映画『M. バタフライ』鑑賞
7	オリエンタリズム VI	映画『M. バタフライ』分析
8	ジェンダー論 I	「シンデレラ」分析
9	ジェンダー論 II	バレエ『シンデレラ』鑑賞、分析
10	ジェンダー論 III	アニメ『シンデレラ』鑑賞
11	ジェンダー論 IV	アニメ『シンデレラ』分析
12	ジェンダー論 V	実写版映画『エバーアフター』鑑賞
13	ジェンダー論 VI	実写版映画『エバーアフター』分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、定められた期限までに授業支援システムに課題（SQ）へのレスポンスを提出すること。

【テキスト（教科書）】

適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】

『オリエンタリズム』（上）（下）、サイード、平凡社、1993 年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（積極的な授業参加）20 パーセント
- ・課題（SQ）40 パーセント
- ・定期試験 40 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

板書を多用します。

異文化と身体表現

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：受講希望者数が教室の収容人数を超えたら選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中のあらゆる地域に舞踊やダンスがある。そのうちいくつかを取り上げ、発生の経緯、発展のプロセス、文化的意義について学ぶ。諸地域の歴史や文化が、身体表現やそれに伴う人間の情動にどのような影響を与えているのかについて知る。

【到達目標】

- ・世界の諸地域の舞踊、ダンスの特徴について、歴史的背景を踏まえながら叙述することができる。
- ・諸地域ごとの舞踊の知識を踏まえつつ、日本の能、歌舞伎、文楽等の特徴を、日本文化を知らない人に対して説明することができる。

【授業の進め方と方法】

・資料を元に講義する。必要に応じて映像を鑑賞する。受講者は、授業の最後に毎回リアクション・ペーパーを執筆し、提出する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	ポリネシア	ハワイのフラダンス、ニュージーランドのハカの文化的特徴について講義
3	南米	ブラジルのサンバ、メキシコのサルサ、アルゼンチンのタンゴの文化的特徴について講義
4	北米	ネイティヴ・アメリカンのダンスからブレイクダンスまでの変遷や歴史的・文化的特徴について講義
5	ヨーロッパ（1）	アイリッシュ・ダンスの文化的特徴について講義
6	ヨーロッパ（2）	フラメンコの文化的特徴について講義
7	ヨーロッパ（3）	ワルツの文化的特徴について講義
8	アジア（1）	インド舞踊の文化的特徴について講義
9	アジア（2）	中国の京劇について講義
10	アジア（3）	バリ島のケチャ、その他、東南アジアの舞踊の文化的特徴について講義
11	日本（1）	能と狂言について講義
12	日本（2）	歌舞伎と文楽について講義
13	日本（3）	日本舞踊について講義
14	試験	記述式の期末試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に、舞台芸術と舞踊に関するレポートを課す。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

ジェラルド・ジョナス『世界のダンス—民族の踊り、その歴史と文化』（大修館書店）
渡辺保『日本の舞踊』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー30％：講義内容を把握し、自分なりに解釈することができるかを評価。

レポート20％：鑑賞作品をきちんと批評することができるかを評価。

期末試験50％：異文化と舞踊に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができるかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更につきフィードバックできません。

パフォーマンス・スタディーズ—鈴木清順の映像美学—

森村 修

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：アート・アクティヴィズム

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり・選抜試験

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「パフォーマンス（performance）」概念を中心に、さまざまなアートの表現手段と関連させることで、政治的・社会的な文脈で「パフォーマンス」を取り上げていく。

特に 2018 年度は、「鈴木清順の美学」と題して、日本を代表する映画監督の一人・鈴木清順（1923-2017）の映画作品を分析しながら、彼の映像美学を考察する。鈴木清順は、昨年、惜しまれながら亡くなってしまった。彼は常々「映画は頭ではなく、目で見なさい」と語っていた。本授業では、清順の意図に「反して」、「パフォーマンス・スタディーズ」という観点で、理論的・思想的に分析する。

また、アメリカの映画監督ジム・ジャームッシュは、鈴木清順監督を尊敬し、彼の『殺しの烙印』にオマージュを捧げる作品『ゴースト・ドッグ』（Ghost Dog: The Way of the Samurai, 1999）を制作している。本作品についても、鈴木清順とジャームッシュの映画制作手法の比較をする。

【到達目標】

- (1) 鈴木清順監督の映画について、「映画を見る」ということはどういうことか、という問題を、パフォーマンス・スタディーズの議論として取り上げることができる。
- (2) 映画についての自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
- (3) これまでの映画の見方を問い直し、映画の鑑賞方法について、説明できる。
- (4) 日本映画の歴史の中で、鈴木清順監督の映画がどのような位置を占めているかを説明することができる
- (5) 「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

- ①基本的には、「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行う。
- ②鈴木清順監督の代表的な映像作品を上映する。そこで、諸作品について、さまざまな解釈をしながら、授業参加者と討議していく。その際に、リアクションペーパーなどを用いる。
- ③必要に応じて、課外活動としてフィールド・ワークも考えている（自由参加）。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の目的と概要についての解説を行う。
2	鈴木清順とその時代①	・極私的な日本映画史 ・日活という問題
3	鈴木清順とその時代②	・「日活ロマンポルノ」への転向 ・鈴木清順問題共闘会議
4	鈴木清順監督作品① 『けんかえれじい』 (1966)	・鈴木清順にとって、アクション映画とは何か？
5	鈴木清順監督作品① 『けんかえれじい』 (1966)	・鈴木清順における映像の魅力
6	鈴木清順監督作品② 『殺しの烙印』(1967)	・鈴木清順問題共闘会議と作品集
7	鈴木清順監督作品② 『殺しの烙印』(1967)	・鈴木清順とジム・ジャームッシュ

- | | | |
|----|--|--------------------------------|
| 8 | 鈴木清順の影響①
ジム・ジャームッシュ
監督作品『ゴースト・ドッグ』(1999) | ・鈴木清順とジム・ジャームッシュとの関係 |
| 9 | 鈴木清順の影響①
ジム・ジャームッシュ
監督作品『ゴースト・ドッグ』(1999) | ・鈴木清順の映像美と日本的意識
・世界から見た鈴木清順 |
| 10 | 鈴木清順監督作品③
『ツイゴイネルワイゼン』(1980) | ・清順美学の開花 |
| 11 | 鈴木清順監督作品③
『ツイゴイネルワイゼン』(1980) | ・清順の世界的評価 |
| 12 | 鈴木清順監督作品④
『陽炎座』(1981) | ・松田優作と「動かないアクション映画」 |
| 13 | 鈴木清順監督作品④
『陽炎座』(1981) | ・泉鏡花の世界と鈴木清順 |
| 14 | まとめ | ・映画は見世物である |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生各自は、鈴木清順監督の作品をなるべく多く見る機会をもつべきである。

【テキスト（教科書）】

特に、特定のテキストは用いない。

【参考書】

授業中に、指示する。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価】

- ①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（25 %）
- ②期末レポート（75 %）

【評価基準】

- ①映像作品を見たる際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。
- ②期末レポートは、あくまで「批評（critique）」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準（criterion）」が前提されている必要がある。
- (1) 自分自身の「評価規準」が明確であること。
- (2) 自らの「評価規準」に照らして、自分の意見・主張が明確に述べられていること
- (3) 自分の意見・主張を読み手に説得的に表現できていること
- (4) 自分の表現が自分勝手な思い込みによる羅列ではなく、きちんと論理的に組立てられて述べられていること

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・情報機器（コンピュータからプロジェクターに投影します）
- ・DVD、ビデオなどの AV 機器を使用する。

【その他の重要事項】

・本授業がめざしているのは、「パフォーマンス・スタディーズ」という研究分野を学ぶことによって、受講生自らが自分の美意識や価値観を問い直すことである。それゆえ、「パフォーマンス」という概念の検討を通じて、参加者全員には、既成の価値観や、マスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められている。それゆえ、本授業では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇気をもつ学生の参加を望む。

・各自がインターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、自分自身の感性に目覚め、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本授業の真の目的である。

・本授業は、「表象文化」の科目群に位置づけられており、特に「映画の美学」という点を強調していく。その際に試されているのは、自分自身の「美学」である。自分自身の美学をもたないものは、いかなる作品についても評価ができないと銘記すべきである。

【受講上の注意】

・授業に積極的に参加し、自らの価値観を問う実践（パフォーマンス）を行わない学生の参加は遠慮してもらいたい。映画を鑑賞するだけでなく、自らの批評意識に基づいて批評・批判する本講義は、自らの「映画観」や「美意識」なしに、映画を見ても、何の学びにもならない。

・受講生多数の場合は、初回の授業で選抜することも考えているので、初回の授業には必ず出席すること。初回の授業に参加しないものは、受講を認めない。

現代美術論

小澤 慶介

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代美術が美術としてある以上に、現代の社会・文化・政治的状況に対する異議申し立ての空間であることについて理解を深める。

【到達目標】

多くの言語や文化が出会う国際展という空間をとおして、美術がどのようなものになりつつあるのかについて思考し、グローバリゼーションによって開かれた非対称な世界の構えを探る洞察力を養う。

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代美術の作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。また、必要に応じてテーマに関連する展覧会を訪ねるよう促す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	1990 年代以降の美術について概観をし、本授業の見取り図を指し示す。
2	空間について考える	社会空間について、一般的な理解を促す。また社会空間に介入する芸術の実践を紹介する。
3	ヴェネチア・ビエンナーレとは？	国際展とは何かについて解説し、最も歴史のあるヴェネチア・ビエンナーレとはどのような空間なのかについて考える。
4	ヴェネチア・ビエンナーレ 2017 の読解	2017 年の第 57 回ヴェネチア・ビエンナーレ企画展「VIVA ARTE VIVA」をとおして、国際展のキュレーションとそれが表す世界観について検討する。
5	多文化主義について	1990 年代に議論された多文化主義の光と影について、ラシッド・アリーンなどの論考を頼りに読み解く。
6	グローバルという空間について	グローバリゼーションとは何か、またそれが実現した空間とはどのようなものか、さらにそこに関わりをもつ美術の実践とは何かについて考える。
7	クレオールと現代美術	もともとは混血を意味し、それが文化自体を表すようになったクレオールが照らし出す世界の構えと美術や文学の実践について解説する。
8	ドクメンタが開いた芸術の可能性	1955 年にドイツのカッセル市ではじまったドクメンタの変遷を追いつながら、ヴェネチア・ビエンナーレと並び称される国際展のあり方について考える。
9	ドクメンタ 11 が問題にしたこと	2002 年のドクメンタ 11 が映し出したグローバリゼーションと美術の関係について考える。
10	ドクメンタ 14 から非対称な世界を読み解く	ドクメンタ 11 における議論を引き継ぎながら 2010 年代に明らかになった非対称な世界を表象するドクメンタ 14 について考える。

11	他者とは誰か？	多文化主義が議論された 1990 年代からの自己と他者を巡る議論について、概観する。
12	六本木クロッシング 2016 展 僕の身体あな たの声、について	現在、他者なるものがどのようなものとして考えられるかについて、六本木クロッシング 2016 展をとおして考える。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出
14	埋め込まれた他者をさがして	ドクメンタ 14 と六本木クロッシング 2016 展を結びながら、埋め込まれた他者をキーワードに、現在の世界の構えと美術の実践の関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行つて、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べること。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典 <http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

世界の中の日本文学

岩川 ありさ

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで、世界文学の「正典（カノン）」は、日本文学、イギリス文学、アメリカ文学、フランス文学、ドイツ文学というように、国別、言語別で編纂されることが多かった。しかし、一つの国、一つの言語に限定される文学の捉え方から、世界の中で文学を幅広く捉える「世界文学」という概念も広まっている。「母語」の外に出て創作する作家たちが多く生まれている現在において、世界文学の視点は文学研究に欠かせない。この講義では、まず、世界の中で日本文学がどのように受容されているのかについて学ぶ。その後、この世界で起こっている様々な出来事と日本文学を結びながら、文学テクストを読む力を身につける。

【到達目標】

- 1、世界文学についての基礎的な知識や理論を身につけ、具体的な日本文学のテクストを分析できるようになる。
- 2、日本文学を通して世界を見つめ、歴史や社会と文学との関係性について自分の考えをまとめられるようにする。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義の冒頭でコメントペーパーに回答し、双方向でやりとりをしながら講義を行います。また、毎回ではありませんが、翻訳実践や小グループでの意見交換を行います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界の中の日本文学	日本文学はいかに受容されてきたのか。古典文学からライトノベルまで幅広く扱います。
第 2 回	世界文学という視座	世界文学とは何か。理論的な側面について学びます。
第 3 回	翻訳から生まれる世界	「万葉集」の英語訳、「源氏物語」の「螺旋訳」、女性詩人たちの日英アンソロジーなどをとりあげて、翻訳について学びます。
第 4 回	日本近代文学とは何か？：言文一致から「ホモソーシャルな読書共同体」まで	日本近代文学の基礎的な知識について学びます。また、ジェンダー、セクシュアリティ研究からの新しい視座について紹介します。
第 5 回	日本近代文学の現在性	夏目金之助『文学論』（1907）について学び、「原子力の百年」という広い射程で日本近代文学を現在の世界的な状況に開きます。
第 6 回	日本現代文学の現在性	前回の講義で、夏目漱石『文学論』と「原子力の百年」の関連について学んだ。その視座から「震災後文学」について概観する。
第 7 回	ヒロシマの文学	大江健三郎、マルグリット・デュラス、柴崎友香らのテクストをとりあげて、原爆投下とヒロシマをめぐる文学について考えます。
第 8 回	ナガサキの文学	林京子、井上光晴、美輪明宏らの文章をとりあげ、記憶と時間をめぐる問題を中心にして考えます。
第 9 回	ホロコーストと日本文学	小川洋子『密やかな結晶』（1994）、赤染晶子『乙女の密告』（2010）などホロコーストについて描いた日本文学をとりあげます。

第 10 回 現代・日本・文学

「現代日本文学」とは何だろうか。村上春樹、よしもとばななから日本語文学の展開までとりあげます。

第 11 回 エクソフォンの作家たち

リービ英雄、多和田葉子、楊逸、シリシ・ネザマフィラをとりあげて、母語の外に出る創作について学びます。

第 12 回 オムニフォンの作家たち

温又柔、李琴峰ら、他なる音が同時に響くようなオムニフォンの作家たちを紹介します。

第 13 回 想像力と文学

排外主義と分断の時代において、他者と生きてゆくための想像力について学びます。

第 14 回 まとめ

新しい世界文学の担い手たち

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、コメントペーパーの提出が必要です。配布したプリントや小説、詩歌、評論などは次回までに読むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。

【参考書】

授業においても紹介しますが、世界文学、越境文学についての基本的な概念トピックについては以下の本を参照。

デイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か？』国書刊行会、2011 年

フランコ・モレッティ『遠読—〈世界文学システム〉への挑戦』みすず書房、2016 年

リービ英雄『日本語を書く部屋』岩波現代文庫、2011 年

多和田葉子『エクソフォニー』岩波現代文庫 2012 年

水村美苗『日本語が亡びるとき』ちくま文庫 2015 年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 70 %、コメントペーパー 30 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

担当者交代のため、該当しない。

世界の中の日本語

リービ 英雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学のいくつかの作品（主に近代・現代）に出てくる文章を英語に翻訳しながら「世界の中の日本語」と「日本語の中の世界」を考える。実際の日本語のテキストを学生たちが翻訳する。

その実習を通して、表現のことばとしての日本語の姿を浮きぼりにして、二十一世紀にふさわしい日本文学論を展開する。

【到達目標】

言葉のレベルで「日本と世界」を考えることができること。

【授業の進め方と方法】

毎回、テキストを翻訳し、講じる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	英訳を通して日本語について考える
第2回	ノーベル文学賞と「日本」上	大江健三郎と「あいまいな日本の私」
第3回	ノーベル文学賞と「日本」下	川端康成と「美しい日本の私」
第4回	戦後文学の英訳	キーンとサイデンステッカー等
第5回	安部公房の文学と英訳	「砂の女」について
第6回	英訳で見た三島由紀夫	「金閣寺」と日本語の美意識
第7回	宮沢賢治等	「雨ニモマケズ」と not defeated
第8回	夏目漱石と英訳	「我輩は猫である」は英語で言えるのか
第9回	現代詩と英訳	谷川俊太郎の詩
第10回	「在日」と日本語	日本のマイノリティ文学
第11回	越境時代の文学	ポストコロニアルと日本語
第12回	バイリンガルと日本文学	日本人バイリンガル作家、多和田葉子
第13回	日本語で「世界」を書く	リービ英雄「千々にくだけで」
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代日本文学を自分で読む。

【テキスト（教科書）】

毎回、教員が提供する。

【参考書】

毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

大変人気のある授業だと分りました。

世界とつながる地域の歴史と文化

高柳 俊男

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、2012 年度から夏休みに長野県南部の飯田・下伊那地域で実施している「S J 国内研修」（S J = Study Japan）に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである。

「S J 国内研修」とは、一般学生の S A に相当するもので、地方の中山間地域での諸活動を経験することで、留学生にとっての S A とも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考えうる目を養うことを趣旨としている。

したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、8 日程度の「S J 国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係に重点を置きながらみていく。

【到達目標】

授業の進展につれ、南信州の中山間地域の飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「S J 国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマを見つけ、夏休み中の自己学習を経て、研修本番につなげられるようにすることが目標である。

「S J 国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することでも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に日本の多様性や多文化を考える視点を得ることが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他の地域を考える際にも有効に機能するであろう。

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心だが、受講生に随時発問しながら進める。関連する映像の上映も、毎回織り交ぜる。

特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界につながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、覚えるべき固有名詞（地名、人名など）は覚えていただく。

毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などを「コメントシート」に書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本授業と「S J 国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第 2 回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある 1 市 3 町 10 村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。

第 3 回 飯田・下伊那の概況②

前回に続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937 年に成立した当初の市域に、1950 年代以降、周辺の 15 の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。

第 4 回 飯田・下伊那の歴史

第 5 回 飯田線建設史①

現在の J R 飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。

第 6 回 飯田線建設史②

前回学んだカネトについて、近年、住民自身により飯田線沿線各地で上演されている合唱劇『カネト』を DVD 鑑賞しながら、再度考える。

第 7 回 満州移民の歴史①

1930 年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。

第 8 回 満州移民の歴史②

前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』を DVD 鑑賞しながら、再度考える。

第 9 回 満州移民の歴史③

現在、この地域の人々が、満州移民の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開館した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本慈昭について知る。

第 10 回 飯田・下伊那の多民族共生の現在

外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。

第 11 回 飯田・下伊那の文化①

人形浄瑠璃や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それをもとにした現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内にある黒田人形・今田人形について、映像で確認する。

第 12 回 飯田・下伊那の文化②

この地域の特色ある文化活動として、70 年以上の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の発刊や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。

第 13 回 飯田・下伊那の文化③

この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ椋鳩十・西尾実・森田草平の 3 人について、自校教育の意味も含めて取り上げる。

第 14 回 まちづくりや自然との共生 早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970 年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の授業支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：アップから 2 週間後）。

授業期間中に、この授業と関連した学部イベントを実施するので、ぜひ参加してほしい。今年度は、愛知県東部・静岡県西部・長野県南部による三遠南信をテーマにする予定である。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、A 3 で 1 枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場にも持参して活用すること。

留学生には従来、自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州 大好き』（2010 年）を当方で用意していたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数あるので、そちらで適宜利用してほしい。

【参考書】

授業の中で適宜指示する。それらの大半は、B T 20 階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍 1,000 冊以上、映像 D V D 250 点以上所蔵）に収められているので、大いに利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出する「コメントシート」に反映された授業に取り組む姿勢 40 %、途中での中間課題 20 %、学期末のレポート 40 % を目安とする。

【学生の意見等からの気づき】

とくに S J 国内研修に参加せず、1 つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれないが、「個別を極めることを通して普遍に至る」を目指してやっている。自国のことを知り、外国人にも伝えられることは国際人の重要な要素であるので、今後とも、そのアプローチのもつ意義を理解してもらいながら授業を進めたい。

シラバスを読まないで授業に参加したくせに、授業改善アンケートに「予想と違った、何も学ぶものはなかった」などと書く受講者が稀にみられるが、言語道断である。

【学生が準備すべき機器他】

上述のように、授業支援システムをもう一つの教室として活用する。

【その他の重要事項】

「S J 国内研修」に参加する人は、どのような形であれ、この事前学習授業の履修が前提条件になる。研修の参加経費や単位の有無は、参加資格に寄って異なるので、詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。

ボランティア補助員の選抜や、一般参加者への奨学金支給の可否の決定は、事前学習における意欲や成果をもとに、6 月末から 7 月上旬に行なう予定である。

「S J 国内研修」に参加しない人の受講も認めるが、受講者数によっては選抜を行なうことがあるので、第 1 回目の授業に必ず参加すること（やむを得ず来られない場合は、事前にメールで連絡を入れること。アドレスはシラバス最後の「教員紹介」参照）。

【選抜の有無】

「その他の重要事項」欄にも記載されているように、留学生、および S J 参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人員を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

日英翻訳論

リービ 英雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学の名作を英訳することによって、英作文をみがき、同時に翻訳という鏡に映った日本語の特徴を考える。英語と日本語の究極的な比較。

【到達目標】

日本語と英語の本質を理解すること。

【授業の進め方と方法】

毎回、教授のレクチュアと、学生全員による英訳。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義
第2回	俳句の翻訳 「古池や」	発表
第3回	俳句の翻訳 「荒海や」	発表
第4回	俳句の翻訳 「夏草や」	発表
第5回	俳句の翻訳 「おくの細道」Ⅰ	発表
第6回	俳句の翻訳 「おくの細道」Ⅱ	発表
第7回	俳句の翻訳 その他	発表
第8回	和歌の翻訳 万葉集	発表
第9回	和歌の翻訳 奈良の京	発表
第10回	和歌の翻訳 天の香具山	発表
第11回	和歌の翻訳 富士山のイメージ	発表
第12回	和歌の翻訳 万葉仮名等	発表
第13回	和歌の翻訳 山上憶良等	発表
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「おくの細道」「万葉集」などを読むこと。

【テキスト（教科書）】

毎回、教員が提供する。

【参考書】

毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

大変人気がある授業だと分りました。

実践翻訳技法

リービ 英雄

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：受講者の人数制限および選抜もありうる。

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学の代表的なテキストを英語に翻訳する。原文に忠実でありながらすぐれた英語の表現をめざす。

【到達目標】

日本語と英語の本質を理解すること。

【授業の進め方と方法】

古典文学（特に翻訳と俳句）からも近・現代文学（小説と詩）からもテキストを選ぶ。毎回、日本語のテキストを学生が英訳する。

【授業計画】

後期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義
第2回	詩の翻訳①	翻訳
第3回	詩の翻訳②	翻訳
第4回	詩の翻訳③	翻訳
第5回	散文の翻訳①	翻訳
第6回	散文の翻訳②	翻訳
第7回	散文の翻訳③	翻訳
第8回	散文の翻訳④	翻訳
第9回	散文の翻訳⑤	翻訳
第10回	散文の翻訳⑥	翻訳
第11回	現代文の翻訳①	翻訳
第12回	現代文の翻訳②	翻訳
第13回	現代文の翻訳③	翻訳
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語、特に文学作品をよく読むこと。

【テキスト（教科書）】

代表的な古典詩歌（万葉集など）および近・現代文学（戦後から現代までを中心に）

【参考書】

代表的な古典詩歌（万葉集など）および近・現代文学（戦後から現代までを中心に）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

古典より現代に力を入れるべきである。

【その他の重要事項】

- ・受講者の人数制限および選抜もありうる。
- ・授業への積極的な参加が必要。

中国の文化 I (現代中国社会)

曾 士才

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国は歴史的、文化的そして経済的にも日本と関係の一番深い国である。しかし、マスメディアを通して報道される中国はあまりにも政治経済に偏りすぎており、しかも表面的なものが多い。中国の一般庶民の日常生活や物の考え方についてどれだけ日本人は知っているのだろうか。この授業ではマスメディアとは異なった物差しで中国を紹介し、中国を実物大で理解できるようにすることを目指している。

【到達目標】

中国に関するリテラシーの力を高め、中国に対するステレオタイプな見方から自由になる。

【授業の進め方と方法】

授業では都市と農村、人の移動、家族と婚姻、信仰と習俗、日本と中国の5つのテーマに沿って、庶民生活の次元に立って、近代化や都市化による社会変容や価値観の変化、日中関係の現状を紹介する。授業の進め方は講義を主体とするが、必要に応じて映像資料による再確認を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	多様な風土	北と南の違い、水問題、南水北調
第2回	都市と農村 (1)	北と南の違い、水問題、南水北調
第3回	都市と農村 (2)	リテラシーの現状、学校教育、就職難
第4回	都市と農村 (3)	拡大する中産階級、人権意識
第5回	人の移動 (1)	経済特区、郷鎮企業、留守児童
第6回	人の移動 (2)	都市の出稼ぎ者、農民工政策の変遷、ポイント制度
第7回	家族と婚姻 (1)	伝統的家族制度、都市の家族
第8回	家族と婚姻 (2)	一人っ子政策、新人類の若者たち「80 後」「90 後」
第9回	家族と婚姻 (3)	高齢化社会、老人扶養
第10回	信仰と習俗 (1)	宗教事情、国家と宗教
第11回	信仰と習俗 (2)	風水思想と実践
第12回	日本と中国 (1)	日中協力
第13回	日本と中国 (2)	強制連行、戦争の記憶
第14回	日本と中国 (3)	反日の背景、中国人の日本観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前または事後に指示された参考書所収の論文を読み、授業への理解を深める。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための40章【第4版】』明石書店 2012 年

藤野彰、曾根康雄『現代中国を知るための44章第5版（エリア・スタディーズ）』明石書店 2016 年

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを使ったクイズへの回答（15 %）と期末に課すレポート（85 %）で成績評価を行う。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

私語により周りの学生が迷惑を蒙らないよう、円滑な授業運営に努めたい。使用する映像資料は必要に応じて更新した。

中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）

曾 士才

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国文明は、多様な風土のなかでそれぞれ独自の歴史と文化を築いてきた諸民族と漢族との、古くからの交流によって形成されてきた。この授業では、民族の多様性を紹介するとともに、20 世紀以降、国家統合を進めるなか、各少数民族社会において生じた変化を通して、中国における国家と民族集団との関係、民族間関係、民族意識、民族文化の現状などを紹介する。

【到達目標】

「民族」をキーワードにして中国を読み解く力を養う。

【授業の進め方と方法】

前半の授業では、中国における民族集団とその文化の多様性について論じ、後半では、政治的統一性と文化的多様性との折り合いのつけ方に主眼を置いて論じる。授業の進め方は講義を主体とするが、テーマごとに映像資料を見る。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	多民族国家中国を概観、授業および授業外学習の説明
第 2 回	民族文化の多様性 (1)	森林地帯の狩猟民オロチョン族の伝統と現状
第 3 回	民族文化の多様性 (2)	一草原地帯の遊牧民モンゴル族の伝統と現状
第 4 回	民族文化の多様性 (3)	シルクロードの民ウイグル族の伝統と現状
第 5 回	民族文化の多様性 (4)	西南中国山の民彝族の伝統と現状
第 6 回	民族文化の多様性 (5)	照葉樹林の民タイ族の伝統と現状
第 7 回	国家と民族 (1)	進化論・人種観と民族政策
第 8 回	国家と民族 (2)	メディアにおける民族表象
第 9 回	国家と民族 (3)	民族エリートとエスニック・シンボル
第 10 回	国家と民族 (4)	国民教育と民族教育
第 11 回	国家と民族 (5)	観光文化と民族文化
第 12 回	チベット問題の読み方 (1)	民族問題の分析の視点
第 13 回	チベット問題の読み方 (2)	関係報道の読解のコツ
第 14 回	まとめ	クイズの回答、レスポンスシートへの応答とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は授業の復習を兼ねたクイズに、授業支援システムを使って回答し、同時に授業で得た知見、感想、質問を記入し、提出する。なお、まとめの回の授業で、教員からレスポンスがあります。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

末成道男・曾士才編『世界の先住民族—ファースト・ピープルズの現在 01 東アジア』明石書店 2005 年

【成績評価の方法と基準】

授業の復習を兼ねたレスポンスシートへの回答（15 %）と期末に課すレポート（85 %）で成績評価を行う。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

私語によって周りの学生が迷惑を蒙らないように、円滑な授業運営に努めたい。

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

渡辺 昭太

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の学習を終えて、学べき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点がきちんと把握できていないと感じたり、自分で作った中国語文が、伝えたいことを正しく表現できているかどうか分からないといった経験がある人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、さらに詳しい説明・解説を交えながら、問題演習を通じて応用力の育成を図る。とりわけ、一年時の共通テキストである『ポイント学習 中国語初級〔改訂版〕』で学んだ文法項目を中心に、各項目の基本的用法を確認しつつ、より詳しい用法や発展的な内容を学び、その知識を応用した作文練習や翻訳練習を行うことで、様々な中国語文を適切に理解・表現できる力を養う。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

初級中国語の授業で学んだ文法項目を中心に、各項目の基本的用法を再確認しつつ、より詳しい用法や発展的な内容を学び、中国語文法の全体像を適切に把握すること、これが本授業のテーマであり、具体的な到達目標は以下の通りである。

- (1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
- (2) 既習の文法項目の応用的用法を身に付ける。
- (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現 1	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現 2	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現 3	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語 1	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語 2	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語 3	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把”構文と“被”構文	「“把”構文（処置文）」、「“被”構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。

- | | | |
|----|---------------|---|
| 10 | 使役文（兼語文）と連動文 | 「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。 |
| 11 | 比較文 | 「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。 |
| 12 | その他の重要表現・構文 1 | 「存現文」、「“是…的”構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。 |
| 13 | その他の重要表現・構文 2 | 「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。 |
| 14 | まとめ | 授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】

- ・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級〔改訂版〕』東京：東方書店
- ・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
- ・木村英樹 2017『中国語ははじめの一步〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
- ・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
- ・守屋宏則 1995『やさしく かわいい 中国語文法の基礎』東京：東方書店
- ・劉月華 他 2001『實用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館
- ・朱德熙（著）、杉村博文・木村英樹（訳）1995『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』、東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】

期末レポートを 70%、平常点（問題演習への取り組み状況、発表・質疑応答の内容など）を 30%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

様々な背景を持つ受講生（SA 中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）がおり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC 等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・中国語の文法知識があること（最低 1 年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
- ・本授業は、中国語という言葉の文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）

渡辺 昭太

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の学習を終えて、中級段階に進んだ際に、難易度の高い中国語の意味を取り違えたり、中国語作文において間違った表現を使った経験がある人は多いだろう。また、留学先で中国人日本語学習者の日本語に触れた時、その日本語が不自然だと思いつつもその理由をうまく説明できないという経験をした人もいるかもしれない。本授業では、このような誤用例にスポットをあて、なぜそのような誤用が起きるのか、どのような表現にすれば適切な中国語／日本語表現になるのかを的確に分析できる力を養う。また、日中対照研究の視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法的特徴を考える視点も養う。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

日本人中国語学習者や中国人日本語学習者の誤用例の分析と考察を通じて、日中両言語の文法的、表現論的諸特徴を適切に把握すること、これが本授業のテーマであり、具体的な到達目標は以下の通りである。

- (1) 中国語／日本語学習者の誤用例の検討を通じて、その原因を自分なりに説明できる。
- (2) 関連する論考や資料の講読を通じて日中両言語の文法的諸特徴を適切に理解する。
- (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	動詞関連表現 1	中国語／日本語のアスペクト表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
3	動詞関連表現 2	中国語／日本語の助動詞、副詞的表現、否定表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
4	形容詞関連表現 1	中国語／日本語の形容詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
5	形容詞関連表現 2	中国語／日本語の比較表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
6	名詞関連表現 1	中国語／日本語の名詞、数量詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
7	名詞関連表現 2	中国語／日本語の連体修飾に関する誤用例の分析と考察を行う。
8	補語 1	中国語の結果補語、方向補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
9	補語 2	中国語の可能補語、数量補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
10	様々な構文 1	中国語の把構文、受身文、使役文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。

11	様々な構文 2	中国語の存現文、是…的構文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
12	日本語と中国語の表現論的特徴 1	日本語と中国語の表現論的相違（相対的表現と絶対的表現など）に関して考察する。
13	日本語と中国語の表現論的特徴 2	日本語と中国語の表現論的相違（言語と文化など）に関して考察する。
14	まとめ	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】

- ・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級〔改訂版〕』東京：東方書店
- ・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
- ・木村英樹 2017『中国語ははじめの一步〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
- ・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
- ・守屋宏則 1995『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』東京：東方書店
- ・寺村秀夫 1982, 1984, 1991『日本語のシンタクスと意味Ⅰ～Ⅲ』東京：くろしお出版
- ・寺村秀夫 1992, 1993『寺村秀夫論文集Ⅰ, Ⅱ』東京：くろしお出版
- ・劉月華 他 2001『実用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館
- ・朱德熙（著）、杉村博文・木村英樹（訳）1995『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』、東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】

期末レポートを 70%、平常点（誤用例分析への取り組み状況や考察内容、発表・質疑応答内容など）を 30%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

様々な背景を持つ受講生（SA 中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）がおり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC 等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・中国語の文法知識があること（最低 1 年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
- ・本授業は、誤用例の分析を手がかりに、日中両言語の諸特徴を考察する授業である。そのため、会話等を学ぼうという「語学の授業」とは性質が異なる。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

野村 英登

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『老子』『莊子』『孫子』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら諸子百家の思想はしばしば独立ないし対立するものとして扱われますが、実際には古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。

【到達目標】

*中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯

*中国古典を現代語訳で読むときの注意点

*中国古典の背景となる当時の社会環境

以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【授業の進め方と方法】

授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『老子』『莊子』『孫子』の全体像を説明します。
2	『論語』と孔子	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。
3	『論語』と学び	『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
4	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
5	『易経』の世界観	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。
6	『易経』で易占い	テキストを使って、実際に易占いをを行います。
7	『老子』の哲学	老子の“道”（タオ）の思想を儒教の“天”の思想と対比して学びます。
8	『老子』と政治	老子の思想の具体的な展開として、法家の韓非子の思想を学びます。
9	『老子』と健康法	老子の思想の実践性を処世術や健康法の立場から学びます。
10	『莊子』と神話	莊子の神話的な奇想と実践的な哲学の結合を考えてみます。
11	『莊子』の哲学	莊子の“無為自然”の思想が老子とどう異なるか、また後代への影響を学びます。
12	『孫子』の兵法	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
13	『孫子』の哲学	孫子の兵法と老子の思想の関係を学びます。

論述試験を通して、これまでの授業内容を自分なりにまとめてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではテキストの要点に絞って講義をするので、授業時間外でテキスト全体を通読しましょう。

【テキスト（教科書）】

『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）。

『老子・莊子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）。

『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）。

『孫子・三十六計』（湯浅邦弘、角川ソフィア文庫、2008）。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）：40 %

期末試験：60 %

【学生の意見等からの気づき】

高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

中国の文化Ⅶ（近代文学）

張 文菁

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀初頭に中国では、いわゆる近代文学が誕生する。これらはいかにそれ以前の文学と異なり、そして何を目指したものであったのだろうか。近代文学として生まれた新文学がいかにその当時の社会と文化の重任を担わされたか。中国の近代の歩みを文学の視点から考えることが本授業の核心である。授業は、近代中国文学の誕生から中華人民共和国建国前後までを範囲とする。

【到達目標】

中国の近代文学を素材として中国の文化と社会について考察する。中国の近代文学について基礎的な知識を得るとともに、その歴史的な背景について認識を深める。各学生の文学観、文学史観の形成をめざす。

【授業の進め方と方法】

授業の課題ごとに沿った作品をあらかじめ配布します。履修者は必ず作品を熟読したうえで授業に出席してください。議論するために下記の 3 点に注意しながら作品を読んでください。

- ・ 歴史（／社会背景）
- ・ 作者の意図
- ・ 各自の切り口（／論評）

以上の 3 点について、授業でコメントを求められることがあります。授業後は、授業での議論と合わせて、リアクションペーパーに記入し提出することになります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション/ 近代（文学）とは何か？	授業のねらい、進め方についての説明/梁啓超にとっての国民国家と文学
2	近代文学の胎動 1	胡適と陳独秀の言文一致運動
3	近代文学の胎動 2	鴛鴦蝴蝶派と翻訳文学
4	近代文学の誕生	魯迅
5	新世代の作家たち 1	文学研究会
6	新世代の作家たち 2	創造社
7	近代中国のモダニズム 1	新月社
8	近代中国のモダニズム 2	都会の新感覚派
9	革命文学	左翼作家聯盟
10	1930年代の長篇小説	老舍と沈從文
11	解放区の文学	趙樹理、丁玲と延安講話
12	淪陷区の文学 1	東北の作家たち
13	淪陷区の文学 2	張愛玲
14	国統区の文学	無名氏など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおく必要があります。

【テキスト（教科書）】

随時配布

【参考書】

『原典で読む：図説中国 20 世紀文学』（中国文芸研究会）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

レポート 40%

平常点 40%

授業態度 20%

中国の文化Ⅷ（現代文学）

張 文菁

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建国後の中国から現在までの文学を取り上げる。範囲は、中国大陆に限らず、中国語圏である香港や台湾などの文学を含む。

【到達目標】

中国の現代文学を素材として中国の文化と社会について考察する。中国の現代文学について基礎的な知識を得るとともに、その歴史的な背景について認識を深める。各学生の文学観、文学史観の形成をめざす。

【授業の進め方と方法】

授業の課題ごとに沿った作品をあらかじめ配布します。履修者は必ず作品を熟読したうえで授業に出席してください。議論するために下記の3点に注意しながら作品を読んでください。

- ・歴史（社会背景）
- ・作者の意図
- ・各自の切り口（論評）

以上の3点について、授業でコメントを求められることがあります。授業後は、授業での議論と合わせて、リアクションペーパーに記入し提出することになります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中華人民共和国建国後の中国文学	胡風批判と百花時代
2	文化大革命	白毛女の表象
3	1970年代の傷痕文学	王蒙『蝴蝶』など
4	新時期文学	1980年以降の展開
5	先鋒文学	残雪と高行健
6	通俗文学	韓寒と郭敬明
7	香港の文学1	南来文人とその後の発展
8	香港の文学2	武俠小説と金庸
9	台湾の文学1：戦前の日本文学	楊逵と呂赫若、龍瑛宗
10	台湾の文学2：二・二八事件前後の文学	吳濁流と葉石濤
11	台湾の文学3：1950年代の政治と文学	反共と懷郷文学の流れ
12	台湾の文学4：現代主義	雑誌『現代文学』と白先勇
13	台湾の文学5：郷土写実主義	王禎和と黃春明
14	台湾の文学：多元化する台湾文学	女性とクィア、原住民

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおく必要があります。

【テキスト（教科書）】

随時配布

【参考書】

『原典で読む：図説中国 20 世紀文学』（中国文芸研究会）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

レポート 40%

平常点 40%

授業態度 20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

中国の文化区（中国俗文学）

岩田 和子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

S A を機会に日本文化について改めて考え直す機会を得た人も多いだろう。しかし、日本文化とは何かを考えるには、古来、日本文化に多大な影響を与えてきた中国文化への理解が不可欠である。

表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語（Lingua Franca）を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与え、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。

この講義では、俗文学の歴史とその背景となった中国文化史を通観するとともに、それが日本を含む東アジアにどのような影響を及ぼしたのかを学んでいく。

【到達目標】

中国の古代から近世に至る文化史を理解し、東アジアという広い視野から自文化を考え、説明できる力を身につける。

【授業の進め方と方法】

授業は、準備学習と講義、リアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせて行う。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、リアクション・ペーパーを通じて積極的に発言してほしい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の進め方と目的について概説する
第 2 回	殷代	文字の誕生
第 3 回	周代	采詩の官と詩経
第 4 回	春秋戦国時代	儒教経典が伝える民間伝承
第 5 回	秦代	亡国の民が伝えた物語
第 6 回	漢代	紙の誕生
第 7 回	魏晉南北朝時代	北朝と南朝の民間伝承に描かれた女性像
第 8 回	隋唐時代	敦煌変文の世界
第 9 回	五代十国時代	書籍出版のはじまり
第 10 回	北宋時代	三国志の誕生
第 11 回	南宋時代	水滸伝の誕生
第 12 回	元代	演劇の隆盛
第 13 回	明代	出版文化の隆盛
第 14 回	清代	民間芸能の隆盛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習の資料を授業支援システムを通じて配布するので、授業前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

各回の授業の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の 2 つを基準に行う。

- ①毎回の授業で提出するリアクション・ペーパーの内容（90 %）
- ②期末レポートの内容（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と同様、授業で使用するスライドの PDF を事前にアップするようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントを使用し、映画やドキュメンタリービデオなどの映像資料を多用する。

朝鮮語圏の文化 I (朝鮮半島の文化史)

神谷 丹路

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮半島は日本にとって、地理的、歴史的にもっとも密接な関係をもつ地域のひとつです。したがって、この授業では、朝鮮半島全般に関し、常識ともいえるべき基礎知識をひとつと身につけることを目的とします。

【到達目標】

朝鮮半島に関する基礎知識を身につけることによって、その中の興味のある分野について、自分から引き続き勉強を続けていけるような土台を作ります。

【授業の進め方と方法】

朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し、その上で各項目についてみていきます。朝鮮半島と日本とのあいだの文化的影響や共通点に着目するとともに、あることがらについて、日本と朝鮮半島とのとらえかたの相違点などにも注目して学びます。視覚資料をあわせてみながら、理解を深めます。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つです。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入／朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の2つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、綱渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百済・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮（王宮の再建から王妃虐殺事件まで） ・徳寿宮（大韓帝国の近代） ・昌徳宮（最後の国王、植物園、動物園）
7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労働動員

8	解放から 1950 年代	・38 度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族
9	1960 年代	・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成
10	1970、80、90 年代	・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88 年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明（歴史の再評価）
11	朝鮮沿岸漁業の百年	・朝鮮の漁業 ・20 世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女
12	歴史の和解とは	・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
13	世界のコリアン・韓国の外国人	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

朝鮮語の知識は必要ありません。朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち、関連する本を積極的に読んでください。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを作成して配布します。

【参考書】

参考文献はその都度指示します。

『新訂増補 韓国朝鮮を知る事典』（平凡社）2014 年

『日韓でいっしょに読みたい韓国史』（明石書店）2014 年

『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 前近代編下』（青木書店）2006 年

『学び、つながる日本と韓国の近現代史』（明石書店）2013 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業時に課すミニレポート含む）50 %、学期末試験 50 % による総合評価。言うまでもないことですが、やむをえない理由をのぞき、全回出席が原則です。

【学生の意見等からの気づき】

現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回プリントを配布するので、学期中の配布物をきちんとまとめてファイリングをすること。

【その他の重要事項】

S A 韓国 2 年生はかならず受講してください（韓国人に「こんなことも知らないの？」と驚かれないように）。他学部の学生の受講も歓迎します。なお順序と内容に若干の変更がある場合があります。

アジアの伝統芸能

岩田 和子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国には「戯曲」と総称される 300 種あまりの伝統歌劇と「曲藝」と総称される 400 種ほどの語り物がある。本講義では、実際の上演映像を見ながら、中国の伝統芸能の分類とスタイルを体系的に理解した後、「中国四大民間故事」と呼ばれる中国を代表する民間伝承を題材とした伝統芸能作品二種を取り上げ、その演出や技法について学ぶとともに、こうした伝統芸能作品が現代の音楽や映画などに姿を変え、新たな芸術作品を生み出していく過程について学んでいく。

【到達目標】

中国の伝統芸能の体系的な理解を持つとともに、代表的な作品を通じて上演の際の演出や技法などを学び、さらに伝統芸能が現代中国の音楽や映画など芸術作品にどのような影響を与えたかを理解する。

【授業の進め方と方法】

授業は、事前学習と講義を組み合わせで行う。資料は授業支援システムを通じて pdf ファイルとして配布する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに～なぜ中国の伝統芸能を学ぶのか？	中国の伝統芸能を学ぶ目的と意義について考える
第 2 回	中国の伝統芸能とは	中国の伝統芸能の種類と演出、技法
第 3 回	中国伝統芸能の演出と技法	川劇「白蛇伝」を例に（一）中国伝統演劇の四大声腔と川劇
第 4 回	中国伝統芸能の演出と技法	川劇「白蛇伝」を例に（二）「有声必歌、無動不舞」
第 5 回	中国伝統芸能の演出と技法	川劇「白蛇伝」を例に（三）中国伝統演劇の表現技法
第 6 回	白蛇伝の変遷	中国四大民間故事の一つ「白蛇伝」の歴史的変遷
第 7 回	伝統芸能から現代の音楽、映画へ	越劇の誕生と往時の役者たち
第 8 回	伝統芸能から現代の音楽、映画へ	越劇「梁山伯と祝英台」
第 9 回	伝統芸能から現代の音楽、映画へ	越劇から西洋音楽へ
第 10 回	伝統芸能から現代の音楽、映画へ	バイオリン協奏曲「梁祝」
第 11 回	伝統芸能から現代の音楽、映画へ	越劇から映画へ
第 12 回	伝統芸能から現代の音楽、映画へ	映画「梁祝」
第 13 回	梁祝故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「梁山伯と祝英台」の歴史的変遷
第 14 回	中国伝統芸能の現在	中国伝統芸能の現状について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習の資料を授業支援システムを通じて配布するので、授業前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

- ・村松一弥『中国の音楽』（勁草書房、1965 年）
- ・侯宝林、汪景寿、薛宝琨『曲藝概論』（北京大学出版社、1980 年）
- ・鄧運佳『川劇芸術概論』（四川省社会科学院出版社、1988 年）
- ・周静書『梁祝文化大観』（4 巻、中華書局、2000 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の 2 つの基準によって行う。

- ①毎回の授業で提出するリアクション・ペーパーの内容（90 %）
- ②期末レポートの内容（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業で使用するスライドの PDF を事前にアップするようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントを使用し、映画などの映像資料を多用する。

ロシア・中央アジアの文化

アンドレイ・クラフツェビチ

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前世紀 90 年代初めにソビエト社会主義共和国連邦が解体し、15 の独立した国家が誕生した。その内の五カ国はいわゆる中央アジアの国々であった。それはウズベキスタン、タジキスタン、キルギズスタン、トルクメニスタンとカザフスタンである。数百年にわたってロシア帝国、ソ連邦の部分であったその国々は千年以上の歴史をもち独特の文化をもたらし、シルク・ロードの北の部分であった同じ地域、似ている文化、共同の歴史をもってこの国々は独立してからどのように発展していくのか、それらの国々がかかえている重要な政治、社会、経済等の問題は何か、ロシアと日本を始め、他の外国との関係、交流はどう進んでいるのかを学ぶ。

【到達目標】

現在ロシアと中央アジア諸国の事情をもっと明確に分かること、並びにその国々との関係、お互いの影響という問題点を理解する目標がある。

【授業の進め方と方法】

講座の枠内では最初ロシアと中央アジアの地域の歴史、その後ロシア帝国への編入、ソ連邦の時代の時に近代化政策の結果、そしてソビエト連邦解体後の事情と問題点を教える授業の方法は講義であるが、学生は関心がある問題に関するディベートも考えられる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講座の内容と目的を説明する
第 2 回	ロシアと中央アジア古代史	最初のコンタクト
第 3 回	ロシアと中央アジア中世史	モンゴル額木以来定期的交流
第 4 回	中央アジアのロシア帝国併合・加入	帝政ロシアへの自発的参加と占領の歴史
第 5 回	帝政ロシアにおける中央アジア	ロシア式植民地化
第 6 回	1917 年のロシア革命と中央アジア：一時的独立	帝国解体中の民族解放運動
第 7 回	二回目の併合：ソ連邦における中央アジアのソビエト社会主義共和国	ボリシェヴィキの民族政策
第 8 回	ソ連邦における中央アジア	中央アジアのソビエト化の結果
第 9 回	ソ連邦解体と中央アジア	ソ連破壊に対する中央アジア各国の態度と独裁的政権の形成
第 10 回	中央アジアの国々の内政問題：カザフスタンとウズベキスタン	権威主義と文明の進んだ独裁政権
第 11 回	中央アジアの国々の内政問題：タジキスタン、トルクメニスタンとキルギスタン	穏健な独裁と虐政的独裁政権
第 12 回	中央アジア各国に対するロシアの政策	統一防衛- 経済空間：アイデアと現実。資源と安い労働力の根源地
第 13 回	ロシアに対する中央アジア各国の政策	パトローナか兄貴か又は収入の財源
第 14 回	講座の総括	Q&A, 不明点を明確する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布された資料と推薦された文献を読む

【テキスト（教科書）】

特に教科書、テキストは使用しないが、あるテーマに関する参考文献を講義中に指示するとプリントを配布するので一番大事なことは講義に出席すること。

【参考書】

木村汎編「もっと知りたいロシア」、弘文堂、平成 7 年 11 月 15 日。
望月哲男、沼野充義、亀山郁夫ほか「現代ロシア文化」、国書刊行会、2000 年 2 月 25 日。

中津孝司「ロシア世界を読む」、創成社、2007 年 9 月 15 日。
木村英亮「ロシア現代史と中央アジア」、有信堂、1999 年 2 月 25 日。
下斗米伸夫、島田博編「現代ロシアを知るための 55 章」、明石書店、2002 年 6 月 25 日。

宇山智彦「中央アジアを知るための 60 章」、明石書店、2003 年 3 月 10 日。

関野英二、堀川徹編「中央アジアの歴史、社会、文化」、放送大学教育振興会、2004 年 9 月 20 日。

田畑伸一郎、末澤恵美編「CIS：旧ソ連空間の再構成」、国際書院、2004 年 3 月 20 日。

監修笠沙雅章、編者関野英二「アジアの歴史と文化 8。中央アジア史」、角川書店、1999 年 4 月 20 日。

木村汎、石井明編「中央アジアの行方。米ロ中の綱引き」、勉誠出版、2003 年 12 月 1 日。

石郷岡建「ユーラシアの地政学。ソ連崩壊後のロシア、中央アジア」、岩波書店、2004 年 1 月 27 日。Allworth Edward (ed.) "Central Asia. 130years of Russian Dominance, A Historical Overview", Duke University press, 1994.

Roy Oliver "The New Central Asia. The Creation of Nations", New York University Press, 2000.

Jonson Lena "Vladimir Putin and Central Asia. The Shaping of Russian Foreign Policy", I.B. Taurus, 2004.

【成績評価の方法と基準】

平常点（20）と学期末試験（80）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

ロシア・東欧の文化

佐藤 千登勢

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアと東欧は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方が EU 加盟を果たした東欧諸国。今日、これらの国々に対しては、中欧、もしくは中東欧という呼称が定着しつつあります。東欧という位置づけは、ロシア・ソ連との関係性、そして地理的・歴史的要因といった多面的な観点から考察される必要があるでしょう。

この講義では、ロシアと東欧諸国、それぞれの民族的差異や特殊性を主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を確認すると同時に、ナショナリズムの問題を提起していきます。また、日本との交流のあり方も視野に含めつつ、話を進めていきます。テーマが大きいだけに、まとまった結論を提示することはしません。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の国家や民族が共生するとはどういうことなのか、学生みなさんに考えてほしいと思います。

SA ロシアに向かう予定の2年生は事前準備の一環として、必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【授業の進め方と方法】

当講義で論じる「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及します）。これらの国々の史実や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、アニメーション、アートなど）の視聴覚資料を通して、東欧諸国とソ連・ロシアとの関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや社会体制の問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として捉え、考えていくようにしたいものです。授業の最後には毎回、意見や疑問点をまとめたレヴューシートをみなさんに提出してもらい、次回の授業に活かしていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと中東欧諸国の言語・宗教／日本と東欧の関係の一断面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、汎ヨーロッパ・ピクニック事件の映像を鑑賞。
第3回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉施設を中心に解説、映像で紹介。
第4回	ハンガリー：音楽と映画とアートをめぐって	ジプシー楽団からリスト、バルトーク、コダーイの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ペーラらの独特な作風の映画を紹介。ハンガリー構成主義からグロテスク・デザインまでアーティストを紹介。

第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第6回	ポーランド：街並みと風土／世界遺産を中心に	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所の記録を映像を通して概説。伝統的歌唱法ホワイトヴォイスや伝統的リズムを利用した現代のポップラーミュージックも紹介。映画と政治の問題はワイダ作品を鑑賞しながら検討。
第7回	ポーランド：音楽と映画と政治をめぐって	ボランスキー、ケシロフスキ、スコリモフスキの映画を一部鑑賞しつつ、ポーランド映画の美に触れる。シェンキエヴィチ、シュルツ、ミウォシユ、シンボルスカ、レムラ作家や詩人を紹介。
第8回	ポーランド：映画と文学をめぐって	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『ブラハ！』に描かれるチェコ事件を紹介。
第9回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	ブラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいを映像を通して概説。
第10回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	ブラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、チェコ・アヴァンギャルド、ブラハ言語学サークルについて、さらに、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて、映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コリーヤ、愛のブラハ』を紹介。
第11回	チェコ：文学と映画をめぐって	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのパペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品、現代社会の個人の内的精神の問題を描くパヴラートヴァーのセルアニメを鑑賞し、チェコのアニメーション文化の多様性とイデオロギー的機能について考える。
第12回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	被抑圧と抑圧、全体主義体制をキーワードに古代ロシアから現代までのロシア史を概観。
第13回	ソ連・ロシア：歴史概観	これまでの授業を改めて確認できるような映像資料を鑑賞する。
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品の DVD は大学の AV ライブラリーにある場合も多く、文学作品は図書館で借りることができます。

【テキスト（教科書）】

教場で資料を配付します。

【参考書】

教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レヴューシート（50％）、期末レポート（50％）の基準により判断します。

【学生の意見等からの気づき】

大教室での授業となる可能性があります、静かな環境を保ちつつ講義を進められるよう、配慮します。同時に、何よりも皆さんの協力を期待します。

ドイツ語圏の文化 I

辻 朋季

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のタイトルは「ドイツ語圏の文化」ですが、そもそも「ドイツ語圏」とはどこを指すのでしょうか。また「ドイツ」という国はいつ、どのように成立し、どんな歴史を辿って今に至ったのでしょうか。授業ではこういった身近な疑問から出発して、時に「ドイツ」という概念の自明性も疑いながら、ドイツ語圏の文化や歴史を学んでいきます。なお、私たちが日頃よく使う「文化」という言葉も、実は時代ごとに異なった意味を与えられ、ドイツ語の **Kultur**（よくフランス語の **civilisation** と対置される）の概念も取り入れて発達してきました。授業では、こうした用語の概念史にも着目し、また日本との比較の視点も取り入れて、柔軟な思考や多角的な視点を養っていきます。

【到達目標】

ドイツ文化の多彩さを知る。「ドイツ的」とされるもの・ことについて再検討する。近代国民国家についての批判的な視座を得る。「文化」という言葉の奥深さを学ぶ。日本とドイツの交流史についての知見を深める。

【授業の進め方と方法】

毎回、教員が資料を用いて各テーマの内容を紹介しします。学術書や文学作品などを扱う回は、該当箇所を輪読形式で読み進めます。また適宜テーマに関連した映像を見ることもあります。その後、受講者が気づいた点や疑問点を指摘したり、意見を述べるなどして、議論を深めていきます。授業の終わりには、リアクションペーパーを書いて、自分の考えを言語化していきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ドイツについて抱くイメージ、ドイツ的だと思うことなどについて、ブレインストーミング。
2	ドイツはどこにあるのか？ ドイツ語圏とはどこか？	過去と現在のドイツの地理的状況の変化、ドイツ語圏の国々について学ぶ。
3	「ドイツ的」なものを疑う	「ドイツ人」「日本人」といった「国民」という概念の成り立ちや今日的な問題点について知る。
4	文化（ Kultur ）の概念史。身近な「異文化」を感じよう。	日本語の「文化」の意味の変遷や、ドイツ語の Kultur の概念史を学ぶ。また浜田寿美男『障害と子どもたちの生きるかたち』をもとに「異文化」概念を捉え直す。
5	ドイツ史概観（1）ナポレオンから国家統一へ	フランス革命がもたらした二面的な影響と、ドイツの民族意識の高まりについて学ぶ。
6	ドイツ史概観（2）ドイツ帝国成立から第一次世界大戦終焉まで	ビスマルクの「上からの統一」によるドイツ帝国成立から第一次世界大戦の敗戦までの歴史を概観する。
7	ドイツ史概観（3）「黄金の 20 年代」からナイツ政権の成立・崩壊へ	ナチズムがドイツ及びヨーロッパ諸国に与えた影響を中心に考察する。
8	ナチスをめぐるウソ？ ホント？ ナチズム言説を検証する	アウトバーンはナチスの発案ではないし、国民車は軍備調達の資金集めだった、などの事実から、巷にあふれるナチス言説を批判的に検証する。

9	ドイツ史概観（4）東西分裂から再統一、現代まで	戦後ドイツにおけるナチズムの過去との取り組みについて、ベルンハルト・シュリンクの『朗読者』なども読みながら学んでいく。
10	日本とドイツの交流史（1）	鎖国時代から続く両国の関係史について学ぶ（修好条約の締結まで）。
11	日本とドイツの交流史（2）	明治期の日本のドイツ文化移入のプロセスについて、森鷗外『舞姫』なども参照しつつ学ぶ。
12	日本とドイツの交流史（3）	第一次世界大戦時のドイツ人俘虜にも着目しながら、二度の「日独戦争」について考察する。
13	オーストリアの歴史と文化	多民族国家オーストリア＝ハンガリーの歴史から、国民国家に代わる共同体の手がかりを得られないかを考える。
14	スイスの歴史と文化	永世中立、青空議会、4 つの公用語など、独自の文化を擁するスイスについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で輪読する文献については、事前に配布されるので、必ず読んで来る。

【テキスト（教科書）】

資料を用意し、授業内で配布します。

【参考書】

ベネディクト・アンダーソン（白石さや・白石隆訳）『想像の共同体』（NTT 出版、2004 年）。
 今井道兒『「文化」の光景：概念とその思想の小史』（同学社、1996 年）。
 高橋憲『ドイツの街角から：素顔のドイツ——その文化・歴史・社会』（郁文堂、2017 年）。
 新野守広ほか（編）『知ってほしい国ドイツ』（高文研、2017 年）。
 浜田寿美男『障害と子どもたちの生きるかたち』（岩波書店、2009 年）。
 森鷗外『舞姫・うたかたの記』岩波文庫（岩波書店、2012 年）。
 ベルンハルト・シュリンク（松永美穂訳）『朗読者』新潮文庫（新潮社、2010 年）。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（議論、リアクションペーパー含む）50%、学期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業ですが、授業中に学生が考えや意見を発信できる機会を設けるとともに、リアクションペーパーを通して担当講師とのコミュニケーションを図ります。

フランス語圏の文化Ⅲ（文学）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世時代から現代にいたるまでのフランス語圏の文学の概説。

【到達目標】

フランス語圏の文学の基礎知識を深める。

さまざまな仏文学潮流の代表的な作品の抜粋を読み、分析研究をする。十九世紀から非常に盛んになった大衆文学の研究も主に探偵・ミステリー小説を通して行う。

【授業の進め方と方法】

豊かなフランス語圏の文学の概説をするのは容易ではないが、いくつかの名作の抜粋を通して、この探検を試みる。

フランス語圏の文学の様々な潮流やその歴史的な背景の概説も必要であるが、なるべく原文に没入し解読を試み、その芸術的な喜びを味わう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中世の文学	授業紹介 フランス文学の最初の作品
②	ルネッサンスの文学	詩とエッセー
③	十七世紀の文学	寓話詩と芝居
④	十七世紀の文学	芝居と小説
⑤	十八世紀の文学	エッセーと小説
⑥	十八世紀の文学	小説と芝居
⑦	十九世紀の文学	エッセーと小説
⑧	十九世紀の文学	小説と詩
⑨	十九世紀の文学	詩と芝居
⑩	二十世紀の文学	エッセーと小説
⑪	二十世紀の文学	小説と詩
⑫	二十世紀の文学	詩と芝居
⑬	二十一世紀の文学	小説
⑭	現代大衆文学	ミステリー小説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書は限定するので（莫大な読書量にはならない）、あらかじめ指定された箇所はしっかり読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示

【参考書】

開講時指示

【成績評価の方法と基準】

- 1) フランス語や日本語による発表：50%
- 2) 期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

一定のレベル（2年間学習済、DELTA A2..）の仏語学力が望ましい。

この授業はフランス語または日本語で行う（英語も可）。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではないが、パソコン、録音機の持参推奨

フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界 5 大陸に広がるフランス語圏（フランコフォニー）社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語・文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。

具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マグレブ、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】

- (1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知ること。
- (2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知ること。
- (3) 言及する各社会において、在来言語・文化とフランス語・文化とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになること。

【授業の進め方と方法】

日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。

2～3 コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性（歴史・政治・社会・言語状況など）を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照しながら、具体的に各地域のフランス系文化について説明を行う。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏（フランコフォニー）」とは、いかなる概念なのか？ ・具体的なフランス語圏地域の解説
2	I. カリブ海域諸島①	・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明 【マルチニク島】：ネグリチュード運動（エメ・セゼールとフランツ・ファノン） ・フランス語とクレオール語の関係
3	I. カリブ海域諸島②	【マルチニク島】：アンティユ性の提唱（エドゥアール・グリッサン） 【グアドループ島】：定住と彷徨（マリーズ・コンデ） ・クレオール語の地位復権運動
4	I. カリブ海域諸島③	【マルチニク島】：クレオール文学運動（パトリック・シャモワゾーとラファエル・コンフィアン） ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり

5	II. カナダ・ケベック州①	・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明 【ケベック】フランス系カナダ人からケベック人へ：ミシェル・トランブレ、ジャック・ゴドブー ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
6	II. カナダ・ケベック州②	【ケベック】：インターカルチャー／トランスカルチャーの文学：レジーヌ・ロバン（ユダヤ系）、マルコ・ミコーネ（イタリア系）、エミール・オリヴィエ（ハイチ系） ・母語とフランス語の関係
7	II. カナダ・ケベック州③	【ケベック】「移動するエクリチュール」の現在：ダニール・ラフェリエール（ハイチ系）、イン・チェン（中国系）、アキ・シマザキ（日系） ・ケベック社会におけるハイチアン・コネクション ・母語とフランス語の関係 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
8	III. マグレブ（北アフリカ諸国）①	・マグレブの歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】：カテブ・ヤシーヌ、アシア・シェバル、ニナ・ブラウイ ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
9	III. マグレブ（北アフリカ諸国）②	【モロッコ】：アブデルケビール・ハティビ、タハール・ベンジュルーン ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
10	III. マグレブ（北アフリカ諸国）③	【チュニジア】：アルベール・メンミ、アブデルワハブ・メデブ ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	IV. サハラ砂漠以南のアフリカ①	・サハラ砂漠以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】：レオポール・セダール・サンゴール、マリー・ンディアイ ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	IV. サハラ砂漠以南のアフリカ②	【コート・ジボワール】：アマドゥ・クルマ 【コンゴ共和国】：ソニー＝ラブ・タンシ、アラン・マバンク ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	V. ヨーロッパのフランス語圏①	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【スイス】：シャルル＝フェルディナン・ラミュ、アリス・リヴァ、ニコラ・ブヴィエ ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係
14	V. ヨーロッパのフランス語圏② 総括	【ベルギー】：ジョルジュ・シムノン、ジャン＝フィリップ・トゥーサン、ジャン＝ピエール・ヴェルヘゲン ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係 【総括】 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。

授業で言及・提示する資料の邦訳（可能であれば原典）などにも当たり、できるだけ理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

- ・特になし。
- ・毎回、関連資料を配布する。

【参考書】

授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。

- ・鳥羽美鈴著、『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会，2012年。
- ・平野千香子著、『フランス植民地主義の歴史』人文書院，2002年。
- ・中村隆之著、『カリブー世界論』人文書院，2013年。
- ・小畑精和著、『ケベック文学研究』御茶の水書房，2003年。
- ・明治大学中央図書館所蔵の「ケベック文庫」
- ・鶴戸聡著，「アラブ・フランコフォニーと越境の文学」『反響する文学』（土屋勝彦編，名古屋市立大学『人間文化研究叢書』創刊号），風媒社，2011年。
- ・梶茂樹・砂野幸稔編著，『アフリカのことばと社会：多言語状況を生きるということ』三元社，2009年。
- ・岩本和子著，『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナリズムの変遷』松籟社，2007年。
- ・法政大学多摩図書館所蔵の「スイスロマンド文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】

- ・評価配分は、以下の通り
 - ①平常点（コメントシートなど）：30 %
 - ②期末レポート：70 %
- ・評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域（または国）における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。

【学生の意見等からの気づき】

主に配布資料に基づいて説明を行うが、出来るだけ説明が緩慢にならないように、映像・音声資料なども盛り込みながらメリハリをつける。

【その他の重要事項】

フランス語の知識は前提としない。

北米文化論（ケベック講座）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。

本授業は、北米大陸のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとし、オムニバス形式にて各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会について学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説することを主たる目的とする。

なお、具体的な授業内容については初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることを理解いただきたい。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- ①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。

具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の 2 回ずつ（合計 4 回）は、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（10 回分）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。

なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第 2 回	ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史・社会・言語状況などについて概説
第 3 回	ケベック州の言語状況①	・ケベック州の言語状況を言語政策などの観点から学ぶ
第 4 回	ケベック州の言語状況②	・ケベック州の言語状況を地域間の関係から学ぶ
第 5 回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第 6 回	ケベック州の歴史	・ケベック州の歴史を包括的に学ぶ
第 7 回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第 8 回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第 9 回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第 10 回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。

第 11 回 ケベック州の文化①

・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。

第 12 回 ケベック州の文化②

・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。

第 14 回 総括①

・本授業の全体のまとめ
・映像資料を用いて、原題のケベック州社会を知る。

第 15 回 総括②

・本授業の全体のまとめ
・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の授業をより深く理解するためにも、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州に関する情報を集めて頂きたい。
・期末レポート執筆のためにも、配布資料についても熟読して頂きたい。

【テキスト（教科書）】

・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】

・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』エリアスタディーズ・72 巻，明石書店，2009 年。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点：40 %
②期末レポート：60 %
・期末レポートのテーマは、いずれの専門分野・側面について

【学生の意見等からの気づき】

・開講初年度であるため、特になし。

【その他の重要事項】

・初回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席すること。
・毎年度秋学期に開講予定の授業であるが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって閉講となる年度もありうる。

スペイン語圏の文化Ⅰ（多言語国家スペイン）

佐々木 直美

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：人数枠を 30 名とし、それを超えた場合は抽選とする

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン文化の多様性を知ることを糸口に、文化や社会の多様性のあり方について考え理解を深めることを目的とする。

授業内ではスペイン語のテキストや映像資料を用いるが、スペイン語力は問わない。

【到達目標】

このクラスではスペインの歴史と文化全般を取り上げ、受講生が更にスペイン語学習のモチベーションを高めることを目的とする。

スペインの地域と文化の多様性をより深く理解し、自分なりのスペイン像を描けるようになることが目標である。

【授業の進め方と方法】

教員が準備する AV 資料を用いながら、担当となった受講生がプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション終了後には、全体でのディスカッションを行い、最後に各自コメントカードを記入する。第 1 回の授業でプレゼンテーションの担当者を決定するため、1 回目からの出席が強く望まれる。テーマの順序は、プレゼンテーションの担当者と調整するため入れ替わる可能性もある。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション (プレゼン担当決定)	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
第 2 回	スペイン概説	スペインの歴史と文化について大まかな理解を得る。
第 3 回	エル・シドとその時代	エル・シドに焦点をあて、スペインの歴史について理解を深める。
第 4 回	ベラスケスとその時代	ベラスケスの作品と人物、彼が生きた時代について理解を深める。
第 5 回	ゴヤとその時代	ゴヤの作品とその時代について理解を深める。
第 6 回	女王フアナ	女王フアナに焦点をあて、スペイン史について理解を深める。
第 7 回	スペインの宗教と社会 1	聖ロシオ祭を取り上げ、スペインの宗教と祭りについて理解を深める。
第 8 回	アルハンブラ宮殿とアンダルシアの文化	世界遺産アルハンブラ宮殿とアンダルシアの歴史と文化について理解を深める。
第 9 回	スペインの民族（民俗） 舞踏と芸能	フラメンコやスペインの民俗舞踏・その他の芸能について理解を深める。
第 10 回	スペインの宗教と社会 2	サンティアゴ・デ・コンポステーラとその巡礼道を通じてスペインの宗教実践について理解を深める。
第 11 回	スペインの食文化	食文化を通して、スペインの多様性について理解を深める。
第 12 回	ピカソ	ピカソの作品とそれが制作された背景について理解を深める。
第 13 回	ダリ	ダリの作品とそれが制作された背景について理解を深める。
第 14 回	ガウディとドメネク	建築家ガウディとドメネクについて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。

【テキスト（教科書）】

岩根園一『物語スペインの歴史 人物編』中公新書、2004 年

【参考書】

田澤耕『物語 カタルーニャの歴史』中公新書、2000 年。

その他はテーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

発表の内容 (30 %)、学期末レポート (30 %)、コメントカード (40%) を総合評価する。出席は毎回配布するコメントカードの提出をもって出席とみなし、4 回以上の欠席は単位認定不可とする。

学期中 1 度は発表することが、単位認定の最低条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

議論の時間を十分に確保する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンを担当する受講生は、プロジェクターに接続する PC を準備すること。

スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）

佐々木 直美

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：人数枠を 30 名とし、それを超えた場合は抽選とする

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、スペイン語圏の自然や歴史、文化全般に渡って受講生が幅広く興味と知識を得て、更にスペイン語学習のモチベーションを高めることを目的とする。

授業内で使用するテキストや映像資料はスペイン語を用いることもあるが、受講に際してスペイン語力は問わない。

【到達目標】

ラテンアメリカに関する記事やニュースをより深く理解し、自分なりの意見を述べられるようになる。

【授業の進め方と方法】

教員が準備する AV 資料を用いながら、担当となった受講生がプレゼンを行う。プレゼン終了後に全体でのディスカッションを行う。第 1 回目の授業でプレゼンの担当者を決定し、日程を調整するので 1 回目からの受講が強く望まれる。なお、各テーマの順序は担当者との調整で入れ替わる可能性がある。

また、毎回ラテンアメリカに関するニュースを受講生が持ち寄り、それについて意見交換を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当者の決定。
第 2 回	ペルーの民俗芸能とアイデンティティ	講師の研究について紹介しながら、ペルーの社会変容について学ぶ。
第 3 回	ペルーの世界遺産と考古学遺跡①	マチュピチュやその他の考古学遺跡について学ぶ。
第 4 回	ペルーの世界遺産と考古学遺跡②	ナスカの地上絵について学ぶ。
第 5 回	ラテンアメリカと日本	移民とデカセギを通して、日本とラテンアメリカの関係について学ぶ。
第 6 回	ラテンアメリカの子供たち	ペルーの児童労働を例に、働く子供たちの現状について学ぶ。
第 7 回	ラティーノたち	アメリカ合衆国で存在感を増すラティーノについて、移住の背景や文化的アイデンティティを中心に学ぶ。
第 8 回	メキシコの考古学遺跡	メキシコの考古学遺跡について、その歴史と共に学ぶ。
第 9 回	メキシコの芸術家たち	ディエゴ・リベラとフリーダ・カーロを取り上げ、歴史的背景とともに画家と作品について学ぶ。
第 10 回	ラテンアメリカの食文化	食文化を通じて、ラテンアメリカ各国の歴史を学ぶ。
第 11 回	激動のキューバ	キューバ革命をめぐる歴史と現在のキューバ社会について学ぶ。
第 12 回	エバ・ペロンとその時代のアルゼンチン	元大統領夫人エビータとその時代のアルゼンチンについて学ぶ。
第 13 回	チリの歴史	「新しい歌運動」とチリ社会について学ぶ。
第 14 回	チリの詩人	パブロネルーダとその時代について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーションの準備として、自分が担当するテーマの図書を 3 冊以上読むこと。

【テキスト（教科書）】

増田義郎『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』、中公新書、1998 年。

【参考書】

網野徹哉『インカとスペイン帝国の交錯』、講談社、2008 年。
テーマに応じて、授業内でも追加で指示する。

【成績評価の方法と基準】

発表の内容（30 %）、コメントカード（40 %）、学期末レポート（30 %）を総合評価する。4 回以上の欠席は単位認定不可とする。
学期中 1 度は発表することが、単位認定の最低条件である。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の使い方をもっと工夫し、取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンを担当する受講生は、プロジェクターに接続できる PC を準備する。

カタルーニャの文化 I (言語 A)

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カタルーニャの文化 I はカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で自己紹介や周りの人を紹介できるようになります。

【到達目標】

簡単なカタルーニャ語会話ができるようになりましょう。
そして、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

【授業の進め方と方法】

授業はスペイン語を使ってカタルーニャ語について説明します。
スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。
逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介一名前を伝える [カタルーニャ語とは?]	自己紹介 Em dic... Com et dius...? Sóc la...
2	アルファベットと発音	カタルーニャ語とは? アルファベットと発音 Com s'escriu? Lletrejar
3	数字 0 - 100 年齢、電話番号を伝える	数字 0 - 100 Quants anys tens? Tens telèfon?
4	自己紹介一出身を伝える	TENIR 動詞 国の名前／国籍の形容詞 D'on ets? Sóc japonès. Sóc del Japó. Masc.-Fem. / Sing.-Pl.
5	自己紹介一住まいの話を	住所一 On vius? Fa 10 anys que visc a Tòquio. VIURE 動詞
6	自己紹介一職業	職業 Professions De què fas? Sóc estudiant. FER 動詞
7	具体的に職業の話を する [現在のカタルーニャ語]	On treballes? Què estudies? 疑問詞のまとめ TREBALLAR/ESTUDIAR 動詞
8	時間を尋ねる	Quina hora és? 今何時ですか A quina hora ...? 何時に... 日常生活の話
9	自己紹介一趣味の話を する	趣味に関する語彙 Què t'agrada fer en el temps lliure? AGRADAR 動詞
10	日常活動	Activitats quotidianes. Què fas normalment? 普段は何をしていますか。

11	人を紹介する	人を紹介する Coneixes la Raquel? És la meva professora. CONÈIXER 動詞
12	人の描写をする	人の描写 Com és? És rossa i prima. Com vol els tomàquets?
13	買い物をする	VOLER 動詞
14	試験	まとめ／期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必ず復習をすること。
カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

【参考書】

「ニューエクスプレス カタルーニャ語」(白水社)
「Veus 1」 Publicacions de l'Abadia de Montserrat
「Passos 1」 Octaedro Editorial
www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】

授業参加 60%

宿題提出 20%

小テストと期末試験 20%

【学生の意見等からの気づき】

学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。
定期的に小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

内容が関連する秋学期の「カタルーニャの文化 II」の受講もお勧めです。
進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャの文化Ⅱはカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で日常生活や自分の過去の話ができるようになります。
カタルーニャ語の文法だけをやる、ということではありません。

【到達目標】

簡単な日常生活などのカタルーニャ語会話ができるようになります。
また、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

授業はカタルーニャ語とスペイン語で行います。スペイン語を使ってカタルーニャ語について説明するわけです。スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【授業の進め方と方法】

授業はカタルーニャ語とスペイン語で行います。スペイン語を使ってカタルーニャ語について説明するわけです。スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1 学期の復習	Repàs del primer semestre
2	日常活動の話をする 頻度を伝える	Què fas durant el dia? Quantes vegades a la setmana fas classe de català? Vas al cinema sovint?
3	人を食事などに誘う	Vols sortir el cap de setmana? 義務を表す表現 HAVER DE その他の表現：Passa, passa. Seu, seu.
4	レストランで	Què és això? カタルーニャ料理を紹介する Què volen de primer? Em pot portar més pa? レストランで行う会話 PODER, VOLER 動詞 命令形 Porto les claus a la butxaca. 名詞の性、数
5	物体	Què li regalaràs, a en Daniel? 買い物物の会話
6	天気の話	Demà plourà. 天気のお話 【未来形】
7	テスト	まとめ／中間テスト
8	調子、感情を伝える	Tinc mal de coll. 喉が痛い。 He tingut un mal dia. 今日は嫌なことがあった。 現在完了形。
9	自分の過去の話をする I	Com eres abans? On vivies de petit? 線過去形
10	自分の過去の話をする	生年月日 数字 100～ 点過去形 Vaig néixer l'any 1982.
11		

12	写真を説明する	進行形 Mira, en aquesta foto estic plorant.
13	先週末の話をするーその感想	AGRADAR / SEMBLAR / TROBAR 動詞の過去形 Vaig anar al cinema. La pel·lícula no em va agradar gens.
14	試験	まとめ／期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習をすること。
カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

「ニューエクスプレス カタルーニャ語」（白水社）
「Veus 1」 Publicacions de l'Abadia de Montserrat
「Passos 1」 Octaedro Editorial
www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】

授業参加 60%

宿題提出 10%

小テストと期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。
定期的に小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期だけの受講も可能ですが、関連する春学期の「カタルーニャの文化Ⅰ」と一緒に受講することを勧めます。
進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャという何を思い浮かべますか？ ガウディ？ バルサ？ それもちろんカタルーニャ文化の一部ですが、それだけではありません。皆さんがスペイン文化だと思っているものの中にも実はカタルーニャ文化だ、というものが少なくありません。ダリもミロもカタルーニャ人。ピカソも重要な時期をバルセロナで過ごしました。音楽では、ホセ（ジュゼップ）・カレラスやムンセラ・カバリエ。スポーツで言えば、北京オリンピックの代表選手の 80 %がカタルーニャ人。テニスのナダルだってカタルーニャ語圏の出身です。このほか海と山に囲まれたカタルーニャには豊かな歴史と文化があります。食文化、ワインの文化、民族舞踊、民謡... カタルーニャ文化の魅力を語り始めたらきりがありません。この授業では、カタルーニャの地理や歴史と関連させて文化について勉強して行きたいとします。バルサやガウディを見る目が変わりますよ。きっと。

【到達目標】

カタルーニャ文化 III では、知っていなければいけない、基本的なカタルーニャの文化をやります。カタルーニャ文化 IV では、ニュースを読みながら現代のカタルーニャについて学びます。

【授業の進め方と方法】

授業はスペイン語でやります。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使っていきます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができるとします。皆さんの積極的な参加を求めて、スペイン語による簡単な発表をしてもらいたいと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに	授業の進め方等の説明をします。 カタルーニャの文化について 概論。 Introducción
2.	カタルーニャの地理と歴史	古代の歴史 Historia I
3.	カタルーニャの地理と歴史	中世の歴史 Historia II
4.	カタルーニャの地理と歴史	現代の歴史 Historia III
5.	食文化	カタルーニャの郷土料理 Gastronomía
6.	食文化	カタルーニャのワインやカバ Vino y cava
7.	民族芸能	民族舞踊サルダナ Cultura popular: bailes, la sardana
8.	民族芸能	民族芸能「人間の城」 Cultura popular: los castells
9.	民族芸能、カタルーニャの芸術家	民族音楽、民謡; カタルーニャの音楽家 Música
10.	カタルーニャ歳時記	クリスマスやカーニバルなどの年中行事 Fiestas tradicionales
11.	カタルーニャの芸術家	ダリ、ミロなどの画家 Arte: Miró, Dalí, ...

12. カタルーニャの芸術家 ガウディとムダルニズマ建築
Arquitectura: Gaudí, modernismo, ...
13. カタルーニャの芸術家 カタルーニャの文学
Lengua y literatura
14. カタルーニャの芸術家 カタルーニャ映画
Cine

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが分かるものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。

【テキスト（教科書）】

田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）

【参考書】

田澤耕（著）2000 年「物語 カタルーニャの歴史」（中公新書）
https://www.llull.cat/espanyol/recursos/cultura_catalana.cfm
その他、発表のために参考できる本、Web など。

【成績評価の方法と基準】

発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。

授業参加 50 %

発表 30 %

宿題の提出 20 %

【学生の意見等からの気づき】

発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

進行状況により、内容が変更されることがあります。

カタルーニャ文化 III か IV どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずです。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャという地名は日本ではあまり知られていなかったにもかかわらず、独立問題で最近日本のニュースでも報じられています。ニュース報じられている現代カタルーニャの背景にある豊かな歴史と文化を発見しましょう。

【到達目標】

カタルーニャ文化Ⅳでは、ニュースを読みながら現代のカタルーニャ、そしてその背景にある歴史や文化について学びます。

【授業の進め方と方法】

授業はスペイン語でやります。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使っていきます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができると思います。皆さんの積極的な参加を求めて、簡単な発表をしてもらいたいと思います。もちろんスペイン語で。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに。	授業の進め方等の説明をします。 カタルーニャのメディア。
2.	カタルーニャのニュース Noticias sobre Catalunya	カタルーニャの新聞 ニュースの読み方 Dónde encontrar noticias sobre Catalunya. Cómo leerlas.
3.	ニュースでのカタルーニャの社会 Catalunya en las noticias	現代のカタルーニャ 独立、アイデンティティなどについて Catalunya en las noticias: Independentismo e identidad.
4.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Arte en las noticias	芸術 - Pintura 発表
5.	ニュースでわかるカタルーニャの経済 Economía catalana en las noticias	経済 - Economía (Índices del paro, PIB, balanzas fiscales) 発表
6.	ニュースでわかるカタルーニャの社会 La sociedad catalana (movilidad)	社会 - Sociedad (División territorial, transporte) 発表
7.	ニュースでわかるカタルーニャのスポーツ Deporte en Catalunya	Más allá del FC Barcelona. カタルーニャのスポーツ選手 発表
8.	ニュースでわかるカタルーニャの政治 Política en Catalunya	Partidos políticos, elecciones, independentismo. 発表
9.	ニュースでわかるカタルーニャの社会 Sociedad: Escuela y lengua	カタルーニャの教育制度、カタルーニャ語 La escuela catalana. 発表

10.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Arquitectura en las noticias	カタルーニャの建築家 Arquitectura catalana 発表
11.	ニュースでわかるカタルーニャの社会 Tradiciones en la actualidad	カタルーニャの伝統的な祝祭 発表
12.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 El cine catalán hoy en día	Actualidad del cine catalán. 現在のカタルーニャのシネマ 発表
13.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Música	Festivales, conciertos, artistas. 発表
14.	ニュースでわかるカタルーニャの文化 Gastronomía	La actualidad en el mundo de la alta cocina. La cultura del vino. 発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とにかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。

【テキスト（教科書）】

とくにありません。プリントなどを授業中に渡します。

【参考書】

田澤耕（著）2000 年「物語 カタルーニャの歴史」（中公新書）

田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）

その他

【成績評価の方法と基準】

発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。

授業参加 50%

発表 30%

宿題の提出 20%

【学生の意見等からの気づき】

発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

進行状況により、内容が変更されることがあります。カタルーニャ文化ⅢかⅣどちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずです。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

英語圏の文化 I (文化史)

宇治谷 義英

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ルネサンス期におけるイギリス演劇の事情について、基本的な情報を学んだ後、英語で書かれた論文を読むことで、各時代状況の中で、英米のみならず日本においても、それらがどのように変化をして大衆に受け入れられてきたか、そしてその今日性について学生一人一人が確認していく。

【到達目標】

(1) ルネサンス期イギリス演劇 (主に William Shakespeare の劇) を今日に至るまでの時代の変化、そして日本の文化と関連させて把握できるようになること、(2) 演劇のみならず、時代の変革期における大衆文化と社会を関連づけて考えられるようになること、(3) 英文で書かれた論考を自分で読み解き、さらにそれに対して批評することができるようになること。

【授業の進め方と方法】

講義形式の回もありますが、受講者からの意見を聞く機会はとりたいたと思います。途中からは受講者の発表が中心になります。受講者の発表は割り当てられた英語論考のまとめ、そして自分で選んだ作品の今日的解釈です。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ、「演劇とは何か？」	授業の説明、演劇の目的、今日まで廃れない理由を考える。
2	「劇場」	ルネサンス期イギリスの劇場と現代との違い
3	「テキスト」	ルネサンス期イギリス演劇の上演台本の事情と現代との違い
4	「ルネサンス期のイギリス社会」	当時の演劇から当時の社会状況を割り出す
5	「ルネサンス期イギリス演劇の今日性 (1)」	文化作品における、時代と場所を越える要素の見つけ方
6	「ルネサンス期イギリス演劇の今日性 (2)」	具体例を見ながら、ルネサンス期演劇の今日性を考える
7	論文の解説 A(1)	Shakespeare の「越境性」について、劇団と劇場から考える
8	論文の解説 A(2)	Shakespeare の「越境性」について、演劇性から考える
9	論文の解説 A(3)	Shakespeare の「越境性」について、大衆及び社会秩序との関連性から考える
10	論文の解説 A(4)	Shakespeare の「越境性」について、メディアの問題から考える
11	論考の解説 A(5)	Shakespeare の「越境性」について、文学作品の観点から考える
12	論考の解説 B(1)	Shakespeare 作品の異文化における受容について、第二次大戦前から 1960 年代以前の米ブロードウェイ・ミュージカルから考える
13	論考の解説 B(2)	Shakespeare 作品の異文化における受容について、1960 年代以降の米ブロードウェイ・ミュージカルから考える
14	まとめ	時代と文化 (社会状況と大衆文化の関係、サッチャー主義とバーコフ等)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義形式の授業では内容に関して毎回課題を与えられるので、翌週提出する。論考を扱う授業では前もって当てられた範囲について発表できるように準備する。グループ発表では前もってテーマを決めてグループ内で準備しておく。

【テキスト (教科書)】

特に使わない。

【参考書】

The Cambridge Companion to Shakespeare and Popular Culture, ed. Robert Shaughnessy (Cambridge: Cambridge University Press, 2007).

The Cambridge Companion to English Renaissance Drama, eds. A.R. Braunmuller, Michael Hattaway (Cambridge: Cambridge University Press, 1990).

1599: A Year In The Life Of William Shakespeare, James Shapiro (London: Faber and Faber, 2005).

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等課題の提出 (30%)、プレゼン (30%)、試験 (40%)。なお、教員による講義中および受講生による発表中の私語、やむを得ない場合を除く教室の出入りは厳禁です。再度注意を受けた場合はそれ以後授業に参加することはできません。

【学生の意見等からの気づき】

担当した文献の英語について意見をいくつかいただいたので、教員から前もってある程度の道しるべ的な助言を与えることを検討したいと思っています。

英語圏の文化Ⅱ（思想史）

マーク・フィールド

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Culture, Language, and Thought of the English-Speaking World is the product of many historical interactions between a variety of peoples with different ways of thinking and living in the world. To understand many aspects of the societies in the modern English-Speaking World, one must first recognize the historical forces that shaped them and brought them about.

【到達目標】

The primary goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to understand: 1) how societies and cultures change in general and 2) how the cultures of the English-Speaking World developed their unique forms. Using the framework of cultural change, we will examine the formation of “Western” religious and political institutions that developed before 1500 CE in order to better appreciate the roots of “Western” social, political, and economic thought. Building on this foundation, the evolution of modern social systems and political-economic thought that occurred in the English-Speaking World after 1500 CE will be discussed.

【授業の進め方と方法】

The course will start out by outlining the forces behind cultural change. This will be followed by a series of lectures discussing the development of European political and religious institutions following the Ancient Greco-Roman era. We will then attempt to analyze Britain's rather unique political & economic institutions at the beginning of the modern era as a product of cultural change. Building on this foundation, the cultural changes, i.e., the changes in thought, caused by the Protestant Reformation and Enlightenment Philosophy will be examined and their impact on the development of British and American Political-Economic Systems through the 19th and 20th Centuries will be discussed.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Introduction to the Forces Behind Cultural Change
2 回	Religion & Philosophy:	The Foundations of Culture & Thought?
3 回	The Role of Myths:	Social Formation in the Ancient World
4 回	Cultural Conflicts:	Change in the Hellenic World
5 回	The World at the End of the Ancient Era:	Roman's Unique Position
6 回	Mass Migration:	The End of the Roman Empire
7 回	Political and Religious Conflicts:	The Medieval World
8 回	The World at the Beginning of the Modern Era:	Britain's Unique Position
9 回	The Renaissance:	The English Reformation & The English Enlightenment
10 回	The English World:	Revolutionary Challenges, Industrialization & Empire
11 回	World War I:	Wilson's Democratic Vision
12 回	World Depression:	Keynesian Economics & FDR's New Deal

13 回 Post-War America & The New International Order Britain:

14 回 Examination/ Recapping what has been
Comments: covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lectures at home to enhance their participation in classroom lectures and discussions. Students may also be expected to find and analyze information from various forms of English resource materials and media independently for the preparation of Research Papers.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course reading material during the semester.

【参考書】

Participating students will do independent reading for their written assignments.

【成績評価の方法と基準】

30% In Class Evaluation (Participation, Discussions, etc.)

30% Homework/Research Paper/Midterm Examination,

40% Final Examination/Term Project.

**Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

英語圏の文化Ⅲ（現代事情）

栗飯原 文子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：教室定員以上の受講希望者がいる場合には抽選します

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏世界とは、むろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土なども）を多く含む。したがって、英語圏世界について学ぶこととは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視座から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

【到達目標】

- ・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
- ・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。
- ・またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。
- ・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式をとり、毎回プリントを配布する。
- ・なるべく時系列にそって進めていくが、地域・トピックにもとづいて時代が前後することもある。
- ・授業中に複数の映像資料を参照するほか、学期の後半には一度、映画の全編を観賞して批評コメントを書いてもらう。
- ・授業の最後 10 分程度でリアクションペーパーを作成、提出してもらう。
- ・学期末の最後の授業で筆記試験を実施する。

授業中に配布したプリントやノートなどの持ち込みは許可するが、講義内容を把握していないと解答できないので、積極的に授業に参加して、しっかりメモをとってもらいたい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション— 第三世界とはなにか	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。 英語圏、英語使用地域の歴史的な背景と現在の状況について考える。
第 2 回	第一次世界大戦後の世界—民族自決	第一次世界大戦のとらえ方、 1919 年の「民族自決」の世界的な動向について学ぶ。
第 3 回	反帝国主義連盟	植民地地域から多数の代表が集まった 1927 年のブリュッセル会議、その意義について学ぶ。
第 4 回	第二次世界大戦後の世界—独立への道	第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。
第 5 回	アジア・アフリカ会議	1955 年のアジア・アフリカ会議（バンドン会議）の重要性を再考する。
第 6 回	アフリカ諸国独立	1957 年のガーナ独立からアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。
第 7 回	非同盟諸国運動	1961 年にベオグラードで誕生した非同盟諸国運動というまとまりについて学ぶ。

第 8 回	キューバ革命と三大陸人民会議	1959 年のキューバ革命の衝撃、革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動、この時代を覆うアメリカの影について学ぶ。
第 9 回	第三世界から見る冷戦①	旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。
第 10 回	第三世界から見る冷戦②	前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。
第 11 回	構造調整の時代—第三世界の弱体化	旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。
第 12 回	映画のなかの第三世界	映画の全編を鑑賞し、旧植民地が直面する現代的な問題を学ぶ。
第 13 回	現代の諸問題と全体の総括	現在の英語圏および旧植民地地域について概観し、これまでの総括をおこなう。
第 14 回	試験と解説	全体の復習として筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 10 %
- ・授業で提出する課題（リアクションペーパーなど） 30 %
- ・期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

【その他の重要事項】

定員を超える受講希望者がいる場合には抽選をおこなう。

受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席すること。

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会A）

須藤 祐二

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写に隠されたアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、アメリカの絵画、映画、音楽など、ほかの文化領域にどのような影響を及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】

受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視点から考察するための素地を身につける。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

第1回授業でいくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマからアメリカの文学や文化がどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察する、というプロセスが、何度か繰り返されるだろう。時間的な制約から時系列に沿った、アメリカ史全体の説明はできない。受講生は、アメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第2回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているのかを考える。
第3回	怖いものはなにか	アメリカのゴシック小説の特異性をヨーロッパのゴシック小説との比較から考察し、前者における恐怖の描き方から、「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第4回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第5回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19世紀から20世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第6回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品がアメリカ的な価値観やエスニシティなどの問題意識をどのように受け継いでいるのかを考察する。

第7回 時間、都市、産業化

19世紀後半以降のアメリカの都市化・産業化の結果、社会における時間表象や都市表象がどのように変化したのかを紹介し、モダンイズムの作家がそうした変化をどのように文学作品に反映したのかを考察する。

第8回 「白人」と「アメリカ人」という概念

多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのように表象されているのかを考察する。

第9回 「黒人」というステレオタイプ

白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのように変容しているのかを、文学作品との比較から考える。

第10回 観念としての「黒人」は誰のものか

20世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのように位置づけようと苦闘してきたかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。

第11回 メディアと消費文化の拡張

アメリカ文学が消費文化をどのように表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。

第12回 アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル

第11回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのように描いているかを検討する。

第13回 ジェンダー観の変容

アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する。併せて、彼女たちの作品と20世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。

第14回 まとめ

講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業、資料（英文）を配布するので、その資料を読み込むこと。また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。各回で必要になる資料は配布する。

【参考書】

有賀夏紀(編) 油井大三郎(編)『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003年
 亀井俊介(編)『アメリカ文化史入門——植民地時代から現代まで』昭和堂、2006年
 板橋好枝、高田賢一『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1991年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートを70%、中間レポートを30%とする。

なお、両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と同様、映像資料も用いる。

例年、「静かに受講できた」という感想が聞かれるので、同様の授業になるように工夫をするつもりでいる。学生にもそのつもりで受講してもらいたい。

【その他の重要事項】

教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席すること。

英語圏の文化Ⅴ（文学と社会Ⅱ）

宇治谷 義英

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏（イギリスとアメリカ）の文学作品への様々なアプローチの仕方、読み方（方法論）を学ぶことで、実際にイギリスとアメリカの文学作品に触れ、文学のみならず社会を多角的に見られるようになります。

【到達目標】

具体的な到達目標は、いくつかの文学批評の理論を通して、英語圏（イギリスとアメリカ）の文学作品を読み方、文学作品以外の事象についての捉え方を身につけることです。

【授業の進め方と方法】

Peter Barry の *Beginning Theory* を教材として、解説されている批評理論について最初は講義形式、途中から受講生のグループに割り当てて発表をしてもらいます。毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の回でそれについてフィードバックをします。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ「理論」以前の理論	授業説明、文学批評の歴史、Poe の 'The Oval Portrait' の例
第 2 回	構造主義 (Structuralism)	構造主義 (Structuralism) の概要を学ぶ
第 3 回	構造主義 (Structuralism) (実践)	構造主義 (Structuralism) を実際に文学作品に適用してみる
第 4 回	ポスト構造主義と脱構築 (Post-structuralism and deconstruction)	ポスト構造主義と脱構築 (Post-structuralism and deconstruction) の概要を学ぶ
第 5 回	ポスト構造主義と脱構築 (Post-structuralism and deconstruction) (実践)	ポスト構造主義と脱構築 (Post-structuralism and deconstruction) を実際に文学作品に適用してみる
第 6 回	精神分析批評 (Psychoanalytic criticism)	精神分析批評 (Psychoanalytic criticism) の概要を学ぶ
第 7 回	精神分析批評 (Psychoanalytic criticism) (実践)	精神分析批評 (Psychoanalytic criticism) を実際に文学作品に適用してみる
第 8 回	フェミニズム (Feminist criticism)	フェミニズム (Feminist criticism) の概要を学ぶ
第 9 回	フェミニズム (Feminist criticism) (実践)	フェミニズム (Feminist criticism) を実際に文学作品に適用してみる
第 10 回	マルクス主義批評 (Marxist criticism)	マルクス主義批評 (Marxist criticism) の概要を学ぶ
第 11 回	マルクス主義批評 (Marxist criticism) (実践)	マルクス主義批評 (Marxist criticism) を実際に文学作品に適用してみる
第 12 回	新歴史主義と文化唯物論 (New historicism and cultural materialism)	新歴史主義と文化唯物論 (New historicism and cultural materialism) の概要を学ぶ
第 13 回	新歴史主義と文化唯物論 (New historicism and cultural materialism) (実践)	新歴史主義と文化唯物論 (New historicism and cultural materialism) を実際に文学作品に適用してみる

第 14 回 ポスト植民地主義およびポスト植民地主義の概要を学びこ
びまとめ れまで学んだ批評理論を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示された文学作品はあらかじめ目を通してください。発表に当たった者は事前に割り当てられた箇所をまとめて準備しておいてください。

【テキスト（教科書）】

Peter Barry, *Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory*, 4th edition (Manchester University Press, 2017).

【参考書】

John Storey, *Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction*, 5th edition (Harlow: Pearson Education Limited, 2009).

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等課題の提出 (30%)、プレゼン (30%)、試験 (40%)。なお、教員による講義中および受講生による発表中の私語、やむを得ない場合を除く教室の出入りは厳禁です。再度注意を受けた場合はそれ以後授業に参加することはできません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会C）

中和 彩子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀から 20 世紀の変わり目に特有の「不安」——ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖——にとりつかれた、世紀末のイギリス小説を読む。

【到達目標】

イギリス小説の代表的な作品を読み、テキスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。

作品と作者の文学史における位置づけを理解する。

イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【授業の進め方と方法】

作品ごとに演習 2～3 回、講義 1 回を行う予定。

毎回、ワークシートとリアクションペーパーを課す。

受講者の人数によっては、授業内での発表や、グループワークも行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18～20 世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	ロバート・ルイス・ステューヴソン『ジーキル博士とハイド氏』（1886 年） 小説前半	演習
3	『ジーキル博士とハイド氏』 小説後半	演習
4	『ジーキル博士とハイド氏』 全体	演習・講義
5	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』（1890 年） 小説前半	演習
6	『四つの署名』 小説後半	演習
7	『四つの署名』 全体	演習・講義
8	H.G. ウェルズ『タイムマシン』（1895 年） 小説前半	演習
9	『タイムマシン』 小説後半	演習
10	『タイムマシン』 全体	演習・講義
11	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』（1902 年） 小説前半	演習
12	『闇の奥』 小説後半	演習
13	『闇の奥』 全体	演習・講義
14	まとめ	試験、補足・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、全員の準備学習を前提として授業を進める。

演習の回、講義の回ともに、指定のテキストや資料を読み、予習用ワークシートをやり、授業に持参する。

具体的方法については、第一回授業で説明する。

【テキスト（教科書）】

(1) 作品の邦訳は、以下の版を使用する。教科書販売所等にてあらかじめ購入のこと。

①海保真夫訳『ジーキル博士とハイド氏』岩波文庫, 1994.

②日暮雅通訳『四つの署名』新訳シャーロック・ホームズ全集, 光文社文庫, 2007.

③池 央耿訳『タイムマシン』光文社古典新訳文庫, 2012.

④黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫, 2009.

(2) その他のテキスト（英語原文等）・資料については、抜粋を配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回提出するワークシート 30%、リアクションペーパー 10%、計 40%）と、試験の成績（60%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

発言を求める前に、ペア／グループでの相談の時間を十分に設ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを各自必ず使えるようにしておくこと。

授業で伝達したことや配布プリントのほとんどは、授業支援システムにもアップする。授業を欠席した場合は授業支援システムをチェックし、必要な情報やプリントを入手すること。

【その他の重要事項】

第一回授業で受講者の選抜を行った場合、原則として、第二回以降の受講者追加受け入れはしない。

英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）

齊藤 雄介

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の英語がどのような言語であるのかを意味論や統語論などの英語学の側面から考察します。

【到達目標】

- ・単に英文を和訳するのではなく、なぜそのような意味になるのかについて理解すること
- ・英語を発音する際にその音は口内のどの位置で作られているのかについて知識を得ること
- ・例えば **He has a pen.** という文について、**he** と **a pen** という名詞の内どちらが **has** という動詞とつながりが強いのかなどの英語の構造についての知識を得ること
- ・以上のことから、学生が英語という言語についての知識を深めること

【授業の進め方と方法】

受講者の人数及び知識によって、若干授業形式を変更する可能性があります。授業の内容から、主に講義形式をとります。また、リアクションペーパーや、少量ではありますが、各章の確認問題を用いて受講者との双方向の授業にしたいと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、及び今後の授業の流れについて	成績評価、使用テキスト、さらに英語学にはどのような分野があるのかについて説明します。
2	統語論 (1)	文の組み立てについて学んでいきます。今回は基本的な文や句の構造について学びます。
3	統語論 (2)	文の組み立てについて学びます。今回は X 理論、節や複文の構造を学習します。
4	統語論 (3)	文法の操作について学んでいきます。抽象的な構造や文法操作の性質について学びます。
5	統語論 (4)	文法操作について学んでいきます。 WH 移動や助動詞のふるまいについて学習します。
6	形態論 (1)	形態論について学んでいきます。語の構成要素や派生について学びます。
7	形態論 (2)	形態論について学びます。今回は複合語の形態素について学びます。
8	音韻論 (1)	音韻論について学習します。その 1 回目の今回は英語の音について学習します。
9	音声論 (2)	音韻論について学びます。今回は音素と同化について学習します。
10	音韻論 (3)	音韻論について学びます。3 回目の今回は語の強勢について学習します。
11	意味論 (1)	意味論について学んでいきます。今回は意味の成分分析と動詞の成分分析を学びます。
12	意味論 (2)	意味論について学びます。意味役割について学習します。
13	意味論 (3)	意味論について学びます。今回は照応形の解釈について学びます。

これまでの授業内容について試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は前回の授業の内容を理解している前提で進行していくので、主に前回の授業の内容を復習しておいてください。予習については授業中に次回の箇所を伝えますので、テキストの該当箇所を目を通しておいてください。

【テキスト（教科書）】

中島平三 (2011) 『ファンダメンタル英語学 改訂版』 ひつじ書房

【参考書】

適宜プリントを配布しますので、それを参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20%、最終試験：80%とします。授業参加度について、全ての授業に出席することが前提であるため、出席したということのみでは加点はしませんが、遅刻や無断欠席などにより授業参加度から減点するという方法を取ります。文頭で示したように、最終試験が評価の中心です。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本授業の内容は概ねの受講者にとって初見のものであると思われるので、真摯に授業に臨む必要があります。また、英和辞典は毎回持参してください。

英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）

齊藤 雄介

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の英語、すなわち現代英語においては現代英の英語の知識だけでは説明できないことがあります。たとえば、**go shopping** における **go** は他動詞なのでしょうか。そこで本科では英語の歴史を学ぶことによってより深く英語という言葉を理解することを目的とします。

【到達目標】

- ・学生が英語における言語変化を理解することにより、各文法事項に関して通時的な変化に関する知識を得ること
- ・それにより英語という言葉について歴史的にも深い理解を得ること

【授業の進め方と方法】

受講者の人数及び知識によって、若干授業形式を変更する可能性があります。授業の内容から、主に講義形式をとります。また、リアクションペーパーや、少量ではありますが、各章の確認問題を用いて受講者との双方向の授業にしたいと思います。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の方法、テキスト、及び英語史という分野について簡潔に説明します。
2	英語の外史と借入語	英国の外史と英語にはどのような語が借入されたのかについて学びます。
3	語彙の歴史、文字、発音	もともと英語にはどのような語彙があり、歴史的にその綴りや発音がどう変化したのかを学習します。
4	名詞の発達	英語における普通名詞の歴史的な変化について学びます。
5	人称代名詞の発達	英語における人称代名詞の歴史的変化について学んでいきます。
6	指示代名詞と関係代名詞	今回は指示代名詞と関係代名詞の歴史的変化を学びます。
7	語形変化の衰退	前回までの授業までで扱ってきた名詞の語形変化が衰退したためにどのような変化が起こったのかを学習します。
8	主節と従属節	今回は節の従属関係の歴史的変化を学習します。
9	動詞の発達	動詞の語尾変化を中心に扱い、その語尾の歴史的発達について学びます。
10	非人称動詞と過去現在動詞	非人称動詞と過去現在動詞の歴史的変化について学習します。
11	be と have 及び分詞	主に完了形と受動態に焦点を当て、それらの歴史的発達について学びます。
12	不定詞と動名詞	現代英語においては同様に使用されることがある不定詞と動名詞の歴史的発達について学習します。
13	否定構文と助動詞 do	否定構文と助動詞 do の歴史的な発達について学びます。
14	最終試験	これまでの授業内容について試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は前回の授業の内容を理解している前提で進行していくので、主に前回の授業の内容を復習しておいてください。予習については授業中に次回の箇所を伝えますので、テキストの該当箇所に目を通しておいてください。

【テキスト（教科書）】

家入葉子 (2007) 『ベーシック英語史』 ひつじ書房

【参考書】

適宜プリントを配布しますので、それを参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20%、最終試験：80%とします。授業参加度について、全ての授業に出席することが前提であるため、出席したということのみでは加点はしませんが、遅刻や無断欠席などにより授業参加度から減点するという方法を取ります。文頭で示したように、最終試験が評価の中心です。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本授業の内容は概ねの受講者にとって初見のものであると思われるので、真摯に授業に臨む必要があります。また、英和辞典は毎回持参してください。

国際関係研究 1

東 智美

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、国際関係の基本的な理論を整理したうえで、アクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。特に、国際機関、NGO、民間企業といった非国家アクターを主な考察の対象とし、その成り立ち・役割・課題を学んだうえで、地球社会が直面している諸問題について考える。問題分析のために理論を習得した上で、グローバル／ローカルな問題を様々な角度から批判的に考察する思考力を身につける。

【到達目標】

- (1) 授業で扱う非国家アクターが、「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる問題を、理論的に説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、課題をより身近に感じ、理解を深めるためにロールプレイや映像も取り入れる。学生同士のディスカッションの時間を設けることもある。必要に応じて課題文献を配布し、授業内レポートの執筆を求める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと進め方を説明する。
2	「国際関係学」とは	国際問題を理解するために「国際関係」を学ぶ意義を考える。
3	国際関係の理論	国際関係の基本的な理論を学ぶ。
4	非国家アクター	NGO、国際機関、民間企業を国際関係の理論からどう捉えるかを学ぶ。
5	非国家アクター：国際金融機関	国際関係におけるアクターとして国際機関の成り立ち・役割・課題を考える。
6	非国家アクター：NGO（1）	国際関係におけるアクターとしてNGOの成り立ち・役割・課題を考える。
7	非国家アクター：NGO（2）	国際関係におけるアクターとしてNGOの成り立ち・役割・課題を考える。
8	非国家アクター：多国籍企業	国際関係におけるアクターとして多国籍企業の役割・課題を考える。
9	地球社会のアジェンダ：グローバリズムと反グローバリズム	地球社会の課題として、グローバリズムと反グローバリズムについて考える。
10	ロールプレイ：グローバリゼーションと自由貿易	コーヒー農園を舞台としたロールプレイを通じて、グローバリゼーションと貿易をめぐる課題を体験する。
11	地球社会のアジェンダ：貧困と開発	地球社会の課題として、貧困・開発問題について考える。
12	地球社会のアジェンダ：資源・エネルギー問題	地球社会の課題として、資源・エネルギー問題について考える。
13	地球社会のアジェンダ：地球環境問題	地球社会の課題として、地球環境問題について考える。
14	まとめ	授業全体をまとめた上で、今後の学習の指針を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指示する文献（日本語・英語）を事前に読んでくること。中間・期末レポート執筆のための資料収集を行うこと。

【テキスト（教科書）】

滝田賢治・大芝亮・都留康子編『国際関係学—地球社会を理解するために』（有信堂、2015）。

【参考書】

松本悟・大芝亮編『NGO から見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざまー』（ミネルヴァ書房、2013）。

毛利聡子『NGO から見る国際関係：グローバル市民社会への視座』（法律文化社、2011）。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（毎回のフィードバックシートや講義内レポートで評価）20%、中間レポート40%、期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。フィードバックシートのコメント欄や講義中の議論の時間に学生の意見を聞き、その都度、フィードバックする機会を作ります。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

「国際関係概論」を受講していることが望ましい。

他者イメージ論

中島 成久

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

他者との遭遇、他者の表象をテーマとした講義なので、われわれの自己認識の歴史的形成過程を学ぶことができる。

【到達目標】

われわれの自己認識のためには必ず他者の存在が不可欠である。そうした他者の存在をどのように理論化するかという問題で、エドワード・サイードの「オリエンタリズム」論を基礎におきながら、博物館、博覧会という装置の文化史的な意味を検討する授業である。最後の5回はその応用問題として、バリ島認識の背景を分析する内容である。

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業であるが、映像（DVD、Youtube など）を多用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンタリズムについて
第2回	他者との遭遇	ディズニー映画「ボカホンタス」論
第3回	民族誌展示の系譜①	博物館が作り出した野蛮人像
第4回	民族誌展示の系譜②	19世紀の万国博覧会
第5回	植民地主義と他者イメージ①	1903年「人類館」事件
第6回	植民地主義と他者イメージ②	1904年セントルイス博覧会
第7回	植民地主義と他者イメージ③	1931年バリ植民地博覧会①フランスとアンコールワット
第8回	植民地主義と他者イメージ④	1931年バリ植民地博覧会②フランスとアンコールワット②
第9回	植民地主義と他者イメージ⑤	1931年バリ植民地博覧会③オランダとバリ
第10回	楽園バリ①	1930年代シュピースと楽園の「創造」
第11回	楽園バリ②	1930年代コバルヴィアス、ミードのバリ島研究
第12回	楽園バリ③	解釈人類学によるギアツのバリ研究
第13回	楽園バリ④	観光人類学によるバリ研究
第14回	試験	成績評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①テキスト、資料を読むこと。

②図書館などで関連文献を探し、参照すること。

【テキスト（教科書）】

吉田憲司 『文化の「発見」——驚異の部屋からヴァーチャルミュージアムまで』 岩波書店

吉見俊哉 『博覧会の政治学——まなざしの近代』 中公新書

バトリシア・モルトン 『バリ万国博覧会——オリエンタリズムの欲望と表象』 ブリュッケ

永渕 康之 『バリ島』 講談社現代新書

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）＋平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

板書をきれに行うこと、

宗教社会論 I (仏教思想)

高堂 晃壽

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：仏教思想

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仏教の基礎概念について大枠を把握する。

アジアの文化の様々な分野に浸透し、多大な影響を与えている仏教の思想について考えてゆきたい。

一口に仏教といっても、内容は極めて広汎である。したがって本講では、仏教の基本概念とその思想的な展開についての概観を中心として講義を行う。仏教の基礎概念より始め、原始仏教、大乘仏教諸学派の基本的内容を把握していきたい。時間的制約もあり、インド仏教史の概略を跡付けることが主な作業となる。東アジア仏教については、簡略に触れるのみとなる。

【到達目標】

日本の文化の形成に多大な影響を及ぼした大乘仏教の概略を把握することを目標とする。

社会人として知っておきたい仏教の基本を習得したい。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

初期仏教から始めて、主として大乘仏教の概略を解説してゆく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	なぜ仏教を学ぶか	東アジアにおける仏教の位置づけ。
第 2 回	仏教の基礎(1)	「仏」(ブツ)とは何か。 ゴータマ・ブツダの生涯。
第 3 回	仏教の基礎(2)	「法」(ダルマ)とは何か。 三法印と四諦。
第 4 回	仏教の基礎(3)	「僧」(サンガ)とは何か。 仏教教団の概要。
第 5 回	仏教教団の分裂と展開	根本分裂と部派仏教の思想。
第 6 回	大乘仏教(1)	大乘とは何か。 大乘仏教の概略。
第 7 回	大乘仏教(2)	大乘仏教の概略。 大乘仏教の展開。
第 8 回	大乘仏教(3)	般若経典と中観派の概略。
第 9 回	大乘仏教(4)	法華経の概略。
第 10 回	大乘仏教(5)	浄土経典の概略。
第 11 回	大乘仏教(6)	華嚴経の概略。
第 12 回	大乘仏教(7)	唯識の概略。
第 13 回	大乘仏教(8)	如来蔵思想の概略。
第 14 回	大乘仏教(9)	密教の概略。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書の該当項目の内容を、講義の前後に確認することを、準備学習、復習とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

必要に応じて、プリントを配布する。

【参考書】

中村元・三枝充恵『バウツダ』（講談社学術文庫）

三枝充恵『インド仏教思想史』（講談社学術文庫）

【成績評価の方法と基準】

学期末のテスト 70 %

平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度より開講につき、なし。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

宗教社会論Ⅱ (キリスト教と社会運動)

佐々木 一恵

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：キリスト教思想

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業では社会思想史・社会運動史の立場から、19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）をどのように捉えたのか、そして新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもったのかについて議論していきます。

【到達目標】

1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
2. 宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【授業の進め方と方法】

・各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。

・各回ごとに、関連する一次史料の分析を、A4一枚程度のリアクション・ペーパーにまとめて提出してもらいます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19世紀半ばから20世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪惡とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。

6	社会的福音運動とリベラル神学	19世紀末から20世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的ゴスペル運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。
7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	試験（1）	第一回試験
14	試験（2）	第二回試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに使用しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995年。
 田村秀夫『千年王国論—イギリス革命思想の源流』研究社、2000年。
 森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年。
 グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000年。
 土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004年。
 アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009年。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー（20％）
2. 期末試験（80％）

【学生の意見等からの気づき】

史料分析の文書を、もう少し少しわかりやすいものにします。

宗教社会論Ⅲ (イスラーム思想)

江村 裕文

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：イスラーム思想

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【学生の意見等からの気づき】

「パレスチナ問題」や「アラブの春」「イスラム国」「シリア内戦」「イエメン問題」「エルサレムの動静」等の現在進行中の出来事についても詳しく知りたいという要望がある。それらの問題にも可能な限り触れるようにしたい。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このところアラブおよびイスラームへの関心が急速に高まってきている。だが、一言でアラブといっても、その内容はそう簡単ではない。ましてやイスラームとなると、さらに複雑である。第一に、アラブは三千年にわたる古い歴史を持ち、古典アラビア文化の華を咲かせた時期があり、それらは西欧文明の一部をさえている。第二に、今日のアラビア世界は純粋なアラビア民族ばかりでなく、政治的にアラブと呼ばれるにすぎない民族をも包含している。アラブあるいはアラビアという呼称は時代的にも地域的にも、かなり広い範囲にわたって使われるようになっていく。イスラームはアラブのもとで生まれたが、アラビアの領域外に拡大し、今日ではきわめて多数の非アラビア民族のもとで活力を保っている。

本講では、イスラームを、宗教面と世界史の流れから概観したい。

【到達目標】

アラブ・アラビアないしイスラームについて基本的な知識を得ること。

【授業の進め方と方法】

テキストを使用する。受講者にテキスト内容を報告してもらい、その内容について質問を受けたり、補足のコメントを加えたりして、「イスラーム」全般を取り扱う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション・アラビアの国々	授業の進め方の解説、アラビア諸国の紹介
②	イスラームの発見へ・報告箇所の割当	イスラームに関する一般的な紹介、報告箇所の割当
③	「宗教」とは	イスラームに限らず一般的に「宗教」をどうとらえるか紹介
④	イスラームの誕生	テキストの該当箇所の報告と解説（以下同様）
⑤	経典と教義Ⅰ	クルアーンの紹介と教義の概要
⑥	経典と教義Ⅱ	クルアーンの紹介と教義の概要
⑦	共同体と社会生活	ウンマの成立とイスラーム社会について
⑧	ハディース	預言者ムハンマドの言行録について
⑨	知識の担い手と国家	ウラマーの位置づけについて
⑩	神を求める道	神秘主義と正統神学について
⑪	スンナ派とシーア派	はじめと教義上の違いについて
⑫	現代世界とイスラーム	現代のイスラーム世界と、他の、特に西欧世界との諸問題について
⑬	まとめ	まとめ
⑭	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料を参考にし、理解をしておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

小杉泰『イスラームとは何か』講談社現代新書

【参考書】

井筒俊彦氏の（著作集を含む）一連の著作を推薦する。またその他の参考文献等は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席点 40 点と、レポートあるいは試験の点 60 点、合計 100 点によって評価する。

多文化社会と人間

加藤 丈太郎

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に人の移動が活発になり、移民・難民の数が増える一方、受け入れ社会における移民・難民への憎悪も増している。日本では移民・難民の受け入れに積極的な国民は2割に過ぎない（朝日新聞世論調査 2017）。ヘイトスピーチをめぐる攻防が続いている。「偽装難民」という語がメディアに度々登場し、難民認定制度はより厳格化される。一方で、東京五輪が開催される2020年までに外国人観光客数を年間4,000万人とする目標が掲げられている。さらに在留外国人数も過去最高を更新し続けている。日本は「多文化社会」を目指すのか、目指さないのか、真剣に考えるべき時に来ている。

本授業では、移民・難民の人生を通して多文化社会のあり方を共に考える。また、移民・難民をめぐる対立や紛争を調和・調整できる人材の育成を目指す。ワークショップ（ドラマづくりなど）を通じ、受講者の想像力、クリティカルシンキングを鍛える。

【到達目標】

日本に暮らす外国人はどのように日本に文化的に適応し、あるいは日本で独自の文化を築こうとしているのか。日本における多文化社会とは何かを考えられるようになる。

日本に暮らす外国人について一通りの知識を習得し、将来、NGO/NPO、国際機関、企業等で働く際に役立てることを目指す。

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義（約2/3）とワークショップ（約1/3）から構成される。講義の際には、映像を取り入れ、移民・難民の人生を少しでも感じやすくするようにする。先に講義で扱った内容を、後からワークショップでアウトプットする。活きた知識の習得を目指す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本に暮らす外国人（講義）	国境を越えるとは・在留資格とは何かを学ぶ。
第2回	移民送り出し国における移住（出稼ぎ）のインパクト（講義）	フィリピンの家事労働者を事例に考える。
第3回	多文化社会（外国人にとって住みやすい社会）とは（ワークショップ）	「ダイヤモンドランキン」(ワークショップの手法の一つ)を使って考える。
第4回	在日コリアン（講義）	在日コリアンの就職差別・ヘイトスピーチとの闘いに学ぶ。
第5回	留学生（講義）	多くの留学生が日本での就職を希望している。現行の制度でキャリアの構築は可能かを考える。
第6回	技能実習生（講義）	技能実習制度は国際貢献か労働力補充の手段なのか。多面的に制度を見る。
第7回	ディベート入門（ワークショップ）	自分と異なる意見を持つ人と議論をするためには。カウンターアргумент（ディベートの技法の一つ）を学ぶ。
第8回	非正規移民（講義）	もし、あなたビザがない若者だったら。同年代の当事者の経験から考える。
第9回	狭義の難民と広義の難民（講義）	日本は難民をどこまでを受け入れるべきかを検討する。

- 第10回 在日ビルマ難民のライフストーリー（映像） ビルマ出身レストランオーナーとファッションデザイナーの半生に耳を傾ける（ワークショップ） 学ぶ。
- 第11回 日本における出入国管理政策は何を制限し、何を可能とし理政策の現状と課題 ているのかを知る。（講義）
- 第12回 日本に暮らす外国人の気持ちを想像する「ドラマ」づくり①（最終ワークショップ） フォーラムシアター（演劇を用いたワークショップの手法の一つ）の準備編
ドラマの脚本を作る、配役を決める。
- 第13回 日本に暮らす外国人の気持ちを想像する「ドラマ」づくり②（最終ワークショップ） フォーラムシアター発表編
グループごとに発表する。他のグループに提案をする。
- 第14回 試験・まとめ 論述形式の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・配布プリントを必ず読んでくること。
- ・移民・難民をめぐる世界情勢に注目すること（新聞を読むこと）。
- ・最終ワークショップは授業外でもグループの準備が必要になるであろう。

【テキスト（教科書）】

※教科書は特に指定しない。授業内でプリントを配布する。

【参考書】

西日本新聞社（2017）『新移民時代- 外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店 978-4750345864

根本敬・田辺寿夫（2012）『アウンサンスーチー 変化するビルマの現状と課題』角川新書 978-4041102619

山村淳平（2015）『難民からまなぶ世界と日本』解放出版社 978-4759263398

【成績評価の方法と基準】

定期試験（54%）、平常点（26%）、ワークショップへの貢献度（20%）により評価する。

本授業では、講義で習得した内容をワークショップでアウトプットしてもらう。遅刻をするとグループメンバーに迷惑がかかる。遅刻をしないこと。また、十分なアウトプットを出すためにも授業への毎回の出席が重要である。よって、平常点（2%×13回=26%）を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

他大学の授業で、昨年、初めて「ドラマ」づくりを1回取り入れたところ、非常に好評であった。本学の授業では、時間を拡充し、より丁寧に、外国人の気持ちを想像する学習を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。ワークショップの際、何か使いたい機器があれば事前に相談をすること。

【その他の重要事項】

- ・ワークショップの回に無断で欠席されると、得点が得られず、評価に影響が出る。もし、やむを得ない事情で欠席をしなければならない場合は、事前に相談をすること。
- ・皆さんがアウトプットを出せば出すほど、学びが深まり、授業が面白くなる。恥ずかしがらずに、どんどん自分を出していくこと。
- ・講義時は、分からない点、より深めたい点を担当教員に質問をするつもりで聞いてください。
- ・ワークショップ時は、初めての方同士で議論をしていただきます。学年の垣根を超えて、積極的に交流してください。

【授業中に求められる学習活動】

C,E,F,G,H

国際関係研究 2

東 智美

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：国際関係研究

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア反東部のメコン河流域国という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。特に「開発と環境」をテーマとし、河川開発、海外直接投資、土地収奪、気候変動、資源開発、環境保全等の地球規模の課題の背景にある各国の社会・経済・政治的特徴と、国家間または国家と非国家アクターとの関係性を考察したうえで、開発問題・環境問題を理解するための理論的枠組みを学ぶ。

【到達目標】

- (1) 「国際関係」に「地域研究」の視点を応用できる。
- (2) 「開発と環境」に係る「国際関係」を分析する際に有用な学問的な理論や概念を理解し説明できる。
- (3) 具体的な事例から開発問題・環境問題について多角的かつ批判的に分析する視点を習得する。

【授業の進め方と方法】

講義を基本とする。講義のなかでは、メコン河地域の開発・環境問題を扱ったドキュメンタリー映像などを用いて、地域の人びとの暮らし、それを取り巻く問題についての理解を深める。講義で扱うテーマ、方法論への理解を深めるため、必要に応じて課題文献を配布し、授業内レポートの執筆を求める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙いと進め方を説明する。
2	地域を学ぶ意義	メコン地域を概観した上で、国際関係の中で地域を学ぶことの意義について考える。
3	メコン河開発の歴史と日本の対メコン地域 ODA	メコン河開発の歴史と日本の ODA の課題を異なるアクターの視点から考える。
4	国境を越える環境問題	メコン河本流ダム開発を事例に、環境・開発問題をめぐる国家間、国家－非国家アクターの関係を考える。
5	ダム開発をめぐるアクター（1）	ダム開発を事例としたロールプレイを通じて、河川開発をめぐる様々なアクターの立場を考え、開発事業における意思決定の課題を体験する。
6	ダム開発をめぐるアクター（2）	カンボジアの水力発電事業の事例から、ロールプレイで体験した開発問題を現実重ねて考える。
7	環境・社会影響を「はかる」	メコン地域の開発事業を事例に、開発事業と調査について考える。
8	援助と社会関係資本	森林保全事業の事例から、開発援助と社会関係資本について考える。
9	民主化と開発問題	「民主化」後のミャンマーの事例から、民主化と開発問題について考える。
10	世界銀行とグリーン・ネオリベラリズム	ラオスの水力発電事業の事例から、国際金融機関の役割と課題を考える。
11	資源の呪い	ベトナム企業によるカンボジア・ラオスのゴム植林事業を事例に、資源が結果的に人々を不幸にする実態について考える。

- | | | |
|----|---------------|--|
| 12 | 海外農業投資と小規模農民 | ラオスにおけるコーヒーとバナナ栽培の事例から、海外農業投資が小規模農民の暮らしに与える影響について考える。 |
| 13 | 気候変動と地域コミュニティ | カンボジアとラオスの REDD プラス事業の事例から、気候変動対策が地域住民の暮らしに与える影響について考える。 |
| 14 | まとめ | 授業全体をまとめた上で、今後の学習の指針を示す。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指示する文献（日本語・英語）を事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要な資料・課題文献をその都度配付します。

【参考書】

松本悟『メコン河開発』（築地書館、1997）。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（フィードバックシートで評価）40%、期末レポート60%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。フィードバックシートコメント欄や講義中の議論の時間に学生の意見を聞き、その都度、フィードバックする機会を作ります。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

「国際関係学概論」「国際関係研究1」を受講していることが望ましい。

移民研究Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）

高柳 俊男

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮民族のディアスポラ（離散）について考察する。

我々の暮らす日本社会には、「在日韓国人」「在日朝鮮人」「在日コリアン」などと呼ばれる韓国・朝鮮系の人々が大勢住んでいるが、同様の現象は中国・旧ソ連・アメリカなど、世界各地で見られる。これらの人々が朝鮮半島を離れ、各地に移住した歴史やその後の変化、とくに現地社会での他民族との衝突や共生の営みを、各種の研究成果や私自身の見聞をもとに講義する。

朝鮮民族の移動と定着という個別のテーマを探索することを通して、移民現象や移住地での多文化共生・文化の変容という、世界に普遍的にみられる現象への理解につながるよう努めたい。

【到達目標】

- ・各地に暮らす朝鮮民族について、その形成の歴史や現状の概略を理解する。
- ・それらをもとに、朝鮮民族のディアスポラ（離散）全体について考察する。
- ・朝鮮民族の事例を普遍化し、移民や多民族共生全般について考える契機をつかむ。
- ・とりわけ私たちの住む日本における移民や多民族共生について、具体性を伴って考えられるようにする。

【授業の進め方と方法】

世界各地に散らばっている朝鮮民族について、中国・旧ソ連・日本・アメリカを中心に、各数回ずつ取り上げて講義する。関連する映像資料を随時使用し、可能ならゲストをお招きした授業も実施したい。

毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などを「コメントシート」に書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、限定的ながら双方向的な授業になるよう心がけたい。

また、ネット上の授業支援システムを、もう1つの授業の場として活用し、授業の補足や発展に資したい。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画の解説、参考書紹介、受講理由書の記入など。導入として、日本の各界で活躍する外国ゆかりの人物について触れる。
第2回	概況	ディアスポラ概念および朝鮮民族のディアスポラの概要について、まず学ぶ。
第3回	朝鮮内ディアスポラ	朝鮮内における人口移動の典型として、火田民・土幕民の存在とその実態を知る。
第4回	中国の朝鮮族①	多民族国家中国の少数民族の一つに位置づけられる朝鮮族について、その概要を知る。
第5回	中国の朝鮮族②	前回学んだ中国の朝鮮族について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第6回	旧ソ連の高麗人①	旧ソ連の高麗人（朝鮮系の人々）について、その概要を知る。とくに、スターリンによる1937年の強制移住について学ぶ。
第7回	旧ソ連の高麗人②	前回学んだ旧ソ連の高麗人について、映像視聴を通してさらに深く探る。

- 第8回 在日韓国・朝鮮人① 私たちにとって一番身近であるはずの在日韓国・朝鮮人については、回数をかけて重点的に学ぶ。今回はまず、その概要として、形成史を知る。
- 第9回 在日韓国・朝鮮人② 在日韓国・朝鮮人史に関して、とくに海峡を越えた人の移動の観点から再整理する。
- 第10回 在日韓国・朝鮮人③ 海峡を越えた人の移動の一つで、現在にも大きな影響を及ぼしている1959年からの北朝鮮帰国事業について、詳しく学ぶ。
- 第11回 在日韓国・朝鮮人④ 在日韓国・朝鮮人について、ここまで学んできた内容を映像視聴を通してまとめる。
- 第12回 在日韓国・朝鮮人⑤ 在日韓国・朝鮮人についての最終回として、若い世代のアイデンティティについて考察する。
- 第13回 在米コリアン 在米コリアンについて、ごく大まかな概要と、とくに1992年のロス暴動に関して学ぶ。
- 第14回 海外養子問題 韓国から戦後、孤児や私生児などが多数、養子として欧米に送られた。近年、当事者自らによってつくられた映画も紹介しながら、この問題を重点的に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するプリントに「自習課題」を設定し、同じものを授業支援システム上にも載せる。これは「自習」なので必ずしも提出を要しないが、認識を深化させるためにもやってみることをお勧めする。提出した学生には、たとえば就職活動による授業の欠席などを補う要素として加味する。

【テキスト（教科書）】

特定の書籍をテキストとしては使用せず、毎回、A3で表裏1枚のプリントを作成して配付する。

【参考書】

参考文献はそのつど指示するが、事典として『朝鮮を知る事典（新版）』（平凡社）、『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』（岩波書店）、『世界民族問題事典』（平凡社）、『世界民族事典』（弘文堂）、『人の移動事典：日本からアジアへ・アジアから日本へ』（丸善出版）などを適宜参照すること。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出する「コメントシート」に反映された授業に取り組む姿勢40%、授業支援システムを利用した中間での小課題20%、学期末のレポート40%を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

過去のアンケートでは、「映像を使っていてわかりやすい」「ゲストを招いての対談がよかった」「学部の中でもすばらしい授業の一つ」、などの好評をいただいた。

今回も、今年度から長くなった10分間の時間も適切に活用しながら、そうした授業になるよう努力したい。

【その他の重要事項】

朝鮮半島の歴史や文化についての一定の知識を前提に話を進める、やや応用篇の授業である。事前に、毎年開講の「朝鮮語圏の文化Ⅰ 朝鮮半島の文化史」を受講しておくことが望ましい。未受講の場合は、そうした前提知識を自分で補うよう努めながら授業に臨むこと。

また、中華系や日系の移民を扱う「移民研究Ⅰ」「移民研究Ⅲ」（ともに隔年開講）も用意されているので、あわせて受講することをお勧めする。

地域紛争とエスニシティ

中島 成久

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「インドネシアのポストコロニアリズムというテーマで講義を行う。オランダ植民地時代にまでさかのぼる領土と暴力の問題を詳細な現地研究を元にした資料から考える。

現代国民国家が普遍的に抱える「国家と暴力」の問題を、植民地時代にまでさかのぼり検討することで、その本質を理解する。

【到達目標】

1966年登場したスハルト政権は「開発独裁」体制と呼ばれるが、その本質を理解するにはオランダ植民地時代だけではなく、日本軍政時代の影響を考慮する必要がある。

オランダ植民地体制の確立に伴う「民族」概念、抵抗、独立革命時代の国民意識の形成、そしてスハルト時代における開発と紛争の関係を理解し、現代国民国家に特有な「暴力」の起源の問題に迫る。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。DVD、VHS、Youtubeなどの視聴覚教材を多用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国家と暴力、1965年の9月30日事件に関するジョシュア・オッペンハイマー監督のドキュメンタリー映画解説+成績評価説明
第2回	領土と起源①	オランダ東インド会社（VOC）
第3回	領土と起源②	オランダ領東インド（蘭印）
第4回	領土と起源③	アチェ戦争
第5回	領土と起源④	慣習法共同体の「発見」
第6回	革命①	インドネシアの国民音楽
第7回	革命②	日本軍政から独立へ
第8回	開発の時代①	スカルノからスハルトへ
第9回	開発の時代②	「アクト・オブ・キリング」①
第10回	開発の時代③	「アクト・オブ・キリング」②
第11回	開発の時代④	アブラヤシ開発①
第12回	開発の時代⑤	アブラヤシ開発②
第13回	開発の時代⑥	アサハンププロジェクト／水戦争
第14回	試験	成績評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 授業内で指示した参考文献をよく読むこと
- 2 図書館などで関連文献を調べ、さらに深めること

【テキスト（教科書）】

中島成久 『インドネシアの土地紛争——言挙げする農民たち』創成社新書、2011年
 加納啓良（編）『インドネシアの検定』メコン、2010年
 ジョシュア・オッペンハイマー「アクト・オブ・キリング」

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（70％）と平常点（30％）

【学生の意見等からの気づき】

板書をもっと丁寧に行うこと

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、EU 法を中心とした第二次世界大戦後の統合プロセスに焦点をあてるやり方があります（「EU の政治と社会」）。経済学部なら、統一通貨ユーロを中心とした経済統合に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」）。また、生命科学部では、食糧の問題として共通農業政策（CAP）を扱う授業もあるようです（「国際食糧需給論」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口とはらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにあります。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10 世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパやイスラーム世界を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンスが含むヒューマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明 ※プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ

6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12 世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世の秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16 世紀-17 世紀初頭のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、チューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争（cf. 映画『最後の谷』）
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンラ
14	啓蒙思想と革命	17 世紀に芽生えた統合の思想 君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行。主権者としての国民による「連邦主義」の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、この授業について 90 分程度、授業外で学習していただくことを目安とします。
- ・ほぼ隔週で小テストを実施します（2017 年度実績でいうと 7 回）。これは全員必須で、授業支援システム上で宿題の形で受験します。
- ・授業内報告をほぼ毎月 1 回募集します（2017 年度実績でいうと 3 回）。これは希望者のみで、授業支援システム上で課題を提出し、優秀者について授業内で報告してもらいます。

【テキスト（教科書）】

遠藤乾編『原典 ヨーロッパ統合史 史料と解説』名古屋大学出版会、2008 年。

【参考書】

金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史—人物を通して見たあゆみ』有斐閣、1996 年。
ジェラルド・ノワリエル『フランスというつぼ』法政大学出版局、2015 年。
エティエンヌ・バリバル『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社、2006 年。

【成績評価の方法と基準】

- ・小テストの受験【全員必須。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施】45%
- ・学生による発表、運営への協力【希望者のみ】10%
- ・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%
- ・レポート【希望者のみ】35%

【学生の意見等からの気づき】

高校や大学 1 年時の学習との橋渡しを意識し、NHK の高校講座世界史を参照するなどしている。

【学生が準備すべき機器他】

- ・パソコンかスマートフォンが必要。
- ・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。
- ・「授業支援システム」>「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができる。
- ・Twitter 上で質問を受け付ける。@kazouille

【その他の重要事項】

- ・シラバスを熟読してください。

Approaches to Transnational History

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed for students who are interested in the history of cultural exchanges from transnational perspectives. By exploring various kinds of cross cultural encounters facilitated by the movement of people, ideas, goods, services, capital, and technology, students will be introduced to the basic concepts and methods of transnational history.

【到達目標】

By the end of this course, students will be able to

- Understand various approaches to transnational history and how these approaches are connected to the issues of colonialism, the development of capitalism, and the formation and spread of the nation-state.
- Critically read and analyze both secondary scholarship and primary historical documents on transnational history.
- Write a short critical essay analyzing cross-cultural encounters and movements across borders.

【授業の進め方と方法】

The class consists of lectures, class discussions, and student presentations.

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	An overview of transnational history
Week2	The Atlantic slave trade and the impact of the African diaspora	Reading assignment: "The Atlantic Slave Economy"
Week3	British imperialism in China	Reading assignment: "The British Empire and Chinese Civilization"
Week4	Japan's interaction with western culture, science, and institutions	Reading assignment: "Japan Opens to the West"
Week5	Workshop	Analyzing primary documents related to the issues taken up in classes 2 to 4.
Week6	Colonialism, orientalism, and primitivism	Reading assignment: "The Influence of African, Asian, and Pacific Islander Art on European Art"
Week7	The age of aviation and the compression of time and space	Reading assignment: "Commercial Air Travel"
Week8	Film as a global industry	Reading assignment: "Hollywood and the Global Film Community"
Week9	Workshop	Analyzing primary documents related to issues taken up in classes 6 to 8.
Week10	International communism	Reading assignment: "The Soviet Union and the Communist International"
Week11	Cold war culture	Reading assignment: "The Cold War, 1945-1991"

Week12 Americanizing the world through culture

Week13 Workshop

Reading assignment:

"Americanization of Popular and Consumer Culture"

Analyzing primary documents related to issues taken up in classes 10 to 12.

Class14 Wrap up

Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read all the assignments and be ready for class discussions, and also write a paper analyzing assigned primary sources.

【テキスト（教科書）】

Weekly reading assignments are uploaded to the course website (Jugyo shien system).

【参考書】

Akira Iyrie, Global and Transnational History: The Past, Present and Future (Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan, 2013).

Pierre-Yves Saunier, Transnational History (Basingstoke, U.K.: Palgrave Macmillan, 2013).

【成績評価の方法と基準】

Class participation 50%

Analytical Paper 50%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

If the number of the students exceeds class room capacity, students will be selected based on short written statements about their reason(s) for wanting to take this course.

Cultural Dimension of American Foreign Relations

佐原 彩子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class, students learn the dynamics of American foreign relations through the history of immigration. To understand American immigration policies from a global perspective with the intersection of transnational linkages created by immigrants, students will see how immigrants built and changed America of its racial and ethnic composition over time.

【到達目標】

The goal of this course is that students to understand the relations between immigration and American foreign relations from colonial era to present. In particular, students will gain academic knowledge on American immigration history as well as American foreign relations.

【授業の進め方と方法】

This course is designed as a series of lecture with class discussions. Due to a class size, the method would be changed. At the end of each class, students are required to submit their reaction papers.

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Students learn how to learn cultural dimensions of American foreign relations.
2	Immigrants and American Nation Building	Critiques powerful image of America as a nation of immigrants, since it renders invisible key dimensions of immigrant life.
3	Governing American Immigration	Looks into crucial American ideas about governance of immigration.
4	Empire and the Discovery of Immigrant Foreign Relations	With growth of global economy, myth of isolation of America waned.
5	Race and Global Change	In an era of mass migration, racial composition in the U.S. dramatically changed due to the flows of foreign immigrants to the U.S.
6	Foreign Colonies and Their Foreign Relations	Students learn scientific racism and its effects to foreign policy as well as immigration policy.
7	Changing Foreign Relations	Overviews immigration history throughout the late 19th century to the early 20th century.
8	Creation of Impossible Subjects	Examines the ways in which the U.S. created the category of ineligible for citizenship.
9	Closing its door to the refugees	Analyze the reasons why the U.S. shut the door on Jewish refugees during the WWII.

10	Emergence of the “Escapees” and Immigration Quota	After the WWII, how the rescuing escapees became the important task for the U.S. and how the government managed to deal with the situation.
11	Refugees in the Cold War	Prevalence of anti-Communism and the significance of refugees in the Cold War politics.
12	Immigration and Globalization, 1965 to the Present	How the U.S. liberalized its immigration policy in relation to its foreign policy.
13	Flexible Citizenship?	Looks into the immigrant lives in a new era of globalization.
14	Backlash to Liberalization of Immigration	Overview the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review what you learn in a class and work on your assignment. If you are not familiar with American history, you should study basic historical events of American history.

【テキスト（教科書）】

No textbooks required.

【参考書】

Donna R. Gabaccia, Foreign Relations: American Immigration in Global Perspective, Princeton University Press, 2012（一政（野村）史織訳『移民からみるアメリカ外交史』白水社、2015 年）。和田光弘編著、『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014 年。

【成績評価の方法と基準】

Contribution/ Response Papers (30%)

Short Essay (15%)

Final (55%)

【学生の意見等からの気づき】

This is a new seminar.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

情報文化演習－PureData で音楽、CG、デジタル・アートを創ろうー

大嶋 良明

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●テーマ

永遠のテーマは、「マルチメディアとネットワーク」ですが、特に先端芸術（音・映像・インタラクティブが融合した表現芸術）に関心があります。マルチメディアはメディアアートへと拡張し、ネットワークといえば今日では IoT、すなわち我々を取り巻く総てのモノがインターネット上で有機的に繋がること。

2018 年度の重点テーマは、アートなモノ作りに没頭すること。

PureData, Arduino, Kinect, GoPro, Raspberry Piなどを駆使して音楽、楽器、メディア・アート作品を制作します。

●授業運営の方針

「やりたくなったらまず動く」「Be Proactive!」これに尽きます。

●ことし研究室では何をするのか？

Pure Data というメディア処理ソフトに習熟し、**MIDI 機器や iPad** で対話的に反応する音楽や **CG** 作品の制作技法を身に付けて、その学習成果を **ePortfolio** にまとめます。

●「何を学ぶのか？」から「何ができるのか？ 何のために学ぶのか？」へこれまでのゼミ生たちは **Web**, サウンドデザイン、アニメ制作、映画監督、UX、情報科教員などの分野に進み、留学、大学院進学者もたくさん輩出しました。参考にして下さい。最近の実績分野については後述しました。

【到達目標】

●目標

- ・コンピュータを自分の表現のために応用すること
- ・インターネットネット社会で自分を表現すること
- ・新しい物作りを構想し提案すること

を通して

- ・社会の中で十分に役に立つもの
- ・長期的に世の中を見通す力

を身につけたいです。

【授業の進め方と方法】

●ICT の最先端を学びます。

●各自がテーマを決めて、個人研究あるいは作品制作に取組めます。

●学習成果の「見える化」には **e-Portfolio** を積極活用しましょう。

●4 年生は各自（あるいは連名）で、3 年生は全員でひとつのテーマで、国際文化情報学会および学外での成果発表に向けて取組めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 学術活動とその基盤	【講義】 アカデミック・スキルズと研究環境を理解する。とくにネットワーク環境について全員で習得する。 Web を学ぶためのクライアント環境、端末について検討する。 【演習】 ePortfolio を立ち上げる。
2	【Pure Data 入門】	【講義と演習】 Pure Data とは何かを学ぶ。環境設定、パッチ、オブジェクト、入出力、パラメータなど Pure Data の構成要素を理解する。
3	リズムを作る	【講義と演習】 音叉の生成、リズムの生成、テンポ（BPM）の指定方法などを理解し、メトロノームを作成する。

4	サンプリング音源	【講義と演習】 Pure Data にサンプリング音源ファイルを読み込んで利用する。マイクからの Pure Data へ音データを録音する。
5	ドラムマシン	【月例報告】 ePortfolio 【講義と演習】 サンプル音源によるドラムマシンを作成する。テンポの可変、音源増設など機能を拡張する。 【課題演習】 学習内容を組合せてビートボックスの自作に挑戦する。
6	【Pure Data 応用（1）：自作楽器】	【調査】 メディア・アートと Pure Data 【発表】 研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。
7	【第 1 回中間発表（構想発表）】	【講義と演習】 サンプラ、ループ、ピッチ変換、逆再生などサンプルデータの書込み・読出し操作による音の処理を学ぶ。
8	ループ・サンプラー	【講義と演習】 ギターエフェクト（音色系）： ディストーション、イコライザ、ワウワウ、ディレイ、コンプレッサなど楽器音の音色加工の原理と実装を学ぶ。
9	エフェクト（1）	【講義と演習】 ギターエフェクト（空間系）： コーラス、フランジャー、ハーモナイザなど楽器音の音像定位や時間処理の原理と実装を学ぶ。
10	エフェクト（2）	【課題演習】 自作エフェクタのデモ リング・モジュレータやビット・クラッシャーなど市販製品にない仕様の音響効果の自作に挑戦する。
11	【Pure Data 応用（2）：オリジナル・エフェクターの自作】	【調査】 デバイス系への応用 Arduino, Raspberry Pi と Pure Data 【月例報告】 ePortfolio
12	【電子音楽の世界】 シンセサイザー（1） ：音作りの原理	【講義と演習】 シンセサイザーとは何か、正弦波音源、 MIDI による音源制御、エンベロープ生成を学ぶ。
13	シンセサイザー（2） ：音色加工の手法	【講義と演習】 様々な音源波形、フィルタによる音色変化、ポリフォニック化による機能拡張、 FM 音源の手法などを学ぶ。
14	【第 2 回中間発表】	【発表】 研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。 【夏休み宿題】 Raspberry Pi 上で Pure Data を立ち上げておく。

秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期キックオフ	【月例報告】 個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。
16	【ビジュアルな作り込み】 アプリ操作性の向上●	【講義と演習】 スケラなど直感的なインターフェースの作成とプリセットによるパラメータ設定の自動化を学ぶ。
17	機能の部品化と可視化、外部ハード（Arduino）との連携	【講義と演習】 アブストラクションによるモジュール化、GUI ボックス、VU メータなど操作インターフェースの部品化と可視化を学ぶ。あわせて Pure Data と外部機器（ Arduino ）との接続と連携方法を学ぶ。

- 18 外部アプリとの連携 【講義と演習】 オーディオデータのルーティングを設定し、Pure Data と DAW などの外部アプリを連携させる手法を学ぶ。
- 19 ネットワークの利用 【講義と演習】 LAN 環境を構築し、相互接続した複数機器上の Pure Data を連携して稼働させる手法を学ぶ。LAN 上で連携するドラムマシンを作成する。
- 20 モバイル端末との連携 【月例報告】 ePortfolio
【講義と演習】 iPad などのモバイル端末と PC, Mac 上の Pure Data を連携して稼働させる手法を学ぶ。
- 21 【第 3 回中間発表・学会発表準備】 【発表】 研究の進捗状況を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。本中間報告会の成果により学会発表応募の形態を検討する。
- 22 映像の生成：GEM とコンピュータグラフィックス 【講義と演習】 GEM の基本、ウィンドウの生成、3 次元モデルへの操作とチェーン、照明、テクスチャー、Web カメラ映像の取り込み、簡単なアニメーションの作り方を学ぶ。
- 23 Web カメラの活用 【講義と演習】 Web カメラ映像から動きや色を検知抽出する方法を学ぶ。
- 24 Pure Data 応用（3）：音と映像のインタラクション 【課題演習】 音、映像、GUI、外部機器を組合わせた作品制作に挑戦する。
【報告】 個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。12 月初めの学会発表にむけての準備状況を情報共有する。
- 25 イメージ処理 【講義と演習】 外部イメージデータの取込み、フィルタの適用、複数イメージのレイヤー化、背景の消去などの技法を学習する。
- 26 対話性の実現：マウス、キーボード、自作インターフェース 【講義と演習】 マウス位置、キーボードイベントの検知法、ビデオコントローラ、各種センサーと Arduino による自作インターフェース、簡単な対話的アニメの作成を学ぶ。
- 27 物理モデル 【講義と演習】 物理演算モデルと pmpd、バネの動き、重力の影響のモデル化、複数のモデル要素の連結、GEM による視覚表現などを学ぶ。
- 28 【期末発表】 2018 年度のまとめ 【発表】 個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。
【学習成果の総括と見える化】 学習内容の総まとめを実施する。
ePortfolio で学習成果の公開コンテンツ化を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、プロジェクト活動、自主的な学習など授業時間外に求められる学習行動はとても大切です。プロジェクト運営、文献レポートなど積極的に活動してください。とくに学外での貴重な学びの機会として Pure Data Japan のパッチングサークルのような勉強会やオトアソビなどのメディアアート関連のイベントがあります。まずは聴講参加を心がけてください。そしてできれば作品発表できるようになりたいです。

【テキスト（教科書）】

演習では学ぶべきことが多岐にわたるので必要に応じて文献を紹介します。

今年度にとりあげる PureData の教科書として
美山千香士, 「Pure Data チュートリアル&リファレンス」, ワークスコーポレーション (2013), ISBN 978-4862671424
を指定します。
関連文献については、こちらのページを参照ください。
<https://epf.hosei.ac.jp/mahara/view/view.php?id=10296>
PureData 関連の Web については、こちらのページを参照ください。
<https://epf.hosei.ac.jp/mahara/view/view.php?id=10554>

【参考書】

【Pure Data】

Pure Data の参考書として：

松村 誠一郎, 「Pd Recipe Book - Pure Data ではじめるサウンドプログラミング」, ビー・エヌ・エヌ新社 (2012), ISBN 978-4861007804
中村隆之, 「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング-「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」工学社 (2015), ISBN: 978-4777518821

の 2 冊を挙げておきます。

最新動向については、Pure Data Japan の Web サイトを参照してください：

<http://puredatajapan.info/>

【Raspberry Pi】

日本語で読める参考書がたくさん出版されています。例えば
Japanese Raspberry Pi Users Group, 「Raspberry Pi [実用] 入門」, 技術評論社 (2013), ISBN: 978-4774158556
は良くまとまっています。

【Arduino】

PureData と Arduino の連携については上に挙げた「Pure Data チュートリアル&リファレンス」のほかに

青木直史, 「Arduino と Processing ではじめるプロトタイピング入門」, 講談社 (2017), ISBN 978-4-06-156569-2

藤本 直明ほか, 「脳 Arduino でちょっと未来を作る」, CQ 出版 (2010), ISBN: 978-4789818506

が参考になります。

【Web】

今日の Web の最前線に触れると言う意味で：

「Web サイト制作 最新トレンドの傾向と対策」Mdn(2012), ISBN: 978-4844362456 を多く参照しますが、これに限らず他の文献も多用します。

【文化情報学】

大学院で情報学系の研究を目指す学生のためにじっくりとまた批判的に読んでもらいたい論集と書籍を挙げておきます：

Durham and Kellner (ed), "Media and Cultural Studies Keywords", Blackwell(2001), 978-0-631-22095-4

Thomas Swiss(ed), "Unspun - Key Concepts for Understanding the World Wide Web", New York University Press(2000), ISBN 0-8147-9759-8

Cambridge, "Eportfolios for Lifelong Learning and Assessment", Jossey-Bass(2010), ISBN: 978-0470503768

西垣通, 「基礎情報学—生命から社会へ」, NTT 出版 (2004), ISBN-13: 978-47571101203

【成績評価の方法と基準】

●成績評価方法 セメスタ毎に総合評価します。欠席は認めません。止むを得ない事情で欠席する場合には必ず申し出てください。また講義内容を復習して次の授業までに実習課題を済ませておいてください。

Proactive な運営方針にもとづき、学生個人によるゼミ制作・ゼミ論研究 (25%)、全体プロジェクトとグループ活動 (25%)、学会への参加や外部コンペへの作品応募 (20%)、各種資格（情報・英語関連など実践力形成に限る）の取得努力 (20%)、研究指導を受けるための個別面談 (10%) などをすべて総合的に評価します。

最後にまとめとしてのゼミ論、あるいは何らかの作品制作（狭い意味での表現に限らず、システム・プログラム等でもよい）と制作レポートを課します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 演習形式であるため、授業アンケートのような期末アンケートではその場の学習ニーズに対応できない。面談による個別指導によってこれまでも対応してきており、今後もこの方針を継続します。面談を通じての個別の研究指導とゼミでの学びをうまく組み合わせで効率的な学びをサポートできるように配慮してゆきます。

(2) 意欲ある学生の参加を歓迎します。4 年次からの研究や作品制作も可能ですので、演習変更希望の場合は事前に相談ください。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミは国際文化学部情報セミナー室 (BT#0704) にて行います。
2016 年度の学習には、Windows PC, Mac, iPad, LINUX サーバ、MIDI 楽器、Kinect, Raspberry Pi などのデバイス等を使いますが**必要な機器はすべて研究室**にあります。講義時間外での作業のために WindowsPC か Mac(あるいは LINUX サーバ)が必要です。また **Web や iPhone 環境でも Pure Data は稼働します**。Pure Data はオープンソースですので、自分にパソコンにダウンロードしてすべての課題実習と作品制作に取り組むことができます。またユーザー同士の交流もとてもさかんです。
研究活動は情報準備室 (BT#0703) のネットワーク、サーバ、マルチメディア装置からなる SOHO 環境を基盤として実習します。

【その他の重要事項】

●履修上の注意

まず手を動かす、自分で調べる、しっかり聞く、物怖じせずに発言する。そこから文化と情報を発想します。自分ひとりでは解らないこともありますから、担当教員と面談を通じて指導を受ける、あるいは作品制作について助言を受けるなど風通しの良いコミュニケーションを心がけてください。

また、

- ・情報系、メディア系専門科目の 3~4 年次での履修
- ・情報処理・メディア関連の検定資格取得
- ・継続的な英語力養成の必要性

を明言します。

非常に関連が深い科目として「コンピュータ音楽と音声情報処理」があります。おなじく **Pure Data** を重点的に扱う科目として、きっと参考になると思います。

【研究室の活動実績】

【研究・制作活動】

2011 年度：学部の動画配信システムの構築。

2012 年度：e-Portfolio の学部導入、全学導入にむけての技術的検討。大学院でのメディア論科目と連携。

2013 年度：e-Portfolio (HOPS) の構築に参加。

2014 年度より：Puredata パッチングサークルに参加、発表。

2015 年度（研究留学）：Carnegie Mellon 大学の Music & Technology においてコンピュータ音楽とサウンドデザインの研究。
(演習は東京工科大学デザイン学科の松村誠一郎先生)

2016 年度：PureData でシンセサイザ、エフェクタ、シークエンサなどをインタラクティブな仕組みと組み合わせるライブ演奏向けに制作。

【学部学会】3 年生は連名で学部学会に発表参加する、4 年生は個人で研究成果を発表することを目指してきました。

2014 年度は研究室からポスターとデモで発表 3 件。

2015 年度は 4 年生が卒業研究の成果を学会発表。

2016 年度は 3 年生が中間成果を学会発表、ポスターとデモで発表 2 件。

2017 年度は 4 年生が卒業研究の成果を学会発表、ポスターとデモで発表 2 件。

【学外の学会等】

2012 年度の学会参加

私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」

教育システム情報学会「全国大会」

日本教育工学会「e ポートフォリオの活用と普及」研究会

2013 年度の学会参加

Mahara Open Forum 2013 での研究発表 (2 件)

2014 年度の学会参加

Mahara Open Forum 2014 での研究発表 (1 件)

Pure Data パッチングサークルへの参加 (5 回)

2016 年度の学会参加

私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」

Pure Data パッチングサークルへの参加 (2 回)

2016 年度の学会参加

私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」

情報文化演習—情報科学技術の問題の発見と考察—

春学期担当：和泉 順子，秋学期担当：佐藤 雅明

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとコンピュータ、ネットワークとネットワークを相互に接続することから始まったインターネットは、その技術の普及と発展により、ネットワークは社会基盤の一部を担うようになった。インターネットの上では様々なデジタル情報が交換され、既存メディアには無い多様性と価値を生み出している。その一方では、国境を超えたコミュニケーションメディアである点やその広がりから、他の社会システムとの協調や調整が必要なケースも多く、グローバルな視点での問題発見や解決が重要となる。

本演習では、こうしたインターネットを前提とした情報科学時代において、コンピュータネットワークの基本的な考え方や構成技術を理解し、社会的課題の発見と解決について学ぶとともに、自らの意見を発信できる能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・インターネットの基本原理とその考え方、および構成技術の基礎を理解する
- ・グローバルな視点による社会課題の発見とその解決方法についての考え方を学ぶ
- ・技術的な視点に基づいた、自らの意見を発信する能力を身につける

【授業の進め方と方法】

春学期では、共通の本を精読して発表する「輪読」の他に、各々の興味に関連する読書（サーベイ）を継続的に行う。単純に本を読むだけでなく、そこから何を読み取ったかを他の人に説明するため、できるだけ本の内容や自分の意見を正しく伝えるために必要なスキルを学ぶ。

秋学期では、春学期に得た知識をベースとし、実社会における具体的な問題について議論をおこなうために、現在の情報科学技術を支える構成技術を理解し、自分なりの考えをまとめて発信するために必要なスキルを習得する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本演習の概要および春学期の進め方についての説明と、履修者の興味やテーマを探る
2	これまでに修得した情報技術の確認	各々が、高校あるいは大学の講義でどのような情報関連科目を履修し、どのようなスキルや知識を修得したのか確認する
3	課題解決に必要な情報技術の議論	今後取り組むテーマや興味に、あるいは解決したい問題に対して、どのような情報技術が影響するのか考え、なにが必要なのかを議論する
4	精読する本の紹介と選定	情報技術とその社会への影響に関する本の中で、履修者の興味に共通する本を複数紹介し、輪読する本と分担を決める
5	情報技術と社会環境（1）	近年話題となっているロボットやAI、IoT、ビッグデータなどの情報科学技術の現状と、展開に際しての問題点を議論する
6	情報技術と社会環境（2）	前回の議論を踏まえた自分なりの提案を論理的に説明するための準備を行う

7	学生発表（1）	前回の準備から、情報科学技術の展開に関する問題点とその対応に関する発表を行い、互いの発表の過不足を議論する。
8	学生発表（2）	前回の発表とそれに関する質疑応答、改善策に関する議論を踏まえ、再構築した発表を再度行い、改善を確認する
9	輪読（1）	第4回で選定した本を精読した結果として、輪読を行う。担当者によって1～2章ずつ行う。
10	輪読（2）	前回に続き、輪読を行う。
11	輪読（3）	前回に続き、輪読を行う。また、輪読によって得られた知見、さらに調査が必要な点などについて確認する。
12	研究テーマに関連する本の紹介	各々が自分の興味、あるいは研究テーマを意識しながら関連する本を選定し、簡単に発表する
13	他の人の研究テーマに関する質疑、提案	前回の発表をもとに、自分以外の研究テーマに関する質問や提案を行うことで、互いに新たな視点を得る
14	秋学期に向けての準備	秋学期に向けて、必要な知識やスキルを確認し、夏休みになにをするか自らが課題を設定する

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本演習の概要説明と導入、および秋学期の進め方についての説明と、履修者の興味やテーマについての議論をおこなう
2	インターネット概要	現在のインターネットの役割と環境、およびこれまでの変遷について学ぶ
3	インターネットの構成要素	インターネットを支える技術と構造、およびデジタル情報の特徴について学ぶ
4	インターネットのサービスと課題	インターネットで現在行われているサービスについて考察すると共に、顕在化している、あるいはこれから起こりうる課題について議論する
5	学生発表（1）	履修者自身の経験や調査に基づく、問題意識や解決手法について発表をおこなう
6	IoT・ビッグデータ（1）	具体的なテーマとして、センサデータの利活用の事例や国内外の動向について学ぶ
7	IoT・ビッグデータ（2）	前回の授業を受けて、センサデータの利活用や事例に対して理解を深めると共に、課題の発見と解決に向けた議論をおこなう
8	セキュリティ	具体的なテーマとして、インターネット上のセキュリティ問題や国内外の動向について学ぶと共に、課題の発見と解決に向けた議論をおこなう
9	グローバルガバナンス	情報科学技術の規格化・標準化や、国際的なルール作りの方法や過程について学ぶ
10	学生発表（2）	履修者自身の経験や調査に基づく、問題意識や解決手法について発表をおこなう
11	テーマ演習（1）：テーマ選定	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマを定める

1 2	テーマ演習 (2) : テーマ分析	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマの問題や解決法の分析をおこなう
1 3	テーマ演習 (3) : テーマ整理	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマに対し、情報科学技術的なアプローチでとりまとめる
1 4	最終発表	履修者が、それぞれが情報科学技術の視点から、自身の問題発見・問題解決に向けた考察内容について、発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受けるにあたって特別な前提知識は必要としない。課題やレポートについては、授業の中で適宜指示をする

【テキスト（教科書）】

教科書は特に必要としない

【参考書】

必要な参考書などは授業の中で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業における研究発表、および授業での学習状況などの平常点を総合して評価する。具体的には、授業における発表 (3 回を予定) を 60%、および平常点を 40%を目安とした配分とする

【学生の意見等からの気づき】

特になし

情報文化演習—コミュニケーション〔つながり〕と異文化の、デザイン学—

甲 洋介

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「こころ」のはたらきについて学んだり、コトバに頼らないコミュニケーションの体験をしたり、建築空間のフィールドワークに出かけたり、感覚体験を実験したり、知の仕組みを学んだり、それらに基づいて道具をデザインしたり、モノづくりに挑戦する演習である。

【コミュニケーション（つながり）と文化の、デザイン学をめざして】

言葉にならない「思い」を伝え合うコミュニケーションの空間、愛着を感じる道具、「知」を拡げ、遊び心がふくらむ情報空間を君たちと創り出そうと思う。そのために、ふだん忘れていた感覚、懐かしい匂い、風景に隠れている音たち、色合いの鮮やかさ、うっとりする肌触り…、そういう身体感覚を呼び起こし、こころの声にじっくり耳を傾けよう。

【興味あるテーマの例】

- ① こころとココロをつなぐ、穏やかなコミュニケーションのしくみ～つながっているフリは寂しい？ でも親密なのはもっと怖いから
- ② 楽しくて、使いやすい「道具、インテリア、家具」の制作
- ③ アートとコミュニケーションの情報空間
- ④ 居心地よい空間デザインの研究、遊び心のデザイン
- ⑤ 言葉ではウソをつけても、身体が正直に動いてしまう現象
- ⑥ 仮想世界における「私」、こころの問題
- ⑦ こころの科学、感情の脳科学
- ⑧ 人工知能は、ヒトの何を超越するのか
- ⑨ 「個・種・域」を越境し、身体、いのち、自然の息吹を伝える『禅的』情報空間の探求

他人のココロと、なぜつながることができるのか？ このゼミは、当たり前すぎて考えてこなかった事柄を注意深く点検することをだいにしている。それを洞察しなければ、デザインすべき本質は見えてないからだ。

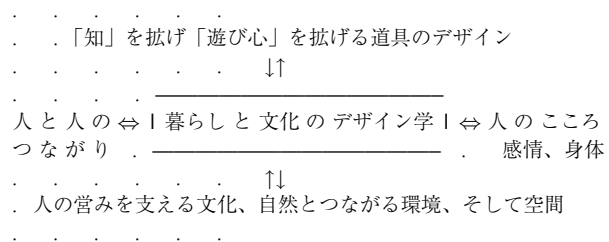
【到達目標】

・日常の具体的な場面を切り出し、人間中心設計の手法を応用して、利用者の特性を考慮したエクスペリエンス・デザイン（体験のデザイン）をできるようにする。

・演習を通じて、問題の本質を洞察する力、デザインの方向性の適否を嗅ぎ分ける美意識、研究活動を計画しやり遂げる実行力、を育む君もやがて、実社会に出たとき解答のない課題に取り組むことになる。これらの力はそのときに頼りになるはずである。

【授業の進め方と方法】

「暮らしと文化のデザイン学」がテーマである。「コミュニケーション」「道具」「空間」のデザインを基本に、つぎの4つの観点を常に意識しながら学ぶ。この演習の研究課題のいくつかは、世界に未だ解答がない。その答を組み上げていく知的探検となる。



【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、自己紹介
2	暮らしを豊かにする道具のデザイン①	暮らしの道具をフィールドワークする

3	暮らしを豊かにする道具のデザイン②	基礎的な考え方を学ぶ
4	暮らしを豊かにする道具のデザイン③	デザイン方法論を学ぶ
5	デザイン・ワーク ショップ	デザイン実習（グループ）
6	グループワークの成果発表	発表、討論、解説
7	こころと感情の科学①	基礎的な考え方を学ぶ
8	こころと感情の科学②	理論を学び、考えを深める
9	こころと感情の科学③	発表、討論、解説
10	空間デザインとアクティビティ①	基礎的な考え方を学ぶ
11	空間デザインとアクティビティ②	アクティビティの分析からデザインを発想する
12	空間デザインとアクティビティ③	実例を学ぶ：体験する、考えを深める
13	デザイン・ワーク ショップ	デザイン実習（グループ）
14	発表会、まとめ	個人研究の構想発表、討論、解説
秋学期		
回	テーマ	内容
15	オリエンテーション（秋）	テーマの解説、進め方の話し合い
16	個人研究、グループ研究の育て方	個人研究／グループ研究のテーマ設定と、研究の育て方
17	心とココロをつなぐコミュニケーション①	コミュニケーションの新しいカタチを探してみよう
18	心とココロをつなぐコミュニケーション②	基礎的な考え方を学ぶ
19	心とココロをつなぐコミュニケーション③	理論を学び、考えを深める
20	心とココロをつなぐコミュニケーション④	実例と、デザイン手法を学ぶ
21	デザイン・ワーク ショップ	体験、デザイン実習（グループ）
22	AI：知的人工物と生きる①	理論と基礎的な考え方を学ぶ
23	AI：知的人工物と生きる②	実例に学ぶ、討論、解説
24	文化情報空間のデザイン①	文化と情報空間：基礎的な考え方を学ぶ
25	文化情報空間のデザイン②	暮らしを拡張する仮想世界
26	文化情報空間のデザイン③	近未来の暮らしのデザイン
27	デザイン・ワーク ショップ	体験、デザイン実習（グループ）
28	発表会、まとめ	個人研究の成果発表と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの発表準備、学外でのフィールドワーク。合宿は春と夏（今年度は秋の予定）、OG・OBと合同で行っている。美術館・展示・建築空間の探検によく出かける。

【テキスト（教科書）】

各自の研究テーマを伺い、道具のデザイン、こころの科学、コミュニケーション、空間デザイン、情報学と人工知能、を中心に提示する。

【参考書】

・「感情の科学」「コミュニケーションとしての身体」「こころの情報学」
 ・「未来のモノのデザイン」「ネット接続された心」「遊びと人間」
 ・「建築する身体」「アフォーダンス」「サステナブル建築」
 ・森の葬祭場（アスブルンド）、湖畔のアトリエ（コルビュジエ）、ヘドマルク博物館（フェーン）、光の教会（安藤）、修学院・桂離宮。

【成績評価の方法と基準】

①発表と討議への参画（40%）、②グループ実習の取り組み（30%）、③成果レポート（30%）を総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

モノづくり実習と、実例による体験、実験、を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC があるとグループワークや合宿の時に便利。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

演習室と、甲研究室の先進的な機材を生かした実習を行う。

【参加希望者へ】

人間の「こころ」や感情のしくみ、コミュニケーション、モノづくり、建築、空間、玩具、家具のデザインに興味をもつ方に向いている。

次のような人物とのコラボレーションに興味がある： ①不完全燃焼なまま大学生生活を終わりとくなく、②少なくともゾウとイルカには心が通じると信じている、③モノづくりが好き、④土俗的な感性を持つデザイナー、⑤言葉で伝わらない思いを大切にしている、⑥建築、空間デザイン、インテリアに興味がある、⑦幼い子供、高齢者が楽しめる情報の道具を作りたい、⑧芸術家肌のプログラマー、⑨北欧建築の透明感、日本庭園の奥義、仏像の表情に魅せられる、⑩海中に、自分の見ていない地球があと半分あることを知ってしまったダイバー。 好奇心旺盛で常識ある個性派、歓迎。

関連科目

仮想世界研究、ヒューマンインタフェース論、道具による感覚・体験のデザイン、こころの科学、システム論、情報コミュニケーション

【注意】

”パソコンを実習するゼミ”ではない。

情報文化演習—コンピュータエンターテインメント—

重定 如彦

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、われわれの身の周りにはコンピュータを使ったありとあらゆるエンターテインメントが満ち溢れており、電車の中などでスマートフォンや携帯のゲーム機を楽しんでいる人の姿はめずらしくなってきた。また、単なる娯楽だけではなく、学習の場においてもコンピュータを使って楽しみながら学習効果を上げることを目的としたエデュテインメントと呼ばれるソフトウェアが注目を浴びている。実際に 2011 年度に発表された、文部科学省の「教育の情報化ビジョン (http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/04/_icsFiles/afieldfile/2011/04/28/1305484_01_1.pdf)」の 3 章の「学びの場における情報通信技術の活用」では、デジタル教科書、教材が 21 世紀にふさわしい学校教育の実現の項目の一つとして挙げられている。本演習ではそういったコンピュータを使ったエンターテインメントについて学び、自ら作品を作り上げていくことを目標とする。

【到達目標】

コンピュータエンターテインメントといってもそのジャンルは幅広く、プラットフォームもパソコン、ゲーム機、携帯端末を使ったものなど様々である。コンピュータエンターテインメントの特徴や、コンピュータエンターテインメントをどのようにして実現するかについて学び、理解する。

次にソフトを作成するための技法（プログラミングやウェブを使ったシステムの使い方）を学び、実際にソフトウェアを作成する。

われわれは普段はコンピュータのコンテンツを消費する立場であるが、コンテンツを提供する側の立場に立つことによって新しい視点を獲得し、新しいものをクリエイトする力を身につける。

【授業の進め方と方法】

演習の概要は以下の通り。

・ 輪講

コンピュータエンターテインメントに関する様々なテーマについて輪講を行い、基礎知識を身につける。

・ プログラミングの演習

本演習の最終目的は何らかの作品を作成することであるが、そのためにはプログラミングの知識が必要不可欠になる。そのための演習を行う。

なお、学生の実践の習熟度が異なっている場合は、習熟度別にグループを作り、演習を行う予定である。

・ 作品の設定と実習

3 年次ではグループごとにいくつかの作品を設定し、その作品を製作する実習を行う。また、作品に関して中間発表と作品発表を行う。後期には対戦可能な作品を作成し、お互いのグループで対戦会を行う予定である。

・ テーマの設定と構想発表

3 年次の最後に、輪講やプログラミング演習を通じて、4 年次に作成する作品に関するテーマを各自考え、構想を発表する。

・ 個人研究

4 年次では各自のテーマに従って研究を行い、各自の研究結果をまとめ、発表する。

・ 国際文化情報学会における発表

各自の研究結果を国際文化情報学会において発表する。また、国際文化情報学会での発表の際に得られた意見などを自分の研究にフィードバックする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	概論とテーマ設定	コンピュータエンターテインメントの概論について学び、グループごとの輪講のテーマを設定する
2	グループ 1 の輪講と演習	グループ 1 のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（変数について）
3	グループ 2 の輪講と演習	グループ 2 のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（条件分岐について）
4	グループ 3 の輪講と演習。2 回目のテーマ設定。	グループ 3 のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（繰り返しについて）。2 回目の輪講のテーマの設定を行う。
5	グループ 1 の輪講と演習	グループ 1 のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（関数について）
6	グループ 2 の輪講と演習	グループ 2 のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（ファイル操作について）
7	グループ 3 の輪講と演習	グループ 3 のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（アルゴリズムについて）。なお、必要であれば、演習は引き続き行う。
8	作品のテーマの設定と実習	グループごとに作成する簡単な作品のテーマを設定し、実習を行う
9	グループ 1 の作品の中間報告と実習	グループ 1 の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
10	グループ 2 の作品の中間報告と実習	グループ 2 の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
11	グループ 3 の作品の中間報告と実習	グループ 3 の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
12	グループ 1 の作品発表と実習	グループ 1 の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
13	グループ 2 の作品発表と実習	グループ 2 の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
14	品評会とまとめ	各グループの作品の品評会をおこない、春学期のまとめを行う

秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期のテーマの設定と実習	お互いが対戦可能な作品のテーマを設定し、実習を行う
16	グループ 1 の作品の中間報告と実習	グループ 1 の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
17	グループ 2 の作品の中間報告と実習	グループ 2 の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
18	グループ 3 の作品の中間報告と実習	グループ 3 の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
19	グループ 1 の作品発表と実習	グループ 1 の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
20	グループ 2 の作品発表と実習	グループ 2 の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
21	グループ 3 の作品発表と実習	グループ 3 の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
22	作品の品評会と次のテーマの設定	お互いの作品を対戦させ、品評会を行う。次の少し複雑な作品のテーマの設定を行う。

23	グループ1の作品の中間報告と実習	グループ1の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
24	グループ2の作品の中間報告と実習	グループ2の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
25	グループ2の作品発表と実習	グループ3の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
26	グループ1の作品発表と実習	グループ1の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
27	グループ2の作品発表と実習	グループ2の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
28	グループ3の作品発表と実習	グループ3の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、輪講の準備や作品の作成の作業などを行うこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて各自のレベルにあったものを指示する。

【参考書】

必要に応じて各自のレベルにあったものを指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加度（30％）、輪講や作品の制作（70％）で評価する。発表資料や作品はeポートフォリオに提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生のプログラミングの習熟度別にグループを分けたほうが良いという意見があったので、臨機応変にグループ分けを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミ室のコンピュータを使用する。

【その他の重要事項】

プログラミングは一見難しく、とっつきにくそうに思えるかもしれないが、しっかりと勉強すれば2年間で自分自身の作品を作ることには十分に可能である。過去のゼミ生の一人に、途中まではあまりプログラミングに興味がなかったが、16パズルを作成する演習を行ったところプログラミングに興味を持ち始め、自分で本などを購入してシューティングゲームを作成した学生がいた。本ゼミでは、やる気があればプログラミングの未経験者でも歓迎する。

また、以下のウェブページに過去のゼミの論文や、ゼミ生の作品の一部があるので興味のある方は参考にして欲しい。ただし、過去のゼミのテーマは現在のもとは異なっているので、過去のゼミ論にはコンピュータエンターテインメントとは異なるテーマのものがある。

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/zemi/>

また、2013年度からゼミ生の制作物をeポートフォリオに保存することにした。<http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=142> からこれまでのゼミの作品のページにアクセスすることができるので興味のある方は見てほしい。

情報文化演習－生物と持続可能な社会－

島野 智之

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の加速的破壊が進むなか、持続可能な社会作りを考える。フィールドワーク等を通して、我々はどうあるべきかを各自考える。世界に視野を広げ見直してみる。

【到達目標】

与えられた課題をこなすだけでなく、自分で問題点を見つけて取り組むことが出来るようになること。具体的には、積極的に現場に出かけて情報を収集できるようになること。

【授業の進め方と方法】

授業だけではなく夏期休暇などを利用して、フィールドワークを計画している。

また、メイン・テーマ以外に、自由な視点でプロジェクトを企画・実践し、秋学期に開催される学部内の研究発表会に参加する（予定）。そして、論文作成に取り組む。

特に、教室を出てフィールドワークを考える（たとえば、地方への訪問など）。また、ゼミに関係したゲストをお招きする予定。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介および 1 年間の授業計画
第 2 回	生物多様性とは何か	生物多様性についての概観
第 3 回	生物多様性はなぜ重要か	生物多様性の意義。国際関係や経済活動がなぜ繁栄するのか？
第 4 回	生物多様性条約	各国の生物多様性条約への取り組みと経済活動。各国間の駆け引き
第 5 回	日本の農業事情	日本の農業と生物多様性
第 6 回	日本の食料事情など	日本の農業生産と食糧事情
第 7 回	世界の農業事情など	世界の農業と生物多様性 なぜ、地球の持続可能性と、近代の農業生産は相反するのか、あるいは、補い合う方法はないのか？
第 8 回	世界の食料事情など	世界の農業生産と食糧事情
第 9 回	4 年生の論文テーマ発表（事前準備）	論文のテーマについて、プレゼンテーションを交えて発表。 コメントを付けて討議する。
第 10 回	4 年生の論文テーマ発表（本報告）	論文のテーマについて、プレゼンテーションを交えて発表し、確定する。
第 11 回	生物多様性に関する討議	生物多様性について調べて、討議する。
第 12 回	生物多様性に関する問題を探る	討議を踏まえて、今後、どの様に各国が対策をとっていったら良いのか、あるいは、どのような問題解決の方法があるのか？
第 13 回	3 年生のプロジェクト発表	前回、前々回の討議を踏まえて、3 年生の調査研究テーマを発表する。
第 14 回	4 年生の論文中間報告	論文のテーマについて、プレゼンテーションを交えて発表。 コメントを付けて討議する。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	4 年生の論文中間報告（再）	再び、論文のテーマについて、プレゼンテーションを交えて発表。 コメントを付けて討議する。
第 16 回	4 年生の論文中間作成（前半）	進捗状況に基づいて、作成にかかる。

第 17 回	4 年生の論文中間作成（後半）	進捗状況に基づいて、作成にかかる。
第 18 回	3 年生のプロジェクト成果発表	プレゼンテーションを交えて発表。 コメントを付けて討議する。
第 19 回	国際文化学部学会準備①	テーマを出し合って討議する。
第 20 回	国際文化学部学会準備②	討議したテーマに基づいて、調査研究をすすめる。
第 21 回	国際文化学部学会準備③	まとめ
第 22 回	4 年生の論文発表①	プレゼンテーションを交えて発表。 コメントを付けて討議する。 (4 年生の 1 / 3 について)
第 23 回	4 年生の論文発表②	プレゼンテーションを交えて発表。 コメントを付けて討議する。 (4 年生の 1 / 3 について)
第 24 回	4 年生の論文発表③	プレゼンテーションを交えて発表。 コメントを付けて討議する。 (4 年生の最後の 1 / 3 について)
第 25 回	ゼミ論文作成①	テーマを出し合って討議する。
第 26 回	ゼミ論文作成②	討議したテーマに基づいて、調査研究をすすめる。
第 27 回	ゼミ論文作成③	まとめ
第 28 回	ゼミ論文発表会	プレゼンテーションを交えて発表。 コメントを付けて討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分で課題を見つけ、多角的に取り組むこと。文献を収集するだけでなく、直接、調査・取材活動をおこなうこと。可能な限り、情報源に当たり、なにが、オリジナルであるのかを明確にした上で、レポートなどを作成すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

「地球の論点－現実的な環境主義者のマニフェスト」 スチュアート ブランド (著), 仙名 紀 (翻訳), 英治出版, 2011.

他は必要に応じて、その都度、指示します。また、ゼミに関係したゲストをお招きする予定です。

【成績評価の方法と基準】

年度末までにまとめた各自の成果 (50%) , およびそのために各自が行った企画・調査活動状況 (= 平常点: 50 %) . 頑張る姿勢、真摯な姿勢を評価したいと思います。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミは、受け身的な授業と異なり積極的にみんなで作り上げていくものです。4 年生は後輩をサポートしお手本となるように心掛け、3 年生は先輩をよく見て学んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業には、主としてパワーポイント映像およびビデオ資料を用い、各自に、パワーポイント、あるいは、ポスターなどでプレゼンテーションをしていただくことがあります。

【その他の重要事項】

本ゼミの目標は、文献などの間接情報だけに頼るのではなく、直接出向いて生の情報に触れ、それらを通して学ぶことの面白さを知り、自己を鍛えることでもある。

そして、グループ活動を通じて切磋琢磨し、相手を思いやる心を身に付け、少しでも一人前の社会人に近づくこと。

与えられたことを行うだけでは一人前とは言えず、自分でさらに課題を見つけて取り組んでこそ、一人前と言えます。そのためには、小さな事でも損得を考えずに手抜きせず真面目に取り組むことが大切です。

授業の各回のテーマは、受講生の希望や最新のトピックスなど取り入れることがありますので、内容や順番が異なる場合があります。

情報文化演習－「性倒錯とアートの精神分析」研究－

森村 修

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「性倒錯」・「アート」と「精神分析学」との関係、J. ラカン（Jacques Lacan, 1901-1981）の思想にもとづいて理解し、性倒錯やアート作品における「深層心理（無意識・欲望）」の影響を探ることにある。

【授業の目的】

本演習では、ラカン精神分析の入門テキストや彼の講義録などを題材にして、私たちの深層心理がどのように構造化されているかということについて考察することができる。さらにまた、性倒錯やアート作品を深層心理学的・精神医学的に分析することで、「性倒錯」と「深層心理」との関係、または「アート作品」と「深層心理」との関係、さらには健常者の表現と猟奇的犯罪者や精神病患者の表現との関係を明らかにすることができる。

【到達目標】

- (1) 私たちの心理や思考を根底で支えている「深層心理（無意識・欲望）」に精神分析学を通じてアプローチすることで、意識と無意識、欲望などの深層心理の構造について理解することができる。
- (2) ラカンの精神分析思想を研究することで、無意識とアートとの関係を学ぶことができる。
- (3) 精神病患者のアートが、モダン・アートにいかなる影響を与えたかをアートの歴史から理解することができる。また、表現としての「アート」を分析する手法について説明することができる。
- (4) 猟奇的な犯罪が「深層心理の表現」として解釈可能であることを、ラカン精神分析を介して理解することができる。
- (5) 心理学的・哲学的テキストの読解方法を身につけることができる。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

通常の授業では、①指定テキストに基づいた「グループ研究」と、②個人がそれぞれ自分のテーマを研究する「個人研究」の発表を交互に行う。③三年生には「ゼミ論・ゼミ制作」を、四年生には「ゼミ総括研究」を義務づける。④課外活動として、年三回（初夏・夏・冬）行う「ゼミ合宿」を実施する。⑤個別の希望者には、外部講師と連繋した「課外セミナー」や美術館・博物館などの公共施設の訪問なども考えている。

①「グループ研究」では、ゼミ生をいくつかのグループに分けて、事前にそれぞれ担当箇所のテキストを読解し、レジュメを作成しておき、ゼミ当日に担当グループが発表し、それ以外のゼミ生と討議する。

②「個人研究」では、ゼミ生各自が自らのテーマに即して研究を進め、ゼミの所定の時間内に研究発表を行う。その成果を、「ゼミ論」・「ゼミ制作」や「ゼミ総括論文」・「ゼミ総括制作」にまとめてもらう。「個人研究」については、2018 年度も引き続き、川村たつる先生のご協力をお願いするつもりである。おもに個人研究の作品制作については、川村先生からの直接的な指導があり、ケアの実践指導ならびに論文制作を、森村が担当する。

③「ゼミ研究」・「ゼミ総括研究」では、三年生には、春学期のグループ研究のまとめとして「ゼミ論」（春学期）を、また年間を通して「個人研究」のまとめとしての「ゼミ論」・「ゼミ制作」（秋学期）が義務づけられており、四年生には、一年間を通して「ゼミ総括論文」・「ゼミ総括制作」が義務である。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①演習の概要説明 ②自己紹介 ③ゼミ役員決定

2	グループ研究①『ラカンの仕事』「初期の著作」・「鏡像段階」	①「パラノイア精神病とその人間への関連」 ②ババン姉妹の犯罪 ③鏡像段階論
3	グループ研究②『ラカンの仕事』「現実原則の彼岸」・「ローマ講演」	①現実原則 ②言語と無意識
4	グループ研究③『ラカンの仕事』「盗まれた手紙」・「文字（手紙）という審級」	①シェーマL ②シニフィアン／シニフィエ
5	グループ研究④『ラカンの仕事』「エディプス・コンプレックス」・「精神病」	①エディプス・コンプレックス ②精神病
6	グループ研究⑤『ラカンの仕事』「主体の転覆」・「アンコール」	①主体の本性 ②性的関係
7	個人研究①	ゼミ生（四年生）の個人研究発表「ゼミ論」発表①
8	個人研究②	ゼミ生（四年生）の個人研究検討「ゼミ論」発表②
9	グループ研究⑥『「エクリ」を読む』「ラカンの精神分析技法」・「自我心理学批判」	①治療の指針 ②自我心理学
10	グループ研究⑦『「エクリ」を読む』「無意識における文字の審級」を読む」・「主体の転覆」を読む」	①ラカンの修辭学 ②主体と知
11	グループ研究⑧『「エクリ」を読む』「ラカンのファルス」・「テクストの外で」	①ファルス ②知と享楽
12	個人研究③	ゼミ生（三年生）個人研究発表「ゼミ総括研究」中間発表①
13	個人研究④	ゼミ生（四年生）個人研究発表「ゼミ総括研究」中間発表①
14	個人研究⑤	ゼミ生（四年生）個人研究発表「ゼミ総括研究」中間発表①

秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期イントロダクション	①秋学期の演習概要説明 ②学会のテーマ決定 ③総括研究の注意など
16	グループ研究①『構造と性倒錯』第 1 部「構造・構造特性・診断的評価」	①精神分析臨床とは何か ②症状と構造特性 ③心的構造
17	グループ研究②『構造と性倒錯』第 2 部「倒錯過程の構造的論理」	①倒錯について ②ファルスの同一化 ③女性との関係
18	グループ研究③『構造と性倒錯』第 3 部「倒錯のフロンティアへ」	①精神病と倒錯 ②性別と倒錯 ③性転換症
19	個人研究①	ゼミ生（三年生）個人研究発表「ゼミ論」中間発表①
20	個人研究②	ゼミ生（四年生）個人研究発表「ゼミ論」中間発表②
21	グループ研究④『精神分析の四基本概念』「無意識と反復」 「対象「a」としての眼差しについて」	I 破門 II フロイトの無意識と我われの無意識 III 確信の主体について IV シニフィアンの網について V テュケーとオートマトン

22	グループ研究⑤『精神分析の四基本概念』 「対象「a」としての眼差しについて」	VI 目と眼差しの分裂 VII アナモルフォーズ VIII 線と光 IX 絵（タブロー）とは何か
23	グループ研究⑥『精神分析の四基本概念』 「転移と欲動」	X 分析家の現前 XI 分析と真理 XII シニフィアンの列の中の性
24	グループ研究⑦『精神分析の四基本概念』 「転移と欲動」	XIII 欲動の分解 XIV 部分欲動とその回路 XV 愛からリビドーへ
25	グループ研究⑧『精神分析の四基本概念』 「〈他者〉の領野、そして転移への回帰」 「セミナールを終えるにあたって」	XVI 主体と〈他者〉—疎外 XVII 主体と〈他者〉（Ⅱ）—ア ファニシス XVIII 知っていると思定された主 体、最初の変数体、そして善につ いて XIX 解釈から転移へ XX 君の中に、君以上のものを
26	個人研究③ 「ゼミ総括研究」中間 発表①	ゼミ生（三年生）個人研究発表
27	個人研究④ 「ゼミ総括研究」中間 発表①	ゼミ生（四年生）個人研究発表
28	個人研究⑤ 「ゼミ総括研究」中間 発表①	ゼミ生（四年生）個人研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習

グループ研究は、毎回の担当箇所のテキストを読解し、レジュメを作成するため、グループごとに集まって事前に準備する必要がある。テキストの読解はもとより、他の資料を検討することで、テキストの理解を一層充実させることができるからである。そのために、授業外にグループで集まって集中学習することが、ゼミ内の活性化にも繋がり、各自の研究の広がりや深みを増すことになる。

【テキスト（教科書）】

ラカンの著作ならびにラカン講義録を使う。

ピチュ・ベンヴェヌート／ロジャー・ケネディ『ラカンの仕事』青土社、1994 年

ブルース・フィンク『「エクリ」を読む——文字に添って』人文書院、2015 年

ジョエル・ドール『構造と性倒錯——フロイト／ラカンの臨床的視座』青土社、1995 年

ジャック・ラカン『精神分析の四基本概念』岩波書店、2000 年

【参考書】

ラカン精神分析学に関するもの

性倒錯に関するもの

【成績評価の方法と基準】

①グループ研究発表・レジュメの完成度・討議の参加（25 %）

②個人研究発表・レジュメの完成度・討議の参加（25 %）

③ゼミ論（三年生）（50 %）／ゼミ総括研究（四年生）（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【授業外の活動】

①ゼミ卒業生や大学院生との交流がある。年一回年末の「望年会」には、1 期生から現役のゼミ生まで、ほとんどの学年の卒業生が集まる。これは、本演習の最大の人的資産であり、他のゼミには絶対に負けない資産といえる。それ以外にも、様々な方面で活躍する卒業生たちの交流が、密接に行われている。

②年三回の「ゼミ合宿」もまた、基本的には参加が義務だが、拘束力はない。向上心をもって、より成長したい人だけが積極的に参加してくれることが前提である。ただ、本演習としては、欠かすことのできない課外活動であることに変わりはない。合宿では、ゼミ生同士の交流、教員との親睦、さらには東京近郊では体験できない他の地域の施設などの訪問など、刺激を得る機会となっている。

※ 本演習では、授業外の活動が重要である。積極的に参加し、自らを磨く「修練」を積むことが本演習では要求されているので、注意を要する。

【注意】

基本的に、ゼミで課される課題に集中し、他のゼミ生と交流することが重要である。

表象文化演習ーコミュニケーションとアートー

佐藤 好彦

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習はアートという表現領域の可能性を自らの活動に生かすことを目的とします。

アーティストの思考とはどのようなものなのかを演習を通して考え、アートが一般言語を超えたコミュニケーション手段となる研究を実践的に行います。

春学期はグループワークを中心に日常生活の考察と、グラフィック、映像、音といった要素でのワークショップを行います。秋学期は主に国際文化情報学会での発表及びゼミ展示に向けて進行します。

【到達目標】

アートの実践を通じ、豊かな想像力と発想力を鍛え、自分だけの価値観を見出すとともに、他者の価値観を許容し柔軟な思考能力を身につけることを目標とします。そして、その価値観は社会において共有可能な新しい提案をもたらす核になることを念頭に置き、各自の自己実現とより良い社会づくりに役立てることを目指します。

【授業の進め方と方法】

春学期：ワークショップを中心とした演習による作品制作を行い、学期末に研究発表会（展覧会）を行います。個人研究としてはプレゼンテーションとディスカッションによる研究テーマを絞り込みます。秋学期：グループ研究として国際文化情報学会に参加します。個人研究は、個人相談を繰り返し企画をまとめ、学期末に作品＋ポートフォリオ または論文＋ポスター制作による発表会（展覧会）を行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今年度の運営方法・活動スケジュールについて
第 2 回	個人研究 1	研究計画書の作成
第 3 回	ワークショップ演習 1	デッサンに基づく思考ー視点についてー
第 4 回	ワークショップ演習 2	デッサンに基づく思考ー発見についてー
第 5 回	ワークショップ演習 3	デッサンに基づく思考ー表現についてー
第 6 回	ワークショップ演習 4	制作

第 7 回 ワークショップ演習 5 発表

第 8 回	個人研究 2	研究計画プレゼンテーション
第 9 回	個人研究 3	研究計画プレゼンテーション
第 10 回	プロジェクト演習 1	リサーチ（見学）
第 11 回	プロジェクト演習 2	リサーチ（見学）
第 12 回	プロジェクト演習 3	プロポーザル
第 13 回	プロジェクト演習 4	制作・準備
第 14 回	プロジェクト演習 5	展覧会形式による研究発表

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期活動についての説明 夏季課題提出
第 2 回	個人研究 4	プレゼンテーション（ポスター発表）
第 3 回	共同研究-企画 1	国際文化情報学会とは 研究発表の方法について
第 4 回	共同研究-企画 2	リサーチとディスカッション
第 5 回	共同研究-企画 3	リサーチとディスカッション

第 6 回	共同研究-中間企画発表	グループによる発表と企画の絞り込み
第 7 回	共同研究-制作 1	プレゼンテーションの手法の検討
第 8 回	共同研究-制作 2	材料などの検討と準備
第 9 回	共同研究-制作 3	作品制作と展示設営の準備
第 10 回	共同研究-制作 4	作品制作と展示設営の準備
第 11 回	共同研究-作品発表	鑑賞と講評会
第 12 回	個人研究 5	プレゼンテーション 展示デザインの検討

第 13 回	個人研究 6	個人研究 6 展示設営の準備
第 14 回	個人研究-作品発表	鑑賞と講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・インプットよりもアウトプット寄りの内容になりますので、自発的に行動し制作に取り組むこと。

・制作準備やスケジュール、制作途中の作品管理を各自で責任をもって行います。

・普段から興味のある展覧会、映画、コンサートへ積極的に 赴き、アイディアの引き出しを増やしてください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

授業ごとに参考書や作品について紹介します。また都内にあるアート・建築・デザイン・音楽に関する本を多く扱う書店へ赴き、個人研究に役立てること。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）

個人研究（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当代行のためフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

作品制作やプレゼンテーションで PC を活用する機会も多いと思いますので、関連した実習授業を履修しておくといでしょう。

facebook などの SNS も積極的に活用し情報共有に役立てます。

【その他の重要事項】

教員のウェブサイト

<http://www2.tbb.t-com.ne.jp/hipopo-art/>

協同作業も多いので、休まず出席すること。

表象文化演習―場所論―

岡村 民夫

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「場所」とは、私たちの文化を文字通り足下から支える基盤である。文化の観点から場所を研究するとともに、文化を「場所」の観点から見なおす。

春学期の主題として、これまでに「建築」「風景」「旅行」「東京」「歩行」「都市」「観光」「庭園」「ジブリ」などを取り上げてきた。今年度は「都市の映像」を春学期の主題とする。

【到達目標】

文化と場所の相関性に関して、知識をつけるだけではなく、作品鑑賞やフィールドワーク（とミニレポート）を通して、作品分析力、感受性、想像力を、体験的・実践的に養うことを目指す。またゼミの諸活動を通じて、調査力、発表力、コミュニケーション力、責任感を身につける。

【授業の進め方と方法】

春学期は、主として都市を表現した写真・映画についてグループ発表とディスカッションを行う。

秋学期前半は、4 年生による研究発表、秋学期後半は3 年生による研究発表（秋学期末レポート予備発表）を行う。秋学期の発表・レポート・卒論の主題は、場所に関する表象文化の研究であれば「都市の映像」以外の主題でも、また映像制作でも構わない。

年間を通じ、合間に適宜フィールドワークや展覧会見学を实践する。なお夏休みには、3 年生の意見を尊重した夏合宿をする予定である。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。 一年間の計画の説明。 「都市の映像」に関する概説。 春学期のグループ発表の計画。
2	都市の映像に関する講義	前期発表の見本として教員が都市の映像の一例を講義する。
3	江戸東京博物館見学	江戸東京博物館の常設展を見学。 江戸・東京の歴史を概観する。
4	第1回グループ発表 -アジェのパリ写真 -アボットのアメリカ写真	発表とそれをめぐる全員での討議。
5	第2回グループ発表 -ラング『メトロポリス』 -押井守『パトレイバー2』	発表とそれをめぐる全員での討議。
6	第3回グループ発表 -カルチエ＝ブレッソンの写真 -クレール『眠るパリ』	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
7	森美術館見学	「建築の日本展」を見学し、六本木ヒルズをフィールドワーク。
8	第4回グループ発表 -タチ『僕の伯父さん』 -中村正貴『東京窓景』	発表とそれをめぐる全員での討議。
9	第5回グループ発表 -ゴダール『勝手にしやがれ』 -ホウ・シャオシェン『珈琲時光』	発表とそれをめぐる全員での討議。

10	第6回グループ発表 -黒澤『天国と地獄』 -宮崎『コクリコ坂から』	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
11	東京フィルムセンター常設展見学	常設展を見学し、日本映画史を概観する。
12	第7回グループ発表 -ゲリン『シルヴィアのいる街で』 -ヴェンダース『ペルリン 天使の詩』	発表とそれをめぐる全員での討議。
13	第8回グループ発表 -黒沢『叫び』 教員講義	発表とそれをめぐる全員での討議。 前期レポートに関するレクチャー
14	教員講義	春学期の補習。 3 年は春学期やった主題に関するレポートを提出。 4 年は自由研究レポートを提出。

秋学期

回	テーマ	内容
1	秋学期ガイダンス	新ゼミ長ほかの挨拶。 秋学期の計画。 春学期レポートについてのコメント。教員による場所論レクチャー。
2	第1回個人研究発表	4 年生による研究発表。
3	第2回個人研究発表	4 年生による研究発表
4	フィールドワーク	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
5	第3回個人研究発表	4 年生による研究発表。
6	第4回個人研究発表	4 年生による研究発表。
7	第5回個人研究発表	4 年生による研究発表。
8	第6回個人研究発表	3 年生による個人研究発表。
9	フィールドワーク	法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
10	第7回個人研究発表	3 年生による個人研究発表。
11	国際文化情報学会準備	国際文化情報学会の展示物の作成等。
12	第8回個人研究発表	3 年生による個人研究発表。
13	フィールドワーク	3 年生の研究レポート提出 法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。
14	フィールドワーク	4 年生の卒業研究提出。 法政から近い東京の一角を歩き、ミニレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表や研究に関する文献調査やフィールドワークや作品鑑賞。
ゼミ生と相談のうえ夏期合宿を行う。
ゼミ生と相談のうえ国際文化情報学会で研究発表をする。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布する

【参考書】

五十嵐太郎『映画の建築／建築的映画』春秋社
高橋世織『映画と写真は都市をどう描いたか』ウェッジ

【成績評価の方法と基準】

ゼミ参加度 (50 %) と期末レポート (50 %) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論をより活発にする。メリハリをつける。

【学生が準備すべき機器他】

前期発表に関して事前に関連 DVD（岡村研究室所蔵）をよく観ること。デッキの鍵を借用・返却をしっかりとすること。

【その他の重要事項】

書籍を買ったり、美術館へ行ったり、映画鑑賞をしたり、街歩きや旅行をしたりする好奇心と体力と余裕があること。ゼミのメンバーと協力しあい、責任を分担すること。

表象文化演習－現代文化創造論－

岩川 ありさ

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文化を創造することは社会を見る新しい視座を獲得することです。1 年間の演習を通じて、テレビやインターネットで見聞きしている現代社会の諸問題について考える力を養い、毎日、何気なく触れている、マンガ、ドラマ、アニメーション、映画、演劇、2.5 次元ミュージカル、ファンアートなどの表象文化を批判的に検討する方法を学びます。1 年間のテーマは、「自分をかたちづくるもの、社会をかたちづくるもの」です。様々な領域や興味関心を繋ぎながら、現在とは別様の文化を創造するための知識や技法を身につけます。

【到達目標】

- (1) 授業で学んだトピックについて、具体例をあげながら、表象分析が行える。
- (2) 論点を整理してディスカッションを行うことができる。
- (3) グループワークを通じて現代文化を創造するための具体的な展望を得る。

【授業の進め方と方法】

- (1) 演習形式で行います。
- (2) 春学期は、毎回の授業の前半に現代社会と表象文化を繋ぐレクチャーをし、授業後半に 1～2 名の担当者が論点を整理し、ディスカッションを行います。
- (3) 秋学期は、現代社会における様々なトピックに関する表象分析を行い、個人研究発表を行います。それをもとにして、グループワークを行い、現代文化の新たな展望について具体的な計画や構想をまとめます。
- (4) 双方向的なやりとりを重視するので、レクチャー中の質問やとりあげたいトピックや表象作品の提案も歓迎します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ生の自己紹介、1 年間の授業計画や運営について、グループ分け。また、現代社会における諸問題を表象文化を通して考えるための視座をいくつか提起します。
第 2 回	わたしをかたちづくる条件 (1)	「鉄腕アトム」(1963)、「新世紀エヴァンゲリオン」(1995)、「おそ松さん」(2015) などのアニメーションを分析し、「わたし」という存在をかたちづくっているものは何かについて、普遍的な問いと時代による差異について考えます。
第 3 回	わたしをかたちづくる条件 (2)	1980 年代、1990 年代の文化状況について漫画家の岡崎京子を通して紹介した後、映画「ヘルタースケルター」(2012) について分析し、美をめぐるイデオロギーと身体の問題について考えます。
第 4 回	わたしをかたちづくる条件 (3)	「ホーホケキョ」となるの山田くん」(1999)、「ハッシュ」(2001)、「サマーウォーズ」(2009) などの作品を分析し、家族の多様性について考えます。

第 5 回	他者に触れるということ (1)	「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」(アニメ版 2011、実写版 2013)、「心が叫びたがってるんだ。」(2015) など岡田磨里の脚本について分析し、他者に触れることの痛みやトラウマの問題について考えます。
第 6 回	他者に触れるということ (2)	「君の名は。」(2016)、「この世界の片隅に」(2016) など、2016 年から 2017 年に多くの人が観た作品をとりあげて、時代的な背景を理解しながら、「共感」やジェンダーの問題について考えます。
第 7 回	他者に触れるということ (3)	吉野源三郎「君たちはどう生きるか」(1937) と羽賀翔一が漫画化した『漫画 君たちはどう生きるか』(2017) を通して、人が社会の中で生きていることの意味について考えます。
第 8 回	社会の中で生きるということ (1)	岩崎航の詩集『点滴ボール 生き抜くという旗印』(2013) を通してケアという側面から社会と文化について考えます。
第 9 回	社会の中で生きるということ (2)	映画「わたしは、ダニエル・ブレイク」(2016) を通して社会保障とセーフティネットの仕組みについて考えます。
第 10 回	社会の中で生きるということ (3)	映画「わたしは、ダニエル・ブレイク」(2016) を通して社会保障とセーフティネットの仕組みについて考えます。
第 11 回	生命をめぐる倫理 (1)	映画「ガタカ」(1997) を分析し、優生思想と生命倫理について考えます。
第 12 回	生命をめぐる倫理 (2)	映画「ガタカ」(1997) を分析し、優生思想と生命倫理について考えます。
第 13 回	生命をめぐる倫理 (3)	ハンセン病療養所に暮らした詩人塔和子の詩に沢知恵が曲をつけた「胸の泉に」をめぐるドキュメンタリーを紹介し、次の世代に記憶を伝える方法について考えます。
第 14 回	まとめ	まとめ。秋学期の授業計画、発表順、

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期の授業計画、発表順、グループの確認、発表の仕方について
第 2 回	研究発表 (1)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第 3 回	研究発表 (2)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第 4 回	研究発表 (3)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第 5 回	研究発表 (4)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第 6 回	研究発表 (5)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第 7 回	研究発表 (6)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第 8 回	ラウンドテーブル	これまでの発表をもとにして、自由に意見交換をします。

第 9 回	グループワーク (1)	個人研究を踏まえて、それぞれのグループが、現代社会における様々な問題について相関関係を整理し、表象文化との関わりについてまとめます。
第 10 回	グループワーク (2)	個人研究を踏まえて、それぞれのグループが、現代社会における様々な問題について相関関係を整理し、表象文化との関わりについてまとめます。
第 11 回	全体発表 (1)	グループでまとめた内容について発表し、フィードバックを行います。
第 12 回	全体発表 (2)	グループでまとめた内容について発表し、フィードバックを行います。
第 13 回	ゲスト・スピーカー	現代文化を創り出しているゲストを招き、対話します。
第 14 回	まとめ	これまでの成果を発表し、期末レポートに向けてのフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・担当者は、必要な参考文献を調べた上で、議論を喚起する形で発表できるように準備する。
- ・受講者は、共通テキストを精確に読み、自分が気になった点については調べ、問題意識を持ちながら議論に参加できるようにすること。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

毎回の講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の期末レポート 35%、秋学期の期末レポート 35%、秋学期の個人発表とグループワーク 30%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当者変更のため昨年度のフィードバックはありません。

表象文化演習—ジャンル横断的プロジェクト・チームの結成とコンテンツ制作の実習—

島田 雅彦

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミを作品制作班と研究班に分け、前者では映像制作やキャラクターや脚本の開発を行い、後者はおもに文化研究、サブカルチャー研究に当たってもらう。個々のテーマに沿った論文やエッセイ、小説、シナリオなどの執筆指導も行うが、その成果をドキュメンタリーや映像作品に仕上げることも可能。両者に共通しているのは、コンテンツ作りの具体的ノウハウ、理解や共感を作り出す実践的な表現テクニックを磨くレッスンを行うことである。

【到達目標】

秋学期の学部学会に向け、計画的に論文、作品制作をすすめ、より完成度の高い映像作品の制作、問題に鋭く切り込む批評、エッセイの執筆をする。個々の中に眠っている表現欲や表現スキルを春学期のうちに開発し、秋学期にはその集大成をする。

【授業の進め方と方法】

セメスターの初めに企画会議を行い、各班の方針を決め、早速、必要なレッスンの準備に取り掛かる。またゼミ生が個人的に興味を抱いているテーマを聞き、今後いかに研究を進めるべきか、またどのような形態でその成果を発表するかの相談を受ける。共通の問題系での思考、議論を通じ、また個人研究の指導を通じ、コンテンツ作りに必要な企画力、事務能力を育めればと思う。春学期はエッセイや論文、シナリオや映像の試作品を作ることに当てられるだろう。夏合宿や課外授業を挟んで、秋学期には春学期の成果を生かし、公開可能なレベルの映像作品、エッセイ、そして論文の完成までを指導する。

文章であれ、音楽であれ、映像であれ、身体表現であれ、表現意欲や好奇心あふれる諸君、眠っている才能を開花させたい学生、プレゼン能力を向上させたい学生などの能動的な参加を望む。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第一回	ゼミの狙いはじめに	自己紹介の発展形としてのセルフプロモーション
第二回	企画会議	「私」の研究
第三回	企画会議	キャラクター開発の具体例
第四回	基礎編	歴史上の人物の研究
第五回	基礎編	キャラクター開発
第六回	基礎編	現在必要とされるヒーロー、ヒロイン像
第七回	試作品作り	カメラ、録音機器、編集ソフトの扱い
第八回	個人研究	シナリオの書き方 原作のもじり方 脚色の魔術
第九回	個人研究	カット割り、絵コンテ、カメラワーク
第十回	共同制作	簡単な映像作品、ビデオクリップを作る。各班に分かれ、小品の競作。
第十一回	共同制作	それぞれのテーマ選びに際し、アドバイス
第十二回	共同制作	個別相談
第十三回	共同制作	企画会議

第十一回	共同制作	本作品の制作準備	本作品の製作開始
第十二回	共同制作	本作品の制作	ロケハン、リハーサル、撮影①
第十三回	共同制作	本作品の制作	ロケハン、リハーサル、撮影②
第十四回	共同制作	本作品の制作	撮影、編集
秋学期			
第十五回	共同制作	本作品の上映	内容 撮影、編集、完成
第十六回	共同制作	新たな企画	個人もしくはグループに分かれ、再度、企画会議
第十七回	個人作品制作	企画の吟味	個人もしくはグループに分かれ、再度、企画会議
第十八回	個人作品制作	思い思いのコンテンツ作り	個人もしくはグループに分かれ、再度、企画会議
第十九回	論文指導	3 年のレポートのための指導	中間発表①
第二十回	論文指導	3 年のレポートのための指導	中間発表②
第二十一回	個人作品制作	撮影、編集	複数の作品作りを同時進行で行う①
第二十二回	個人作品制作	撮影、編集	複数の作品作りを同時進行で行う②
第二十三回	個人作品制作	撮影、編集	複数の作品作りを同時進行で行う③
第二十四回	学	春学期、秋学期に作った作品の吟味、新作の制作	これまでに培った技術を生かし、新たな作品作り
第二十五回	学	春学期、秋学期に作った作品の吟味、新作の制作	これまでに培った技術を生かし、新たな作品作り
第二十六回	学	春学期、秋学期に作った作品の吟味、新作の制作	論文、エッセイ編
第二十七回	学	春学期、秋学期に作った作品の吟味、新作の制作	これまでに培った技術を生かし、新たな作品作り
第二十八回	学	一年の成果の公開	商品化、完成度アップ
第二十九回	学	学外でも成果公表	うまくいけば商品化
第三十回	学	発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

編集ソフトやカメラの扱いに関しては学外研修もあり。ゼミの時間外にこちらが推薦する映画、書籍にできるだけ多く触れること。

【テキスト（教科書）】

「小説作法 ABC」新潮社刊 それ以外は授業で指示する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

共同製作での役割、個人研究の成果、学部学会発表などの総合的評価で決定する。評価基準は平常点 **20 %**、レポート、論文 **80 %**とする。

【学生の意見等からの気づき】

共同作業の中では必ずサボる学生がいる。ゼミ内の温度差を解消する。

【その他の重要事項】

2018年度は水曜日の4限に授業を行う。

表象文化演習－視覚芸術研究へのアプローチ

深谷 公宣

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

視覚芸術の様式やスタイルを成立させている要素にはどのようなものがあるのか考察する。2018 年度は、映画を探り上げる。特定の映画作品に表現される物語や社会関係、文化的背景の他、風景、都市、自然、建物、小物、服装、効果音といった、物語の周辺に位置する様々な要素（物語素）にも注目し、映画作品を成立させる要素について解釈する視点や方法を探る。

【到達目標】

- (1) 視覚芸術に表現される様々な要素を、自覚的に「見る」ための、自分なりの「スキーム」を身につける。
- (2) 「見る」とは文化的な作業であること、文化が異なればものの見方が変わることについて、具体例を挙げて説明することができる。
- (3) 視覚芸術作品について、関連資料を批判的に参照しながら、自分なりの解釈を構築した上で口頭発表し、レポートなどの形にまとめることができる。

【授業の進め方と方法】

前期の前半は指定した映画作品（群）について、担当学生に作風や見所を調査報告してもらい、討議する。前期の後半と後期の前半は、「戦争の表象」という観点から特定の作品を分析し、資料を読解する。後期後半は受講者各自が研究主題を定め、研究発表と意見交換を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	導入	映画の基本的な見方について。報告の分担について。
2	古典的ハリウッド映画	作風、物語の傾向、ショットの特徴、空間構成などについて報告と討議（1）
3	ネオレアリズモ	作風、物語の傾向、ショットの特徴、空間構成などについて報告と討議（2）
4	ヌーヴェル・ヴァーグ	作風、物語の傾向、ショットの特徴、空間構成などについて報告と討議（3）
5	フィルム・ノワール	作風、物語の傾向、ショットの特徴、空間構成などについて報告と討議（4）
6	小津安二郎	作風、物語の傾向、ショットの特徴、空間構成などについて報告と討議（5）
7	溝口健二	作風、物語の傾向、ショットの特徴、空間構成などについて報告と討議（6）
8	日活ムードアクション	作風、物語の傾向、ショットの特徴、空間構成などについて報告と討議（7）
9	東映任侠映画	作風、物語の傾向、ショットの特徴、空間構成などについて報告と討議（8）
10	角川映画	作風、物語の傾向、ショットの特徴、空間構成などについて報告と討議（9）
11	『ヒロシマ、わが愛』	戦争の表象はいかにして可能かを考える（1）
12	『この空の花』	戦争の表象はいかにして可能かを考える（2）

- | | | |
|----|----------------|-----------------------|
| 13 | 『ペコロスの母に会いに行く』 | 戦争の表象はいかにして可能かを考える（3） |
| 14 | 『この世界の片隅に』 | 戦争の表象はいかにして可能かを考える（4） |

秋学期

回	テーマ	内容
15	『シンドラーのリスト』と『ショア』	戦争の表象はいかにして可能かを考える（5）
16	資料読解（1）	戦争と映画についての資料を読む（1）
17	資料読解（2）	戦争と映画についての資料を読む（2）
18	資料読解（3）	戦争と映画についての資料を読む（3）
19	資料読解（4）	戦争と映画についての資料を読む（4）
20	資料読解（5）	戦争と映画についての資料を読む（5）
21	資料読解（6）	戦争と映画についての資料を読む（6）
22	研究発表（1）	各自設定したテーマについての研究発表（1）
23	研究発表（2）	各自設定したテーマについての研究発表（2）
24	研究発表（3）	各自設定したテーマについての研究発表（3）
25	研究発表（4）	各自設定したテーマについての研究発表（4）
26	研究発表（5）	各自設定したテーマについての研究発表（5）
27	研究発表（6）	各自設定したテーマについての研究発表（6）
28	まとめ	改めて映画を「見る」とはどういうことかー特に「戦争表象」について討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う作品以外にも、積極的に映画作品を鑑賞すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】

バックランド『フィルム・スタディーズ入門』（晃洋書房）
 ボードウェル、トンプソン『フィルムアート 映画芸術入門』（名古屋大学出版会）
 ライアン『Film Analysis 映画分析入門』（フィルムアート社）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（報告、発言） 60 %
 研究発表 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

表象文化演習－比較文化・比較演劇－

春学期担当：川澄 亜岐子，秋学期担当：竹内 晶子

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

比較演劇・比較文化

「演劇と越境」がテーマ。言語、文化、国籍、ジャンル、性別など、さまざまな「境」を演劇がどう乗り越えていき、新しい作品を作り出していくのかを、具体的な作品鑑賞と分析を通じて考えていきます。キーワード：オリエンタリズム、翻案、異性装、ジェンダー、演劇、映画、アニメ、ミュージカル、能、歌舞伎、宝塚

【到達目標】

- ・小説、漫画、ミュージカル、映画、アニメ、舞台劇、テレビドラマ、古典演劇、バレエなど、異なるジャンルの作品間の比較文化的な分析ができるようになる。
- ・オリエンタリズムやジェンダー、演劇論といった理論を応用した作品分析ができるようになる。
- ・日本の古典演劇について、基本的な知識を身につける。
- ・先行研究をふまえ、細密なテキスト分析にもとづいた、客観的かつ説得力をもった論文を書くことができるようになる。

【授業の進め方と方法】

春学期（担当講師：川澄亜岐子）はジェンダーやオリエンタリズムの理論を学びます。『眠れる森の美女』、『マレフィセント』、『シルク』（2007 年）という 3 本の映画作品を取り上げ、ジェンダーまたはオリエンタリズムの理論を実際に用いて作品分析を試みます。

秋学期（担当講師：竹内晶子）は、日本を代表する特異な演劇ジャンルである、能・歌舞伎・宝塚を取り上げます。それぞれのジャンルの舞台上の特性を学ぶとともに、基本的案演劇理論を応用しながら西洋演劇との比較を行います。演劇における異性装の問題、舞台と観客の関係、演劇における「非リアリズム」の問題などを、作品分析と実際の舞台鑑賞を組み合わせながら考察します。

また授業以外にも、上記の様々なジャンルの舞台に足を運ぶ予定。両学期ともに、学生には各自研究発表を課します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の紹介と説明
2	『眠れる森の美女』Ⅰ	映画鑑賞、ジェンダー理論概説
3	『眠れる森の美女』Ⅱ	映画鑑賞、作品分析（女性のステレオ・タイプ）
4	『マレフィセント』Ⅰ	映画鑑賞、翻案とは何か
5	『マレフィセント』Ⅱ	映画鑑賞、作品分析（書き換えられた女性像）
6	『マレフィセント』Ⅲ	映画鑑賞、作品分析（グループ・ディスカッション）
7	『シルク』Ⅰ	映画鑑賞、オリエンタリズム概説
8	『シルク』Ⅱ	映画鑑賞、作品分析（「フランス」からみた「日本」）
9	『シルク』Ⅲ	映画鑑賞、作品分析（『お菊さん』の系譜）
10	学生発表Ⅰ	四年次生中間発表①
11	学生発表Ⅱ	四年次生中間発表②
12	学生発表Ⅲ	四年次生中間発表③
13	学生発表Ⅳ	三年次生研究発表①
14	学生発表Ⅴ	三年次生研究発表②

秋学期

回	テーマ	内容
15	イントロダクション	授業内容の紹介と説明
16	能Ⅰ	能の構造、身体技法
17	能Ⅱ	能〈安達ヶ原〉と翻案

18	能Ⅲ	新作能〈マレフィセント〉
19	歌舞伎Ⅰ	歌舞伎の構造
20	歌舞伎Ⅱ	歌舞伎の女形
21	歌舞伎Ⅲ	新作歌舞伎〈マレフィセント〉
22	宝塚Ⅰ	宝塚と男役
23	宝塚Ⅱ	新作宝塚〈マルフィセント〉
24	学生発表Ⅰ	四年次生中間発表①
25	学生発表Ⅱ	四年次生中間発表②
26	学生発表Ⅲ	四年次生中間発表③
27	学生発表Ⅳ	三年次生研究発表①
28	学生発表Ⅴ	三年次生研究発表②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題テキストを読み、発表準備をすること。
- ・期末論文の調査・執筆・書き直し。

【テキスト（教科書）】

適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】

- ・エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』平凡社、1992 年。
- ・若桑みどり『お姫様とジェンダー アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』（ちくま新書）筑摩書房、2003 年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30 パーセント
- ・課題提出 20 パーセント
- ・発表 20 パーセント
- ・期末論文 30 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

板書を多用します。

表象文化演習ーポップ・カルチャー／ポピュラー音楽の系譜ー

林 志津江

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポピュラー音楽と、その周辺の文化現象や芸術形式（ポップ・カルチャー）について、さまざまに思考をめぐらせてみたいと思います。ロック、ジャズ、ポップミュージック、ラップ、ヒップホップ、テクノ、フォーク、パンク、J-POP、K-POP、アイドル…などと呼ばれる現象の実像、ポップ・カルチャー全般を成立させている諸要素とともに、私たちと音楽・芸術の関わりを通して見える社会のあり方にするべく迫ります。キーワードは「メディア、テクノロジー、ボディ（身体）、アイデンティティ」です。

【到達目標】

- ・芸術形式としての音楽ならびにポピュラー音楽の基本的構成要素、モダン・アートの形式の多様性に関する知識を得て、批判的な洞察を行うことができる。
- ・メディア論の主要なテーゼや「記憶」「世代」「身体性」「アイデンティティ」等の概念の意味、それらとポピュラー音楽／ポップ・カルチャー（拡大芸術）との関連を理解できる。
- ・ポピュラー音楽／ポップ・カルチャーという現象の特質、あるいは個々の作品や音楽シーンに関するテーマで、論理的に明解でまとまった自分のテーゼを提示できる。
- ・良いリスナー、良い観察者になれる。ミュージシャン／作曲家と批評家の関係、正当な音楽批評とは何か、音楽批評は印象批評を超えることができるのか、多様化する芸術形式の意義について、思考をめぐらせることができる。
- ・芸術と政治・社会との関わりとその困難に対し、誠実な想像力を持つことができ、それに関する自身の思考を言語化することができる。

【授業の進め方と方法】

- ・両学期ともに、参加者は研究発表を行います。
- ・春学期と秋学期初頭は、全授業回、ポピュラー音楽を中心とする基本的な枠組みを、時系列的に概観していきます。参加者はそのうちのいずれかについて発表を行います。
- ・秋学期は、自分自身のテーマで発表を行う方法で進めます（国際文化情報学会の参加は演習参加者のみなさん自身で決定します）。
- ・各回、発表の後は全員で議論を行います。自発的に議論に参加できない人は出席と認められません。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この演習について、研究発表の分担を決める、音楽について日頃感じていること、「ポピュラー音楽」と自分の関わりについて、みんなでざっくばらんに話してみよう
2	「ポピュラー音楽」の基本的き	「ポピュラー音楽」って？「ポピュラー音楽」じゃない音楽って何？ ポピュラー音楽とポップカルチャー、楽曲形式（1）
3	テクノロジーの夜明け	大量生産・大量消費時代の幕開け、レコード（フォノグラフ、グラモフォン）の誕生とラジオ
4	余暇の誕生	ラジオ・レコード・マイクロフォン、映画館とダンスホール、ジャズ・エイジの到来、楽曲形式（2）
5	若者・階級・音楽	余暇の誕生、中産階級の産み出した「若者」世代、ラジオと音楽、プチ・ブルと労働者の断絶

6	新しいメディア・新しい音楽	戦争がもたらしたものの、第二次世界大戦後のアメリカ合衆国、ロックンロールの誕生
7	ラジオ、テレビの普及・映画と音楽	映画にとって好都合なヒーロー・ヒロイン像、「LP レコード」と「ドーナツ盤（45 回転シングル）」
8	階級と音楽・ロックンロールからロックへ	フォークソングとビートニク、リパバールにあってロンドンになかったもの、「アーティスト」化するミュージシャン
9	カウンターカルチャーの台頭	ロックの市場価値、批評の対象となるロック、FM 電波とアメリカンニューシネマ、ヴェトナム戦争と音楽フェスティバル
10	反抗の音楽／文化産業としてのロック	疎外される若者たち、「詩人的な生き方」と労働者階級の若者たち、「アートスクール」が作り出した音楽
11	人種と音楽と社会・パンク・スカ／レゲエ	階級と人種、難しくなるロックとそれについていけない若者たち、「パンクはアティテュードだ」、移民たちのスカ／レゲエ
12	階級闘争と新しいメディア・MTV の誕生	モダン・アートとミュージシャン、ディスコで過ごす夜、疲弊する工業都市とテクノ、CD と「見る音楽」の誕生
13	ロック／ポップミュージックとジェンダー	孤独とエンターテインメントの両極化、「インテリ」とロック、「女性ロックミュージシャン」という職業、女性による女性たちのための歌
14	サンプリングと冷戦の終結	DJ というアーティスト、B-Boys/B-Girls とヒップ・ホップ、ベルリンでテクノが興隆した理由

秋学期

回	テーマ	内容
15	「日本のロック」・洋楽 VS. 邦楽	グループサウンズと「アメリカ」に対する憧れ、ロックかフォークか、ジャズ喫茶という文化、「はっぴいえんど」の登場
16	歌謡曲—ニューミュージックかアイドルか	ロックの困難と歌謡曲の時代、アイドルという存在（1）
17	記号化するバンドとアイドル・豊かさの後の音楽	アイドルという存在（2）、インディーズと「渋谷系」、J-POP と韓流の夜明け
18	音楽のデジタルデータ化・疲弊する旧メディア	WINMX と CCCD、ナップスターと iPod/iTunes、Wi-Fi と YouTube
19	研究発表（国際文化情報学会の準備）（1）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
20	研究発表（国際文化情報学会の準備）（2）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
21	研究発表（国際文化情報学会の準備）（3）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
22	研究発表（国際文化情報学会の準備）（4）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
23	研究発表（国際文化情報学会の準備）（5）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
24	研究発表（国際文化情報学会の準備）（6）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
25	研究発表（国際文化情報学会の準備）（7）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
26	研究発表（8）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
27	研究発表（9）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う
28	研究発表（10）	各自の選んだテーマに沿って研究発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各自に必要な文献を読み、研究発表の準備を行います。以下に掲載の【参考書】も随時読むこと。

・自分にとって必要だと思う文献や、考えるヒントをつねに探し、アクセスして下さい。他の授業にも全力で取り組み、様々なメディアに目配せし、情報を入手しない取捨選択する術を磨きましょう。

・活字、特に日刊紙に日々触れて下さい。この演習での経験を、充実した日々の営みとするだけでなく、就職活動はもちろんのこと、自分の今後の人生すべての糧とするという気概を持って下さい。

・音楽を聴いたりライブへ出かけたり、さまざまな音楽に関わる活動はもちろん素晴らしいことです。それ以外にも活字に触れる、映画や展覧会、舞台芸術、スポーツ観戦、寺社巡りや街歩きなど、何でも積極的にチャレンジして、心揺さぶられる体験にたくさんめぐりあって下さい。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は用いません。

【参考書】

・W.・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収）

・Th.-W. アドルノ（三光長治・高辻知義訳）『不協和音 — 管理社会における音楽』（平凡社）1998年／Th.-W. アドルノ（高辻知義・渡辺健訳）『音楽社会学序説』（平凡社）1999年

・M.・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987年

・H.・プレザンツ（片岡義男訳）『音楽の革命 — バロック・ジャズ・ビートルズ』（晶文社）1971年

・スーザン・マクレアリ（女性と音楽研究フォーラム訳）『フェミニン・エンディング 音楽・ジェンダー・セクシュアリティ』（新水社）1997年

・F.・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999年

・J.・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史 — ビッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017年

・小川博司『音楽する社会』（勁草書房）1988年

・渡辺裕『聴衆の誕生 — ポスト・モダン時代の音楽文化』（中公文庫）1989年

・細川周平『レコードの美学』（勁草書房）1990年

・渡辺潤『アイデンティティの音楽 — メディア、若者、ポピュラー文化』（世界思想社）2000年

・南田勝也『ロックミュージックの社会学』（青弓社）2001年

・野田努『ブラック・マシン・ミュージック — ディスコ・ハウス・デトロイト・テクノ』（河出書房新社）2001年

・東谷護編著『ポピュラー音楽へのまなざし』（勁草書房）2003年

・生明俊雄『ポピュラー音楽は誰が作るのか — 音楽産業の政治学』（勁草書房）2004年

・上田誠二『音楽はいかに現代社会をデザインしたか — 教育と音楽の大衆社会史』（2010年）

その他適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

研究発表＋授業への積極的な参加・貢献 60 %、レポート課題 40 %を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見ヒアリングは逐次行い、意志の疎通と内容改善につとめます。

【その他の重要事項】

・参加者の興味や意向に沿って、上記の項目や内容・順序は変更されることがあります。

・「ポピュラー音楽論」を履修していない人は、今年度併せて履修して下さい（隔年開講なので 2019 年度は開講なし）。

・音楽が大好きという方の参加はもちろん歓迎します。バンドやオケ、ブラスバンドや各種アンサンブルグループに参加している、歌ったり楽器を弾いている方はもちろんのこと、大好きなミュージシャンやアイドルについて語りたい、クラシック音楽が（も）好き、「（実は）パリピ」であったりダンスが好きな方など、何であれ自分の熱い気持ちを（本当は）誰かに伝えたいと思っている人は、この演習が楽しめると思います。古典的西洋音楽の形態（クラシック音楽）へのアプローチも当然可能です。

・本演習は「音楽だけに関心があるわけではない」という人、いろんなことに興味があってひとつに決められないという方にとっても、やりがいのある内容だと思います。あなたの興味の正体は何なのか、メディアとメディアの境目には何があるのか、形式の多様性に関する問いこそが、ポピュラー音楽の本質にも関わっています。

・「音楽とか別にそんなに興味ないけどね」などと思っている方ももちろん大歓迎です。ポピュラー音楽や様々な文化現象の洞察を通じて、私たちは私たち自身の属する文明社会の一端をかいま見ることになるはずです。

・音楽学（楽典、音楽理論）やデジタル音楽技術についての知識は特に必要ありませんが、それがあればより楽しめるテーマもありえます。また平易な音楽理論は楽曲分析に必要ですが、そこは発表者の説明次第で、参加者の誰もが理解できるはずです。

・本演習は「表象文化演習」と銘打たれていますが、SA の経験はもちろんあらゆる学びの経験が、演習に取り組むための重要な礎になります。

・音楽コンテンツを制作するという演習ではありません。

・本演習は音楽サークルや音楽雑誌の愛好会とは違います。アーティストや楽曲をめぐる音楽談義を繰り広げる場ではなく、むしろ音楽談義的文化の背景にあるもの、嗜好品と社会とのかかわり、アイデンティティの構成要素としての排他性について考える場所です。演習で鍛えるのは「誰もがわかる言葉で事柄を説明できる能力」の方であり、知識の量で相手を圧倒するような態度は、当然ながら評価の対象外です。

・メディア技術の発展のおかげで、今や音楽は最も安価（＝タダ同然で手に入るように思えるもの）なコンテンツのひとつになりました。演習ではもちろんそうした現象についても批判的な検討を試みますが、著作権は絶対に守って下さい。もちろん音楽以外の著作権についても同様です。

言語文化演習－対人配慮の語用論－

江村 裕文

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは言語によるコミュニケーションである。

言語を話せることとその言語でコミュニケーションすることとは全く異なった問題である。

最近の若者はコミュニケーション能力に問題があるという。彼らは日本語が話せないわけではない。日本語でのコミュニケーションのやり方が問題なのである。

日本人は母語を日本人のやり方で使用している。外国人も彼らのやり方で自分たちの母語を使用している。この言語の使用法の違いを異文化と称する。つまり「やり方」が異なっているのだ。

この演習では、テキスト読解による知見と SA での経験をもとに、日本人が無意識に身につけている「やり方」を意識化し、相手の「やり方」を理解する方法を学びの目標とする。

【到達目標】

授業を通して、基本的な「語用論」・「日本語」・「敬語」等に関する概念を共有し、それらの知見を応用して、現実の日本人の日本語使用の分析できる学力および知識を身につける。

【授業の進め方と方法】

まずは自分たちが母語つまり日本語をどのように使用しているかという実態を観察し、次に「語用論」・「談話分析」・「発話行為論」・「コミュニケーション論」等の知見を応用して分析する。

具体的には、授業計画であげたような項目について、観察をはじめ（ボトムアップのアプローチ）。同時に並行して理論書の講読をすすめていく（トップダウンのアプローチ）。

最終的には、受講者の問題意識に応じて、現象の断片について個々に考察をすすめる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	具体的エピソード i	外国人の日本語使用から「気づく」日本語使用上の問題点を紹介する。
第2回	具体的エピソード ii	第一回に引き続き、問題点を紹介する。
第3回	具体的エピソード iii	前回に引き続き、問題点を紹介する。
第4回	文献講読 ①	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第5回	文献講読 ②	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第6回	文献講読 ③	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第7回	文献講読 ④	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第8回	文献講読 ⑤	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第9回	文献講読 ⑥	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第10回	文献講読 ⑦	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第11回	文献講読 ⑧	鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」を読む
第12回	まとめ ①	「日本語の文体」について、各自の課題について
第13回	まとめ ②	「日本語のムード（法）」について、各自の課題について

第14 春学期試験
回

鈴木睦「日本語教育における普通体世界と丁寧体世界」に関する試験

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	春学期のまとめと課題の確認	より具体的に課題を整理し、レポートにまとめる上でのプロセスを確認する
第2回	文献講読 ①	滝浦『ボライトネス入門』を読む デュルケム・ゴフマンの議論について
第3回	文献講読 ②	滝浦『ボライトネス入門』を読む ブラウン＆レヴィンソンの「ボライトネス理論」について
第4回	文献講読 ③	滝浦『ボライトネス入門』を読む 日本語の「敬語」について
第5回	文献講読 ④	滝浦『ボライトネス入門』を読む 日本語の「敬語」について
第6回	文献講読 ⑤	滝浦『ボライトネス入門』を読む 日本語の「呼称詞」について
第7回	文献講読 ⑥	滝浦『ボライトネス入門』を読む 日本語の「指示詞」について
第8回	文献講読 ⑦	滝浦『ボライトネス入門』を読む 日本語の「終助詞」について
第9回	文献講読 ⑧	滝浦『ボライトネス入門』を読む 日本語の「終助詞」について
第10回	まとめ ①	「ボライトネス」理論に関するまとめ
第11回	まとめ ②	「ボライトネス」理論の枠組みによる具体的研究について
第12回	テーマに関する報告 ①	各自のテーマについて報告する
第13回	テーマに関する報告 ②	各自のテーマについて報告する
第14回	全体のまとめ レポート提出	各自の課題について報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その都度言及するアサインメントに必ずアクセスし、自分で自分が扱うべき領域を開拓していくように努めること。

【テキスト（教科書）】

まずは、鈴木睦「普通体世界と丁寧体世界」を読み、問題の所在を共通の知識とする。さらに、滝浦真人『ボライトネス入門』で理論的な枠組みを身につけて、各自の課題に取り組む準備とする。また、必要に応じて参考書にあげた「語用論」「談話分析」に関する文献へと読み進めていく。

【参考書】

ブラウン＆レヴィンソン／田中典子監訳 (2011)『ボライトネス』研究社
 滝浦真人 (2005)『日本の敬語論』大修館書店
 井出祥子 (2006)『わきまの語用論』大修館書店
 三宅和子 (2011)『日本語の対人関係把握と配慮言語行動』ひつじ書房
 トマス／浅羽亮一監修 (1998)『語用論入門』研究社
 オーティエ編／浅羽亮一監修 (2004)『異文化理解の語用論』研究社

【成績評価の方法と基準】

春学期は、平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価する。

秋学期は、平常点40点、レポートの得点60点、合計100点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

日本語の研究を通して得られた知見が、各学生の分野としている言語における研究の傾向や蓄積と合致しないことがあり、そのまま応用するのに困難を感じるという学生がいるが、それは、逆に考えると、テーマをうまく設定すれば、パイオニアになれる可能性があるということなので、やりがいがあるはずである。

言語文化演習－アフリカの文化を学ぶ－

栗飯原 文子

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんはアフリカについて何を知っていますか？ 何を連想するでしょう？

わたしたちが「知っている」アフリカとは、えてして、広大な大陸のごく一部を、ある特定の見方から切り取ったイメージでしかありません。アフリカとは実に 50 以上の独立国を含み、地域や民族によって全く異なる言語・文化・慣習が存在する広大で豊かな場所。この演習では、そんな多様性豊かなアフリカの文化表現に触れ、さまざまな時空間を「旅」することで、アフリカについて多角的に学んでいきます。

なお、アフリカを学ぶことで、他の旧植民地地域の歴史や文化にも関心を向けられるかもしれません。受講生個人の研究・発表のテーマは、アフリカに限らず、南アジアやカリブ海などの地域を対象とすることも可能です。

【到達目標】

- ・ アフリカのさまざまな文化表現を通して、アフリカの多様性を理解し、かつアフリカの歴史・社会・政治に幅広く触れる。
- ・ アフリカ（および旧植民地地域）について学び、考えることで、「世界史」への新しい視座を得る。
- ・ 批評・議論の力を発展させ、自主的な調査・研究の方法を身につける。

【授業の進め方と方法】

- ・ アフリカの文化表現とそれに関する議論や批評に触れる。そこから、文化表現が指し示す文脈、ないしは文化表現が生まれる文脈についても理解を深められるようにする。
 - ・ 映画鑑賞の回以外は基本的にはゼミ形式で進めていく。担当者が問題提起を含む発表を行い、そのつど全体で討論する。
 - ・ 春学期のレポートは文献リストから一冊を選択して「書評レポート」を書く。
- また秋学期の後半には、秋学期のレポートのもとになる研究発表を行ってもらう。授業内で扱ったテーマから選んでもよいが、個人の関心や問題意識にもとづいて自由にテーマを設定することもできる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の演習の進め方を説明。自己紹介。
第 2 回	レポートと論文の書き方を身に付ける	レポートや論文の書き方について、疑問や不明な点を解消できるように基本事項を復習する。
第 3 回	アフリカの歴史を学ぶ①	わたしたちはどのようにアフリカにアプローチすべきか。まずは大陸の歴史を概観する。
第 4 回	アフリカの歴史を学ぶ② 抵抗の歴史	アフリカ大陸の歴史を「抵抗」という切り口から学ぶ。
第 5 回	ルワンダへの視座①	ルワンダ虐殺とは何であったのか。歴史的に長いスパンで学んで理解を深める。
第 6 回	ルワンダへの視座②	映像作品やエッセイなどを通じて、ルワンダ虐殺について考える。
第 7 回	アルジェリア解放戦争①	アルジェリアの歴史を概観し、さまざまな文献にふれて解放戦争についての理解を深める。
第 8 回	アルジェリア解放戦争②	映画『アルジェの戦い』を鑑賞したうえで、作品について議論を行う。

第 9 回	南アフリカ真実和解委員会①	南アフリカ共和国の真実和解委員会の取り組みについて学ぶ。
第 10 回	南アフリカ真実和解委員会②	真実和解委員会について映画を通して学ぶ。
第 11 回	イメージとしてのアフリカ①	アフリカに関する偏見やステレオタイプはどのようにつくられてきたのか。複数の文献から、歴史的に検証する。
第 12 回	イメージとしてのアフリカ②	引き続き、さまざまな文献の精読を通じて、「アフリカのイメージ」がつくられてきた歴史と背景を学び、討論を行う。
第 13 回	アフリカのポピュラーカルチャー	アフリカのポピュラーカルチャーのいくつかの事例を、さまざまな文献を通して学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	レポートの提出。春学期で学んだことの復習。

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期の演習の進め方について説明。国際文化情報学会および学期後半に行う個人研究発表について意見を交換する。
第 2 回	アフリカ文学を学ぶ①	アフリカ人作家のエッセイを通して、アフリカ文学を読解する手ばかりをつかむ。
第 3 回	アフリカ文学を読む②	アフリカ文学作品を精読、担当者が批評・分析の対象となる箇所を指摘したうえで、全体で討論を行う。
第 4 回	アフリカ文学を読む③	アフリカ文学作品を精読、担当者が批評・分析の対象となる箇所を指摘したうえで、全体で討論を行う。
第 5 回	パンアフリカニズムという夢	パンアフリカニズムの歴史、思想について、複数の文献を参照しながら理解を深める。
第 6 回	ネグリチュードとはなにか	「ネグリチュード」について、その担い手、思想・表現のあり方など、基本事項を学び、複数の文献を通して関連する議論に触れる。
第 7 回	アフリカとグローバル経済	関連する文献を読んで議論する。
第 8 回	ドキュメンタリー映画で学ぶアフリカ	文献を読んだうえで、ドキュメンタリー映画を鑑賞し議論する。
第 9 回	研究発表①	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 10 回	研究発表②	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 11 回	研究発表③	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 12 回	研究発表④	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 13 回	研究発表⑤	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のレポート、卒業研究の提出。秋学期で学んだことの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 次週のための準備・予習は必ず行うこと。
- ・ 文献を読む場合、指名された担当者はレジュメを作成して発表する。また、発表担当の有無によらず、受講者全員が文献を共有し、問題意識をもって授業に臨んでほしい。
- ・ 春学期・秋学期ともにレポートを課題として出すので、そのための調査を独自に行うこと。

【テキスト（教科書）】

授業時にコピーを配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への貢献度、授業時間内の課題の提出） 10 %
- ・授業での発表（調査やレジユメの完成度） 30 %
- ・学期末のレポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生の自主的な学習、授業への積極的な参加をうながせるよう工夫をおこないたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・全員が何らかの形で授業に貢献すること。
- ・授業で提示された文献をしっかり読むのは言うまでもなく、自分で文献を探して積極的に読んでいき、研究テーマをできるだけ早く見つけられるようにする。
- ・英語（仏語）の読解能力を身につけてもらいたいの、個人の調査・研究にもなるべく英語（仏語）文献や資料を用いること。

言語文化演習 一身近な文化を読みほぐく一

衣笠 正晃

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのような社会でも、その文化はつねに異文化＝他者との出会いや対決のなかで自らを形成し続けており（＝相関的）、その結果として多様な（＝複数的）要素が、重なり合って存在する（＝重層的）ものとなっています。

本ゼミではこのような〈相関性・複数性・重層性〉という視点から、われわれを取り巻くさまざまな文化事象を、ゼミの仲間との自主的な議論を通じて考察してゆきます。そのなかで現代社会のあり方とそれが抱える問題を深く理解するとともに、それに向き合う視座と判断力を身につけることを目指します。

なおこれまで本ゼミの授業や個人研究で取り上げられてきた対象は、アニメ、マンガ（コミック）、映画、ポピュラー音楽、ファッション、ツーリズム（観光）から、スポーツ社会学、都市空間論、教育問題、言語と社会、IT と社会など、多岐にわたります。

【到達目標】

- 1) 比較文学・比較文化、カルチュラル・スタディーズ、文化社会学、メディア・スタディーズなど、文化を研究・分析するために必要な理論的枠組みや知識を習得する。
- 2) 幅広い知的好奇心を保ちつつ自らの関心領域を絞り込み、具体的な文化事象の考察をおこない、現代世界の諸問題とその歴史的文脈について理解し、自らの考えを深める。
- 3) 個人研究の発表、グループでの討議・報告を通じて、自らの意見を説得的に伝えることのできる論理性・プレゼンテーション力を身につける。
- 4) 先行研究など文献の読解やフィールドワークなどの調査に必要な、アカデミック・スキルを学び取る。

【授業の進め方と方法】

上記の目標を実現するため、このゼミではグループワークと個人研究を並行しておこないます。

春学期には、文化を考えるための基礎となる理論や考え方を確認するため、先行研究を一緒に読み進め、討議します。学期後半からは秋学期の国際文化情報学会を視野に入れつつ、グループワークによるプレゼンテーションをおこないます。

秋学期は国際文化情報学会への参加準備のためのグループワークと、各自の個人研究の紹介・発表を並行して進めます。また随所で理論的な枠組み、モデルとなる研究を検討します。

演習参加者は自分の関心に応じてテーマを自由に設定し（必要に応じて担当教員がアドバイスします）、授業を通じた学び、ゼミ生相互の批評やアドバイスを生かしながら、自らの研究として集約します。

発表者はグループの場合も、個人の場合も、レジュメを作成し、パワーポイントなどを用いて発表をおこないます（事前に資料を配布してもらいます）。発表に対しては全員が参加してのディスカッションをおこないますので、担当者以外の人も十分な予習と積極的な発言が求められます。また毎回各自のコメントを提出してもらいます。

なお授業での講読文献・グループワークのテーマについては、ゼミメンバーの関心や研究テーマを考慮して決定します。

また夏休み中に実施予定の合宿では、テーマを決めた学習会と、研究の中間報告を予定しています。加えて学期中にフィールドワークを実施する予定です。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	シラバスの確認、各自が関心をもつトピックの紹介、授業の進め方の確認

2	イントロダクション	文献や資料探索の方法の紹介・確認
3	個人研究紹介	4 年生による個人研究の紹介
4	文献講読の導入	とりあげる文献についての紹介・解説
5	グループワーク (1)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(1)
6	グループワーク (2)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(2)
7	グループワーク (3)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(3)
8	グループワーク (4)	文献講読（担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション）(4)
9	フィールドワーク	東京の街を歩くなかでの問題発見とレポートの作成
10	グループワーク (5)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (1)
11	グループワーク (6)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (2)
12	グループワーク (7)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (3)
13	グループワーク (8)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (4)
14	総括と反省	春学期の議論のまとめ、夏合宿の準備

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期のスケジュールの確認
2	個人研究発表 (1)	3 年生による個人研究構想の紹介 (1)
3	個人研究発表 (2)	3 年生による個人研究構想の紹介 (2)
4	学会準備 (1)	国際文化情報学会でのゼミ発表の準備 (1)
5	学会準備 (2)	国際文化情報学会でのゼミ発表の準備 (2)
6	学会準備 (3)	国際文化情報学会でのゼミ発表の準備 (3)
7	学会準備 (4)	国際文化情報学会でのゼミ発表の準備 (4)
8	グループワーク (1)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (1)
9	個人研究発表 (3)	3 年生による個人研究の中間発表 (1)
10	個人研究発表 (4)	3 年生による個人研究の中間発表 (2)
11	グループワーク (2)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (2)
12	個人研究発表 (5)	4 年生による個人研究の発表 (1)
13	個人研究発表 (6)	4 年生による個人研究の発表 (6)
14	総括と反省	秋学期の議論のまとめ、来年度に向けての話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・指定ないし配布された文献・資料を十分に読み込んでおくこと。関連する資料・情報について事前の指示にしたがって（または自主的に）収集・入手し、理解につとめること。

・発表を担当する場合（グループ、個人とも）は、レジュメ等の資料作成を含め、プレゼンテーションの準備をおこなうこと。担当しない場合も事前の指示にしたがって予習をおこない、質問・議論すべき点をあらかじめ考えておくこと（内容の要約をミニレポートとして提出してもらう場合があります）。

・フィールドワークなどの際、指示にしたがってレポートを作成し、提出すること。

【テキスト（教科書）】

・田中東子ほか（編著）『出来事から学ぶカルチュラル・スタディーズ』（ナカニシヤ出版、2017 年）本体価格 2,500 円

※その他文献や資料のプリント類を随時使用します。

【参考書】

授業中に随時紹介します。ブックガイドとして下記のものを挙げておきます。

・井上俊・長谷正人（編著）『文化社会学入門——テーマとツール』（ミネルヴァ書房、2010 年）

・井上俊・伊藤公雄（編）『日本の社会と文化』（世界思想社、2010 年）

・井上俊・伊藤公雄（編）『文化の社会学』（世界思想社、2009 年）

・佐藤健二・吉見俊哉（編）『文化の社会学』（有斐閣、2007 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業準備、発表、議論への参加など。50 %）、提出物（リアクションペーパー、課題、レポートなど。50 %）をあわせて評価します。

なお評価にあたっては、以下の 5 点に着目します。

(1) 文化を研究・分析するための基本概念と方法論を理解・習得できているか。

(2) 対象とする事例について、十分な情報にもとづいて、社会的・歴史的な文脈のなかで正確に理解できているか。

(3) 文献読解や調査のスキルを習得できているか。

(4) 報告や議論を通じてコミュニケーション能力を向上させ、共同の学びに積極的に参加・貢献できているか。

(5) 授業での学習成果を主体的・説得的に表現できているか。

【学生の意見等からの気づき】

・春学期においては、アカデミック・スキルの確認と理論的学びにさらに重点が置けるよう配慮したい。秋学期においては、学会準備に加えて、各自の個人研究・論文執筆を一層充実させるよう、指導を強化したい。

【その他の重要事項】

自分の研究テーマに閉じこもるのではなく、幅広い知的関心をもってグループワークに参加するとともに、他のメンバーのテーマにたいして積極的にコメントし、アドバイスできる皆さんの参加を期待しています。

言語文化演習－世界遺産に学ぶ－

佐々木 直美

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは SA 中あるいは個人旅行などでこれまでにいくつかの世界遺産に触れ感動した経験があることでしょうか。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。南米ペルーを代表する世界遺産マチュ・ピチュの劣化や中東のエルサレムに生じている危機はそれらの例です。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれにまつわる様々な問題を掘り下げ研究します。

【到達目標】

- ①世界遺産を通じて歴史と異文化への理解を深める。
- ②世界が抱える諸問題を認識し、それについて自分の意見を述べ議論を展開させる力を付ける。
- ③資料収集、文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。
- ④世界遺産検定 2 級あるいは 1 級程度の知識を付ける。

【授業の進め方と方法】

ゼミ生との話し合いによってゼミ全体での研究テーマを設定し、その基礎文献の輪講と討論を行います。場合によってはフィールドワークへ出ることもあります。

また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会への参加準備も行いますので、積極的なゼミへの参加と協力が求められます。

今年度は、世界遺産検定 1 級取得を目指しながら、授業を進めます。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 1	3 年生に対する、昨年度何をやってきたか、の説明（4 年生と教員による）。 今年度のテーマについて議論する。
2	イントロダクション 2	世界遺産の基礎知識を学ぶ。 課題図書の選定を行う。
3	世界遺産の現状と課題	世界遺産の現状と問題について理解を深めるため、グループに分かれて研究を行う。
4	世界遺産の現状と課題	世界遺産の現状と問題について理解を深めるため、グループに分かれて研究を行う。
5	文献講読 1	課題図書の輪講と討論
6	文献講読 2	課題図書の輪講と討論
7	文献講読 3	課題図書の輪講と討論
8	文献講読 4	課題図書の輪講と討論
9	文献講読 5	課題図書の輪講と討論
10	個人研究発表	4 年生による個人研究発表を行う。
11	個人研究発表	4 年生による個人研究発表
12	文献講読 6	課題図書の輪講と討論
13	文献講読 7	課題図書の輪講と討論
14	まとめ	春学期の間に学んできたことをまとめ、各メンバーが考えたことを持ち寄り、自由に議論する。

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定。

2	フィールドワーク報告会	フィールドワークの成果を是認で共有しながら討論する。
3	グループ・ワーク（1）	フィールドワークで得た資料の分析を行う。
4	グループ・ワーク（2）	フィールドワークで得た資料の分析を行う。
5	グループ・ワーク（3）	フィールドワークで得た資料の分析を行う。
6	グループ・ワーク（4）	フィールドワークで得た資料の分析を行う。
7	文献講読 1	輪講と討論
8	文献講読 2	輪講と討論
9	文献講読 3	輪講と討論
10	文献講読 4	輪講と討論
11	文献講読 5	輪講と討論
12	個人研究発表（1）	個人研究の発表と議論を行う。
13	個人研究発表（2）	個人研究の発表と議論を行う。
14	討論会および総括	受講生がテーマを設定し、討論会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
- ・個人研究を進める。
- ・必要に応じてフィールドワークを行う。

【テキスト（教科書）】

関雄二『アンデスの文化遺産を活かすー考古学者と盗掘者の対話』（フィールドワーク選書 6）、京都：臨川書店、2014 年。
NPO 法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド 300』毎日コミュニケーションズ、2010 年。
佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010 年。
木曾功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015 年。
NPO 法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産大事典＜上＞＜下＞ 世界遺産検定 1 級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2016 年。

その他必要に応じて授業内で指示します。

【参考書】

松浦晃一郎『世界遺産 ユネスコ事務局長は訴える』（講談社、2008 年）
中村俊介著 『世界遺産が消えてゆく』（千倉社、2006 年）
七海ゆみ子 『無形文化遺産とは何か』（彩流社、2012 年）
国末憲人 『ユネスコ「無形文化遺産」』（平凡社、2012 年）
その他必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション、研究報告、ゼミへの貢献度などの平常点（50 %）、課題（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生と相談しながらフィールド・ワークを企画し、演習内容を柔軟に対応させる。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

希望者は『世界遺産検定』（NPO 法人世界遺産アカデミー主催）の 2 級取得を目指すことができます。その際にはゼミの先輩たちと共に受検対策をサポートします。

言語文化演習－映画で学ぶ国際情勢と人間の内的世界－

春学期担当：佐藤 千登勢，秋学期担当：八木 君人

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、さまざまな国の映画作品を通して、象徴性・メタファー・寓意的表象で語られる映画言語を読み解き、背後にある、それぞれの国・地域の土着的文化、慣習、歴史的経緯、イデオロギー、社会体制の差異を確認する作業も含めて、映画鑑賞と作品分析を楽しめます。そのための基礎概念として、『ファシズム・全体主義』『亡命・離散』、『差別』、『抑圧』、『性的マイノリティ』、『エスニシティ』といった社会的テーマから『エディプス・コンプレックス』、『分身』、『母胎回帰』、『潜在意識』、『欲望』など個人の内的世界に関わるモチーフをキーワードに、映画作品の多面性・両義性・重層性、そして映画作品に反映する国や地域の文化や社会を見ていきます。扱う映画作品は、ロシア（ソ連）、アメリカ、イギリス、デンマーク、フランス、イタリア、ドイツ、ポーランド、チェコのもの、及び、監督がこれらの国の出身である作品が中心となるでしょう。

なお、「映画テキスト解説」のみならず、ロシア（および旧ソ連）・中東欧の文化や社会研究の分野も、当演習でとりくむ用意があります。

【到達目標】

映画作品は、世界の縮図モデルであり、多様な国々の社会、経済、文化、民族的傾向を反映したモデルとも言えます。ですから、映画作品の分析により、学生みなさんは、洞察力、ものごとの本質を見抜く力を身につけ、さらにこれを言語化してプレゼンテーションする能力を身につけることが、この演習の目標となります。また、毎回の映画鑑賞を経ての議論内容、および自身の意見を A4 用紙 1 枚程度でまとめ、文章表現の鍛錬、自身の見解を論理的に記述する練習を重ねることで、レポート作成能力の向上を目指します。

【授業の進め方と方法】

初回から第5回までは、教員が選択する映画作品を鑑賞し、教員による概説と問題提起に基づき、みなさんに自由に討論をしてもらいます。さらに、討論を通して、自身の見解を次回までに短いレポートとしてまとめてもらいます。第6回から以後は、学生みなさん一人ひとりに映画作品の選択から分析、見解をまとめたプレゼンテーションをしてもらい、質疑応答をみなさんで行います。また、毎回の映画鑑賞と議論の後には、これらを整理し、記憶に留めるためにも、またレポート作成能力の向上のためにも、A4・1 枚程度の鑑賞記録文を提出してもらいます。

なお、映画作品を扱った発表ではなく、ロシア・中東欧の文化や社会に関する発表を希望する学生は、予め相談してください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、学生みなさんの意見をきき、春学期の計画を明確にする。いくつかの映画作品をとりあげ、手法や技巧について概説。
2	原発事故と個人	『故郷よ』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
3	戦争を描写すること	『炎 628』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
4	見果てぬ夢のゆくえ	『マルホランド・ドライブ』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。

5	自己犠牲と共依存	『奇跡の海』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
6	学生による報告 1	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
7	学生による報告 2	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
8	学生による報告 3	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
9	学生による報告 4	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
10	学生による報告 5	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
11	学生による報告 6	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
12	学生による報告 7	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
13	学生による報告 8	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
14	学生による報告 9	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、学生みなさんの意見をきき、秋学期の計画を明確にする。
2	偏見、あるいは無関心	『立候補』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
3	「愛」の多形性	『トーク・トゥ・ハー』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
4	運動の映画、運動としての映画	『日本解放戦線 三里塚の夏』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。

5	作品をつくること、観ることとは？	『あなたの微笑みはどこに隠れたの？』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
6	学生による報告 1	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
7	学生による報告 2	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
8	学生による報告 3	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
9	学生による報告 4	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
10	学生による報告 5	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
11	学生による報告 6	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
12	学生による報告 7	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
13	学生による報告 8	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
14	学生による報告 9	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予め読んでくるべきテキスト（参考文献の一部コピーなど）を配付することがあります。その場合には、必ずテキストを精読し、演習での議論に活発に参加できるようにしてきてください。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用しません。適宜、教員がテーマと関連する文献のコピー、および教員が作成したレジュメを配付します。

【参考書】

適宜、文献や参考となる映像ソフトを紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、リアクションペーパー（25 %）、報告内容（25 %）に基づき、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論を中心とした演習を望む声もあれば、教員からの概説を中心とした演習を望む意見もありました。以後は、両者の配分のバランスに配慮しながら演習を進め、学生みなさんに知識を得る楽しさや充実感を味わってもらおうと同時に、自らの意見をまとめて見解を述べ、議論する技術を身につけてもらうよう尽力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

言語文化演習－アジアから見た日本－

鈴木 靖

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアの人々は日本にどのようなイメージを持っているのか。文献や映像資料を通じて、「アジアから見た日本」のイメージが形成された歴史的背景について学ぶ。3 年次にはドキュメンタリー映像作品の制作を通じてメディア・リテラシーと情報発信の力を身につけ、4 年次には学会での研究発表を通じて批判的思考と知的生産の力を身につける。

【到達目標】

アジアの人々の対日イメージがどのように作られてきたのかを歴史的に学ぶことにより、自己と他者の双方の視点から問題を考える力（＝共感力 empathy）を身につけ、複雑化するアジアの諸問題に対して適切な判断と行動がとれるようにする。

【授業の進め方と方法】

春学期には『日韓歴史共通教材・日韓交流の歴史』を課題図書に、プレゼンテーションとディスカッションによって学習を進めていく。夏合宿では日本とアジアとの交流に関連した史跡を見学するとともに、ビデオ取材の基礎を学ぶ。

秋学期には『中国史のなかの日本像』の輪読発表のほか、ドキュメンタリー映像作品を制作する。昨年度は日本人として裁かれながら、戦後は日本人と同等の補償を受けることができなかった旧植民地出身の元 B C 級戦犯に取材したドキュメンタリー映像作品を制作した。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに～『日韓歴史共通教材・日韓交流の歴史』について	課題図書の編纂の目的と出版までの経緯を考える
第 2 回	先史時代の文化と交流	・先史時代の文化と交流
第 3 回	三国・加耶の政治情勢と倭の交流	・三国・加耶の対立と倭 ・人々の移動と文化交流
第 4 回	隋・唐の登場と東北アジア	・百済・高句麗の滅亡と日本・新羅 ・新羅・渤海と日本の交流
第 5 回	10～12 世紀の東北アジア国際秩序と日本・高麗	・東北アジア世界の再構成 ・10～12 世紀の日本・高麗の関係
第 6 回	モンゴル帝国の成立と日本・高麗	・モンゴルの侵略と高麗・日本 ・14 世紀後半の東北アジア情勢と倭寇
第 7 回	15・16 世紀の中華秩序と日本・朝鮮関係	・明中心の国際秩序と日本・朝鮮 ・日本と朝鮮の交流
第 8 回	16 世紀末の日本の朝鮮侵略とその影響	・戦争の経過と朝鮮の対応 ・戦争の影響
第 9 回	通信使外交の展開	・日本と朝鮮の国交回復過程 ・通信使外交と日朝貿易 ・通信使外交の変質と崩壊
第 10 回	西洋の衝撃と東アジアの対応	・開港と不平等条約の締結 ・日朝関係の展開と摩擦 ・日清戦争と大韓帝国の成立 ・日露戦争と統監政治 ・抗日闘争と大韓帝国の主権喪失

第 11 回	日本帝国主義と朝鮮人の民族独立運動	・朝鮮総督府の武断政治 ・3・1 独立運動と文化統治 ・大韓民国臨時政府と様々な独立運動 ・日本人の朝鮮認識と朝鮮人の日本認識 ・朝鮮に生きた日本人と日本に生きた朝鮮人 ・日本の満州侵略と朝鮮社会の動向 ・戦時体制の展開と独立闘争
第 12 回	敗戦・解放から日韓国交正常化まで	・日本の敗戦と朝鮮半島の解放 ・朝鮮戦争と日本 ・日韓条約の締結 ・日本の朝鮮・韓国人（日韓条約締結まで）
第 13 回	交流拡大と新しい日韓関係の発展	・交流の拡大とその明暗 ・日本の朝鮮・韓国人（日韓条約締結後） ・日韓関係の今とこれから
第 14 回	まとめ	春学期の学習を振り返り、朝鮮半島の人々の対日イメージがどのような歴史的背景をもとに形成されたのかを考える

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	課題図書『中国史のなかの日本像』について	課題図書と著者の紹介
第 16 回	日本像の視座	・先行研究について ・多重映しの日本像 ・未来志向の日本像
第 17 回	神仙の郷	・「倭」の地理像 ・『後漢書』の倭国像 ・東夷観の成立
第 18 回	宝物の島	・倭王の貢物 ・復元された倭錦 ・黄金と宝石
第 19 回	器用な民～虚像から実像へ	・韓志和伝説 ・海をわたる仏像 ・精巧な工芸品 ・明代文人の日本趣味
第 20 回	礼儀の邦～モノからヒトへ	・華夷同祖の意識 ・上古の遺風 ・遣唐使の風貌
第 21 回	学会準備（一）	国際文化情報学会での発表に備え、グループワークを行う
第 22 回	学会準備（二）	国際文化情報学会での発表に備え、予行演習を行う
第 23 回	好学の士～華夷の壁をこえて	・風月は天を同じうす ・文はその人の如し
第 24 回	白骨の山～日本像の豹変	・日本像の断絶 ・孤遠の島夷 ・元代の倭寇像
第 25 回	海彼の寇～海賊から妖怪へ	・不征の国 ・仮面と本性 ・妖怪への変化
第 26 回	西学の師～近代化の日本	・開国前夜 ・維新の国へ ・維新変法の手本
第 27 回	幻想の破滅	・義和団の鎮圧 ・孫文の日本像 ・抗日戦争 ・国家神道
第 28 回	まとめ	秋学期の学習を振り返り、中国の人々の対日イメージがどのような歴史的背景をもとに形成されたのかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表者は、課題図書の内容を論理的かつ批判的に発表できるよう準備することで、リサーチとプレゼンテーションの力を高める。

・発表者以外は、発表者の不足・誤謬を補足・修正できるよう準備することで、論理的かつ批判的に意見や質問を述べる力を高める。

【テキスト（教科書）】

【春学期課題図書】

・歴史教育研究会・歴史教科書研究会編『日韓歴史共通教材・日韓交流の歴史』（明石書店、2007年）

【秋学期課題図書】

・王勇著『中国史のなかの日本像』（農文協、2000年）

【参考書】

・木宮泰彦著『日華文化交流史』（富山房、1955年）

・王暁秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000年）

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回以下の項目について5段階の自己評価をしてもらい、その合計点で評価する。

- ①遅刻や早退、私語などをすることなく、演習のマナーを守ったか（20 %）
- ②輪読資料を事前に精読し、発表者の不足・誤謬を補足・修正ができるよう準備したか（20 %）
- ③他のゼミ生の発表をしっかりと聞き、積極的に意見や質問を行ったか（20 %）
- ④ディスカッションで積極的に議論に参加したか（20 %）
- ⑤ゼミ終了後、教室や機材などの後始末をきちんと行ったか（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

輪読やグループ・ディスカッション、映像制作、論文作成など、演習の活動の目的と意義を確認するため、議論を行い、共通の認識を持つようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

演習の活動は **fixi**（eポートフォリオ）を活用して行う。**URL** は、**fixi** 中の「言語文化演習」

<http://fic.xsrv.jp/elgg>

授業の中では次のような情報機器を使用する。

(1) プレゼンテーション

パワーポイントを使ってわかりやすく伝える技術を身につける

〔使用機材〕PC、パワーポイント、プロジェクタ、スクリーンなど

(2) ディスカッション

マイクを使ってはっきりと意見を述べ、また他者の発言にしっかりと耳を傾けるというディスカッションの基本的なルールを身につける

〔使用機材〕マイク、教室内の拡声装置

(3) 現地取材

取材の申し込みから、現地でのインタビュー、映像撮影、インタビューの起こし、礼状の送付までの一連の作業を通じて、コミュニケーション能力とメディア・リテラシーを学ぶ

〔使用機器〕ビデオカメラ、三脚、マイク、**fixi**（インタビューの起こしと翻訳などの共同作業を行う）

(4) 映像制作

文献での調査と現地取材からドキュメンタリー映像作品を制作し、パソコンを活用した映像制作の技術とメディア・リテラシーを学ぶ

〔使用機器〕パソコン、**fixi**（資料の共有と構成表の共同作成に利用）、映像編集ソフト、ビデオカメラ、三脚、マイクなど

言語文化演習—スペイン語圏の文化を探索する—

大西 亮

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「スペイン語圏の文化と社会」と聞いて私たちは何を思い浮かべるだろうか？ スペインはもちろん北はメキシコから南はアルゼンチンにいたるまで、広大な領域にまたがるスペイン語圏の国々については人によってさまざまなイメージがあるだろう。最近のニュースに目を向けると、スペインのカタルーニャ自治州の独立問題をはじめ、アメリカとメキシコの国境に壁を築こうというトランプ大統領の無謀とも思える政策や、54 年ぶりにアメリカとの国交回復を果たしたキューバの話題などが世界の注目を集めた。一方で、サッカーをはじめとするスポーツや ZARA に代表される流行ファッション、ヒットチャートを席巻している中南米系アーティストの活躍に熱い視線を注いでいる人も少なくないだろう。こうした話題の多くは、もちろんスペイン語圏だけにかかわるものではなく、ヨーロッパやアメリカをはじめとするその他の地域との密接な関係性のなかに位置づけられるものである。スペイン語圏の話題を切り口に、そこから世界を眺めてみるとどのような光景が立ち現れてくるだろうか。

このゼミでは、スペイン語圏の文化と社会に光をあてつつ、世界のさまざまな地域との接触や交流を視野に入れながら、生成変化する人間の営みのありようを浮き彫りにすることを目的とする。そのためにはさまざまな角度からのアプローチが可能であろう。歴史、芸術、スポーツ、文学、等々、おのおのの関心に応じて多様なテーマが設定されるはずである。とはいえ、一人ひとりが個々別々のテーマに自足していたのでは、それらを結ぶ有機的な関係は見えてこない。みずからの興味や関心を足がかりに、それらを幅広い視角から見つめなおす柔軟な発想が求められることはいうまでもない。

昨年度の代講形式から、今年度は正式なゼミ運営となるのに合わせ、使用言語をスペイン語から日本語に変更する。スペイン語を学んだことのない学生を含め、刺激的な知の出会いを求める学生の参加を歓迎する。

【到達目標】

このゼミでは、上記「授業の概要と目的」に沿って、以下のような能力の開発を目的とする。

- ・スペイン語圏の文化と社会に関する基礎的な事項の理解。
- ・スペイン語圏の文化と社会に関する基礎的な知識を応用しながら、興味や関心のあるテーマを見つけ、それを追究していく思考力。
- ・興味や関心のあるテーマについて、それを幅広い視角から見つめなおす柔軟な発想力。
- ・興味や関心のあるテーマについて論理的に解釈し、それを他者にむけて明快に説明する能力。
- ・他者との議論を通じてみずからの問題意識を深め、それを自分のテーマの追究に活かす能力。
- ・効果的なプレゼンテーション技法および論理的な文章表現能力。

【授業の進め方と方法】

ゼミは2部構成のもとに進められる。第1部では、スペイン語圏の文化と社会を見ていくうえで最低限これだけは知っておきたいという事柄について、さまざまな資料を用いながらディスカッション形式で学んでいく。それを受けるかたちで、第2部では、より専門的な内容について、プレゼンテーションやグループ討議を通じて理解を深めていく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ゼミ運営方針についての話し合い	学生による自主的なゼミ運営という基本原則を確認し、具体的なゼミ運営方法について話し合う。

第2回	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得	さまざまな材料を用いながら、スペイン語圏の文化と社会に関する基礎的な知識の習得をめざす。
第3回	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得および四年生の研究テーマ発表	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について四年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第4回	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得および四年生の研究テーマ発表	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について四年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第5回	四年生の研究テーマ発表に関するまとめ	四年生の研究テーマ発表の内容を踏まえ、その振り返りおよび教員による補足説明、グループ討議を行う。
第6回	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得および四年生の研究テーマ発表	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について四年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第7回	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得および四年生の研究テーマ発表	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について四年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第8回	四年生の研究テーマ発表に関するまとめ	四年生の研究テーマ発表の内容を踏まえ、その振り返りおよび教員による補足説明、グループ討議を行う。
第9回	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得および四年生の研究テーマ発表	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について四年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第10回	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得および四年生の研究テーマ発表	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について四年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第11回	四年生の研究テーマ発表に関するまとめ	四年生の研究テーマ発表の内容を踏まえ、その振り返りおよび教員による補足説明、グループ討議を行う。
第12回	スペイン語圏の文化と社会に関する基礎的な知識の習得および四年生の研究テーマ発表	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について四年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。

第13回	スペイン語圏の文化と社会に関する基礎的な知識の習得および四年生の研究テーマ発表	スペインの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について四年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第14回	前期の振り返り	前期授業の内容を振り返り、教員により補足およびグループディスカッションを行う。

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	後期ゼミ運営方針についての話し合い	学生による自主的なゼミ運営という基本原則を確認し、具体的なゼミ運営方法について話し合う。
第1回	ラテンアメリカの文化と社会に関する基礎的な知識の習得および三年生の研究テーマ発表	ラテンアメリカの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について三年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第2回	ラテンアメリカの文化と社会に関する基礎的な知識の習得および三年生の研究テーマ発表	ラテンアメリカの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について三年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第3回	ラテンアメリカの文化と社会に関する基礎的な知識の習得および三年生の研究テーマ発表	ラテンアメリカの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について三年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第4回	ラテンアメリカの文化と社会に関する基礎的な知識の習得および三年生の研究テーマ発表	ラテンアメリカの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について三年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第5回	ラテンアメリカの文化と社会に関する基礎的な知識の習得および三年生の研究テーマ発表	ラテンアメリカの文化と社会に関する基礎的な知識の習得のためのグループディスカッションを行う。その後、研究テーマおよび作業の進捗状況について三年生に報告してもらう。また、報告内容に関する質疑応答およびグループディスカッションを行う。
第6回	三年生の研究テーマ発表に関するまとめ	三年生の研究テーマ発表の内容を踏まえ、その振り返りおよび教員による補足説明、グループ討議を行う。
第7回	国際文化情報学会の発表に向けた準備	発表内容に関する具体的な詰め作業を行う。
第8回	国際文化情報学会の発表に向けた準備	発表内容に関する具体的な詰め作業を行う。
第9回	国際文化情報学会の発表に向けた準備	国際文化情報学会の発表に向けた準備
第10回	四年生研究発表	ゼミ活動の総括ともなる研究成果の発表を行う。発表内容に応じて教員による補足説明やグループ討議を行う。

第11回	四年生研究発表	ひきつづき、ゼミ活動の総括ともなる研究成果の発表を行う。発表内容に応じて教員による補足説明やグループ討議を行う。
第12回	四年生研究発表	ひきつづき、ゼミ活動の総括ともなる研究成果の発表を行う。発表内容に応じて教員による補足説明やグループ討議を行う。
第13回	まとめ	年間のゼミ活動を振り返り、反省点等の話し合いを通じて次年度のゼミ活動の方針を立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに沿って参考文献を指示するので、それを熟読すること。これを怠るとディスカッションに参加して有益な意見交換を行うことができない。

【テキスト（教科書）】

授業内で随時指示する。

【参考書】

授業内で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究発表（70 %）、平常点（30 %）を目安に、発表の準備やプレゼンテーションスキル、グループ討議への参加度、等々を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

まずは日本語できちんと議論し、論理的に自説を展開することのできる力を身につけることをめざします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

学部開講科目「スペイン語圏の文化と社会」をあわせて受講することが望ましい。

言語文化演習 一知ってるアメリカ・知らないアメリカ

棚木 玲子

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一つの「場」から別の「場」へ足を踏み入れるとき、人は多くの発見をします。日本を離れて初めて見えてきたことが、SA 期間中には数多くあったのではないのでしょうか。音楽、映画、テレビなどのメディア文化の豊かさや危うさ、生活様式、教育システム、あるいは大統領選挙、銃規制問題、国や人に対するイメージなどについて、当たり前だと思い込んでいた事柄がもろくも崩れ去ってしまう経験は「自分」という狭い箱から抜け出すきっかけとして、とても貴重です。当演習では、せっかく得られたその経験を忘れないうちに一つ一つ切り出し、組上にのせ、分析を加えます。テーマは「異文化を知り、自分を知る」。担当教員の専門領域がアメリカ文化なので、アメリカに関する知見を深めることがサブテーマとなるでしょう。

【到達目標】

I. この演習で学生は以下の力を身につけます。

(1) 一つの題材から、検討に値する問題点を見つけ出す。

(2) 上記の問題点の理由を調べ、解釈・検討し、それを他者に伝える。

(3) 他者の意見に耳を傾け、場合によっては見解を修正しつつ、より正確で精緻な、説得力のある結論へと練り上げる。

言い換えれば (1)~(3) のプロセスを通して、学生は問題発見、情報収集、解釈と分析と思考、そして表現のスキルを磨いてゆきます。それが当演習の目標の一つです。

II. こうした探求の姿勢は、一つの事象の背景が決して単一で単純ではないことを、改めて気づかせてくれるはずです。その複雑さをときほぐすための、強靱かつ繊細な知力と感受性を身につけることも、当演習の目標となります。

III. 「大学時代になにを学びましたか？」と聞かれたとき躊躇なく答えられることをめざします。

【授業の進め方と方法】

教員が用意し、または学生のリクエストによる文献、映画、テレビ番組、音楽などを読み/聞き/観てから、それらについて問題設定を行い、プレゼンテーションならびにディスカッションを行います。また、学生は授業で浮かび上がった問題や、自分の経験を通して興味を抱いた事柄をテーマに選び、授業で獲得した方法を用い、情報を取捨選択しながらゼミレポートを完成させます。もちろん一人で作業するだけではありません。随時レポートの進行状況を報告しあいながら、学生同士の意見やアドバイスが活発に交差する機会を、授業内外で提供します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明。自己紹介がわりに SA 先などでの「？」や「！」体験の洗い出し（グループによる討議とプレゼンテーション）。
第 2 回	表象分析（1）	初回授業で気づいたことに基づき、表象作品（映画・音楽など）では、どんなテーマ設定が可能か検討します。
第 3 回	表象分析（2）	前回で設定したテーマに基づき、ミクロ分析、マクロ分析の方法を紹介し、実際に応用します。
第 4 回	アメリカ理解のためのトピック（1）	人種とその歴史的背景について検討します。
第 5 回	アメリカ理解のためのトピック（2）	おもに宗教について日本と比べながら検討します。

第 6 回	レポート合評会（1－1）	4 年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 7 回	レポート合評会（1－2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 8 回	レポート合評会（2－1）	4 年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 9 回	レポート合評会（2－2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 10 回	春学期レポート助走（1）	テーマ設定の仕方やレジユメの書き方、書式などについて説明します。
第 11 回	レポート合評会（3－1）	4 年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 12 回	レポート合評会（3－2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 13 回	春学期レポート助走（2）	レポートの構成や論理的な思考についてトレーニングします。
第 14 回	予備日	レポート相談ならびに春学期授業の補足説明をします。

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ理解のためのトピック（3）	肥満と階級について検討します。
第 2 回	アメリカ理解のためのトピック（4）	スポーツと人種について検討します。
第 3 回	アメリカ理解のためのトピック（5）	広告を含めたメディアとその受容について検討します。
第 4 回	レポート合評会（1－1）	3・4 年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 5 回	レポート合評会（1－2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 6 回	レポート合評会（2－1）	3・4 年次のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 7 回	レポート合評会（2－2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 8 回	レポート合評会（3－1）	3・4 年次生のレポートをあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 9 回	レポート合評会（3－2）	前回のレポートに基づいて、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 10 回	フィールドワーク（1）	身の回りにある「アメリカ」に係わる事柄を集め、日本の「アメリカ化」について検討します。
第 11 回	フィールドワーク（2）	前回の続き。
第 12 回	フィールドワーク（3）	フィールドワークの結果をどのように効果的に表象・表現するか検討します。
第 13 回	秋学期レポート助走	春学期レポート執筆からの気づきと表現の困難、ならびに一般化とステレオタイプをめぐる境界設定を確認します。
第 14 回	予備日	レポート相談ならびに秋学期授業内容の補足説明をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週に向けた事前準備（題材を読む・観る・聞く・調べる）は授業に参加するために不可欠です。準備の方法や範囲は、毎回具体的に指示します。春・秋学期のレポート作成には相応の時間と労力を費やすことになりますが、完成時の知的な満足感・充実感は学生時代の思い出の一つとして、なにものにも換えられないはずです。また社会へ出てからも大きな自信となることでしょう。

【テキスト（教科書）】

とくになし。主に論文、新聞、雑誌、ネット記事などの印刷物を使用します。

【参考書】

適宜、授業時間内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- （１）発表（30%）
 - （２）発言や毎授業における貢献度（10%）
 - （３）レジュメや各回コメントシートなどの課題の完成度（10 %）
 - （４）レポート（50 %）
- 上記 4 つの側面を主たる評価の対象として、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生が主体的に授業を企画・運営できるよう、サポートしていきます。また英語によるレポート執筆にも対応し、英語圏への留学も極力アシストし続けます。

【学生が準備すべき機器他】

動画や授業支援システムを利用することが多いので、それらを確認するための端末

【その他の重要事項】

- （１）授業や授業準備を優先できる。
 - （２）向上心・知的好奇心が強い。
 - （３）USA や特定の文化、あるいは文化全般に興味がある。
- ー 以上の条件を満たす学生を望みます。また、当演習には学部 SA 先がアメリカ以外の学生や「嫌米」の学生もいます。多様な背景をもつ学生を歓迎します。

言語文化演習—フランコフォニーの言語文化—

廣松 勲

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「フランコフォニー（＝フランス語圏）」の言語や文化を総合的に分析することで、世界に散在するフランス語・フランス文化の多様性と共通性を考察する。それにより、フランス語圏に留まらず、文化接触や文化的差異の調整を理解する際の分析手法を身につけることを目的とする。

（＊少しでも「フランス的なもの」に関心があれば、フランス語の言語能力などの前提知識は前提としない。）

【到達目標】

到達目標は、大きく分けて 2 つある。

①一つには、「フランス共和国」の言語文化を超えて、「フランコフォニー」のそれへと変貌を遂げつつあるフランス語・フランス文化が、各地域において、どのような方法によって多文化・他文化との共生の道を探っているのかを説明できること。

②もう一つには、文化接触や文化的差異の「妥当な調整」といった現象を分析する際に必要となる方法論を、確りと意識して分析・考察に取り組むことができるようになること。

これらの目標に到達するために、学生は自ら選んだフランス語圏地域におけるフランス語・文化を調査・分析することで、「どのような文化接触の結果として、どのような共生への道が目指されてきたのか」、その上で「そのような共生への道が今後も有効なものであるかどうか」を考察することになる。

調査・分析・考察の結果は、最終的にレポートや論文などの形にまとめる。

【授業の進め方と方法】

本演習では、学生の人数・関心等に鑑みながら、以下のような形で演習を進める。

≪ 春学期について ≫ テキストや映像を丁寧に読み込む方法を知るため、主に演習形式（レジュメ発表と討議）で進める。邦訳・字幕版の存在する代表的なフランス語圏の文献・映像、それらに関するエッセイなどを分析対象とする。まず最初の数回の演習では、参加学生と対話しながら、フランス語圏の言語文化を読解する際の「方法論」や「レジュメの作成方法」などを講義する。その後、演習形式の講読では、担当の学生が担当箇所をレジュメ発表し（何がどのように描かれているか？ など）、その上で問題提起とゼミ全体での討議を行う（なぜそのように描かれているのか？ など）。

春学期の最後には、個人研究のテーマや分析方法を決定する際のヒントを見つけるべく、学習内容についてレポートを提出してもらう。

≪ 秋学期について ≫ 前半では、講読形式を継続する予定である。後半では、各自が自らの関心・問題意識から個人研究の口頭発表を行った上で、全員で討議を行うことになる。

秋学期末までに、個人研究の成果をレポートや論文などの形で提出してもらう。

≪ リアクション・ペーパーについて ≫ 全体討議などで触れられなかった疑問点や意見、さらに演習運営上の希望を含めて、リアクション・ペーパーを提出してもらうことがある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本演習（特に春学期）の内容および参加方法を説明する。 ・「フランコフォニー（フランス語圏）」とは何か？ ・春学期の講読分担を決める。

2	I. 方法論の概説、レジュメ作成方法・問題提起の仕方の確認	・文献を読解する際の方法論を概説する。テキストや映像を対象とした「テキスト分析」や「社会学的分析」を中心に論じる。 ・講読で必要となる「レジュメ」等の作成方法や「レポート」の書き方・構成方法等を解説し、参加学生全員に共通理解を作る。
3	II. フランス植民地帝国の歴史を知る①	・平野千香子の評論『フランス植民地主義の歴史』（序、第一章、第二章）を読む。
4	II. フランス植民地帝国の歴史を知る②	・平野千香子の評論『フランス植民地主義の歴史』（第三章、第四章）を読む。
5	II. フランス植民地帝国の歴史を知る③	・平野千香子の評論『フランス植民地主義の歴史』（第五章）を読む。 ・フランス最古の植民地であるカリブ海域諸島に関する映画『はじまりの小屋』を見る。
6	III. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化①	・概略的にマグレブのフランス語圏に関して解説を行う。特にアルジェリアとモロッコを扱う。 ・マグレブのフランス語圏に関する映画を見る。
7	III. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化②	・ギー・ペルヴィエ著『アルジェリア戦争』（第 1 章～第 4 章）を講読する。
8	III. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化③	・ギー・ペルヴィエ著『アルジェリア戦争』（第 5 章～第 9 章）を講読する。
9	III. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化④	・映画『アルジェの戦い』を見る。 ・ジャック・デリダの自伝的評論『たった一つの、私のものではない言葉：他者の単一言語使用』（Ⅰ～Ⅲ）を講読する。
10	III. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化⑤	・ジャック・デリダの自伝的評論『たった一つの、私のものではない言葉：他者の単一言語使用』（Ⅳ～Ⅵ、エピローグ）を講読する。 ・ジャック・デリダに関する映画『言葉を撮る』を見る。
11	III. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化⑥	・ジャック・デリダの自伝的評論『たった一つの、私のものではない言葉：他者の単一言語使用』（Ⅶ～エピローグ）を講読する。
12	III. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化⑦	・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（序章～第 2 章）を講読する。
13	III. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化⑧	・映画『憎しみ』を見る。 ・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（第 3 章～第 5 章）を講読する。
14	III. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化⑨	・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（第 6 章～終章）を講読する。
	総括	・映画『非-統合』を見る。 ・春学期のまとめを行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	イントロダクション	・秋学期の演習内容と参加方法を確認する。 ・秋学期の講読分担を決める。 ・アフリカのフランコフォニーに関する映像を見る。
16	IV. アフリカ諸国の言語文化①	・アフリカのフランコフォニーに関して概説する。特にセネガルとコート・ジボワールについて扱う。 ・宇佐美久美子の『アフリカ史の意味』を講読する。 ・映画『ボツワンガの鰐』を見る。

17	IV. アフリカ諸国の言語文化②	・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのこぼれ文化』(2つの総論)を講読する。 ・センベヌ・ウスマンのドキュメンタリー『センベヌ』を見る。
18	IV. アフリカ諸国の言語文化③	・砂野幸稔の『ポストコロニアル国家と言語』(第一章)を講読する。 ・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのこぼれ文化』(一章分)を講読する。
19	IV. アフリカ諸国の言語文化④	・砂野幸稔の『ポストコロニアル国家と言語』(第二章)を講読する。 ・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのこぼれ文化』(一章分)を講読する。
20	IV. アフリカ諸国の言語文化⑤	・砂野幸稔の『ポストコロニアル国家と言語』(第三章+補論)を講読する。 ・梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのこぼれ文化』(一章分)を講読する。
21	IV. アフリカ諸国の言語文化⑥	・コート・ジボワールについて解説する。 ・アマドゥ・クルマ著『アラーの神にもいわれはない』(第一章)を講読する。
22	IV. アフリカ諸国の言語文化⑦	・アマドゥ・クルマ著『アラーの神にもいわれはない』(第二・三章)を講読する。
23	IV. アフリカ諸国の言語文化⑧	・アマドゥ・クルマ著『アラーの神にもいわれはない』(第四・五章)を講読する。
24	IV. アフリカ諸国の言語文化⑨	・アマドゥ・クルマ著『アラーの神にもいわれはない』(第六章・訳者改題)を講読する。
25	個人発表①	・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表20分程度／討議20分程度を予定。
26	個人発表③	・映画『ルムンバ』を見る。 ・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表20分程度／討議20分程度を予定。
27	個人発表④	・映画『ラスト・キング・オブ・スコットランド』を見る。 ・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表20分程度／討議20分程度を予定。
28	総括	・映画『ホテル・ルワンダ』を見る。 ・一年間のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

≪ 準備学習に関して ≫ レジューメ作成担当の学生は、充実した討議のためにも、「要旨」と「問題提起」を確りと切り分けて提示すること。また、担当ではない学生も積極的に討議に参加するために、講読文献を含めた関連資料にも触れておくこと。

≪ 情報収集に関して ≫ 参加学生は、各種メディアを介して、フランス語圏社会の言語・文化・社会等について、できるだけ情報収集するように心掛けてほしい。また、演習内などで告知する講演会や上演会への参加は義務ではないが、できれば積極的に参加してくれることを願う。

【テキスト（教科書）】

講読文献に関しては、参考文献とともに、初回の演習において一覧を配布する。ただし、学生との相談によって、講読文献・映像を追加・変更する場合がある。

【参考書】

参考文献に関しては、講読文献とともに、初回の演習において一覧を配布する。当然ながら、希望者には、さらに詳しい参考文献・映像等を提示するつもりである。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出など）：10%、講読発表：30%、全体討議への参加度合：20%、学期末ごとのレポート：40%を見て、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文献講読を行うために必要なレジューメ作成や問題提起の仕方等については、春学期最初の授業だけでなく、適宜解説を行う。

【その他の重要事項】

履修に際しては、できるだけ春学期と秋学期合わせての履修を推奨する。

フランス語の知識（＝語学能力）は要求しない。ただし、講読の際にフランス語原典を読み、レジューメを作成しても構わない（ただし、フランス語を知らない学生にも分かるようなレジューメであって欲しい）。また、日本語以外の文献も積極的に参照することが望ましい。

講読文献の分量や内容によっては、比較的多くの準備時間が必要となることもある。そのため、レジューメ作成担当者は、早めに準備作業を始めることを推奨する。

講読や個人研究を進める上で疑問点などがあれば、廣松研究室（BT2008）での個人面談やメール面談にて、直接話し合うことができる。

言語文化演習－比較文化研究（小説と映像）－

前川 裕

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は小説の研究や映像の鑑賞を通して、文化を比較することの意味を考える。研究対象は、三島由紀夫、谷崎潤一郎のような純文学作家だけでなく、江戸川乱歩・横溝正史・松本清張・綾辻行人・東野圭吾などの大衆作家にも及ぶ。また、学生は純文学作家でありながら、推理小説の元祖と言われる、エドガー・アラン・ポーの作品も取り上げ、探偵・推理小説の歴史をも学ぶ。また、東西の恋愛小説も比較文化的な研究対象とする。あるいは、それらの文学作品と関連する映画の鑑賞も大きなテーマとなる。これらの作品（小説・映像）を、西洋の関連作品と比較・対比することによって、最終的には日本文化および西洋文化の本質について考える。

【到達目標】

学生が文化研究の伝統的な方法論を知り、それを踏まえた上で自分独自の創意工夫を凝らした研究を行うことができるようになること。最終的には、あらゆる領域の文化について、論文としての体裁の整ったレポートを書くことを目指す。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式と演習形式の併用によって進められる。学生諸君のグループによって、発表してもらうこともある。せまい意味での文化研究ではなく、文学作品や映画を通して、浮き彫りにされる各時代の文化的諸相の理解が望まれる。また、映像を通して見る大衆文化も中心的な研究テーマの一つとなるため、映画撮影の現場を訪れ、映画制作を体感してもらうこともあり得る。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	大衆文化研究の意味	マッシュ・アーノルドの『文化と無秩序』やレイモンド・ウィリアムズの『長い革命』を紹介し、大衆文化を研究することの意味を検証する。
2	比較文化研究の視点	マーシャル・マクルーハンの『ゲーテンベルグの銀河系』およびマックス・ウーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を紹介しながら、比較文化的な視点とは何かを考える。
3	イングマールベルイマン『沈黙』を見る。	映画の古典的名作を鑑賞することによって、アーノルドの説を検証する。性を描いたこの映画が持つ現代的意味を考える。
4	推理小説の歴史的研究『砂の器』と『魔術師』を読む。	江戸川乱歩の『魔術師』と松本清張の『砂の器』を読み、「本格」と「変格」をキーワードにして、推理（探偵）小説の歴史を考察する。
5	映画『砂の器』を見る。	松本清張の原作『砂の器』が、いかに映像化されたかを考える。活字と映像の違いが、どこにあるかも議論する。
6	エドガー・アラン・ポー『赤死病の仮面』を読む。	ポーの『赤死病の仮面』を読み、柱時計の音が持つ象徴性について考察する。

7	『地獄変』の英訳研究	芥川龍之介『地獄変』の一部原文と英訳を検討し、翻訳とは何かを考える。また、ポーの『黒猫』とも比較し、日米の小説で動物がどのように取り扱われているかも考察する。
8	「田端文士村記念館」見学	『地獄変』が書かれた背景を「田端文士村記念館」の訪問によって学習する。単なる作品研究ではなく、その時代の背景を知ることも重要である。また、この記念館では芥川の映画を見ることが出来る。
9	学生による発表1	レジュメの書き方、発表の方法などについて、学生の発表を参照しながら、解説する。
10	映画『蒲田行進曲』を見る。	深作欣二監督の『蒲田行進曲』を見ながら、文化の大衆性とは何かを考える。また「入れ子構造」というキーワードから映画における演劇性の問題を考える。
11	横溝正史『悪魔が来たりて笛を吹く』を読む。	複雑な家系図の描写という視座から、この作品を『アッシャー家の崩壊』と比較し、両作品に通底する「近親」に対する恐怖を分析する。
12	映画『悪魔が来たりて笛を吹く』を見る。	映像を見ながら、帝銀事件という実際の事件を原作がどのように取り入れ、それがどのように映像化されているかを考察する。
13	学生による発表2 堀辰雄『風立ちぬ』を読む。	堀辰雄『風立ちぬ』について、学生に発表してもらう。恋愛小説を通して、同化と異化の問題を考察する。
14	映画『二十四の瞳』を見る。	木下恵介監督の同化の方法について考察しし、人を感動させるための映画の手法と小説の手法について議論する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	レポートの回収と講評	論文の書き方について、回収レポートを見ながら、解説する。
16	ルネ・クレマン『太陽がいっぱい』の鑑賞	フランス映画における、終わりの問題を考える。アリストテレスのペリペティアの理論を映画の演出に関連させて考察する。
17	フェデリコ・フェリーニ『道』を見る。	巨匠フェリーニの初期作品『道』に用いられているネオ・リアリズムの手法を考察する。
18	溝口健二『雨月物語』の映画鑑賞	上田秋成原作『雨月物語』が、溝口の手によって、どのように映像化されたかを、原作との差異を考察しながら、検証する。
19	小津安二郎『東京物語』の映画鑑賞	溝口や小津が海外で高い評価を受ける理由を、オリエンタリズムという視点から考察する。
20	東野圭吾『容疑者Xの献身』を読む。	ミステリー小説の構造を、アリストテレスが『詩学』の中で述べている理論で分析する。ギリシャ悲劇と近代ミステリーの類似点についても、考察する。
21	『容疑者Xの献身』の映画鑑賞	映像が小説に対して、一層、大衆的なものになり得る理由を考察し、映像と活字の問題を研究する。
22	レイモンド・ウィリアムズ『感情の構造』と昭和歌謡	ウィリアムズの言葉「感情の構造」を用い、横光利一の『上海』とも対比させながら、日本の昭和歌謡がどのような裏の意味を持っていたかを考える。

23	学生の発表4	4年生3人によるゼミ論の中間発表会。1人20分程度で、自分のゼミ論の構成と要旨を概説してもらい、それぞれが質疑応答を受ける。
24	学生の発表5	4年生によるゼミ論の中間発表会。具体的なやり方は、23に同じ。
25	学生の発表6	4年生によるゼミ論の中間発表会。具体的なやり方は、23に同じ。
26	遠藤周作『海と毒薬』を読む。	『海と毒薬』を読み進めながら、日本における罪の意識と西洋における罪の意識について考える。
27	浦山桐郎『私が棄てた女』映画鑑賞	人間の罪という問題を扱う際、活字とは異なる映像という媒体がどのような効果を生み出すか考察する。遠藤周作の原作と比較する。
28	60年代および70年代の背景	三島由紀夫の『鏡子の家』を紹介しながら、作品そのものよりも、むしろ、当時の時代背景に焦点を当てて概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書は必ず読んで、授業に出席しなければならない。課題図書は、推理小説・日本近代文学作品・海外の翻訳作品など多岐に渡る。

【テキスト（教科書）】

共通のテキストは使わない。日本文学作品の英訳を取り扱うときは、英訳のプリントを配布する。原文の方は、各自で用意してもらう。また、参考書としてアリストテレス/ホラーティウス『詩学・詩論』（岩波文庫、1997）を使用する。

【参考書】

『グーテンベルグの銀河系』（M. マクルーハン、みすず書房、1986）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（60％）、発表などの平常点（40％）。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートはおおむね良好だが、授業の延長については、映画鑑賞や特別な発表に限るべきだろう。部屋は2コマ分確保してあるが、目的もなく延長するのは好ましくない。むしろ、基本的には90分内にゼミが終了することを目指したい。

【学生が準備すべき機器他】

学生が用意すべき情報機器は特になし。

【その他の重要事項】

文化について考えることが好きな学生の参加を希望します。映画好きも大歓迎。このゼミでは、今まで見たことがないような風変わりな、興味深い映画を鑑賞することができます。また、知識よりも感性、頭のよさよりも、性格のよさを重視します。もちろん、ゼミ参加には協調性が一番大事です。特に今年は、映画関係者などと共同作業をすることがあり得ますから、そういうことに積極的に参加してくれる人間が望まれます。

言語文化演習－国際文学論－

リービ 英雄

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学の国際化を代表する作家とともに、日本文学と外国文学を両方読む。それぞれの国、それぞれの言語、それぞれの時代にとって、真に新しい表現は何なのか、追求する。

越境、マイノリティ、ポストコロニアル、バイリンガル、紀行文学などを、情熱的に読み、楽しく話し合う。文学を専門にしない学生を歓迎する。SAにおいて異言語に身をさらした、その体験を活かし、現代にとって書き言葉の表現の最先端はどこにあるかを問う。

【到達目標】

日本と世界の一流の文学表現にふれて、理解する。

【授業の進め方と方法】

テキストを読んで、それについて学生が発表をする。

ゼミナール形式を中心に授業を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ゼミナールについて	イントロダクション
第2回	越境とバイリンガル①	書くべきことがあるのか
第3回	越境とバイリンガル②	発表①
第4回	越境とバイリンガル③	発表②
第5回	越境とバイリンガル④	発表③
第6回	マイノリティの表現①	発表①
第7回	マイノリティの表現②	発表②
第8回	マイノリティの表現③	発表③
第9回	世界の中の日本文化の表現①	発表①
第10回	世界の中の日本文化の表現②	発表②
第11回	世界の中の日本文化の表現③	発表③
第12回	島国と大陸の表現①	発表①
第13回	島国と大陸の表現②	発表②
第14回	島国と大陸の表現③	発表③

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ゼミナールについて	イントロダクション
第2回	世界の新しい文学①	発表①
第3回	世界の新しい文学②	発表②
第4回	世界の新しい文学③	発表③
第5回	世界の新しい文学④	発表④
第6回	日本文学における「新しさ」①	発表①
第7回	日本文学における「新しさ」②	発表②
第8回	日本文学における「新しさ」③	発表③
第9回	ボーダーを越えた新しい表現①	発表①
第10回	ボーダーを越えた新しい表現②	発表②
第11回	ボーダーを越えた新しい表現③	発表③
第12回	日本の中で「世界文学」を読む①	発表①
第13回	日本の中で「世界文学」を読む②	発表②

第14回 結論

ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連書を読むこと

【テキスト（教科書）】

二十世紀後半から現代までの日本と、主に英米の小説（たとえばメイラー、大江健三郎、三島由紀夫、ボールドウィン、中上健次、トニー・モリソン、在日朝鮮文学、ポスト・コロニアルの小説）。常に「時代」を切り開く文学を選ぶ。短い作品を原文で読んで、長い作品を日本語の翻訳文で読むこともある。

【参考書】

多和田葉子「エクソフォニー」

安部公房「砂の女」

リービ英雄「日本語を書く部屋」

【成績評価の方法と基準】

毎回の発表（50％）、および参加（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

学生は全員満足しているようです。

国際社会演習 ―「国際関係」を問い直す―

今泉 裕美子

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界の諸事象・諸問題を国際関係学の視点と方法から分析する。具体的に述べれば、関心ある事象・問題を①それらが生起し展開してきた歴史のなかで、また②同時代に起きているさまざまな事象・問題との関係性のなかで、さらに③本学部の学際的な学習環境をいかして、分析する。最終的には各自が現代世界を支え、変化させてゆく存在としての自分の立場性と役割を見出す。

【到達目標】

- (1) 国際関係学の方法論を習得する。
- (2) 「国際関係」について、その成立から現代世界に至るまでの構造と動態を理解し、関連する概念、理論、思想を学ぶ。
- (3) 研究テーマの設定、資料収集、分析、発表、議論の方法を習得し、学術論文を執筆し、発表する。他のゼミ生、他ゼミのゼミ生（学部学会などで）の研究にコメントができる。
- (4) 研究対象、これに関係する人びとと自分との関係性を理解し、現代世界を支え、変化させてゆく存在としての自分の立場性と役割を見出す。

【授業の進め方と方法】

2018 年度春学期の共同研究テーマは「[わたし]たちにとつての 2018 年―150 年目」、2019 年度春学期の共同研究テーマは「春学期を踏まえて決定。春学期のテーマ説明は演習説明会で行うが、1 年を通じて以下のように進める。

- (1) 共同研究の文献購読では担当者を割り当て、報告、議論する。フィールドワークを実施する。
- (2) 個人研究には中間報告会を複数回もち、ゼミ生同士の議論、教員からの指導を得て 4 年次末に研究論文を完成、ゼミ論文集を刊行する。
- (3) 学部学会で報告する（3 年は共同研究、4 年は個人研究を原則とする）。
- (4) 毎回授業最初に関心ある報道を 1 つとりあげて議論する。
- (5) 年間授業計画はゼミ生の関心、進捗状況によって一部変更する場合もある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	共同研究テーマの説明、授業の進め方、ゼミ運営について確認。
2	4 年生、個人研究について中間報告	先行研究の整理、論文構成、序論提出。
3	文献 1 に基づく議論①	報告と議論。
4	文献 1 に基づく議論②	報告と議論。
5	文献 1 に基づく議論③	報告と議論。
6	文献 1 に関する補足資料を踏まえた議論④+ 春学期前半の総括	報告と議論、文献 1 の総括。春学期前半の総括。
7	研究テーマ設定、研究計画の立て方、学術論文の書き方を学ぶ（4 年生担当）	3 年生は論文の書き方を学び、4 年生は研究過程と方法を振り返る。
8	文献 2 に基づく議論①	報告と議論。
9	文献 2 に基づく議論②	報告と議論。
10	文献 2 に関する議論③	報告と議論。
11	文献 2 に関する補足資料を踏まえた議論④	報告と議論、文献 2 の総括。

- 12 春学期の総括と秋学期のテーマ、フィールドワークのテーマ決定。文献 2 を含めた春学期の総括。秋学期のテーマ、フィールドワークの準備計画をたてる。
- 13 個人研究中間報告、夏休みの研究計画発表。3 年生は個人研究の最初の構想発表、4 年生は中間報告。
- 14 フィールドワークの準備学習。フィールドワークの方法の学習と、テーマに関する準備学習。

秋学期

- | 回 | テーマ | 内容 |
|----|---------------------------------|--|
| 15 | 秋学期のオリエンテーション。ゼミフィールドワークの総括。 | 秋学期の共同研究テーマと進め方を確認。フィールドワークの成果報告と総括。 |
| 16 | 個人研究について中間報告、研究計画提出 | 3 年生、4 年生の夏休みの研究成果報告、進捗状況に基づく研究計画の修正。 |
| 17 | 文献 3 に基づく議論① | 報告と議論。 |
| 18 | 文献 3 に基づく議論② | 報告と議論。 |
| 19 | 文献 3 に関する補足資料を踏まえた議論③+ 秋学期前半の総括 | 報告と議論、文献 3 の総括。秋学期前半の総括。 |
| 20 | 個人研究について中間報告 | 3 年生は先行研究整理と調査報告、4 年生は論文の半分以上を書き上げて報告。 |
| 21 | 文献 4 に基づく議論① | 報告と議論。 |
| 22 | 文献 4 に基づく議論② | 報告と議論。 |
| 23 | 文献 4 と補足資料に基づく議論③と総括 | 報告と議論、文献 4 の総括。 |
| 24 | 学部学会準備報告 | 3 年生による共同研究のブレ報告、4 年生の個人研究のブレ報告。 |
| 25 | 学部学会報告の総括 | 準備や報告内容、学会で得たコメントに基づく今後の改善点を共有、検討。 |
| 26 | 文献 5 に基づく議論① | 報告と議論。 |
| 27 | 文献 5 と補足資料に基づく議論② | 報告と議論、文献 5 の総括。 |
| 28 | 秋学期および 1 年の総括。 | 秋学期および 1 年の総括の議論。次年度の共同研究テーマ決定。ゼミ論提出。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 文献などに関する報告では担当者がテキスト以外の関連文献も読み、レジュメを作成。報告者以外も疑問点は調べ、意見を準備。
- (2) 個人研究は中間報告会で報告し、自主的に教員から指導をうけることを義務づける。関係機関での調査、聞き取り、フィールドワークを実施する。第一・第二外国語を活用する。
- (3) 共同研究ではフィールドワークの企画・実施（昨年度は北マリアナ諸島サイパン島）。
- (4) 関連するシンポジウムや講演会、映画、博物館などに積極的に足を運ぶ。

【テキスト（教科書）】

○国際関係学に関する基本文献

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。

○学術論文の書き方

齊藤孝他『学術論文の技法』（新訂版）日本エディタースクール出版部、2005 年。

その他、授業時に提示する。

【参考書】

授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミの共同研究に関する報告と議論（50 %）、個人研究に関する報告、レポート及び研究論文執筆（50 %）。前者は準備、司会、発言、授業後の補足調査、学部学会での発表。後者は調査、分析、中間報告会での報告、自主的に論文指導を受ける、学部学会での発表、中間レポートや最終提出の研究論文及び口頭試問の内容を対象とする。提出物の締切りに遅れた場合、特別な理由（期末試験のルールに則る）以外は未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

個人研究と共同研究の両立を意識した年間計画としている。

【その他の重要事項】

(1) 3年、4年を継続して受講する。4年への継続は、3年次末の論文構想発表会でテーマ決定、課された準備を行い得た学生にのみ認める。

(2) 「国際関係学概論Ⅰ・Ⅱ」は必ず受講し、研究テーマに応じて国際社会コースを中心に同コース以外の授業も積極的に受講し、「学際的」に課題を追究する方法を学ぶ。地域研究から国際関係学の方法を学ぶために今泉担当「アジア・太平洋島嶼国際関係史 A、B」(ILAC)、「オセアニアの政治と社会Ⅰ・Ⅱ」(法学部の他学部公開科目) 受講を薦める。

(3) やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由(証明書など)を提出すれば成績評価に考慮する。

(4) 本ゼミでは個人研究とゼミ共同研究が密接に関連する。両者を両立させ、責任をもってゼミ運営に関わり、協力しあえる学生を歓迎する。

国際社会演習ーグローバル化と政治理論ー

大中 一彌

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学を卒業すると「社会人」になるといわれます。では「社会人」がその一員となる社会とは、どのような場所なのでしょう。例えば、この社会は「まとも」な社会なのか？と問うてみることにします。もしあなたの答えが「この社会はまともな社会である」なら、それはどのような理由で「まとも」だといえるのでしょうか？ また、もしあなたの答えが「まともではない」なら、それはなぜでしょう？ また、その「まともではない」社会で私たちはどのように振るまえば良いのでしょうか？ この演習（ゼミ）では、私たちが「社会人」となるにあたって出会うこうした問いをめぐり、自分の頭を使って考えることができるようにトレーニングしていきます。

【到達目標】

1. テレビの情報番組や、Yahoo!などのネット上のニュースやいわゆる「まとめ」サイトをもっぱら情報源としていませんか？ これらの情報源が間違っていたり、偏っていたとしたら、どうしたらよいでしょう。この演習（ゼミ）では、大学生にふさわしく、ニュースの内容や、それが作り出される過程を批判的に考察できる能力（リテラシ）を身に付けることを目指します。

2. 1. の目標を達成すべく、教養としての政治学をこのゼミでは学びます。2018 年度の春セメスターでは、**政治学のなかの政治理論**という分野の基礎を身に付けます。秋セメスターでは、応用編として**シティズンシップの概念**を軸にトレーニングを行い、海外や国内のニュースを分析できるようにします。

【授業の進め方と方法】

1. 教科書の輪読（授業内の発表＋議論）
2. 新聞コーナー（学生による話題提供、報道のされ方の分析、討論）

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	ゼミ長の選出 輪読や新聞コーナーの担当日程決定
2	政治理論の始め方	教科書① 1-18 頁に関する学生の発表と議論
3	政治とは何か	教科書① 19-36 頁に関する学生の発表と議論
4	「私の勝手」で済むか？	教科書① 37-50 頁に関する学生の発表と議論
5	どうして助け合わなければならないのか？	教科書① 51-64 頁に関する学生の発表と議論
6	あなたも「不正義」に加担している？	教科書① 65-78 頁に関する学生の発表と議論
7	みんなで決めたほうがよい？	教科書① 79-96 頁に関する学生の発表と議論
8	多数決で決められればよい？	教科書① 97-114 頁に関する学生の発表と議論
9	民主主義は国境を越えるか？	教科書① 115-131 頁に関する学生の発表と議論
10	「私」とは誰か？	教科書① 131-146 頁に関する学生の発表と議論
11	私は何をどこまでできるのか？／できないのか？	教科書① 147-160 頁に関する学生の発表と議論
12	「私のこと」も政治か？	教科書① 161-176 頁に関する学生の発表と議論
13	「国民である」とはどのようなことか？	教科書① 177-190 頁に関する学生の発表と議論

- 14 異文化体験でわかりあえるか？ 教科書① 191-204 頁に関する学生の発表と議論

秋学期

回	テーマ	内容
1	公共性はどこにある？	教科書① 205-220 頁に関する学生の発表と議論
2	「市民である」とはどのようなことか？	教科書① 221-236 頁に関する学生の発表と議論
3	歴史とともに変化するシティズンシップ／社会・政治理論におけるシティズンシップ	教科書② 5-39 頁に関する学生の発表と議論
4	移民の時代におけるシティズンシップ／リベラルに進化するシティズンシップ	教科書② 40-52 頁に関する学生の発表と議論
5	地位としてのシティズンシップ／リベラル化しゆくシティズンシップ／シティズンシップがリベラル化した背景	教科書② 53-76 頁に関する学生の発表と議論
6	9・11 後の新たな制限／再民族化するシティズンシップ／リベラル化の潮流と新たに導入された制限	教科書② 77-102 頁に関する学生の発表と議論
7	権利としてのシティズンシップ／多様性と社会的権利の衰退／外国人の権利—階層化され、回収される権利	教科書② 103-133 頁に関する学生の発表と議論
8	少数者の権利—多文化主義なのか、反差別なのか／アイデンティティとしてのシティズンシップ／リベラル国家における統一	教科書② 134-171 頁に関する学生の発表と議論
9	シティズンシップの格上げと普遍主義の逆説／リベラルなアイデンティティとムスリムの排除／シティズンシップと国民性の再考	教科書② 172-202 頁に関する学生の発表と議論
10	「軽いシティズンシップ（シティズンシップ・ライト）」へ	教科書② 203-240 頁に関する学生の発表と議論
11	大中「越境するシティズンシップ」論文	同論文に関する学生の発表と議論
12	ローカルなシティズンシップについて考える	ニュース素材のなかから、ローカルなシティズンシップに関連する事例を学生が探し、論として構成する。
13	リージョナルなシティズンシップについて考える	ニュース素材のなかから、リージョナルなシティズンシップに関連する事例を学生が探し、論として構成する。
14	グローバルなシティズンシップについて考える	ニュース素材のなかから、グローバルなシティズンシップに関連する事例を学生が探し、論として構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 次回で扱われる教科書の内容を読む
2. 海外メディアや国内の地方紙を毎日読んで、この演習と関係ありそうな記事をチェックする。
3. 1 + 2 の合計学習時間が、週あたり 90 分程度となることを目指す。

【テキスト（教科書）】

【春～秋】教科書①田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017 年。

【秋】教科書②クリスチャン・ヨブケ『軽いシティズンシップ』遠藤 乾・佐藤崇子・井口保宏・宮井健志訳、岩波書店、2013 年。

【参考書】

ジェラルド・ノワリエル『フランスという坩堝』大中一彌・川崎亜紀子・太田悠介訳、法政大学出版局、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

次の1～5の項目それぞれを20%として評価

1. 授業内発表（レジュメ、新聞コーナー）
2. 授業参加・発言の積極性
3. ゼミの運営全般への協力
4. 期末提出物（タームペーパーなど）
5. 平常点

【学生の意見等からの気づき】

いわゆる「滑舌」が悪いので、学生の皆さんが聞きやすいように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

報告原稿やさまざまな連絡、学期末の提出物の提出など、基本的にすべてウェブ上（授業支援システム）で行なう。また、新聞コーナーでのパソコン、タブレット等を用いたプレゼンを歓迎する。学外からの法政大学図書館のオンラインデータベースの利用ができるよう、VPN 接続の使い方をマスターすること http://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/gakugai_access.html

【その他の重要事項】

進路について、定期的に個別の面接を実施している（特に大学院進学、留学、公務員試験、教職課程などについては早めにご相談を）。

国際社会演習 ―アートは国境を越える?! - 間文化性研究―

春学期担当：桐谷 多恵子，秋学期担当：熊田 泰章

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは文化研究であり、国際文化学部の英語表記にも含まれる概念： **Interculturality** <インターカルチュラリティ／間文化性>を研究する。研究の目的は、「アート」を通して文化や民族の異なる人々が個々の文化の独自性を互いに尊重し、共生する社会を考察することにある。そのための最初の一步として、文化の多様性が成り立つ仕組みとしてのインターカルチュラリティを学ぶ。

具体的には、芸術は「文化」をどのように表現できるのか。あるいはそれが「文化」を志向／思考する上でどんな役に立つのか。これらの問いについて、基本文献を手掛かりにディスカッションを行い、考察する。考察することは、「自分の頭で考える」という事である。自分の頭で考えるには、2つの作業が必要である。一つは、事実関係の確認が必要であり、参考になる資料をきちんと探すこと。研究では、先行研究をしっかりと把握することが出発となる。二つ目は、自分たちの取り組んでいる個別の「文化」の事例を、いつも広い問題領域の中で位置付け、考えようとする姿勢である。ゼミでは、それぞれの地域文化に着目しつつ、それらが織りなす国際文化に視野を広げ、社会の諸相における文化の関係性と躍動性を研究する。

基本文献を読み込む理論研究に加えて、間文化性を身体性として確認するために、現代アートを共同研究テーマとして発表する。現代アートが、地域文化を再確認しつつ国際文化の関係性を構築するために大きく貢献していることを明らかにする。また、作品が成立するための主たる行為者を製作者ではなく、作品を鑑賞する受容者として要求する作品——例えば、マルセル・デュシャン『泉』——を考察し、「作品の内在性と受容者の能動性」を学ぶ。この考察を通して、私たちが生きる「文化」が、存続の危機にさらされる時に、その持続のために、当事者である私たちが何をすることが可能なのかを考えることが、ゼミの課題である。それを、共通討議によって学問的に考察し、一人一人の論文として書くこと、そして、インスタレーションによって表現することを、一年間のゼミ活動を通して達成する。

【到達目標】

国際文化学部の基本概念： **Interculturality** <インターカルチュラリティ>を理解し、文化の生成と変化の仕組みを把握する。

学術論文を精密に読み、学術研究の基本を身に付ける。

学術研究の基本に即して論文を書く。

各自の研究テーマを決め、研究成果を発表する。

【授業の進め方と方法】

基本文献と英語論文を読み、討論する。

個人研究発表を行なう。

現代アートの展覧会を見に行く。

作品制作と発表を行なう；春学期に 1 回、秋学期には学部学会で発表する。

個人研究論文集を作成する。

ゼミ合宿として各地の現代アート国際展などを訪ねる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミ運営について決定
2	基本文献 『オリエンタリズム (上)』第 1 章第 1 回	基本文献第 1 章担当者レポート と全員の討論・エクササイズ

3	基本文献 『オリエンタリズム (上)』第 1 章第 2 回 英語論文第 1 回	基本文献第 1 章担当者レポート と全員の討論・エクササイズの 第 2 回 英語第 1 回のレポート・全員の討 論
4	基本文献 『オリエンタリズム (上)』第 2 章第 1 回 個人研究構想発表第 1 回	第 2 章第 1 回 個人研究構想を順に発表する第 1 回
5	基本文献 『オリエンタリズム (上)』第 2 章第 2 回 個人研究構想発表第 2 回	第 2 章第 2 回 個人研究構想発表第 2 回
6	基本文献 『オリエンタリズム (上)』第 2 章第 3 回 作品構想第 1 回	第 2 章第 3 回 作品制作の構想について討論第 1 回
7	基本文献 『オリエンタリズム (下)』第 1 章第 1 回 作品構想第 2 回	第 1 章第 1 回 作品制作の構想について討論第 2 回
8	基本文献 『オリエンタリズム (下)』第 1 章第 2 回 作品制作第 1 回	第 1 章第 2 回 作品制作第 1 回
9	基本文献 『オリエンタリズム (下)』第 2 章第 1 回 作品制作第 2 回	第 2 章第 1 回 作品制作第 2 回
10	作品発表会	作品発表と解説を行う
11	『オリエンタリズム (下)』第 2 章第 2 回 作品発表総括	第 2 章第 2 回 作品発表の振り返りとまとめ
12	基本文献 『オリエンタリズム (下)』第 2 章第 3 回 個人研究発表第 1 回	第 2 章第 3 回 個人研究発表と質疑第 1 回
13	英語論文第 2 回 個人研究発表第 2 回 まとめ	個人研究発表と質疑第 2 回 このセメスターの総括
14	秋学期	
回	テーマ	内容
15	イントロダクション	秋学期ゼミ運営について決定
16	基本文献 『イメージ・リテラ シー工場』第 1 章	基本文献第 1 章担当者レポート と全員の討論・エクササイズ
17	基本文献 『イメージ・リテラ シー工場』第 2 章 個人研究中間発表第 1 回	第 2 章 個人研究の中間発表と質疑第 1 回
18	基本文献 『イメージ・リテラ シー工場』第 3 章 個人研究中間発表第 2 回	第 3 章 個人研究の中間発表と質疑第 2 回
19	基本文献 『イメージ・リテラ シー工場』第 4 章 個人研究中間発表第 3 回	第 4 章 個人研究の中間発表と質疑第 3 回
20	英語論文第 3 回 作品構想第 1 回	英語第 3 回 作品制作の構想について討論第 1 回
21	基本文献 『イメージ・リテラ シー工場』第 5 章 作品構想第 2 回	第 5 章 作品制作の構想について討論第 2 回

22	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第6章 作品制作 1 回	第6章 作品制作開始
23	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第7章 作品制作 第2 回	第7章 作品制作継続
24	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第8章 学部学会発表準備 作品制作	第8章 最終準備ゲネプロ
25	学部学会発表総括と次年度準備	発表の総括と次年度に向けての討論
26	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第9章 最終個人研究発表 1 回目	第9章 年度締めくくりの個人研究発表と質疑第1 回
27	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第10章 最終個人研究発表 第2 回	第10章 最終個人研究発表と質疑第2 回
28	今年度のまとめ	今年度の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・英語論文を系統的に読み、学習ノートに書き込み、整理する。

学習ノートは、準備学習 ⇒ 授業内 ⇒ 復習で順次参照し、書き込んでいく。

学術用語・人名などは、学習ノートに書き込み、自分自身で編集した辞典・事典として活用する。ゼミ活動の一環として現代アート展覧会を訪ねる。

【テキスト（教科書）】

基本文献：

1. エドワード・W. サイド『オリエンタリズム』（上下）今沢紀子訳、平凡社、1993 年
2. ジャン＝クロード・フォザ他『イメージ・リテラシー工場－フランスの新しい美術鑑賞法』犬伏雅一他訳、フィルムアート社、2006 年
3. ジェラルド・ジュネット『芸術の作品 I－内在性と超越性』和泉涼一訳、水声社、2013 年
4. アゴタ・クリストフ『悪童日記』堀茂樹訳、早川書房、1991 年
5. ツヴェタン・トドロフ『個の礼賛－ルネサンス期フランドルの肖像画』岡田温司・大塚直子訳、白水社、2002 年
6. ジョン・A・ウォーカー／サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門－美術史を超えるための方法論－』岸文和他訳、晃洋書房、2001 年

英語論文、もしくは、関連する英文記事（例えば以下のような英文記事）：

1. Ishiguro, K. My Twentieth Century Evening – and Other Small Breakthroughs [Nobel Lecture]. The official website of the Nobel Prize; 2017 December 7 [cited 2017 December 10]. Available from:
https://www.nobelprize.org/nobel_prizes/literature/laureates/2017/ishiguro-lecture_en.html
2. Miyake, I. A Flash of Memory [New York Times]. 2009 July 13 [cited 2017 December 10]. Available from:
<http://www.nytimes.com/2009/07/14/opinion/14miyake.html>

【参考書】

1. 熊田泰章編『国際文化研究への道－共生と連帯を求めて』彩流社、2013 年
2. 熊田泰章「唯一であることの相対的価値についての試論」、法政大学国際文化学部『異文化論文編（15）』、2014 年

【成績評価の方法と基準】

発表と討論（50 %）、個人研究（50 %）によって評価。

基本文献で展開される概念を理解し、理解したことを発表することが重要です。基本概念をふまえて、個人論文で論証力を鍛錬します。

【学生の意見等からの気づき】

学生によるゼミ運営についての提案を受けて授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ないし各自のパソコン持参が望ましい。

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

アートを通して国際社会を分節する！

Articulate the international community with art!

国際社会演習 ートランスナショナル・ヒストリー研究一

佐々木 一恵

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

過去とは、私たちにとはく異文化＞の一つであり、また過去の出来事や事象を探究することとは、現代と過去との間の関係性を相関的に捉えていくことでもあります。この演習では、国境を越える人・モノ・カネ・思想・文化の移動によって生じた現象及び問題を歴史的な視点から検討していきます。そこから、私たちに「当たり前」な事象や歴史認識を、批判的に捉えなおしていく力を養っていきます。また、ナショナルな境界を越える諸問題について、自分なりの研究テーマ（対象や地域は自由）を構想し、調査・分析し論文としてまとめていく方法・技術の修得を目指します。

【到達目標】

・文献を読み、内容を理解するだけでなく、自分なりの解釈や批判を含めたクリティカル・レビューや先行研究分析ができるようになる。
・一次史料（資料）に関して、それが書かれた政治的・経済的・社会的・文化的文脈の中で解釈できるようになる。
・自分が関心のある事象について、歴史的な視点から史料（資料）収集や現地調査を行い、研究論文（3 年生のゼミ論は 10,000 字程度、4 年生の卒論は 20,000 字程度）としてまとめていけるようになる。

【授業の進め方と方法】

（１）文献に関する発表（レジュメを作成し、文献の要旨を報告し、疑問点・問題点を提起する）
（２）一次史料分析の発表を行う
（３）個人研究の発表（個人研究の構想・概要・進捗状況に関する発表を行う）
（５）先行研究レビュー（自分のテーマに関する先行研究を整理しレポートにまとめ発表する）
（６）その他（夏合宿、他大学との合同ゼミ、国際文化情報学会での発表、卒論合評会など）

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習概要の説明
第 2 回	アメリカ史からのアプローチ①	「黒人性」の問題から人種ステレオタイプを議論していく。
第 3 回	アメリカ史からのアプローチ②	いわゆる「移民の国」アメリカの矛盾を、先住民族から問い直していく。
第 4 回	アメリカ史からのアプローチ③	LGBTQ の権利運動史から、「多様性」の問題について議論する。
第 5 回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ①	ワインの流通の歴史からグローバルなモノと文化の動きを議論する。
第 6 回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ②	「アフリカプリント」から、布・衣・ファッションのグローバルな移動について議論する。
第 7 回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ③	ハワイ島のコナ・コーヒーと日系移民の結びつきから、グローバルな人とモノの移動について議論していく。
第 8 回	史料分析実習①	特定の事象・テーマに関するコンテキスト分析
第 9 回	史料分析実習②	特定の事象・テーマに関する史料収集
第 10 回	史料分析実習③	特定の事象・テーマに関する史料分析の発表

第 11 回	研究論文分析実習①	研究論文の構成・分析方法等について批評する。
第 12 回	研究論文分析実習②	研究論文の構成・分析方法等について批評する。
第 13 回	研究論文分析実習③	研究論文の構成・分析方法等について批評する。
第 14 回	論文作法	論文の書き方についてのワークショップ

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	今学期の計画と目標について
第 2 回	アメリカ史からのアプローチ④	人種隔離と男女平等憲法修正から差別・区別の問題について議論する。
第 3 回	アメリカ史からのアプローチ⑤	エスニック・コミュニティの議論から「多文化共生」の問題について検討する。
第 4 回	アメリカ史からのアプローチ⑥	シカゴの事例から都市ゲトの歴史と現在について議論する。
第 5 回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ④	スペイン史の事例から捉える国民国家の概念と実相について議論する。
第 6 回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ⑤	フランスの事例から国民国家の創造と境界について議論する。
第 7 回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ⑥	女子教育のグローバル化から、近代国民国家とジェンダーの関係について議論する。
第 8 回	学会発表準備①	個人発表の予行演習
第 9 回	学会発表準備②	個人発表の予行演習
第 10 回	学会発表準備③	個人発表の予行演習
第 11 回	個人研究発表	3 年生
第 12 回	個人研究発表	3 年生
第 13 回	個人研究発表	3 年生
第 14 回	まとめ	今年度、演習で学んだことについて振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．文献を読み、疑問点や質問、意見を準備してくる。
２．発表にあたっては、事前に集まって発表のための準備を行う。
３．個人研究の準備を進める（文献表の作成、先行文献の整理と批判、資料収集、調査、等）

【テキスト（教科書）】

兼子歩、貴堂嘉之編『「ヘイト」の時代のアメリカ史—人種・民族・国籍を考える』（彩流社、2017 年）
上智大学アメリカ・カナダ研究所、イベロアメリカ研究所、ヨーロッパ研究所編『グローバル・ヒストリーズ「ナショナル」を越えて』（上智大学出版会、2018 年）

【参考書】

歴史学研究会『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年。
吉田ゆり子、八尾師誠、千葉敏之編『画像史料論—世界史の読み方』東京外国語大学出版会、2014 年。
歴史学研究会編『世界史史料』全 10 巻、岩波書店、2006～2013 年。
ヴァレリー・R・ヤウ『オーラルヒストリーの理論と実践：人文・社会科学を学ぶすべての人のために』インターブックス、2011 年。
横原茂編著『個人の語りがひらく歴史：ナラティブ/エゴ・ドキュメント/シティズンシップ』ミネルヴァ書房、2014 年。

【成績評価の方法と基準】

発表・プレゼンテーション 50%、提出課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

具体的な実習形式を入れてみることにした。

【学生が準備すべき機器他】

史料（資料）検索の実習等において、パソコンを使用することがある。

国際社会演習—ヒトの移動で読み解く世界—

曾 士才

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本や諸外国において、国際労働力や留学生として、または国際結婚などによって移入してきた様々な外国人、あるいは観光客として訪れる人たちに焦点を当て、ヒトの移動を切り口にして、その国のグローバル化や多文化共生について学び、考える。

【到達目標】

日本や諸外国のなかの移民コミュニティや移民が継承する／創造する文化について、あるいは外国人観光客誘致のための情報発信に力を入れている地域や外国人に人気のある観光スポットについて、関連する研究文献を読み、自ら現地をフィールドワークすることにより、その国における多文化共生の現状と課題を学ぶ。そして、研究成果を国際文化情報学会で発表し、最終的には分析レポートとしてまとめる。

【授業の進め方と方法】

19 世紀は「移民の世紀」と呼ばれ、ヨーロッパから多くの移民が新大陸アメリカへと渡って行った。同じ頃、アジアでも中国やインドから欧州列強の植民地へのヒトの移動が見られた。「戦争の世紀」と呼ばれる 20 世紀に入ると、難民や国際労働力としてのヒトの移動が世界規模で広がっていった。そして、21 世紀は「観光の世紀」と呼ばれ、人類最大の異文化接触や交流が日々、世界で展開するようになっている。

春セメスターでは、こうしたヒトの移動に関する共通文献を読み、討論を行う。次に、チームまたは個人単位で研究調査テーマに関する先行研究を洗い出し、研究文献の渉猟を行う。最終的には研究調査計画を立案する。また、課外活動として移民コミュニティのある町を歩く。

秋セメスターではチームまたは個人単位で研究調査したことを整理分析し、発表し、討論する。必要に応じて補充調査をし、11 月の国際文化情報学会で成果発表を行う。また、研究を深めるために、ゲストスピーカーをお呼びして特別講義をしていただく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	4 年生による研究紹介 (1)	4 年生による自己紹介を兼ねた研究紹介 春学期授業の説明、テキスト講読の分担決め
第 2 回	4 年生による研究紹介 (2)	4 年生による自己紹介を兼ねた研究紹介
	フィールドワーク入門解説	教員による F.W. の入門解説と 4 年生による事例紹介
第 3 回	テキスト A の講読と討論 (1)	分担者の発表と共同討論。第 10、11 章の講読
第 4 回	テキスト A の講読と討論 (2)	分担者の発表と共同討論。第 12、13 章の講読
第 5 回	テキスト A の講読と討論 (3)	分担者の発表と共同討論。第 1～3 章の講読
第 6 回	テキスト A の講読と討論 (4)	分担者の発表と共同討論。第 4～6 章の講読
第 7 回	テキスト A の講読と討論 (5)	分担者の発表と共同討論。第 7～8 章の講読
第 8 回	テキスト B の講読と討論 (1)	分担者の発表と共同討論。第 1～3 章の講読
第 9 回	テキスト B の講読と討論 (2)	分担者の発表と共同討論。第 4～6 章の講読
第 10 回	3 年生による研究発表と討論 (1)	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論する。

第 11 回	3 年生による研究発表と討論 (2)	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論する。
第 12 回	3 年生による研究発表と討論 (3)	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論する。
第 13 回	研究調査計画の立案	フィールドワークの計画案を練る (テーマ、調査対象、調査内容の決定)
第 14 回	研究調査計画発表	チームまたは個人単位の発表と質疑応答 役員の改選

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究調査の進捗状況報告	各自の研究調査の進捗状況を報告 教員から卒論等の説明、学会発表の説明
第 2 回	調査結果の整理・分析	整理・分析 or 補充調査
第 3 回	参考文献の整理と要約 (1)	自身の研究の参考となる文献の読込と発表
第 4 回	参考文献の整理と要約 (2)	自身の研究の参考となる文献の読込と発表
第 5 回	参考文献の整理と要約 (3)	自身の研究の参考となる文献の読込と発表
第 6 回	参考文献の整理と要約 (4)	自身の研究の参考となる文献の読込と発表
第 7 回	研究成果の発表 (1)	主に 4 年生、ゼミ生全員の前で成果発表 (学会発表者の選抜を兼ねる)
第 8 回	研究成果の発表 (2)	主に 4 年生、ゼミ生全員の前で成果発表 (学会発表者の選抜を兼ねる)
第 9 回	学会発表のリハーサル (1)	学会発表予定者は発表の準備。それ以外の人は卒論、レポート作成作業
第 10 回	学会発表のリハーサル (2)	学会発表予定者は発表の準備。それ以外の人は卒論、レポート作成作業
第 11 回	4 年生による就職ガイダンス	活動日程、重視したこと
第 12 回	ゲストスピーカー講演	外部講師による講演、アドバイスなど
第 13 回	研究成果の発表 (1)	主に 3 年生、レポートに基づく成果発表
第 14 回	研究成果の発表 (2)	主に 3 年生、レポートに基づく成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期では、共通テキストの読み込みを行うとともに、自身の研究テーマの先行研究の洗い出し、読み込みを行う。秋学期では、フィールドワークや文献調査によって得られた調査結果の整理・分析を随時行う。

【テキスト（教科書）】

A：高山陽子編『多文化時代の観光学—フィールドワークからのアプローチ』ミネルヴァ書房 2017 年

B：白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化—グローバル化とアイデンティティ』お茶の水書房 2008 年

【参考書】

菅原和孝編『フィールドワークへの挑戦—〈実践〉人類学入門』世界思想社 2006 年

山下晋司『観光人類学の挑戦—「新しい地球」の生き方』(講談社選書メチエ) 講談社 2009 年

日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶の水書房 2011 年
吉原和男編『現代における人の国際移動—アジアの中の日本』慶応義塾大学出版会 2013 年

【成績評価の方法と基準】

春学期は授業中の討論への参加度、調査への参加度 70 %、期末に課すレポート (研究調査計画書／中間報告書) 30 %、秋学期は授業中の討論への参加度、調査への参加度 70 %、期末に提出する分析レポート 30 % の割合で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ参加者数が多く、グループワークの時間が占める割合が高い。
ゼミ生全体の交流の機会を確保するために、懇親会や授業支援システムの活用を心がけたい。

国際社会演習－朝鮮半島と日本－

高柳 俊男

配当年次／単位：3～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2015 年は、戦後 70 年、すなわち日本の朝鮮植民地支配の終焉から 70 年であると同時に、日本と韓国が過去を清算し、国交を樹立してから 50 周年に当たる、まさに節目の年であった。

現在、隣国の韓国に向ける日本の視線には、K-POP をはじめ韓流による関心や憧れがある一方で、領土問題や歴史問題をめぐって軋轢や厳しい見方もある。もう一つの北朝鮮には、かつては熱い視線が注がれた時代もあったが、いまだ国交がなく、ミサイル発射や粗末な漁船の漂着など、冷やかな眺めが支配的である。

どうしてこのような現状になっているのであろうか？ そこに至るまでの間には、どのような出来事や人々の営みがあったのだろうか？ 状況を少しでも良い方向に動かしていくためには、何が必要なのだろうか？

この授業では、日本と朝鮮半島の間の複雑に絡まっている糸を、少しずつ解いていく作業をする。それを踏まえてあるべき未来を考察することをめざしたい。なかでも、現在は埋もれてしまっている貴重な歴史的諸経験や未発の可能性を掘り起こすことに力を注ぎたい。

同時に、朝鮮問題を中心にしながらも、日本の異文化理解や多文化共生・多民族共生全般という、より広い文脈の中で捉えることを心がける。

私の演習では、理論から出発するようなアプローチは採らない。むしろ受講生たちが具体的な諸事実をとことん突き詰めるなかで、自らの認識を深化させること——いわば個別を極めることを通じて普遍に至るような学び方を身につけることを重視したい。

【到達目標】

日本と朝鮮半島が歩んできた歴史と現在、およびその中で営まれた人々の思索と行動の軌跡を、自らの知性と感性により時間的・空間的広がりの中で理解する。理解した内容を、受け売りではなく、自ら紡いだ言葉で語れるようにすることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

第 1 回目に、参加ゼミ生個々人がこれまで読んで感銘を受けた韓国・朝鮮関連の本で、ぜひ他のメンバーと議論したい作品を挙げてもらう。それらをリスト化し、個々人の読書の参考にするとともに、一部を年間スケジュールの中にも組み込みたい。

第 2 回目以降は、まずウォーミングアップから始め、高柳が執筆したいいくつかの関連文献を、導入教材として読む。

続いて今年度のテキストに入る。これは、明治時代から現在まで、朝鮮や朝鮮人（総称）とさまざまな形で関わりをもった日本人 36 人を取り上げ、その関係・交流や認識などを具体的に論じたものである。各自には、ウォーミングアップの時期にテキスト全体に目を通し、自分が取り上げたい人物を選定してもらい、それに基づきテキストから春学期と秋学期に最低 1 回ずつ報告してもらう。

発表の際には、取り上げた人物自身が書いた関連文章（30 頁以内の比較的短いもの）を事前に別途配付し、それも含めた報告とする。関連文章の選定に際しては、テキストの記載のほか、その人物の全集や著作集（あれば）、あるいは後述する参考文献類などを参照する。

毎回の討論の中で出た疑問点・不足点を、レポーターに次回冒頭で補足してもらい、知識・認識の深化をはかる。

関連映像の視聴を随時まじえ、夏季休業期間などを利用した合宿や関連スポットへのフィールドワークも、受講生の自発性と創意工夫に基づき適宜実施したい。

なお、可能なら、授業の最後に編者（本学出身）にお出でいただくことも考えたい。また、2018 年度は、こうしたテーマに関心をもつ小林瑞乃先生（青山学院女子短期大学）が私のもとで国内研究に従事することになっているので、演習にも随時参加していただくかもしれない。

朝鮮語ができる人には、関連する朝鮮語文献を活用していただくが、朝鮮語能力はこの演習を受講するにあたっての必要条件ではない。

また、授業は登録上では 1 コマだが、4 限と 5 限にまたがって行なうので、ほかの授業やアルバイトを入れないこと。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講者の自己紹介、自分の推薦する本、年間授業スケジュールの確認、導入教材の配付、レファレンスブックの紹介など
第 2 回	導入教材①	高柳執筆の論文①を読む
第 3 回	導入教材②	高柳執筆の論文②を読む
第 4 回	導入教材③	高柳執筆の論文③を読む
第 5 回	映像上映①	学習内容の映像による確認
第 6 回	テキスト導入	これからテキストを講読するにあたって、まず編者である館野哲氏について、他にどんな著作があるか、新聞・雑誌でどんな報道がなされているかについて確認する
第 7 回	テキストの個人報告①	レポーターの報告と全員による討論
第 8 回	テキストの個人報告②	レポーターの報告と全員による討論
第 9 回	映像上映②	学習内容の映像による確認
第 10 回	テキストの個人報告③	レポーターの報告と全員による討論
第 11 回	テキストの個人報告④	レポーターの報告と全員による討論
第 12 回	映像上映③	学習内容の映像による確認
第 13 回	テキストの個人報告⑤	レポーターの報告と全員による討論
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の学習のまとめと、夏季休業中の学習計画の策定

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の導入①	夏季休業中の各自の学習成果の報告（一人 10 分程度）
第 2 回	秋学期の導入②	夏季休業中の関連新聞記事の分析（朝日／毎日）
第 3 回	秋学期の導入③	夏季休業中の関連新聞記事の分析（読売／韓国の新聞）
第 4 回	映像上映④	学習内容の映像による確認
第 5 回	テキストの個人報告⑥	レポーターの報告と全員による討論
第 6 回	テキストの個人報告⑦	レポーターの報告と全員による討論
第 7 回	テキストの個人報告⑧	レポーターの報告と全員による討論
第 8 回	映像上映⑤	学習内容の映像による確認
第 9 回	テキストの個人報告⑨	レポーターの報告と全員による討論
第 10 回	テキストの個人報告⑩	レポーターの報告と全員による討論
第 11 回	映像上映⑥	学習内容の映像による確認
第 12 回	ゲスト講師を囲んで	テキスト編者の館野哲氏をお迎えして、さらに議論を深める
第 13 回	ゼミ生推薦の本の読書会	年度始めにゼミ生全員が推奨した本の中から 1 冊を選び、全員で読んで討論する
第 14 回	年間のまとめ	年間の学習のまとめと、春季休業中の学習計画の策定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する各種参考文献の講読、関連スポットへの訪問、学内外における関連イベントへの参加など。とくに、編者自身の他の著書にも目を通すことを勧めたい。

また、別の科目になるが、自らの大学時代の学びの集大成として、4 年次秋学期に「卒業研究」を提出して卒業できるよう、日頃から作成に向けた準備を念頭に置きながら演習にも臨むことが望ましい。

なお、日本近現代史・東アジア近現代史の大きな流れについて、高校で習う程度の基礎知識を前提にするので、不足を感じる人は自分で補うよう努めること。

【テキスト（教科書）】

館野哲編『韓国・朝鮮と向き合った 36 人の日本人』（明石書店、2002 年）。ただし、すでに絶版なので、こちら側で人数分を用意する。

【参考書】

レファレンスブックとして、『朝鮮を知る事典』（平凡社）、『朝鮮人物事典』（大和書房）、『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』、『在日コリアン辞典』（明石書店）などを随時参照すること。韓国・朝鮮について深く考えたいと願う人は、自分で購入し、ゼミに持参することを強く推奨する。

単行本としては、同じ編者による同『36 人の日本人：韓国・朝鮮へのまなざし』をとくに参照し、できれば購入することが望ましい。

それ以外では、たとえば、古典的な旗田巍『日本人の朝鮮観』や朴春日『近代日本文学における朝鮮像』をはじめ、高崎隆治『文学のなかの朝鮮人像』、渡邊一民『「他者」としての朝鮮：文学的考察』、小川圭治・池明観編『日韓キリスト教関係史資料』、李修京編『韓国と日本の交流の記憶：日韓の未来を共に築くために』、琴秉洞『日本人の朝鮮観』『朝鮮人の日本観』、鄭大均編『日韓併合期ベストエッセイ集』、朴裕河『引揚げ文学論序説：新たなポストコロニアルへ』などを、文献目録としては園部裕之編『近代日本人の朝鮮認識に関する研究文献目録』などを参照するとよい。

【成績評価の方法と基準】

演習なので、担当するレポーターはもちろん、それ以外のゼミ生も毎回事前にテキストを読み込み、ポイントを把握して来たうえで出席し、必ず何かしら自分なりの見解を表明することが大切である。そうした平常時の貢献度と発表時の報告内容を 35 % ずつ、各学期末のレポートを 30 % として判断する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミはサークルや「仲良しクラブ」ではないが、かといって参加者個人の孤独な作業とも異なる。探究心に溢れた一人一人の営みの上に、みなで切磋琢磨できるような場となるよう、ともに努力していきたい。

【その他の重要事項】

年間を通して、「知の蓄積」という課題を常に考えながら学んでいきたい。

その意味は、一つはこれまでの長い歴史の中で蓄積されてきた人類の膨大な知をどう活用できるかという課題、もう一つは自分の中に知をどう蓄積していけるかという課題を指している。

とくに後者については、一度学んだ内容が再度登場した場合、より高いレベルで考えられるようにするためにはどうしたらよいかを、常に念頭において取り組んでほしい。すなわち、漫然とした受け身の学びではなく、真に能動的な学びとはどうあるべきかという問いかけである。

そのためには、具体的にこだわること、すなわち演習内で登場する人名や事件名などの固有名詞を疎かにしない学びが決定的に重要だと考える。実際に、以前の授業で登場した人物であるにもかかわらず、まるで初めて出てきたような触れられ方をしたことがしばしばあるので、この点はとくに強調しておきたい。

国際社会演習一人種・民族・宗教紛争研究一

中島 成久

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは担当者が学部・基礎科目で行っている「文化人類学」「文化人類学方法論」「国家と民族」「地域紛争とエスニシティ」「他者イメージ論」「東南アジアの文化」で展開した議論を、さらに詳しく検討することを目指している。

現代世界で深刻な問題となっている人種・民族・宗教に絡む紛争を多面的に検討する。

【到達目標】

このゼミで学ぶ学生は、人種・民族・宗教に関する基礎的な知識を必要とされているが、閉じた小さな世界を対象とするのではなく、紛争という形で現れてきた現象を、国家、多国籍企業（資本）、歴史などとの関係で位置づけることを目指す。

ゼミの共通テーマとして、「熱帯林の資源管理と紛争」を掲げ、春学期はそのテーマに関する文献を共同で読み検討する。夏休みには、ゼミ旅行として、インドネシア、スマトラ島ブキットラワンで行われているオランウータン保護活動とエコツアーに参加し、問題を詳細に検討する。

さらに、ゼミ全体のテーマとは別に個人の研究テーマを見出し、深く学んでいくことも目指している。

【授業の進め方と方法】

ゼミは共通テキストの講読、夏のゼミ旅行（インドネシア）、国際文化情報学会での発表、それに個人研究の推進という構成で進められる。

春学期は、夏の研修に向けての共通テキストの講読を行う。秋学期の前半はその経験を下に秋の国際文化情報学会で発表できるようまとめを行う。その後は、個人の研究発表を3年生、4年生に行ってもらい、最終的にはある形にまとめていくことを目指す。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	顔合わせ、自己紹介、ゼミの内容の説明と担当者の決定
第2回	アブラヤシ開発①	DVD「森の慟哭」視聴
第3回	アブラヤシ開発②	中島論文「クリンチ・スプラット国立公園のスクウォッター」
第4回	アブラヤシ開発③	中島論文「アブラヤシプランテーションをめぐるヘゲモニー関係」前回の続き
第5回	アブラヤシ開発④	『BIOCITY—消えた熱帯林とプランテーション』①
第6回	熱帯林破壊と住民の生活①	『BIOCITY—消えた熱帯林とプランテーション』②
第7回	熱帯林破壊と住民の生活②	『熱帯アジアの森の民』
第8回	熱帯林破壊と住民の生活③	『開発の人類学』
第9回	熱帯林破壊と住民の生活④	『熱帯林の紛争管理』
第10回	熱帯林破壊と住民の生活⑤	『資源と人間』
第11回	資源管理をめぐる問題①	『紛争の海』
第12回	資源管理をめぐる問題②	『天然資源をめぐる政治と暴力』
第13回	資源管理をめぐる問題③	
第14回	まとめ	春学期に学んだことの整理と検討

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	夏休み研修の成果発表①	インドネシア研修参加者の発表①
第2回	夏休み研修の成果発表②	インドネシア研修参加者の発表②
第3回	夏休み研修の成果発表③	インドネシア研修参加者の発表③
第4回	国際文化文化情報学会に向けての準備①	研究発表のテーマの絞り込みと関連文献の講読①
第5回	国際文化文化情報学会に向けての準備②	研究発表のテーマの絞り込みと関連文献の講読②
第6回	国際文化文化情報学会に向けての準備③	研究発表のテーマの絞り込みと関連文献の講読③
第7回	国際文化文化情報学会に向けての準備④	研究テーマの分担と深化①
第8回	国際文化文化情報学会に向けての準備⑤	研究テーマの分担と深化②
第9回	国際文化文化情報学会に向けての準備⑥	研究テーマの分担と深化③
第10回	国際文化文化情報学会に向けての準備⑦	発表の予定演習
第11回	個人研究発表①	4年生①
第12回	個人研究発表②	4年生②
第13回	個人研究発表③	3年生①
第14回	個人研究発表④	3年生②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 テキストの予習復習
- 2 図書館などで関連文献を調べ理解を深める
- 3 自分のテーマを日ごろ深め、必要な文献を読み、レベルアップに日々努力すること

【テキスト（教科書）】

中島成久 「クリンチ・スプラット国立公園のスクウォッター：ジャンビ州ムランギン県調査報告」『インドネシアニューズレター』第96号、2018年
 中島成久 「アブラヤシプランテーションをめぐるヘゲモニー関係」『異文化』第17号、2017年
 安田雅俊他 『熱帯雨林の自然史、東南アジアのフィールドから』2008年、東海大学出版会
 山田勇編 『森と人のアジア』1999年、昭和堂
 池谷和信 『熱帯アジアの森の民』2005年、人文書院
 信田・真崎編著 『東南アジア・南アジアの開発の人類学』2009年、明石書店
 原田一宏 『熱帯林の紛争管理』2011年、原人社
 内堀基光 『資源と人間』2007年、弘文堂
 秋道・岸上 『紛争の海』2002年、人文書院
 森下明子 『天然資源をめぐる政治と暴力』2015年、京都大学学術出版会
 『BIOCITY—消えた熱帯林とプランテーション』2015 No63

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

ゼミでの議論をどう活発にするか、アクティブラーニングなどを積極的に導入する。

【学生が準備すべき機器他】

- 1 発表時にはパワーポイントを使うこと。
- 2 テキストの情報だけではなく、テキストを「読みこなす」ことも必要である。
- 3 インドネシア研修の企画

国際社会演習－国際協力を捉える視点－

華井和代

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際協力」とは異なる文化的背景を抱えた人々のつながりの一形態であり、演習で扱うイシューは国際協力を必要とする背景や実施した影響も含む。具体的には、貧困、環境、開発、格差、紛争、難民、教育などの「グローバルイシュー」、国際機構、NGO、政府機関、企業などの「組織」、ボランティア、募金、善意、助け合いなど「国際協力を実践する個人や社会のあり方」、そうした実践を表象するメディアも学びの対象とする。その前提に立って、国際文化学部の学生として「国際協力」やその背景要因、意図せざる結果を考察する多様な分析視角＝視点を見つけることを演習のテーマとしている。

【到達目標】

【3 年春学期】「国際協力」を広く分析する人文社会科学の視点や方法論を習得し、各自が研究したいテーマと研究方法を見出せるようになる。

【3 年秋学期】実際に調査・取材や研究に携わってその結果を発表したり、先輩の研究の進捗に積極的に触れたりすることを通して、研究に必要な方法を習得し、各自が研究したいテーマに関わる意義ある問いや仮説を立てられるようになる。

【4 年春学期】「国際協力」に係る事象を分析する人文社会科学の視点を深めるとともに、自らの研究テーマに沿った調査を進めることで、実践知（フロネシス）として知識を捉えることができるようになる。

【4 年秋学期】先行研究や適切な方法に基づいた研究論文の執筆と研究発表を行うことができるようになる。

【授業の進め方と方法】

【概要】春学期は国際協力やそれを必要とする問題群および人文社会科学の調査方法に関する日本語もしくは英語の文献を読んで議論する。秋学期は日本語もしくは英語の学術論文を読んで研究方法を議論すると同時に 4 年生の研究発表を題材に実践的な演習を行う。そのために法政大学懸賞論文国際文化情報学会を積極的に活用し、4 年生は原則全員が発表する。

【方法】

◆文献講読：課題文献を毎回割り当てられた学生が読んで来て発表し、それをもとに議論する。担当教員は関係する分野についてインプットをする。

◆外部講師：課題文献の内容を深く理解するために外部講師を招くこともある。

◆ゼミ合宿：夏休みの終わりに行う

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の中身を共有し受講生の関心に合わせて変更する
第 2 回	国際協力とは何か	国際協力の種類と仕組みを学ぶ
第 3 回	国際協力の歴史	第二次世界大戦後の国際協力の歴史を学ぶ
第 4 回	貧困と貧困削減	貧困の捉え方や様々な貧困削減のアプローチについて学ぶ
第 5 回	平和構築と復興支援	紛争地域の平和構築や復興に対する国際協力のあり方について学ぶ
第 6 回	持続可能な発展とガバナンス	自然・社会環境と調和した開発のあり方や、それに必要なガバナンスについて学ぶ
第 7 回	国際協力に関わるアクター	企業、市民社会など、国際協力に関わるアクターについて学ぶ
第 8 回	開発経済学の視座	開発問題を開発経済学から捉えた視点で学ぶ

第 9 回	開発政治学の視座	開発問題を開発政治学から捉えた視点で学ぶ
第 10 回	開発社会学の視座	開発問題を開発社会学から捉えた視点で学ぶ
第 11 回	調査方法（1）量的調査	量的調査方法を実践的に学ぶ
第 12 回	調査方法（2）質的調査	質的調査方法を実践的に学ぶ
第 13 回	調査方法（3）フィールドワーク	フィールドワークの実施方法を実践的に学ぶ
第 14 回	春学期のまとめ	春学期に学んだ内容について KJ 法を用いて議論する

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、研究発表の仕方	春学期の振り返りと秋学期の説明。研究発表の仕方に関する講義
第 2 回	研究論文の検討（1）仮説検証型論文 A	実際の研究論文を読む
第 3 回	研究論文の検討（2）仮説検証型論文 B	実際の研究論文を読む
第 4 回	研究論文の検討（3）サーベイ論文 A	実際の研究論文を読む
第 5 回	個人研究発表と批評（1）	3 年生が夏休みまでに実施したライフストーリーの発表とグループに分かれての批評会（12 人のゼミ生中最初の 4 名）
第 6 回	個人研究発表と批評（2）	3 年生が夏休みまでに実施したライフストーリーの発表とグループに分かれての批評会（12 人のゼミ生中次の 4 名）
第 7 回	個人研究発表と批評（3）	3 年生が夏休みまでに実施したライフストーリーの発表とグループに分かれての批評会（12 人のゼミ生最後の 4 名）
第 8 回	研究論文要旨に対する討議	国際文化情報学会の予稿を事前に読んできた上で議論しあう
第 9 回	個人研究発表と批評（4）	国際文化情報学会の発表練習（発表者の半分程度）
第 10 回	個人研究発表と批評（5）	国際文化情報学会の発表練習（発表者の半分程度）
第 11 回	学会振り返り	国際文化情報学会での発表に対する相互批評
第 12 回	秋学期のまとめ	秋学期に学んだ内容について KJ 法を用いて議論する
第 13 回	個人研究発表と批評（6）	3 年生による個人研究発表と批評
第 14 回	パネル討論会	2 年間のゼミでの学びについてパネル討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・春学期は毎回課題文献を指定するので、発表者だけでなく全員が必ず事前に「精読」してくる。分量が多かったり、文章が難解だったり、時には英語だったりするので、時間をかけて時には他のゼミ生と議論をしながら読んでくること。

・秋学期は他のゼミ生の原稿をもとに議論することが多いので、事前に与えられた原稿を必ず精読してくる。その際、表面的な批判に留まらず、執筆者の懐に入ったコメントをできるようにすること。

・毎回演習後の HOPS もしくは授業支援システムを通したフィードバックを行い復習すること。

・ライフストーリー、研究進捗、論文執筆など提出物が多いので必ず期限までに執筆を終わらせ提出すること。

・法政大学懸賞論文、外国語でのスピーチコンテスト、観光や開発に関わる論文コンクールなど大学内外のコンテストへの投稿・出展を奨励・サポートするので、積極的に挑戦すること。

【テキスト（教科書）】

4 月の演習が始まるまでに最低 1 度は以下の文献を読んでおくこと。
下村恭民ら編『国際協力新版』有斐閣選書、2009 年。
鹿島茂『勝つための論文の書き方』文春新書、2003 年。
伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣、2001 年。

【参考書】

演習の中で指定する

【成績評価の方法と基準】

毎回「演習の学び」を HOPS もしくは授業支援システムに提出：40%、文献講読と発表：30%、個人研究論文の執筆と発表：30%。ただし3年生は各学期に4回以上欠席した場合は単位を取得できない。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの時間が長すぎると学びの質が低下するため、19時までには終了するようにする。ゼミ生が何を学びたいかを意見聴取した上で、ゼミの内容をアレンジする。

【学生が準備すべき機器他】

- ・HOPS もしくは授業支援システムを頻繁に使用する
- ・正式の連絡は演習の ML で伝える
- ・パワーポイントでの発表の際はパソコンを用意すること

【その他の重要事項】

- ・図書館、CiNii や Web of Science などの大学のリソースを早めに使えるようになること。
- ・授業内容は変更がありうるので3月の演習説明会や4月の授業時に説明する。
- ・3年、4年と継続して履修すること。ただし、途中で関心を失ったり、他にやりたいことを見出した場合は履修登録を見送ることを推奨する。
- ・4年次から履修する場合は、3年次までに人文社会科学的な見方や学術的な研究の方法を一定程度身につけ、かつ本演習に係る具体的なテーマを設定し文献研究を進めていること。
- ・国際文化協力、平和学、国際関係学概論、国際関係研究、実践社会調査法、実践国際協力など、関連する授業を受講すること。
- ・本演習を希望する現2年生や1年生は、2018年1月20日（土）の終日、ボアソナードタワー 3F マルチメディアスタジオで開催される『松本ゼミ公開卒論発表会』への参加を推奨する。詳しくは本ゼミの知り合い、もしくは教員に直接問い合わせること。

インターンシップ事前学習

中島 成久、廣松 勲

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期

人数制限・選抜・抽選：

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際文化学部で親和性のある企業／団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事案内」を目的としています。

この科目は複数の外部講師が担当するオムニバス授業です。国際文化学部を卒業してどのような仕事に就けるのか、というのは多くの学生の皆さんが不安に思っている事案です。国際文化学部を卒業して必ず有利になる職種はありませんが、いくつかの業界は国際文化学部との親和性が非常に大きいものがあります。そうした業界の第一線で働く経験豊富な講師をお招きして、それぞれの業界、企業の仕事の内容と将来展望を直接話していただく機会を提供するのがこの授業の目的です。

また、卒業生による就活体験、就業体験のお話を聞く時間も作っています。

この授業を取ることによって、国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集し、「インターンシップ」という就業体験、就活などに生かすことができます。

【到達目標】

国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍されている外部講師による講義であり、その業界の特徴、問題などを学ぶほか、実社会で生きることとはどういうことかを最新のデータを交えて学ぶことです。

【授業の進め方と方法】

初回を除いて、外部講師によるオムニバス授業。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の目的方法の説明＋
4 月 12 日		OGOB による就活就業体験成績評価の詳細
第 2 回	榎本 裕洋氏（丸紅株式会社シニア・アナリスト）	「総合商社とは何か」
4 月 19 日		
第 3 回	高橋 依子氏（独立行政法人国際協力機構 東京国際センター 市民参加協力第一課）	「世界の中のあなたの役割」
4 月 26 日		
第 4 回	代島裕世氏（サラヤ株式会社コミュニケーション本部 本部長）	「SARAYA の SDGs ビジネス」
5 月 10 日		
第 5 回	安藤 正裕氏（株式会社 ANA 総合研究所大	「航空業界の現状と課題について」
5 月 17 日	学連携グループ 総括主席研究員）	
第 6 回	堂前 清隆氏（株式会社 IIJ）	「格安スマホ・MVNO の背景から見る通信事業」
5 月 24 日		
第 7 回	畑中 晴雄氏（花王株式会社経営サポート部門サステナビリティ推進グループ部長）	「社会のサステナビリティへの貢献」
5 月 31 日		
第 8 回	山本 隆司氏（株式会社 テレビ朝日総合編成局放送基準担当局長）	「テレビを取り巻く環境の変化 2018」
6 月 7 日		

第 9 回	シムカート・ビョルン 氏（公益社団法人アムネスティ・インターナショナルジャパン キャンペーン・コーディネーター）	「国際人権 NGO が目指す社会」
6 月 14 日		
第 10 回	十河俊輔氏（独立行政 法人国際交流基金 総務部人事課）	「国際文化交流を支える仕事」
6 月 21 日		
第 11 回	十河俊輔氏（独立行政 法人国際交流基金 総務部人事課）	「国際文化交流を支える仕事」
6 月 28 日		
第 12 回	神野 斉氏（株式会社 明石書店編集部 部長）	「出版の今—縮む世界と広がる世界」
7 月 5 日		
第 13 回	大城勝浩氏（株式会社 朝日広告社 ケーティングコミュニケーション本部 本部長補佐兼デジタルソリューション局 局長）	「広告会社のホンシツ」
7 月 12 日		
第 14 回	早坂文宏氏（毎日新聞 社人事・総務本部採用担当部長）	「新聞ジャーナリズムの現状」
7 月 19 日		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

興味のある外部講師のテーマについて図書館などで関連する文献を調べ、視野を広げること。

【テキスト（教科書）】

無し。授業内で関連する資料を配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席 20 ＋コメントシート 20 －）と授業内試験（60 －）による総合評価。授業終了後 1 週間後にレポートの提出。分量などについては、開講時に詳しく説明する。

【学生の意見等からの気づき】

各講師の授業の最後に質問の時間をとっているが、質問が出ない場合には早く切り上げてもいい。個人的に質問したいこともあるので、柔軟な運営方法を模索する。

ILAC(アイラック)科目/市ヶ谷基礎科目

0 群 (導入)

1 群 (人文科学分野)

2 群 (社会科学分野)

3 群 (自然科学分野)

4 群 (外国語科目群)

5 群 (保健体育分野)

- ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目の講義概要は簡易版です。必ず WEB シラバスを確認してください。授業に関する重要な内容は WEB シラバスに掲載されています。本冊子に掲載している ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目はあくまで補助的なものです。履修予定の科目は、授業開始前までに必ず WEB シラバスを確認してください。
- 学部で配布される時間割で各科目の履修対象（入学年度・学年・クラス等）を確認してください。履修対象以外の方はその授業を履修することができません。履修に関する詳細は「履修の手引き」を確認してください。語学や体育、学部専門科目等を考慮した上で、WEB シラバスで詳細を確認し、履修計画をたてましょう。
- シラバスの掲載内容に変更等が生じた場合は、市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) 掲示板でお知らせしますので、登校時には必ず確認するようにしてください。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

「学ぶとは?」「働くとは?」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での4年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
平林 正樹	
授業コード: Q0432	2017 年度以降入学者
授業コード: Q0432	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは?」「学ぶとは?」「働くとは?」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での4年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
斉藤 貴久	
授業コード: Q0433	2017 年度以降入学者
授業コード: Q0433	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは?」「学ぶとは?」「働くとは?」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での4年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

PRI100LA	
情報リテラシー I	2017 年度以降入学者
各担当者	
授業コード: 各授業による	2017 年度以降入学者
開講時期: 春学期	
履修対象: 国際文化学部 1 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

到達目標 コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

成績評価の方法と基準 「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。レポートは内容および表現の適切さを評価します。タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出题します。

PRI100LA	
情報リテラシー II	2017 年度以降入学者
各担当者	
授業コード: 各授業による	2017 年度以降入学者
開講時期: 春学期	
履修対象: 国際文化学部 1 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 情報リテラシー I で学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

到達目標 情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式 (情報メディア) が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

成績評価の方法と基準 「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。レポートは内容および表現の適切さを評価します。期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出题します。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
平林 正樹	
授業コード: Q0431	2017 年度以降入学者
授業コード: Q0431	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは?」

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

は、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
斉藤 貴久	
授業コード：Q0434	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0434	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは？」「学ぶとは？」「働くとは？」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での 4 年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 % という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
徳山 誠	
授業コード：Q0435	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0435	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは？」「学ぶとは？」「働くとは？」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での 4 年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 % という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
徳山 誠	
授業コード：Q0436	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0436	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは？」「学ぶとは？」「働くとは？」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での 4 年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 % という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン入門	2016 年度以前入学者
齋藤 典子	
授業コード：Q0437	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0437	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 大学に入学してきた意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、自分探しのきっかけなど仲間と共有し合うグループワークを通じて「自己肯定感」が実感できる学生を増やすための授業にしていきます。同時に、「生きるとは？」「学ぶとは？」「働くとは？」を念頭に、これから約 70 年続く可能性のある人生の設計図を描く上での基礎的知見を提供し、大切なスタートがスムーズにできる支援を行っていきます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学での 4 年間で、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 % という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2016 年度以前入学者
平林 正樹	
授業コード：Q0451	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0451	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2016 年度以前入学者
徳山 誠	
授業コード：Q0452	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0452	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2016 年度以前入学者
徳山 誠	
授業コード：Q0453	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0453	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2017 年度以降入学者
CAR100LA	
キャリアデザイン応用	2016 年度以前入学者
平林 正樹	
授業コード：Q0454	2017 年度以降入学者
授業コード：Q0454	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会の中に存在する仕事についての理解を深めることがこの講義の目的です。一般に学生たちは、消費財を扱っている企業についてはイメージできますが、そういった企業が活動するために必要な資材や機械設備を提供している企業については、存在すら知らないのが実情です。世の中にはどのような仕事があるのかを具体的に知ることによって、将来の職業選択に活かしてほしいと思います。そして、この講義をインターンシップ先の選定やインターンシップに行く際の事前情報として使うことができます。

到達目標 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。高校までは、課題が与えられ、その解答を出来るだけ早くみつける能力が求められました。しかし社会に出ると、自ら課題をみつけて解決策を考え出し、実行する能力が求められます。大学生活を通して、課題発見、解決策立案、実行の基礎的な能力を身につけてほしいと思います。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成である。リアクションペーパーについては、記述内容、言葉遣い、論理構成を評価する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

IDN100LA	
法学への招待	2017 年度以降入学者
IDN100LA	
法学への招待	2016 年度以前入学者
高柳 俊男、小林 ふみ子	
授業コード：Q0501	2017 年度以降入学者
授業コード：P0701	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ようこそ法政大学へ！ 法政が好きという人も、よくわからない…という人も、まずは今の法政大学がどのようにしてできあがったのかについて知ってみませんか？ 自分の学ぶ大学や学部がいつ、どのように作られたのか、そこにどんな想いや物語があったのか、聞いてみたいくはないでしょうか？

1880（明治 13）年に設立された東京法学社から発展した法政大学は、実は記録のうえで法律学校を起源として現存する日本の私立大学のなかで、もっとも早く作られたことが知られています。

この授業では、創立以来 140 年弱の歴史をふりかえるとともに、普段の授業では触れることない、校歌のなりたち、古くからの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積や図書館の個人文庫、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、さまざまな角度から法政大学に迫ります。最後には学生たち自身で未来の法政大学を考え、総長に提言する機会も用意しています。

科目責任者 2 名のコーディネートのもと、毎回異なるゲスト講師の講義を聞き、クイズ形式でその内容をふりかえります。ときおり動画を交えたり、学部・学年を超えてディスカッションしたりなど、変化に富んだ授業です。法政で学ぶ友人も増やし、受講生の皆さんがここで学ぶ未来にますます希望がもてるようになることをめざしています。それはみなさん自身が将来の目標やキャリアを考えることにもつながるかもしれません。

到達目標 ・法政大学の歴史と現在を、日本近現代史の流れのなかで理解する。

・歴史のなかで培われてきた法政大学らしさ（法政大学憲章に表されています）を考え、それを自分の将来を構想する糧とする。
・上位科目「法学の探究 LA・LB」を受講する場合、その前提となる知識を得る。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、テキストおよび授業中の振り返りクイズ等をもとに出題する期末試験 60 %を基準にして、総合的に評価します。
期末試験のうち選択問題については、5 割以上の正答が単位取得の最低ラインです。

IDN200LA	
法学の探究 L B	2017 年度以降入学者
IDN100LA	
法学の探究 B	2016 年度以前入学者
古俣 達郎	
授業コード：Q0503	2017 年度以降入学者
授業コード：P0703	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では法政大学の歴史に関するテキストをゼミナール形式で講読していきます。

今期は、「学生」に焦点をあて、卒業生の回想や法大生に関する記事などを読解することによって、法政大学の歴史を「学生」の観点から「読み直し」ます。

明治期の法律学校時代の学生とはどのような存在だったのか、大正末から昭和初期に体育会・文化系団体などの学生活動が一斉にはじまったのはなぜか、戦時下において学生たちは戦争についてどのように考えていたのか、戦前の留学生の学生生活はどのようなものだったのか、法政大学に女子学生が誕生したのはいつだったのか、バブル期の学生生活はどのようなものであったのか、戦前・戦中・戦後の法大生像にはどのような変遷があるのか、そして、法大生の特質・独自性とは何か。これらのテーマを資料（映画・アニメなどの映像資料も含む）に基づいて、科目担当者とともに検証していきます。

各学部の専門ゼミの履修が始まる前に、法政大学をテーマとして発表

や議論などゼミナール形式の授業に慣れる機会にもなるでしょう

到達目標 法政大学はその創立者たちが若き法学徒であり、その後の歴史においても学生たちの主体的な活動によって発展していった大学です。かつての法大生の先進的な取り組みに学ぶことによって、法大生としての主体性、批判的な視野や独立性、そして、多様性と「他者」に開かれた精神を涵養することを目的とします。

成績評価の方法と基準 平常点とテキスト報告（各 50 %）にて判断します。

IDN200LA	
法学の探究 L A	2017 年度以降入学者
IDN100LA	
法学の探究 A	2016 年度以前入学者
高柳 俊男、古俣 達郎	
授業コード：Q0504	2017 年度以降入学者
授業コード：P0704	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、「法学への招待」をすでに受講し、法政大学が経てきた 140 年近い歴史と現状について一通りの理解をもつ学生を主対象に、本学ゆかりの特定の人物を媒介に、法政大学についてより深く考える場を提供する発展科目として設定しました（今年度から内容を大幅変更）。

「法学への招待」における学習で、本学が 1880 年の創立以来、どのような歩みを経してきたのか、その中で時代の要請にも応えつつどのような変化があったのかに関しては、一応の理解が得られていると思います。その前提の上に、本授業では、法政大学で教えた教員や、学んだ学生を具体的に上げます。教員の場合なら、その人物が法政大学でどういう教育研究に携わったのか、そのことで本学や社会の発展にいかに関与したか、などを追います。卒業生の場合なら、本学で何を学んだのか、あるいは学んだことをその後の本人の人生や、社会に向けてどう役立てたかなどについて、探求することになるでしょう。
法政大学ゆかりの特定の人物を詳しく追うことで、「自由と進歩」の理念や、時代のフロンティアを掲げる法政大学の歴史と現在が、より具体性を帯びて理解できることになるはずです。

到達目標 本学の経てきた道を、具体的な人物に即して、実証的・実感的に把握できることを目指します。時代の大きな流れの中で、本学ゆかりのその人物が何に興味をもち、どんな活動をし、何を目指し、何に悩んだかなど、時代の雰囲気を受講生個々人の知性と感性で感じられるようにします。それを、自分の学生生活や将来像へとつなげて考える契機を得るよう努めます。

成績評価の方法と基準 毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、学期末のレポート 60 %を基準にして、総合的に評価します。受講者数によっては若干の変更があるかもしれませんが、その場合は授業の場でお知らせします。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LIT100LA	
日本古典文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：中世文学を読み解く	
表 きよし	
授業コード：Q1001	2017 年度以降入学者
授業コード：P1001	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることに留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。

到達目標 『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。

成績評価の方法と基準 様々な人物の描から方が理解できたか、合戦の様子を把握することができたか、『平家物語』の持つ特色が十分に理解できたかどうかを論述式の試験で問う。試験の点数（80％）と、リアクションペーパーの記述内容など授業への参加態度（20％）を総合して成績評価を行う。

LIT100LA	
日本古典文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：中世文学を読み解く	
表 きよし	
授業コード：Q1002	2017 年度以降入学者
授業コード：P1002	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。

到達目標 義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。

成績評価の方法と基準 古典文学作品に描かれる義経・弁慶伝説の内容が理解できたか、こうした伝説が生まれた背景を考えることができたか、古典文学作品の面白さを人に伝えられるかを論述式の試験で問う。試験の点数（80％）と、リアクションペーパーの記述内容など授業への参加態度（20％）を総合して成績評価を行う。

LIT100LA	
日本古典文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：かぐや姫の「実像」	
園 明美	
授業コード：Q1003	2017 年度以降入学者
授業コード：P1005	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 『竹取物語』は、現存する我が国最古の物語である。この物語については、おとぎ話の「かぐや姫のお話」として、幼い頃に絵本や紙芝居で親しんだ人も多いであろう。また、2013年末にはアニメ映画化されて話題になった。しかし、原典である『竹取物語』を読む機会は、意外に少ないのではないか。

実は、原典の『竹取物語』には、おとぎ話やアニメーションのかぐや姫とはかけ離れた、驚くべき言動をするかぐや姫の姿や、他の登場人物たちの滑稽な言動、あるいはいわゆる「おやじギャグ」のような表現が随所に見られるのである。本授業では、『竹取物語』の原典を読むことを通して、学生諸君それぞれの「かぐや姫像」・『竹取物語』像を見出してほしい。

到達目標 『竹取物語』のストーリー展開を、原典の本文を中心に追いながら、おとぎ話やアニメーションに描かれた姿との比較や、背景となる史実や当時の習慣等を知ることを通して、理解を深めてゆく。なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行い、答案内容によって評価する。（90％）ただし、学生諸君との協議により、レポートによって評価する形にする場合もある。平常点は最終評価の参考とする。（10％）ただし、特別な理由もなく出席率が60％以下という場合は、評価の対象外とするので注意すること。

LIT100LA	
日本古典文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：平安貴族の「優雅な（?）」生活	
園 明美	
授業コード：Q1004	2017 年度以降入学者
授業コード：P1006	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「平安時代のイメージは？」と聞かれたら、多くの人が「優雅」と答えるのではないだろうか。

確かに、日常的に華やかな衣装を身に纏い、和歌を詠み合う優雅な姿も、平安貴族の一面であろう。しかし、平安時代の文学作品にも、人を妬んだり陥れたり、笑い者にしたり、口汚く罵ったり・・・という、生々しい人間の姿が描かれているものもある。本授業では、そんな「優雅な」平安時代の文学作品の表現を通して、「優雅」の一言では収まりきれない平安時代の一面を浮き彫りにしてみたい。

到達目標 平安時代の物語や随筆・日記等の文学作品の中から興味深いエピソードを含む記事を抜粋・紹介し、当時の貴族たちの「生の姿」を探ってゆく。

なお、授業は講義形式で進める。また、受験勉強の古文ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行い、答案内容によって評

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

値する。（90％）
ただし、学生諸君との協議により、レポートによって評価する形にする場合もある。
平常点は最終評価の参考とする。（10％）ただし、特別な理由もなく出席率が60％以下という場合は、評価の対象外とするので注意すること。

LIT100LA	
日本古典文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：伊勢物語を読む	
成島 知子	
授業コード：Q1005	2017 年度以降入学者
授業コード：P1007	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する 2 つのジャンルについて、考察するとともに 1000 年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

到達目標 和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきれない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受し、現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。
古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100%。評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

LIT100LA	
日本古典文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：伊勢物語をその享受から派生した作品とともに読む	
成島 知子	
授業コード：Q1006	2017 年度以降入学者
授業コード：P1008	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化していくかを、大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

到達目標 古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

成績評価の方法と基準 学期末のレポート。テーマは伊勢物語、そのものについて、もしくはその享受について 4000 字相当。これがほぼ評価の 100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。

また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

LIT100LA	
日本古典文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：伊勢物語を読む	
成島 知子	
授業コード：Q1007	2017 年度以降入学者
授業コード：P1009	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する 2 つのジャンルについて、考察するとともに 1000 年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

到達目標 和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきれない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受し、現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。
古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100%。評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

LIT100LA	
日本古典文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：伊勢物語をその享受から派生した作品とともに読む	
成島 知子	
授業コード：Q1008	2017 年度以降入学者
授業コード：P1010	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化していくかを、大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

到達目標 古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

成績評価の方法と基準 学期末のレポート。テーマは伊勢物語、そのものについて、もしくはその享受について 4000 字相当。これがほぼ評価の 100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

LIT100LA	
日本近・現代文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近・現代文学の問題作を読む	
川鍋 義一	
授業コード：Q1009	2017 年度以降入学者
授業コード：P1011	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

到達目標 教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかに
かわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身
とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常
点20%で評価します。

LIT100LA	
日本近・現代文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近・現代文学の問題作を読む	
川鍋 義一	
授業コード：Q1010	2017 年度以降入学者
授業コード：P1012	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

到達目標 教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかに
かわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身
とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常
点20%で評価します。

LIT100LA	
日本近・現代文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近・現代文学の問題作を読む	
川鍋 義一	
授業コード：Q1011	2017 年度以降入学者
授業コード：P1013	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

到達目標 教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかに
かわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身
とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常
点20%で評価します。

LIT100LA	
日本近・現代文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近・現代文学の問題作を読む	
川鍋 義一	
授業コード：Q1012	2017 年度以降入学者
授業コード：P1014	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【日本近・現代文学の問題作を読む】
近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

到達目標 教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。
・近現代日本文学になじむこと。
・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかに
かわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身
とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常
点20%で評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LIT100LA	
日本文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
島田 雅彦	
授業コード：Q1013	2017 年度以降入学者
授業コード：P1015	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文学にまつわる通念をはずし、能動的かつ創造的に読むことを指導し、訓練する。履修者諸君が主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こすことを手伝う。受験までの「現代国語」を越え、多様な作品解釈に向けて、知性を解放することを目指す。文学は活用次第では政治経済を凌ぐ実学たりうるし、文学史を踏まえれば、議論でも優位に立つことができる。

到達目標 日本近代文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。

成績評価の方法と基準 筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準は筆記試験 80 %、平常点 20 %とする。

LIT100LA	
日本文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
島田 雅彦	
授業コード：Q1014	2017 年度以降入学者
授業コード：P1016	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文学にまつわる通念をはずし、能動的かつ創造的に読むことを指導し、訓練する。履修者諸君には主に日本で広く、長く読まれて来た西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。漠然と、あるいは確固たる意思を持って、文章を書きたいと考える人、また人文系教養に飢えている人々の履修、聴講を歓迎する。文学は活用次第では政治経済を凌ぐ実学たりうるし、文学史を踏まえれば、議論でも優位に立つことができる。

到達目標 世界文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。

成績評価の方法と基準 筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は筆記試験 80 %、平常点 20 %とする。

LIT100LA	
日本文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：〈コトバ〉と文学	
授業コード：Q1015	2017 年度以降入学者
授業コード：P1017	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文学テキストは人の手によって編まれた〈コトバ〉の集積体である。日本語という〈コトバ〉を用いて何が語られているのか、さらになぜその〈コトバ〉が用いられているのか、私たちが当たり前のこととして見過ごしているところに実は大きな意味が隠されていることもある。話者の態度や社会通念などさまざまなものが〈コトバ〉の意味を操作し、構築し、連関を紡いでるのだ。本講義ではこうした問題意識をもとに、日本近代文学の分析を通じて〈コトバ〉というものの働きを学んでいく。

到達目標 本講義では明治以後の日本近代文学のテキストを用いて、社会と人間と文学の関わりを問うことを目的としている。講義を通じて文学テキストが娯楽であると同時に高度な学問の対象でもあることを考えていく。これによって多角的に物ごとをとらえ、思考する力を養う。

成績評価の方法と基準 ・授業中に課すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（出席等）：30 %
・授業内試験：70 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

LIT100LA	
日本文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近代文学	
授業コード：Q1016	2017 年度以降入学者
授業コード：P1018	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これまで学問は人文科学分野と自然科学分野とに大別され、それぞれで極めて精緻な研究が行われてきた。日本近代文学も「〈日本〉の〈近代〉の文学」という枠組みがあり、そのなかでさらに細分化されて研究が進められている。しかし、現在、狭い枠組みにとらわれず、いくつもの他領域を横断することによって新しい知見が生み出されるようになっていく。そこで本講義では文学テキストを通じて様々な問題系へと認識を拡げることが目的とする。

到達目標 本講義を通じて、具体的なテキストを精読することで多様な問題を考える柔軟な思考を養っていききたい。文学テキストが「文学愛好者」のためだけのものではなく、限りなく広く開かれたものであることを学んで欲しい。

成績評価の方法と基準 ・授業中に貸すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（平常点）：30 %
・授業内試験 70 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

LIT100LA	
外国文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：ヨーロッパ文学と旅	
D. ハイデンライヒ	
授業コード：Q1017	2017 年度以降入学者
授業コード：P1019	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシャ神話『オデュッセイア』から、スウィフト『ガリヴァー旅行記』、モンテーニュ『エッセー』、アイヒェンドルフ『偷しき放浪児』など、旅と文学との関係は世界文学を貫く重要な題材の一つである。

春学期の授業では様々な文学形式（英雄叙事詩、日記、エッセー、風刺小説、教養小説等）における旅の系譜について考えます。

到達目標 ・文学の題材と形式の関係を知ること。
・「旅」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
・異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）：60%

学期末試験：40%

受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

LIT100LA	
外国文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：ヨーロッパ文学と「変身」	
D. ハイデンライヒ	
授業コード：Q1018	2017 年度以降入学者
授業コード：P1020	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とステイーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多くの読者を惹き付けてやまない。この授業はヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

到達目標 ・今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
・「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
・異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）：60%

学期末試験：40%

受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

LIT100LA	
外国文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
近江屋 志穂	
授業コード：Q1019	2017 年度以降入学者
授業コード：P1021	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス文学の読み方を基礎から学びたい学生を対象とします。作品は日本語で読みます。
フランスのパカロレアの国語筆記／口述試験をテーマとし、関連する文学作品を読んでいきます。一年間で筆記試験の4種類の課題、および口述試験の内容と解き方を理解するとともに、そこで取り上げられる作家／作品について学びます。春学期は「テキスト解釈」およびエミール・ゾラを中心に扱います。

到達目標 ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ
・大学入試における記述式問題／口述試験について、フランスの事例を理解する
・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、期末試験 80%

LIT100LA	
外国文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
近江屋 志穂	
授業コード：Q1020	2017 年度以降入学者
授業コード：P1022	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス文学の読み方を基礎から学びたい学生を対象とします。作品は日本語で読みます。
フランスのパカロレアの国語筆記／口述試験をテーマとし、関連する文学作品を読んでいきます。一年間で筆記試験の4種類の課題および口述試験の内容と解き方を理解するとともに、そこで取り上げられる作家／作品について学びます。秋学期は「総括」「小論文」「創作作文」およびモーパッサン、バルザック、ヴィクトル・ユゴーを中心に扱います。

到達目標 ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ
・大学入試における記述式問題／口述試験について、フランスの事例を理解する
・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、期末試験 80%

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LIT100LA	
外国文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：中国古典に親しむ	
吉井 涼子	
授業コード：Q1021	2017 年度以降入学者
授業コード：P1023	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代のものから中国文学の粋とも言われる唐詩までを主な対象とし、詩人のエピソードや時代背景・文化などに関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

到達目標 これから先中国古典詩に興味を持った際に、使うべき字書や辞書がわかるようになる。漢詩を鑑賞するために必要な知識とスキルを習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ってしまいがちだが、実はコツを掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA	
外国文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：中国古典に親しむ	
吉井 涼子	
授業コード：Q1022	2017 年度以降入学者
授業コード：P1024	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に漢代のものから、物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、多くの話に触れ人物のエピソードを知り、その当時の時代背景や文化などと一緒に読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。

到達目標 物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識にとスキルにより、更に中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA	
外国文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日中比較	
吉井 涼子	
授業コード：Q1023	2017 年度以降入学者
授業コード：P1027	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日中の文学作品及び日中の交流史に関連する文献などを比較・鑑賞することで、他国の文章・文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになるための講

義である。

到達目標 日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることができる。

自国の文化への理解もより深めることができる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA	
外国文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日中比較	
吉井 涼子	
授業コード：Q1024	2017 年度以降入学者
授業コード：P1028	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日中の文学を比較・鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点で読めるようになる。日本と中国それぞれの古典を学ぶことで、他の文学作品を読むに際しても、より楽しめるような知識と教養を得る。

到達目標 精読を通して日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることができる。これから先日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読解するスキルを学ぶことができる。自国の文化への理解もより深めることができる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

LIT100LA	
外国文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日韓文化交流と理解	
梁 禮先	
授業コード：Q1025	2017 年度以降入学者
授業コード：P1029	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日韓両国のより理解を深めて行くことを目指していきます。文化や問題などを比較してみることで、新しい発見や将来が見えてきます。また、現在の日韓の若者たちの興味ある問題や題材を、若者目線で幅広く取り上げて、日韓両国の交流を向上させて行くことが目的です。韓国留学生たちの積極的参加も歓迎します。

到達目標 日韓の文化や習慣・歴史の差などを比較しながら総合理解していくことを目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点・レポートなど 50%、期末レポート 50%。(学生たちの積極的な授業参加・意見なども参考にします)
合計 100%

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

け本授業では、映像やインタビューを基に書き言葉（エッセーや小論文）に置き換える。

- 到達目標** ①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

成績評価の方法と基準 平常点 30 点、提出物 30 点、期末課題 40 点

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：留学生を主な対象とするクラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1063	2017 年度以降入学者
授業コード：P1229	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
留学生対象クラス	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語を「書く」力、日本語を「読む」力をつけよう。
川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。
(留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。)

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、日本の大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50％、提出物の点数・漢字テストの点数50％で評価します。
1回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：留学生を主な対象とするクラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1064	2017 年度以降入学者
授業コード：P1230	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
留学生対象クラス	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語を「書く」力、日本語を「読む」力をつけよう。
川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。
(留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。)

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、日本の大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50％、提出物の点数・漢字テストの点数50％で評価します。

LIT100LA	
外国文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日韓文化交流と理解	
梁 禮先	
授業コード：Q1026	2017 年度以降入学者
授業コード：P1030	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題や問題について、様々な視点から問題を捉えていきます。現在の日韓の若者のトレンドも多く取り上げていきます。

到達目標 常に、現在の日韓のトレンドを取り上げつつ、その問題や将来性や日韓両国の交流の方向性を考えることを目指すことで、日韓のこれからの未来への活発な交流のきっかけをつくることが授業の目指す目標です。

成績評価の方法と基準 平常点・レポートなど 50%、期末レポート 50% (積極的授業内の意見なども参考にします)
合計 100%

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：簡潔な文章を書く	
浅沼 博	
授業コード：Q1061	2017 年度以降入学者
授業コード：P1227	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 簡潔な文章は、簡潔な文によって構成されている。ここでは実用文という観点から、「わかりやすく書くこと」を学ぶ。

到達目標 平易な短文によって段落をつくる。さらに段落をうまく連結させることで、わかりやすい実用文を構成することができる。文章とは「わかりやすく書くもの」という認識を深める。

成績評価の方法と基準 各単元にそって進めていくため平常授業の演習を重視する。したがって平常点を60％、期末レポートを40％とする。演習やレポートについては、テキストにそった「わかりやすさ」を評価基準とする。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
西元 康雅	
授業コード：Q1062	2017 年度以降入学者
授業コード：P1228	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語の読み書きを修得する。とりわ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：通常クラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1065	2017 年度以降入学者
授業コード：P1221	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法・環・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。
このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐える「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）5 0 %、提出物の点数・漢字テストの点数 5 0 % で評価します。
1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：通常クラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1066	2017 年度以降入学者
授業コード：P1222	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法・環・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。
このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐える「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）5 0 %、提出物の点数・漢字テストの点数 5 0 % で評価します。
1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：通常クラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1067	2017 年度以降入学者
授業コード：P1223	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文・営・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。
このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐える「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）5 0 %、提出物の点数・漢字テストの点数 5 0 % で評価します。
1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：通常クラス	
川鍋 義一	
授業コード：Q1068	2017 年度以降入学者
授業コード：P1224	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文・営・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「書く」力、「読む」力をつけよう。
このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

到達目標 いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐える「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）5 0 %、提出物の点数・漢字テストの点数 5 0 % で評価します。
1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
西元 康雅	
授業コード：Q1069	2017 年度以降入学者
授業コード：P1225	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語の読み書きの基礎を身につける。とりわけ本授業では実践的な「書く力」を修得する。

到達目標 ①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の歴史的社会的背景を知ること、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

成績評価の方法と基準 平常点 30 点、提出物 30 点、期末レポート 40 点

BSP100LA	
文章論	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
文章論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
西元 康雅	
授業コード：Q1070	2017 年度以降入学者
授業コード：P1226	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本語の読み書きを修得する。とりわけ本授業では、映像やインタビューを基に書き言葉（エッセーや小論文）に置き換える。

到達目標 ①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の歴史的社会的背景を知ること、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

成績評価の方法と基準 平常点 30 点、提出物 30 点、期末課題 40 点

LNG100LA	
言語学 A	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 I	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：Q1081	2017 年度以降入学者
授業コード：P1203	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞法・国 1-4 年生、文・営 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

LNG100LA	
言語学 B	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 II	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：Q1082	2017 年度以降入学者
授業コード：P1204	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞法・国 1-4 年生、文・営 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前半は日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。後半は異文化理解という視点から、言語と文化、社会、心理、教育の関係を理解する。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

LNG100LA	
言語学 A	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 I	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：Q1083	2017 年度以降入学者
授業コード：P1205	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞文 1 年生、法・営・国 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

LNG100LA	
言語学 B	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 II	2016 年度以前入学者
江村 裕文	
授業コード：Q1084	2017 年度以降入学者
授業コード：P1206	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞文 1 年生、法・営・国 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、まずヒトが言語とどう向かい合ってきたかという「言語学史」的に歴史的に概観します。

次いで、「言語学」としての特徴的な概念等について紹介します。

最後に、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられる

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

かを考えます。

- 到達目標** 1 「言語」についてのヒトの営みについての一般的な知見を得ること。
- 2 「言語学」の方法についての基礎的な知識を身に着けること。
- 3 「コミュニケーション」における「言語」の位置づけについて、正しい知識を身に着けること。
- 4 結果として、「言語学」の枠組みや思考法について、大まかでもいいから認識を深めること。

成績評価の方法と基準 試験の得点100点満点で評価します。

LNG100LA	
言語学 A	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 I	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：Q1085	2017 年度以降入学者
授業コード：P1207	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞営 1 年生、法・文・国 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようなものか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

LNG100LA	
言語学 B	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学 II	2016 年度以前入学者
板井 美佐	
授業コード：Q1086	2017 年度以降入学者
授業コード：P1208	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞営 1 年生、法・文・国 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前半は日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。後半は異文化理解という視点から、言語と文化、社会、心理、教育の関係を理解する。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

到達目標 学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

成績評価の方法と基準 期末試験を 100 点満点換算で評価する。

PHL100LA	
哲学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学 I	2016 年度以前入学者
滝口 清栄	
授業コード：Q1091	2017 年度以降入学者
授業コード：P1051	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。本講義では、このテーマを踏まえながら、環境と共生という現代的視点から、哲学的テーマをとりあげます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
本講義では、環境と共生をめぐる哲学史のアプローチ、そして現代の理論的問題を明らかにすることを通して、これからの世界を生きる人間と社会のあり方を考える手がかりが得られることをめざします。

成績評価の方法と基準 セメスター末のレポートないし試験を基準として、平常点も参考とします。

PHL100LA	
哲学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学 II	2016 年度以前入学者
滝口 清栄	
授業コード：Q1092	2017 年度以降入学者
授業コード：P1052	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。
本講義では、近代ドイツの哲学者ヘーゲルを通して、このような問題にアプローチします。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
本講義では、ヘーゲル哲学をメインにすえて、認識、存在、人間、社会などの根本にある問題を扱います。これらを通して、常識をつねに問い返す哲学的思考に触れることができるでしょう。こうして得られた思考様式が、現代の問題を考える大切なツールになることをめざします。

成績評価の方法と基準 セメスター末のレポートないし試験を基準として、平常点も参考とします。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1093	2017 年度以降入学者
授業コード：P1053	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年Ⅰ～Ⅱ組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。また、比較思想的考察により、東西両哲学思想それぞれの思考法等の特徴と差異についても学ぶ予定です。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：
・アイデア説の哲学史上の意味と問題点
・原理・真理等についての東西両哲学思想それぞれの考え方の特徴と差異
・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1094	2017 年度以降入学者
授業コード：P1054	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年Ⅰ～Ⅱ組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。
この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。また、比較思想的考察により、原理・真理等に関する東西両哲学思想の考え方の違いについても触れる予定です。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・「神」・「真理」・「ニヒリズム対応法」等についての東西両哲学思想それぞれの特徴と差異。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1095	2017 年度以降入学者
授業コード：P1055	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年Ⅲ～Ⅳ組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。また、比較思想的考察により、東西両哲学思想それぞれの思考法等の特徴と差異についても学ぶ予定です。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：
・アイデア説の哲学史上の意味と問題点
・原理・真理等についての東西両哲学思想それぞれの考え方の特徴と差異
・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1096	2017 年度以降入学者
授業コード：P1056	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年Ⅲ～Ⅳ組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。
この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。また、比較思想的考察により、原理・真理等に関する東西両哲学思想の考え方の違いについても触れる予定です。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・「神」・「真理」・「ニヒリズム対応法」等についての東西両哲学思想それぞれの特徴と差異。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
山口 誠一	
授業コード：Q1097	2017 年度以降入学者
授業コード：P1057	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ I 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

成績評価の方法と基準 セメスター末の授業内試験 (70%) を基準として、平常評価 (30%) も参考とします。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
山口 誠一	
授業コード：Q1098	2017 年度以降入学者
授業コード：P1058	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ I 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、現代哲学の基本問題を、哲学的映像とスクリーン投射テキストでできるだけ平明に解説します。

到達目標 今期は、学生が常識批判の方法としての懐疑を、ヘーゲル哲学の学習を通して深めることができます。

成績評価の方法と基準 セメスター末の授業内試験を基準 (70%) として、平常評価 (30%) も参考とします。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
伊藤 功	
授業コード：Q1099	2017 年度以降入学者
授業コード：P1059	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。配分は試験 70 %、平常点 30 %です。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
伊藤 功	
授業コード：Q1100	2017 年度以降入学者
授業コード：P1060	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。配分は試験 70 %、平常点 30 %です。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
谷口 力	
授業コード：Q1101	2017 年度以降入学者
授業コード：P1061	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、「世界」、および、「世界」に関する論理的な問題（存在論や認識論）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

- ・古代ギリシャ哲学における世界の原理について理解する。
- ・大陸合理論における世界の構造について理解する。
- ・イギリス経験論における世界の認識について理解する。
- ・近代ドイツ哲学における世界の説明について理解する。
- ・19～20 世紀哲学における世界の解釈について理解する。
- ・現代分析哲学における世界の分析について理解する。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、基本的に、平常点 50%、期末試験 50%で評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
谷口 力	
授業コード：Q1102	2017 年度以降入学者
授業コード：P1062	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、「心」、および、「心」に関する倫理的な問題（価値や生き方）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
・古代ギリシャ哲学における心の原理について理解する。
・大陸合理論における心の構造について理解する。
・イギリス経験論における心の認識について理解する。
・近代ドイツ哲学における心の説明について理解する。
・19～20 世紀哲学における心の解釈について理解する。
・現代分析哲学における心の分析について理解する。

成績評価の方法と基準 セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、基本的に、平常点 50%、期末試験 50%で評価します。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
大西 正人	
授業コード：Q1103	2017 年度以降入学者
授業コード：P1063	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 J ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。特にこのⅠの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
大西 正人	
授業コード：Q1104	2017 年度以降入学者
授業コード：P1064	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 J ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間の欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
近堂 秀	
授業コード：Q1105	2017 年度以降入学者
授業コード：P1065	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国際文化学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

到達目標 哲学の基本的性格と歴史と基本問題の概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

成績評価の方法と基準 授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
近堂 秀	
授業コード：Q1106	2017 年度以降入学者
授業コード：P1066	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国際文化学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。カントの世界市民主義の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

- 到達目標
- 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。
- 成績評価の方法と基準
- 授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード：Q1107	2017 年度以降入学者
授業コード：P1067	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 L ～ N 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）
- この講義は哲学の歴史上の基本的性格と基本問題を概観する。この概観によって、哲学的な教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広く新しい視野から考え、探求することとする。特にこの講義では、主として近現代の西洋及び日本の哲学思想家の基本問題を学んでゆく。
- 到達目標
- 哲学の基本的性格と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解し説明できること。特に、人間存在（自己）の哲学的なあり方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できること。
- 成績評価の方法と基準
- 学期末の筆記試験（60 % くらい）と平常点（40 % くらい）の 2 つにより総合的に評価する予定である。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード：Q1108	2017 年度以降入学者
授業コード：P1068	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 L ～ N 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）
- 古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながら解明してゆく。哲学が存在意識を変革して、自己と世界の新しい見方、気づきを得てゆくものであることを踏まえて、主として近現代の西洋及び日本の哲学思想家の思考を見てゆく。
- 到達目標
- 主要な哲学思想家の根本問題を学習することを通して、存在意識の変革としての哲学を理解し、説明できること。特に、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な問題、状況をも意識しつつ、理解し、説明できること。
- 成績評価の方法と基準
- 学期末の筆記試験（60 % くらい）と平常点（40 % くらい）の 2 つにより総合的に評価する予定である。

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
白根 裕里枝	
授業コード：Q1109	2017 年度以降入学者
授業コード：P1069	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：キャリアデザイン学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）
- この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。哲学という難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指している。善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、幸せのために、哲学を学ぶことが必要とされている。
- 到達目標
- 学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。哲学はあらゆる学問の基礎である。何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。
- 成績評価の方法と基準
- 平常点（40 %）と学期末試験（60 %）によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。試験は、手書きのノートの持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式である。

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
白根 裕里枝	
授業コード：Q1110	2017 年度以降入学者
授業コード：P1070	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：キャリアデザイン学部 1 年/法文営国環キ 2-4 年	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）
- 哲学Ⅱでは、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。
- 他方で、哲学は人間の真の幸福を探求する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと思っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。
- 到達目標
- 西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教というもの

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

0%くらい)の2つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA	
倫理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
佐藤 英明	
授業コード: Q1123	2017 年度以降入学者
授業コード: P1103	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	
履修対象: 法 1 年 I ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施する(ノート・テキストなどの参照不可)。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこなう(試験 60%・小テスト 40%)。

PHL100LA	
倫理学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
佐藤 英明	
授業コード: Q1124	2017 年度以降入学者
授業コード: P1104	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	
履修対象: 法 1 年 I ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学 (allied ethics)」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学 I で学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施する(ノート・テキストなどの参照不可)。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこなう(試験 60%・小テスト 40%)。

について、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」と「知る」とこととの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か? どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか? 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることというがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが、理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

成績評価の方法と基準 平常点 (40 %) と学期末試験 (60 %) によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。試験は手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式。

PHL100LA	
倫理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード: Q1121	2017 年度以降入学者
授業コード: P1101	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	
履修対象: 法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理学上の根本思考を取り上げて、各学生がそれぞれの立場で倫理的な問題を考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを倫理的なさまざまな観点に基づいて考察できることを目的とする。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋の代表的な倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し、説明できることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験 (60% くらい) と平常点 (40% くらい) の 2 つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA	
倫理学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード: Q1122	2017 年度以降入学者
授業コード: P1102	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	
履修対象: 法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、実践的に応用していくための倫理学である。この授業は、特にその中から生命倫理学と環境倫理学を主に取り上げて、多様な価値観が交錯する中で生ずる倫理的問題を見ながら、そうした価値観の相違の中で、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的状況を考慮しながら考察し、理解することを目的とする。特に、この授業は「生命倫理学」及び「環境倫理学」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学 I で学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用し、もしくは新しくしてゆくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験 (60% くらい) と平常点 (40% くらい) の 2 つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
伊藤 直樹	
授業コード：Q1125	2017 年度以降入学者
授業コード：P1105	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組・法 1 年 Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 学期末にテストを行なう。
成績評価の基準は次のようにする。
授業への貢献度 30%；小テスト 20%；テスト 50%

PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
伊藤 直樹	
授業コード：Q1126	2017 年度以降入学者
授業コード：P1106	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組・法 1 年 Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 学期末にテストを行なう。
成績評価の基準は次のようにする。
授業への貢献度 30%；小テスト 20%；テスト 50%

PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
田島 樹里奈	
授業コード：Q1127	2017 年度以降入学者
授業コード：P1107	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で学問的な知識を得て、試験に合格することで完結するものではない。倫理学の知は、個々人が主体的に考え、私たちが生きる日常生活の様々な場面で思考し、活用することによってこそ自分自身の糧となる。そのため、この授業では身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるようにしたい。単なる知識を身につけるだけでなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることも視野に入れている。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、社会の中で一人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。そのさいに、現実社会や日常生活で起きている様々な出来事が、いかに倫理的問題と密接に結びついているかを自らの頭で考えながら取り組むことで、実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 毎授業ごとのリアクションペーパー（20%）、期末試験またはレポート（80%）

PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
田島 樹里奈	
授業コード：Q1128	2017 年度以降入学者
授業コード：P1108	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題を取り上げながら、異なる文化で生きる他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるようにしたい。単なる知識を身につけるだけでなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることも視野に入れている。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちがグローバルな社会の中で、一人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。そのさいに、現実社会や日常生活で起きている様々な出来事が、いかに倫理的問題と密接に結びついているかを自らの頭で考えながら取り組むことで、実践的な知を獲得することを目指す。特にこの授業は、いわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえる。

成績評価の方法と基準 毎授業ごとのリアクションペーパー（20%）、期末試験またはレポート（80%）

PHL100LA	
倫理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
杉本 隆久	
授業コード：Q1129	2017 年度以降入学者
授業コード：P1109	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることでは終わりでない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、小論文 20%、期末試験 60%。
授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識についての的確に説明できているかどうかの評価の基準となる。

PHL100LA	
倫理学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
杉本 隆久	
授業コード：Q1130	2017 年度以降入学者
授業コード：P1110	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学 I で学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、小論文 20%、期末試験 60%。
授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識についての的確に説明できているかどうかの評価の基準となる。

PHL100LA	
倫理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
森村 修	
授業コード：Q1131	2017 年度以降入学者
授業コード：P1111	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～W 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることでは終わりでない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

成績評価の方法と基準 ・定期試験（80 %）に加え、小テスト（20 %）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

PHL100LA	
倫理学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
森村 修	
授業コード：Q1132	2017 年度以降入学者
授業コード：P1112	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～W 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学 I で学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 定期試験（80 %）に加え、小テスト（20 %）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード：Q1133	2017 年度以降入学者
授業コード：P1113	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理学上の根本思考を取り上げて、各学生がそれぞれの立場で倫理的な問題を考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを倫理的なさまざまな観点に基づいて考察できることを目的とする。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋の代表的な倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し、説明できることを目標とする。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（60％くらい）と平常点（40％くらい）の2つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
越部 良一	
授業コード：Q1134	2017 年度以降入学者
授業コード：P1114	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、実践的に応用していくための倫理学である。この授業は、特にその中から生命倫理学と環境倫理学を主に取り上げて、多様な価値観が交錯する中で生ずる倫理的な問題を見ながら、そうした価値観の相違の中で、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

到達目標 この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的状況を考慮しながら考察し、理解することを目的とする。特に、この授業は「生命倫理学」及び「環境倫理学」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用し、もしくは新しくしてゆくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

成績評価の方法と基準 学期末の筆記試験（60％くらい）と平常点（40％くらい）の2つにより総合的に評価する予定である。試験は定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等には注意すること。

PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
大西 正人	
授業コード：Q1141	2017 年度以降入学者
授業コード：P1081	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。

到達目標 本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

成績評価の方法と基準 授業中に解いた問題を中心とした期末テストを行う。

PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
大西 正人	
授業コード：Q1142	2017 年度以降入学者
授業コード：P1082	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。

到達目標 本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

成績評価の方法と基準 授業中に解いた問題を中心とした期末テストを行う。

PHL100LA	
論理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学 I	2016 年度以前入学者
白根 裕里枝	
授業コード：Q1143	2017 年度以降入学者
授業コード：P1083	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはどういうことなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたらすための学問です。

到達目標 概念、命題、推理について、その基礎を学びます。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。レポートなどを書く上でも言葉や論理に気をつけるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。

PHL100LA	
論理学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学 II	2016 年度以前入学者
白根 裕里枝	
授業コード：Q1144	2017 年度以降入学者
授業コード：P1084	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学（I）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学IIでは、主として「推理」をめぐって、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆきます。

到達目標 実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。「勉強したら試験に受かるが、勉強しないと試験に受からない」のかどうか……。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートを書く際にも役立つ。帰納法や誤謬論など、われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

成績評価の方法と基準 平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。出席は 3 分の 2 以上。

PHL100LA	
論理学 I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学 I	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1145	2017 年度以降入学者
授業コード：P1085	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A～X 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。論理学Iでは、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80 %）、平常点（20 %）に基づき評価。

学期末筆記試験においては、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主たる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方と答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

PHL100LA	
論理学 II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学 II	2016 年度以前入学者
計良 隆世	
授業コード：Q1146	2017 年度以降入学者
授業コード：P1086	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A～X 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学IIでは、アリストテレスに始まる伝統的論理学が修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学（記号論理学）の基礎を学び、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 春学期の論理学Iと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 現代論理学（記号論理学）の学習の基本となる命題論理学を学び、日常文（命題）を自分で記号化し、文の論理的構造を明確に理解する。
2. 命題論理学における、妥当な推論を行うための基礎的な知識と技法とを自然演繹を通して習得し、基本的な推論問題（命題証明問題）を自力で解く。
3. 自然演繹の推論規則を順々に学んでいくことで、論理の世界がどのような構造になっているのかについても理解する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準 2回の小テスト（筆記試験）の成績（80％）と平常点（20％）に基づき評価。

2回の小テストにおいては、いずれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

小テストの採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

PHL100LA	
論理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
鵜澤 和彦	
授業コード：Q1147	2017 年度以降入学者
授業コード：P1087	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅰの授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を扱い、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

到達目標 ①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。

②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。

③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

成績評価の方法と基準 ①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50％の割合で総合評価する。課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下)とし、合格は A+、A、B、C とします。

A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。

A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する理解が認められる。

B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理学的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。

C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理学的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

PHL100LA	
論理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
鵜澤 和彦	
授業コード：Q1148	2017 年度以降入学者
授業コード：P1088	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅱの授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学Ⅰ（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

到達目標 ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。

②真理表や帰謬法を用いて推論の妥当性を判定することができる。

③命題内部の論理構造を的確に把握することができる。

④仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 ①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②最後に行う秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50％の割合で総合評価します。

課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下)とし、合格は A+、A、B、C とします。

A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。

A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する理解が認められる。

B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理学的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。

C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理学的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

PHL100LA	
論理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
大貫 義久	
授業コード：Q1149	2017 年度以降入学者
授業コード：P1089	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）していますが、多くの場合、その推理は誤っています。この講義は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなるこ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

となのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということを、基礎から順に学んでゆきます。

到達目標 説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかを見ます。

成績評価の方法と基準 授業の取り組み（20％）と学期末試験（80％：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明してゆきます。

PHL100LA	
論理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
大貫 義久	
授業コード：Q1150	2017 年度以降入学者
授業コード：P1090	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに大いに役立つことを、丁寧に説明してゆきます。例えば、いま私が「毎回出席したら単位は取れます」と言ったとします。この言い方は一見して正しいもののように思われますが、しかしこの言い方自体に曖昧さが含まれているのです。つまり「毎回出席しなくても単位が取れる」可能性を実は含んでしまっているのです。それでは、この言い方をどのように言い換えれば、正しい表現になるのでしょうか。そういった言語表現の正しい仕方を、この授業では学び、実際に身につくようにしてゆきます。本格的な推理である三段論法についても学び、最後に、現代論理学へと導きます。論理学は、分かってくると、とても面白くなります。

到達目標 説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。試験では、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかを見ます。

成績評価の方法と基準 授業への取り組み（20％）と学期末の授業内試験（80％：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り授業に出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明してゆきます。

PHL100LA	
論理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
滝口 清栄	
授業コード：Q1151	2017 年度以降入学者
授業コード：P1091	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 伝統的論理学が扱う内容を、概念に始まり、命題、命題間の関係、そして命題の変形、虚偽論とかたちで検討していきます。日本では、論理的思考力をメインにあつかう科目は、ようやく大学でとりあげられます。この機会を利用して、しっかりした論理的思考の訓練をしてください。

到達目標 人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていない。しかし、文法をよく知るようにになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、ある

いは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

成績評価の方法と基準 各学期のなかで、2 回的小テストをおこない、それらを総合して各学期の成績を出します（第一回小テスト、第二回小テスト、計 90 点）、授業への参加度 10 点。

PHL100LA	
論理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
滝口 清栄	
授業コード：Q1152	2017 年度以降入学者
授業コード：P1092	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 伝統的論理学の、三段論法、両刀論法（ジレンマ）、科学的発見の論理としての帰納法、そして現代の記号論理学として命題論理学の初歩を扱う。

到達目標 人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていない。しかし、文法をよく知るようにになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

成績評価の方法と基準 各学期のなかで、2 回的小テストをおこない、それらを総合して各学期の成績を出します。第一回小テスト、第二回小テストの計 90 点、授業への参加度 10 点とします。

PHL100LA	
論理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
菅沢 龍文	
授業コード：Q1153	2017 年度以降入学者
授業コード：P1093	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 【主題】西洋の伝統的論理学の基礎
— 「思考の 3 原則」から「ジレンマ」まで —

到達目標 《知識》正しい推理のための基礎的な知識を得る。
《態度》論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につける。
《技能》論理的に正しく推理する能力をつける。
（1）図形で即座に論理的に正しい判断や推理ができる。
（2）論理的に筋道の通った考え方ができる。
（3）論理的に相手を理解し、相手を説得できる。

成績評価の方法と基準 （1）平常点（参加姿勢、確認プリントの評価など）
（2）全体についての春学期試験の点数
（1）を 70％、（2）を 30％の割合で総合評価する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PHL100LA	
論理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
菅 沢 龍文	
授業コード：Q1154	2017 年度以降入学者
授業コード：P1094	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） [テーマ] 科学の論理、文の論理。
[到達目標] 科学的な知識について考え、現代論理学の基礎を習得する。

到達目標 《知識》現代論理学の初歩的な知識を得る。
《態度》科学的な考え方を身につける。
《技能》論理的な推理力をつける。

成績評価の方法と基準 (1) 平常点（参加姿勢、確認プリントの評価など）、(2) 全体についての秋学期試験の点数、これら (1) を 70 % (2) を 30 % の割合で総合して評価する。

PHL100LA	
論理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
計 良 隆世	
授業コード：Q1155	2017 年度以降入学者
授業コード：P1095	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。論理学Ⅰでは、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
 2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。
- 上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みれば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準 学期末筆記試験の成績（80 %）、平常点（20 %）に基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
成績評価方法として主たる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方
で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

PHL100LA	
論理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
計 良 隆世	
授業コード：Q1156	2017 年度以降入学者
授業コード：P1096	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論理学Ⅱでは、アリストテレスに始まる伝統的論理学が修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学（記号論理学）の基礎を学び、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

到達目標 春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 現代論理学（記号論理学）の学習の基本となる命題論理学を学び、日常文（命題）を自分で記号化し、文の論理的構造を明確に理解する。
 2. 命題論理学における、妥当な推論を行うための基礎的な知識と技法とを自然演繹を通して習得し、基本的な推論問題（命題証明問題）を自力で解く。
 3. 自然演繹の推論規則を順々に学んでいくことで、論理の世界がどのような構造になっているのかについても理解する。
- 上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みれば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

成績評価の方法と基準 2 回の小テスト（筆記試験）の成績（80 %）と平常点（20 %）に基づき評価。
2 回の小テストにおいては、いずれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
小テストの採点基準は、授業中に指示した仕方
で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2016 年度以前入学者
齋 藤 勝	
授業コード：Q1161	2017 年度以降入学者
授業コード：P1131	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ N 組・国 1 年・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

到達目標 漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中で
の位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解と
まとめ方を評価の対象にするつもりです。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

到達目標 現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA	
東洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 I	2016 年度以前入学者
芦沢 知絵	
授業コード：Q1165	2017 年度以降入学者
授業コード：P1135	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかん普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

到達目標 前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中の位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験 100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

HIS100LA	
東洋史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 II	2016 年度以前入学者
芦沢 知絵	
授業コード：Q1166	2017 年度以降入学者
授業コード：P1136	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

到達目標 近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史を

HIS100LA	
東洋史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 II	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
授業コード：Q1162	2017 年度以降入学者
授業コード：P1132	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ N 組・国 1 年・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代中国の政治と民衆歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

到達目標 現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA	
東洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 I	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
授業コード：Q1163	2017 年度以降入学者
授業コード：P1133	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組、文 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前近代における中国世界の形成と拡大中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

到達目標 漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中の位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA	
東洋史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 II	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
授業コード：Q1164	2017 年度以降入学者
授業コード：P1134	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組、文 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代中国の政治と民衆歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

もとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験 100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

HIS100LA	
東洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 I	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
授業コード：Q1167	2017 年度以降入学者
授業コード：P1137	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

到達目標 漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA	
東洋史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 II	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
授業コード：Q1168	2017 年度以降入学者
授業コード：P1138	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

到達目標 現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

成績評価の方法と基準 レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

HIS100LA	
東洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 I	2016 年度以前入学者
芦沢 知絵	
授業コード：Q1169	2017 年度以降入学者
授業コード：P1139	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

到達目標 前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験 100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

HIS100LA	
東洋史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史 II	2016 年度以前入学者
芦沢 知絵	
授業コード：Q1170	2017 年度以降入学者
授業コード：P1140	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

到達目標 近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験 100 %
講義で扱った内容から主に論述問題を出題する。

【重要】ILAC 科目 / 市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ず Web シラバスを確認してください。
本冊子は、Web シラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

の文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
西洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 I	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1181	2017 年度以降入学者
授業コード：P1151	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
西洋史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 II	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1182	2017 年度以降入学者
授業コード：P1152	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めています。

到達目標 古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
西洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 I	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1183	2017 年度以降入学者
授業コード：P1153	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N・キ 1 年 / 法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシア

HIS100LA	
西洋史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 II	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1184	2017 年度以降入学者
授業コード：P1154	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N・キ 1 年 / 法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めています。

到達目標 古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
西洋史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 I	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1185	2017 年度以降入学者
授業コード：P1155	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ Y 組・環 1 年 / 法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1186	2017 年度以降入学者
授業コード：P1156	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ Y 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めています。

到達目標 古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
西洋史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅰ	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1187	2017 年度以降入学者
授業コード：P1157	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどうのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

到達目標 西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
中村 純	
授業コード：Q1188	2017 年度以降入学者
授業コード：P1158	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政

の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めています。

到達目標 古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

HIS100LA	
日本史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
永田 一	
授業コード：Q1201	2017 年度以降入学者
授業コード：P1171	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたつたときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）、期末試験（80 %）により評価する。

HIS100LA	
日本史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
根崎 光男	
授業コード：Q1202	2017 年度以降入学者
授業コード：P1172	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。平常点を考慮することもあります（10％予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1203	2017 年度以降入学者
授業コード：P1173	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。平常点を考慮することもあります（10％予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1204	2017 年度以降入学者
授業コード：P1174	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。平常点を考慮することもあります（10％予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1205	2017 年度以降入学者
授業コード：P1175	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。平常点を考慮することもあります（10％予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1206	2017 年度以降入学者
授業コード：P1176	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90％予定）。

平常点を考慮することもあります（10％予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
真辺 美佐	
授業コード：Q1207	2017 年度以降入学者
授業コード：P1177	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 宿題（50％）期末試験（50％）

HIS100LA	
日本史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
真辺 美佐	
授業コード：Q1208	2017 年度以降入学者
授業コード：P1178	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 宿題（50％）期末試験（50％）

HIS100LA	
日本史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1209	2017 年度以降入学者
授業コード：P1179	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面

【重要】ILAC 科目 / 市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ず Web シラバスを確認してください。
本冊子は、Web シラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90% 予定）。平常点を考慮することもあります（10% 予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 II	2016 年度以前入学者
小口 雅史	
授業コード：Q1210	2017 年度以降入学者
授業コード：P1180	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90 % 予定）。

平常点を考慮することもあります（10 % 予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

HIS100LA	
日本史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 I	2016 年度以前入学者
永田 一	
授業コード：Q1211	2017 年度以降入学者
授業コード：P1181	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）、期末試験（80 %）により評価する。

HIS100LA	
日本史 II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 II	2016 年度以前入学者
根崎 光男	
授業コード：Q1212	2017 年度以降入学者
授業コード：P1182	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

到達目標 暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述問題）によって行います（90 % 予定）。

平常点を考慮することもあります（10 % 予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2016 年度以前入学者
若林 明彦	
授業コード：Q1221	2017 年度以降入学者
授業コード：P1211	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「宗教」を「人間とは何か」という人間学的地平に置くことによって、人間の本性から生み出される一つの文化現象として宗教を理解することを学ぶ。

到達目標 人類史における宗教の発生とその形態について基本的な知識を学び、その延長線上にあるユダヤ教、キリスト教、仏教、イスラームといった主要な宗教への理解を深めていく。さらに、神道の形成史を辿ることによって、日本人の宗教観の根底にあるものを学ぶ。

成績評価の方法と基準 授業内試験 90%、平常点 10%

PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2016 年度以前入学者
若林 明彦	
授業コード：Q1222	2017 年度以降入学者
授業コード：P1212	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ①既成宗教、民間信仰を問わず、私たちが「宗教」あるいは「宗教的なもの」と見なしている様々な行為・活動、観念、制度、規範などから普遍的なものを取り上げ、その意味と構造について知る。

②人間の知性において、非合理的、非理性的と見なされがちな宗教的思考が合理的、理性的思考の典型である科学的思考とどのように関係しているかを知る。

到達目標 ①宗教現象の中から「祈り」、「神話」、「世界観・他界観」、「儀礼」、「祝祭」を取り上げその意味と構造について知る。

②近代科学がなぜ西欧においてのみ誕生したのか、そこには古代ギリシャの合理主義思想だけでなく、オリエント文明地発祥の呪術的知の体系とキリスト教の唯一神教的世界観の影響があったことを知る。

成績評価の方法と基準 試験 90%、平常点 90%

PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2016 年度以前入学者
酒井 健	
授業コード：Q1223	2017 年度以降入学者
授業コード：P1213	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 1-4 年生・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代エジプトの多神教に始まって、キリスト教、仏教、イスラーム教などの宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、宗教の本質への理解を深めていく。

到達目標 宗教の基本を客観的に学んで、「生きるとは何か」「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

成績評価の方法と基準 「生きるとは何か」「人間とは何か」という基本的な問題をどの程度考察しているかによって成績評価をくだす。毎回のレスポンス・ペーパー（50%）と期末の論述試験（50%）が成績評価の具体的目安になる。

PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2016 年度以前入学者
酒井 健	
授業コード：Q1224	2017 年度以降入学者
授業コード：P1214	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 1-4 年生・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

到達目標 宗教に対する基本的な見方（例えば「聖なるもの」と「俗なるもの」、「ハレ」と「ケ」）を学び、さらに世界の歴史に眼を向けて宗教現象を広い視点で捉えていく。

成績評価の方法と基準 宗教の基本的な見方をどれだけ習得できたかに応じて成績評価を行う。

毎回のレスポンス・ペーパー（50%）と期末の論述試験（50%）が成績評価の具体的目安になる。

PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2016 年度以前入学者
若林 明彦	
授業コード：Q1225	2017 年度以降入学者
授業コード：P1215	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 2-4 年生・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「宗教」を「人間とは何か」という人間学的地平に置くことによって、人間の本性から生み出される一つの文化現象として宗教を理解することを学ぶ。

到達目標 人類史における宗教の発生とその形態について基本的な知識を学び、その延長線上にあるユダヤ教、キリスト教、仏教、イスラーム

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

といった主要な宗教への理解を深めていく。さらに、神道の形成史を辿ることによって、日本人の宗教観の根底にあるものを学ぶ。

成績評価の方法と基準 授業内試験 90%、平常点 10%

PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅱ	2016 年度以前入学者
若林 明彦	
授業コード：Q1226	2017 年度以降入学者
授業コード：P1216	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 2-4 年生・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ①既成宗教、民間信仰を問わず、私たちが「宗教」あるいは「宗教的なもの」と見なしている様々な行為・活動、観念、制度、規範などから普遍的なものを取り上げ、その意味と構造について知る。
②人間の知性において、非合理的、非理性的と見なされがちな宗教的思考が合理的、理性的思考の典型である科学的思考とどのように関係しているかを知る。

到達目標 ①宗教現象の中から「祈り」、「神話」、「世界観・他界観」、「儀礼」、「祝祭」を取り上げその意味と構造について知る。
②近代科学がなぜ西欧においてのみ誕生したのか、そこには古代ギリシャの合理主義思想だけでなく、オリエント文明地発祥の呪術的知の体系とキリスト教の唯一神教的世界観の影響があったことを知る。

成績評価の方法と基準 試験 90%、平常点 10%

ART100LA	
芸術 A	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術 I	2016 年度以前入学者
武田 昭彦	
授業コード：Q1231	2017 年度以降入学者
授業コード：P1231	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「イメージとかたち」がテーマだが、具体的にはキュビズムの芸術作品を通して、その構造を学ぶ。

到達目標 アブストラクト（抽象芸術）は、20 世紀初頭のキュビズム（立体主義）の運動から始まる。以後、ダダ・シュルレアリスムの運動へと展開していくこの流れを、主要な芸術家や批評家の証言や作品のスライドを通して学生諸君が理解できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 平常点（30 %）と記述試験（70 %）で評価する。

ART100LA	
芸術 B	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術Ⅱ	2016 年度以前入学者
武田 昭彦	
授業コード：Q1232	2017 年度以降入学者
授業コード：P1232	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「イメージとかたち」がテーマである。秋学期はシュルレアリスムを学ぶが、具体的にその詩・絵画・彫刻・オブジェをみてゆく。

到達目標 春学期のキュビズムからの流れをつかむことも必要だが、シュルレアリスムそれ自体を学び、よく使われる「シュール (sur)」という言葉の真の意味を理解できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 平常点（30 %）と試験（70 %）で評価の予定。

ART100LA	
芸術 A	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術 I	2016 年度以前入学者
小澤 慶介	
授業コード：Q1233	2017 年度以降入学者
授業コード：P1233	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 1-4 年生・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 歴史だけではなく、哲学思想や社会学、文化人類学など他の学問領域からも捉えることで、同時代を映し出すものとしての芸術について考える。それは、複雑で多様な現代の社会を見通す力を養うことでもある。

到達目標 近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。その過程で、芸術や近代社会、またそれらの関係を考察する力を養う。

成績評価の方法と基準 授業内試験を実施

ART100LA	
芸術 B	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術Ⅱ	2016 年度以前入学者
小澤 慶介	
授業コード：Q1234	2017 年度以降入学者
授業コード：P1234	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環 1-4 年生・キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1990 年代以降加速したグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。政治や経済、福祉などと密接に関係する芸術と場づくりをとおして、芸術のみならず現代の社会の構えについて理解を深める。

到達目標 政治や経済と密接な関係をもつ現代美術のあり方と、時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代美術のあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界とともに芸術の可能性を探る思考力と洞察力を養う。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 授業内試験を実施

ART100LA	
芸術 A	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術 I	2016 年度以前入学者
福島 由美	
授業コード：Q1235	2017 年度以降入学者
授業コード：P1235	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生>営・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、< 2016 年度以前入学生>環 2-4 年生・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「音楽は何故人の心を魅了するのか」

到達目標 本講座の目標は、音楽の素晴らしさを感じ取ること。真の音楽体験とは、作曲家にまつわる内的・外的な出来事の結晶である作品を、それぞれの人のファンタジーと想像力とにより自ら体験してみることです。音楽の記念碑への感動と尊敬の念を紹介し、さらに美学的に問いかけたいと思います。

成績評価の方法と基準 レポート課題 50 %、平常点 50 %（コンサートへの参加 [演奏、スタッフ、プログラム作成、指揮、司会等]・感想文の提出を含む）により、総合的に評価します。

ART100LA	
芸術 B	2017 年度以降入学者
ART100LA	
芸術 II	2016 年度以前入学者
福島 由美	
授業コード：Q1236	2017 年度以降入学者
授業コード：P1236	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：< 2017 年度以降入学生>営・キ 1 年生/法文営国環キ 2-4 年生、< 2016 年度以前入学生>環 2-4 年生・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「音楽は何故人の心を魅了するのか」

到達目標 「音楽は何故人の心を魅了するのか」という問いを根本モチーフとして、作曲家（作品）、演奏家（再現者）、聴衆（追体験者）それぞれの立場を考慮に入れて、「美学的音楽体験」について考察します。担当教員のフルート奏者としての実体験をふまえて、授業を進めていきます。

本講座の目標は、音楽の素晴らしさを感じ取ること。

成績評価の方法と基準 レポート課題 50 %、平常点 50 %（コンサートへの参加 [演奏、スタッフ、プログラム作成、指揮、司会等]・感想文の提出を含む）により、総合的に評価します。

LIT200LA	
日本文学と文化 L A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：絵画化された『源氏物語』	
阿部 真弓	
授業コード：Q1301	2017 年度以降入学者
授業コード：P1031	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 絵巻の鑑賞方法等について解説した後、院政期に作られたとされる国宝『源氏物語絵巻』について講義します。種々の源氏絵、また現代のマンガ等とも比較しながら、『源氏物語』

がどのように解釈され、絵画化されてきたか考察します。『源氏物語絵巻』を学ぶことを通し、日本の古典文学や美術に関する理解を深めます。

到達目標 ①絵巻に関する基礎的な知識を習得する。

②『国宝 源氏物語絵巻』の特質を理解する。

③平安時代の人々が『源氏物語』をどのように解釈し、イメージしたかについて理解する。

④現代に至るまで、『源氏物語』がどのように絵画化されてきたか、源氏絵の様相を理解する。

成績評価の方法と基準 学期末に行う試験（70 %）、平常点（30 %）によって評価します。試験は【到達目標】①～④に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収する出席調査票によって、授業の理解度を確認します。

LIT200LA	
日本文学と文化 L B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：説話のメディア展開	
阿部 真弓	
授業コード：Q1302	2017 年度以降入学者
授業コード：P1032	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 安珍・清姫伝説として知られる、道成寺にまつわる説話について講義します。絵巻や能・歌舞伎の題材として有名なこの説話が、これまで人々にどのように享受されてきたのかについて学び、日本の古典文学や古典芸能に関する理解を深めます。

到達目標 ①説話文学の特質について理解する。

②絵巻に関する基礎的な知識を習得する。

③能、歌舞伎など古典芸能に関する基礎的な知識を習得する。

成績評価の方法と基準 学期末に行う試験（70 %）、平常点（30 %）によって評価します。試験は【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収する出席調査票によって、授業の理解度を確認します。

LIT200LA	
日本文学と文化 L C	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本仏教と能楽	
今泉 隆裕	
授業コード：Q1303	2017 年度以降入学者
授業コード：P1033	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。

俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）に、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されていることはいうまでもない。どのような状況下で、どのようなことがこの芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促がされたのか。

本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。

とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの数回、能楽に関する入門の内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持たたい。

そののち勸進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれる

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LIT200LA	
日本文学と文化LE	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
伊海 孝充	
授業コード：Q1305	2017 年度以降入学者
授業コード：P1035	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の幽霊に纏わる伝承・物語について学ぶ。「幽霊の物語」と一口で言っても、その話が生まれた時代や伝播した環境によって、その姿には大きな隔たりがある。この授業では、物語が生まれた土壌について学ぶのと同時に、幽霊が何を表現しているのかを考えていく。

到達目標 授業内容は、専門的な文学研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義では、日本の物語がどのような土壌で生まれ、どのような媒介を通して現代まで伝わってきたのかを知ることを目標としている。単に「昔話」の一言では括れない、豊潤な世界を体感してほしい。

成績評価の方法と基準 コメントカードの評価 70 %
学期末レポート 30 %

LIT200LA	
日本文学と文化LF	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
伊海 孝充	
授業コード：Q1306	2017 年度以降入学者
授業コード：P1036	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の天狗に纏わる伝承・物語について学ぶ。天狗は人間に危害を加える〈悪〉として描かれる物語がある一方で、人間に幸いをもたらす〈善〉なる存在としても描かれることがある。それはなぜか。本講義では、その天狗の両義性を学ぶと同時に、人間は天狗に何を投影したのかを考えていく。

到達目標 授業内容は、専門的な文学研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義では、日本の鬼がどのような形成され、どのような媒介を通して現代まで伝わってきたのかを知ることがを目標としている。昔話の本質を知り、それを後代へ伝えてほしい。

成績評価の方法と基準 コメントカードの評価 70 %
学期末レポート 30 %

LIT200LA	
日本文学と文化LG	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：現代日本文学と映像表現	
榎本 正樹	
授業コード：Q1307	2017 年度以降入学者
授業コード：P1037	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「現代日本文学」を原作として映画化された作品（場合によってはその一部）を観賞した上で、原作の小説を

もの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲を主に扱う。また、離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺の事柄を紹介する。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化LC」（旧「文学I」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化LD」（旧「文学II」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

到達目標 能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

成績評価の方法と基準 出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常 20 %とする。ただし、出席状況だけでは判断しない。したがって、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。出席はあくまでレポートの評価を補うものとしします。講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

LIT200LA	
日本文学と文化LD	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本仏教と能楽	
今泉 隆裕	
授業コード：Q1304	2017 年度以降入学者
授業コード：P1034	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式もっている。この形式（話の枠）に、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されていることはいうまでもない。どのような状況下で、どのようなことがこの芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促がされたのか。

本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの数回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持ちたい。

そののち勸進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれるもの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲を主に扱う。また、離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺の事柄を紹介する。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化LC」（旧「文学I」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化LD」（旧「文学II」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

到達目標 能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

成績評価の方法と基準 出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常 20 %とする。ただし、出席状況だけでは判断しない。したがって、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。出席はあくまでレポートの評価を補うものとしします。講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

講読します。2017 年に劇場公開された以下の 10 作品のうち、6 作品をとりあげる予定です（作品の配列は劇場公開日順）。
同一の物語内容を含んだ文学表現と映像表現を比較対照し検討することで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現や技法について考え、「文学固有の表現とは何なのか？」という視点で小説を読む力の獲得を目指します。
伊藤計劃『虐殺器官』（村瀬修功監督）
初野晴「ハルチカ」シリーズ（市井昌秀監督）
森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』（湯浅政明監督）
最果タヒ『夜空はいつでも最高密度の青色だ』（石井裕也監督）
和田竜『忍びの国』（中村義洋監督）
住野よる『君の隣臓をたべたい』（月川翔監督）
東野圭吾『ナミヤ雑貨店の奇蹟』（廣木隆一監督）
島本理生『ナラタージュ』（行定勲監督）
米澤穂信『氷菓』（安里麻里監督）
又吉直樹『火花』（板尾創路監督）
＊劇場公開順。本リストの中からセレクトします。

到達目標 現代日本文学の幅広いジャンルの小説を深く読むことを通して、作品の中に描かれたテーマやモチーフを抽出し、整理し、分析することができるようになります。多種多様な作家の言葉の世界と向き合うことで日本語の奥深さを知るとともに、作中で展開される作家の思考のプロセスを解説し、論述することができるようになります。
さらに、個人の生き方や家族関係や社会システム、性、生、死、ジェンダー、歴史などの問題について考える力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現や異なるメディア間の相互接続性について理解します。

成績評価の方法と基準 レポートで評価します（100％）。
試験や小テストはありません。
レポートは最終授業時に提出となります。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。
分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

LIT200LA	
日本文学と文化 L H	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：新海誠の文学世界	
榎本 正樹	
授業コード：Q1308	2017 年度以降入学者
授業コード：P1038	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 新海誠監督のアニメーション映画『君の名は。』は、アニメーション界や映画界を超えた 2016 年最大のヒット作品として多くの観客の共感を得ました。国内観客動員数 1,900 万人を突破、興行収入 250 億円を超える大ヒットとなり、邦画興行収入歴代 2 位を記録、アジア圏では 7 冠達成を記録し、日本のみならず世界各国の記録を塗り替えることになりました。昨年から、デビュー 15 周年を記念した「新海誠展『ほしのこえ』から『君の名は。』まで」が、日本各地を巡回中です。アニメーションの枠を超えた表現者として新海誠という存在をとらえる必要があります。
新海誠というクリエイターの名前を、『君の名は。』で初めて知った人がいるかもしれませんが、新海監督のキャリアは 2000 年代初頭に遡ることができます。新海作品の根底にあるのは「言葉」に重きを置いた世界造形、言い換えれば「文学」への強い視線です。人と人の間の繊細なコミュニケーションを丁寧に描くその筆致は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものです。
新海誠は「アニメーション監督」であるとともに「小説家」でもあります。新海は自身の手で代表作をノベライゼーション（小説化）していますが、それらは単に映像作品のストーリーを言葉に置き換えたものではなく、小説作品として自立しています。同一の作者によるアニメ版と小説版を比較検討することで、映像表現と小説表現の違いを検証することが可能です。
本講義では、新海誠の初期作品から最新作まで入手可能な映像作品を参観しつつ、「新海誠の文学世界」を紐解いていきます。同時代の先端的な

表現者である新海誠の主要作品を「網羅的に」観賞し、かつ「分析的」に解説する経験を通して、作品批評のための技術を獲得します。

到達目標 アニメーション作品を分析的に解説し、表現や仕掛けや物語構造などについて、自分の言葉で論述できるレベルを目指します。関連資料を参照し、さまざまな他者のコメントに目を通し、作品のモデルとなった場所に実際に赴くことで、各作品の背景にある文化的、歴史的、地理的背景について深く学び、対象を客観的に論じる力を得ます。

成績評価の方法と基準 レポートで評価します（100％）。
試験や小テストはありません。
レポートは最終授業時に提出です。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。
分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

LIT200LA	
外国文学と文化 L A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：西洋の芸術家小説（絵画篇）	
篠原 学	
授業コード：Q1309	2017 年度以降入学者
授業コード：P1039	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、芸術家の人生を描いた西洋の文学作品、とくに小説を扱います。西洋文学の一ジャンルとしての小説のなかで、芸術家の生き様はさまざまな表象を与えられてきました。その多様性は、それ自体芸術であろうとする小説が、みずからの美的な存在意義を模索し、確立するうえで必要とした多様な思索のあとを反映している、と言えるでしょう。
春学期では、とくに画家の人生を主題的に描いた小説のなかから、バルザックの『知られざる傑作』とゾラの『制作』、そしてモームの『月と六ペンス』を翻訳で読み、その芸術論を吟味すると同時に、小説としての構造やテーマを分析します。また、それぞれの作品の背後に、どのような芸術哲学の流れが存在しているのかも踏まえて、思弁的な議論の糸口を見出していきます。余裕があれば、（比較によって理解を深めるために）日本の芸術家小説にも触れる予定です。

到達目標 小説のなかで展開される芸術論に触れつつ、その問題意識を引き受け、みずからのことばで芸術について論じる力を涵養します。とくに、春学期に開講されるこの科目では、論述における立論のしかたを学びます。この授業を履修することによって、ある程度抽象度の高いテーマをもった論述をおこなう、基礎的な力をつけることができます。また、さまざまな批評的アプローチを知ること、メディアに対する感性を磨くことにもなるでしょう。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくアクションペーパーで、主体的に取り組めているかどうかを判断します。（40％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（60％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

LIT200LA	
外国文学と文化 L B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：西洋の芸術家小説（文学篇）	
篠原 学	
授業コード：Q1310	2017 年度以降入学者
授業コード：P1040	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、芸術家の人生を描いた西洋の文学作品、とくに小説を扱います。西洋文学の一ジャンルとしての小説のなかで、芸術家の生き様はさまざまな表象を与えられてきました。その多様性は、それ自体芸術であろうとする小説が、みずからの美的な存在意義を模索し、確立するうえで必要とした多様な思索のあとを反映している、と言えるでしょう。

秋学期では、とくに小説家の人生を主題的に描いた小説のなかから、ジッ下の『贗金づくり』をとりあげ、それとの関連づけにおいて、堀辰雄の『風立ちぬ』、およびカルヴィーノの『冬の夜ひとり旅の人が』を読みます。これらの作品に共通する「ためらいながら書く」というモチーフが、文学をめぐるどのような言説の蓄積を背景にもつのか、それを探りつつ、具体的な作品分析をおこないます。作品のなかで展開される小説論が、その作品自体の生成にかかわっていく創作のダイナミズムにも着目していきます。

到達目標 小説を読むことの楽しみを損なうことなく、それについて批評的に語れるようになることを目指します。批評の言語を洗練させることによって、「よかった」「感動した」以外のことばで文学を語ることができるようになります。また、抽象度の高いテーマで、思弁的な論述を展開する力がつきます。授業のなかで得られる知識は、広告などを含む言語的なメディアに対するリテラシーを育むうえでも、役に立ちます。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくリアクションペーパーで、主体的に取り組んでいるかどうかを判断します。（４０％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（６０％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

LIT200LA	
外国文学と文化 L C	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：漢詩を作る	
日原 傳	
授業コード：Q1311	2017 年度以降入学者
授業コード：P1041	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初心者に漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して春夏秋冬の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞してゆきます。この春学期の授業では主に春から夏にかけての風物を詠じた漢詩を鑑賞します。

到達目標 ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）７０％ 最終レポート ３０％

LIT200LA	
外国文学と文化 L D	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：漢詩を作る	
日原 傳	
授業コード：Q1312	2017 年度以降入学者
授業コード：P1042	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初心者に漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して春夏秋冬の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞してゆきます。この秋学期の授業では主に秋から冬にかけての風物を詠じた漢詩を鑑賞します。

到達目標 ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

成績評価の方法と基準 平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）７０％
最終レポート ３０％

LIT200LA	
外国文学と文化 L E	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
大崎 さやの	
授業コード：Q1313	2017 年度以降入学者
授業コード：P1043	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） イタリア・オペラに親しむ（１）
到達目標 イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。
成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）５０％、期末試験 ５０％

LIT200LA	
外国文学と文化 L F	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
大崎 さやの	
授業コード：Q1314	2017 年度以降入学者
授業コード：P1044	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） イタリア・オペラに親しむ（２）
到達目標 イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。
成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）５０％、期末試験 ５０％

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LIT200LA	
文学と社会 L A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本文学と民俗	
梶 裕史	
授業コード：Q1315	2017 年度以降入学者
授業コード：P1045	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「民俗」（民間伝承）とは、ある地域社会、特定のコミュニティのごくふつうの人々の暮らしの中で集団的に形づくられ、時代を超えて伝えられてきた暮らしぶりや心の持ち方を指します。「地域（ローカル）」の範囲は、小さくは一つの集落、大きくは世界（グローバル）の中の日本という「地域」といったように、さまざま設定できます。この授業では世界の中の日本、という視野のもと、こうした「民間伝承」を研究対象とする「民俗学」を採り入れた日本文学研究の世界を、『万葉集』『古事記』『日本書紀』『風土記』『古今和歌集』『源氏物語』等、主として上代・中古の文学の中から事例を選んで紹介します。民俗学的な日本文学研究とは、個々の作者・作品の個性や創意、時代性を超えて、現代の私たちの心の底にまで伝わっていると考えられるような集団の心性を、残された言語表現を通じて探ろうとするものである、といえるでしょう。このような性格のため、「個」（一作者や作品）の芸術性の追究といったことを期待する人には、不向きと思われる。

到達目標 ・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

成績評価の方法と基準 期末試験 85 %。授業態度（基本的なマナー）15 %。

LIT200LA	
文学と社会 L B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本文学と民俗	
梶 裕史	
授業コード：Q1316	2017 年度以降入学者
授業コード：P1046	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 梶「文学と社会 LA」と同じです。ただし具体的な内容は「授業計画」に記す通り、異なります。A よりも「民俗」（＝民間伝承）の部分に重点を置いた内容になります。「文学」発生の母胎としての性格を未だによく保持しており、日本文学の「古代性」を考える上で重要なヒントになるとされる沖縄離島の祭事・信仰をクローズアップして紹介する回が多くなり、時間があればそれを材料に、伝統文化を活かしたエコな地域形成に祭事や言語伝承が果たす役割なども考察したいと思っています。

到達目標 ・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

成績評価の方法と基準 期末試験 85 %。授業態度（基本的なマナー）15 %

LIT200LA	
文学と社会 L C	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：江戸の文学と出版	
白戸 満喜子	
授業コード：Q1319	2017 年度以降入学者
授業コード：P1241	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では江戸時代の文学作品『御存商売物』を通読します。作品を通して江戸の出版文化の多様性に触れていきます。江戸という地域・時代に暮らした人々が手にしていた、読んでいた、眼にしていた、時には聴いていたさまざまなメディアを、実際に読んだり聴いたりすることで江戸を体感します。

到達目標 江戸時代の特徴的な文化や慣習・感覚をテキスト『御存商売物』を通じて理解することが目標。
くずし字（変体仮名）で書かれた簡単な出版・印刷物を判読できるようになることがもう一つの目標です。

成績評価の方法と基準 レポート 40 % 筆記試験（最後の授業時に一回）40 % 平常点（授業への参加・発言）20 % として評価します。詳細は開講時にお知らせします。

LIT200LA	
文学と社会 L D	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：江戸の見立絵本を読む	
白戸 満喜子	
授業コード：Q1320	2017 年度以降入学者
授業コード：P1242	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） くずし字で書かれた【見立絵本】『滑稽絵姿合』のオリジナル（原典）を受講生全員で分担し、読解・解釈をします。見立とは、江戸時代の演劇・俳諧・絵画などに共通する趣向で、一見関連性のない二つのものを組み合わせ、そのギャップを楽しむ手法です。江戸の文学作品における連想力を読み説き、歴史的背景を探ることが目的です。

到達目標 くずし字で書かれた文章（ひらかなの部分）を判読し、どのような見立が扱われているか解釈することが各受講生の目標です。各自の担当部分について、漢字以外を翻字すること、①何が共通点か②何が対比になっているかについて考察し、総合的にテキスト全体を理解することが目標になります。

成績評価の方法と基準 発表時の内容 30 % レポート 40 % 平常点（授業への参加・発言）30 % として評価します

【重要】ILAC科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
 本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LNG200LA	
音声学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LNG100LA	
言語学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：一般音声学入門	
江村 裕文	
授業コード：Q1362	2017 年度以降入学者
授業コード：P1202	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営国 1～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「言語」は、音声の形式という表現面と意味の形式という内容面が結びついた言語記号が単位であるようなシステムであり、このシステムの解明を対象とする学問分野のことを「言語学」と称します。

この「言語」の表現面の「音声」を扱う分野を「音韻論」と称します。「音韻論」は言語の音声の形式面を対象とします。これのに対して、言語の音声の実質面を扱うのが「音声学」です。つまり「音声学」は、この言語の表現面である音声の実質を対象とする経験科学です。

この授業では、言語音（「単音」）の記述方法および記述された記号の実現化（再現つまり実際に発音できるようになること）を授業内容とします。

到達目標 この授業では、「音声学」の記述方法である IPA の方法論的な考え方を身につけ、IPA を音声化したり、実際の音声を IPA によって記述するための基礎的な技能を訓練することを目的とします。

補足として、音声の形式面である「音韻論」（「音素論」）にも触れます。

成績評価の方法と基準 平常点 40 点、（理論）試験の得点 30 点、（実施）試験の得点 30 点、合計 100 点で評価します。
 ただし、必要に応じてレポートを課すことがあります。その場合はそのレポートも評価に反映します。

PHL200LA	
哲学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
大西 正人	
授業コード：Q1381	2017 年度以降入学者
授業コード：P1071	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。特にこのⅠの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

到達目標 基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

LIT200LA	
文学と社会ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本近代現代文学－小説を読む技術	
中澤 忠之	
授業コード：Q1321	2017 年度以降入学者
授業コード：P1243	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずですが、しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

到達目標 創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

成績評価の方法と基準 最後に行う期末試験が評価の主要な対象となります。授業への参加度（平常点）も評価したい。評価の割合は期末試験が 70 %、平常点を 30 %とします。

LIT200LA	
文学と社会ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：文学表現の政治性・社会性	
中澤 忠之	
授業コード：Q1322	2017 年度以降入学者
授業コード：P1244	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 普段何気なく読んでいる小説が、きわめて政治的で社会的なものであるということを考えたことがあるでしょうか。文学作品は、人畜無害な単なるフィクションではありません。ときに世の中の差別や偏見を生み出し助長するものであり、特定の個人や集団を傷つけるものでもあります。あるいはまた、社会秩序を乱すとして批判される過激な暴力や性表現も無視できないでしょう。もちろんその一方で、社会の差別や偏見と戦ってきた歴史も、文学にはあります。文学作品における、こういった政治的かつ社会的な側面を、本講義では取り上げます。素材は性表現と差別表現がメインです。メディア環境が激変している昨今の事情に対応させて、取り上げる表現は文学のみならず、映画やマンガなど多岐にわたる予定です。現在進行形の話題も積極的に扱います。

到達目標 これまでなんとなくイメージしてきた表現の自由や表現の暴力性といった概念を、法規制や表現史を通して具体的に捉えられる教養の獲得を到達目標とします。文学に関心がある学生のみならず、法律等社会の制度設計に関心のある学生も歓迎します。

成績評価の方法と基準 最後に行う期末試験が評価の主要な対象となります。授業への参加度（平常点）も評価したい。評価の割合は期末試験が 70 %、平常点を 30 %とします。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PHL200LA	
哲学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
大西 正人	
授業コード：Q1382	2017 年度以降入学者
授業コード：P1072	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知探求の背景になっている様子を見ます。

到達目標 主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

成績評価の方法と基準 期末に参照可のテストをおこなう予定。

PHL200LA	
哲学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：哲学の源流を辿って	
白根 裕里枝	
授業コード：Q1383	2017 年度以降入学者
授業コード：P1073	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学というとな難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指している。善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、幸せのために、哲学を学ぶことが必要とされている。

到達目標 学生は、まずは哲学のオーソドックスな基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上で、基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。哲学はあらゆる学問の基礎である。何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

成績評価の方法と基準 平常点（40％）と学期末試験（60％）によって評価する。出席は3分の2以上。試験は、手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式である。

PHL200LA	
哲学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：哲学から考える宗教と人間の幸福	
白根 裕里枝	
授業コード：Q1384	2017 年度以降入学者
授業コード：P1074	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 哲学Ⅱでは、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。

宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探求する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと思っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

到達目標 西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教というものについて、付かず離れずに見る視点を確保することができる。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」とこと「知る」とことの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることがいかに大らか、真の幸福の鍵が哲学にあることが、理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

成績評価の方法と基準 平常点（40％）と学期末試験（60％）によって評価する。出席は3分の2以上。試験は手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式。

PHL200LA	
倫理学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：正義とケアのグローバル倫理——障害者・動物という境界を越えて	
森村 修	
授業コード：Q1391	2017 年度以降入学者
授業コード：P1119	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本科目「倫理学ⅠⅡ」は、「倫理学Ⅰ」で学んだことを、さらに高度に専門的に学ぶために設けられている。ちなみに「倫理学ⅠⅡ」では、「倫理学ⅠⅡ」へと継続するテーマとして、「ケアと正義のグローバル倫理」の観点に基づき、「ケアとは何か」という問いから、「誰が誰をケアするのか」、さらに「グローバル・エシックスにおけるケア倫理学とは何か」という問いへとシフトしながら、様々な「ケアの倫理」の考察を概観する。

まずは、「ケアの倫理」の重要概念として、倫理学における「ケア」概念を検討する。その際に、自己と他者、自己へのケア・他者へのケアという観点から、「ケアの倫理」の基礎を学んでいく。その流れのなかで、「倫理学ⅠⅡ」における「グローバル正義とケアの倫理」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比、さらには「法と感情」の問題や「グローバ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

ル正義とケアの倫理」への進展を検討することにした。

結果的に、新しい「ケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的な目標である。

《授業の目的》

「ケアと正義のグローバル倫理」を通して、現代社会の倫理性の問題を哲学的・倫理的に分析する力を得ることができる。

- 到達目標** (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
(2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
(3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べるができる。
(4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

成績評価の方法と基準 基本的に、期末試験で評価する（80％）が、小テスト（20％）を課すことも考えている。

PHL200LA	
倫理学 L II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：法と感情の倫理——ケアのグローバル倫理	
森村 修	
授業コード：Q1392	2017 年度以降入学者
授業コード：P1120	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 《授業の概要》

本科目「倫理学 L II」は、「倫理学 II」で学んだことを、さらに高度に専門的に学ぶために設けられている。ちなみに「倫理学 L II」では、「倫理学 L I」と継続し、関連するテーマとして「ケアと正義のグローバル倫理」の観点に基づき、「正義とは何か」という問いから、「誰の何のための正義なのか」、さらに「法はいかなる正義観に基づくか」という問いを考えていく。その際に、ケアにとって重要な「感情／情動の倫理」と法との関係の問題へとシフトしながら、様々な「ケアと正義の倫理」の考察を行なう。

《授業の目的》

「ケアのグローバル倫理」を通して、現代社会の倫理性の問題を哲学的・倫理的に分析する力を得ることができる。

- 到達目標** (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
(2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
(3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
(4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。
(5) 感情／情動と法との結びつきについて、「ケアの倫理」の観点から考察することができる。

成績評価の方法と基準 基本的には、期末試験で評価する（80％）が、小テスト（80％）を課すことも考えている。

PHL200LA	
倫理学 L I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：生命誕生に関する倫理学	
佐藤 英明	
授業コード：Q1393	2017 年度以降入学者
授業コード：P1121	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義では、おもに人の生命誕生に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学びます。

到達目標 いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自ら思索を深めることを目指します。

成績評価の方法と基準 原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施します（ノート・テキストなどの参照不可）。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこないます（試験 60％・小テスト 40％）。

PHL200LA	
倫理学 L II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：人の死の倫理学	
佐藤 英明	
授業コード：Q1394	2017 年度以降入学者
授業コード：P1122	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義では、おもに人の死に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学びます。

到達目標 いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自らの思索を深めることを目指します。

成績評価の方法と基準 原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施します（ノート・テキストなどの参照不可）。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこないます（試験 60％・小テスト 40％）。

PHL200LA	
倫理学 L I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：「他者」の倫理学	
杉本 隆久	
授業コード：Q1395	2017 年度以降入学者
授業コード：P1123	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学とは人間の行動の規範についての、あるいは人間の行動を評価する基準についての探求であるといえるが、そもそも倫理学においては他者を問題にすることなくして、人間の行動やその規範について考えることなどできない。本講義では、他者とは何かに注目することで、従来の倫理学を批判的に捉え直し、差異、暴

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

力、責任、正義などの倫理学的な問題についての理解を深める。
特に、メルロ＝ポンティ、レヴィナス、デリダの倫理学的な議論について学ぶことで倫理学の応用的な知識を習得し、倫理学的な問題について自らの力で考えることができるようになることを目的とする。

到達目標 ・倫理学における発展的・応用的な知識を習得する。
・倫理学的問題に対する思考力・判断力を養う。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、小論文 20%、期末試験 60%。
授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識について的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

PHL200LA	
倫理学ⅡⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：「他者」の倫理学	
杉本 隆久	
授業コード：Q1396	2017 年度以降入学者
授業コード：P1124	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 倫理学とは人間の行動の規範についての、あるいは人間の行動を評価する基準についての探求であるといえるが、そもそも倫理学においては他者を問題にすることなくして、人間の行動やその規範について考えることなどできない。本講義では、他者とは何かに注目することで、従来の倫理学を批判的に捉え直し、差異、暴力、責任、正義などの倫理学的な問題についての理解を深める。
特に、メルロ＝ポンティ、レヴィナス、デリダの倫理学的な議論について学ぶことで倫理学の応用的な知識を習得し、倫理学的な問題について自らの力で考えることができるようになることを目的とする。

到達目標 ・倫理学における発展的・応用的な知識を習得する。
・倫理学的問題に対する思考力・判断力を養う。

成績評価の方法と基準 平常点 20%、小論文 20%、期末試験 60%。
授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では習得した知識についての的確に説明できているかどうか評価の基準となる。

PHL200LA	
倫理学ⅡⅠ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
伊藤 直樹	
授業コード：Q1397	2017 年度以降入学者
授業コード：P1115	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

到達目標 講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

成績評価の方法と基準 学期末にレポートを提出してもらう。
成績評価の基準は次のようにする。
平常点 35 %；レポート 65 %

PHL200LA	
倫理学ⅡⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
伊藤 直樹	
授業コード：Q1398	2017 年度以降入学者
授業コード：P1116	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者、なかでも「あなた」とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

到達目標 講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

成績評価の方法と基準 学期末にレポートを提出してもらう。
成績評価の基準は次のようにする。
平常点 35 %；レポート 65 %

PHL200LA	
倫理学ⅡⅠ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
田島 樹里奈	
授業コード：Q1399	2017 年度以降入学者
授業コード：P1117	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life)とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。そして、生／死を通して、私たち人間とはどのような存在であるかをじっくり倫理的な視点から考え直していきたい。

かつて人間の生命は、「神のみが知る」ものであった。ただ、現代においては、自然界に生まれた生命に人間の科学技術が介入することは当たり前になってきた。もちろん、科学技術による人工的な生命操作は、明らかに反自然的な行為である。しかし今や私たちの日常生活において、医療技術は欠かすことができない。医療技術の進歩によって、多くの命が救われてもいる。

毎日のニュースでは、様々な事件や事故が報道され、被害者や犠牲者が尊い命を失っている。私たちの命は、いつどこでどのように失われるか、私たちには予測できない。そして、いくら周到に予防していても、予期せぬ時に、私たちの命が突如失われる可能性はさけられない。だからこそ、本授業を通じて、身近な家族や恋人、親しい友人や、大切な人たちの命がいかに尊いものであるか、今一度考え直すきっかけにしたい。

なお本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

到達目標 ① 生命、死、存在、医療、看護、QOL などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。② 医療現場、患者および患者家族側、生命倫理学の多様な価値観を学ぶことで、様々な立場の考え方を多角的に把握する力を身につける。③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

成績評価の方法と基準 毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験またはレポート（80 %）

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

PHL200LA	
倫理学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
田島 樹里奈	
授業コード：Q1400	2017 年度以降入学者
授業コード：P1118	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life)とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業の後半では、宗教の視点から生命倫理を考察することにより、様々な宗教的思想を背景にした死生観と生命倫理観を学んでいく。そもそも宗教は生死と密接に関わり、それぞれの仕方で「あの世／この世」「現世／来世」を語ってきた。本授業ではこれら全てを網羅することはできないが、私たちが今・ここで生きることの意義や、死や死後を考察するための手掛かりとして、それぞれの宗教的思想の意義を検討していきたい。

倫理学という学問領域は、私たちの日常生活や生きること・死ぬことに直接関わる部分を含んでいる。それゆえ、本授業を通じて、受講生各自が関心を持ったテーマに対して、積極的にアプローチをすることで、それぞれの興味・関心を深めていながら、死生観や生命観を構築し、さらに倫理的な問題意識を持って学問的に掘り下げてもらいたい。

以上の観点を持って、受講生各自が本授業を通して、私たち人間とはどのような存在であるか、生きるとは、死ぬとはどういうことなのかをじっくり倫理的な視点から考え直していくきっかけを提供していきたい。それゆえ本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

到達目標 ① 生命、死、人格、医学、宗教などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。② 多様な生命の在り方や、宗教的思想を背景とした多様な価値観を学ぶことで、様々な立場から生命倫理を考える力を身につける。③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

成績評価の方法と基準 毎授業ごとのリアクションペーパー（20％）、期末試験またはレポート（80％）

PHL200LA	
論理学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：論理的読解のトレーニング	
佐々木 護	
授業コード：Q1411	2017 年度以降入学者
授業コード：P1097	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 論点が明確で、筋の通った議論や文章は「論理的」だと言われます。この授業では、分野を問わず多様な文章を論理的に把握し、それを吟味検討したうえで、自分の見解を論理的に表現する訓練を行います。論理的読解力や論述力を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上で大いに役立つはずです。

到達目標 本授業の到達目標は以下の2点です。
(1) 新聞記事や新書レベルの文章を読み、そこから論証構造を抽出し、的確な要約を行うことができる。
(2) 上記の文章を吟味検討し、自分の見解を論理的に展開することができる。

成績評価の方法と基準 原則として期末試験の成績で評価します。これは最終的な学習到達状況を成績評価に反映するためです。評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

PHL200LA	
論理学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
論理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：批判的思考のトレーニング	
佐々木 護	
授業コード：Q1412	2017 年度以降入学者
授業コード：P1098	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） クリティカル・シンキング（批判的思考）教育の一環として、複数の視点から仮説を立てたり、対立する意見も視野に入れつつ望ましい問題解決策を見出すトレーニングを行います。自分が自明とする考えからいったん距離を置き、異なる他者の考えにも目を向ける態度を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上で大いに役立つはずです。

到達目標 本授業の到達目標は以下の2点です。
(1) 統計資料などを手がかりに仮説を立て、それに基づく解決策を提示することができる。
(2) 与えられたテーマに関して、対立する意見も視野に入れつつ、説得力ある見解論述を展開することができる。

成績評価の方法と基準 原則として期末試験の成績で評価します。これは最終的な学習到達状況を成績評価に反映するためです。評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

HIS200LA	
東洋史ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
岡安 勇	
授業コード：Q1421	2017 年度以降入学者
授業コード：P1141	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国古代の国家構造については皇帝を頂点とする一元的支配（＝個別人身的支配）という概念で理解されている。しかし皇帝権力の絶対性の側面を強調すると、その絶対的権力を打倒して新王朝が出現する王朝交替のメカニズムを解明する糸口が見失われてしまう。

また「例外において本質が顕現する」(C. シュミット)と言われるように、皇帝支配における例外的措置としてこれまであまり顧みられることのなかった王朝の「賓・客」(旧王朝の子孫)の存在とその待遇問題について注目して新たに中国古代の国家構造を明らかにしてみたい。つまり、本授業では中国古代の国家構造を「二王の後（旧王朝の子孫）」の視点から解明する。

漢文講読の経験の有無にかかわらず、中国に興味関心のある学生が本授業を受講することによって、これまでにない中国古代の国家構造を理解することができる。

到達目標 中国古代（おもに堯・舜・禹の伝説時代から殷・周・秦・漢・三国時代）の社会・思想のうち興味深い事柄が理解できる。また、そのような社会や思想を理解した上で、一般に知られていない中国古代の「二王の後」の存在も明らかになる。「二王の後」の視点から中国古代の王朝交替のメカニズムが明快に理解できるようになる。

なお、授業では現代に溶け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでもとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢文の読み方が上達すると考えられる。試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまでにない視点から説明することが出来るようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験：70％
平常点：30％（毎時間、授業の理解度確認のための小テスト実施）

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

合計： 100 %
成績は平常点と期末試験で評価するが、試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

HIS200LA	
東洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
岡安 勇	
授業コード：Q1422	2017 年度以降入学者
授業コード：P1142	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期では、王朝の「賓・客」（旧王朝の子孫）の存在とその待遇問題について注目して中国古代の国家構造の解明を行ったが、秋学期ではこれとは反対に禅譲されて新王朝を樹立した者の、旧王朝末期における君臣関係というこれまであまり扱われることのなかった例外的措置について取り上げ、中国古代の新旧両王朝一体となった国家構造を明らかにしてみたい。
そこで本授業では中国古代の国家構造を席次という序列関係を手掛かりにして解明を試みる。
なお、この解明には君臣間、賓主間という性質の異なる席次の序列関係も重要な手掛かりとなるが、人口に膾炙した『史記』の有名な「鴻門の会」はその代表例として取り上げることになるので、親しみやすいと思われる。対象学生は春学期と同じ。

到達目標 中国古代に行われていた席次（席に座る順序）を用いるというこれまで考えられなかった視点から王朝交替のメカニズムを解明する糸口を見いだすことが出来る。
一般にもよく知られている鴻門の会での項羽と劉邦の席がどのようにして決まったのか興味のある問題であるが、この点についてはビデオを用いることによって、視覚的に理解ができる。
中国古代の席次が理解できれば、皇帝が西面することがいかに異例のことだったのかが分かり、するとこれまで考えても見なかった王朝交替のメカニズムが判明することにもつながる。
なお、秋学期でも春学期と同じように、授業では現代に溶け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢文の読み方が上達すると考えられる。
試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまでにない視点から説明することが出来るようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験： 70 %
平常点： 30 %（毎時間、授業の理解度確認のための小テスト実施）
合計： 100 %
成績は平常点と期末試験で評価するが、試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

HIS200LA	
東洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：植民地時代の東南アジア	
授業コード：Q1423	2017 年度以降入学者
授業コード：P1143	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現在のタイを除く東南アジア地域の大

部分が、19 世紀には欧米列強の植民地支配下にはいりました。このことはよく知られていますが、この時期に具体的にどのようなことが起こっていたのかは、あまり知られていないのではないのでしょうか。この授業では、さまざまな角度から植民地時代の東南アジア社会を見ていくことにより、現在の状況がいかに形作られていったかを学びます。

到達目標 この授業では、高校の世界史では得られなかった新たな知識として、植民地期の東南アジアに関する知識を身につけることを目的とします。
現在のアジア地域に関わる様々な問題を筋道立てて理解し、議論するための基礎的な知識や思考法を身につけることができるようにしていきます。
成績評価の方法と基準 平常点（30 %）、試験（70 %）

HIS200LA	
東洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：民話と歴史：カンボジア王朝年代記と口承伝承	
授業コード：Q1424	2017 年度以降入学者
授業コード：P1144	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「歴史は暗記科目だから難しい」という言葉をよく聞きます。なぜ自分の先祖に直接関係したわけでもない出来事を「私たちの歴史」として学び、覚えなければならないのか、不思議に思ったことはありませんか？ そもそも「歴史」とは何なのでしょう？ 偉人の功績や国家の大事件だけが「歴史」で、私たちの生活を取り巻く様々な変化・・・例えば「キツネにだまされた」という話を聞かなくなることは、「歴史」ではないのでしょうか？ 私たち自身の生活に対する関心が高まる今、これを考えてみることは大切だと思います。この授業ではカンボジアを題材に、人々の生活空間と深く関連して語られている物語と「歴史」の関係を考えていきたいと思っています。

到達目標 「歴史」をより身近なものとし、私たちの周辺にある様々な問題を筋道立てて理解し、議論するための知識を身につけることができるようにしていきます。
成績評価の方法と基準 平常点（30 %）、試験（70 %）

HIS200LA	
西洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
宮崎 亮	
授業コード：Q1431	2017 年度以降入学者
授業コード：P1159	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前8世紀から前5世紀末にいたる古代ギリシア史。
この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱うのは古代ギリシア史（の一部）である。構成は次のように大きく3つに分かれる：1) イントロダクション（第1回～第2回）、2) 前古典期から前5世紀末のギリシア世界（第3回～第9回）、3) 古典期アテナイ社会の諸相（第10回～第13回）。
学生が古代ギリシア史についての基本的な知識（これは、私たちが「ヨーロッパ」や「EU」について考え、向き合う場合には、いまだに重要である）を獲得し、史料に基づいて考える姿勢を身につけること、それがこの授業の目的である。こうした思考法は、他の地域・他の時代の歴史事象を考える場合にも、応用が利くはずである。
到達目標 学生が古代ギリシアの重要な歴史事象を具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で第三者に説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA	
西洋史 L B	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
宮崎 亮	
授業コード：Q1432	2017 年度以降入学者
授業コード：P1160	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱う内容は古代ギリシア史、それも当時ギリシアで行なわれていた運動競技会の歴史に焦点を当てる。

2020 年に東京で開催されるオリンピック大会が、今から 2 千年以上前のギリシアで行なわれていたオリュンピア競技祭（いわゆる「古代オリンピック」）をモデルにして始まったことは、比較的よく知られた事実に関するのではないだろうか。本講義では古代ギリシアの競技祭および体育とポリスとの関わりについて、史料に即しつつ、考察していく。全体の構成は：1）序論（第 1～3 回）、2）競技祭について（第 4～9 回）、3）体育とポリス社会（第 10 回以降）

到達目標 学生が古代ギリシアの運動競技についてを具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA	
西洋史 L A	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
宮崎 亮	
授業コード：Q1433	2017 年度以降入学者
授業コード：P1161	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前 8 世紀から前 5 世紀末にいたる古代ギリシア史。

この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱うのは古代ギリシア史（の一部）である。構成は次のように大きく 3 つに分かれる：1）イントロダクション（第 1 回～第 2 回）、2）前古典期から前 5 世紀末のギリシア世界（第 3 回～第 9 回）、3）古典期アテナイ社会の諸相（第 10 回～第 13 回）。

学生が古代ギリシア史についての基本的な知識（これは、私たちが「ヨーロッパ」や「EU」について考え、向き合う場合には、いまだに重要である）を獲得し、史料に基づいて考える姿勢を身につけること、それがこの授業の目的である。こうした思考法は、他の地域・他の時代の歴史事象を考える場合にも、応用が利くはずである。

到達目標 学生が古代ギリシアの重要な歴史事象を具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で第三者に説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA	
西洋史 L B	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
宮崎 亮	
授業コード：Q1434	2017 年度以降入学者
授業コード：P1162	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義の名称は「西洋史」となっているが、扱う内容は古代ギリシア史、それも当時ギリシアで行なわれていた運動競技会の歴史に焦点を当てる。

2020 年に東京で開催されるオリンピック大会が、今から 2 千年以上前のギリシアで行なわれていたオリュンピア競技祭（いわゆる「古代オリンピック」）をモデルにして始まったことは、比較的よく知られた事実に関するのではないだろうか。本講義では古代ギリシアの競技祭および体育とポリスとの関わりについて、史料に即しつつ、考察していく。全体の構成は：1）序論（第 1～3 回）、2）競技祭について（第 4～9 回）、3）体育とポリス社会（第 10 回以降）

到達目標 学生が古代ギリシアの運動競技についてを具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

成績評価の方法と基準 学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

HIS200LA	
西洋史 L A	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
渡辺 知	
授業コード：Q1435	2017 年度以降入学者
授業コード：P1163	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

HIS200LA	
西洋史ⅡB	2017年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2016年度以前入学者
サブタイトル：	
渡辺 知	
授業コード：Q1436	2017年度以降入学者
授業コード：P1164	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 19世紀～20世紀にかけてのイギリスの歴史を階級、ジェンダー、人種・民族、地域、帝国を切り口に概観し、近代イギリスの特徴を考えていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）。

HIS200LA	
西洋史ⅡA	2017年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅰ	2016年度以前入学者
サブタイトル：	
渡辺 知	
授業コード：Q1437	2017年度以降入学者
授業コード：P1165	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 16世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）。

HIS200LA	
西洋史ⅡB	2017年度以降入学者
HIS100LA	
西洋史Ⅱ	2016年度以前入学者
サブタイトル：	
渡辺 知	
授業コード：Q1438	2017年度以降入学者
授業コード：P1166	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 19世紀～20世紀にかけてのイギリスの歴史を階級、ジェンダー、人種・民族、地域、帝国を切り口に概観し、近代イギリスの特徴を考えていくこととします。

到達目標 ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

成績評価の方法と基準 授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）。

HIS200LA	
日本史ⅡⅠ	2017年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016年度以前入学者
サブタイトル：（近世社会の成立と確立）	
横濱 文孝	
授業コード：Q1441	2017年度以降入学者
授業コード：P1187	2016年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：近世社会の成立と確立
近世社会は、江戸幕府とその支配下にあった藩が統治した政治体制下の社会であり、封建支配体制が長期に持続した時代でもありました。本講座では、この近世という社会の特徴を様々な視点から掘り起こすことで、豊かな歴史像を提示したいと考えています。

到達目標 教科書を通して学んだ歴史は、年号や用語を丸ごと覚えるなど、苦手だ、面白くないといったイメージがあります。しかし、本来、歴史は様々な事象を、資料を通して読み解いていく創造する学問です。本講座は、特に豊富な資料を有する近世という時代を取り上げ、具体的な事例をあげながら、楽しく歴史を学び、考える力を養います。

成績評価の方法と基準 期末試験（80％）と平常点等（20％）をもとに評価します。

HIS200LA	
日本史ⅡⅡ	2017年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016年度以前入学者
サブタイトル：（近世の庶民文化）	
横濱 文孝	
授業コード：Q1442	2017年度以降入学者
授業コード：P1188	2016年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：近世の庶民文化
近世は、士農工商とする封建的な身分制社会でした。しかし、その一方

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

HIS200LA	
日本史ⅠⅠ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：史料で読み解く日本の中世Ⅰ	
貫井 裕恵	
授業コード：Q1445	2017 年度以降入学者
授業コード：P1183	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ⅡⅡもあわせて受講することを推奨します。

到達目標 ・「東寺百合文書」を通じて日本の中世社会への理解を深める。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解読できるようになる。

成績評価の方法と基準 レポートおよびレビューシートの内容、出席状況総合的に評価する。
出席（特別な理由のない限り、欠席は4回以下）・レポート提出が、単位取得に必須の要件となる。

HIS200LA	
日本史ⅡⅡ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：史料で読み解く日本の中世Ⅱ	
貫井 裕恵	
授業コード：Q1446	2017 年度以降入学者
授業コード：P1184	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ⅡⅠもあわせて受講することを推奨します。同授業の発展的内容になります。

到達目標 ・「東寺百合文書」を通じて日本の中世社会への理解を深める。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解読できるようになる。

成績評価の方法と基準 レポートおよびレビューシートの内容、出席状況総合的に評価する。
出席（特別な理由のない限り、欠席は4回以下）・レポート提出が、単位取得に必須の要件となる。

で文化は成熟し、時代とともに俳諧などの文芸を中心に大衆化するようになり、次第に身分の平準化をもたらしていきました。本講座は、その過程を探りつつ、庶民や下級武士層の文化にも触れながら、近世の文化の実像を考えてみたいと思います。

到達目標 従来、近世は封建的な身分制社会のもとに四民が厳格に編成されてきました。しかし、庶民の文化や文芸に触れることで、これまで教科書で学んできた時代とは別に、そこには豊かな歴史イメージを膨らますことができます。本講座では、当時の人々の生活を様々な資料を読み解きながら、歴史を学ぶ視点や研究の方法論などを培います。

成績評価の方法と基準 期末試験（80％）と平常点等（20％）をもとに評価します。

HIS200LA	
日本史ⅠⅠ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
浜田 久美子	
授業コード：Q1443	2017 年度以降入学者
授業コード：P1189	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 7～9 世紀を中心に古代日本と朝鮮半島諸国との対外交流史を、日本・中国・朝鮮半島の史料をもとに考える。

到達目標 古代東アジア外交の変遷を理解する。
史料を読み解き、先行研究を踏まえて論理的に実証するという歴史学の研究法を学ぶ。
参考図書の使い方や文献探索の方法を学び、レポートの作成方法を取得する。

成績評価の方法と基準 平常点に加え、学期末のレポートで評価。

HIS200LA	
日本史ⅡⅡ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
浜田 久美子	
授業コード：Q1444	2017 年度以降入学者
授業コード：P1190	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 東大寺の大仏建立に関する史料を読み、奈良時代の政治や社会を学ぶ。

到達目標 東大寺の大仏建立についての知識を得る。
史料を読み解き、先行研究を踏まえて論理的に実証するという歴史学の研究法を学ぶ。
参考図書の使い方や文献探索の方法を学び、レポートの作成方法を取得する。

成績評価の方法と基準 平常点に加え、学期末のレポートで評価。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

HIS200LA	
日本史 L I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：近代日本の政治と社会	
池田 真歩	
授業コード：Q1447	2017 年度以降入学者
授業コード：P1185	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、幕末から戦時期に至るまでの日本の歴史について、国内政治と対外関係の連関に注意を払いつつ理解を深めることを目指す。

到達目標 ①幕末以降の日本の歴史について、基礎的な知識を習得し、その概要を説明できる。
②幕末以降の日本の歴史について、主要な歴史事象の背景と帰結を、国内外の情勢に目配りしつつ説明できる。
③戦後日本の政治と社会が、戦前日本の政治と社会にいかん規定されたのかを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験 80 %、リアクションペーパー 20 %

HIS200LA	
日本史 L II	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：現代日本の政治と社会	
池田 真歩	
授業コード：Q1448	2017 年度以降入学者
授業コード：P1186	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、太平洋戦争の敗戦から現在に至るまでの日本の歴史について、国内政治と対外関係の連関に注意を払いつつ理解を深めることを目指す。

到達目標 ①戦後日本の歴史について、基礎的な知識を習得し、その概要を説明できる。
②戦後日本の歴史について、主要な歴史事象の背景と帰結を、国内外の情勢に目配りしつつ説明できる。
③冷戦の開始・展開・終結が、日本の政治と社会をいかに規定したかを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験 80 %、リアクションペーパー 20 %

PHL200LA	
宗教論 L I	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：宗教学と世俗化論	
須藤 孝也	
授業コード：Q1451	2017 年度以降入学者
授業コード：P1217	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 概要：様々な宗教の特徴を学ぶとともに、「宗教」という概念を用いることの難しさについても学ぶ。さらに宗教の趨勢を論じる「世俗化論」についても学ぶ。

目的：一口に「宗教」といっても、実際には多様な諸宗教があることを学ぶ。また宗教のあり方が歴史的に変容してきたことと、宗教をめぐる現代の状況についても学ぶ。
意義：宗教は政治や哲学、文化など、宗教以外の様々な事柄と深く関連しています。そのため何を学ぶにしても、宗教についての知見は不可欠なものです。しかしながら、特に現代において、宗教の働きを見極めることは必ずしも容易ではないため、それを洞察するためにはある程度のトレーニングが必要となります。宗教を学ぶことは、自分とはなじみのうすい宗教を信仰する他者についての理解はもちろん、自己に対する理解を深めるためにも大いに役立ちます。

到達目標 ①各々の宗教の特徴を述べることができる。
②「宗教」という概念がはらむ諸問題について説明することができる。
③世俗化論について説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %：するどい指摘は求めません。積極的な取り組み、授業参加を求めます。
期末レポート 60 %：①授業で学んだこと、②文献から学んだこと、③自ら考察したこと、の 3 点を満たしたものを高く評価します。

PHL200LA	
宗教論 L II	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：宗教の哲学の歴史	
須藤 孝也	
授業コード：Q1452	2017 年度以降入学者
授業コード：P1218	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1-4 年生、＜ 2016 年度以前入学生＞環・キ 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 概要：主に宗教哲学の見地に立って、宗教論の歴史を学ぶ。

目的：宗教は単に「非合理的なもの」ではないこと、様々な宗教理解、宗教批判、宗教擁護の理論が提示されてきたことを学び、現代の宗教理解に役立てる。

意義：宗教について哲学してきた西洋の歴史は、西洋人の思考を、今なお多かれ少なかれ規定している。異文化を理解しようとする試みのうち、宗教や哲学に関する理解は決して容易なものではないが、しかしやはり非常に重要なものである。また、西洋近代に大きな影響を受けた現代の日本人にとっても、それは同様に非常に重要なものである。

到達目標 ①各思想家がどのようなものとして宗教を捉えていたのかを説明することができる。
②彼らが、どこに宗教の限界と可能性を見出したのかを説明することができる。
③様々な宗教論を自らの理論構築に役立てることができる。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %：するどい指摘は求めません。積極的な取り組み、授業参加を求めます。
期末レポート 60 %：①授業で学んだこと、②文献から学んだこと、③自ら考察したこと、の 3 点を満たしたものを高く評価します。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
山本 圭子	
授業コード：Q2001	2017 年度以降入学者
授業コード：P2221	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 法学全体に関わる一般的・包括的な知識を身につけ、日本国憲法の構造と基本原則を理解することを到達目標とする。期末試験（80%）、リアクションペーパーとミニテスト（20 %）で評価を行い、60 点以上に単位を付与する。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
山本 圭子	
授業コード：Q2002	2017 年度以降入学者
授業コード：P2222	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 法律を学んだことのない学生が、法学のエッセンスに触れ、大学の一般教養程度の法学の最も初歩的な部分を習得して、六法のエッセンスの部分に関する最もベーシックな理解を得ることをテーマとする。民法、刑法、商法、労働法、知的財産法の基礎を学ぶ。

到達目標 学生が大学生として最低限必要な法に関する知識を身につけ、法律的思考力（リーガルマインド）をつけていることを到達目標とする。民法、刑法、労働法、知的財産法、税法に関する課題を発見し、学説や判例を引いて、課題に関する自分の意見を論理的に述べるができることを目標とする。

成績評価の方法と基準 論述式の期末試験の得点（80 %）と、授業期間中のリアクションペーパー、宿題の評価（20 %）とを総合して評価する。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
内藤 淳	
授業コード：Q2003	2017 年度以降入学者
授業コード：P2223	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて 0～30 %程度の範囲で加減・減点する予定）。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
内藤 淳	
授業コード：Q2004	2017 年度以降入学者
授業コード：P2224	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて 0～30 %程度の範囲で加点・減点する予定）。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
前川 佳夫	
授業コード：Q2005	2017 年度以降入学者
授業コード：P2225	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 18 世紀後半から 19 世紀にかけて、イギリス産業革命の展開と同時期に形成される「近代市民法」は、やがて 19 世紀後半には遠く東アジアにまで波及した。本講義では、工業化が進展しつつあった当時の欧米諸国に形成されてくる「近代市民法」の基本的特徴をまずおさえ、現行の日本国憲法の基礎構造、その特徴、その考え方を学ぶ。その上で、現代の市民生活を支える法システム、権利保障のしくみ、裁判制度の果たす役割等について検討する。

到達目標 1. 欧米諸国に誕生し、やがてアジア地域や世界の国々に波及する近代市民法の基本的特徴を理解する。
2. 戦後誕生する日本国憲法の基礎構造とその考え方を理解する。
3. 現代の市民生活を支える法システム（民法、刑法その他の実定法の構造、権利保障のしくみ、裁判制度の意義）を理解する。
4. 国際人権規約を基軸とする国際人権保障の特徴について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）20 %、期末試験 80 %。
講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
前川 佳夫	
授業コード：Q2006	2017 年度以降入学者
授業コード：P2226	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の多面的な法改革（昨年 6 月に公布された民法・債権法改正法、議論を呼ぶ憲法改正問題その他）の動きのなかで、現行の日本国憲法をはじめ、民法、刑法など数多くの実定法は、どのように変わろうとしているのだろうか。本講義では、現代の日本社会のなかで法はどのような役割を果たしているか、また、果たすべきかについて、日本社会が抱える喫緊の課題をとりあげながら検討する。

到達目標 1. 日本国憲法の現代的意義、現代の日本社会においていかなる役割を果たしているかを理解する。
2. 憲法改正論議や改正債権法などとおして、近時の法改革の動向を理解する。
3. これからの日本社会や市民生活のなかで、近代市民法はどのような役割を果たしていくか（いくべきか）を論じる力をもつ。
4. 世界人権宣言をはじめする国際人権法の発展について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）20 %、期末試験 80 %。

講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
権 敬殷	
授業コード：Q2007	2017 年度以降入学者
授業コード：P2227	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

到達目標 ① 法学の基本的な概念を理解し、基本的な法律用語の読み方と意味が分かる。
② 法学の思考様式について総合的な認識を持つ。
③ 憲法、民法、刑法等、代表的な法分野の基本原則と特徴を把握する。
④ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
⑤ 生活をする中で経験する様々な法律行為について、民法で定めている内容を中心にその全体像を学習する。

成績評価の方法と基準 満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 %の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
権 敬殷	
授業コード：Q2008	2017 年度以降入学者
授業コード：P2228	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識を習得・理解する。主に、次の内容に到達目標とする。
① 人と人との関係を規律するルールを学習する。
② 人と物との関係を規律するルールを学習する。
③ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
④ 国際関係についてのルールを理解する。

成績評価の方法と基準 満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 %の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
石川 澄雄	
授業コード：Q2009	2017 年度以降入学者
授業コード：P2229	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 E ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日常生活上の身近な行為から企業間取引等に至るまで、法的な意味を持たないものはないと言えるほどに、我々は「法的な社会」に生きている。このようなものとして我々に関わる法について、歴史的な視点を踏まえながら法をめぐる今日的な諸問題に目を向け、法の意義や理念、目的、また役割や特質などを、他のルールと対比させながら探り、法というものについての基本的な理解を得る。

到達目標 「法」は国家と密接不可分の関係にあるが、同時に、人々も「法」と密接に関わりながら日々を送っている。本講義では、とくに「法・国家・人間」のそれぞれの関係についての基本的な理解を得ることを目標とする。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が 40 %未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
石川 澄雄	
授業コード：Q2010	2017 年度以降入学者
授業コード：P2230	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 E ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日常生活上の身近な行為から企業間取引等に至るまで、法的な意味を持たないものはないと言えるほどに、我われは「法的な社会」に生きている。このようなものとして我われに関わる法について、歴史的な視点を踏まえながら法をめぐる今日的な諸問題を多く取り上げ、法の意義や理念、目的、また役割や特質などを、他のルールと対比させながら探り、法というものについての基本的な理解を得る。さらにそれを踏まえて憲法の基本および「国際社会と法」についても言及する。

到達目標 「法的社会」の基本を眺めることを通じて、最小限ないし適度の法感覚や法意識、また法的思考（リーガルマインド・バランス感覚）等を養い、さらに我々がそのような社会で生活していることの意味をも知ること、総じて受講生の「法を見る目を養う」ことを目指す。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が 40 %未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
水野 圭子	
授業コード：Q2011	2017 年度以降入学者
授業コード：P2231	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 今まで法律を学んだことがない学生を対象として、身近な法律問題について基本的な知識を習得する。アメリカ・イギリスなど英米法体系の国では、契約から法律を学び始めることが多いが、本講義においても、契約、すなわち、物を買う場合、お金を借る場合、あるいは消費者としてのトラブル、クーリングオフなど個人と個人の間の契約における法律を中心に検討する。また、その時に応じた時事的な法律問題（前年度は冤罪、裁判員制度）も取り扱う。これらの問題に関連する憲法問題も取り扱う。

到達目標 具体的な事例を通じて、個人と個人と法律の関係について、理解し、社会の中で法律の役割を理解すること、法律によって、どのように個人の利益や権利が守られているのか理解することを授業の目的とする。また、簡単な法学検定の問題を解くことができるようにする。

成績評価の方法と基準 テストによる評価（90%）に加え、講義でみた映像資料に対するレポート課題（10%）によって評価を行います。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
水野 圭子	
授業コード：Q2012	2017 年度以降入学者
授業コード：P2232	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 卒業後、あるいは、学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会はとても少ない。本講義では、働くこととかわかる法律について、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くことと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっている EU の仕組みなどを通じて、国際的な法律関係についても知識を深めることとしたい。

到達目標 発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得ることによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。
EU などの国際法的な関係についても、労働という視点から EU 指令、EU 裁判所制度、EU の社会保障制度などについても法的な理解を深める。上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

成績評価の方法と基準 選択式・一部記述式のテスト（100 点満点）で評価する。これに加えて、視聴覚教材を使用した際に提出するコメントを加点として加える。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
金子 匡良	
授業コード：Q2013	2017 年度以降入学者
授業コード：P2233	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
金子 匡良	
授業コード：Q2014	2017 年度以降入学者
授業コード：P2234	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
内藤 淳	
授業コード：Q2015	2017 年度以降入学者
授業コード：P2235	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ D 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提出状況・内容に応じて 0～30 %程度の範囲で加減点する予定）。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
内藤 淳	
授業コード：Q2016	2017 年度以降入学者
授業コード：P2236	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ D 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

到達目標 法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、
各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連
文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」で示した①
～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、
期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなくレポートを課した
りする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はそ
の評価を加味する（試験もしくはレポートの点数を基礎に、コメント提
出状況・内容に応じて 0～30 %程度範囲で加点・減点する予定）。

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
前川 佳夫	
授業コード：Q2017	2017 年度以降入学者
授業コード：P2237	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 18 世紀後半から 19 世紀にかけて、
イギリス産業革命の展開と同時期に形成される「近代市民法」は、やが
て 19 世紀後半には遠く東アジアにまで波及した。本講義では、工業化
が進展しつつあった当時の欧米諸国に形成されてくる「近代市民法」の
基本的特徴をまずおさえ、現行の日本国憲法の基礎構造、その特徴、そ
の考え方を学ぶ。その上で、現代の市民生活を支える法システム、権利
保障のしくみ、裁判制度の果たす役割等について検討する。

到達目標 1. 欧米諸国に誕生し、やがてアジア地域や世界の国々に波及
する近代市民法の基本的特徴を理解する。
2. 戦後誕生する日本国憲法の基礎構造とその考え方を理解する。
3. 現代の市民生活を支える法システム（民法、刑法その他の実定法の構
造、権利保障のしくみ、裁判制度の意義）を理解する。
4. 国際人権規約を基軸とする国際人権保障の特徴について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）
20 %、期末試験 80 %。
講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、
各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連
文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
前川 佳夫	
授業コード：Q2018	2017 年度以降入学者
授業コード：P2238	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の多面的な法改革（昨年 6 月に公
布された民法・債権法改正法、議論を呼ぶ憲法改正問題その他）の動き
のなかで、現行の日本国憲法をはじめ、民法、刑法など数多くの実定法
は、どのように変わろうとしているのだろうか。本講義では、現代の日
本社会のなかで法はどのような役割を果たしているか、また、果たすべ
きかについて、日本社会が抱える喫緊の課題をとりあげながら検討する。

到達目標 1. 日本国憲法の現代的意義、現代の日本社会においていかな
る役割を果たしているかを理解する。
2. 憲法改正論議や改正債権法などをとおして、近時の法改革の動向を理
解する。
3. これからの日本社会や市民生活のなかで、近代市民法はどのような役
割を果たしていくか（いくべきか）を論じる力をもつ。
4. 世界人権宣言をはじめとする国際人権法の発展について理解する。

成績評価の方法と基準 授業中の小テスト（場合によっては小レポート）
20 %、期末試験 80 %。

LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2016 年度以前入学者
金子 匡良	
授業コード：Q2031	2017 年度以降入学者
授業コード：P2251	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 下記の目標を達するため、授業期間の
初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説
した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や
権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原
則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕
組みの 3 つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法
一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的
な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講
義を進める。

到達目標 おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する
理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとす
る。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい
理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわ
せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家の市民として、
また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業
の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し
て、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド
（法的思考）」の涵養も目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」の達成度を
評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内
容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2016 年度以前入学者
金子 匡良	
授業コード：Q2032	2017 年度以降入学者
授業コード：P2252	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 下記の目標を達するため、授業期間の
初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説
した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や
権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原
則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕
組みの 3 つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法
一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的
な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講
義を進める。

到達目標 おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する
理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとす
る。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい
理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわ
せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家の市民として、
また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業
の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し
て、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド
（法的思考）」の涵養も目指す。

成績評価の方法と基準 期末試験により、上記「到達目標」の達成度を
評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2016 年度以前入学者
石川 澄雄	
授業コード：Q2033	2017 年度以降入学者
授業コード：P2253	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすなお十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることによって憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

到達目標 日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が 40 %未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2016 年度以前入学者
石川 澄雄	
授業コード：Q2034	2017 年度以降入学者
授業コード：P2254	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすなお十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることによって憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

到達目標 日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

成績評価の方法と基準 ①定期試験（のみ）による。
②なお、出席率が 40 %未満の者は「履修放棄」したものとみなし、試験を受けても採点せずに「評価対象外」とするので注意されたい（従ってほぼ毎回出席は取るが、これは「受験資格」を確かめるためのもので、「出席点」を付けるためではない）。ちなみに「欠席理由」は考慮するので申し出てほしい。
③定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるので必ず目を通してほしい（載せる前に授業で知らせる）。

ECN100LA	
経済学Ⅰ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
玉之内 直	
授業コード：Q2041	2017 年度以降入学者
授業コード：P2031	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ I 組/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

到達目標 本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%+期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

ECN100LA	
経済学Ⅱ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
玉之内 直	
授業コード：Q2042	2017 年度以降入学者
授業コード：P2032	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ I 組/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解する。

到達目標 本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%+期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

ECN100LA	
経済学Ⅰ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
西崎 文平	
授業コード：Q2043	2017 年度以降入学者
授業コード：P2033	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 J ～ N 組・国 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 株価や為替レート、GDP の数字など、テレビやネットなどで経済のニュースが取り上げられない日はありませ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

きることの3点である。これにより、経済社会の課題について柔軟に発
言できることを目指す。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー 40%、期末試験 60% (期
末試験の実施日は後日決定)

ECN100LA	
経済学Ⅱ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
梅溪 健児	
授業コード: Q2046	2017 年度以降入学者
授業コード: P2036	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	
履修対象: 法 1 年 S ~ Y 組/法文国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 授業はマクロ経済学を取り上げる。
GDP (国内総生産) による経済全体の把握、消費や投資などの有効需
要、経済政策と政府の役割、海外との取引などについて、体系的に理解
できるようになることが目的である。

到達目標 目標は、①経済が特長的に成長するために必要なこと、②政
府が経済成長に果たす役割、③経済データを正確に理解しそれが示唆す
る政策的意味について、自ら考える素養を身につけることの3点である。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー 40%、期末試験 60% (期
末試験の実施日は後日決定)

ECN100LA	
経済学Ⅰ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
水野 和夫	
授業コード: Q2047	2017 年度以降入学者
授業コード: P2037	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	
履修対象: 文 1 年 A ~ N 組・環 1 年・キ 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 経済学は第三の危機を迎えている。
危機において参考になるのは、危機の時代の精神力を与えてくれる古典
である。経済学と古典 (シェイクスピアなど) を参照しながら、21 世紀
の経済的課題の原因を探る。さらに現実の統計データを読み取り力
を身につけ、その背後に隠れている問題点を経済の理論を使ってどのよ
うに説明できるかを学ぶことができる。

経済学Ⅰ (春学期) はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎編を学び、経
済学Ⅱ (秋学期) は現実の課題を経済理論でどう説明することできるか
を学ぶ。

到達目標 この授業の目標は、「経済学の理論と日本経済の制度的側面
や経済指標の実際のデータを解説する部分のバランスを取ることで、理
論と実践を同時に身につけられるようにする」ことにある。

その上で、従来の常識にとらわれることなく、自ら日本経済の問題や
課題を見つけ、それに対してどうすればいいのかを考える力を取得する
ことを到達目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 40 %+期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出した質問票で評価

ん。デフレ脱却や財政再建、成長力の強化は重要な政策課題になってい
ます。これらは一見すると難しく感じられますが、実は、就職のしやす
さや賃金の動向、将来の年金など、私たちの生活に密接に関連した問題
でもあります。経済学は、こうしたさまざまな経済問題を体系的に理解
するために役立ちます。この授業では、基礎的な理論と統計データの見
方を学び、現実の経済について自分なりに考える力を身につけることを
目指します。

経済学Ⅰ (春学期) はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を中心に学
び、経済学Ⅱ (秋学期) では現実の経済問題と理論の関わりを中心に学
びます。

到達目標 ①簡単な図や数式を使って初歩の経済理論が理解できる、②統
計データが何を意味するのか理解できる、③経済指標の解説などのニュー
スが理解できる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー (40%) + 期末試験 (60%)

ECN100LA	
経済学Ⅱ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
西崎 文平	
授業コード: Q2044	2017 年度以降入学者
授業コード: P2034	2016 年度以前入学者
開講時期: 秋学期	
履修対象: 法 1 年 J ~ N 組・国 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 株価や為替レート、GDP の数字など、
テレビやネットなどで経済のニュースが取り上げられない日はありませ
ん。デフレ脱却や財政再建、成長力の強化は重要な政策課題になってい
ます。これらは一見すると難しく感じられますが、実は、就職のしやす
さや賃金の動向、将来の年金など、私たちの生活に密接に関連した問題
でもあります。経済学は、こうしたさまざまな経済問題を体系的に理解
するために役立ちます。この授業では、基礎的な理論と統計データの見
方を学び、現実の経済について自分なりに考える力を身につけることを
目指します。

経済学Ⅰ (春学期) はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を中心に学
び、経済学Ⅱ (秋学期) では現実の経済問題と理論の関わりを中心に学
びます。

到達目標 ①簡単な図や数式を使って初歩の経済理論が理解できる、②統
計データが何を意味するのか理解できる、③経済指標の解説などのニュー
スが理解できる。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパー (40%) + 期末試験 (60%)

ECN100LA	
経済学Ⅰ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
梅溪 健児	
授業コード: Q2045	2017 年度以降入学者
授業コード: P2035	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	
履修対象: 法 1 年 S ~ Y 組/法文国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 経済学は多くの内容から構成される
が、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして
骨太な考え方を習得する。家計・企業・政府はどのような基準で経済活
動の判断を行うのか、それらの取引により市場はどのような結果になる
のかという観点に立って、経済社会の出来事を理解できるようになるこ
とが目的である。

到達目標 目標は、①身の回りの出来事の背景にある合理的な判断を
知ること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解すること、③日々
のニュースの表面的な内容だけでなく深層にあるメカニズムに納得で

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

ECN100LA	
経済学Ⅱ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
水野 和夫	
授業コード：Q2048	2017 年度以降入学者
授業コード：P2038	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年・キ 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 経済学は第三の危機を迎えている。危機において参考になるのは、危機の時代の精神力を与えてくれる古典である。経済学と古典（シェイクスピアなど）を参照しながら、21 世紀の経済的課題の原因を探る。さらに、現実の統計データを読み取る力を身につけ、その背後に隠れている問題点を経済の理論を使ってどのように説明できるかを学ぶ。

経済学Ⅰ（春学期）はミクロ経済学とマクロ経済学の基礎編を学び、経済学Ⅱ（秋学期）は現実の課題を経済理論でどう説明することできるかを学ぶ。

到達目標 この授業の目標は、「経済学の理論と日本経済の制度的側面や経済指標の実際のデータを解説する部分のバランスを取ることで、理論と実践を同時に身につけられるようにする」ことにある。

その上で、従来の常識にとらわれることなく、自ら日本経済の問題や課題を見つけ、それに対してどうすればいいのかを考える力を取得することを到達目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 40 %+期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出したリアクションペーパー（質問票）で評価

ECN100LA	
経済学Ⅰ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
玉之内 直	
授業コード：Q2049	2017 年度以降入学者
授業コード：P2039	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

到達目標 本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%+期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

ECN100LA	
経済学Ⅱ	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
玉之内 直	
授業コード：Q2050	2017 年度以降入学者
授業コード：P2040	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年/法文国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解する。

到達目標 本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 受講態度 50%+期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と（発表はしなかったものの）発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
浅川 希洋志	
授業コード：Q2071	2017 年度以降入学者
授業コード：P2061	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学Ⅱ」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

もの特徴を概観し、子どもの具体的な心理について学ぶ。子どもの人間関係、社会性の発達を説明し、子どもの心理治療とこころの問題に言及する。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

- 到達目標** ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
②児童（子ども）の心理を理解する。
③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

成績評価の方法と基準 期末試験 70 %、リアクションペーパー 30 %

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
浅川 希洋志	
授業コード：Q2072	2017 年度以降入学者
授業コード：P2062	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では、「心理学Ⅰ」で取りあげたこころの理論とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学をとりあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロア理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分 (%)」は期末試験 100 %となる。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
櫻井 登世子	
授業コード：Q2073	2017 年度以降入学者
授業コード：P2063	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） はじめて心理学を学ぶ人を対象として、日本の児童（子ども）に焦点をあてながら、心の発達について解説していく。子どもとはどんな存在なのかについて考え、ことば・知性・思考・動機づけなどの子どもの具体的な心理を説明する。乳幼児や中学生と比べて、児童期の子どもがイメージできるようにする。

- 到達目標** 1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
櫻井 登世子	
授業コード：Q2074	2017 年度以降入学者
授業コード：P2064	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の児童（子ども）の健全育成につながるために、子どものとらえ方、子ども時代の特徴、いまどきの子ど

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
小島 弥生	
授業コード：Q2075	2017 年度以降入学者
授業コード：P2065	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、受講者には心理学Ⅱを連続履修することを期待します。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
小島 弥生	
授業コード：Q2076	2017 年度以降入学者
授業コード：P2066	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
海部 紀行	
授業コード：Q2077	2017 年度以降入学者
授業コード：P2067	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも、アカデミックな領域を概観します。

知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、認知心理学、感情心理学、発達心理学、といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅱでは、パーソナリティ心理学、社会心理学、臨床心理学、といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。

心理学的な視点で、自分のこと、周りのことを考えられるようになることをめざします。

「心」とは何か、といったことに関して、幾つかのキーワードを用いつつ、批判的に検討・検証し、記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100 %）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。

電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト！）です。

テキストを持参すれば十分に回答できるものです。

理解度および各回の取り組み姿勢・態度の反映具合で採点します。

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
海部 紀行	
授業コード：Q2078	2017 年度以降入学者
授業コード：P2068	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも、アカデミックな領域を概観します。

パーソナリティ心理学、社会心理学、臨床心理学、といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅰでは、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、認知心理学、感情心理学、発達心理学、といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。

心理学的な視点で、自分のこと、周りのことを考えられるようになることをめざします。

「心」とは何か、といったことに関して、幾つかのキーワードを用いつつ、批判的に検討・検証し、記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100 %）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。

電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト！）です。

テキストを持参すれば十分に回答できるものです。

理解度および各回の取り組み姿勢・態度の反映具合で採点します。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
浅川 希洋志	
授業コード：Q2079	2017 年度以降入学者
授業コード：P2069	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学Ⅱ」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
浅川 希洋志	
授業コード：Q2080	2017 年度以降入学者
授業コード：P2070	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

到達目標 本講義では、「心理学Ⅰ」で取りあげたこころの理論とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学をとりあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。

PSY100LA	
心理学 I	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学 I	2016 年度以前入学者
小島 弥生	
授業コード：Q2081	2017 年度以降入学者
授業コード：P2071	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、受講者には心理学 II を連続履修することを期待します。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

PSY100LA	
心理学 II	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学 II	2016 年度以前入学者
小島 弥生	
授業コード：Q2082	2017 年度以降入学者
授業コード：P2072	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

到達目標 「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

成績評価の方法と基準 不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

PSY100LA	
心理学 I	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学 I	2016 年度以前入学者
海部 紀行	
授業コード：Q2083	2017 年度以降入学者
授業コード：P2073	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも、アカデミックな領域を概観します。

知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、認知心理学、感情心理学、発達心理学、といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。
※参考：心理学 II では、パーソナリティ心理学、社会心理学、臨床心理学、といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものを理解することが目標です。ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。

心理学的な視点で、自分のこと、周りのことを考えられるようになることをめざします。

「心」とは何か、といったことに関して、幾つかのキーワードを用いつつ、批判的に検討・検証し、記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100 %）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。

電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト！）です。

テキストを持参すれば十分に回答できるものです。

理解度および各回の取り組み姿勢・態度の反映具合で採点します。

PSY100LA	
心理学 II	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学 II	2016 年度以前入学者
海部 紀行	
授業コード：Q2084	2017 年度以降入学者
授業コード：P2074	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 多岐にわたる心理学のなかでも、アカデミックな領域を概観します。

パーソナリティ心理学、社会心理学、臨床心理学、といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学 I では、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、認知心理学、感情心理学、発達心理学、といった分野を学びます。

到達目標 心理学とはどのようなものを理解することが目標です。ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。

心理学的な視点で、自分のこと、周りのことを考えられるようになることをめざします。

「心」とは何か、といったことに関して、幾つかのキーワードを用いつつ、批判的に検討・検証し、記述できるようになります。

成績評価の方法と基準 試験点（100 %）：授業内試験（当日配付・出題の試験用紙に記述）で評価します。

電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト！）です。

テキストを持参すれば十分に回答できるものです。

理解度および各回の取り組み姿勢・態度の反映具合で採点します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PSY100LA	
心理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
櫻井 登世子	
授業コード：Q2085	2017 年度以降入学者
授業コード：P2075	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） はじめて心理学を学ぶ人を対象として、日本の児童（子ども）に焦点をあてながら、心の発達について解説していく。子どもとはどんな存在なのかについて考え、ことば・知性・思考・動機づけなどの子どもの具体的な心理を説明する。乳幼児や中学生と比べて、児童期の子どもがイメージできるようにする。

- 到達目標** 1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

成績評価の方法と基準 期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

PSY100LA	
心理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
櫻井 登世子	
授業コード：Q2086	2017 年度以降入学者
授業コード：P2076	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の児童（子ども）の健全育成につながるために、子どものとらえ方、子ども時代の特徴、いまどきの子どもの特徴を概観し、子どもの具体的な心理について学ぶ。子どもの人間関係、社会性の発達を説明し、子どもの心理治療とこころの問題に言及する。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

- 到達目標** ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
②児童（子ども）の心理を理解する。
③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

成績評価の方法と基準 期末試験 70 %、リアクションペーパー 30 %

GEO100LA	
地理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
高木 正	
授業コード：Q2111	2017 年度以降入学者
授業コード：P2091	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考える

ことの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

GEO100LA	
地理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
高木 正	
授業コード：Q2112	2017 年度以降入学者
授業コード：P2092	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

GEO100LA	
地理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
前川 明彦	
授業コード：Q2113	2017 年度以降入学者
授業コード：P2093	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験（60 %）、レポート・平常点（40 %）で評価いたします。詳細については最初の授業時などで説明します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価します。

GEO100LA	
地理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
前川 明彦	
授業コード：Q2114	2017 年度以降入学者
授業コード：P2094	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験（60％） レポートおよびリアクションシートなど（40％）で評価。これらについては、最初の授業時などで説明します。

GEO100LA	
地理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
米家 志乃布	
授業コード：Q2115	2017 年度以降入学者
授業コード：P2095	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価いたします。

GEO100LA	
地理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
米家 志乃布	
授業コード：Q2116	2017 年度以降入学者
授業コード：P2096	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

GEO100LA	
地理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
長沢 利明	
授業コード：Q2117	2017 年度以降入学者
授業コード：P2097	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

到達目標 現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末におこなわれる試験によって成績評価をおこないます。

GEO100LA	
地理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
長沢 利明	
授業コード：Q2118	2017 年度以降入学者
授業コード：P2098	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

到達目標 現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 試験とレポートによって成績評価をおこないます

GEO100LA	
地理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
前畑 明美	
授業コード：Q2119	2017 年度以降入学者
授業コード：P2099	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに海に関わる事象を取り上

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

げます。

到達目標 現代世界の様々な事象、とくに海に関わる事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（50％）・期末試験（50％）
積極的な姿勢を評価する。

GEO100LA	
地理学Ⅱ	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
前畑 明美	
授業コード：Q2120	2017 年度以降入学者
授業コード：P2100	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では、とくに「島」を取り上げて学びます。

到達目標 現代世界の諸地域、とくに「島」について、地誌的に考察することを目標とします。

成績評価の方法と基準 平常点（50％）・期末試験（50％）
積極的な姿勢を評価する。

POL100LA	
政治学Ⅰ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016 年度以前入学者
平良 好利	
授業コード：Q2161	2017 年度以降入学者
授業コード：P2121	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、民主主義、選挙、政党、議会、内閣といった政治学にとって重要なテーマを、やや原理的に考察すると同時に、それを踏まえて日本の政治を考察してみたい。

到達目標 政治学の基礎的概念を日本政治に則して説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）、レポート（40％）、期末試験（40％）

POL100LA	
政治学Ⅱ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016 年度以前入学者
平良 好利	
授業コード：Q2162	2017 年度以降入学者
授業コード：P2122	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、権力闘争、国益と国力、ナ

ショナリズム、政治と法、政治と道義、イデオロギー、軍縮、バランス・オブ・パワー、そして外交などにかかわる諸問題について、歴史を踏まえてやや原理的に考察し、戦争と平和の問題を考えてみたい。

到達目標 政治学、とりわけ国際政治学の基礎的概念について理解することができ、その基礎的概念を使って現実の政治を説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）、レポート（40％）、期末試験（40％）

POL100LA	
政治学Ⅰ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016 年度以前入学者
崔 先鎬	
授業コード：Q2163	2017 年度以降入学者
授業コード：P2123	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～H 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度（＝レポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）

POL100LA	
政治学Ⅱ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016 年度以前入学者
崔 先鎬	
授業コード：Q2164	2017 年度以降入学者
授業コード：P2124	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～H 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後各自の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度（＝レポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）

POL100LA	
政治学 I	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 I	2016 年度以前入学者
平良 好利	
授業コード：Q2165	2017 年度以降入学者
授業コード：P2125	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、民主主義、選挙、政党、議会、内閣といった政治学にとって重要なテーマを、やや原理的に考察すると同時に、それを踏まえて日本の政治を考察してみたい。

到達目標 政治学の基礎的概念を日本政治に則して説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）、レポート（40 %）、期末試験（40 %）

POL100LA	
政治学 II	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 II	2016 年度以前入学者
平良 好利	
授業コード：Q2166	2017 年度以降入学者
授業コード：P2126	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、権力闘争、国益と国力、ナショナリズム、政治と法、政治と道義、イデオロギー、軍縮、バランス・オブ・パワー、そして外交などにかかわる諸問題について、歴史を踏まえてやや原理的に考察し、戦争と平和の問題を考えてみたい。

到達目標 政治学、とりわけ国際政治学の基礎的概念について理解することができ、その基礎的概念を使って現実の政治を説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）、レポート（40 %）、期末試験（40 %）

POL100LA	
政治学 I	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 I	2016 年度以前入学者
高橋 和則	
授業コード：Q2167	2017 年度以降入学者
授業コード：P2127	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に政治制度とそれを支える原理、精神を中心にして政治学の基本を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①主要国で共有している政治制度についての知識を得る。
②政治制度がいかなる原理に基づいているかを理解する。
③日本の政治制度についての基本的知識を獲得する。

成績評価の方法と基準 ・ 期末に実施する選択肢型試験（100%）

POL100LA	
政治学 II	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 II	2016 年度以前入学者
高橋 和則	
授業コード：Q2168	2017 年度以降入学者
授業コード：P2128	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 I ～ N 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に社会とその中にいる市民を中心にして政治学の基礎を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①社会における利益（団体）の果たす役割についての知識を習得する。
②世論と民主主義についてを理解する。

成績評価の方法と基準 期末に実施する選択肢型試験（100%）

POL100LA	
政治学 I	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 I	2016 年度以前入学者
崔 先鎬	
授業コード：Q2169	2017 年度以降入学者
授業コード：P2129	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度（=レポートなどの提出物、30%）+ 試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）

POL100LA	
政治学 II	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学 II	2016 年度以前入学者
崔 先鎬	
授業コード：Q2170	2017 年度以降入学者
授業コード：P2130	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

到達目標 「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

成績評価の方法と基準 参加度（＝レポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）

POL100LA	
政治学Ⅰ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016 年度以前入学者
面 一也	
授業コード：Q2171	2017 年度以降入学者
授業コード：P2131	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、必ずしも政治学専攻でない学生向けに書かれた入門書を手がかりとしながら、現代政治の理論と現実を全般的に概観する。政治は生きものなので、書物には載っていない現在進行形のアクチュアルな諸問題も、可能なかぎり積極的に取り扱う。授業全体を通じて、現在の政治が直面している課題と、望ましい未来の政治のあり方について、批判的に考察を進めたい。なお本授業では、国内体制を中心に取り上げる。

- 到達目標**
- 1 現代の政治理論と現実政治の動向を理解する。
 - 2 アクチュアルな政治問題の争点を把握する。
 - 3 現在の政治と未来の政治に関する批判的考察力を身につける。

成績評価の方法と基準 期末筆記試験（80 %）
リアクション・ペーパー（20%）

POL100LA	
政治学Ⅱ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016 年度以前入学者
面 一也	
授業コード：Q2172	2017 年度以降入学者
授業コード：P2132	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、必ずしも政治学専攻でない学生向けに書かれた入門書を手がかりとしながら、現代政治の理論と現実を全般的に概観する。政治は生きものなので、書物には載っていない現在進行形のアクチュアルな諸問題も、可能なかぎり積極的に取り扱う。授業全体を通じて、現在の政治が直面している課題と、望ましい未来の政治のあり方について、批判的に考察を進めたい。なお本授業では、国際体制を中心に取り上げる。

- 到達目標**
- 1 現代の政治理論と現実政治の動向を理解する。
 - 2 アクチュアルな政治問題の争点を把握する。
 - 3 現在の政治と未来の政治に関する批判的考察力を身につける。

成績評価の方法と基準 期末筆記試験（80 %）。
リアクション・ペーパー（20%）。

POL100LA	
政治学Ⅰ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016 年度以前入学者
岡崎 加奈子	
授業コード：Q2173	2017 年度以降入学者
授業コード：P2133	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ O 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 私たちの暮らす現代社会と政治との関係性とはいかなるものであり、私たちの生活にとって政治や政策はどのような意味や役割をもつのだろうか。本講義では、政治学の基礎的概念を身につけ、現代社会における政治的な事象についての基本的な理解を深めることを目的とする。

到達目標 本講義では以下の点を到達目標とする。
学生が現代社会の政治をめぐる制度や理論、歴史について、基本的な理解を得られること。
学生が政治的な事象について自ら思考する力を身につけること。
さらに、こうした理解や思考を文章としてまとめ、表現する力を養うこと。

成績評価の方法と基準 期末試験（65%）と平常点（35%）により総合的に評価する。平常点は、授業内レポートおよび授業内の取り組みにより構成される。

POL100LA	
政治学Ⅱ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016 年度以前入学者
岡崎 加奈子	
授業コード：Q2174	2017 年度以降入学者
授業コード：P2134	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ O 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代社会にはいかなる政治的な問題や課題があるのか。
本講義では、戦後の政党政治や自治体の政策について学ぶ中で、より具体的かつ身近な問題として政治を捉え、理解するとともに、社会におけるさまざまな問題を政治学的視点に基づき、制度・運用の両面から考察することを目指す。

到達目標 本講義では、以下の点を到達目標とする。
学生が現代社会における政治制度や歴史の変遷について、より深い知識と理解を得ること。
学生が今日の社会が直面している政治課題とは何か、自ら考察する力を養うこと。
自らの考察を表現し、文章化する能力を高めること。

成績評価の方法と基準 期末試験（65%）および平常点（35%）により、総合的に評価する。平常点は、授業内レポートおよび授業内の取り組みによる。

成績評価の方法と基準 期末試験 70%、平常点 30%

POL100LA	
政治学Ⅰ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016 年度以前入学者
高橋 和則	
授業コード：Q2175	2017 年度以降入学者
授業コード：P2135	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 Q ～ U 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に政治制度とそれを支える原理、精神を中心に政治学の基本を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①主要国で共有している政治制度についての知識を得る。
②政治制度がいかなる原理に基づいているかを理解する。
③日本の政治制度についての基本的知識を獲得する。

成績評価の方法と基準 ・期末に実施する選択肢型試験（100%）

POL100LA	
政治学Ⅱ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016 年度以前入学者
高橋 和則	
授業コード：Q2176	2017 年度以降入学者
授業コード：P2136	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 Q ～ U 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 主に社会とそこにいる市民を中心に政治学の基礎を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

到達目標 ①社会における利益（団体）の果たす役割についての知識を習得する。
②世論と民主主義についてを理解する。

成績評価の方法と基準 期末に実施する選択肢型試験（100%）

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
菅野 摂子	
授業コード：Q2131	2017 年度以降入学者
授業コード：P2141	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
菅野 摂子	
授業コード：Q2132	2017 年度以降入学者
授業コード：P2142	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 期末テスト 70%、平常点 30%

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
高橋 徹	
授業コード：Q2133	2017 年度以降入学者
授業コード：P2143	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の興味のあるものを題材として、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業（50 %）と、期末試験または期末レポート（50 %）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。期末試験または期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
高橋 徹	
授業コード：Q2134	2017 年度以降入学者
授業コード：P2144	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S ～ Y 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の興味のあるものを題材として、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業の内容評価（50 %）と、中間レポート（20 %）、及び期末試験または期末レポート（30 %）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。中間レポートと期末試験または期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
高橋 徹	
授業コード：Q2135	2017 年度以降入学者
授業コード：P2145	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の興味のあるものを題材として、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業（50 %）と、期末試験または期末レポート（50 %）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。期末試験または期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
高橋 徹	
授業コード：Q2136	2017 年度以降入学者
授業コード：P2146	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業を履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

到達目標 この授業を履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の興味のあるものを題材として、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

成績評価の方法と基準 授業内作業の内容評価（50 %）と、中間レポート（20 %）、及び期末試験または期末レポート（30 %）によります。授業内作業は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。中間レポートと期末試験または期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
塚田 修一	
授業コード：Q2137	2017 年度以降入学者
授業コード：P2147	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 平常点（出席およびコメントペーパー）を 30%、中間および期末の 2 回のレポートを 70%として評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
塚田 修一	
授業コード：Q2138	2017 年度以降入学者
授業コード：P2148	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 平常点（出席およびコメントペーパー）を 30%、中間および期末の 2 回のレポートを 70%として評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2139	2017 年度以降入学者
授業コード：P2149	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）人々によって共有されている信念や行動パターンを理解できる。（2）人々の行為に込められた意味を把握することができる。（3）社会現象の記述に用いられる基礎概念を歴史的な文脈に沿って正しく理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2140	2017 年度以降入学者
授業コード：P2150	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）社会現象の記述に用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解できる。（2）社会秩序を構想、強制、維持する基本原理について理解できる。（3）最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝教養を身に付ける）。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
橋本 みゆき	
授業コード：Q2141	2017 年度以降入学者
授業コード：P2151	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書および授業時に配布するレジュメや文献、映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験 80%、平常点 20%

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
橋本 みゆき	
授業コード：Q2142	2017 年度以降入学者
授業コード：P2152	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 教科書および授業時に配布するレジメや文献、映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験 80%、平常点 20%

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2143	2017 年度以降入学者
授業コード：P2153	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には (1) 人々によって共有されている信念や行動パターンを理解できる。(2) 人々の行為に込められた意味を把握することができる。(3) 社会現象の記述に用いられる基礎概念を歴史的な文脈に沿って正しく理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点 (40%) と論述型の期末試験 (60%) で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2144	2017 年度以降入学者
授業コード：P2154	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には (1) 社会現象の記述に用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解できる。(2) 社会秩序を構想、強制、維持する基本原理について理解できる。(3) 最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける (= 教養を身に付ける)。

成績評価の方法と基準 平常点 (40%) と論述型の期末試験 (60%) で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2145	2017 年度以降入学者
授業コード：P2155	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には (1) 人々によって共有されている信念や行動パターンを理解できる。(2) 人々の行為に込められた意味を把握することができる。(3) 社会現象の記述に用いられる基礎概念を歴史的な文脈に沿って正しく理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点 (40%) と論述型の期末試験 (60%) で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

SOC100LA	
社会学Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
徐 玄九	
授業コード：Q2146	2017 年度以降入学者
授業コード：P2156	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

到達目標 この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。具体的には（1）社会現象の記述に用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解できる。（2）社会秩序を構想、強制、維持する基本原理について理解できる。（3）最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝教養を身に付ける）。

成績評価の方法と基準 平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価する。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は、基本的には論述式であり「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅰ	2016 年度以前入学者
ベル 裕紀	
授業コード：Q2191	2017 年度以降入学者
授業コード：P2171	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～H 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

到達目標 学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、最終授業での記述式試験 70 % で評価する。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅰ	2016 年度以前入学者
梅村 絢美	
授業コード：Q2193	2017 年度以降入学者
授業コード：P2173	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、文化人類学に関する複数のトピックを取りあげ、民族誌で描かれる事例や講師の調査経験とともに紹介します。これをふまえ、受講生自身が前提とする「ものの見方」を相対化し、他者との具体的な交渉を通じて自己を理解するという文化相対主義・関係論的アプローチを習得することを目指します。この過程から、支配的な価値・言説にとらわれることのない、他者との対称的かつ具体的な関係構築に根差したコミュニケーションとはいかなるものか、ともに考えていきましょう。

到達目標 本授業は、以下の3つの到達目標のもと進めていきます。
（1）人類学の思考の枠組み・対象への接近方法についてさらなる理解を深める。
（2）受講者自身の思考の枠組みを相対化する視点を養い、グローバル規模に展開する様々な社会現象を広い視野でとらえる技法を身につける。
（3）人類学の思考の枠組みをもちいて、受講者自身の経験や身の回りの出来事をとらえ、発信する技法を身につける。

成績評価の方法と基準 授業の各回のリアクションペーパー（40%）と学期末レポート（60%）をもとに総合的に評価します。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅰ	2016 年度以前入学者
岩原 紘伊	
授業コード：Q2195	2017 年度以降入学者
授業コード：P2175	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学の学問的系譜や基本的な概念を説明したうえで、親族、ジェンダー、経済、宗教などのトピックを取り上げ、人間の多様性や共通点を知る。

到達目標 ①文化人類学の基本的な視座を理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、自己と異文化に生きる他者との間に何かしらの共通点や理解できる部分があるという考え方を身に付け、自己の文化について相対化してとらえられるようになる。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30%）と期末試験の点数（70%）により総合的に判断する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
長 沢 利明	
授業コード：Q2197	2017 年度以降入学者
授業コード：P2177	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 異文化理解の学問である文化人類学の基本的な考え方や概念を、生殖や家族、グローバリゼーションといったトピックを通して理解する。

到達目標 ①文化が持つ多様性と普遍性について知る。
②複眼的、相対的な視点から異文化と自文化を理解する力を身に付ける。

成績評価の方法と基準 試験の結果によって成績評価をおこなう。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
ペル 裕紀	
授業コード：Q2199	2017 年度以降入学者
授業コード：P2179	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

到達目標 学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、最終授業での記述式試験 70 % で評価する。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
梅村 絢美	
授業コード：Q2201	2017 年度以降入学者
授業コード：P2181	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業では、文化人類学に関する複数のトピックをとりあげ、民族誌で描かれる事例や講師の調査経験とともに紹介します。これをふまえ、受講生自身が前提とする「ものの見方」を相対化し、他者との具体的交渉を通じて自己を理解するという文化相対主義・関係論的アプローチを習得することを目指します。この過程から、支配的な価値・言説にとらわれることのない、他者との対称的かつ具体的な関係構築に根差したコミュニケーションとはいかなるものか、ともに考えていきましょう。

到達目標 本授業は、以下の 3 つの到達目標のもと進めていきます。
(1) 人類学の思考の枠組み・対象への接近方法についてさらなる理解を深める。
(2) 受講者自身の思考の枠組みを相対化する視点を養い、グローバル規模に展開する様々な社会事象を広い視野でとらえる技法を身につける。
(3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、受講者自身の経験や身の回りの出来事をとらえ、発信する技法を身につける。

成績評価の方法と基準 授業の各回のリアクションペーパー（40 %）と学期末レポート（60 %）をもとに総合的に評価します。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
阿部 朋恒	
授業コード：Q2203	2017 年度以降入学者
授業コード：P2183	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ O 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 異文化への理解を深めることを通じてものの考え方や暮らし方が多様であることを知り、自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。この授業では、そのために役立つ視点と具体的な事例を、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら学んでいく。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は学生自身が作成した紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
岩原 紘伊	
授業コード：Q2205	2017 年度以降入学者
授業コード：P2185	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 Q ～ U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学の学問的系譜や基本的な概念を説明したうえで、親族、ジェンダー、経済、宗教などのトピックを取り上げ、人間の多様性や共通点を知る。

到達目標 ①文化人類学の基本的な視座を理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、自己と異文化に生きる他者の間に何かしらの共通点や理解できる部分があるという視点を身に付け、自己の文化について相対化してとらえられるようになる。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30 %）と試験の点数（70 %）により総合的に判断する。

【重要】ILAC 科目 / 市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ず Web シラバスを確認してください。
本冊子は、Web シラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

す。過去や他人の思想を学ぶことで、わたしたちの社会思想を豊かにすることをめざす科目です（特定の社会思想を押しつけるわけではありません）。「社会思想 I」のこのクラスでは、かならずしも理解が容易ではない一般的な社会思想史の通史でなく、理想社会論（ユートピア論）を主題にして、過去から現代までの社会思想をたどります。

到達目標 （１）古代から現代までの代表的なユートピア論について理解を深めて、人類がこれまでにどのように、どのような理想社会を論じてきたかを理解する。（２）社会や共存にかかわる論点・争点や、さまざまな論じ方を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（コメントペーパー、発言、貢献など。50 点）、期末試験（50 点）。授業への出席は単位修得の前提条件です。

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
中島 成久	
授業コード：Q2207	2017 年度以降入学者
授業コード：P2187	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「人種・民族問題入門、米欧編」というテーマで授業を行う。文化人類学を学ぶ上で、「人種・民族問題」をどのように考えるかは重要なイシューである。春学期は主に米欧における人種・民族問題を考える。

到達目標 グローバル化の現在、文化人類学を学ぶ上で、人種・民族へのスタンスの取り方は最も基本的な課題である。日本にいては日常あまり意識のすることのないこの問題を世界の事例を通して学び、視野を広げることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業内試験（70%）＋平常点（30%）

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学 I	2016 年度以前入学者
阿部 朋恒	
授業コード：Q2209	2017 年度以降入学者
授業コード：P2189	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 異文化への理解を深めることを通じてものの考え方や暮らし方が多様であることを知り、自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。この授業では、そのために役立つ視点と具体的な事例を、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら学んでいく。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40%）、筆記形式の期末試験（60%）により評価する。なお、期末試験は学生自身が作成した紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。

SOS100LA	
社会思想 I	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想 I	2016 年度以前入学者
犬塚 元	
授業コード：Q2211	2017 年度以降入学者
授業コード：P2201	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会思想」は、社会や共存をめぐるさまざまな考え（社会思想）や、その歴史（社会思想史）を学ぶ科目で

SOS100LA	
社会思想 II	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想 II	2016 年度以前入学者
犬塚 元	
授業コード：Q2212	2017 年度以降入学者
授業コード：P2202	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A ～ H 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会思想」は、社会や共存をめぐるさまざまな考え（社会思想）や、その歴史（社会思想史）を学ぶ科目です。過去や他人の思想を学ぶことで、わたしたちの社会思想を豊かにすることをめざす科目です（特定の社会思想を押しつけるわけではありません）。「社会思想 II」のこのクラスでは、かならずしも理解が容易ではない一般的な社会思想史の通史でなく、「社会思想史における女性／男性」をテーマにして、過去から現代までの社会思想史において女性／男性や性がどのように論じられてきたか、をたどります。

到達目標 （１）「社会思想史における女性／男性」について理解を深め、人類がこれまでにどのように女性／男性や性を論じてきたかを理解する。（２）ジェンダーやセクシャリティにかかわる論点・争点を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（コメントペーパー、発言、貢献など。50 点）、期末試験（50 点）。授業への出席は単位修得の前提条件です。

SOS100LA	
社会思想 I	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想 I	2016 年度以前入学者
福田 名津子	
授業コード：Q2213	2017 年度以降入学者
授業コード：P2203	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、古代ギリシアから 18 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、宗教と世俗の秩序に同時に束縛され、自立性を持たなかった古代および中世の人間像が、ルネサンスと宗教改革・市民革命を経てこれを回復していく過程、それに呼応して近代的な政治理論の組み立てられていく過程を重視する。

過去の思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 古代ギリシアの政治思想を理解できる。
宗教と世俗の秩序対立が理解できる。
近代の国家観・社会観が理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
福田 名津子	
授業コード：Q2214	2017 年度以降入学者
授業コード：P2204	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 I ～ Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、フランス革命後から 20 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、18 世紀啓蒙を経て文明が成熟期を迎えた次の展開、その多様性を重視する。

過去を思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 現代民主主義の展開を理解できる。
文明の到達点を積極面・消極面の双方から理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
洪 貴義	
授業コード：Q2215	2017 年度以降入学者
授業コード：P2205	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではハンナ・アーレントの思想を学びます。20 世紀初頭のヨーロッパにおける世界戦争と革命という困難な時代を、ユダヤ系ドイツ人として生きたアーレントは政治的思考について斬新で鮮烈な思考の足跡を残しています。

この授業では 19 世紀から 20 世紀にかけての政治経験を背景にして、アーレントの生涯を外観しながら、彼女の政治的思考を学ぶことを目的とします。

到達目標 世界戦争と革命の歴史的背景について理解すること、アーレントの思考スタイルに親しむこと、そして現代の政治状況についてアーレントとともに考える訓練をすることがこの授業の到達目標です。

成績評価の方法と基準 各授業の出席とコメントメールによる平常点（40 %）、学期末レポート（60 %）

SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
洪 貴義	
授業コード：Q2216	2017 年度以降入学者
授業コード：P2206	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A ～ N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではエドワード・W・サイードの思想を学びます。1935 年にエルサレムに生まれ、2003 年にアメリカに没したサイードは生涯をかけて「西洋」と「東洋」に分断された二項対立を突き崩そうと奮闘しました。ジャンパチスタ・ヴィーコとその文献学に学びながら、人文学と批評の使命に殉じたサイードの著作と思想を学ぶことがこの授業の目的です。

到達目標 サイードの生涯と彼が生きた歴史的 세계について理解すること、サイードの主要著作について理解を深めること、サイードから見た、わたしたちの生きる東アジア世界について理解を持つことを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとに提出するコメントメールによる出席とコメント内容（40 %）と、期末レポート（60 %）によって評価します。

SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
網谷 壮介	
授業コード：Q2217	2017 年度以降入学者
授業コード：P2207	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この科目では西欧の社会思想史を学びます。社会思想史とは、これまで人びとが、人間や社会、政治についてどのように考察してきたのかを研究する学問です。春学期は社会契約論という考え方を学びます。過去の思想を理解することで、私たちが「当たり前」だと思っている社会のあり方や制度について批判的に問い直す視座を獲得することが目的です。

到達目標 本講義は社会契約論という考え方をテーマに、主に 17 世紀から現代の思想家までを取り上げます。社会契約論とは「私たちの社会は契約によって成り立っている」という発想です。これは、ちょっとぎょっとする考え方かもしれませんが、どうして国家に服従しなければならないのか、政治はどのように行われるべきか、どんな社会が正しい社会なのかといった問題を考える際に、非常に重要なツールとなります。代表的な思想家の考え方を理解し、それらの違いや特徴を説明できるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 平常点（30 パーセント）＋期末試験（70 パーセント）平常点はリアクションペーパーを中心に、授業内での発言や質問、聴講態度を考慮します。

SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
網谷 壮介	
授業コード：Q2218	2017 年度以降入学者
授業コード：P2208	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P ～ X 組・環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この科目では西欧の社会思想史を学びます。社会思想史とは、これまで人びとが、人間や社会、政治についてどのように考察してきたのかを研究する学問です。秋学期は公共性に関する思想史を学びます。過去を思想を理解することで、私たちが「当たり前」だと思っている社会のあり方や制度について、批判的に問い直す視座を獲得することが目的です。

到達目標 本講義では公共性という概念を歴史の中で検討することで、「公」と「私」の関係の望ましいあり方を考えます。到達目標は、(1) 古代と近代、現代で公共性概念にどのような違いが見られるか、(2) カント、アーレント、ハーバーマスの公共性概念とはどのようなものか、(3) 現代の公共性の問題は何かを理解し、自分の言葉で説明できるようになることです。

成績評価の方法と基準 平常点 (30 パーセント) + 期末試験 (70 パーセント) 平常点はリアクションペーパーを中心に、授業内での発言や質問、聴講態度を考慮します。

SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
熊沢 敏之	
授業コード：Q2219	2017 年度以降入学者
授業コード：P2209	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 社会思想の形成・流通・普及の過程を、日本における人文書の興亡とジャーナリズムの展開のなかで考える。敗戦後の 1945 年から 1980 年代まで、もっとも精彩を放ちながら戦後日本をリードした思想家と人文書、および出版社に焦点を合わせ、その思想が社会に与えたインパクトと意味を析出する。現役の出版人による戦後出版通史、人文学史。

到達目標 いまや古典となりつつある基本的な参考文献を読み、社会と思想とメディアの機能について「批判的」「批評的」な思考を培うこと。戦後人文学の興亡を見極めながら、自主的な読書と研究を実践できるようになること。

成績評価の方法と基準 成績評価は期末試験のみ (100 %)。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。試験は筆記・論述。

SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
熊沢 敏之	
授業コード：Q2220	2017 年度以降入学者
授業コード：P2210	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A ～ J 組/法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 19 世紀のパリでは、成熟を始めた資本主義のもとで、ヨーロッパ随一の大都市文化が花開こうとしていた。20 世紀最高の思想家ヴァルター・ベンヤミンは、変貌するパリの根源的意味を問おうと、「パリ——十九世紀の首都」を書いた。この優れたエッセーを精読しながら、19 世紀パリに展開したさまざまなイメージを復元し、芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う、この変化の時代を思想的に読み解いていく。

到達目標 20 世紀最高のテキストを読み、社会と思想とメディアの機能、および文化と歴史の関連について、「批判的」「批評的」な思考を培うこと。とりわけ、論理とイメージが交錯する「エッセーの思想」の精髓に触れられるよう、パワーポイントの資料を見ながら忍耐強くテキストと向き合うこと。

成績評価の方法と基準 成績評価は期末試験のみ (100 %) 講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。試験は筆記・論述。

SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
福田 名津子	
授業コード：Q2221	2017 年度以降入学者
授業コード：P2211	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、古代ギリシアから 18 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、宗教と世俗の秩序に同時に束縛され、自立性を持たなかった古代および中世の人間像が、ルネサンスと宗教改革・市民革命を経てこれを回復していく過程、それに呼応して近代的な政治理論の組み立てられていく過程を重視する。

過去を思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 古代ギリシアの政治思想を理解できる。
宗教と世俗の秩序対立が理解できる。
近代の国家観・社会観が理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
福田 名津子	
授業コード：Q2222	2017 年度以降入学者
授業コード：P2212	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K ～ U 組・キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、哲学・政治学・経済学を軸に、フランス革命後から 20 世紀までの西洋社会思想史を概観する。特に、18 世紀啓蒙を経て文明が成熟期を迎えた次の展開、その多様性を重視する。

過去を思想を理解するには、ある思想家の「頭のなか」と「文脈」を正確に描き出すことが必要であり、易しい作業ではない。だが、その努力は現実社会を自分の視点で眺めようとする際、私たちが他者を理解しようとする際に大きく役立つと考えている。

到達目標 現代民主主義の展開を理解できる。
文明の到達点を積極面・消極面の双方から理解できる。

成績評価の方法と基準 持ち込み不可の期末試験による。

ECN200LA	
経済学ⅠA	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の基礎	
中平 千彦	
授業コード：Q2321	2017 年度以降入学者
授業コード：P2043	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講義は、春学期開講『経済学ⅠA』（担当：中平）です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学ⅠB』（担当：中平）に接続されます。

受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？

経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

春学期開講『経済学ⅠA』では、「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」の基礎をコンパクトに解説し、受講生にそれらを速習してもらうことを目指します。

到達目標 ・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。
・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学のに関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

成績評価の方法と基準 ・[試験 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
・各種公式行事の出席などによる止むを得ない欠席は、申告によって出席扱いとすることがありますので、これに該当する可能性がある場合は、早期に講義担当者に相談してください。
・出席数が規定数を下回る場合は、特別な場合を除き、単位を認定しません。

ECN200LA	
経済学ⅠB	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：観光経済学	
中平 千彦	
授業コード：Q2322	2017 年度以降入学者
授業コード：P2044	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。

観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。

到達目標 ・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。
・観光経済学に関する基本的問題をミクロ (マイクロ)・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。

成績評価の方法と基準 ・[試験 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
・各種公式行事の出席などによる止むを得ない欠席は、申告によって出席扱いとすることがありますので、これに該当する可能性がある場合は、早期に講義担当者に相談してください。
・出席数が規定数を下回る場合は、特別な場合を除き、単位を認定しません。

ECN200LA	
経済学ⅠA	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：経済学の考え方の根底にあるもの	
水野 和夫	
授業コード：Q2323	2017 年度以降入学者
授業コード：P2045	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 経済学とは、どのような考え方に基いて理論を構築しているかを身に付けることができる。近代経済学は、21 世紀の経済が抱える課題、たとえば、デフレ、ゼロ金利、長期停滞、そして格差・貧困問題などの原因をどうとらえ、どう対処しようとしているのかを学ぶことができる。

現実には、近代経済学はこれらの問題に対して有効な処方箋を提示できない。「近代経済学」を再検討することで、経済学にとって何が求められているのかを理解できるようになる。

到達目標 18 世紀後半に誕生した経済学の基本的概念は、そのときの時代環境とともに変化してきたことを学ぶことで、日本の「失われた 20 年」の背景を考えることができる。

なぜ、20 年にわたるデフレが続いているのか、ゼロ金利は何を意味しているのか、トランプ大統領誕生によりグローバリゼーションは曲がり角を迎えているのか否かを、自ら考える能力を身に付けることができる。

秋学期の「経済学ⅠB」を合わせて受講することで、春学期の到達目標がさらに高まる。

成績評価の方法と基準 受講態度 40 %・期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出した質問票で評価

ECN200LA	
経済学Ⅱ B	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：経済学の根底にある倫理	
水野 和夫	
授業コード：Q2324	2017 年度以降入学者
授業コード：P2046	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 経済学は、元来倫理学、道徳学、法学と一体化することで、人間とは何かを考えようとする学問であった。19 世紀以降、そうした考え方が希薄化し、専門化の方向を選んだ。

21 世紀にはいつ、正統派経済学は様々な問題に有効な処方箋を提示できなくなりつつあり、再度、倫理学、道徳学、法学の関連性を問うことで、経済学の再構築を考察することができる。

到達目標 「近代経済学の再検討」を通じて、21 世紀の世界経済が抱える問題の背景、原因を考えることができる。さらに、「近代とはいかなる時代か」を考えることができるようになる。そして、近代が「発見」した社会とはいかなる概念であるかを考えることで、21 世紀の抱える課題を理解することができる。

春学期の「経済学ⅡA」で到達目標としたことをさらに高めることができる。

成績評価の方法と基準 受講態度 40 %+期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出した質問票で評価

ECN200LA	
経済学Ⅱ A	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：東アジア経済発展論	
陳 文学	
授業コード：Q2325	2017 年度以降入学者
授業コード：P2041	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 21 世紀はアジアの時代だと言われており、中国やアジア新興国の台頭によってアジア地域のみならず、世界の政治経済、社会文化、安全保障の構図も変わりつつある。本講義では経済発展の基礎理論に基づき、東アジア経済発展の歴史、過程、経験と教訓などについて学ぶ。また、中国経済発展の諸要因および諸問題について考察する。さらに、日中経済の相互依存および東アジア地域経済統合の動きについて展望する。

到達目標 現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

成績評価の方法と基準 授業に対する理解、平時課題レポートおよび期末レポートの完成状況（70 %）
授業態度、演習・リアクションペーパー完成状況および平常点（30 %）

ECN200LA	
経済学Ⅱ B	2017 年度以降入学者
ECN100LA	
経済学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：中国経済発展論	
陳 文学	
授業コード：Q2326	2017 年度以降入学者
授業コード：P2042	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 21 世紀はアジアの時代だと言われており、中国やアジア新興国の台頭によってアジア地域のみならず、世界の政治経済、社会文化、安全保障の構図も変わりつつある。本講義では経済発展の基礎理論に基づき、中国が計画経済から市場経済への移行の背景、過程、経済高度成長の諸要因について分析する。また、中国経済の急成長は日中関係、東アジア地域に与える影響などについても議論する。

到達目標 現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

成績評価の方法と基準 授業に対する理解、平時課題レポートおよび期末レポートの完成状況（70 %）
授業態度、演習・リアクションペーパー完成状況および平常点（30 %）

PSY200LA	
心理学Ⅱ A	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：行動や出来事の原因を探る	
海部 紀行	
授業コード：Q2341	2017 年度以降入学者
授業コード：P2077	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベース）を踏まえて、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。

「弱くて頑張れない?」、「見つかりたくないけれど、存在は認められない?」、時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか…、どうしたらよいのだろうか…、といったことを思い考えます。

到達目標 行動や出来事の原因の探り方、そのとき起きる錯誤などを考えることが目標です。

知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。
自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20 %）：コメントによる「対話」や「議論」

試験点（80 %）：自由記述の小論文

講義に参加して気づいたこと、感じ思い考えたことなどをもとに、各自で問題（テーマ）を設定し、論じてください。

電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト!）です。

テーマは適切か、記述に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。

平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い、姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

PSY200LA	
心理学Ⅱ B	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：他者と自己による対人関係	
海部 紀行	
授業コード：Q2342	2017 年度以降入学者
授業コード：P2078	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）を踏まえて、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。

「弱くて頑張れない?」、「見つかりたくないけれど、存在は認められない?」、時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか…、どうしたらよいのだろうか…、といったことを考えます。

到達目標 他者と自己とが織りなす対人関係、そこから生じる葛藤やストレスへの対処などを考えることが目標です。

知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。

自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）：コメントによる「対話」や「議論」

試験点（80％）：自由記述の小論文

講義に参加して気づいたこと、感じ思考えたことなどをもとに、各自で問題（テーマ）を設定し、論じてください。

電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト!）です。

テーマは適切か、記述に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。

平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い、姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

PSY200LA	
心理学Ⅱ A	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：行動や出来事の原因を探る	
海部 紀行	
授業コード：Q2343	2017 年度以降入学者
授業コード：P2079	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）を踏まえて、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。

「弱くて頑張れない?」、「見つかりたくないけれど、存在は認められない?」、時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか…、どうしたらよいのだろうか…、といったことを考えます。

到達目標 行動や出来事の原因の探り方、そのとき起きる錯誤などを考えることが目標です。

知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。

自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）：コメントによる「対話」や「議論」

試験点（80％）：自由記述の小論文

講義に参加して気づいたこと、感じ思考えたことなどをもとに、各自で問題（テーマ）を設定し、論じてください。

電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト!）です。

テーマは適切か、記述に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。

平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い、姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

PSY200LA	
心理学Ⅱ B	2017 年度以降入学者
PSY100LA	
心理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：他者と自己による対人関係	
海部 紀行	
授業コード：Q2344	2017 年度以降入学者
授業コード：P2080	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）を踏まえて、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。

「弱くて頑張れない?」、「見つかりたくないけれど、存在は認められない?」、時折そんなふうに感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか…、どうしたらよいのだろうか…、といったことを考えます。

到達目標 他者と自己とが織りなす対人関係、そこから生じる葛藤やストレスへの対処などを考えることが目標です。

知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。

自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

成績評価の方法と基準 平常点（20％）：コメントによる「対話」や「議論」

試験点（80％）：自由記述の小論文

講義に参加して気づいたこと、感じ思考えたことなどをもとに、各自で問題（テーマ）を設定し、論じてください。

電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可能（ただし、剽窃はアウト!）です。

テーマは適切か、記述に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。

平常点と試験点とは（悩み考えたことや講義の組み立てに関わった度合い、姿勢・態度の反映もみながら）総合的に採点します。

GEO200LA	
地理学Ⅱ A	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：世界の風景と地域	
米家 志乃布	
授業コード：Q2351	2017 年度以降入学者
授業コード：P2107	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業の概要：世界の風景を地図やデータから読む

授業の目的：世界の様々な都市を素材として、現代社会と地域の関係を人文地理学的に考えることを目的とします。

到達目標 本授業では、世界の都市図に注目し、古地図と現在の地図を比較することから、都市の立地環境や都市形成の歴史を考察します。各都市における各地域の文化や遺産の在り方、現代社会と都市の関係について、その国や自治体の政策や都市に生活する人々の視点からもみてい

きます。本授業を通して、様々な地域の歴史・文化・経済・社会を総合的に捉え、単なる知識の吸収ではなく、地図をもとに地理学的に考える力を養うことを目標とします。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価します。

GEO200LA	
地理学 L B	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：日本の風景と地域	
米家 志乃布	
授業コード：Q2352	2017 年度以降入学者
授業コード：P2108	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業の概要：日本の風景を地図やデータから読む
授業の目的：日本の様々な都市を素材として、現代社会と地域の関係を人文地理学的に考えることを目的とします。

到達目標 本授業では、日本各地の都市図に注目し、古地図と現在の地図を比較することから、都市の立地環境や都市形成の歴史を考察します。都市における各地域の文化や遺産の在り方、現代社会と都市の関係について、自治体の政策や都市に生活する人々の視点からもみていきます。本授業を通して、様々な地域の歴史・文化・経済・社会を総合的に捉え、単なる知識の吸収ではなく、地図をもとに地理学的に考える力を養うことを目標とします。また、日本らしい風景とは何か、を考えるために、日本の遺産全般について、今後の保存に関する課題についても考えます。

成績評価の方法と基準 授業内試験で評価します。

GEO200LA	
地理学 L C	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
片岡 義晴	
授業コード：Q2353	2017 年度以降入学者
授業コード：P2109	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。

到達目標 食料、人口、貧困問題などを手がかりにして、現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。それら問題が相互に関連し、問題を如何に複雑化させているのか、その構造を学んでいきます。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述形式の筆記試験）で成績評価（期末試験 100 %）します。

GEO200LA	
地理学 L D	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
片岡 義晴	
授業コード：Q2354	2017 年度以降入学者
授業コード：P2110	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 日本の地域問題・社会問題について学んでいきます。

到達目標 日本の地域性、地域格差、地域開発、公害問題を手がかりにして、日本の地域問題・社会問題を学んでいきます。

成績評価の方法と基準 期末試験（論述形式の筆記試験）で成績評価（期末試験 100 %）します。

GEO200LA	
地理学 L C	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
高木 正	
授業コード：Q2355	2017 年度以降入学者
授業コード：P2101	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 地理学そのものを学ぶというよりも、地理学を通じて現代世界の理解を深めるといったスタイルで勉強していきます。高校時代に地理科目を履修した経験がなくても構いません。ここでは世界情勢を大きく把握することを目的とします。

到達目標 現在、学生の皆さんが持っている歴史観・地域観・世界観をより確かなものにしていきます。

成績評価の方法と基準 試験で評価します。試験の方法は最初の授業で説明します。

GEO200LA	
地理学 L D	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
高木 正	
授業コード：Q2356	2017 年度以降入学者
授業コード：P2102	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 地理学 LD では、できるだけ多くの地域を取り上げて、その社会経済的な実態を地理的な視点からみていきます。

到達目標 アフリカと西アジアの現状を理解することで世界の多様性を認識します。

成績評価の方法と基準 試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

GEO200LA	
地理学Ⅰ A	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
長沢 利明	
授業コード：Q2357	2017 年度以降入学者
授業コード：P2103	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） さまざまなテーマを毎回ひとつずつ取り上げ、解説していく。全体を通して地理学的な物の見方や考え方を学ぶ。

到達目標 授業を通し、地理学的な物の見方と考え方をつかんでいくことがのぞましい。

成績評価の方法と基準 試験の成績によって評価をおこなう。

GEO200LA	
地理学Ⅰ B	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
長沢 利明	
授業コード：Q2358	2017 年度以降入学者
授業コード：P2104	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業では毎回ひとつずつ異なったテーマを取り上げて解説する。

到達目標 全体を通して地理学的な物の見方と考え方を学んでいく。

成績評価の方法と基準 試験およびレポートによって成績評価をおこなう。

GEO200LA	
地理学Ⅰ C	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：グローバリゼーション社会の地理学	
前川 明彦	
授業コード：Q2359	2017 年度以降入学者
授業コード：P2105	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 授業ではグローバリゼーション、人、地域社会等をキーワードに、世界や日本の少子高齢化や格差、雇用などの地域課題を地理学として、一緒に考えます。そして、学生自身が課題や問題意識を考え、多様なものの考え方ができることを目的としています。

到達目標 グローバリゼーションの中で、人や地域社会が格差・分断、また不寛容な社会になりつつあります。学生が、論理的に課題をみつけ、多様性を意識しながら自ら考え、解決の方向性に応用することを目標にしています。このため、身近な課題などから地理学的に考察することを目指していきたい。そして、1つの答えだけでなく柔軟に多様性を意識して考えることを最初の到達目標の1つにしたい。

成績評価の方法と基準 原則的には、期末試験（持ち込み可：60％）レポート（30％）授業中のコメントシートあるいはアクションペーパー（10％）最初の授業時等に詳細は説明します。

GEO200LA	
地理学Ⅰ D	2017 年度以降入学者
GEO100LA	
地理学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：地域社会の課題をどのように解決すべきか	
前川 明彦	
授業コード：Q2360	2017 年度以降入学者
授業コード：P2106	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、地域社会の課題を、人やコミュニティ中心の街づくりという視点をとおして、外国人やインバウンド観光等、さらには人との共生などに関連がある解決策モデル等を紹介しながら、解決方法の糸口や方法論を地理学ロジックで学びます。そこから学生自身が多様性のある社会という方向性で解決方法を模索、検討できることを目的としています。

到達目標 秋学期には春学期の問題意識や地域的課題を解決方向へと踏み出したい。このため、街づくり、地域再生を主なテーマとし、学生が、地域社会に関連するコミュニティデザインやソーシャルビジネスなどから多様性のある様々な問題解決の方向性を示せることを到達目標としたい。そして、自らの考えをもち行動し、将来的には世界の地域社会を解決する一員になってほしい。

成績評価の方法と基準 期末試験もしくは授業内試験（持ち込み可：60％）、レポート（30％）授業中のコメントシート・平常点など（10％）で評価する。詳細に関しては最初の授業時等で話します。

POL200LA	
政治学Ⅰ A	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：「黄金の時代」の政治とボブ・ディラン	
木村 正俊	
授業コード：Q2371	2017 年度以降入学者
授業コード：P2137	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：「黄金の時代」における政治とボブ・ディラン

ボブ・ディランというプリズムを通して「黄金の時代」のUSにける政治と、時代がボブ・ディランに与えた影響について考察を行い、政治に関する見方を養うことを目指します。

到達目標 20世紀後半のUSの社会と政治について知識を得ること。時代・社会・政治の変遷とボブ・ディランの変容について理解すること。USのフォークの政治との関係、およびビート・ジェネレーションの次世代に対する影響について理解すること。ジョン・レノンの音楽と政治との関係について理解すること。ボブ・ディランを中心にしながら20世紀のポピュラー・ミュージックに関する基礎知識を得ること。以上を踏まえて、政治について考察を深めること。

成績評価の方法と基準 授業前に調べたペーパー 40％授業で学んだ知識と自分の意見を論理的に展開する能力を確認するための試験 60％

POL200LA	
政治学Ⅰ B	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
木村 正俊	
授業コード：Q2372	2017 年度以降入学者
授業コード：P2138	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テーマ：「黄金の時代」の終焉後の時代の政治と音楽

US における福音派の影響力の拡大とボブ・ディランの改宗の意味と、マンチェスターを基盤とするロック・ミュージシャンの活動を通して、「黄金の時代」の終焉時代の政治について考える。
イスラエルの国際的孤立について考える。

到達目標 現在、US の政治に大きな影響力を持つ福音派についての理解すること。

ボブ・ディランにとっての信仰を考察することによって、ユダヤ教とキリスト教についての基本的な知識と、宗教と政治の関係について理解すること。

新自由主義についての知識を得ること。

第二次世界大戦後から EU 離脱国民投票にいたる時期の UK 政治に関する知識を得ること。

以上を踏まえて、政治について考察を深めること。

成績評価の方法と基準 授業前に調べたペーパー 40 %

授業で学んだ知識と自分の意見を論理的に展開する能力を確認するための試験 60 %

SOC200LA	
社会学Ⅰ A	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：「平成」の社会を考える	
片上 平二郎	
授業コード：Q2361	2017 年度以降入学者
授業コード：P2159	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、日本の各時代の社会意識と対応したかたちでその時代におけるポピュラー文化の意味を読み解いていくことを考えています。現在の文化から時代を遡りつつ、さまざまなジャンルを横断しながら、ポピュラー文化を概観していきます。過去の文化を扱いながら、現在の文化とつながる部分、つながらない部分を意識しながら、社会と文化の関係を考察していきたいと思います。前期科目であるこの授業では「平成」という時代意識に注目して授業を行っていきます。

到達目標 時代意識の反映物としてさまざまな現代文化を解説することで、社会を理解するための1つの方法を学んでいきます。

また、文化研究の方法論的議論や時代比較などを通じて、自明なものを受け取られやすい「文化」を学問的に扱う方法を習得できます。

成績評価の方法と基準 レポート 60 %

リアクションペーパーなどの平常点 40 %

SOC200LA	
社会学Ⅰ B	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
片上 平二郎	
授業コード：Q2362	2017 年度以降入学者
授業コード：P2160	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、日本の各時代の社会意識と対応したかたちでその時代におけるポピュラー文化の意味を読み解いていくことを考えています。現在の文化から時代を遡りつつ、さまざまなジャンルを横断しながら、ポピュラー文化を概観していきます。過去の文化を扱いながら、現在の文化とつながる部分、つながらない部分を意識しながら、社会と文化の関係を考察していきたいと思います。後期科目であるこの授業では、「戦後」と呼ばれた時代について考えてみたいと思います。

到達目標 時代意識の反映物としてさまざまな現代文化を解説することで、社会を理解するための1つの方法を学んでいきます。

また、文化研究の方法論的議論や時代比較などを通じて、自明なものを受け取られやすい「文化」を学問的に扱う方法を習得できます。

成績評価の方法と基準 レポート 60 %

リアクションペーパーなどの平常点 40 %

SOC200LA	
社会学Ⅰ C	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：宗教（宗教的なもの）と社会の関係	
徐 玄九	
授業コード：Q2363	2017 年度以降入学者
授業コード：P2157	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会」を意味する「Society」には、個々人の自由と連帯の意味が含まれている。すなわち「社会」とは、個人を尊重する自律性と規範、意味、契約などに基づく連帯性の意味が共存している。この「社会」を研究対象とする社会学の主な主題は、(1)「社会秩序を可能にする基本原理の探求」(2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」である。(1)は「社会」の両軸をなす「自律性」と「連帯性」がいかにバランスを取るかの問題であり、(2)は近代（現代）社会とはいかなる時代で、どのような問題を抱えており、その解決方向はいかに見出すかという問題である。

この授業では、社会学の主な主題のうち(2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」のなかでも、とくに「宗教（宗教的なもの）と社会の関係」に焦点を当てる。今の世界を理解するために必要不可欠なのが宗教（宗教的なもの）にまつわる多角的な知見である。近代社会の登場に宗教が果たした役割を学びつつ、いまなお私たちの日常生活に影響力を及ぼし続けている宗教性を再認識することで宗教を理解する力を養うことがこの授業の目的である。

到達目標 (1)冠婚葬祭や年中行事の意味を再確認することができる。(2)労働観の変遷と宗教との関係が理解できる。(3)「近代」と呼ばれる歴史的な変化の一面に宗教が果たした役割を理解できる。

成績評価の方法と基準 平常点(40%)と論述型の期末試験(60%)で評価します。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価します。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、基本的には論述式ですが「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

SOC200LA	
社会学Ⅰ D	2017 年度以降入学者
SOC100LA	
社会学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：近代社会に内在する合理化の両義性	
徐 玄九	
授業コード：Q2364	2017 年度以降入学者
授業コード：P2158	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「社会」を意味する「Society」には、個々人の自由と連帯の意味が含まれている。すなわち「社会」とは、個人を尊重する自律性と規範、意味、契約などに基づく連帯性の意味が共存している。この「社会」を研究対象とする社会学の主な主題は、(1)「社会秩序を可能にする基本原理の探求」(2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」である。(1)は「社会」の両軸をなす「自律性」と「連帯性」がいかにバランスを取るかの問題であり、(2)は近代（現代）社会とはいかなる時代で、どのような問題を抱えており、その解決方向はいかに見出すかという問題である。

この授業では、社会学の主な主題のうち (2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」のなかでも、とくに「近代社会に内在する合理化の両義性」に焦点を当てる。具体的には、「合理化」の側面から近代社会の特徴を現代まで射程に入れて「近代社会の光と影」について学ぶ。主に取り上げるテーマは「世俗化論」、「合理化論」、「リスク社会論」である。これを通して、歴史の変化のなかで、何が省略され、何が稀少化され、何が凝縮されているのかについても考えとともに社会に対する問題意識の「再発見」のきっかけを作る。

到達目標 (1)「近代」とよばれる歴史的な変化の一面を思想と制度の両面で把握する。
(2)「世俗化論」・「合理化論」の相互関連を把握する。
(3)「リスク社会」としての一面をもつ現代社会の特徴を理解する。
(4) 最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝教養を身に付ける）。

成績評価の方法と基準 平常点（40％）と論述型の期末試験（60％）で評価します。平常点は、講義の内容を理解し、かつ積極的な受講姿勢をみせているかをもって評価します。具体的には、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、基本的には論述式ですが「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：政治人類学	
ベル 裕紀	
授業コード：Q2382	2017 年度以降入学者
授業コード：P2172	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、政治人類学的な研究を体系的に学習し、国家、グローバル化、移民、マイノリティ、アイデンティティ、多文化主義といった、現代の問題に関する理解を深める。

到達目標 学生は、国家と統治に関する理解を深めるとともに、政治人類学が培ってきた、社会の動態的な把握という視点を身に付け、安易な本質主義に陥らない社会の認識を身に付ける。それを通じて、政治的な過程としての「本質化」に敏感になり、またなぜそれが行われているのかを深く考察する視点を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、最終授業での記述式試験 70 % で評価する。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
長沢 利明	
授業コード：Q2384	2017 年度以降入学者
授業コード：P2174	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 人間と文化との関係の構造的な理解

到達目標 文化人類学のもっとも基本的な研究課題としての「人間と文化との関係」を、さまざまな具体的テーマを提示しながら、考えていく。特に、文化の変容面・動態的側面に注目しつつ、生態環境・生活空間・儀礼構造・民間信仰・民族問題などの諸側面から、この問題を検討して試みることにする。この作業を通じて、文化人類学的なものの考え方や研究方法、分析視角などを学んでいくことにし、極力わかりやすい形で、それを講義して試みたい。

成績評価の方法と基準 学期末試験およびレポート提出によって、成績評価をおこなう。特にレポートの内容の評価に重点を置くので、すぐれたレポートを作成することがのぞましい。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：文化人類学を通して考える現在の地球	
岩原 紘伊	
授業コード：Q2386	2017 年度以降入学者
授業コード：P2176	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代の世界が直面する課題を、異文化理解の学問である文化人類学の視座を通して理解する。

到達目標 ①文化人類学的な視座がいかに現代の世界を知るうえで役立つかを理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、わたしたちと異文化に生きる他者の間にある文化の違いに由来する衝突について総体的に理解する視座を身に付ける。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30 %）と試験の点数（70 %）により総合的に判断する。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
梅村 絢美	
授業コード：Q2388	2017 年度以降入学者
授業コード：P2178	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、「南アジアと身体」をテーマに、主にインドとスリランカにおける身体観やヘルスケア実践、伝統医療について紹介しながら、南アジア特有の身体の在り方について総合的に学習します。「遠い国に住む自分と関係ない人たちの出来事」として聞き流すのではなく、主体的に思考しながら受講してください。

到達目標 南アジア特有の身体観やヘルスケア実践、伝統医療のありよ

うについて理解し、自身の実体験と関連付けながら主体的に思考すること
を到達目標とする。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーの内容（４０％）と授業
内試験（６０％）に基づき総合的に評価します。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：政治人類学	
ベル 裕紀	
授業コード：Q2390	2017 年度以降入学者
授業コード：P2180	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生は、政治人類学的な研究を体系的
に学習し、国家、グローバル化、移民、マイノリティ、アイデンティティ、
多文化主義といった、現代の問題に関する理解を深める。

到達目標 学生は、国家と統治に関する理解を深めるとともに、政治人
類学が培ってきた、社会の動態的な把握という視点を身に付け、安易な
本質主義に陥らない社会の認識を身に付ける。それを通じて、政治的な
過程としての「本質化」に敏感になり、またなぜそれが行われているの
かを深く考察する視点を養うことを目標とする。

成績評価の方法と基準 出席および毎回のリアクションペーパー 30%、
最終授業での記述式試験 70 %で評価する。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
梅村 絢美	
授業コード：Q2392	2017 年度以降入学者
授業コード：P2182	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、「南アジアと身体」をテーマ
に、主にインドとスリランカにおける身体観やヘルスケア実践、伝統医
療について紹介しながら、南アジア特有の身体の内在性について総合的
に学習します。「遠い国に住む自分と関係ない人たちの出来事」として聞
き流すのではなく、主体的に思考しながら受講してください。

到達目標 南アジア特有の身体観やヘルスケア実践、伝統医療のありよ
うについて理解し、自身の実体験と関連付けながら主体的に思考するこ
とを到達目標とする。

成績評価の方法と基準 リアクションペーパーの内容（４０％）と授業
内試験（６０％）に基づき総合的に評価します。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：今日の文化人類学	
阿部 朋恒	
授業コード：Q2394	2017 年度以降入学者
授業コード：P2184	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学は他者理解のための方法で
あると同時に、自らが拠って立つ場所を見つめ直し、その未来を見通す
ために役立つ道具でもある。この授業では、開発や環境運動、科学技術
の発達、食生活の多様化といった今日の世界に共通してみられるさまざ
まな現象に焦点を当てながら、そうした変化がたどる過程が多様である
ことを学ぶ。さらに、そうした学びを通じて、環境破壊や災害、政治経
済の基盤の変動などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を
広げることを目指す。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せて
フィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深
く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディ
アを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで
理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーに
よる平常点（40 %）、期末試験（60 %）により評価する。期末試験への
レジュメ、辞書、参考資料等の持ち込みは不可とする。ただし、期末試
験では各回の授業内であらかじめ通知した問題（すべて論述形式）を出
題するため、事前準備をしっかりと行うこと。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：文化人類学を通して考える現在の地球	
岩原 紘伊	
授業コード：Q2396	2017 年度以降入学者
授業コード：P2186	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現代の世界が直面する課題を、異文化
理解の学問である文化人類学の視座を通して理解する。

到達目標 ①文化人類学的な視座がいかに現代の世界を知るうえで役立
つかを理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、わたしたちと異文化に生きる他者の間にある
文化の違いに由来する衝突について総体的に理解する視線を身に付ける。

成績評価の方法と基準 コメントシートの内容（30 %）と試験の点数
（70 %）により総合的に判断する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
中島 成久	
授業コード：Q2398	2017 年度以降入学者
授業コード：P2188	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「人種・民族問題入門、米欧編」というテーマで授業を行う。文化人類学を学ぶ上で、「人種・民族問題」をどのように考えるかは重要なイシューである。秋学期は主にアジア、アフリカにおける人種・民族問題を考える。

到達目標 グローバル化の現在、文化人類学を学ぶ上で、人種・民族へのスタンスの取り方は最も基本的な課題である。日本においては日常あまり意識することのないこの問題を世界の事例を通して学び、視野を広げることを目指す。

成績評価の方法と基準 平常点（30％）＋試験（70％）

CUA200LA	
文化人類学Ⅰ	2017 年度以降入学者
CUA100LA	
文化人類学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：今日の文化人類学	
阿部 朋恒	
授業コード：Q2400	2017 年度以降入学者
授業コード：P2190	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文化人類学は他者理解のための方法であると同時に、自らが拠って立つ場所を見つめ直し、その未来を見通すために役立つ道具でもある。この授業では、開発や環境運動、科学技術の発達、食生活の多様化といった今日の世界に共通してみられるさまざまな現象に焦点を当てながら、そうした変化がたどる過程が多様であることを学ぶ。さらに、そうした学びを通じて、環境破壊や災害、政治経済的基盤の変動などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を広げることを目指す。

到達目標 テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

成績評価の方法と基準 授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40％）、期末試験（60％）により評価する。期末試験へのレジュメ、辞書、参考資料等の持ち込みは不可とする。ただし、期末試験では各回の授業内であらかじめ通知した問題（すべて論述形式）を出題するため、事前準備をしっかりと行うこと。

SOS200LA	
社会思想ⅠA	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
洪 貴義	
授業コード：Q2401	2017 年度以降入学者
授業コード：P2213	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近代日本の東アジア認識について学びます。近代の日本は朝鮮半島、中国、台湾などの東アジア世界と無関係ではありえず、この領域をそれぞれ各国各国の個別史と考えることはできません。そこで

この授業では、幕末、明治期から昭和期までの、国際環境、日本を含む東アジアの政治史を背景に押さえながら、日本の思想家の東アジア認識と、それに対する朝鮮、中国からの応答を各時代の思想家の言説とその考えかたに即して学ぶことを目的とします。

到達目標 日本、東アジアの近代史の基礎を身につけること。また勝海舟、西郷隆盛、福沢諭吉、吉野作造、三木清、尾崎秀実、竹内好、谷川雁、梶村秀樹、森崎和江らの東アジアに関する考え方を理解することを授業の到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとの平常点（40％）と学期末のレポート（60％）の両方を成績評価の基準とします。

SOS200LA	
社会思想ⅠB	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
洪 貴義	
授業コード：Q2402	2017 年度以降入学者
授業コード：P2214	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 在日朝鮮人詩人、金時鐘（キム シジョン）の詩と思想を学びます。1929年に植民地下の朝鮮で生まれ、現在日本に生きる金時鐘の生涯は日本と朝鮮半島の近代史を背景にして両国の「あいだ」そのもののの中にあります。この授業ではこのような彼の生涯を追いながら、日朝関係史と同時に、その詩と思想を学びます。

到達目標 近現代の日本と朝鮮半島の歴史を理解すること。金時鐘の生涯を学びつつ、彼の詩と思想を理解すること。

成績評価の方法と基準 授業中に提出するコメントメール（40％）と、期末レポート（60％）によって評価します。

SOS200LA	
社会思想ⅠA	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
洪 貴義	
授業コード：Q2403	2017 年度以降入学者
授業コード：P2215	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではヨーロッパの近代社会思想史を学びます。

16世紀から19世紀初頭の思想家たち、例えばホッブズ、ルソー、カント、ヘーゲル、マルクスたちが生きた西洋の歴史を背景として、その上で各思想家の思考方法、政治社会の構成、個人と社会の関係や経済社会の構造などについての考えかたを学ぶことを目的とします。

到達目標 近代の骨格を作る思想家たちのものの見方、考え方を身につけること。

そのうえで、歴史的思考について学び、思想家たちの目を通して、現在わたしたちが生きている現代社会の政治、経済、社会のあり方を根本から、原理として考える目を養うことを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとの平常点（40％）と学期末のレポート（60％）の両方を成績評価の基準とします。

SOS200LA	
社会思想Ⅰ B	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
洪 貴義	
授業コード：Q2404	2017 年度以降入学者
授業コード：P2216	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではヨーロッパにおける世紀転換期の思想史を学びます。

西洋の19世紀末から20世紀初頭という転換期の歴史を踏まえて、ニーチェ、ウエーバー、フロイト、ベンヤミン、アーレントらが根源から考察した人間、社会、歴史、芸術、政治についての思想史を学ぶことがこの授業の目的です。

到達目標 各思想家たちのものの見方、考え方を身につけること。

そのうえで、世紀転換期の歴史を理解し、もう一つの転換期である現代社会を彼らの目を通して自ら考えることができるようになることを到達目標とします。

成績評価の方法と基準 各授業ごとの平常点（40％）と学期末のレポート（60％）の両方を成績評価の基準とします。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
平田 康史	
授業コード：Q3003	2017 年度以降入学者
授業コード：P3401	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 H～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
平田 康史	
授業コード：Q3004	2017 年度以降入学者
授業コード：P3404	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 H～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答え

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
平田 康史	
授業コード：Q3001	2017 年度以降入学者
授業コード：P3401	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～G 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
平田 康史	
授業コード：Q3002	2017 年度以降入学者
授業コード：P3402	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～G 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

を求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人問らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
小木曾 岳義	
授業コード：Q3005	2017 年度以降入学者
授業コード：P3405	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組、国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
小木曾 岳義	
授業コード：Q3006	2017 年度以降入学者
授業コード：P3406	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組、国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人問らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
小木曾 岳義	
授業コード：Q3007	2017 年度以降入学者
授業コード：P3407	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A・B・L～N・W・X 組、国 1 年、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
小木曾 岳義	
授業コード：Q3008	2017 年度以降入学者
授業コード：P3408	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A・B・L～N・W・X 組、国 1 年、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人問らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
倉田 俊彦	
授業コード：Q3013	2017 年度以降入学者
授業コード：P3413	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入り H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 練習問題（40%）、試験（60%）

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
倉田 俊彦	
授業コード：Q3014	2017 年度以降入学者
授業コード：P3414	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答え

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
池田 宏一郎	
授業コード：Q3011	2017 年度以降入学者
授業コード：P3411	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 ①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入り H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
池田 宏一郎	
授業コード：Q3012	2017 年度以降入学者
授業コード：P3412	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

を求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準		練習問題（40%）、試験（60%）
MAT100LA	教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	教養数学 A	2016 年度以前入学者
佐藤 洋祐		
授業コード：Q3015	2017 年度以降入学者	
授業コード：P3415	2016 年度以前入学者	
開講時期：春学期		
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生		

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。

成績評価の方法と基準 小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

MAT100LA	教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	教養数学 B	2016 年度以前入学者
佐藤 洋祐		
授業コード：Q3016	2017 年度以降入学者	
授業コード：P3416	2016 年度以前入学者	
開講時期：秋学期		
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生		

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

MAT100LA	教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	教養数学 A	2016 年度以前入学者
佐藤 洋祐		
授業コード：Q3017	2017 年度以降入学者	
授業コード：P3417	2016 年度以前入学者	
開講時期：春学期		
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生		

授業の概要と目的（何を学ぶか） 数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標 1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。

成績評価の方法と基準 小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

MAT100LA	教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	教養数学 B	2016 年度以前入学者
佐藤 洋祐		
授業コード：Q3018	2017 年度以降入学者	
授業コード：P3418	2016 年度以前入学者	
開講時期：秋学期		
履修対象：国環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生		

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標 ①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
江口 直日	
授業コード：Q3019	2017 年度以降入学者
授業コード：P3419	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準

期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
江口 直日	
授業コード：Q3020	2017 年度以降入学者
授業コード：P3420	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：環キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

MAT100LA	
教養数学 A	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
江口 直日	
授業コード：Q3021	2017 年度以降入学者
授業コード：P3421	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 E～I・P～V 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

到達目標

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

成績評価の方法と基準

期末試験

MAT100LA	
教養数学 B	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 B	2016 年度以前入学者
江口 直日	
授業コード：Q3022	2017 年度以降入学者
授業コード：P3422	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 E～I・P～V 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

到達目標

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答え

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

を求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験	
MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2016 年度以前入学者
若井 健太郎	
授業コード：Q3031	2017 年度以降入学者
授業コード：P3451	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A～C 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
若井 健太郎	
授業コード：Q3032	2017 年度以降入学者
授業コード：P3452	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A～C 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2016 年度以前入学者
松田 直祐	
授業コード：Q3033	2017 年度以降入学者
授業コード：P3453	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 D～F 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
松田 直祐	
授業コード：Q3034	2017 年度以降入学者
授業コード：P3454	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 D～F 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2016 年度以前入学者
池田 宏一郎	
授業コード：Q3035	2017 年度以降入学者
授業コード：P3455	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 G～J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本的性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
池田 宏一郎	
授業コード：Q3036	2017 年度以降入学者
授業コード：P3456	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 G～J 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2016 年度以前入学者
若井 健太郎	
授業コード：Q3037	2017 年度以降入学者
授業コード：P3457	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～M 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本的性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
若井 健太郎	
授業コード：Q3038	2017 年度以降入学者
授業コード：P3458	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～M 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2016 年度以前入学者
松田 直祐	
授業コード：Q3039	2017 年度以降入学者
授業コード：P3459	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 N～Q 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本的性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
松田 直祐	
授業コード：Q3040	2017 年度以降入学者
授業コード：P3460	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 N～Q 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅰ	2016 年度以前入学者
倉田 俊彦	
授業コード：Q3041	2017 年度以降入学者
授業コード：P3461	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 R～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

到達目標 数列の基本的性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。また、微分を扱う秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
倉田 俊彦	
授業コード：Q3042	2017 年度以降入学者
授業コード：P3462	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 R～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

到達目標 基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。また、より進んだ微積分を扱う「発展数学Ⅰ・Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（およそ 2/3）と課題提出（およそ 1/3）

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅠ	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3051	2017 年度以降入学者
授業コード：P3021	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～G 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

到達目標 ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅡ	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3052	2017 年度以降入学者
授業コード：P3022	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～G 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20 世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。本講義を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

到達目標 ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
・宇宙の始まりからこれまでの進化を理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅠ	2016 年度以前入学者
吉瀬 好	
授業コード：Q3053	2017 年度以降入学者
授業コード：P3023	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 H～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身近な現象、惑星の運動、21 世紀中の実現を期待される新技術などを通して、それらの現象に関連する力学の法則を学習する。

到達目標 ガリレイ、ケプラー、ニュートンをはじめとする物理学者によって確立された運動の法則と力の性質を学習する。現代物理学への大きな流れをつかみ、物理用語などに親しみ、物理の法則が身近な生活とどのように関わっているかを知ることが第一の目的とする。

成績評価の方法と基準 春学期の最終授業時の試験と授業に臨む姿勢で評価する。ただし、試験問題中の1題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とする。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
吉瀬 好	
授業コード：Q3054	2017 年度以降入学者
授業コード：P3024	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 H～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 熱と光は身近な現象でありながら意外に知らないことも多い。本講義では熱と光に関する現象と性質を知って、熱と光に関連した技術についても学習することを目的とする。

到達目標 熱と光が身近な生活とどのように関わっているかを知ることが第一の目標とする。また、熱や光の技術に関連した新しい現象にも興味を持つことも期待する。

成績評価の方法と基準 秋学期の最終授業時の試験で評価する。ただし、試験問題中の1題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とする。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3055	2017 年度以降入学者
授業コード：P3025	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

到達目標 ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3056	2017 年度以降入学者
授業コード：P3026	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本講義を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

到達目標 ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
・宇宙の始まりからこれまでの進化を理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
鈴木 裕武	
授業コード：Q3057	2017 年度以降入学者
授業コード：P3027	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 物理学の根幹をなすニュートン力学とアインシュタインの特殊相対性理論の基礎を学ぶ。ニュートン力学では、身近な物体の運動を理解するための方法を知り、特殊相対性理論では、日常的な常識では理解できない宇宙の真理に迫る。物理学の基礎を学ぶと同時に物理的・科学的なものの見方も学ぶ。

到達目標 ニュートン力学によって身近な物体や人工衛星の運動が説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動を予想（計算）出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた宇宙の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

成績評価の方法と基準 平常評価（小テストなど、配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート、期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく、合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
鈴木 裕武	
授業コード：Q3058	2017 年度以降入学者
授業コード：P3028	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。ミクロの世界の代表である原子や馴染みのある光にかかわる現象と生活の役に立っている電気や磁気の話から、オーロラ、太陽の一生、ブラックホールなどの宇宙で起きている物理現象を解説する。宇宙空間で起きている物理現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

到達目標 放射線の基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている電磁氣的現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

成績評価の方法と基準 平常評価（小テストなど、配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート、期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく、合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3059	2017 年度以降入学者
授業コード：P3029	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P～X 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ・本講義では、多岐にわたっている現代物理学の研究対象の中から、我々の身の回りで起きている力とか運動に関係している現象を支配している法則（ニュートンの法則）とその応用について、歴史的側面を概観しながら基礎を解説する。
・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

到達目標 ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々の身の回りで起きている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

成績評価の方法と基準 平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3060	2017 年度以降入学者
授業コード：P3030	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P～X 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ・本講義では、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（気象、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

到達目標 ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3061	2017 年度以降入学者
授業コード：P3031	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ・本講義では、多岐にわたっている現代物理学の研究対象の中から、我々の身の回りで起きている力とか運動に関係している現象を支配している法則（ニュートンの法則）とその応用について、歴史的側面を概観しながら基礎を解説する。
・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

到達目標 ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々の身の回りで起きている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

成績評価の方法と基準 平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。
本講義を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

- 到達目標** ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
・宇宙の始まりからこれまでの進化を理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3062	2017 年度以降入学者
授業コード：P3032	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ・本講義では、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（気象、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

到達目標 ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3063	2017 年度以降入学者
授業コード：P3033	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～O 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。
身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

到達目標 ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる

成績評価の方法と基準 期末試験の成績 80 %と平常点 20 %で評価する。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
井坂 政裕	
授業コード：Q3064	2017 年度以降入学者
授業コード：P3034	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～O 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本講義では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
鈴木 裕武	
授業コード：Q3065	2017 年度以降入学者
授業コード：P3035	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 Q～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 物理学の根幹をなすニュートン力学とアインシュタインの特殊相対性理論の基礎を学ぶ。ニュートン力学では、身近な物体の運動を理解するための方法を知り、特殊相対性理論では、日常的な常識では理解できない宇宙の真理に迫る。物理学の基礎を学ぶと同時に物理的・科学的なものの見方も学ぶ。

到達目標 ニュートン力学によって身近な物体や人工衛星の運動が説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動を予想（計算）出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた宇宙の性質を理解する。物理学を学ぶことを通じて、理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

成績評価の方法と基準 平常評価（小テストなど、配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート、期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく、合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
鈴木 裕武	
授業コード：Q3066	2017 年度以降入学者
授業コード：P3036	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 Q～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。ミクロの世界の代表である原子や馴染みのある光にかかわる現象と生活の役に立っている電気や磁気の話から、オーロラ、太陽の一生、ブラックホールなどの宇宙で起きている物理現象を解説する。宇宙空間で起きている物理現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

到達目標 放射線の基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている電磁氣的現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 平常評価（小テストなど、配分 40%）と期末試験（配分 60%）で評価する。小テストは配布プリントとノート，期末試験は自筆ノートのみ参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点ではなく，合計得点が 60 点以上の者を合格とする。単位認定のためには授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席が必要である。

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
吉瀬 好	
授業コード：Q3067	2017 年度以降入学者
授業コード：P3037	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身近な現象、惑星の運動、21 世紀中の実現を期待される新技術などを通して、それらの現象に関連する力学の法則を学習する。

到達目標 ガリレイ、ケプラー、ニュートンをはじめとする物理学者によって確立された運動の法則と力の性質を学習する。現代物理学への大きな流れをつかみ、物理用語などに親しみ、物理の法則が身近な生活とどのように関わっているかを知ることを第一の目的とする。

成績評価の方法と基準 春学期の最終授業時の試験と授業に臨む姿勢で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とする。

PHY100LA	
入門物理学 B	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで II	2016 年度以前入学者
吉瀬 好	
授業コード：Q3068	2017 年度以降入学者
授業コード：P3038	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 熱と光は身近な現象でありながら意外に知らないことも多い。本講義では熱と光に関する現象と性質を知って、熱と光に関連した技術についても学習することを目的とする。

到達目標 熱と光が身近な生活とどのように関わっているかを知ることを第一の目標とする。また、熱や光の技術に関連した新しい現象にも興味を持つことも期待する。

成績評価の方法と基準 秋学期の最終授業時の試験で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出題する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とする。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3081	2017 年度以降入学者
授業コード：P3051	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力 は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

- 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
- 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
- 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3082	2017 年度以降入学者
授業コード：P3052	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけ

てもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3083	2017 年度以降入学者
授業コード：P3053	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

到達目標 本授業の到達目標は2つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3084	2017 年度以降入学者
授業コード：P3054	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
水澤 博	
授業コード：Q3085	2017 年度以降入学者
授業コード：P3055	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A～X 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我が国では、文系の学生が理科を学習する機会は少ない。しかし、21 世紀に入って以降、次々と新しい生命の秘密が解き明かされ、私たちの生活や仕事に利用されるようになってきた。その結果、生命科学関連の産業が活況を呈し、生命科学の知識を必要とする機会は、日常生活から仕事の間まで、どんどん増えてきた。また、マスコミが報じるニュースでも、再生医療、遺伝子組換え食品、DNA 鑑別、iPS 細胞、iSC 細胞、抗生物質が効かない感染症、AIDS、デング熱、エボラ出血熱、中東呼吸器症候群（MERS）など、生命科学に関連する新しい用語が次々現れて報じられているのは知っているとおり。このような時代となり、生命科学の知識について正しい理解や考え方を身につけておかないと、思いがけず大きな誤りを犯し、自分を不利にしてしまうという危険を抱え込むことになるだろうと思う。自分の身を守るためにも、分子レベルの生命像を正しく理解しておくことは重要だろ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

うと、最近強く感じている。それよりも何よりも、新しく解き明かされた 21 世紀の生命像を学習することにより「私たちの体の中はそんなことになっていったのか」と驚き、感動するのではないだろうか。生命は物質であるということが示唆されて久しい。そして今、その物質がタンパク質、DNA、RNA、脂質、糖、などであることが明らかになった。そして、さらに、これらの部品が組み合わせあって『細胞』という生命の最小単位が構築されていることも相当程度明らかになった。そして、驚くことは、私たちの体を作っている 60 兆個の細胞は、互いに協調しあって、一人の人間を作り上げ、それが日々の生活を送っているということなのである。原子から出発して、これらが生命を作りあげている様子を知り、理解することを目指して学習したい。

到達目標 生命の根源は細胞で、その細胞が 60 兆個集まってヒトの体を作っている。ヒトは 1 個の受精卵からスタートし、細胞分裂を繰り返して 6 0 兆個にまで増える。受精卵に存在する父と母に由来する 1 対のゲノム DNA (2n) は、複製と分離を繰り返して 6 0 兆個すべての細胞に均等に入ってゆく。つまり、6 0 兆個全ての細胞に A T G C 文字で書かれた同じゲノム DNA が存在するのである。遺伝子文字で書かれた文章は細胞間でちょっと違っているということは無いのだろうか？ 1 個の細胞から 6 0 兆個の細胞に数を増やしてゆく時に、文字の並びを間違えてしまうことは無いのだろうか？ そして、DNA が複製する時に間違えることがあるとすれば、どういう原因で間違えるのだろうか、また間違えが起こると細胞に不都合はないのだろうか。また、DNA は細胞中でタンパク質を作っているのだが、細胞はみな同じタンパク質を作っているのだろうか？ それとも、細胞ごとに違うタンパク質を作っているのだろうか、違うタンパク質を作るなら、それはどうやって違うタンパク質を作っているのだろうか。遺伝子の働きを理解することを通じて、こうした諸々の問題を説明できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO100LA	
入門生物学 B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
町田 郁子	
授業コード：Q3086	2017 年度以降入学者
授業コード：P3056	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A～X 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学 B」では、マクロレベルの生物学を学ぶことを目的とし、生物学を初めて学ぶことを想定して授業を展開します。地球上には、多種多様な生物が存在しており、生命活動を営んでいます。どのようにして多くの生物種が誕生するに至ったのか、また生物が共通して持つ機能や性質・種特有の特徴などについて学ぶことにより、生物が環境に適応し他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

到達目標 生物の多様性についての知識を会得し、近年大きな課題となっている生物多様性保全の重要性に関して理解を深めることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

成績評価の方法と基準 毎回の授業時に提出するショートレポート（5 0 %）および期末試験（5 0 %）。（必要に応じてレポート課題等を出した場合、それらも加味します。）

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
宇野 真介	
授業コード：Q3087	2017 年度以降入学者
授業コード：P3057	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、生物学の進歩が私たちの社会・暮らし・考え方にもたらした影響と共に、人間が生命というものをどのようにとらえてきた（とらえている）のかが見えてくると思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の 2 点です。1) 人間社会の発展や価値観に影響を及ぼした生物学的な基礎知識の取得。2) 取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト = 20 %、提出課題 = 30 %、期末試験 = 50 % を基本とします。小テストは学期中旬に 1 回実施。提出課題として、指定された授業について 300 字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+ = 9 0 % 以上 A = 8 0 ～ 8 9 % B = 7 0 ～ 7 9 % C = 6 0 ～ 6 9 % D（不合格）= 5 9 % 以下。

BIO100LA	
入門生物学 B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
宇野 真介	
授業コード：Q3088	2017 年度以降入学者
授業コード：P3058	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるものと思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の 2 点です。1) 社会的に重要視されている諸問題について、より深い理解に至るための基礎知識の取得。2) 取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト = 20 %、提出課題 = 30 %、期末試験 = 50 % を基本とします。小テストは学期中旬に 1 回実施。提出課題として、指定された授業について 300 字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+ = 9 0 % 以上 A = 8 0 ～ 8 9 % B = 7 0 ～ 7 9 % C = 6 0 ～ 6 9 % D（不合格）= 5 9 % 以下。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
宇野 真介	
授業コード：Q3089	2017 年度以降入学者
授業コード：P3059	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、生物学の進歩が私たちの社会・暮らし・考え方にもたらした影響と共に、人間が生命というものをどのようにとらえてきた（とらえている）のかが見えてくると思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の 2 点です。1) 人間社会の発展や価値観に影響を及ぼした生物学的な基礎知識の取得。2) 取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト＝ 20 %、提出課題＝ 30 %、期末試験＝ 50 %を基本とします。小テストは学期中旬に 1 回実施。提出課題として、指定された授業について 300 字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+＝ 90 %以上 A＝ 80～89 % B＝ 70～79 % C＝ 60～69 % D（不合格）＝ 59 %以下。

BIO100LA	
入門生物学 B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
宇野 真介	
授業コード：Q3090	2017 年度以降入学者
授業コード：P3060	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるものと思います。

到達目標 本授業の到達目標は、以下の 2 点です。1) 社会的に重要視されている諸問題について、より深い理解に至るための基礎知識の取得。2) 取得した情報を的確かつ簡潔に報告する表現力（文章力）の向上。

成績評価の方法と基準 成績評価は小テスト＝ 20 %、提出課題＝ 30 %、期末試験＝ 50 %を基本とします。小テストは学期中旬に 1 回実施。提出課題として、指定された授業について 300 字程度の要約文を作成してもらいます。期末試験は、最終回の授業時間に実施します。
A+＝ 90 %以上 A＝ 80～89 % B＝ 70～79 % C＝ 60～69 % D（不合格）＝ 59 %以下。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3091	2017 年度以降入学者
授業コード：P3061	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

- 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
- 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
- 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 II	2016 年度以前入学者
木原 章	
授業コード：Q3092	2017 年度以降入学者
授業コード：P3062	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

到達目標 本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

てもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

成績評価の方法と基準 授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、提出された要約を元に評価します。春学期の授業支援システムでの入力 は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
水澤 博	
授業コード：Q3093	2017 年度以降入学者
授業コード：P3063	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我が国では、文系の学生が理科を学習する機会が少ない。しかし、21 世紀に入って以降、次々と新しい生命の秘密が解き明かされ、私たちの生活や仕事に利用されるようになってきた。その結果、生命科学関連の産業が活況を呈し、生命科学の知識を必要とする機会は、日常生活から仕事の間まで、どんどん増えてきた。また、マスコミが報じるニュースでも、再生医療、遺伝子組換え食品、DNA 鑑別、iPS 細胞、iSC 細胞、抗生物質が効かない感染症、AIDS、デング熱、エボラ出血熱、中東呼吸器症候群（MERS）など、生命科学に関連する新しい用語が次々現れて報じられているのは知っているとおおり。このような時代となり、生命科学の知識について正しい理解や考え方を身に付けておかないと、思いがけず大きな誤りを犯し、自分を不利にしてしまうという危険を抱え込むことになるだろうと思う。自分の身を守るためにも、分子レベルの生命像を正しく理解しておくことは重要だろうと、最近強く感じている。それよりも何よりも、新しく解き明かされた 21 世紀の生命像を学習することにより「私たちの体の中はそんなことになっていたのか」と驚き、感動するのではないだろうか。生命は物質であるということが示唆されて久しい。そして今、その物質がタンパク質、DNA、RNA、脂質、糖、などであることが明らかになった。そして、さらに、これらの部品が組み合わさって『細胞』という生命の最小単位が構築されていることも相当程度明らかになった。そして、驚くことは、私たちの体を作っている 60 兆個の細胞は、互いに協調しあって、一人の人間を作り上げ、それが日々の生活を送っているということなのである。原子から出発して、これらが生命を作りあげている様子を知り、理解することを目指して学習したい。

到達目標 生命の根源は細胞で、その細胞が 60 兆個集まってヒトの体を作っている。ヒトは 1 個の受精卵からスタートし、細胞分裂を繰り返して 6 0 兆個にまで増える。受精卵に存在する父と母に由来する 1 対のゲノム DNA (2n) は、複製と分離を繰り返して 6 0 兆個すべての細胞に均等に入ってゆく。つまり、6 0 兆個全ての細胞に A T G C 文字で書かれた同じゲノム DNA が存在するのである。遺伝子文字で書かれた文章は細胞間でちょっと違っているということは無いのだろうか？ 1 個の細胞から 6 0 兆個の細胞に数を増やしてゆく時に、文字の並びを間違えてしまうことは無いのだろうか？ そして、DNA が複製する時に間違えることがあるとすれば、どういう原因で間違えるのだろうか、また間違えが起こると細胞に不都合はないのだろうか。また、DNA は細胞中でタンパク質を作っているのだが、細胞はみな同じタンパク質を作っているのだろうか？ それとも、細胞ごとに違うタンパク質を作っているのだろうか、違うタンパク質を作るなら、それはどうやって違うタンパク質を作っているのだろうか。遺伝子の働きを理解することを通じて、こうした諸々の問題を説明できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
水澤 博	
授業コード：Q3095	2017 年度以降入学者
授業コード：P3065	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 我が国では、文系の学生が理科を学習する機会が少ない。しかし、21 世紀に入って以降、次々と新しい生命の秘密が解き明かされ、私たちの生活や仕事に利用されるようになってきた。その結果、生命科学関連の産業が活況を呈し、生命科学の知識を必要とする機会は、日常生活から仕事の間まで、どんどん増えてきた。また、マスコミが報じるニュースでも、再生医療、遺伝子組換え食品、DNA 鑑別、iPS 細胞、iSC 細胞、抗生物質が効かない感染症、AIDS、デング熱、エボラ出血熱、中東呼吸器症候群（MERS）など、生命科学に関連する新しい用語が次々現れて報じられているのは知っているとおおり。このような時代となり、生命科学の知識について正しい理解や考え方を身に付けておかないと、思いがけず大きな誤りを犯し、自分を不利にしてしまうという危険を抱え込むことになるだろうと思う。自分の身を守るためにも、分子レベルの生命像を正しく理解しておくことは重要だろうと、最近強く感じている。それよりも何よりも、新しく解き明かされた 21 世紀の生命像を学習することにより「私たちの体の中はそんなことになっていたのか」と驚き、感動するのではないだろうか。生命は物質であるということが示唆されて久しい。そして今、その物質がタンパク質、DNA、RNA、脂質、糖、などであることが明らかになった。そして、さらに、これらの部品が組み合わさって『細胞』という生命の最小単位が構築されていることも相当程度明らかになった。そして、驚くことは、私たちの体を作っている 60 兆個の細胞は、互いに協調しあって、一人の人間を作り上げ、それが日々の生活を送っているということなのである。原子から出発して、これらが生命を作りあげている様子を知り、理解することを目指して学習したい。

到達目標 生命の根源は細胞で、その細胞が 60 兆個集まってヒトの体を作っている。ヒトは 1 個の受精卵からスタートし、細胞分裂を繰り返して 6 0 兆個にまで増える。受精卵に存在する父と母に由来する 1 対のゲノム DNA (2n) は、複製と分離を繰り返して 6 0 兆個すべての細胞に均等に入ってゆく。つまり、6 0 兆個全ての細胞に A T G C 文字で書かれた同じゲノム DNA が存在するのである。遺伝子文字で書かれた文章は細胞間でちょっと違っているということは無いのだろうか？ 1 個の細胞から 6 0 兆個の細胞に数を増やしてゆく時に、文字の並びを間違えてしまうことは無いのだろうか？ そして、DNA が複製する時に間違えることがあるとすれば、どういう原因で間違えるのだろうか、また間違えが起こると細胞に不都合はないのだろうか。また、DNA は細胞中でタンパク質を作っているのだが、細胞はみな同じタンパク質を作っているのだろうか？ それとも、細胞ごとに違うタンパク質を作っているのだろうか、違うタンパク質を作るなら、それはどうやって違うタンパク質を作っているのだろうか。遺伝子の働きを理解することを通じて、こうした諸々の問題を説明できるようになることが目標である。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
向井 知大	
授業コード：Q3111	2017 年度以降入学者
授業コード：P3081	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 A～H 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 原子や分子の構造や特徴、物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

【重要】ILAC 科目 / 市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ず Web シラバスを確認してください。
本冊子は、Web シラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学
的視点と思考を身に着けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的
な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、生体を
構成する有機化合物、人体や環境に有害な化学物質について学習します。
また、有害化学物質の管理について、基礎的な知見を得ることを目標と
します。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3115	2017 年度以降入学者
授業コード：P3085	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題が
マスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議
論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問
題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが
本授業の目的である。

到達目標 現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立している。し
かしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加
によって、現在的主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕
している。春学期の本授業では核分裂エネルギー（原子力発電）につい
て理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持
ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3116	2017 年度以降入学者
授業コード：P3086	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 S～Y 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題が
マスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議
論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問
題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが
本授業の目的である。

到達目標 現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費
に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっ
ている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の
原料でもある。秋学期の本授業では文明の鍵である化石燃料について理
解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持
ち込み可）により評価する。（100%）

到達目標 自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、
科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、
自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価します。（配分 100%）

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
向井 知大	
授業コード：Q3112	2017 年度以降入学者
授業コード：P3082	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 A～H 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 暮らしの中の物質と環境問題の原因に
ついて、化学の観点から学んでいきます。

到達目標 現象や物質について原子や分子のレベルで理解し、科学的な
思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、複雑な
記号に見える有機物質の化学構造式から、その性質をある程度読み取る
ことができるようになることを目標に設定しています。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価します。（配分 100%）

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
小林 令子	
授業コード：Q3113	2017 年度以降入学者
授業コード：P3083	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法 1 年 I～N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考え
ていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、
無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科
学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知
識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、私たちの生
活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明でき
るようになることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
小林 令子	
授業コード：Q3114	2017 年度以降入学者
授業コード：P3084	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法 1 年 I～N 組・国 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考え
ていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3117	2017 年度以降入学者
授業コード：P3087	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立している。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕している。春学期の本授業では核分裂エネルギー（原子力発電）について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3118	2017 年度以降入学者
授業コード：P3088	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 K～U 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。秋学期の本授業では文明の鍵である化石燃料について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
御代川 貴久夫	
授業コード：Q3119	2017 年度以降入学者
授業コード：P3089	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 P～X 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） (1) エネルギー保存則、エントロピー、エネルギーの変換といったエネルギー科学の基礎、(2) 化石燃料の種類、埋蔵量、化石燃料の資源としての将来性、熱汚染、(3) 核壊変、原子力発電所の原理と実際、放射性物質の生物への影響、(4) 太陽光エネルギー、地熱発電など更新性エネルギーの利用、(5) エネルギー収支の計算法などについて解説する。

到達目標 エネルギーの利用が環境に及ぼす影響について理解すること。

成績評価の方法と基準 中間レポート × 2（40%）、学期末レポート（60 %）

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
御代川 貴久夫	
授業コード：Q3120	2017 年度以降入学者
授業コード：P3090	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 P～X 組、環 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） (1) 大気、水、岩石圏の地球科学および生態学について基礎的な知識の説明、(2) SPM、SO_x、NO_x などによる大気汚染と対策技術、(3) 酸性雨の発生機構と環境への影響、(4) フロン類によるオゾン層の破壊と保護への国際協力、(5) 二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球の温暖化とその人類への影響、および (6) ダイオキシンのような化学物質による環境汚染、(7) リサイクルなどについて解説する。

到達目標 現在の環境問題の自然科学的側面を理解すること。

成績評価の方法と基準 中間レポート × 2（40%）、学期末レポート（60 %）

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
小林 令子	
授業コード：Q3121	2017 年度以降入学者
授業コード：P3091	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA	
入門化学B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境Ⅱ	2016 年度以前入学者
小林 令子	
授業コード：Q3122	2017 年度以降入学者
授業コード：P3092	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：営 1 年 A～J 組、キ 1 年/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学の視点と思考を身に付けることを目的とします。

到達目標 授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、人体や環境に有害な化学物質について学習します。また、有害化学物質の管理について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）

CHM100LA	
入門化学A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境Ⅰ	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3123	2017 年度以降入学者
授業コード：P3093	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立している。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕している。春学期の本授業では核分裂エネルギー（原子力発電）について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA	
入門化学B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境Ⅱ	2016 年度以前入学者
中田 和秀	
授業コード：Q3124	2017 年度以降入学者
授業コード：P3094	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：文 1 年 A～N 組/法文営国環キ 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年、エネルギーや環境などの話題がマスメディアを賑わせている。このような現代社会に密着した問題を議論するためには、科学的考察が必要不可欠である。本授業では、環境問題について化学の視点から解説する。諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

到達目標 現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。秋学期の本授業では文明の鍵である化石燃料について理解することを目標とする。

成績評価の方法と基準 期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

CHM100LA	
入門化学A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境Ⅰ	2016 年度以前入学者
御代川 貴久夫	
授業コード：Q3125	2017 年度以降入学者
授業コード：P3095	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） (1) エネルギー保存則、エントロピー、エネルギーの変換といったエネルギー科学の基礎、(2) 化石燃料の種類、埋蔵量、化石燃料の資源としての将来性、熱汚染、(3) 核壊変、原子力発電所の原理と実際、放射性物質の生物への影響、(4) 太陽光エネルギー、地熱発電など更新性エネルギーの利用、(5) エネルギー収支の計算方法などについて解説する。

到達目標 エネルギーの利用が環境に及ぼす影響について理解すること。

成績評価の方法と基準 中間レポート × 2（40%）、学期末レポート（60 %）

CHM100LA	
入門化学B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境Ⅱ	2016 年度以前入学者
御代川 貴久夫	
授業コード：Q3126	2017 年度以降入学者
授業コード：P3096	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） (1) 大気、水、岩石圏の地球科学および生態学について基礎的な知識の説明、(2) SPM、SO_x、NO_x などによる大気汚染と対策技術、(3) 酸性雨の発生機構と環境への影響、(4) フロン類によるオゾン層の破壊と保護への国際協力、(5) 二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球の温暖化とその人類への影響、および (6) ダイオキシンのような化学物質による環境汚染、(7) リサイクルなどについて解説する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

- 到達目標現在の環境問題の自然科学的側面を理解すること。
- 成績評価の方法と基準中間レポート × 2（40%）、学期末レポート（60 %）

NAS100LA	
サイエンス・ラボ A	2017 年度以降入学者
NAS100LA	
サイエンス・ラボ A	2016 年度以前入学者
各担当者	
授業コード：各授業による	2017 年度以降入学者
授業コード：各授業による	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）掲示板参照）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

- 到達目標自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。
- 成績評価の方法と基準試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

NAS100LA	
サイエンス・ラボ B	2017 年度以降入学者
NAS100LA	
サイエンス・ラボ B	2016 年度以前入学者
各担当者	
授業コード：各授業による	2017 年度以降入学者
授業コード：各授業による	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）掲示板参照）	

授業の概要と目的（何を学ぶか） サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じ

て体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

- 到達目標自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。
- 成績評価の方法と基準試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

ASR100LA	
天文学 A	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 I	2016 年度以前入学者
福島 登志夫	
授業コード：Q3171	2017 年度以降入学者
授業コード：P3111	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。
- 到達目標宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に伝えられる程度に理解する。
- 成績評価の方法と基準レポート課題（100 %）による。

ASR100LA	
天文学 B	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 II	2016 年度以前入学者
福島 登志夫	
授業コード：Q3172	2017 年度以降入学者
授業コード：P3112	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。
- 到達目標天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。
- 成績評価の方法と基準レポート課題（100 %）による。

ASR100LA	
天文学 A	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 I	2016 年度以前入学者
下井倉 ともみ	
授業コード：Q3173	2017 年度以降入学者
授業コード：P3113	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生	

- 授業の概要と目的（何を学ぶか）宇宙・地球の全体像や形成の歴史を概観する。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

ないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

成績評価の方法と基準 レポート課題（100％）による。

SHS100LA	
科学史 A	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 I	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3181	2017 年度以降入学者
授業コード：P3121	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

到達目標 今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

SHS100LA	
科学史 B	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 II	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3182	2017 年度以降入学者
授業コード：P3122	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

到達目標 現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

SHS100LA	
科学史 A	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 I	2016 年度以前入学者
大橋 由紀夫	
授業コード：Q3183	2017 年度以降入学者
授業コード：P3123	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 東アジアの伝統科学史について講義する。（科学史 A と B をあわせて、伝統科学と近代科学の全体を概観することになる。）

到達目標 東アジアにおける社会と伝統科学の関係について理解を深める。

到達目標 ・恒星、銀河、宇宙の構成に関する基礎知識を身に付ける。
・基本的な法則・原理が自然現象とどのように結びつき、我々がどのように宇宙を理解してきたのかを学ぶ。

成績評価の方法と基準 レポート（30％程度）、期末試験を行う（70％程度）。また、授業中の問いかけに対する反応を成績評価に加味することがある。

ASR100LA	
天文学 B	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 II	2016 年度以前入学者
下井倉 ともみ	
授業コード：Q3174	2017 年度以降入学者
授業コード：P3114	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 太陽系、星間物質、星の進化・元素の合成と物質の輪廻、銀河、膨張する宇宙など、現代の科学が解明した宇宙の姿を紹介する。

到達目標 ・恒星、銀河、宇宙の構成に関する基礎知識を身に付ける。
・宇宙空間の諸現象について、その概要を学ぶ。

成績評価の方法と基準 レポート（30％程度）、期末試験を行う（70％程度）。また、授業中の問いかけに対する反応を成績評価に加味することがある。

ASR100LA	
天文学 A	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 I	2016 年度以前入学者
福島 登志夫	
授業コード：Q3175	2017 年度以降入学者
授業コード：P3115	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

到達目標 宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

成績評価の方法と基準 レポート課題（100％）による。

ASR100LA	
天文学 B	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 II	2016 年度以前入学者
福島 登志夫	
授業コード：Q3176	2017 年度以降入学者
授業コード：P3116	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・国 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

到達目標 天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的で

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 平常点とレポート。

SHS100LA	
科学史 B	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 II	2016 年度以前入学者
大橋 由紀夫	
授業コード：Q3184	2017 年度以降入学者
授業コード：P3124	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代地中海世界・イスラーム世界の伝統科学史、および、近代科学成立発展史を講義する。（科学史 A と B をあわせて、伝統科学と近代科学の全体を概観できることになる。）

到達目標 近代科学の成立事情とともに、科学的な研究方法についても理解を深める。

成績評価の方法と基準 平常点とレポート。

SHS100LA	
科学史 A	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 I	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3185	2017 年度以降入学者
授業コード：P3125	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

到達目標 今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

SHS100LA	
科学史 B	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 II	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3186	2017 年度以降入学者
授業コード：P3126	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞文・環 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 1-4 年・キャリアデザイン学部 2-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

到達目標 現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

SHS100LA	
科学史 A	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 I	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3187	2017 年度以降入学者
授業コード：P3127	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

到達目標 今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

SHS100LA	
科学史 B	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 II	2016 年度以前入学者
谷本 勉	
授業コード：Q3188	2017 年度以降入学者
授業コード：P3128	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞営・キ 1 年、＜ 2016 年度以前入学生＞人間環境 2-4 年・キャリアデザイン学部 1-4 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

到達目標 現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

成績評価の方法と基準 期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

MAT200LA	
数学特講 LA	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学 A	2016 年度以前入学者
安東 祐希	
授業コード：Q3201	2017 年度以降入学者
授業コード：P3423	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 線形代数学を学ぶ。特に、比例関係を複数の変数に拡張して得られる式について考察する。

到達目標 次のような計算ができ、さらにそれを応用することができる。
・行列演算と行列式計算
・逆行列の導出
「参考書」欄に紹介した書籍（3 冊目）の問題から、応用例を一つ以下に挙げよう。
～～～

ある国では、インフルエンザが流行するのを防ぐために、予防接種をしたいと思っている。ただし、インフルエンザのウイルスには 1 と 2 の 2

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

る。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT200LA	
発展数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT200LA	
発展数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
池田 宏一郎	
授業コード：Q3212	2017 年度以降入学者
授業コード：P3482	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはすである。

到達目標 与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験

MAT200LA	
発展数学Ⅰ	2017 年度以降入学者
MAT200LA	
発展数学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
倉田 俊彦	
授業コード：Q3213	2017 年度以降入学者
授業コード：P3483	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理的解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

到達目標 いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

成績評価の方法と基準 練習問題（80%）、平常点（20%）

種類があるとし、ワクチン1はウイルス1に対しては85%の有効性を持ち、ウイルス2に対しては70%の有効性をもっているものとし、またもう1つのワクチン2はウイルス1に対しては60%、ウイルス2に対しては90%の有効性をもっているものとする。いま、ウイルス1、2の比率がどうなっているかは全く分からないものとして、この国の「政府」が決定すべきワクチンの利用率を求めよ。

成績評価の方法と基準 到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40%）において評価する。

MAT200LA	
数学特講LB	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
教養数学B	2016 年度以前入学者
安東 祐希	
授業コード：Q3202	2017 年度以降入学者
授業コード：P3424	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 線形代数学を学ぶ。特に、複数変数に拡張した比例関係について、図形的理解を進める。

到達目標 次のような計算ができ、さらにそれを応用することができる。
・連立一次方程式の解法
・固有値と固有ベクトル
「参考書」欄に紹介した書籍（3冊目）の問題から、応用例の一つ以下に挙げよう。
～～～

ある大学の同窓会で、卒業生からの寄付金の状況を調査したところ、1つの年度に寄付をしてくれた卒業生のうちの80%がその次の年度にも寄付をしてくれ、1つの年度に寄付をしてくれなかった卒業生のうちの30%が次の年度には寄付をしてくれるということがわかったという。このとき、ある年度の卒業生だけに限って調べた場合、卒業の1年後、2年後、さらには一般にn年後に寄付をしてくれる人としてくれない人の割合を求め、それに従って、割合がどのように変化してゆくかについて説明せよ。

成績評価の方法と基準 到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40%）において評価する。

MAT200LA	
発展数学Ⅰ	2017 年度以降入学者
MAT200LA	
発展数学Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
池田 宏一郎	
授業コード：Q3211	2017 年度以降入学者
授業コード：P3481	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか）

～社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理的解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

到達目標 いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

MAT200LA	
発展数学ⅠⅡ	2017 年度以降入学者
MAT200LA	
発展数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
倉田 俊彦	
授業コード：Q3214	2017 年度以降入学者
授業コード：P3484	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
履修対象：法文営国環キ 2-4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか）
～ 社会科学に必要な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはずである。

到達目標 与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

成績評価の方法と基準 練習問題（80%）、平常点（20%）

PHY200LA	
教養物理学 LA	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅠ	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3221	2017 年度以降入学者
授業コード：P3039	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） サブタイトルを「宇宙と地球」とする。我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようなになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

到達目標 ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。

PHY200LA	
教養物理学 LA	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙までⅠ	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
授業コード：Q3222	2017 年度以降入学者
授業コード：P3040	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） サブタイトルを「宇宙と地球」とする。我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようなになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

到達目標 ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。
成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。

BIO200LA	
教養生物学ⅠA	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
水澤 博	
授業コード：Q3232	2017 年度以降入学者
授業コード：P3064	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の科学ニュースには『生命』や『健康』に関連する話題がとても多いことに気が付いているだろうか。毎日のことなので、特に多いという実感は無いのかもしれないがめっきり増えた。私が1960年代後半に大学（生物学科）に入学した当時、高校の先生方がこれからは生命科学の時代になるよと言っていたことを思い出す。そして50年後の今、確かにバイオの時代となった。かつて死の病と恐れられていた『がん』という病気が一部とは言え『治る』病気になってきたことは驚きである。実際、私の周囲にもガンに罹ったが治療して心配は無くなったと語ってくれる友人は多い。とても印象深いことは、若い方ががんに罹患した場合、子供を生むことが現実の課題になってきていることである。もう一つ、生命科学の発展を後押しする発見がiPS細胞だ。このiPS細胞の登場は、常識をひっくり返した。遺伝子の働きによって、細胞が後戻りすることが有りうることを示したのだ。そして、基礎的な分子生物学研究の成果を元にiPS細胞の後戻りとがんの発生に共通性があることが明らかになった。そこで、秋学期の教養生物学では、『iPS細胞』と『がん細胞』に焦点を当てて、細胞と遺伝子の結びつきについて学ぶことにする。今でも、がんに罹患すると不治の病であると信じ、非科学的な悪徳医療に騙されるケースも後を絶たない。科学的に見ることによって騙されない体質を作することは重要である。なお、本講義は、遺伝子、DNA、RNA、タンパク質、翻訳、転写など、高等学校・生物ⅠⅡ程度の知識を持っていることを前提として話します。

到達目標 『がん』という病気と『iPS』細胞の共通性について、細胞に存在する様々なタンパク質や遺伝子がかかわっていることを理解することが目標である。また、ヒトの、発生、成長、分化の仕組みや、成長の逆行など、遺伝子とタンパク質の連携や、それらと生命とのかわりを理解することを目標とする。また、新しくわかってきた『病気が起こる仕組み』みについて理解を深めることも目標としたい。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO200LA	
教養生物学ⅠA	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
水澤 博	
授業コード：Q3234	2017 年度以降入学者
授業コード：P3066	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 近年の科学ニュースには『生命』や『健康』に関連する話題がとても多いことに気が付いているだろうか。毎日のことなので、特に多いという実感は無いのかもしれないがめっきり増えた。私が1960年代後半に大学（生物学科）に入学した当時、高校の

先生方がこれからは生命科学の時代になるよと言っていたことを思い出す。そして 50 年後の今、確かにバイオの時代となった。
かつて死の病と恐れられていた『がん』という病気が一部とは言え『治る』病気になってきたことは驚きである。実際、私の周囲にもガンに罹ったが治療して心配は無くなったと語ってくれる友人は多い。とても印象深いことは、若い方ががんに罹患した場合、子供を生むことが現実の課題になってきていることである。

もう一つ、生命科学の発展を後押しする発見が iPS 細胞だ。この iPS 細胞の登場は、常識をひっくり返した。遺伝子の働きによって、細胞が後戻りすることが有りうることを示したのだ。そして、基礎的な分子生物学研究の成果を元に iPS 細胞の後戻りとがんの発生に共通性があることが明らかになった。

そこで、秋学期の教養生物学では、『iPS 細胞』と『がん細胞』に焦点を当てて、細胞と遺伝子の結びつきについて学ぶことにする。今でも、がんにも罹患すると不治の病であると信じ、非科学的な悪徳医療に騙されるケースも後を絶たない。科学的に見ることによって騙されない体質を作ること重要である。

なお、本講義は、遺伝子、DNA、RNA、タンパク質、翻訳、転写など、高等学校・生物 I I 程度の知識を持っていることを前提として話します。

到達目標 『がん』という病気と『iPS』細胞の共通性について、細胞に存在する様々なタンパク質や遺伝子がかかわっていることを理解することが目標である。また、ヒトの、発生、成長、分化の仕組み、成長の逆行など、遺伝子とタンパク質の連携や、それらと生命とのかわりを理解することを目標とする。また、新しくわかってきた『病気が起こる仕組み』について理解を深めることも目標としたい。

成績評価の方法と基準 成績評価は、期末試験（学期末試験期間）で行います。

BIO200LA	
教養生物学 L B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3235	2017 年度以降入学者
授業コード：P3067	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 生物とはなんだろうか・「私」とはなんだろうか？　そういう根本的なことを考えるよすがとなるのがこの授業である。われわれは生物の一員であり、多様な生物たちがつくり上げている生物圏の中で生きている。よって、良い社会人として生きていくためには、生物としての私とは何かを知る必要があるし、また他の生物たちやそれらのつくっている生態系についても、ある程度の知識は必須だろう。生物には多様な仲間がいる。そのおのおのが独自の体のつくりをもち、それに基づき独自の生活をしている。これは各生物が独自の世界をもち、独自の「価値観」・「文化」をもって生きているといってもいい事態だと私は思う。今、生物多様性の減少が大きな問題になっているが、その背景には、多様な生物とわれわれがどう付き合うのかという、付き合い方に問題があると私は考えている。多様なものどう付き合うのかは、人間相手だけの問題ではないのである。この講義を通し、生物相手の「異文化交流」にも思いをいたせるようになってくれたら嬉しい。

到達目標 生物学の見方を通して、生物としての「私」とはどのようなものが理解できる。
なぜ多様な生物が存在可能なかが理解できる。
その多様性の中に見られる共通性についても理解できる。
なぜ多様性が大切かが理解できる。
以上の理解をもとに、自分の生き方・現代人の生き方を批判的に見直してみることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率 100%）

BIO200LA	
教養生物学 L B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3237	2017 年度以降入学者
授業コード：P3069	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 生物とはなんだろうか・「私」とはなんだろうか？　そういう根本的なことを考えるよすがとなるのがこの授業である。われわれは生物の一員であり、多様な生物たちがつくり上げている生物圏の中で生きている。よって、良い社会人として生きていくためには、生物としての私とは何かを知る必要があるし、また他の生物たちやそれらのつくっている生態系についても、ある程度の知識は必須だろう。生物には多様な仲間がいる。そのおのおのが独自の体のつくりをもち、それに基づき独自の生活をしている。これは各生物が独自の世界をもち、独自の「価値観」・「文化」をもって生きているといってもいい事態だと私は思う。今、生物多様性の減少が大きな問題になっているが、その背景には、多様な生物とわれわれがどう付き合うのかという、付き合い方に問題があると私は考えている。多様なものどう付き合うのかは、人間相手だけの問題ではないのである。この講義を通し、生物相手の「異文化交流」にも思いをいたせるようになってくれたら嬉しい。

到達目標 生物学の見方を通して、生物としての「私」とはどのようなものが理解できる。
なぜ多様な生物が存在可能なかが理解できる。
その多様性の中に見られる共通性についても理解できる。
なぜ多様性が大切かが理解できる。
以上の理解をもとに、自分の生き方・現代人の生き方を批判的に見直してみることができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率 100%）

BIO200LA	
教養生物学 L B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3239	2017 年度以降入学者
授業コード：P3071	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 生物とはなんだろうか・「私」とはなんだろうか？　そういう根本的なことを考えるよすがとなるのがこの授業である。われわれは生物の一員であり、多様な生物たちがつくり上げている生物圏の中で生きている。よって、良い社会人として生きていくためには、生物としての私とは何かを知る必要があるし、また他の生物たちやそれらのつくっている生態系についても、ある程度の知識は必須だろう。生物には多様な仲間がいる。そのおのおのが独自の体のつくりをもち、それに基づき独自の生活をしている。これは各生物が独自の世界をもち、独自の「価値観」・「文化」をもって生きているといってもいい事態だと私は思う。今、生物多様性の減少が大きな問題になっているが、その背景には、多様な生物とわれわれがどう付き合うのかという、付き合い方に問題があると私は考えている。多様なものどう付き合うのかは、人間相手だけの問題ではないのである。この講義を通し、生物相手の「異文化交流」にも思いをいたせるようになってくれたら嬉しい。

到達目標 生物学の見方を通して、生物としての「私」とはどのようなものが理解できる。
なぜ多様な生物が存在可能なかが理解できる。
その多様性の中に見られる共通性についても理解できる。
なぜ多様性が大切かが理解できる。
以上の理解をもとに、自分の生き方・現代人の生き方を批判的に見直し

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

てみるができる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率１００％）

BIO200LA	
教養生物学ⅠC	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3242	2017 年度以降入学者
授業コード：P3068	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 動物の体はどんなふうに働いているのだろうか。どうやって食物を摂って消化吸収し、酸素を取り入れ、体内の恒常性を維持し、体温を保ち、情報を集め、判断し、行動を起こすのか、それらの仕組みを学ぶ。専門分野で言えば「動物生理学」の全般を学ぶことになる。

到達目標 自分の体の理解を通して、自分自身を理解できる。
自分自身の体のすごさを通して、自分を「尊敬」できるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率１００％）

BIO200LA	
教養生物学ⅠC	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3244	2017 年度以降入学者
授業コード：P3070	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 動物の体はどんなふうに働いているのだろうか。どうやって食物を摂って消化吸収し、酸素を取り入れ、体内の恒常性を維持し、体温を保ち、情報を集め、判断し、行動を起こすのか、それらの仕組みを学ぶ。専門分野で言えば「動物生理学」の全般を学ぶことになる。

到達目標 自分の体の理解を通して、自分自身を理解できる。
自分自身の体のすごさを通して、自分を「尊敬」できるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率１００％）

BIO200LA	
教養生物学ⅠC	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
本川 達雄	
授業コード：Q3246	2017 年度以降入学者
授業コード：P3072	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 動物の体はどんなふうに働いているのだろうか。どうやって食物を摂って消化吸収し、酸素を取り入れ、体内の恒常性を維持し、体温を保ち、情報を集め、判断し、行動を起こすのか、それらの仕組みを学ぶ。専門分野で言えば「動物生理学」の全般を学ぶことになる。

到達目標 自分の体の理解を通して、自分自身を理解できる。
自分自身の体のすごさを通して、自分を「尊敬」できるようになる。

成績評価の方法と基準 期末試験（比率１００％）

CHM200LA	
教養化学ⅠA	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：エネルギーの科学	
向井 知大	
授業コード：Q3261	2017 年度以降入学者
授業コード：P3097	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 物質の変化には、エネルギーの出入りが伴います。社会や生命はこれらを上手に利用することで活動しています。エネルギーを題材にして身の回りの現象や物質について理解を深め、現在の我々の生活を支えている技術に対する興味を持って下さい。

到達目標 エネルギーについて原子核や電子の振る舞いをもとに理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。エネルギー問題に関する近年の話題について、自分なりの考察ができるようになることを目標にして下さい。

成績評価の方法と基準 期末試験により評価します。(配分 100%)

CHM200LA	
教養化学ⅠA	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境Ⅰ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：エネルギーの科学	
中島 弘一	
授業コード：Q3262	2017 年度以降入学者
授業コード：P3098	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業ではエネルギーと環境をテーマに、エネルギーを作り出す仕組みとそれに伴う環境問題について理解することを目標にします。

原子力は事故があったときの放射能漏れだけが問題なのではありません。温室効果ガスと地球温暖化も理屈を知っておく必要があります。太陽電池や燃料電池もそのメリット、デメリットを知っておく必要があります。社会の一員として今後のエネルギー利用を、問題点を理解したうえで、自らが適切に判断できる理解力を養います。

到達目標 原子力エネルギーとは何か、利用に際してどういう問題があるのかという知識が身につく。石油や石炭を燃やしてどのように電気に変換されるのか？ 温暖化とどうリンクしているのかを理解できる。自然エネルギーが抱える問題点とは何か？ 水素を利用した燃料電池の特徴に関する知識が得られる。また、現状残されている課題を知識として得ることができる。

成績評価の方法と基準 毎時限、講義の最後に小テストを行い、その結果（３０％）と期末試験の成績（７０％）をもとに評価する。

CHM200LA	
教養化学ⅠB	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：環境化学	
中島 弘一	
授業コード：Q3263	2017 年度以降入学者
授業コード：P3099	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 科学技術の発達によって、人類は着実に生命のなどを解き明かしつつあります。そして不完全ながらもその知識をもとに、多種多様な薬品、食品添加物、あるいは技術が生み出され応用されて来ています。ホルモンの仕組みから筋肉増強剤や避妊薬の開発、遺伝子操作による害虫や農薬に強い作物への改良、倫理的な問題が不透明なまま利用されているものも少なくありません。この授業では、はじめに過去の公害事例についてその原因等を概説した後、日用品や食品など、身の回りの化学物質についての環境問題を取り上げながら、生命を構成する物質（糖質、脂質、たんぱく質、核酸）の働きなどとの関連を解説します。

到達目標 過去の公害問題の概要を理解する。
生命に関係する物質がどういう分子構造をもち、どのような働きを持つて機能しているかを理解することができる。例えば、食事を取って、それがエネルギーに変換される、あるいは、身体そのものに変化する仕組みを理解できる。
体の中での物質の認識の仕組みを理解できる。例えば、免疫反応の仕組みや、でんぷんを消化できて、セルロースを消化できない理由を理解できる。
合成物が生命に与える影響を理解できる。

成績評価の方法と基準 基本的には期末試験の成績（90％）をもとにしますが、毎回出席を取り、授業への積極的な参加度（10％）も勘案します。

CHM200LA	
教養化学ⅠB	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境Ⅱ	2016 年度以前入学者
サブタイトル：環境問題を考えるための化学	
西村 直美	
授業コード：Q3264	2017 年度以降入学者
授業コード：P3100	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 現在、地球が直面している環境問題は深刻である。環境問題を解決するためには、その問題点をメカニズムから理解することが大切である。そのためには基本的な化学の理解が必須である。本講座は環境問題を考えることを最終目的とするが、まずはこれに必須な化学の知識を身につけてもらうことを目的とした。

到達目標 最終的には現在地球が直面している問題点を理解してもらい、その解決策を探るために必要な知識としての化学を理解してもらうことが目標である。

成績評価の方法と基準 出席（20％）、小テスト（20％）、レポート（20％）、期末試験（40％）を総合的に評価します。

英語 1 ～ 8 について

以下に掲げるのは、国際文化学部生のための英語に関する全般的な内容です。個々のクラス授業の詳細については Web シラバスで確認してください。

なお、SSI 生や SJ 参加学生は、英語科目の履修ルールや履修パターンが後述する内容と異なる場合があります。必ず「履修の手引き」を確認してください。

国際文化学部の英語について

英語の必修科目（クラス指定授業）として、1 年次に英語 1 ～ 6、2 年次には英語 7 ～ 8 が置かれています。

英語 1 ～ 4 は 1 年次に全員が履修します。高校までに学習したことを基礎として、SA 先にかかわらず必要な英語力を身につけます。英語 1 ～ 4 のクラスは、入学時に受験した TOEFL®-ITP Level 2 Pre-TOEFL のスコアにもとづいて習熟度別に編成され、それぞれの習熟度に応じた授業が行われます。

英語 5 ～ 8 は SA 英語圏の学生のみ履修します。SA 英語圏留学を意識した内容・形式の授業です。

英語の力を読む・書く・話す・聴くの 4 技能に分けて考えるとすれば、「読む」力は主に英語 1・3・7 で、「書く」「話す」力は主に英語 2・4・5・6・8 で、養います。「聴く」力は、すべての科目で養います。

受講生に求められるもの

1. 上記の便宜的に分けた 4 技能が密接に関連しあっていることを理解し、必修英語の受講を通じて、総合的に英語の力を養うよう心がけてください。

たとえば、英語によるコミュニケーション能力を高めるためには、相手の主張を理解することが第一歩となります。なぜなら、相手の主張を理解できない限り、相手に正しく反応することはできないからです。その理解力をつけるには、聴き取りや会話の練習だけでなく、相手の話の内容を把握し反応できる語彙力のレベルアップが不可欠ですが、そのためにはさまざまな英文を読むことが必要です。

また、表現力は、会話や作文の練習を通じてのみならず、英語の文章を注意深く読み、その語彙やフレーズを自在に使えるよう蓄積していくことによっても、高められます。

2. 積極的・自主的に学習に取り組むこと。

週に数コマの英語の授業を受講するだけで必要な英語力が身につけられたり、留学準備ができたりするわけではありません。各授業の予習・復習をしっかりと行うのは当然のこと、それ以外にも日常的に英語に触れる環境を自分で作りましょう。やる気さえあれば、TV・ラジオの学習講座、新聞、雑誌、インターネット、映画（DVD 含む）など、コストをかけず簡単に利用できる英語教材はいくらでもあります。

また、特に SA 英語圏留学を控えた学生については、英語を学習する、というレベルにとどまらず、日本・留学先の文化・社会について英語で書かれた文献を読むなど、英語で学習することも重要です。

英語 1 ～ 8 の学習目標

*以下に示すのは科目ごとの学習目標です。個々のクラスの授業の詳細については、各クラスのシラバスを参照してください。

■英語 1

長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。高校時代に培った文法と発音のおさらいをするとともに、現代の時事的な諸問題を扱った論説文・エッセイを読むうえで必要とされる語彙力を増やします。各自、予習・復習の際には辞書を引く労力を惜しまず、辞書的情報を有効に活用する訓練を行う必要があります。具体的には、なるべく辞書に頼らないで新聞や雑誌を読む力を養うことが目標です。

■英語 2

比較的短く簡単な内容の発話の意味を速やかにとらえる能力と、身近な事柄について自分の考えを口頭や文章で簡潔に伝達する力を養います。具体的には、海外旅行や英語圏への留学を想定して、日常生活のさまざまな場面に対応できるリスニング・表現能力の習得を目指します。聞き取り練習に加え、教材内容に関する英語による質疑応答、口頭や文章による簡単な意見交換などの訓練を行います。

English 2 will focus on fostering the abilities to: 1) quickly grasp the meaning and content of relatively short simple utterances, and 2) concisely communicate verbally or in written sentences personal thoughts concerning familiar matters. The aim of the course is for students to develop the communicative skills necessary to deal with situations they may experience while traveling overseas or studying abroad in an English-speaking country. In addition to listening comprehension practice, teaching materials dealing with English question and answer styles, and the written and verbal exchange of opinions on simple topics should be presented and practiced.

■英語 3

英語 1 からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。速く読み取るためには、豊富な語彙と英文の構成をすばやく把握する力が前提となります。また、読んだ英文の要約や、あるいは関連するトピックの意見や論を、短い英文にまとめるパラグラフ・ライティングの練習も行います。

■英語 4

英語 2 から発展させて、長めのまとまった発話を理解し、それに対する自分の意見をさらに高いレベルで表現できるようにします。例えば、特定のテーマについての口述や文書（スピーチ、インタビュー、ニュース解説など）を的確に把握し、その内容を自らの英語で要約したり、意見を発表したりする訓練を行います。

Building on what was studied in English 2, English 4 will develop students' ability to understand longer, more sizable pieces of discourse, and to express their opinions about the themes by using higher level or more complex expressions. For example, after

students listen to specific styles of verbal discourse (speeches, interviews and news commentaries, etc.), they are required to accurately interpret what the speakers mean to say. Then the students make English summaries of the materials by using their own words, and finally present their individual opinions related to the discourse.

■英語 5

English 5 is the first English class offered exclusively to FIC students wishing to do their Study Abroad in an English-speaking country and taught only in English. For many students, it will be their first experience in an all-English Communicative Language Teaching classroom where translation of English into Japanese is neither required nor encouraged. The course will focus on helping students to become more independent learners. The goal of the course is to develop students' ability to use English to express their opinions more easily, find and analyze information from various forms of media and acquire useful vocabulary without being slaves to their dictionaries. Course activities will include pair work, group work, classroom discussions, and writing short papers.

■英語 6

English 6 is the follow up course to English 5. The course will focus on helping students acquire the critical reading and listening strategies necessary for students to become more independent learners that can deal with the educational expectations and learning environments commonly found in English-speaking countries. The goal of the course is to develop students' reading and listening skills as not only passive receptive tasks, but also as interactive processes, which lead to thinking, speaking and writing. Course activities and content will include extensive practice listening to and reading from contemporary issue-based materials, classroom discussion of those materials, writing opinion papers based on those materials, and making presentations on related topics.

■英語 7

半年後の SA 英語圏留学を意識して「読む力」をつけることを目標とします。具体的には、留学先で課されるテキスト・参考書や課題の量に対応できる読解スピードの強化をめざします。そのため、逐語的な訳読ではなく、論旨に沿ってなるべく英語のまま正確に把握できるような「読み方」を指導します。

テキストは、英語圏の社会・文化を知るためのノンフィクション・ジャンルのものから各教員によって適宜選択されます。

■英語 8

半年後の SA 英語圏留学を意識して、自分の意見や考えをわかりやすく正確な英文で表現し、伝達する力を養います。現代の生活や文化に密接に関連したテーマをとりあげて、文法や語彙の知識を再点検しながら、文単位での和文英訳ではなく、論理的な構成をそなえたパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなるエッセイないしペーパー

一を書けるようにします。またテーマを定めて、プレゼンテーションやスピーチを行う練習もします。

Students will start their study abroad programs in English-speaking countries within 6 months, and so need to further develop their communication skills to easily and accurately express their ideas and opinions in a comprehensible way. Themes should be chosen from topics closely relating to modern life and culture. While knowledge of grammar and vocabulary may be reexamined, the focus should not be on translating units of Japanese into English. Rather logical constructions such as writing paragraphs should be presented and practiced. By the end of the course, students should be expected to be able to write multi-paragraph essays or full papers. In addition, presentations and speeches related to those themes should also be practiced.

4 群選択科目での必修科目の代替について

配当年次における通常の履修か再履修かに関わらず、英語 1 ～ 8 を 4 群選択科目で代替することはできません。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容
が記載されていないことがあります。

春学期はロマン主義とライン川を出発点として、様々な文学名所を体験しながら、ドイツ語とドイツ文化を探索。

- 到達目標**
- 。「文学名所」というテーマを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
 - 。映画の解釈方法を身につける。
 - 。異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）： 60%

学期末試験： 40%

受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

ARSa200LA	
ドイツ語の世界 L B	2017 年度以降入学者
ARSa100LA	
ドイツ語の世界 II	2016 年度以前入学者
D. ハイデンライヒ	
授業コード：R4296	2017 年度以降入学者
授業コード：P0402	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） *Deutsche Charaktere, Figuren und Helden* 《ドイツのシンボルキャラクター》。秋学期はハーメルンの笛吹き男、ミュンヒハウゼン男爵、カスパー・ハザー：このようなドイツで生み出されたシンボルキャラクターが、なぜ世代を越え、国を越え多くの人々に愛されるのかという問いを考察しながらドイツ語とドイツ文化を探索。

- 到達目標**
- 。「シンボルキャラクター」というテーマを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
 - 。映画の解釈方法を身につける。
 - 。異文化理解能力を高める。

成績評価の方法と基準 平常点（課題提出も含む）： 60%

学期末試験： 40%

受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

ARSa200LA	
フランスの文化と社会 LA	2017 年度以降入学者
ARSa300LA	
フランスの文化と社会 I	2016 年度以前入学者
篠原 学	
授業コード：R5291	2017 年度以降入学者
授業コード：P6661	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次： 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、フランスの文化と社会をさまざまな角度から検討します。春学期にはとくに芸術面に力点を置き、フランスの地理、食文化、美術、音楽、文学および思想について扱います。一般的なフランスのイメージから出発して、ときにはそれを大きく塗り替えながら、フランスという国についての知識を深めていくことが目標です。いわゆる「フランス料理」の本来の多様性、美術史における印象派の意義、音楽における古楽からクラシックへの展開、シャンソンの位置づけ、文学と思想の影響関係等々について学びます。フランスに関心のある学生を対象としており、フランス語を履修している必要はありません。

到達目標 この授業は、フランスに関する知識と関心を深めることを目標としています。この授業をつうじて、異文化理解への第一歩を踏み出すことができると同時に、観光やマスメディアなどの分野で役立つ基礎知識を学ぶことができます。また、自文化を相対化する視座を開くうえでも、フランス的なものの見方や文化的な価値観を知ることは非常に有効です。

ARSa200LA	
ドイツの文化と社会 LA	2017 年度以降入学者
ARSa200LA	
ドイツの文化と社会 I	2016 年度以前入学者
内田 俊一	
授業コード：R4297	2017 年度以降入学者
授業コード：P6659	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次： 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「ローレライ」や「野ばら」、「菩提樹」、シューベルトやブラームスらによる「子守歌」等々のドイツ歌曲は誰でも知っているでしょう。またドイツ民謡の歌詞だけを変えて、日本で唱歌として歌われてきたものは、かなりあります。メロディーを聴けば、ああ、あの曲かとわかるでしょう。CD等を使ってそのような歌の数々を鑑賞し、ドイツ語の歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしましょう。さらに、取り上げた曲の背後にある、成立当時の社会状況等についての解説も加えます。そのようにしてドイツ文化の一端に触れ、教養を深めることが目標です。

到達目標 ドイツの文化や社会についての知見を広げることができる。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行います。受講者数が少ない場合は、平常点のみの評価になるかもしれませんが、その場合でもドイツ語未習者には必ず試験（歌詞の和訳）を課します。成績評価基準：試験 50 % + 平常点 50 %

ARSa200LA	
ドイツの文化と社会 LB	2017 年度以降入学者
ARSa200LA	
ドイツの文化と社会 II	2016 年度以前入学者
内田 俊一	
授業コード：R4298	2017 年度以降入学者
授業コード：P6660	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次： 2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、ドイツ語の歌を鑑賞し、歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしましょう。そのようにしてドイツの文化の一端に触れ、教養を深めることが目標です。なお、ドイツ語未修者の秋学期のみの履修は認めません。

到達目標 ドイツの文化や社会についての知見を広げることができる。

成績評価の方法と基準 授業最終日に試験を行います。受講者が少ない場合は平常点のみの評価になるかもしれませんが、その場合でも、ドイツ語未修者には必ず試験（歌詞の和訳）を課します。成績評価基準：試験 50 % + 平常点 50 %

ARSa200LA	
ドイツ語の世界 L A	2017 年度以降入学者
ARSa100LA	
ドイツ語の世界 I	2016 年度以前入学者
D. ハイデンライヒ	
授業コード：R4295	2017 年度以降入学者
授業コード：P0401	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） *Literarische Plätze* 《文学名所》

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくリアクションペーパーで、主体的に取り組めているかどうかを判断します。（40％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（60％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

ARSa200LA	
フランスの文化と社会 LB	2017 年度以降入学者
ARSa300LA	
フランスの文化と社会 II	2016 年度以前入学者
篠原 学	
授業コード：R5292	2017 年度以降入学者
授業コード：P6662	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、フランスの文化と社会をさまざまな角度から検討します。秋学期にはとくに法・制度面に力点を置き、フランスの言語、歴史、ライシテ（脱宗教性）、移民問題、パリテ（男女同数）、パックス（民事連帯契約）等について扱います。フランスの歴史を学んでいくと、現行の制度がどのような必然性をもって運用されているかがわかります。その観点から、フランスの政治・教育制度やライシテの理念、パリテやパックスの理想、さらにはヨーロッパにおけるフランスの位置どりについて学びます。また、最後には、こうした多面的なフランス社会を映し出す鏡としての、フランス映画を鑑賞します。フランスに関心のある学生を対象としており、フランス語を履修している必要はありません。

到達目標 この授業は、フランスに関する知識と関心を深めることを目標としています。この授業をつうじて、異文化理解への第一歩を踏み出すことができると同時に、観光やマスメディアなどの分野で役立つ基礎知識を学ぶことができます。また、自文化を相対化する視座を開くうえでも、フランス的なものの見方や文化的な価値観を知ることが非常に有効です。

成績評価の方法と基準 毎回提出していただくリアクションペーパーで、主体的に取り組めているかどうかを判断します。（40％）
また、学期末にレポートを書いていただきます。（60％）授業のなかで説明した論述の書き方を踏まえているかどうか、授業との関連性が明確であるかどうかをもとに、判断します。
授業への参加状況（発言・質問など）も、成績評価にあたっては加味されます。

ARSa200LA	
フランス語の世界 L A	2017 年度以降入学者
ARSa100LA	
フランス語の世界 I	2016 年度以前入学者
竹本 研史	
授業コード：R5271	2017 年度以降入学者
授業コード：P0403	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語は、英語の次に世界で使用されており、国際連合の公用語の 1 つにもなっています。ただし、「フランス語の世界」と銘打っておりますが、この授業は語学の授業というわけではありません。もちろん言語と文化は、密接な関係を有しております。しかしながら、世界の各地にはフランス語を基軸としながらも多様な文化が広がっているはずで、また、フランスそれ自体が多民族国家であり、「フランス文化」と 1 つにくれるものではありません。そこで、本講義では、「フランス語圏文化」という観点から、視聴覚教材も積極的に利用しつつ、フランスを中心とする多様なフランス語圏の社

会や文化と一緒に解剖していきましょう。

到達目標 それぞれが豊かな広がりを持つ映画、音楽、美術、建築などの芸術文化を通じて、フランス語圏文化の多様さへの理解を深めることによって、多様な価値観を受容することを目的とします。

成績評価の方法と基準 各回に提出してもらったコメントシート [20%]、および学期末におこなう筆記試験 [80%] により評価。

ARSa200LA	
フランス語の世界 L B	2017 年度以降入学者
ARSa100LA	
フランス語の世界 II	2016 年度以前入学者
竹本 研史	
授業コード：R5272	2017 年度以降入学者
授業コード：P0404	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語は、英語の次に世界で使用されており、国際連合の公用語の 1 つにもなっています。ただし、「フランス語の世界」と銘打っておりますが、この授業は語学の授業というわけではありません。もちろん言語と文化は、密接な関係を有しております。しかしながら、世界の各地にはフランス語を基軸としながらも多様な文化が広がっているはずで、また、フランスそれ自体が多民族国家であり、「フランス文化」と 1 つにくれるものではありません。そこで、本講義では、「フランス語圏文化」という観点から、視聴覚教材も積極的に利用しつつ、フランスを中心とする多様なフランス語圏の社会や文化と一緒に解剖していきましょう。

到達目標 海外県・海外領土なども含めたフランス国内の地方文化、ならびにフランス以外のフランス語圏の文化、そしてフランス社会に関する学習を通じて、ア・プリオリに捉えられてきた「フランス文化」を内部と外部から照射することで解体し、フランス語圏文化の多様さへの理解を深めることによって、多様な価値観を受容することを目的とします。

成績評価の方法と基準 各回に提出してもらったコメントシート [20%]、および学期末におこなう筆記試験 [80%] により評価。

ARSa200LA	
フランス生活文化論 LA	2017 年度以降入学者
徳井 淑子	
授業コード：R5293	2017 年度以降入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランスの生活文化について、特にファッション文化を対象とし、それを通してみえる生活感情の歴史を解説します。時代のファッションが、いかに時代の人びとの感性を示し、それが今日の生活のなかにいかに定着しているのか、日本人の感性との比較も視野に入れてフランスの生活文化の特質を示します。本講では特に色と文様の表象を切り口とします。

到達目標 ファッションあるいは風俗に関わるフランス語の歴史を学ぶことができます。また服飾表現の豊かさを知ることにより、現代ファッションを批評するちからを養うことができます。さらに服飾文化の分析をいかに行い、そこからなにがわかるのか、ファッションをテーマとして研究する際の資料の探し方、方法のあり方を身につけることができます。

成績評価の方法と基準 学期末試験（70％）
授業への参加度とリアクションペーパーによる理解度（30％）

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

ARSa200LA	
フランス生活文化論 LB	2017 年度以降入学者
徳井 淑子	
授業コード：R5294 開講時期：秋学期	2017 年度以降入学者
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランスの生活文化について、特にファッション文化を対象とし、それを通してみえる生活感情の歴史を解説します。時代のファッションが、いかに時代の人びとの感性を示し、それが今日の生活のなかにいかに定着しているのか、日本人の感性との比較も視野に入れてフランスの生活文化の特質を示します。本講では特に異国・懐古趣味を中心に、またブランドやジェンダー規範など現代の問題にも言及します。

到達目標 ファッションあるいは風俗に関わるフランス語の歴史を学ぶことができます。また服飾表現の豊かさを知ることにより、現代ファッションを批評するちからを養うことができます。さらに服飾文化の分析をいかにに行い、そこからなにがわかるのか、ファッションをテーマとして研究する際の資料の探し方、方法のあり方を身につけることができます。

成績評価の方法と基準 学期末試験（70％）
授業への参加度とリアクションペーパーによる理解度（30％）

ARSa200LA	
ロシアの文化と社会 LA	2017 年度以降入学者
ARSa200LA	
ロシアの文化と社会 I	2016 年度以前入学者
佐藤 千登勢	
授業コード：R6243 授業コード：P6663 開講時期：春学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくとも履修できます。**SA** ロシアに向かう予定の2年生は事前学習の一環として、必ず履修してください。
ロシアは、峻厳で美しい自然、深くて豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりです。

到達目標 この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

成績評価の方法と基準 レヴューシート（50％）、期末レポート（50％）の基準により判断します。

ARSa200LA	
ロシアの文化と社会 LB	2017 年度以降入学者
ARSa200LA	
ロシアの文化と社会 II	2016 年度以前入学者
小西 昌隆	
授業コード：R6244 授業コード：P6664 開講時期：秋学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の授業に引き続き、ロシアの文化の多様性を見ていきます。春学期に得た情報を基に、さらにそこに新たな領域・ジャンルの知識を積み重ねていくことになりますので、各自がロシアのイメージを整理しつつ、吸収していったほしいと思います。

到達目標 この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

成績評価の方法と基準 レヴューシート（50％）、期末レポート（50％）の基準により判断します。

ARSe200LA	
中国の文化と社会 L A	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
中国の文化と社会 I	2016 年度以前入学者
山本 律	
授業コード：R7447 授業コード：P6665 開講時期：春学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。
映画は、その時代の社会を映し出します。

今学期は、近年中国で若者を中心に人気を博した映画を題材に、これらの映画がなぜ製作されたのか、なぜ人気を博したのかについて考えてみたいと思います。

到達目標 中国の文化と社会についての理解を深めます。

成績評価の方法と基準 平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60％、レポート40％

ARSe200LA	
中国の文化と社会 L B	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
中国の文化と社会 II	2016 年度以前入学者
山本 律	
授業コード：R7448 授業コード：P6666 開講時期：秋学期	2017 年度以降入学者 2016 年度以前入学者
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。
映画は、その国の文化と社会を映し出します。
今期では、中国文化を語るうえで欠くことのできない中国武術、いわ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

ゆるカンフー映画を題材に、なぜ中国でカンフー映画が人気を博しているのか、中国の人々はカンフー映画に何をみているのかについて考えていきたいと思います。

- 到達目標
- 中国の文化と社会についての理解を深めます。
- 成績評価の方法と基準
- 平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60％、レポート40％

ARSe200LA		
中国の文化と社会 L C		2017 年度以降入学者
ARSe200LA		
中国の文化と社会 I		2016 年度以前入学者
鈴木 直子		
授業コード：R7449		2017 年度以降入学者
授業コード：P6681		2016 年度以前入学者
開講時期：春学期		
※定員制 履修可能年次：2～4 年		

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、主に中国の演劇作品を通して、中国の文化や社会に対する知識や理解を深めることを目標としている。春学期は特に演劇からみた日中交流史について学んでいく。隣国である中国の人々が慣れ親しんできた文化とは一体どのようなものなのか。実際の作品に触れることで、中国の人々と共通の話題が生まれ、また自国の文化についても再認識する契機となる。日中交流の歴史から、これからの日中関係についても考えてみて欲しい。

作品鑑賞では字幕のない映像を使用することもあるので、中国語を履修していることが望ましい。

- 到達目標
1. 中国の演劇作品に描かれる時代背景や社会情勢を理解することができる。
2. 作品を通じて理解したことや疑問点を整理し、まとめることができる。
3. 自国の文化との相違点について比較し考察できる。
4. これまでの日中交流の歴史を回顧し、その上で今後の自分たちの時代の日中関係についても各自の考えを持ち、述べることができる。

成績評価の方法と基準 各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。最終授業時には記述式の期末試験を行う。
平常点（15 点）、リアクションペーパー（35 点）、期末試験（50 点）

ARSe200LA		
中国の文化と社会 L D		2017 年度以降入学者
ARSe200LA		
中国の文化と社会 II		2016 年度以前入学者
鈴木 直子		
授業コード：R7450		2017 年度以降入学者
授業コード：P6682		2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期		
※定員制 履修可能年次：2～4 年		

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では、主に中国の演劇、映画作品を通して、中国の文化や社会に対する知識や理解を深めることを目標としている。秋学期は実際の演劇作品や映画を鑑賞していく。

隣国である中国の人々が慣れ親しんできた文化とは一体どのようなものなのか。実際の作品に触れることで、中国の人々と共通の話題が生まれ、また自国の文化についても再認識する契機となる。

作品鑑賞では字幕のない映像を使用することもあるので、中国語を履修していることが望ましい。

- 到達目標
1. 中国の演劇作品に描かれる時代背景や社会情勢を理解することができる。
2. 作品を通じて理解したことや疑問点を整理し、まとめることができる。
3. 自国の文化との相違点について比較し考察できる。

成績評価の方法と基準 各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。最終授業時には記述式の期末試験を行う。

平常点（15 点）、リアクションペーパー（40 点）、期末試験（45 点）

ARSe200LA		
中国語の世界 L A		2017 年度以降入学者
ARSe100LA		
中国語の世界 I		2016 年度以前入学者
渡邊 大		
授業コード：R7445		2017 年度以降入学者
授業コード：P0407		2016 年度以前入学者
開講時期：春学期		
※定員制 履修対象：＜2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年		

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語ということばを通して、中国人や中国文化、また、中国という国について考えます。

到達目標 中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、中国語ということばを通してみえる世界が、日本語を通してみる世界とはいかに違うか、を実感してもらえればと思います。また、ことばについて知ること、我々自身についても新しい発見をしたり、新しいものの見方ができるような授業を心がけます。

成績評価の方法と基準 出席（2 割）、授業への取り組み（2 割）、試験（6 割）によって評価します。

ARSe200LA		
中国語の世界 L B		2017 年度以降入学者
ARSe100LA		
中国語の世界 II		2016 年度以前入学者
渡邊 大		
授業コード：R7446		2017 年度以降入学者
授業コード：P0408		2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期		
※定員制 履修対象：＜2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年		

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語を表記する文字体系である漢字にまつわることがらを通して、中国的思考法について考えます。

到達目標 中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、漢字という文字体系が、中国語や中国的思考法といかに結びついているのか、を理解してもらえればと思います。

成績評価の方法と基準 出席（2 割）、授業への取り組み（2 割）、レポート・試験（6 割）によって評価します。

ARSa200LA		
スペイン語の世界 L A		2017 年度以降入学者
ARSa100LA		
スペイン語の世界 I		2016 年度以前入学者
塩崎 公靖		
授業コード：R8305		2017 年度以降入学者
授業コード：P0409		2016 年度以前入学者
開講時期：春学期		
※定員制 履修対象：＜2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年		

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

到達目標 本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

とくに、言語・地域・文化を軸に、スペインやスペイン語圏の社会の多様性を学ぶことにより、既存の枠組みを再考し、多様性を有する社会のあり方について捉えなおすきっかけを提供したい。

成績評価の方法と基準 プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容と出席で総合評価する。
出席は毎回配布するコメントシートの提出をもって、出席とみなし、3回以上の欠席は不可とする。

ARSa200LA	
スペイン語の世界Ⅰ B	2017 年度以降入学者
ARSa100LA	
スペイン語の世界Ⅱ	2016 年度以前入学者
塩崎 公靖	
授業コード：R8306	2017 年度以降入学者
授業コード：P0410	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

到達目標 本講義では、また、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。とくに、言語・地域・文化を軸に、スペインやスペイン語圏の社会の多様性を学ぶことにより、既存の枠組みを再考し、多様性を有する社会のあり方について捉えなおすきっかけを提供したい。

成績評価の方法と基準 プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容と出席で総合評価する。
出席は毎回配布するコメントシートの提出をもって、出席とみなし、3回以上の欠席は不可とする。

ARSe200LA	
朝鮮の文化と社会 LA	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
朝鮮の文化と社会Ⅰ	2016 年度以前入学者
李 英美	
授業コード：R9289	2017 年度以降入学者
授業コード：P6667	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。
朝鮮・韓国の文化と社会に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、そのことによって自国の日本を客観的に見る目を育むことが授業の目的である。

到達目標 春学期には、朝鮮・韓国に関する入門書のテキストに沿って、朝鮮・韓国の文化と社会を概観する。

成績評価の方法と基準 レポート50%、平常点50%をもって総合的に評価する。

ARSe200LA	
朝鮮の文化と社会 LB	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
朝鮮の文化と社会Ⅱ	2016 年度以前入学者
李 英美	
授業コード：R9290	2017 年度以降入学者
授業コード：P6668	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業では韓国・朝鮮の文化と社会全般について学ぶ。

韓国・朝鮮の文化と社会に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、そのことによって自国の日本を客観的に見る目を育むことが授業の目的である。

到達目標 秋学期には、主に現代韓国の文化と社会について、ひと通り概観することが到達目標である。

成績評価の方法と基準 レポート50%、平常点50%をもって総合的に評価する。

ARSe200LA	
日本の文化と社会 LA	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
日本の文化と社会Ⅰ	2016 年度以前入学者
小宮 修太郎	
授業コード：R3623	2017 年度以降入学者
授業コード：P6669	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 今日の日本社会の姿をいろいろな角度から見つめ、そこで起きている諸問題や私達の生き方について話し合い、ともに考えていく授業。留学生と日本人学生が集い、国際比較もしながら同時代の諸問題について語り合う。各回のテーマは、人生論的な問い、現代社会の諸問題、国際的なレベルの問題などで、受講者の希望の多いものが選ばれる。

到達目標 1. テーマに関する資料を調べ、わかりやすく発表することができる。
2. 討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
3. 異文化の人と話す中で相手の文化をよく理解し、自国の文化との違いをつかむことができる。

成績評価の方法と基準 期末にレポート形式の試験を行う。その結果と平常点（出席率と授業参加の態度と発表への評価）を総合して評価を決める。:レポートの評価（50%）、平常点の評価（50%）
出席率が60%以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

ARSe200LA	
日本の文化と社会 LB	2017 年度以降入学者
ARSe200LA	
日本の文化と社会 II	2016 年度以前入学者
小宮 修太郎	
授業コード：R3624	2017 年度以降入学者
授業コード：P6670	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修可能年次：2～4 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 今日の日本社会の姿をいろいろな角度から見つめ、そこで起きている諸問題や私達の生き方について話し合い、ともに考えていく授業。留学生と日本人学生が集い、国際比較もしながら同時代の諸問題について語り合う。各回のテーマは、人生論的な問い、現代社会の諸問題、国際的なレベルの問題などで、受講者の希望の多いものが選ばれる。ただし、後半の3つの課題については時事問題の中で担当教師が選んだものを行う。

到達目標 1. テーマに関する資料を調べ、わかりやすく発表することができる。
2. 討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
3. 異文化の人と話す中で相手の文化をよく理解し、自国の文化との違いをつかむことができる。

成績評価の方法と基準 期末にレポート形式の試験を行う。その結果と平常点（出席率と授業参加の態度と発表への評価）を総合して評価を決める。:レポートの評価（50%）、平常点の評価（50%）
出席率が 60 %以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

ARSe200LA	
日本語の世界 LA	2017 年度以降入学者
ARSe100LA	
日本語の世界 I	2016 年度以前入学者
小宮 修太郎	
授業コード：R3621	2017 年度以降入学者
授業コード：P0413	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 2～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞留学生のみ法文営キ 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） このクラスでは、留学生と日本人学生のための日本語学入門の授業を行う。言語は現代社会のコミュニケーションの道具でもあるが、過去の時代から受けつがれ、形成されてきた文化的な産物でもある。そのようにしてできた言語の諸側面を見つめながら、日本語への理解を深めてもらうのが主な目的である。留学生の皆さんにとっては、読んだり話したりする中で日本語の力を伸ばしていく場にもなると思う。

到達目標 1. 日本語の諸側面について体験をもとに考える力を身につける。
2. 話し合いの中で相手の意見をよく理解しつつ、自分の意見を言うことができる。
3. あるテーマについて、自分または自分たちが考えたことをわかりやすく発表することができる。

成績評価の方法と基準 予習宿題の提出率 (25%)、期末テストの評価 (25%)、平常点 (50%) を総合して評価を決める。
出席率が 60%以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

ARSe200LA	
日本語の世界 LB	2017 年度以降入学者
ARSe100LA	
日本語の世界 II	2016 年度以前入学者
小宮 修太郎	
授業コード：R3622	2017 年度以降入学者
授業コード：P0414	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 2～4 年、＜ 2016 年度以前入学生＞留学生のみ法文営キ 1～3 年	

授業の概要と目的（何を学ぶか） このクラスでは、留学生と日本人学生のための日本語学入門の授業を行う。言語は現代社会のコミュニケーションの道具でもあるが、過去の時代から受けつがれ、形成されてきた文化的な産物でもある。そのようにしてできた言語の諸側面を見つめながら、日本語への理解を深めてもらうのが主な目的である。留学生の皆さんにとっては、読んだり話したりする中で日本語の力を伸ばしていく場にもなると思う。

到達目標 1. 日本語の諸側面について体験をもとに考える力を身につける。
2. 話し合いの中で相手の意見をよく理解しつつ、自分の意見を言うことができる。
3. あるテーマについて、自分または自分たちが考えたことをわかりやすく発表することができる。

成績評価の方法と基準 予習宿題の提出率 (25%)、期末テストの評価 (25%)、平常点 (50%) を総合して評価を決める。
出席率が 60%以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

LANd100LA	
ドイツ語 1	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 1	2016 年度以前入学者
林 志津江	
授業コード：R4121	2017 年度以降入学者
授業コード：E2301	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングです。**SA** ドイツ語圏での留学準備として、この「ドイツ語 1」と「ドイツ語 3」（秋学期開講）とあわせて、初級文法の基礎固めをします。基本的なドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、ドイツ語のテキストの読解にも徐々に慣れていきましょう。ドイツ語学習を通して「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

到達目標 第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読むとともに、自らもドイツ語で少しずつアウトプット（作文）ができるようになることです。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」をつねに反省できる学習者になること、その意義を理解できる学習者になることです。1 年次のうちに「自分の学び方」を意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

成績評価の方法と基準 授業への積極的な参加 30 %、小テストと提出物 40 %、試験 30 %を合わせ、総合的に評価します。

LANd100LA	
ドイツ語 1	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 1	2016 年度以前入学者
林 志津江	
授業コード：R4127	2017 年度以降入学者
授業コード：E2311	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。発音の規則を習得するとともに、平易なドイツ語で書かれた文章の読解や会話練習を通じて、ドイツ語文法の基礎を学びます。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

到達目標 第一の目標は、ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現といったドイツ語の基礎知識の習得です。そしてもう一つの目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

成績評価の方法と基準 授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物・小テストなどの成果を合わせて評価する平常点（40％）および学期末試験（60％）の総合評価。

LANd100LA	
ドイツ語 2	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 2	2016 年度以前入学者
アネッテ・グルーバー	
授業コード：R4123	2017 年度以降入学者
授業コード：E2303	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

到達目標 当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。**Basic** な言語運用能力の一層の定着を目指す。

成績評価の方法と基準 各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60％
この講座は演習的要素が強いので、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40％
遅刻はしないこと。

LANd100LA	
ドイツ語 2	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 2	2016 年度以前入学者
ウテ・シュミット	
授業コード：R4129	2017 年度以降入学者
授業コード：E2313	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語で話してみましょう

到達目標 この授業では特に会話能力とリスニングの力をつけながらドイツ語のコミュニケーション能力の育成をはかります。ドイツ語を積極的に使えるように授業を進めたいと思います。
授業では初級文法を学び、聴解力・読解力・表現力における弱点を補強し、基礎を確実なもの、使えるものとすることを目標にしています。

成績評価の方法と基準 授業への参加態度（発言）（30％）
提出した宿題（30％）
2-3 回の小テスト（40％）
総合的に評価する

LANd100LA	
ドイツ語 3	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 3	2016 年度以前入学者
林 志津江	
授業コード：R4122	2017 年度以降入学者
授業コード：E2302	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語 1 に引き続き、初級文法の理解・習得を中心にドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングを行います。**SA** ドイツ語圏での留学準備に重点を置き、ドイツ語圏の多様性にも触れながら、ドイツ語圏の滞在に必要な基礎的ドイツ語運用能力の習得を目指します。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

到達目標 第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読み、また自らドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。ドイツ語 1 の学習項目を積み上げながら、自分がさらに多くの表現に触れていることを実感してもらいたいと思います。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省する意義を理解できる学習者になることです。ぜひ 1 年次のうちに、自身の学び方そのものを意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

成績評価の方法と基準 授業への積極的な参加 30％、小テストと提出物 40％、試験 30％を合わせ、総合的に評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANd100LA	
ドイツ語 3	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 3	2016 年度以前入学者
林 志津江	
授業コード：R4128	2017 年度以降入学者
授業コード：E2312	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。春学期の「ドイツ語 1」に続き、初級文法の基礎を学びます。簡単なドイツ語を読み、書き、話すためのトレーニングとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。

到達目標 春学期の学びを継続するかたちで、ドイツ語の発音の規則を定着させ、初級文法、簡単な文章表現といったドイツ語の基礎知識の習得を目指します。それとともに、ドイツ語（外国語）学習を通じて「コミュニケーション」のあり方について考えます。ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

成績評価の方法と基準 授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物・小テストの成果を合わせて評価する平常点（40％）および二回行う試験（60％）の総合評価。

LANd100LA	
ドイツ語 4	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 4	2016 年度以前入学者
アネッテ・グルーバー	
授業コード：R4124	2017 年度以降入学者
授業コード：E2304	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

到達目標 当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

成績評価の方法と基準 各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60％
この講座は演習の要素が強いので、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40％
遅刻はしないこと。

LANd100LA	
ドイツ語 4	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 4	2016 年度以前入学者
ウテ・シュミット	
授業コード：R4130	2017 年度以降入学者
授業コード：E2314	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語を話してみよう

到達目標 この授業では特に会話能力とリスニングの力をつけながらドイツ語のコミュニケーション能力の育成をはかります。ドイツ語を積極的に使えるように授業を進めたいと思います。
授業では初級文法学び、聴解力・読解力・表現力における弱点を補強し、基礎を確実なもの、使えるものとするを目標にしています。

成績評価の方法と基準 授業への参加態度（発言）（30％）
提出した宿題（30％）
2-3 回の小テスト（40％）
総合的に評価する。

LANd100LA	
ドイツ語 5	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 5	2016 年度以前入学者
遠藤 浩介	
授業コード：R4125	2017 年度以降入学者
授業コード：E2305	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するための授業です。SA ドイツ語圏での留学準備として、コミュニケーション能力を中心とした、基本的なドイツ語運用能力の習得を目指します。またドイツ語学習を通して「自分なりの外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

到達目標 1. 日常的な状況で用いる平易なドイツ語を習得し、相手の言っていることを理解するだけでなく、こちらからアウトプットできるようにする。
2. ドイツ語学習を踏まえて、自分なりの外国語の学び方を身につける。
3. ドイツ語（外国語）の学習を通じて、自分の思考や感情を言語化する能力、とりわけ他者との言語コミュニケーションの能力を向上させる。

成績評価の方法と基準 授業への積極的な参加50％、小テストと提出物20％、試験30％を合わせ、総合的に評価します。とりわけ授業への積極的な参加を重視します。

LANd100LA	
ドイツ語 6	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 6	2016 年度以前入学者
遠藤 浩介	
授業コード：R4126	2017 年度以降入学者
授業コード：E2306	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ドイツ語 5 に引き続き、SA ドイツ語圏での留学準備として、コミュニケーション能力を中心とした、基本的なドイツ語運用能力の習得を目指します。またドイツ語学習を通して、「自分なりの外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

到達目標 1. 日常的な状況で用いる平易なドイツ語を習得し、相手の言っていることを理解するだけでなく、こちらからアウトプットできるようにする。
2. ドイツ語学習を踏まえて、自分なりの外国語の学び方を身につける。
3. ドイツ語（外国語）の学習を通じて、自分の思考や感情を言語化する能力、とりわけ他者との言語コミュニケーションの能力を向上させる。

成績評価の方法と基準 授業への積極的な参加 5 0 %、小テストと提出物 2 0 %、試験 3 0 % を合わせ、総合的に評価します。とりわけ授業への積極的な参加を重視します。

LANd200LA	
ドイツ語 7	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語 7	2016 年度以前入学者
林 志津江	
授業コード：R4261	2017 年度以降入学者
授業コード：E2307	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 前年度の「ドイツ語 1」「ドイツ語 3」の継続授業という位置付けです。SA ドイツ語圏での留学に対する事前準備として、ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏の滞在に必要なドイツ語運用能力の獲得とさらなる向上を目指します。

到達目標 ドイツ語圏の日常生活に必要な語彙表現を獲得し、自ら積極的にドイツ語でアウトプットができるようになること。ドイツ語圏の社会や文化事情に関するドイツ語の文章を読んで理解し、そうしたテーマに関し少しずつ抽象的な議論ができるようになること。留学地での生活に適應するための能力と心構えの獲得が最大の目標です。

成績評価の方法と基準 授業への積極的な参加 30 %、小テスト（文法、部分作文、ディクテーション）40 %、試験 30 % を合わせた総合評価。

LANd200LA	
ドイツ語 8	2017 年度以降入学者
LANd200LA	
ドイツ語 8	2016 年度以前入学者
遠藤 浩介	
授業コード：R4262	2017 年度以降入学者
授業コード：E2309	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） SA によるドイツ語圏留学の準備として、現地で授業を理解し、留学生活を送るために必要なドイツ語運用能力を高めることを目的とします。とりわけ、現地では日本の日常生活以上に積極的な発言や自己表現が要求されるため、そのような意識を持っていただくこと、そしてわからないことに戸惑わない「図太さ」を養うことも、この授業の目的です。

到達目標 SA に参加し、十分な成果を修めることができるために必要なドイツ語運用能力を身につける。

成績評価の方法と基準 小テストと期末試験によって評価する。留学生活に必要な知識力と理解力、ドイツ語運用能力を獲得しているかが基準となる。

小テスト：30 %

授業への積極的な参加：30 %

期末試験：40 %

LANf100LA	
フランス語 1	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 1	2016 年度以前入学者
岡村 民夫	
授業コード：R5091	2017 年度以降入学者
授業コード：E3301	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語 2・フランス語 5 とトリオの科目です。フランス語学習初心者を対象とし、初歩のフランス語を、文法の体系的学習を中心に学びながら、あわせてフランス語圏の文化に親しんでいきます。

到達目標 SA アンジェに備え、春semester終了時、少なくとも秋semester終了時には、フランス語実用技能検定試験（仏検）5 級合格に相当する語学力の習得をめざします。

成績評価の方法と基準 授業内評価 40 % + 期末試験 60 %（4 回以上の欠席や、未受験は E 評価となります）

LANf100LA	
フランス語 1	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 1	2016 年度以前入学者
廣松 勲	
授業コード：R5097	2017 年度以降入学者
授業コード：E3311	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は「SA 先でフランス以外を

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

選んだ国際文化学部 の学生」を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とします。

そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけでなく、できるだけ的確に反応する練習も行います。ただし、文法規則の解説も確りと行います。

さらに、本授業では「フランス共和国のフランス語を超えて、フランス語圏のフランス語へ」という観点に身に付けるために、「フランス語圏（＝フランコフォニー）」についても、時に資料・映像・音声を用いて簡単に紹介します。

到達目標 本授業は秋学期の「フランス語 3」に繋がる授業です。一年を通じて初級フランス語の知識を習得することで、簡単な日常会話ができるようになり、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができます。特に、フランス語学習において課題となる「発音の基礎」「動詞活用」「冠詞・名詞・形容詞の性数一致」「肯定・否定・疑問の構文」等を集中的に扱うことで、自発的な発話と筆記ができるようになります。

加えて、フランス語がフランス共和国のみならず、フランスの旧植民地を含めた世界各地でも話される言語であることをイメージできるようになります。それと付随して、言語的・文化的に微妙な差異（訛りなど）が有する魅力を感じ取ることができるようになります。

成績評価の方法と基準 評価配分は、以下の通り
①平常点： 30 %（宿題および文法ノートの提出、小テスト、授業への参加度など）
②期末試験： 70 %

LANf100LA	
フランス語 1	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 1	2016 年度以前入学者
中村 美緒	
授業コード：R5101	2017 年度以降入学者
授業コード：E3315	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語の基本的な文法と会話を学ぶ授業です。

到達目標 簡単なフランス語を聞きとり、話すことができ、書いて読めるようになること。DELF 試験の A 1 レベルに対応しています。

成績評価の方法と基準 授業中の発言 50 %、期末試験 50 % で総合的に評価します。この授業は 4 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

LANf100LA	
フランス語 2	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 2	2016 年度以前入学者
中村 美緒	
授業コード：R5093	2017 年度以降入学者
授業コード：E3303	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語初心者を対象です。初歩のフランス語を文法の体系的学習を中心に学びます。あわせてフランス語圏の文化にも親しんでいきます。

到達目標 SA アンジェに備え、春学期の終了時にはフランス語実用技能検定試験（仏検）5 級合格に相当する語学力の習得をめざします。

成績評価の方法と基準 授業内評価 30 % + 期末試験 70 %（4 回以上の欠席や、未受験は E 評価となります）

LANf100LA	
フランス語 2	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 2	2016 年度以前入学者
コンルール ジョルジュ	
授業コード：R5099	2017 年度以降入学者
授業コード：E3313	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初めてフランス語を学ぶ学生のための授業です。

到達目標 「話す」練習をしながら「文法」を身につけます。要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力も向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

成績評価の方法と基準 平常点: 30 %
積極性: 35 %
期末試験: 35 %

LANf100LA	
フランス語 2	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 2	2016 年度以前入学者
ヴァリエヌ コリンヌ	
授業コード：R5103	2017 年度以降入学者
授業コード：E3317	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

到達目標 会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの 4 つの能力も鍛えます。

成績評価の方法と基準 出席、授業中のやる気、小テスト、期末テストの平常点。

LANf100LA	
フランス語 3	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 3	2016 年度以前入学者
岡村 民夫	
授業コード：R5092	2017 年度以降入学者
授業コード：E3302	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語 4・フランス語 6 とトリオの科目です。フランス語 1 のつづきとして、初歩のフランス語を、文法の体系的学習を中心に学びながら、あわせてフランス語圏の文化に親しんでいきます。

到達目標 SA アンジェに備え、春 semester 終了時、遅くとも秋 semester 終了時には、フランス語実用技能検定試験（仏検）5 級合格に相当する語学力の習得をめざします。

成績評価の方法と基準 授業内評価 40 % + 期末テスト 60 %

LANf100LA	
フランス語 3	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 3	2016 年度以前入学者
廣松 勲	
授業コード：R5098	2017 年度以降入学者
授業コード：E3312	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は「SA 先でフランス以外を選んだ国際文化学部の学生」を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とします。

そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけでなく、できるだけ確に反応する練習も行います。ただし、文法規則の解説も確りで行います。

さらに、本授業では「フランス共和国のフランス語を超えて、フランス語圏のフランス語へ」という観点を身に付けるために、「フランス語圏（＝フランコフォニー）」についても、時に資料・映像・音声を用いて簡単に紹介します。

到達目標 本授業は春学期の「フランス語 1」を引き継いだ授業です。一年を通じて初級フランス語の知識を習得することで、簡単な日常会話ができるようになり、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができます。特に、フランス語学習において課題となる「発音の基礎」「動詞活用」「冠詞・名詞・形容詞の性数一致」「肯定・否定・疑問の構文」等を集中的に扱うことで、自発的な発話と筆記ができるようになります。

加えて、フランス語がフランス共和国のみならず、フランスの旧植民地を含めた世界各地でも話される言語であることをイメージできるようになります。それと付随して、言語的・文化的に微妙な差異（訛りなど）が有する魅力を感じ取ることができるようになります。

成績評価の方法と基準 評価配分は、以下の通り

①平常点： 30 %（宿題および文法ノートの提出、小テスト、授業への参加度など）

②期末試験： 70 %

LANf100LA	
フランス語 3	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 3	2016 年度以前入学者
中村 美緒	
授業コード：R5102	2017 年度以降入学者
授業コード：E3316	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語の基本的な文法と会話を学ぶ授業です。

到達目標 簡単なフランス語を聞きとり、話すことができ、書いて読めるようになること。DELFT 試験の A 1 レベルに対応しています。

成績評価の方法と基準 授業中の発言 50 %、期末試験 50 %で総合的に評価します。この授業は 4 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

LANf100LA	
フランス語 4	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 4	2016 年度以前入学者
中村 美緒	
授業コード：R5094	2017 年度以降入学者
授業コード：E3304	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語初心者が対象です。初歩のフランス語を文法の体系的学習を中心に学びます。あわせてフランス語圏の文化にも親しんでいきます。

到達目標 SA アンジェに備え秋学期終了時にはフランス語実用技能検定試験（仏検）4 級合格に相当する語学力の習得をめざします。

成績評価の方法と基準 授業内評価 30 % + 期末試験 70 %（4 回以上の欠席や、未受験は E 評価となります）

LANf100LA	
フランス語 4	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 4	2016 年度以前入学者
コンルール ジョルジュ	
授業コード：R5100	2017 年度以降入学者
授業コード：E3314	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「話す」練習をしながら「文法」を身につけます。

到達目標 要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

成績評価の方法と基準 平常点: 30 %

積極性: 35 %

期末試験: 35 %

LANf100LA	
フランス語 4	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 4	2016 年度以前入学者
ヴァリエンヌ コリンヌ	
授業コード：R5104	2017 年度以降入学者
授業コード：E3318	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

到達目標 会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの 4 つの能力も鍛えます。

成績評価の方法と基準 成績評価は、出席、宿題、授業への参加態度、期末試験を総合的に評価します。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANf100LA	
フランス語 5	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 5	2016 年度以前入学者
ジョルディ・フィリップ	
授業コード：R5095	2017 年度以降入学者
授業コード：E3305	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語 1,2 で学んだフランス語を実践的に応用します。

到達目標 コミュニケーション・スキルズを中心に授業を進めます。

成績評価の方法と基準 授業への参加度を平常点とし、中間テストと期末テストが加味されます。欠席は 3 回以上で単位取得不可とします。

LANf100LA	
フランス語 6	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 6	2016 年度以前入学者
ジョルディ・フィリップ	
授業コード：R5096	2017 年度以降入学者
授業コード：E3306	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） フランス語 5 の続きですが、口頭表現と発音を重視した授業です。

到達目標 来年の留学先（SA フランス）を考慮しながら、フランス語基礎能力をのばすことを目的としています。

成績評価の方法と基準 出席率と授業への参加度を平常点とし、中間テストと期末テストが加味されます。欠席は 3 回以上で単位取得不可とします。

LANf200LA	
フランス語 7	2017 年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語 7	2016 年度以前入学者
廣松 勲	
授業コード：R5257	2017 年度以降入学者
授業コード：E3307	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） SA アンジェ参加者向けの他の授業（フランス語 8、フランス語コミュニケーションⅡ、フランス語コミュニケーションⅢ）と連携する授業である。

4 名の教員で共通する教科書①『Le Nouveau Taxi 1!』を用いて、「聞いて分かる、話す、読む、書く」というフランス語の技能を総合的に強化することを目的とする。

本授業では、教科書②『La grammaire active du français』も用いながら、文法規則に関する多くの練習問題を解き、確りと記憶に定着させることを目指す。

到達目標 教科書①『Le Nouveau Taxi 1!』の文法規則を確実に理解した上で、SA アンジェ滞在中に必要な日常表現を運用できるようになる。時間の許す範囲で、教科書②『La grammaire active du français』の

練習問題を解くことで、フランス語の基礎文法を習得する。

成績評価の方法と基準 以下の項目に鑑みて、総合的に評価する。

- ①平常点： 10 %
- ②中間試験： 40 %
- ③期末試験： 50 %

LANf200LA	
フランス語 8	2017 年度以降入学者
LANf200LA	
フランス語 8	2016 年度以前入学者
ジョルディ・フィリップ	
授業コード：R5258	2017 年度以降入学者
授業コード：E3309	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 基礎文法と初歩的な会話の復習・予習

到達目標 SA 先フランス・アンジェへ行く前の直前準備講座です。基礎文法と初歩的な会話の復習・予習を徹底し、渡仏前に留学先で困らないようしっかり最大限の準備をします。

成績評価の方法と基準 平常評価重視。小テストおよび秋学期末テストを行います。

LANr100LA	
ロシア語 1	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 1	2016 年度以前入学者
コベルニツク ナディア	
授業コード：R6031	2017 年度以降入学者
授業コード：E4301	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初めてロシア語に接する学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の読み書き、ロシア語の発音とイントネーションの規則、そして初級文法を身につけることを目的とします。

到達目標 正確にロシア文字を読み、書けること。アクセントの位置、イントネーションを正しく発音できること。ロシア語の文法の基本を説明することができること。

成績評価の方法と基準 平常点 50 %、期末試験 50 %。

LANr100LA	
ロシア語 1	2017 年度以降入学者
木部 敬	
授業コード：G9005	2017 年度以降入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA ※文学部 1 年は「ロシア語 1 I」として履修	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語入門（前篇）。1) 文字と発音の習得、2) 初級文法の最初の段階。

到達目標 ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

成績評価の方法と基準 平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが

高い評価につながります。

LANr100LA	
ロシア語 2	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 2	2016 年度以前入学者
佐藤 千登勢	
授業コード：R6033	2017 年度以降入学者
授業コード：E4303	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語 1、ロシア語 5 と連携する授業です。単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎作りをしていきましょう。また、コミュニケーション手段としてのロシア語を身近に感じてもらうために、映画や歌謡を通して、習得した表現がどのように使われているのかを確認する時間もちます。ロシアの文化や慣習とつねに結び付けながら、また英語や日本語との比較を絶えず視野に入れながらロシア語の特殊性、面白さを発見していきましょう。

到達目標 SA ロシアでの授業や生活で困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。ロシア人留学生との交流も通して、語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

成績評価の方法と基準 平常点（50 %）と期末テスト（50 %）にて総合的に評価します。

LANr100LA	
ロシア語 2	2017 年度以降入学者
土岐 康子	
授業コード：G9007	2017 年度以降入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA ※文学部 1 年は「ロシア語 2 I」として履修	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語で使用されるキリル文字の音、読み方、書き方から始めます。文字の読み書きと発音が定着した後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を復習し、練習問題などで応用力をつけながら、ロシア語の基礎を確実に身につけることを目的とします。さらに、簡単な挨拶など会話表現の練習も行います。また、ロシア語が話されている国や地域について時間が許す限り紹介し、言語を含めた文化や社会などに関する知識を深めていく授業を心掛けたいと考えています。

到達目標 キリル文字（ロシア文字）を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音できること。平叙文と疑問文のイントネーションをきちんと使い分けられること。まとまった文章を音読できること。学んだ文法を理解し、ロシア語の文章を日本語に訳せること。簡単な挨拶・表現を理解し、それに的確に応えられること。

成績評価の方法と基準 平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30 % 学期末試験 70 % の総合評価。

LANr100LA	
ロシア語 3	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 3	2016 年度以前入学者
上野 理恵	
授業コード：R6032	2017 年度以降入学者
授業コード：E4302	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語 4、ロシア語 6 と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきましょう。この授業が終わる頃には、ロシア語で平易な読み物が読めるようになり、簡単な会話表現が身に付いていることでしょう。具体的には、ロシア語能力検定試験 4 級もしくは 3 級程度の力がついているはずで、また、ロシアの豊かな芸術や文化に触れてもらうため、映像や音楽を楽しむようにします。

到達目標 SA ロシアでの授業や生活で困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。ロシア人留学生との交流も通して、語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

成績評価の方法と基準 平常点（50 %）と期末テスト（50 %）にて総合的に評価する。

LANr100LA	
ロシア語 3	2017 年度以降入学者
木部 敬	
授業コード：G9006	2017 年度以降入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA ※文学部 1 年は「ロシア語 1 II」として履修	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語入門（後編）。1）初級文法。2）会話、読解、作文。

到達目標 簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で伝えたりすることができる。

成績評価の方法と基準 平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

LANr100LA	
ロシア語 4	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 4	2016 年度以前入学者
土岐 康子	
授業コード：R6034	2017 年度以降入学者
授業コード：E4304	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語 3、ロシア語 6 と連携する授業である。練習問題やテキストの読解などを通して、ロシア語 3 で学習した文法事項の定着を目指す。授業では文法の説明などを除きできるだけロシア語を使用し、現地での学習に備えたいと考えている。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

到達目標 既習の文法事項が含まれる平易なロシア語の文章を理解することができ、正確に日本語にすることができる、ロシア語での質問を理解し、的確に答えることができる、やさしい文章や自分の考えを自分なりにロシア語で表現できる。

成績評価の方法と基準 平常点（授業参加態度、予習、課題提出を含む）30 %、学期末試験 70 %の総合評価。

LANr100LA	
ロシア語 4	2017 年度以降入学者
土岐 康子	
授業コード：G9008	2017 年度以降入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA ※文学部 1 年は「ロシア語Ⅱ」として履修	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期に引き続き、ロシア語Ⅰで学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養い、文法事項を定着させます。最終的にはロシア語の特徴である6つの格変化と動詞関連の学習を終え、用法を理解し、簡単な文章を読んで理解できることが本学期の目標となります。

到達目標 動詞の変化（現在、過去、未来、命令形）を正確に理解し、使用できること。格変化の意味と用法を理解し、使い分けられること。簡単なロシア語の文章を読み、理解できること、ロシア語を正確に日本語に訳せること、文章の内容についてロシア語での質問を理解し的確に答えられること。また、簡単な日本語の文章をロシア語で表現できること。簡単なロシア語の会話を理解し、それに的確に応えられること。

成績評価の方法と基準 平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30 %、学期末試験 70 %の総合評価。

LANr100LA	
ロシア語 5	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 5	2016 年度以前入学者
コベルニック ナディヤ	
授業コード：R6035	2017 年度以降入学者
授業コード：E4305	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初めてロシア語に接する学生を対象とした授業です。ロシア語Ⅰ、Ⅱで学んだ事項を復習しつつ、発音・リズム・イントネーション、そして平易な会話表現を確実に身につけることを目的とします。

到達目標 正確にロシア文字を読み、書けること。アクセントの位置、イントネーションを正しく発音できること。また、ロシア語の基礎的な会話表現の習得を目指します。

成績評価の方法と基準 平常点 (70%)、期末試験 (30%)。

LANr100LA	
ロシア語 6	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 6	2016 年度以前入学者
コベルニック ナディヤ	
授業コード：R6036	2017 年度以降入学者
授業コード：E4306	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期でロシア語の文字と発音に慣れた学生を対象とした授業です。初級文法の補習に加えて補助的に運用（会話）の練習をします。

到達目標 複数生格や、これと密接に関係する数詞を使った表現など、初級文法のなかで習得が困難で、かつ日常的なコミュニケーションに必須な事項をマスターすること。

成績評価の方法と基準 平常点 (50%)、期末試験 (50%)。

LANr200LA	
ロシア語 7	2017 年度以降入学者
LANr200LA	
ロシア語 7	2016 年度以前入学者
佐藤 千登勢	
授業コード：R6221	2017 年度以降入学者
授業コード：E4307	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年次に学んだロシア語文法を復習しながら、新たな文法事項（完了体・不完了体／関係代名詞／形動詞・副動詞など）を学んでいき、ロシア語文法の基礎をひとつとおり完成させることとなります。

到達目標 ロシア語の文章を辞書があれば読めるようになる段階を目指すべく長文を読む機会を多くもうけて、文法の基礎力の充実と語彙力の増大に努めます。コミュニケーションの上でも、文法力と語彙力は不可欠です。ロシアで生活しても困らないレベルのロシア語力の獲得が最終的な目標となります。

成績評価の方法と基準 平常点 (50 %) と期末テスト (50 %) にて総合的に評価します。

LANr200LA	
ロシア語 8	2017 年度以降入学者
LANr200LA	
ロシア語 8	2016 年度以前入学者
長屋 房夫	
授業コード：R6222	2017 年度以降入学者
授業コード：E4309	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ロシア語の読解と会話を両立させるために、残されている基本的な文法を終え、配布するプリントでより実践的なロシア語に触れ、会話に役立てる

到達目標 教科書「初級ロシア語」にない副動詞、形動詞を学び、同時に進んで会話ができるようになるための授業にする。ネットの記事を読

解できるように語彙を増すことを目的とします

成績評価の方法と基準 期末試験（60％）、中間テスト・宿題（20％）、
平常点（20％）で評価して 60 点以上が合格

LANc100LA	
中国語 1	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1	2016 年度以前入学者
渡辺 昭太	
授業コード：R7161	2017 年度以降入学者
授業コード：E5401	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初習者を対象に、発音・文法・
会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技
能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケー
ション能力を養う。

到達目標 この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを
理解することができる。
(2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを
表現することができる。
(3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中
国語能力を身に着ける。
(4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

成績評価の方法と基準 毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 %
評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのう
ちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの
平均点が 60 点以上の者を合格とする。

LANc100LA	
中国語 1	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1	2016 年度以前入学者
曾 士才	
授業コード：R7167	2017 年度以降入学者
授業コード：E5411	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初習者を対象に、発音・文法・
会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技
能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケー
ション能力を養う。

到達目標 この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを
理解することができる。
(2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを
表現することができる。
(3) 春学期の学習を完了した段階で、簡単な自己紹介ができるレベルの
中国語能力を身に着ける。
(4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

成績評価の方法と基準 毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 %
評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのう
ちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの
平均点が 60 点以上の者を合格とする。

LANc100LA	
中国語 1	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1	2016 年度以前入学者
後藤 淳一	
授業コード：R7171	2017 年度以降入学者
授業コード：E5417	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本
文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（出席状況・小テスト）20～30 %
期末試験 70～80 %

LANc100LA	
中国語 2	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2	2016 年度以前入学者
蔣 彥婷	
授業コード：R7163	2017 年度以降入学者
授業コード：E5403	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音の基礎および文法の基本
を学び、その中でも日本人が苦手とする「四声」をしっかりと発音でき
るよう習得させる。この授業を土台にしながら 2 年次につながる必要な
知識を身につけていく。

到達目標 中国語の発音ができる。
文法の基礎を理解する。
自己紹介や日常会話などを表現できる。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に (50 %)、学習態度や学習意欲
(20 %)、小テスト (20 %)、平常点なども (10 %) 勘案して、総合的に評
価する。

LANc100LA	
中国語 2	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2	2016 年度以前入学者
葉 会	
授業コード：R7169	2017 年度以降入学者
授業コード：E5413	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ビギナーのための初級中国語の授業
です。

到達目標 中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法習得を目
指す授業です。

成績評価の方法と基準 毎回のスピーチと小テストの成績そして授業へ
の参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価し

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

ます。

LANc100LA	
中国語 2	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2	2016 年度以前入学者
祝 振媛	
授業コード：R7172	2017 年度以降入学者
授業コード：E5418	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ

到達目標 読む、書く、聞く、話す力を身につける

成績評価の方法と基準 毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 % とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

LANc100LA	
中国語 3	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 3	2016 年度以前入学者
渡辺 昭太	
授業コード：R7162	2017 年度以降入学者
授業コード：E5402	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

到達目標 この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

成績評価の方法と基準 毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

LANc100LA	
中国語 3	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 3	2016 年度以前入学者
曾 士才	
授業コード：R7168	2017 年度以降入学者
授業コード：E5412	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

到達目標 この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

成績評価の方法と基準 毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

LANc100LA	
中国語 3	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 3	2016 年度以前入学者
後藤 淳一	
授業コード：R7173	2017 年度以降入学者
授業コード：E5419	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

到達目標 ・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

成績評価の方法と基準 平常点（出席状況・小テスト）20～30 %
期末試験 70～80 %

LANc100LA	
中国語 4	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 4	2016 年度以前入学者
蔣 彥婷	
授業コード：R7164	2017 年度以降入学者
授業コード：E5404	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語の発音の基礎および文法の基本

を学び、その中でも日本人が苦手とする「四声」をしっかりと発音できるよう習得させる。この授業を土台にしながら 2 年次につながる必要な知識を身に付けていく。

到達目標 発音の基礎を固める。
文法・構文を理解し、応用することができる。
一般的な会話の聞き取りと表現ができる。

成績評価の方法と基準 期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、小テスト（20 %）、平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

LANc100LA	
中国語 5	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 5	2016 年度以前入学者
渡辺 昭太	
授業コード：R7165	2017 年度以降入学者
授業コード：E5405	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

到達目標 この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
(2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
(3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
(4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

成績評価の方法と基準 毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

LANc100LA	
中国語 4	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 4	2016 年度以前入学者
薬 会	
授業コード：R7170	2017 年度以降入学者
授業コード：E5414	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ビギナーのための初級中国語の授業です。

到達目標 中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法習得を目指す授業です。

成績評価の方法と基準 毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

LANc100LA	
中国語 6	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 6	2016 年度以前入学者
渡辺 昭太	
授業コード：R7166	2017 年度以降入学者
授業コード：E5406	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

到達目標 この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
(2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
(3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
(4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

成績評価の方法と基準 毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

LANc100LA	
中国語 4	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 4	2016 年度以前入学者
祝 振媛	
授業コード：R7174	2017 年度以降入学者
授業コード：E5420	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

到達目標 読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

成績評価の方法と基準 毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 % とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

LANc200LA	
中国語 7	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語 7	2016 年度以前入学者
曾 士才	
授業コード：R7391	2017 年度以降入学者
授業コード：E5407	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 中国語 1 ～ 6 で学んだことを基礎にし

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

て、中国語の読解能力と聞き取り能力を並行してトレーニングする。

到達目標 半年後の上海外国語大学での授業にスムーズに入れることを目標としている。

成績評価の方法と基準 準備学習（20％）と期末に行うテスト（80％）によって評価する。出席は成績評価の大前提である。

LANc200LA	
中国語 8	2017 年度以降入学者
LANc200LA	
中国語 8	2016 年度以前入学者
渡辺 昭太	
授業コード：R7392	2017 年度以降入学者
授業コード：E5409	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 本授業は、HSK（漢語水平考試）の 3-4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 3-4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3-4 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。

到達目標 この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3-4 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3-4 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

成績評価の方法と基準 成績評価は以下の基準によって行う。

- ①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。[80 ％]
- ②ロールプレイの内容（暗記、流暢さなどを総合して判断）。[20 ％]
- 以上の①と②を総合して 100 ％とし、60 ％以上の得点を取った者を合格とする。

LANs100LA	
スペイン語 1	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 1	2016 年度以前入学者
大西 亮	
授業コード：R8141	2017 年度以降入学者
授業コード：E6201	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、SA スペインの学生を対象とする初級スペイン語の授業である。スペイン語の基本文法を丁寧に学び、確実に理解することを目的とする。

到達目標 スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点 (20%)、小テスト (20％)、期末試験 (60％) を総合的に勘案して評価する。

LANs100LA	
スペイン語 1	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 1	2016 年度以前入学者
田澤 耕	
授業コード：R8147	2017 年度以降入学者
授業コード：E6211	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文法中心の授業。毎回、初出の事項ばかりなので、欠席は致命的となる。病気などやむをえない事情を除き、欠席は許されない。また遅刻もだめ。

到達目標 初級文法前半の習得を目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点 40 ％。期中、期末テスト 60 ％。

LANs100LA	
スペイン語 1	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 1	2016 年度以前入学者
田澤 耕	
授業コード：R8151	2017 年度以降入学者
授業コード：E6215	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文法中心の授業。毎回、初出の事項ばかりなので、欠席は致命的となる。病気などやむをえない事情を除き、欠席は許されない。また遅刻もだめ。

到達目標 初級文法前半の習得を目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点 40 ％。期中、期末テスト 60 ％。

LANs100LA	
スペイン語 2	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 2	2016 年度以前入学者
佐々木 直美	
授業コード：R8143	2017 年度以降入学者
授業コード：E6203	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文法中心の授業。毎回、初出の事項ばかりなので、欠席は致命的となる。病気などやむをえない事情を除き、遅刻・欠席は許されない。

到達目標 初級文法前半の習得を目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点 30 ％。期末テスト 70 ％。

LANs100LA	
スペイン語 6	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 6	2016 年度以前入学者
田澤 耕	
授業コード：R8146	2017 年度以降入学者
授業コード：E6206	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ひきつづき初級スペイン語文法を学習する。初出の事項ばかりなので欠席は致命的となる。病気などやむをえない事情を除き、欠席は許されない。遅刻もだめ。

到達目標 初級文法の習得を目指す。初級文法前半の全事項を一通り身につける。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %。期中、期末テスト 60 %。

LANs100LA	
スペイン語 2	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 2	2016 年度以前入学者
ピエダッド・ガルシア・ルイス	
授業コード：R8153	2017 年度以降入学者
授業コード：E6217	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、とくにアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語である。スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことだと思う。

到達目標 基礎文法の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 試験（70 %）、平常点（30 %）

LANs100LA	
スペイン語 3	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 3	2016 年度以前入学者
大西 亮	
授業コード：R8142	2017 年度以降入学者
授業コード：E6202	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、SA スペインの学生を対象とする初級スペイン語の授業である。前期にひきつづき、スペイン語の基本文法を丁寧に学び、確実に理解することを目的とする。

到達目標 春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点（20%）、小テスト（20 %）、期末試験（60 %）を総合的に勘案して評価する。

LANs100LA	
スペイン語 3	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 3	2016 年度以前入学者
田澤 耕	
授業コード：R8148	2017 年度以降入学者
授業コード：E6212	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文法中心の授業。毎回、初出の事項ばかりなので、欠席は致命的となる。病気などやむをえない事情を除き、欠席は許されない。また遅刻もだめ。

到達目標 初級文法前半の習得を目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %。期中、期末テスト 60 %。

LANs100LA	
スペイン語 3	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 3	2016 年度以前入学者
田澤 耕	
授業コード：R8152	2017 年度以降入学者
授業コード：E6216	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 初級文法の復習、スペイン語圏の文化。

到達目標 初級文法の知識を確実なものとし、講読や作文で応用できるものにする。
スペイン語圏の文化に親しむ。

成績評価の方法と基準 平常点 40%、試験の成績 60%

LANs100LA	
スペイン語 4	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 4	2016 年度以前入学者
佐々木 直美	
授業コード：R8144	2017 年度以降入学者
授業コード：E6204	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） ひきつづき初級スペイン語文法を学習する。初出の事項ばかりなので欠席は致命的となる。病気などやむをえない事情を除き、遅刻・欠席は許されない。

到達目標 初級文法の習得を目指す。初級文法後半の全事項をしっかりと身につける。

成績評価の方法と基準 平常点 30 %。期中、期末テスト 70 %。

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

LANs100LA	
スペイン語 4	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 4	2016 年度以前入学者
ピエダッド・ガルシア・ルイス	
授業コード：R8150	2017 年度以降入学者
授業コード：E6214	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、とくにアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語である。スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことだと思う。

到達目標 基礎文法の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 試験（70 %）、平常点（30 %）

LANs100LA	
スペイン語 4	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 4	2016 年度以前入学者
ピエダッド・ガルシア・ルイス	
授業コード：R8154	2017 年度以降入学者
授業コード：E6218	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、とくにアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語である。スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことだと思う。

到達目標 基礎文法の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 試験（70 %）、平常点（30 %）

LANs100LA	
スペイン語 5	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 5	2016 年度以前入学者
田澤 耕	
授業コード：R8145	2017 年度以降入学者
授業コード：E6205	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文法中心の授業。毎回、初出の事項ばかりなので、欠席は致命的となる。病気などやむをえない事情を除き、欠席は許されない。また遅刻もだめ。

到達目標 初級文法前半の習得を目標とする。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %。期中、期末テスト 60 %。

LANs100LA	
スペイン語 2	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 2	2016 年度以前入学者
ピエダッド・ガルシア・ルイス	
授業コード：R8149	2017 年度以降入学者
授業コード：E6213	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、とくにアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語である。スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことだと思う。

到達目標 基礎文法の習得をめざす。

成績評価の方法と基準 試験（70 %）、平常点（30 %）

LANs200LA	
スペイン語 7	2017 年度以降入学者
LANs200LA	
スペイン語 7	2016 年度以前入学者
大西 亮	
授業コード：R8281	2017 年度以降入学者
授業コード：E6207	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） この授業は、SA スペインの学生（2 年生）を対象とする授業である。1 年次に学んだスペイン語文法の知識を生かしながら、長文読解や作文、リスニング、スピーキングなどの技能の習得をめざす。

到達目標 長文読解では、おもにスペインの新聞記事や小説など、さまざまなジャンルの読み物に挑戦し、文章理解力の向上に努める。そのほか、複雑な時制を含む和文西訳や、視聴覚教材を用いたリスニングなどにも取り組む。

成績評価の方法と基準 平常点 (20%)、小テスト (20 %)、期末試験 (60 %) を総合的に勘案して評価する。

LANs200LA	
スペイン語 8	2017 年度以降入学者
LANs200LA	
スペイン語 8	2016 年度以前入学者
田澤 耕	
授業コード：R8282	2017 年度以降入学者
授業コード：E6209	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） スペイン語基礎文法の学習を終え、SA 出発へ向けて準備を進める。
随時講読テキストを用いて、スペイン語読解力の向上を目指す。

到達目標 スペイン語文法の「総仕上げ」を行う。スペイン語初級文法の全項目について一通りの知識を身につける。

成績評価の方法と基準 平常点 40 %。期中、期末試験 60 %。

【重要】ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ず Web シラバスを確認してください。
本冊子は、Web シラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

成績評価の方法と基準 平常点（小テスト）20%，期末テスト 80％によります。

LANk100LA	
朝鮮語 1	2017 年度以降入学者
LANk100LA	
朝鮮語 1	2016 年度以前入学者
高橋 梓	
授業コード: R9051	2017 年度以降入学者
授業コード: E7101	2016 年度以前入学者
開講時期: 春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です。

成績評価の方法と基準 平常点（小テスト）20 %，期末テスト 80 %に
よります。

LANk100LA	
朝鮮語 1	2017 年度以降入学者
富所 明秀	
授業コード：G9951	2017 年度以降入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年非 SA ※法学部 1 年 Y 組は「朝鮮語（1）I」として履修	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、
その上で文法の初歩を学びます。

到達目標 文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10%ずつ、合計100%として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも **50 %** に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト **100 %** で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

LANk100LA	
朝鮮語 2	2017 年度以降入学者
LANk100LA	
朝鮮語 2	2016 年度以前入学者
梁 禮先	
授業コード：R9053	2017 年度以降入学者
授業コード：E7103	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

LANk100LA	
朝鮮語 2	2017 年度以降入学者
黒澤 朋子	
授業コード: G9953	2017 年度以降入学者
開講時期: 春学期	
国際文化学部 1 年非 SA ※法学部 1 年 Y 組は「朝鮮語 (2) I」として履修	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、
その上で文法の初歩を学びます。

到達目標 文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約300語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

成績評価の方法と基準 「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80％、そして「朝鮮語1」と「朝鮮語2」の担当教員の平常点が10％ずつ、合計100％として計算し、「朝鮮語1」と「朝鮮語2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

LANk100LA	
朝鮮語 3	2017 年度以降入学者
LANk100LA	
朝鮮語 3	2016 年度以前入学者
高橋 梓	
授業コード：R9052	2017 年度以降入学者
授業コード：E7102	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANk100LA	
朝鮮語 3	2017 年度以降入学者
富所 明秀	
授業コード: G9952	2017 年度以降入学者
開講時期: 秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA ※法学部 1 年 Y 組は「朝鮮語 (1) II」として履修	

授業の概要と目的 (何を学ぶか) 文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言(動詞、形容詞など)に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です。

成績評価の方法と基準 「朝鮮語1」と「朝鮮語2」は実質的に1つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が80%、そ

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

して「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

LANk100LA	
朝鮮語 4	2017 年度以降入学者
LANk100LA	
朝鮮語 4	2016 年度以前入学者
梁 禮先	
授業コード：R9054	2017 年度以降入学者
授業コード：E7104	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の学習内容の定着を図りつつ、発音を丁寧に指摘したり、話せる力をつけたり、文章の力をつけていきます。

到達目標 自然な読み方と簡単な日常の会話ができることを目標にします。

成績評価の方法と基準 平常点・小テスト・課題など 30%、期末試験 70%

LANk100LA	
朝鮮語 4	2017 年度以降入学者
黒澤 朋子	
授業コード：G9954	2017 年度以降入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年非 SA ※法学部 1 年 Y 組は「朝鮮語 (2) II」として履修	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

成績評価の方法と基準 「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

LANk100LA	
朝鮮語 5	2017 年度以降入学者
LANk100LA	
朝鮮語 5	2016 年度以前入学者
高柳 俊男	
授業コード：R9055	2017 年度以降入学者
授業コード：E7105	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

成績評価の方法と基準 平常点（小テスト）20 %、期末テスト 80 %によります。

LANk100LA	
朝鮮語 6	2017 年度以降入学者
LANk100LA	
朝鮮語 6	2016 年度以前入学者
高柳 俊男	
授業コード：R9056	2017 年度以降入学者
授業コード：E7106	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
国際文化学部 1 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

到達目標 授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANk200LA	
朝鮮語 7	2017 年度以降入学者
LANk200LA	
朝鮮語 7	2016 年度以前入学者
富所 明秀	
授業コード：R9261	2017 年度以降入学者
授業コード：E7107	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 SA に通用する語学力の習得、具体的には韓国外国語大「韓国語文化教育センター」の「3 級」に編入できることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

LANK200LA	
朝鮮語 8	2017 年度以降入学者
LANK200LA	
朝鮮語 8	2016 年度以前入学者
高柳 俊男	
授業コード：R9262	2017 年度以降入学者
授業コード：E7109	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
国際文化学部 2 年 SA	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標 SAに通用する語学力の習得。具体的には韓国外国語大「韓国語文化教育センター」の「3 級」に編入できることを目標とします。

成績評価の方法と基準 期末テストの成績によります。

HSS100LA	
スポーツ総合演習/スポーツ総合演習S	2017 年度以降入学者
HSS100LA	
スポーツ総合演習	2016 年度以前入学者
各担当者	
授業コード：各授業による	2017 年度以降入学者
授業コード：各授業による	2016 年度以前入学者
開講時期：	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

到達目標 ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。

②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。

④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

成績評価の方法と基準 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

HSS200LA	
健康の科学 L A	2017 年度以降入学者
HSS100LA	
健康の科学 I	2016 年度以前入学者
清野 諭	
授業コード：Q5451	2017 年度以降入学者
授業コード：P0501	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1 ～ 4 年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1 ～ 3 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「健康の科学 LA」では、総論と「青年期、壮年期、中年期の健康づくり」を主要テーマとして学習する。本授業を通して、健康管理に関する基本的な知識を習得し、身近な健康課題について考える。

到達目標 1. 青年期～中年期に生じる健康問題とその基本的な予防・対処法について理解する。

2. 学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

成績評価の方法と基準 授業ごとのリアクションペーパー（授業への参加・取り組み・理解度：50%）、レポート課題（50%）

HSS200LA	
健康の科学 L B	2017 年度以降入学者
HSS100LA	
健康の科学 II	2016 年度以前入学者
清野 諭	
授業コード：Q5452	2017 年度以降入学者
授業コード：P0502	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1 ～ 4 年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1 ～ 3 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 「健康の科学 LB」では、「健康の科学 LA」で学習した内容に続いて、「高齢期の健康づくり」を主要テーマとして学習する。特に、現在の日本は世界でも類を見ない超高齢社会を迎えている。本授業を通して、日本が直面している少子・高齢化問題に対して、どのように貢献できるかについて考える。また、高齢期の健康問題には、若齢期の生活習慣が影響するものもあるため、ライフコースアプローチについて理解する。

到達目標 1. 高齢期に生じる健康問題とその基本的な予防・対処法について理解する。

2. 学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

成績評価の方法と基準 授業ごとのリアクションペーパー（授業への参加・取り組み・理解度：50%）、レポート課題（50%）

HSS200LA	
健康の科学 L A	2017 年度以降入学者
HSS100LA	
健康の科学 I	2016 年度以前入学者
谷本 都栄	
授業コード：Q5453	2017 年度以降入学者
授業コード：P0503	2016 年度以前入学者
開講時期：春学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1 ～ 4 年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1 ～ 3 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 人生 100 年時代を迎え、人々の生き方も多様化する中で、身体的な健康だけでなく、生きがいや人間の尊厳をも含めたホリスティック・ヘルス（包括的健康）の視点が重要になってきている。本講義では、バイオ・サイコ・ソーシャル・ヘルスに関わる様々な題材から個人の健康や社会の健康について学び、“よく生きる”ことについて考え、自ら実践に結びつけていくことを目指す。

到達目標 ・健康に関わる概念や歴史から、健康とは何かについて理解を深める。

・包括的健康の視点から、自己の生活の質や地域の課題について考える。

・個人及び社会におけるウェルネスの確立に向けて主体的に行動できるようにする。

成績評価の方法と基準 ・平常点 50 %

・中間レポート 20 %

・期末レポート 30 %

【重要】ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目は、必ずWebシラバスを確認してください。
本冊子は、Webシラバスの記載内容を一部抜粋した「簡易版」ですので、重要な内容が記載されていないことがあります。

HSS200LA	
健康の科学Ⅰ B	2017 年度以降入学者
HSS100LA	
健康の科学Ⅱ	2016 年度以前入学者
谷本 都栄	
授業コード：Q5454	2017 年度以降入学者
授業コード：P0504	2016 年度以前入学者
開講時期：秋学期	
※定員制 履修対象：＜ 2017 年度以降入学生＞法文営国環キ 1 ～ 4 年生＜ 2016 年度以前入学生＞法文営 1 ～ 3 年生	

授業の概要と目的（何を学ぶか） 健康は、ＱＯＬ（生活の質）を高めいきいきと生きていくための資源であり、自ら健康をコントロールし、改善していくこと（ヘルスプロモーション）が求められる。本講義では、栄養・運動・休養に関わる基礎的知識をはじめ心身の健康を保つために必要なライフスキルについて学び、各人の生活における意識の向上、具体的な実践に結びつけていくことを目指す。

到達目標 ・栄養・運動・休養に関わる基礎的知識を身に付け、自己の生活習慣を見直す。
・健康的なライフスタイルを意識して、学んだことを日々の生活に活かす。

成績評価の方法と基準 ・平常点 50 %
・中間レポート 20 %
・期末レポート 30 %



学生証番号	
氏 名	